MITSUBISHI

GRAPHIC OPERATION TERMINAL
GOT

GRAPHIC OPERATION TERMINAL

GOT1000

GT11本体 取扱説明書

●安全上のご注意●

（ご使用前に必ずお読みください）

本製品のご使用に際しては，本マニュアルおよび本マニュアルで紹介している関連マニュアルをよくお読みいただくと共に，安全に対して十分に注意を払って，正しい取扱いをしていただくようお願いいたします。

本マニュアルで示す注意事項は，本製品に関するものについて記載したものです。本製品を使用したシステムとしての安全上のご注意に関しては，CPU ユニットのユーザーズマニュアルを参照してください。

本マニュアルでは，安全注意事項のランクを「警告」,「注意」として区分してあります。

⚠警告	**取扱いを誤った場合に，危険な状況が起こりえて，死亡または重傷を受ける可能性が想定される場合。**
⚠注意	**取扱いを誤った場合に，危険な状況が起こりえて，中程度の傷害や軽傷を受ける可能性が想定される場合および物的損害だけの発生が想定される場合。**

なお，⚠注意に記載した事項でも，状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。
いずれも重要な内容を記載していますので必ず守ってください。

本マニュアルは必要なときに読めるよう大切に保管すると共に，必ず最終ユーザまでお届けいただくようお願いいたします。

【設計上の注意事項】

⚠警告

● GOT 本体，ケーブルの故障によっては出力が ON の状態を保持したり，OFF の状態を保持したりすることがあります。
タッチパネルの故障によっては，タッチスイッチなどの入力オブジェクトが誤動作することがあります。
重大な事故につながるような出力信号については，外部で監視する回路を設けてください。
誤出力，誤動作により事故の恐れがあります。

● GOT でモニタ実行時，通信異常（ケーブル抜けも含む）が発生すると GOT とシーケンサ CPU の通信が中断され，GOT は下記通りとなります。
(1) GT1155-QSBD，GT1150-QLBD は動作不能となります。
(2) GT1155-QTBDQ，GT1155-QTBDA，GT1155-QSBDQ，GT1155-QSBDA，GT1150-QLBDQ，GT1150-QLBDA はシーケンサ CPU がダウンし，GOT 動作不能となります。
GOT を使用するシステム構成では，GOT の通信異常時を想定して，システムに対する重大な動作を行うスイッチについては GOT 以外の装置により行うシステム構成としてください。
誤出力，誤動作により事故の恐れがあります。

● GOT は，重大な事故の原因となるような警告装置として使用しないでください。
重要な警告を表示したり，警報を出力するような装置は，独立して冗長性があるハードウェアまたは，機械的なインタロックにより構成してください。
誤出力，誤動作により事故の恐れがあります。

【設計上の注意事項】

⚠警告

● GOT のバックライトが切れた場合，タッチスイッチの誤操作により，事故につながる恐れがあります。
GOT のバックライトが切れると，POWER LED が点滅し (緑 / オレンジ)，表示部が真っ暗になり，モニタ画面が見えなくなりますが，タッチスイッチの入力は有効なままになっています。
この場合，操作者がスクリーンセーブ状態と間違えて，スクリーンセーブを解除しようと表示部をタッチした場合，タッチスイッチが動作する恐れがあります。
バックライトが切れた場合は，GOT で下記現象が発生します。
・POWER LED が点滅し (緑 / オレンジ)，モニタ画面が消える。

⚠注意

● 制御線や通信ケーブルは，主回路や動力線などと束線したり，近接したりしないでください。
100mm 以上を目安として離してください。
ノイズにより，誤動作の原因になります。

● GOT の表示部をペンやドライバなど，先の尖ったもので押さないでください。
破損，故障の原因になります。

● 接続機器は，GOT と接続する前に電源を ON して通信可能な状態にしてください。
接続機器が通信可能な状態になっていない場合，GOT で通信エラーが発生する場合があります。

【取付け上の注意事項】

⚠警告

● GOT 本体を盤に取付け，取外す場合は，必ずシステムで使用している外部供給電源を全相遮断してから行ってください。
全相遮断しないと，ユニットの故障や誤動作の原因になります。

● オプション機能ボードを GOT に着脱する場合は，必ずシステムで使用している外部供給電源を全相遮断してから行ってください。
全相遮断しないと，ユニットの故障や誤動作の原因になります。

● オプション機能ボードやバッテリの取付け，リセットスイッチの操作を行う場合は，静電気による破壊を防ぐためアースバンドなどを着用してください。
静電気によりユニットの故障や誤動作の原因になります。

【取付け上の注意事項】

⚠注意

- GOT は本マニュアル記載の一般仕様の環境で使用してください。
  一般仕様の範囲以外の環境で使用すると，感電，火災，誤動作，製品の損傷あるいは劣化の原因になります。

- GOT 本体を盤に取付け時，取付けネジの締付けは，規定トルク範囲で行ってください。
  取付けネジの締付けがゆるいと，落下，短絡，誤動作の原因になります。
  また，防水・防油効果が得られない場合があります。
  取付けネジを締めすぎると，ネジやユニットの破損による落下，短絡，誤動作の原因になります。
  また，GOT・パネルの " ゆがみ " により，防水・防油効果が得られない場合があります。

- オプション機能ボードは，オプション機能ボードのコネクタへ確実に装着して下さい。

- CF カードを GOT に着脱する場合は，メモリカードアクセススイッチを OFF 状態にしてから行ってください。
  OFF 状態にしないと，CF カード内のデータが壊れる原因になります。

- GOT 本体に，CF カードを装着するときは，GOT 装着部に挿入し，CF カードイジェクトボタンが浮き上がるまで押し込んでください。
  接触不良により，誤動作の原因になります。

- CF カードを取り出す場合は，CF カードが飛び出すことがありますので，手で支えて取り出してください。
  手で支えて取り出さないと，落下による CF カードの破損，故障の原因になります。

- GOT を，油，薬品のある環境で使用する場合は，耐油カバーを使用ください。
  耐油カバーを使用しないと，油，薬品の浸入による，故障，誤作動の原因になります。

【配線上の注意事項】

⚠警告

- 配線作業は，必ずシステムで使用している外部供給電源を外部にて全相遮断してから行ってください。
  全相遮断しないと，感電，製品の損傷，誤動作の恐れがあります。

- GOT 電源部の FG 端子は，GOT 専用の D 種接地（第三種接地）以上で必ず接地を行ってください。
  感電，誤動作の恐れがあります。

- GOT の電源配線は，製品の定格電圧および端子配列を確認した上で正しく行ってください。
  定格と異なった電源を接続したり，誤配線をすると，火災，故障の原因になります。

- GOT 電源部の端子ネジの締付けは，規定トルク範囲で行ってください。
  端子ネジの締付けがゆるいと短絡，誤動作の原因になります。
  端子ネジを締めすぎると，ネジやユニットの破損による短絡，誤動作の原因になります。

- ユニット内に，切粉や配線クズなどの異物が入らないように注意してください。
  火災，故障，誤動作の原因になります。

【配線上の注意事項】

⚠注意

- 通信ケーブルは，接続するコネクタに装着し，取付けネジおよび端子ネジを規定トルク範囲で締め付けてください。
  取付けネジおよび端子ネジの締付けがゆるいと短絡，誤動作の原因になります。
  取付けネジおよび端子ネジを締めすぎると，ネジやユニットの破損による短絡，誤動作の原因になります。
- QnA/ACPU/ モーションコントローラ（A シリーズ）用バス接続ケーブルは，GOT のバスインタフェースのコネクタに“カチッ”と音がするまで挿入し，装着してください。
  装着後に，浮き上がりがないかチェックしてください。
  接続不良により，誤動作の原因になります。

【テスト操作時の注意事項】

⚠警告

- ユーザ作成モニタ画面の操作（ビットデバイスの ON/OFF，ワードデバイスの現在値変更，タイマ／カウンタの設定値，現在値変更，バッファメモリの現在値変更）は，マニュアルを熟読し操作方法を十分理解した上で行ってください。
  また，システムに対する重大な動作を行うデバイスに対しては絶対に GOT の操作でデータ変更を行わないでください。
  誤出力，誤動作により事故の原因になります。

【立上げ・保守時の注意事項】

⚠警告

● 通電中に端子に触れないでください。
感電の原因になります。

● バッテリは正しく接続してください。
充電，分解，加熱，火中投入，ショート，ハンダ付けなどを行わないでください。
バッテリの取扱いを誤ると，発熱，破裂，発火などにより，ケガ，火災の恐れがあります。

● 清掃や端子ネジの増し締めは，必ず電源を外部にて遮断してから行ってください。
遮断しないと，ユニットの故障や誤動作の原因になります。
ネジの締付けがゆるいと短絡，誤動作の原因になります。
ネジを締め過ぎると，ネジやユニットの破損による短絡，誤動作の原因になります。

【立上げ・保守時の注意事項】

⚠注意

● ユニットの分解，改造はしないでください。
故障，誤動作，ケガ，火災の原因になります。

● ユニットの導電部分や電子部品には直接触らないでください。
ユニットの誤動作，故障の原因になります。

● ユニットに接続するケーブルは，必ずダクトに納めるか，またはクランプによる固定処理を行ってください。
ケーブルをダクトに納めなかったり，クランプによる固定処理をしていないと，ケーブルのブラツキや移動，不注意の引っ張りなどによるユニットやケーブルの破損，ケーブルの接触不良による誤動作の原因となります。

● ユニットに接続されたケーブルを取りはずすときは，ケーブル部分を手に持って引っ張らないでください。
ユニットに接続された状態でケーブルを引っ張ると，ユニットやケーブルの破損，ケーブルの接続不良による誤動作の原因となります。

● ユニットに装着するバッテリには，落下・衝撃を加えないでください。
落下・衝撃を加えたバッテリは使用せずに廃棄してください。
落下・衝撃によりバッテリが破損する恐れがあります。

● ユニットに触れる前には，必ず接地された金属などに触れて，人体などに帯電している静電気を放電してください。
静電気を放電しないと，ユニットの故障や誤動作の原因になります。

● バッテリは当社製 GT11-50BAT をご使用ください。
当社製 GT11-50BAT 以外のバッテリを使用すると火災や破裂の可能性があります。

● 使用済みバッテリはすぐに廃棄してください。
子供には近づけないでください。分解，及び火中への投入はしないでください。

【廃棄時の注意事項】

⚠注意

● 製品を廃棄するときは，産業廃棄物として扱ってください。
バッテリを廃棄する際には各地域にて定められている法令に従い分別を行ってください。
（EU 加盟国内でのバッテリ規制についての詳細は 17.4 節 2 を参照してください。）

【輸送時の注意事項】

⚠注意

● リチウムを含有しているバッテリの輸送時には，輸送規制に従った取扱いが必要となります。
（規制対象機種についての詳細は付 .3 輸送時の注意事項を参照してください。）

● GOT を輸送される場合は，必ず輸送前に GOT に電源を投入し，時計の表示と設定画面（ユーティリティ画面 ）で，バッテリの電圧状態が正常であることを確認してください。また，定格名板からバッテリの寿命が十分に残っていることを確認してください。
バッテリの電圧状態が低下している状態や寿命を過ぎている状態で輸送を行うと，輸送中にバックアップしているデータが不定な状態になることがあります。

● GOT は精密機器のため，輸送の間，本マニュアルに記載の一般仕様の値を超える衝撃を避けてください。
GOT の故障の原因になることがあります。輸送後，ユニットの動作確認を行ってください。

改 定 履 歴

※取扱説明書番号は，本説明書の裏表紙の左下に記載してあります。

印刷日付	※取扱説明書番号	副番	改 定 内 容
2004 年 6 月	JY997D15001	A	初版印刷
2004 年 10 月	JY997D15001	B	一部修正 1.2 節，3.2 節，9.3.3 項，12.2.5 項，15.1 節，15.2 節，16.3 節 一部追加 安全上のご注意，マニュアルの読み方，6 章，7.1 節，7.6 節， 12.2.3 項，13.3.2 項，13.4 節，13.5 節，13.6.3 項，15.4 節 追 加 付 4
2005 年 1 月	JY997D15001	C	一部修正 安全上のご注意，マニュアルの読み方，1 章，2 章，3 章，8.3.3 項， 10 章，12 章，13 章，16.3 節，16.4 節，17 章，付 1，付 2，付 4 一部追加 4 章，5 章，6 章，7.1.1 項，7.4.2 項，8.2 節，9 章，索引 追 加 13.1 節
2005 年 7 月	JY997D15001	D	一部修正 マニュアルの読み方，1 章，2.2 節，4.2 節，5.1 節，7.1 節，7.4 節， 7.5 節，8 章，8.3 節，9.1.4 項，9.2 節，10 章，11 章，12 章，13 章， 15 章，16.3 節，16.4 節，17 章，付 2 一部追加 3 章，8.2 節，8.3.1 項，9.1.3 項，12.1.5 項，付 4 追 加 12.6 節，15.5 節
2006 年 3 月	JY997D15001	E	一部修正 2.2 節，8.2 節，8.3 節，9.1 節，10.1 節，10.2 節，10.3 節， 11.1.3 項 ,12.1 節，13 章，15 章，16.4 節，付 2，付 4 追 加 13.8 節，13.9 節
2006 年 8 月	JY997D15001	F	一部修正 2.2 節，8.2 節，10.1 節，12.6 節，付 2，付 4 追 加 12.7 節
2006 年 11 月	JY997D15001	G	一部修正 11.1.3 項，13.7 節，付 4

印刷日付	※取扱説明書番号	副番	改　定　内　容
2007 年 2 月	JY997D15001	H	一部修正 マニュアルで使用する略称，総称，マニュアルの見方，4.1 節，付 -4 一部追加 1.1 節，2.2 節，2.2.1 項，2.2.2 項，3.2 節，3.3 節，3.4 節，4.2 節，5 章，6.1 節，6.5 節，7.1 節，8.1.2 項，8.3 節，10.1.3 項，11.2.1 項，13.1.3 項，16.4 節，18.3 節，付 -1，付 -2
2007 年 5 月	JY997D15001	J	一部修正 マニュアルで使用する略称，総称，マニュアルの見方，6.3 節，10.1.2 項，11 章，12.1.2 項，13 章，14 章，15.1.1 項，付 -4 一部追加 2.2 節，3.3 節，8.3 節，9.1.3 項
2007 年 11 月	JY997D15001	K	一部修正 マニュアルで使用する略称，総称，マニュアルの見方，付 -4 一部追加 2.2 節，3 章，4.2 節，5 章，6 章，7.1.1 項，8 章，10.1 節，11.2.1 項，13.1 節，14.7 節，16.4 節，付 -1
2008 年 1 月	JY997D15001	L	一部修正 マニュアルで使用する略称，総称，マニュアルの見方，8.3 節，10.1 節，付 -4 一部追加 4.2 節，5 章
2008 年 7 月	JY997D15001	M	一部修正 マニュアルで使用する略称，総称，マニュアルの見方，3.1 節，3.2 節，10.2 節，付 -4，保証について
2009 年 1 月	JY997D15001	N	一部修正 2.1 節，2.2 節，3.1 節，3.3 節，4.2 節 一部追加 8.9 節，8.10 節
2009 年 3 月	JY997D15001	P	一部修正 マニュアルの読み方，6.3 節，8.10.3 項，付 -4
2009 年 5 月	JY997D15001	Q	一部追加 マニュアルについて，マニュアルで使用する略称，総称，マニュアルの読み方，1 章，2.2 節，3.2 節，4.1 節，8.3 節，8.10 節，9 章，10 章，11 章，12 章，13 章，14 章，16 章，17 章，18 章，付 -2 追　加 14.2 節，14.3 節，14.4 節

印刷日付	※取扱説明書番号	副番	改　定　内　容
2009 年 7 月	JY997D15001	R	一部追加 5 章
2009 年 10 月	JY997D15001	S	一部修正 マニュアルで使用する略称，総称，マニュアルの読み方，5 章，14.2 節 一部追加 10 章，18.4 節
2010 年 4 月	JY997D15001	T	一部修正 マニュアルの読み方，5 章，8.8 節 一部追加 安全上のご注意，マニュアルで使用する略称，総称，2 章，3 章， 8.4 節，索引
2010 年 7 月	JY997D15001	U	一部修正 マニュアルの読み方，付 -4 一部追加 マニュアルについて，本マニュアルで使用する略称，総称，2.2 節， 7.1.2 項，8.1.1 項，8.4 節，13.1.3 項，16.4 節
2010 年 11 月	JY997D15001	V	一部修正 マニュアルの読み方，4.2 節，8.9 節，8.10 節，10.1 節 一部追加 本マニュアルで使用する略称，総称，2.2 節，3.2 節，6.5 節，8.4 節， 9.3 節，11.5.3 項
2011 年 4 月	JY997D15001	W	一部修正 マニュアルの読み方，5.2 節，8.3 節，8.9 節，8.10 節，9.3 節， 13.1 節，16.4 節 一部追加 安全上のご注意，本マニュアルで使用する略称，総称，1.1 節，4.2 節， 6.2 節，6.5 節，11.2 節，索引
2013 年 6 月	JY997D15001	X	一部修正 安全上のご注意，本マニュアルで使用する略称，総称，3.2 節，5 章， 14.4 節

本書によって，工業所有権その他の権利の実施に対する保証，または実施権を許諾するものではありません。また
本書の掲載内容の使用により起因する工業所有権上の諸問題については，当社は一切その責任を負うことができません。

© 2004 MITSUBISHI ELECTRIC CORPORATION

はじめに

このたびは，三菱グラフィックオペレーションターミナルをお買い上げいただきまことにありがとうございました。
ご使用前に本書をよくお読みいただき，グラフィックオペレーションターミナルの機能･性能を十分ご理解のうえ，正しくご使用くださるようお願い致します。

もくじ

安全上のご注意 ･･･A-1
改 定 履 歴 ･･･A-7
はじめに ･･･1-10
もくじ ･･･1-10
マニュアルについて ･･･ A-18
本マニュアルで使用する略称，総称 ･･･ A-19

1 章 概要 ..... 1-1 ～ 1-5
1.1 特長 1-4
1.2 運転までの概略手順 1-5

2 章 システム構成 ..... 2-1 ～ 2-12
2.1 全体構成 2-1
2.2 構成機器 2-2
2.2.1 GOT（GT11） 2-3
2.2.2 オプション機器（GT11 に使用可能なオプション機器） 2-4

3 章 仕様 ..... 3-1 ～ 3-6
3.1 一般仕様 3-1
3.2 性能仕様 3-2
3.3 内蔵インタフェース仕様 3-5
3.4 電源部仕様 3-6

4 章 各部の名称 ..... 4-1 ～ 4-4
4.1 正面パネル 4-1
4.2 背面パネル 4-2

5 章 UL, cUL 規格と EMC 指令 ..... 5-1 ～ 5-8
5.1 UL, cUL 規格 5-1
5.2 EMC 指令 5-1
5.2.1 EMC 指令適合のための要求 5-1
5.2.2 EMC 指令適合のためのシステム構成 5-4
5.2.3 EMC 指令適合品の配線 / 接続上の注意事項 5-5

6 章 取付け .....6-1 ～ 6-6
6.1 取付け時の盤内必要寸法 6-2
6.2 パネルカット寸法 6-3
6.3 取付け位置 6-3
6.4 盤内温度と取付け角度 6-4
6.5 取付け手順 6-5
7 章 配線 .....7-1 ～ 7-8
7.1 電源配線 7-2
7.1.1 配線例 7-2
7.1.2 GOT の接地 7-3
7.1.3 配線が関係する誤動作の原因と対策事例 7-4
7.2 盤内配線，盤外配線 7-6
7.2.1 盤内配線 7-6
7.2.2 盤外配線 7-6
7.2.3 制御機器にサージキラーを取り付ける 7-7
7.2.4 バス接続ケーブルの FG 線の配線 7-8
8 章 オプション機器 ..... 8-1 ～ 8-18
8.1 CF カードについて 8-1
8.1.1 CF カードの種類 8-1
8.1.2 CF カードの着脱方法 8-2
8.2 メモリカードアダプタについて 8-4
8.2.1 メモリカードアダプタの種類 8-4
8.2.2 メモリカードアダプタの取付け方法 8-4
8.3 オプション機能ボードについて 8-5
8.3.1 オプション機能ボードの種類 8-5
8.3.2 各部名称 8-5
8.3.3 オプション機能ボードの着脱方法 8-6
8.4 バッテリについて 8-7
8.4.1 バッテリの種類 8-7
8.4.2 バッテリ仕様 8-7
8.4.3 バッテリの交換手順 8-7
8.5 保護シートについて 8-10
8.5.1 保護シートの種類 8-10
8.5.2 取付け方法 8-10
8.6 USB 耐環境カバーについて 8-11
8.6.1 USB 耐環境カバーの種類 8-11
8.6.2 取付け方法 8-11
8.7 スタンドについて 8-12
8.7.1 スタンドの種類 8-12
8.7.2 取付け方法 8-12
8.8 耐油カバーについて 8-13
8.8.1 耐油カバーの種類 8-13
8.8.2 取付け方法 8-13
8.9 コネクタ変換アダプタについて 8-15
8.9.1 コネクタ変換アダプタの種類 8-15
8.9.2 コネクタ変換アダプタの取付け方法 8-15

8.10 シリアルマルチドロップ接続ユニット 8-16
8.10.1 シリアルマルチドロップ接続ユニット 8-16
8.10.2 シリアルマルチドロップ接続ユニットの種類 8-17
8.10.3 各部名称 8-17
8.10.4 取付け 8-18
8.10.5 EMC 指令に適合するための注意 8-18

9 章 ユーティリティ機能 ..... 9-1 ～ 9-11

9.1 ユーティリティの実行について 9-1
9.2 ユーティリティ機能一覧 9-2
9.3 ユーティリティの表示 9-4
9.3.1 メインメニューの表示操作 9-6
9.3.2 ユーティリティの基本構成 9-9
9.3.3 設定変更の操作 9-10

10 章 通信インタフェースの設定（接続機器設定）
..... 10-1 ～ 10-16

10.1 接続機器設定 10-1
10.1.1 接続機器設定機能 10-1
10.1.2 接続機器設定の表示操作 10-1
10.1.3 接続機器設定画面の内容 10-2
10.1.4 接続機器設定の操作 10-6
10.2 接続機器詳細設定 10-9
10.2.1 接続機器詳細設定機能 10-9
10.2.2 接続機器詳細設定の表示操作 10-9
10.2.3 接続機器詳細設定の表示内容 10-11

11 章 表示と操作の設定（GOT セットアップ）
..... 11-1 ～ 11-17

11.1 表示の設定 11-1
11.1.1 表示の設定機能 11-1
11.1.2 表示の設定の表示操作 11-3
11.1.3 表示の設定操作 11-4
11.2 輝度・コントラスト調整 11-8
11.2.1 輝度・コントラスト調整機能 11-8
11.2.2 輝度・コントラスト調整の表示操作 11-8
11.2.3 輝度の調整操作 11-9
11.3 操作の設定 11-10
11.3.1 操作の設定機能 11-10
11.3.2 操作の設定の表示操作 11-11
11.3.3 操作の設定操作 11-12
11.4 セキュリティレベル変更 11-13
11.4.1 セキュリティレベルの変更機能 11-13
11.4.2 セキュリティ変更の表示操作 11-13
11.4.3 セキュリティレベルの変更操作 11-14
11.5 ユーティリティ呼出キーの設定 11-15
11.5.1 ユーティリティ呼出キーの設定機能 11-15
11.5.2 ユーティリティ呼出キーの表示操作 11-15
11.5.3 ユーティリティ呼出キーの設定操作 11-16

12 章 時計の設定とバッテリの状態表示（時計の表示と設定画面）..... 12-1 ～ 12-5

12.1 時計の表示と設定画面 12-1
12.1.1 時計の表示と設定機能 12-1
12.1.2 時計の表示と設定の表示操作 12-1
12.1.3 時計の設定操作 12-2

13 章 ファイルの表示とコピー（プログラム / データ管理）..... 13-1 ～ 13-36

13.1 データの保存先 13-1
13.1.1 ドライブ名の割り付け 13-1
13.1.2 データの種類と格納先 13-1
13.1.3 OS バージョンの確認 13-3
13.1.4 表示ファイル 13-5
13.2 OS 情報 13-6
13.2.1 OS 情報の機能 13-6
13.2.2 OS 情報画面表示操作 13-6
13.2.3 OS 情報表示例 13-7
13.2.4 OS 情報の操作 13-8
13.3 プロジェクト情報 13-13
13.3.1 プロジェクト情報の機能 13-13
13.3.2 プロジェクト情報の表示操作 13-13
13.3.3 プロジェクト情報の表示例 13-14
13.3.4 プロジェクト情報の操作 13-15
13.4 アラーム情報 13-23
13.4.1 アラーム情報の機能 13-23
13.4.2 アラーム情報画面の表示操作 13-23
13.4.3 アラーム情報画面の表示例 13-24
13.4.4 アラーム情報の操作 13-25
13.5 メモリカードフォーマット 13-29
13.5.1 メモリカードのフォーマット機能 13-29
13.5.2 メモリカードフォーマットの表示操作 13-29
13.5.3 メモリカードのフォーマット操作 13-30
13.6 メモリ情報 13-32
13.6.1 メモリ情報の機能 13-32
13.6.2 メモリ情報の表示操作 13-32
13.6.3 メモリ情報の表示例 13-33
13.7 GOT データ一括取得 13-34
13.7.1 GOT データ一括取得の機能 13-34
13.7.2 GOT データ一括取得の表示操作 13-34
13.7.3 GOT データ一括取得の表示例 13-35
13.7.4 GOT データ一括取得の操作 13-36

14 章 GOT の自己診断（保全機能･自己診断）

.....14-1 ～ 14-137

14.1 保全機能 14-1
14.1.1 保全機能の機能 14-1
14.1.2 保全機能の表示操作 14-2
14.2 システムモニタ 14-3
14.2.1 仕様 14-6
14.2.2 表示操作 14-14
14.2.3 各システムモニタ画面の共通操作手順 14-15
14.2.4 機能切換メニュー画面 14-15
14.2.5 モニタデバイスの登録（モニタ局，デバイスの指定操作） 14-16
14.2.6 キーウィンドウの設定欄，および操作手順 14-19
14.2.7 表示形式（10 進／ 16 進），およびコメント表示有無の切換え操作 14-20
14.2.8 モニタデバイスのクイックテスト操作 14-22
14.2.9 画面遷移（共通操作） 14-26
14.2.10 登録モニタ 14-27
14.2.11 登録モニタ画面の表示内容とキー機能 14-27
14.2.12 登録モニタ基本操作の手順 14-29
14.2.13 登録デバイスの削除 14-30
14.2.14 一括モニタ 14-31
14.2.15 一括モニタ画面の表示内容とキー機能 14-31
14.2.16 一括モニタ基本操作の手順 14-34
14.2.17 TC モニタ（タイマ，カウンタのモニタ） 14-35
14.2.18 TC モニタ画面の表示内容とキー機能 14-35
14.2.19 TC モニタ基本操作の手順 14-37
14.2.20 TC モニタ キーワード解除の操作手順 14-38
14.2.21 BM モニタ（バッファメモリのモニタ） 14-39
14.2.22 BM モニタ画面の表示内容とキー機能 14-39
14.2.23 BM モニタ基本操作の手順 14-41
14.2.24 テスト操作 14-42
14.2.25 テストメニュー画面 , および設定キーウィンドウ画面の表示手順 14-42
14.2.26 テストメニュー画面の表示内容，およびキー機能 14-43
14.2.27 各設定キーウィンドウ画面の表示内容，および設定項目 14-44
14.2.28 テスト操作の手順 14-46
14.2.29 テスト操作の基本手順 14-48
14.2.30 エラーメッセージと対処法 14-49
14.3 A リスト編集 14-50
14.3.1 仕様 14-51
14.3.2 アクセス範囲 14-53
14.3.3 注意事項 14-53
14.3.4 表示操作 14-54
14.3.5 キーワード入力の操作 14-56
14.3.6 操作方法 14-58
14.3.7 表示部の表示形式 14-60
14.3.8 有効キー（上段／下段）の切換え 14-63
14.3.9 モードの選択と操作 14-63
14.3.10 命令の入力方法 14-64
14.3.11 キー操作を間違えたときの処置方法 14-67
14.3.12 機能一覧 14-68
14.3.13 基本操作 14-69
14.3.14 シーケンスプログラムを読み出す 14-69
14.3.15 命令を変更（上書き）する 14-70
14.3.16 命令を追加（挿入）する 14-71
14.3.17 命令を削除する 14-72
14.3.18 ヘルプ機能を使用する 14-73
14.3.19 PC メモリのオールクリア 14-75

14.3.20 操作方法一覧 14-76
14.3.21 共通操作 14-76
14.3.22 書込みモード (W) での操作 14-77
14.3.23 読出しモード (R) での操作 14-77
14.3.24 挿入モード (I) での操作 14-78
14.3.25 削除モード (D) での操作 14-78
14.3.26 パラメータモード (P) での操作 14-79
14.3.27 その他のモード (O) での操作 14-80
14.3.28 エラーメッセージと対処法 14-81
14.4 FX リスト編集 14-87
14.4.1 仕様 14-89
14.4.2 アクセス範囲 14-90
14.4.3 注意事項 14-91
14.4.4 表示操作 14-92
14.4.5 操作方法 14-94
14.4.6 モードの選択と操作 14-96
14.4.7 シーケンスプログラムの表示 14-97
14.4.8 命令，デバイスの検索 14-99
14.4.9 命令の書込み 14-101
14.4.10 オペランド，設定値の変更 14-104
14.4.11 命令の削除 14-105
14.4.12 シーケンスプログラムのオールクリア 14-106
14.4.13 PC 診断 14-107
14.4.14 パラメータ設定 14-109
14.4.15 キーワード 14-112
14.4.16 リストモニタ 14-114
14.4.17 キー操作を間違えたときの処置方法 14-115
14.4.18 エラーメッセージと対処法 14-116
14.5 自己診断 14-117
14.5.1 自己診断の機能 14-117
14.6 メモリチェック 14-118
14.6.1 メモリチェック機能 14-118
14.6.2 メモリチェックの表示操作 14-118
14.6.3 メモリチェック操作 14-119
14.7 描画チェック 14-122
14.7.1 描画チェック機能 14-122
14.7.2 描画チェックの表示操作 14-122
14.7.3 描画チェックの表示と操作 14-123
14.8 フォントチェック 14-127
14.8.1 フォントチェック機能 14-127
14.8.2 フォントチェックの表示操作 14-127
14.8.3 フォントチェック操作 14-128
14.9 タッチパネルチェック 14-129
14.9.1 タッチパネルチェック機能 14-129
14.9.2 タッチパネルチェックの表示操作 14-129
14.9.3 タッチパネルチェックの操作 14-130
14.10 I/O チェック 14-131
14.10.1 I/O チェック機能 14-131
14.10.2 I/O チェックの表示操作 14-131
14.10.3 I/O チェックの操作 14-132
14.11 システムアラーム表示 14-134
14.11.1 システムアラーム表示機能 14-134
14.11.2 システムアラームの表示操作 14-134
14.11.3 システムアラーム操作 14-135

14.12 GOT 起動時間 14-136
14.12.1 GOT 起動時間機能 14-136
14.12.2 GOT 起動時間の表示操作 14-136
14.12.3 GOT 起動時間の表示 14-137

15 章 表示部の掃除（画面掃除） 15-1

15.1 画面掃除 15-1
15.1.1 画面掃除の表示操作 15-1
15.1.2 画面掃除の操作 15-1

16 章 CoreOS，BootOS，基本機能 OS のインストール ..... 16-1 ～ 16-14

16.1 インストールが必要な BootOS，基本機能 OS 16-2
16.2 BootOS，基本機能 OS のインストール前準備 16-3
16.3 CF カードを使用した BootOS，基本機能 OS のインストール 16-4
16.3.1 GOT 電源投入時にインストールする方法 16-5
16.3.2 プログラム / データ管理機能（ユーティリティ）を使用してインストールする方法 16-6
16.4 BootOS，基本機能 OS のバージョンが異なる場合 16-8
16.5 CoreOS について 16-11
16.5.1 CoreOS のインストール方法 16-11
16.5.2 CoreOS がインストールできない場合 16-14

17 章 保守・点検 ..... 17-1 ～ 17-7

17.1 日常点検 17-2
17.2 定期点検 17-2
17.3 画面掃除要領 17-3
17.4 バッテリの電圧低下検出と交換 17-4
17.5 バックライト切れ検出 17-7
17.5.1 バックライト切れ検出と外部警報 17-7

18 章 エラーメッセージとシステムアラーム ..... 18-1 ～ 18-12

18.1 表示内容の見方 18-1
18.2 エラーメッセージ・システムアラーム一覧 18-3
18.3 バス接続時のトラブルシューティング 18-8
18.3.1 エラー箇所の特定 18-8
18.3.2 エラー箇所の範囲の絞り込み 18-9
18.3.3 トラブルシューティングの具体例 18-10
18.4 モニタ時のトラブルシューティング 18-11
18.5 GOT 起動時の操作 18-12
18.5.1 電源遮断について 18-12
18.5.2 作画ソフトウェアから GOT への通信について 18-12

付録.....付 -1 ～付 -17
付 1. 外形寸法図 .....付 - 1
付 2. ユーティリティ機能の使用条件.....付 - 10
付 3. 輸送時の注意事項.....付 - 16
付 3.1 規制対象機種 .....付 - 16
付 3.2 輸送時の取扱い.....付 - 16
付 4. バージョンアップ追加機能（GOT1000 シリーズ）.....付 - 17
索引 ..... 索引 -1 ～索引 -2

1 マニュアルについて

本製品に関連するマニュアルには，下記のものがあります。
必要に応じて本表を参考にしてご依頼ください。

関連マニュアル

マニュアル名称	マニュアル番号（形名コード）	標準価格
GOT1000 シリーズ接続マニュアル（1/3，2/3，3/3） GOT1000 シリーズで使用できる接続形態のシステム構成，ケーブルの作成方法などを説明 （別売）＊1	SH-080511 （1D7M15）	￥3,000 （1/3 ～ 3/3 の セット価格です。）
GT Designer2 Version2　基本操作・データ転送マニュアル< GOT1000 シリーズ対応> GT Designer2（SW2D5C-GTD2-J）のインストール操作，作画のための基本操作や GOT1000 へのデータ転送方法などを説明 （別売）＊1	SH-080508 （1D7M13）	￥3,000
GT Designer2 Version2 画面設計マニュアル（GOT1000 シリーズ対応）（1/3，2/3，3/3） GOT1000 シリーズで使用する各オブジェクト機能の仕様や設定内容などについて説明 （別売）＊1	SH-080509 （1D7M14）	￥7,000 （1/3 ～ 3/3 の セット価格です。）
GT Designer3 Version1 画面設計マニュアル< GOT1000 シリーズ対応>（共通編）（1/2，2/2） GT Designer3（SW2DNC-GTD3-J）のインストール操作，作画のための基本操作や GOT1000 へのデータ転送方法などを説明 （別売）＊1	SH-080836 （1D7M94）	￥4,000
GT Designer3 Version1 画面設計マニュアル（GOT1000 シリーズ対応）（作画編）（1/2，2/2） GOT1000 シリーズで使用する各オブジェクト機能の仕様や設定内容などについて説明 （別売）＊1	SH-080837 （1D7M95）	￥7,000 （1/2 ～ 2/2 の セット価格です。）
GOT1000 シリーズ接続マニュアル（三菱電機機器接続編）GT Works3 対応 GOT1000 シリーズで使用できる接続形態のシステム構成，ケーブルの作成方法などを説明 （別売）＊1	SH-080838 （1D7M96）	￥4,000
GOT1000 シリーズ接続マニュアル（他社機器接続編 1）GT Works3 対応 GOT1000 シリーズで使用できる接続形態のシステム構成，ケーブルの作成方法などを説明 （別売）＊1	SH-080839 （1D7M97）	￥3,000
GOT1000 シリーズ接続マニュアル（他社機器接続編 2）GT Works3 対応 GOT1000 シリーズで使用できる接続形態のシステム構成，ケーブルの作成方法などを説明 （別売）＊1	SH-080840 （1D7M98）	￥3,000
GOT1000 シリーズ接続マニュアル（マイコン・MODBUS・周辺機器接続編）GT Works3 対応 GOT1000 シリーズで使用できる接続形態のシステム構成，ケーブルの作成方法などを説明 （別売）＊1	SH-080841 （1D7M99）	￥3,000

＊1：GT Works2, GT Designer2, GT Works3, GT Designer3 の製品に PDF で格納されています。

2 本マニュアルで使用する略称，総称

■ GOT

略称 / 総称			内容
GOT1000 シリーズ	GT1695	GT1695M-X	GT1695M-XTBA，GT1695M-XTBD の略称
	GT1685	GT1685M-S	GT1685M-STBA，GT1685M-STBD の略称
	GT1675	GT1675M-S	GT1675M-STBA，GT1675M-STBD の略称
		GT1675M-V	GT1675M-VTBA，GT1675M-VTBD の略称
		GT1675-VN	GT1675-VNBA，GT1675-VNBD の略称
	GT1672	GT1672-VN	GT1672-VNBA，GT1672-VNBD の略称
	GT1665	GT1665M-S	GT1665M-STBA，GT1665M-STBD の略称
		GT1665M-V	GT1665M-VTBA，GT1665M-VTBD の略称
	GT1662	GT1662-VN	GT1662-VNBA，GT1662-VNBD の略称
	GT1655	GT1655-V	GT1655-VTBD の略称
	GT16		GT1695，GT1685，GT1675，GT1672，GT1665，GT1662，GT1655，GT16 ハンディの略称
	防爆形 GT16		GT1685M-STBA-EX-N，GT1685M-STBA-EX-N-IO，GT1685M-STBA-EX-N-R2，GT1685M-STBA-EX-N-R2IO，GT1685M-STBA-EX-N-BT，GT1685M-STBA-EX-N-BTIO，GT1685M-STBA-EX-N-BTR2 の略称
	GT1595	GT1595-X	GT1595-XTBA，GT1595-XTBD の略称
	GT1585	GT1585V-S	GT1585V-STBA，GT1585V-STBD の略称
		GT1585-S	GT1585-STBA，GT1585-STBD の略称
	GT157 □	GT1575V-S	GT1575V-STBA，GT1575V-STBD の略称
		GT1575-S	GT1575-STBA，GT1575-STBD の略称
		GT1575-V	GT1575-VTBA，GT1575-VTBD の略称
		GT1575-VN	GT1575-VNBA，GT1575-VNBD の略称
		GT1572-VN	GT1572-VNBA，GT1572-VNBD の略称
	GT156 □	GT1565-V	GT1565-VTBA，GT1565-VTBD の略称
		GT1562-VN	GT1562-VNBA，GT1562-VNBD の略称
	GT155 □	GT1555-V	GT1555-VTBD の略称
		GT1555-Q	GT1555-QTBD，GT1555-QSBD の略称
		GT1550-Q	GT1550-QLBD の略称
	GT15		GT1595，GT1585，GT157 □，GT156 □，GT155 □の略称
	GT145 □	GT1455-Q	GT1455-QTBDE，GT1455-QTBD の略称
		GT1450-Q	GT1450-QLBDE，GT1450-QLBD の略称
	GT14		GT1455-Q，GT1450-Q，GT14 ハンディの略称
	GT115 □	GT1155-Q	GT1155-QTBDQ，GT1155-QSBDQ，GT1155-QTBDA，GT1155-QSBDA，GT1155-QTBD，GT1155-QSBD の略称
		GT1150-Q	GT1150-QLBDQ，GT1150-QLBDA，GT1150-QLBD の略称
	GT11		GT115 □，GT11 ハンディの略称
	GT105 □	GT1055-Q	GT1055-QSBD の略称
		GT1050-Q	GT1050-QBBD の略称
	GT104 □	GT1045-Q	GT1045-QSBD の略称
		GT1040-Q	GT1040-QBBD の略称
	GT1030		GT1030-LBD，GT1030-LBD2，GT1030-LBL，GT1030-LBDW，GT1030-LBDW2，GT1030-LBLW，GT1030-LWD，GT1030-LWD2，GT1030-LWL，GT1030-LWDW，GT1030-LWDW2，GT1030-LWLW，GT1030-HBD，GT1030-HBD2，GT1030-HBL，GT1030-HBDW，GT1030-HBDW2，GT1030-HBLW，GT1030-HWD，GT1030-HWD2，GT1030-HWL，GT1030-HWDW，GT1030-HWDW2，GT1030-HWLW の略称
	GT1020		GT1020-LBD，GT1020-LBD2，GT1020-LBL，GT1020-LBDW，GT1020-LBDW2，GT1020-LBLW，GT1020-LWD，GT1020LWD2，GT1020-LWL，GT1020-LWDW，GT1020-LWDW2，GT1020-LWLW の略称
	GT10		GT105 □，GT104 □，GT1030，GT1020 の略称

略称 / 総称				内容
GOT1000 シリーズ	ハンディ GOT	GT16 ハンディ	GT1665HS-V	GT1665HS-VTBD の略称
		GT14 ハンディ	GT1455HS-Q	GT1455HS-QTBDE の略称
			GT1450HS-Q	GT1450HS-QMBDE の略称
		GT11 ハンディ	GT1155HS-Q	GT1155HS-QSBD の略称
			GT1150HS-Q	GT1150HS-QLBD の略称
	GT SoftGOT1000			GT SoftGOT1000 の略称
GOT900 シリーズ				GOT-A900 シリーズ，GOT-F900 シリーズの略称
GOT800 シリーズ				GOT-800 シリーズの略称

■ 通信ユニット

略称 / 総称	内容
バス接続ユニット	GT15-QBUS，GT15-QBUS2，GT15-ABUS，GT15-ABUS2，GT15-75QBUSL，GT15-75QBUS2L，GT15-75ABUSL，GT15-75ABUS2L
シリアル通信ユニット	GT15-RS2-9P，GT15-RS4-9S，GT15-RS4-TE
RS-422 変換ユニット	GT15-RS2T4-9P，GT15-RS2T4-25P
Ethernet 通信ユニット	GT15-J71E71-100
MELSECNET/H 通信ユニット	GT15-J71LP23－25，GT15-J71BR13
MELSECNET/10 通信ユニット	GT15-75J71LP23-Z*1，GT15-75J71BR13-Z*2
CC-Link IE コントローラネットワーク通信ユニット	GT15-J71GP23-SX
CC-Link IE フィールドネットワーク通信ユニット	GT15-J71GF13-T2
CC-Link 通信ユニット	GT15-J61BT13，GT15-75J61BT13-Z*3
CC-Link インタフェースユニット	GT11HS-CCL，GT11H-CCL
拡張インタフェース変換ユニット	GT15-75IF900
シリアルマルチドロップ接続ユニット	GT01-RS4-M
コネクタ変換アダプタ	GT10-9PT5S
RS-232/485 信号変換アダプタ	GT14-RS2T4-9P

*1　A9GT-QJ71LP23+GT15-75IF900 のセット品
*2　A9GT-QJ71BR13+GT15-75IF900 のセット品
*3　A8GT-J61BT13+GT15-75IF900 のセット品

■ オプションユニット

略称 / 総称		内容
プリンタユニット		GT15-PRN
ビデオ /RGB ユニット	ビデオ入力ユニット	GT16M-V4，GT15V-75V4
	RGB 入力ユニット	GT16M-R2，GT15V-75R1
	ビデオ /RGB 入力ユニット	GT16M-V4R1，GT15V-75V4R1
	RGB 出力ユニット	GT16M-ROUT，GT15V-75ROUT
マルチメディアユニット		GT16M-MMR
CF カードユニット		GT15-CFCD
CF カード延長ユニット *1		GT15-CFEX-C08SET
外部入出力ユニット		GT15-DIO，GT15-DIOR
音声出力ユニット		GT15-SOUT

*1　GT15-CFEX+GT15-CFEXIF+GT15-C08CF のセット品

■ オプション

略称 / 総称		内容	
メモリカード	CF カード	GT05-MEM-16MC，GT05-MEM-32MC，GT05-MEM-64MC，GT05-MEM-128MC，GT05-MEM-256MC，GT05-MEM-512MC，GT05-MEM-1GC，GT05-MEM-2GC，GT05-MEM-4GC，GT05-MEM-8GC，GT05-MEM-16GC	
	SD カード	L1MEM-2GBSD，L1MEM-4GBSD	
メモリカードアダプタ		GT05-MEM-ADPC	
オプション機能ボード		GT16-MESB，GT15-FNB，GT15-QFNB，GT15-QFNB16M，GT15-QFNB32M，GT15-QFNB48M，GT11-50FNB，GT15-MESB48M	
バッテリ		GT15-BAT，GT11-50BAT	
保護シート		GT16 用	GT16-90PSCB，GT16-90PSGB，GT16-90PSCW，GT16-90PSGW，GT16-80PSCB，GT16-80PSGB，GT16-80PSCW，GT16-80PSGW，GT16-70PSCB，GT16-70PSGB，GT16-70PSCW，GT16-70PSGW，GT16-60PSCB，GT16-60PSGB，GT16-60PSCW，GT16-60PSGW，GT16-50PSCB，GT16-50PSGB，GT16-50PSCW，GT16-50PSGW，GT16-90PSCB-012，GT16-80PSCB-012，GT16-70PSCB-012，GT16-60PSCB-012，GT16-50PSCB-012，GT16H-60PSC
		GT15 用	GT15-90PSCB，GT15-90PSGB，GT15-90PSCW，GT15-90PSGW，GT15-80PSCB，GT15-80PSGB，GT15-80PSCW，GT15-80PSGW，GT15-70PSCB，GT15-70PSGB，GT15-70PSCW，GT15-70PSGW，GT15-60PSCB，GT15-60PSGB，GT15-60PSCW，GT15-60PSGW，GT15-50PSCB，GT15-50PSGB，GT15-50PSCW，GT15-50PSGW
		GT14 用	GT14-50PSCB，GT14-50PSGB，GT14-50PSCW，GT14-50PSGW，GT14H-50PSC
		GT11 用	GT11-50PSCB，GT11-50PSGB，GT11-50PSCW，GT11-50PSGW，GT11H-50PSC
		GT10 用	GT10-50PSCB，GT10-50PSGB，GT10-50PSCW，GT10-50PSGW，GT10-40PSCB，GT10-40PSGB，GT10-40PSCW，GT10-40PSGW，GT10-30PSCB，GT10-30PSGB，GT10-30PSCW，GT10-30PSGW，GT10-20PSCB，GT10-20PSGB，GT10-20PSCW，GT10-20PSGW
耐油カバー		GT05-90PCO，GT05-80PCO，GT05-70PCO，GT05-60PCO，GT05-50PCO，GT16-50PCO，GT10-40PCO，GT10-30PCO，GT10-20PCO	
USB 耐環境カバー		GT16-UCOV，GT16-50UCOV，GT15-UCOV，GT14-50UCOV，GT11-50UCOV	
スタンド		GT15-90STAND，GT15-80STAND，GT15-70STAND，A9GT-50STAND，GT05-50STAND	
アタッチメント		GT15-70ATT-98，GT15-70ATT-87，GT15-60ATT-97，GT15-60ATT-96，GT15-60ATT-87，GT15-60ATT-77，GT15-50ATT-95W，GT15-50ATT-85	
バックライト		GT16-90XLTT，GT16-80SLTT，GT16-70SLTT，GT16-70VLTT，GT16-70VLTTA，GT16-70VLTN，GT16-60SLTT，GT16-60VLTT，GT16-60VLTN，GT15-90XLTT，GT15-80SLTT，GT15-70SLTT，GT15-70VLTT，GT15-70VLTN，GT15-60VLTT，GT15-60VLTN	
多色表示ボード		GT15-XHNB，GT15-VHNB	
コネクタ変換ボックス		GT11H-CNB-37S，GT16H-CNB-42S，GT16H-CNB-37S	
非常停止スイッチガードカバー		GT11H-50ESCOV，GT14H-50ESCOV，GT16H-60ESCOV	
メモリローダ		GT10-LDR	
メモリボード		GT10-50FMB	
拡張 USB 防水ケーブル		GT14-C10EXUSB-4S，GT10-C10EXUSB-5S	

■ ソフトウェア

略称 / 総称	内容
GT Works3	SW □ DNC-GTWK3-J，SW □ DNC-GTWK3-JV，SW □ DNC-GTWK3-JA の略称
GT Designer3	GOT1000 シリーズ用画面作成ソフト GT Designer3 の略称
GT Simulator3	GOT1000/GOT900 シリーズ用スクリーンシミュレータ GT Simulator3 の略称
GT SoftGOT1000	モニタリングソフト GT SoftGOT1000 の略称
GT Converter2	GOT1000/GOT900 シリーズ用データ変換ソフト GT Converter2 の略称
GT Designer2 Classic	GOT900 シリーズ用画面作成ソフト GT Designer2 Classic の略称
GT Designer2	GOT1000/GOT900 シリーズ用画面作成ソフト GT Designer2 の略称
iQ Works	iQ Platform 対応エンジニアリング環境 MELSOFT iQ Works の略称
MELSOFT Navigator	SW □ DNC-IQWK（iQ Platform 対応エンジニアリング環境 MELSOFT iQ Works）の中の統合開発環境の総称
GX Works2	SW □ DNC-GXW2-J(-JA，-JAZ) 形シーケンサエンジニアリングソフトウェアの略称
GX Simulator2	GX Works2 のシミュレーション機能の略称
GX Simulator	SW □ D5C-LLT-J(-JV) 形ラダーロジックテストツール機能ソフトウェアパッケージの略称 (SW5D5C-LLT(-V) 以降)
GX Developer	SW □ D5C-GPPW-J(-JV)/SW □ D5F-GPPW(-V) 形ソフトウェアパッケージの略称
GX LogViewer	SW □ DNN-VIEWER-J 形ソフトウェアパッケージの略称
PX Developer	SW □ D5C-FBDQ-J 形計装制御用 FBD ソフトウェアパッケージの略称
MT Works2	モーションコントローラエンジニアリング環境 MELSOFT MT Works2(SW □ DNC-MTW2-J) の略称
MT Developer	SW □ RNC-GSV 形モーションコントローラ Q シリーズ用総合立上げ支援ソフトウェアの略称
MR Configurator2	SW □ DNC-MRC2-J 形サーボセットアップソフトウェアの略称
MR Configurator	MRZJW □ -SETUP 形サーボセットアップソフトウェアの略称
FR Configurator	インバータセットアップソフトウェア (FR-SW □ -SETUP-WJ) の略称
NC Configurator	CNC パラメータ設定支援ツール NC Configurator の略称
FX Configurator-FP	FX3U-20SSC-H パラメータ設定・モニタ / テスト用ソフトウェアパッケージ (SW □ D5C-FXSSCJ) の略称
FX3U-ENET-L 設定ツール	FX3U-ENET-L 形 Ethernet ユニット設定用ソフトウェア (SW1D5-FXENETL-J) の略称
RT ToolBox2	ロボットプログラム作成用ソフトウェア (3D-11C-WINJ) の略称
MX Component	MX Component Version □ (SW □ D5C-ACT-J，SW □ D5C-ACT-JA) の略称
MX Sheet	MX Sheet Version □ (SW □ D5C-SHEET-J，SW □ D5C-SHEET-JA) の略称
QnUDVCPU・LCPU ロギング設定ツール	QnUDVCPU・LCPU ロギング設定ツール (SW1DNN-LLUTL-J) の略称

■ ライセンスキー (GT SoftGOT1000 用)

略称 / 総称	内容
ライセンスキー	GT15-SGTKEY-U，GT15-SGTKEY-P

■ その他

略称 / 総称	内容
アイエイアイ社	株式会社アイエイアイの略称
アズビル社	アズビル株式会社 (旧株式会社山武) の略称
オムロン社	オムロン株式会社の略称
キーエンス社	株式会社キーエンスの略称
光洋電子工業社	光洋電子工業株式会社の略称
シャープマニファクチャリングシステム社	シャープマニファクチャリングシステム株式会社の略称
ジェイテクト社	株式会社 ジェイテクトの略称
神港テクノス社	神港テクノス株式会社の略称
チノー社	株式会社チノーの略称
東芝社	株式会社 東芝の略称
東芝機械社	東芝機械株式会社の略称
日立産機システム社	株式会社 日立産機システムの略称
日立製作所社	株式会社 日立製作所の略称
富士電機社	富士電機株式会社の略称
パナソニック社	パナソニック株式会社の略称
パナソニックデバイス SUNX 社	パナソニックデバイス SUNX 株式会社の略称
安川電機社	株式会社安川電機の略称
横河電機社	横河電機株式会社の略称
ALLEN-BRADLEY	Allen-Bradley(Rockwell Automation, Inc) の略称
GE 社	GE Intelligent Platforms の略称
LS 産電社	LS 産電株式会社の略称
SCHNEIDER ELECTRIC 社	Schneider Electric SA の略称
SICK 社	SICK AG の略称
SIEMENS 社	Siemens AG の略称
理化工業社	理化工業株式会社の略称
平田機工社	平田機工株式会社の略称
MURATEC	Muratec(ムラテックオートメーション株式会社) の略称
シーケンサ	各社シーケンサの総称
制御機器	各社制御機器の総称
温度調節器	各社温度調節器の総称
指示調節計	各社指示調節計の総称
調節計	各社調節計の総称
パソコン CPU ユニット	株式会社コンテック製パソコン CPU ユニットの略称
GOT(サーバ)	サーバ機能を使用する GOT の略称
GOT(クライアント)	クライアント機能を使用する GOT の略称
Windows® フォント	Windows® で使用できる TrueType フォント (GT Designer3 で設定できる TrueType フォントとは異なる), OpenType フォントの略称
インテリジェント機能ユニット	ベースユニットに装着される，シーケンサ CPU，電源ユニット，入出力ユニット以外のユニット
MODBUS® /RTU	シリアル通信で，MODBUS® プロトコルの伝文を使用するためのプロトコルの総称
MODBUS® /TCP	TCP/IP ネットワーク上で，MODBUS® プロトコルの伝文を使用するためのプロトコルの総称

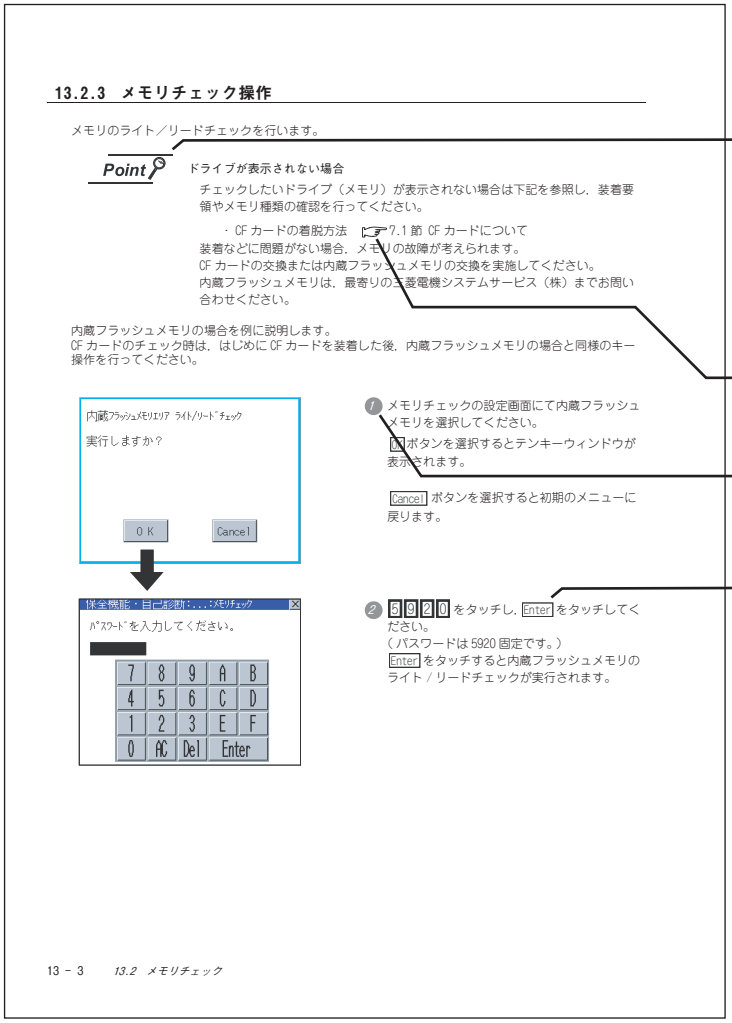
マニュアルの読み方

1 各機能について

本マニュアルは GT Designer2 Version2.96A，GT Designer3 Version1.26C 版の内容について記載しています。
製品のバージョンアップに伴う追加機能については，付録の GT Designer2 のバージョンアップ追加機能一覧を参照してください。

2 記号について

本マニュアルで使用している記号について説明します。



Point 知っておく必要のある内容をPointとして記載しています。

Hint! 知っておくと便利な内容をHintとして記載しています。

備 考 知っておくと参考になる補足的な説明を備考として記載しています。

詳細説明を記載している項目（マニュアルや，そのマニュアルの章，節，項）を表しています。

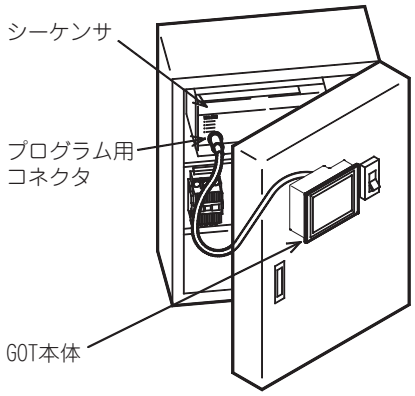
1 → 2 → 3 ・・・・
と操作の流れを表しています。

メニューや項目を括弧で区別して表しています。
「 」：GOTユーティリティのメニュー
□：GOTユーティリティのダイアログボックス内のボタン

1章　概要

1 GOT について

GOT は，制御盤や操作盤のパネル面に取付け，制御盤内のシーケンサなどと接続し，スイッチ操作，ランプ表示，データ表示，メッセージ表示などを行います。



表示画面には，ユーザ画面とユーティリティ画面の 2 種類があります。

(1) ユーザ画面

作画ソフトウェアにより作画された画面です。
「タッチスイッチ」,「ランプ表示」,「コメント表示」や「数値表示」などのオブジェクトを任意にレイアウトし，表示できます。
ユーザ画面は，プロジェクト単位で横表示 / 縦表示の選択ができます。
また，作画ソフトウェアで作成した複数の画面を重ねたり，切り換えて表示できます。

詳細については，下記を参照してください。

☞ GT Designer2 Version □ 基本操作･データ転送マニュアル
GT Designer2 Version □ 画面設計マニュアル
GT Designer3 Version1 画面設計マニュアル

(2) ユーティリティ画面

GOT 用にあらかじめ用意されている画面です。
作画ソフトウェアや CF カードから GOT に，基本機能 OS をインストールすることにより表示できるようになります。
ユーティリティ画面には,「輝度・コントラスト」,「メモリチェック」などがあります。
ユーティリティ機能の画面は横表示固定です。

詳細については，下記を参照してください。

☞ 9 章～ 15 章

2 マニュアルについて

GOT 1000 シリーズに関するマニュアルは，下記のマニュアルがあります。
使用目的に応じて各マニュアルを参照してください。

(1) ソフトウェアのインストール → 作画 → データ転送

プロジェクトデータを作成して，GOT に転送するまでの操作は，以下のマニュアルを参照してください。

目　的	GT Designer2 Version □ 基本操作・データ転送マニュアル＊1 GT Designer3 Version1 画面設計マニュアル（共通編）＊1	GT Designer2 Version □ 画面設計マニュアル＊1 GT Designer3 Version1 画面設計マニュアル（作画編）＊1
製品をパソコンにインストールする	詳細	
プロジェクトを作成する	詳細	
画面を作成する	詳細	
図形を描画する	詳細	
共通設定を行う	概要	詳細
オブジェクトを配置／設定する	概要	詳細
データを GOT に転送する	詳細	

＊1 GT Works2/GT Designer2/GT Works3/GT Designer3 に PDF で格納されています。

(2) GOT 本体の設置 → シーケンサとの接続

GOT を設置して，シーケンサ CPU と通信するまでの操作は，以下のマニュアルを参照してください。

目　的	 （同梱） GT15 本体概要説明書 GT11 本体概要説明書	 GT15 本体取扱説明書 GT11 本体取扱説明書	 GOT1000 シリーズ 接続マニュアル＊1
GOT 本体の各部の名称・仕様を確認する	概要	詳細	
GOT の設置方法を確認する	概要	詳細	
通信ユニットやオプションの装着方法を確認する		詳細	概要
シーケンサとの接続方法を確認する			詳細
ユーティリティの操作方法を確認する		詳細	
GOT に表示されるエラーコード（システムアラーム）を確認する		詳細	

＊1 GT Works2/GT Designer2/GT Works3/GT Designer3 に PDF で格納されています。

(3) その他のマニュアル

(1)，(2) で紹介したマニュアル以外にも下記のマニュアルがあります。
下記のマニュアルは，GT Works2/GT Designer2/GT Works3/GT Designer3 に PDF で格納されています。

(a) GT Simulator2 Version □ 操作マニュアル
作成したプロジェクトデータを，GT Simulator2 でシミュレートする方法を記載しています。

(b) GT Converter2 Version □ 操作マニュアル
GT Converter2 の使用方法について記載しています。

1.1 特長

(1) モニタ性能と FA 機器接続性の向上

- Unicode2.1 対応のフォントによる多言語表示機能と TrueType，高品位フォントによる美しい文字の描画を実現
- 256 色表示とモノクロ表示の 2 機種を用意
  モノクロ表示は 16 階調で表現力を向上
- 最大 115.2kbps の高速シリアル通信またはシーケンサバス接続による高速モニタを実現
- 高速表示と高速タッチスイッチレスポンスを実現

(2) 画面設計／立上げ・調整／運用／保守作業の効率化

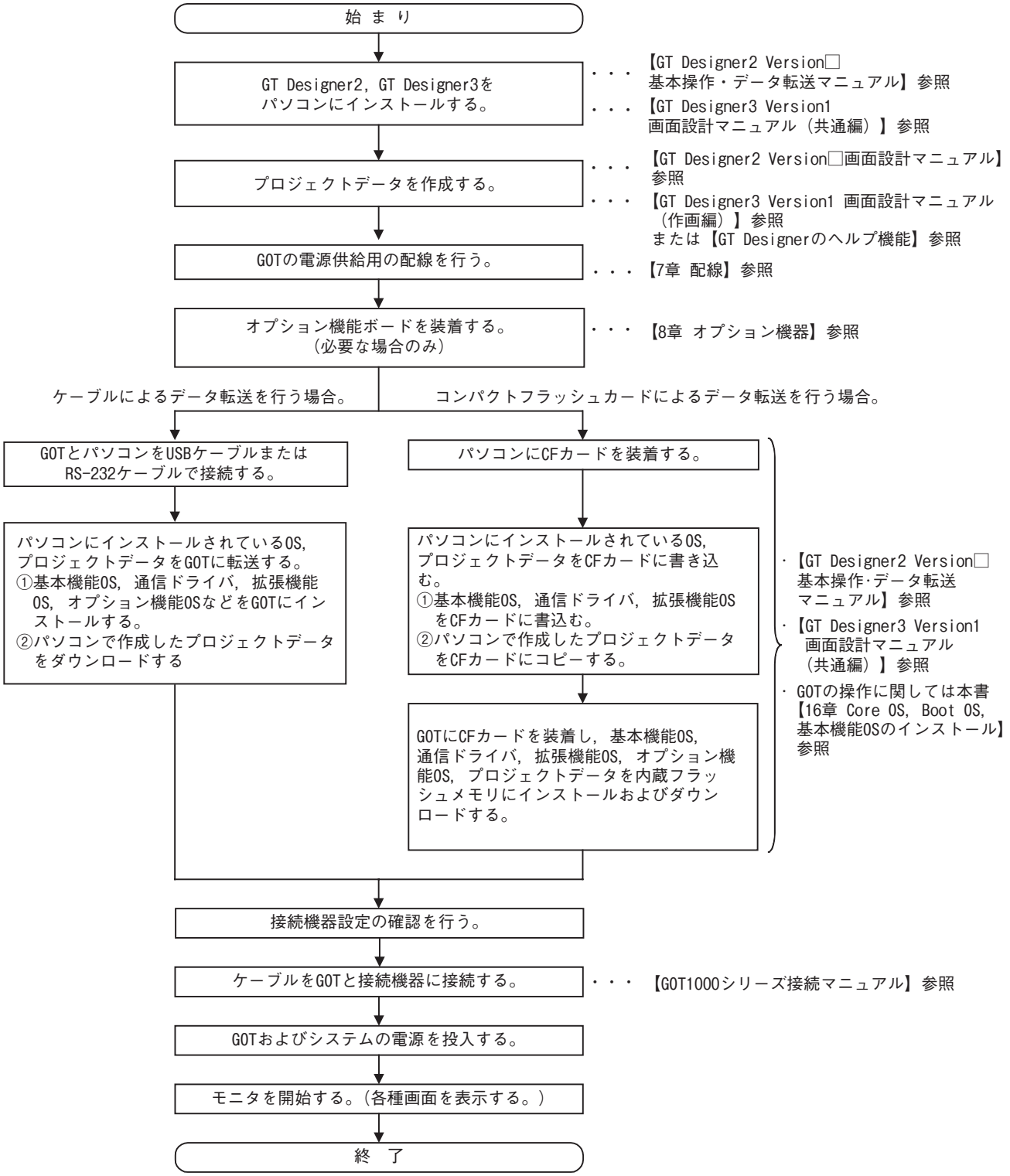
- 標準 3MB のユーザメモリを搭載
- CF カードインタフェース標準装備
- USB コネクタを GOT の前面に配置することにより，FA 機器セットアップツールを用いた効率的なシステムの立上げ作業が行え，間接作業（盤開閉，ケーブル交換，ケーブル繋ぎ換え作業）の軽減でさらに作業効率を向上

(3) FA 機器セットアップツールとの親和性強化

- A，QnA，L，Q，FX シリーズシーケンサ CPU との直接接続時，GOT に接続したパソコンでシーケンスプログラムの転送，モニタが可能（トランスペアレント機能）

1.2 運転までの概略手順

GOT を運転するまでの概略手順を示します。

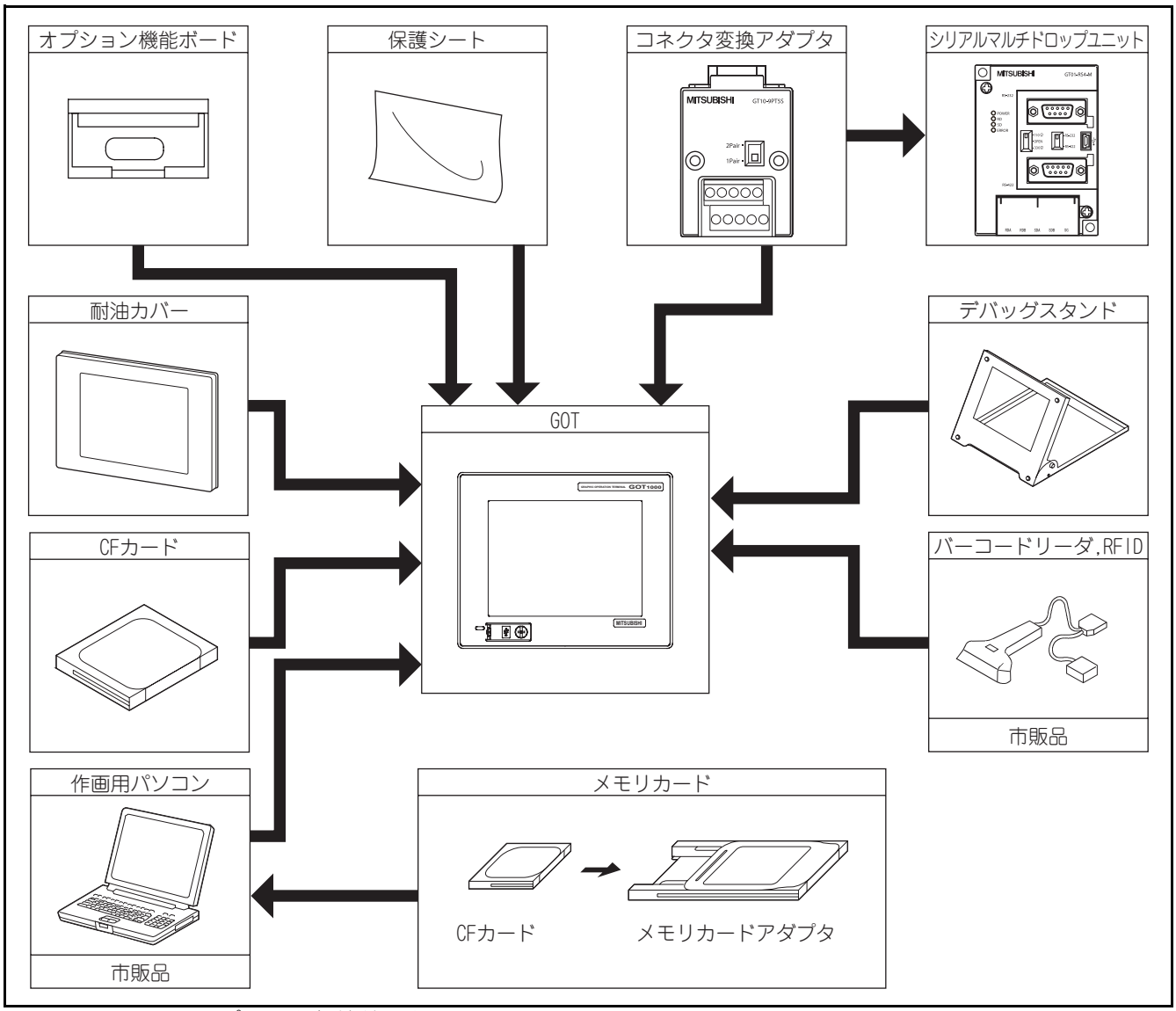


2章　システム構成

2.1　全体構成

GOT の全体構成を下記に示します。
GOT1000 シリーズで使用できる接続機器やケーブルについては下記を参照してください。

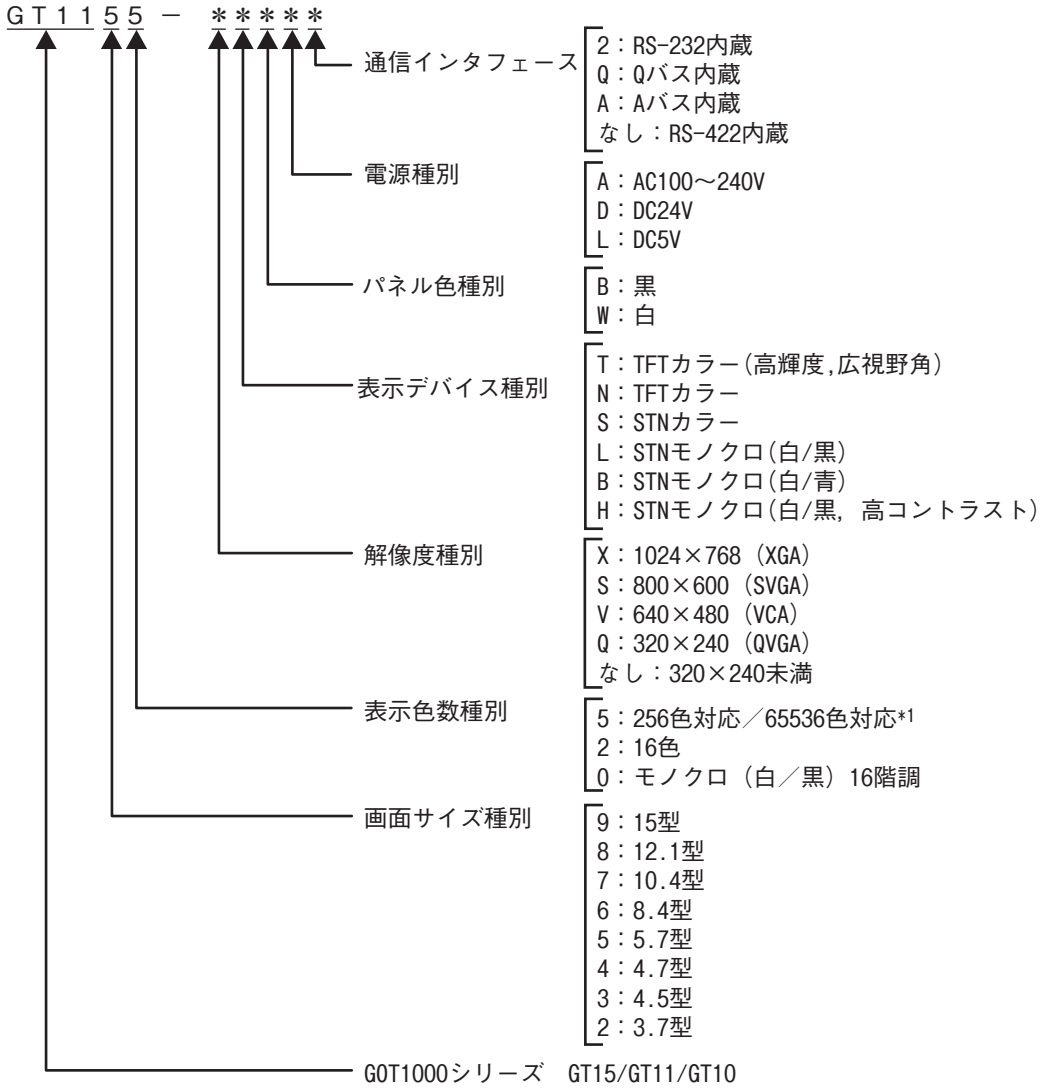
☞GOT1000 シリーズ 接続マニュアル



• GT11 □□はプリンタと接続できません。

2.2 構成機器

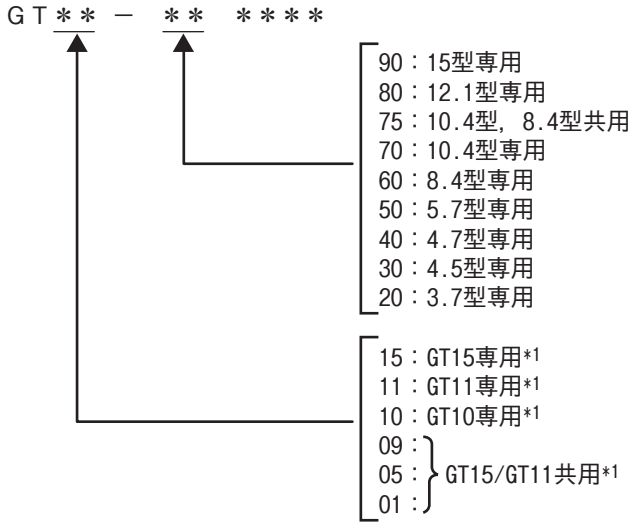
(1) GOT 形名の見方



*1：GT15 で 65536 色表示可能な機種に関する詳細は，下記を参照してください。

☞GT15 本体取扱説明書

(2) オプション機器形名の見方



*1：GT15/GT11/GT10 で共通のオプション機器もあります。

2.2.1 GOT（GT11）

1 シリアルインタフェース内蔵

GOT	GT1155-QTBD	5.7 型 [320 × 240 ドット]，TFT カラー液晶，256 色 DC24V，メモリサイズ 3MB，バッテリ内蔵，シリアルインタフェース内蔵
	GT1155-QSBD	5.7 型 [320 × 240 ドット]，STN カラー液晶，256 色 DC24V，メモリサイズ 3MB，バッテリ内蔵，シリアルインタフェース内蔵
	GT1150-QLBD	5.7 型 [320 × 240 ドット]，STN モノクロ液晶，モノクロ（白 / 黒） 16 階調 DC24V，メモリサイズ 3MB，バッテリ内蔵，シリアルインタフェース内蔵

2 バスインタフェース内蔵

GOT	GT1155-QTBDQ	5.7 型 [320 × 240 ドット]，TFT カラー液晶，256 色 DC24V，メモリサイズ 3MB，バッテリ内蔵，Q バス／シリアルインタフェース内蔵
	GT1155-QTBDA	5.7 型 [320 × 240 ドット]，TFT カラー液晶，256 色 DC24V，メモリサイズ 3MB，バッテリ内蔵，A バス／シリアルインタフェース内蔵
	GT1155-QSBDQ	5.7 型 [320 × 240 ドット]，STN カラー液晶，256 色 DC24V，メモリサイズ 3MB，バッテリ内蔵，Q バス／シリアルインタフェース内蔵
	GT1155-QSBDA	5.7 型 [320 × 240 ドット]，STN カラー液晶，256 色 DC24V，メモリサイズ 3MB，バッテリ内蔵，A バス／シリアルインタフェース内蔵
	GT1150-QLBDQ	5.7 型 [320 × 240 ドット]，STN モノクロ液晶，モノクロ（白 / 黒） 16 階調 DC24V，メモリサイズ 3MB，バッテリ内蔵，Q バス／シリアルインタフェース内蔵
	GT1150-QLBDA	5.7 型 [320 × 240 ドット]，STN モノクロ液晶，モノクロ（白 / 黒） 16 階調 DC24V，メモリサイズ 3MB，バッテリ内蔵，A バス／シリアルインタフェース内蔵

2.2.2 オプション機器（GT11 に使用可能なオプション機器）

シーケンサ接続ケーブル（別売）

品名		形名	ケーブル長	内容
RS-422 ケーブル	FXCPU 直接接続ケーブル, FX 通信機能拡張ボード接続ケーブル	GT01-C10R4-8P	1m	FXCPU(MINI DIN8 ピンコネクタ）⇔ GOT 接続用 FXCPU 通信機能拡張ボード (MINI DIN8 ピンコネクタ）⇔ GOT 接続用
		GT01-C30R4-8P	3m	
		GT01-C100R4-8P	10m	
		GT01-C200R4-8P	20m	
		GT01-C300R4-8P	30m	
	QnA/A/ FXCPU 直接接続ケーブル, 計算機リンク接続ケーブル	GT01-C30R4-25P	3m	QnA/A/ モーションコントローラ（A シリーズ） FXCPU(D サブ 25 ピンコネクタ）⇔ GOT 接続用 FA-CNV □ CBL ⇔ GOT 接続用 シリアルコミュニケーションユニット (AJ71QC24(N)-R4）⇔ GOT 接続用
		GT01-C100R4-25P	10m	
		GT01-C200R4-25P	20m	
		GT01-C300R4-25P	30m	
	計算機リンク接続ケーブル	GT09-C30R4-6C	3m	計算機リンクユニット / シリアルコミュニケーションユニット⇔GOT接続用
		GT09-C100R4-6C	10m	
		GT09-C200R4-6C	20m	
		GT09-C300R4-6C	30m	
RS-232 ケーブル	QCPU 直接接続ケーブル	GT01-C30R2-6P	3m	QCPU ⇔ GOT 接続用
	FX 通信機能拡張ボード接続ケーブル , FX 通信特殊アダプタ接続ケーブル	GT01-C30R2-9S	3m	FXCPU 通信機能拡張ボード（D サブ 9 ピンコネクタ* 1）⇔ GOT 接続用 FXCPU 通信特殊アダプタ（D サブ 9 ピンコネクタ* 1）⇔ GOT 接続用
	FX 通信特殊アダプタ接続	GT01-C30R2-25P	3m	FXCPU 通信特殊アダプタ（D サブ 25 ピンコネクタ* 1）⇔ GOT 接続用
	計算機リンク接続ケーブル	GT09-C30R2-9P	3m	計算機リンクユニット / シリアルコミュニケーションユニット⇔GOT接続用
		GT09-C30R2-25P	3m	

＊ 1：（) 内はケーブル側コネクタの形状です。

QCPU（Q モード）用バス接続ケーブル（別売）

品名	形名	ケーブル長	内容
Q 増設ケーブル GOT 間接続ケーブル	GT15-QC06B	0.6m	QCPU ⇔ GOT 接続用 GOT ⇔ GOT 接続用
	GT15-QC12B	1.2m	
	GT15-QC30B	3m	
	GT15-QC50B	5m	
	GT15-QC100B	10m	
Q 長距離接続ケーブル GOT 間長距離接続ケーブル	GT15-QC150BS	15m	QCPU ⇔ GOT 長距離（13.2m 以上）接続用（A9GT-QCNB が必要） GOT ⇔ GOT 長距離接続用
	GT15-QC200BS	20m	
	GT15-QC250BS	25m	
	GT15-QC300BS	30m	
	GT15-QC350BS	35m	

QnA/ACPU/ モーションコントローラ（A シリーズ）用バス接続ケーブル（別売）

品名	形名	ケーブル長	内容
小型 CPU 増設ケーブル GOT 間接続ケーブル	GT15-A1SC07B	0.7m	QnAS/AnSCPU/ モーションコントローラ CPU（A シリーズ）⇔ GOT 接続用
	GT15-A1SC12B	1.2m	
	GT15-A1SC30B	3m	
	GT15-A1SC50B	5m	QnAS/AnSCPU ⇔ GOT 接続用
	GT15-A1SC05NB	0.45m	QnAS ／ AnSCPU ／モーションコントローラ CPU（A シリーズ）⇔ A7GT-CNB 接続用
	GT15-A1SC07NB	0.7m	
	GT15-A1SC30NB	3m	
	GT15-A1SC50NB	5m	QnAS/AnSCPU ⇔ A7GT-CNB 接続用
大型 CPU 増設ケーブル	GT15-C12NB	1.2m	QnA/ACPU/ モーションコントローラ CPU（A シリーズ・増設ベース）⇔ GOT 接続用
	GT15-C30NB	3m	
	GT15-C50NB	5m	
	GT15-AC06B	0.6m	QnA ／ ACPU ／モーションコントローラ CPU（A シリーズ・増設ベース）⇔ A7GT-CNB 接続用
	GT15-AC12B	1.2m	
	GT15-AC30B	3m	
	GT15-AC50B	5m	
	GT15-A370C12B-S1	1.2m	モーションコントローラ CPU（A シリーズ・基本ベース）⇔ GOT 接続用
	GT15-A370C25B-S1	2.5m	
	GT15-A370C12B	1.2m	モーションコントローラ CPU（A シリーズ・基本ベース）⇔ A7GT-CNB 接続用
	GT15-A370C25B	2.5m	
小型 CPU 長距離接続ケーブル	GT15-C100EXSS-1	10.6m	QnAS/AnSCPU/ モーションコントローラ CPU（A シリーズ）⇔ GOT 長距離接続用 A7GT-CNB ⇔ GOT 長距離接続用 GT15-EXCNB と GT15-C □ BS の組合せ品
	GT15-C200EXSS-1	20.6m	
	GT15-C300EXSS-1	30.6m	
GOT 間長距離接続ケーブル	GT15-C07BS	0.7m	GOT ⇔ GOT 接続用
	GT15-C12BS	1.2m	
	GT15-C30BS	3m	
	GT15-C50BS	5m	
	GT15-C100BS	10m	
	GT15-C200BS	20m	
	GT15-C300BS	30m	
A0J2HCPU 接続ケーブル	GT15-J2C10B	1m	A0J2HCPU 用電源ユニット（A0J2-PW）⇔ GOT 接続用
バッファ回路ケーブル	GT15-EXCNB	0.5m	GT15-C □ BS と組み合わせて，GT15-C □ EXSS-1 として使用可

オムロン社製シーケンサ用接続ケーブル（別売）

品名	形名	ケーブル長	内容
RS-422 ケーブル	GT09-C30R40101-9P	3m	オムロン社製シーケンサ，シリアルコミュニケーションユニット，シリアルコミュニケーションボード ⇔ GOT 接続用
	GT09-C100R40101-9P	10m	
	GT09-C200R40101-9P	20m	
	GT09-C300R40101-9P	30m	
	GT09-C30R40102-9P	3m	オムロン社製ベース取付タイプ上位リンクユニット，コミュニケーションボード ⇔ GOT 接続用
	GT09-C100R40102-9P	10m	
	GT09-C200R40102-9P	20m	
	GT09-C300R40102-9P	30m	
	GT09-C30R40103-5T	3m	シリアルコミュニケーションボード ⇔ GOT 接続用
	GT09-C100R40103-5T	10m	
	GT09-C200R40103-5T	20m	
	GT09-C300R40103-5T	30m	
RS-232 ケーブル	GT09-C30R20101-9P	3m	オムロン社製シーケンサ，シリアルコミュニケーションユニット，コミュニケーションボード，シリアルコミュニケーションボード ⇔ GOT 接続用
	GT09-C30R20102-25S	3m	オムロン社製接続ケーブル ⇔ GOT 接続用
	GT09-C30R20103-25P	3m	オムロン社製ベース取付タイプ上位リンクユニット ⇔ GOT 接続用

キーエンス社製シーケンサ用接続ケーブル（別売）

品名	形名	ケーブル長	内容
RS-422 ケーブル	GT09-C30R41101-5T	3m	キーエンス社製マルチコミュニケーションユニット⇔ GOT 接続用
	GT09-C100R41101-5T	10m	
	GT09-C200R41101-5T	20m	
	GT09-C300R41101-5T	30m	
RS-232 ケーブル	GT09-C30R21101-6P	3m	キーエンス社製シーケンサ⇔ GOT 接続用
	GT09-C30R21102-9S	3m	キーエンス社製マルチコミュニケーションユニット⇔ GOT 接続用
	GT09-C30R21103-3T	3m	キーエンス社製マルチコミュニケーションユニット⇔ GOT 接続用

シャープ社製シーケンサ用接続ケーブル（別売）

品名	形名	ケーブル長	内容
RS-422 ケーブル	GT09-C30R40601-15P	3m	シャープ社製シーケンサ⇔ GOT 接続用
	GT09-C100R40601-15P	10m	
	GT09-C200R40601-15P	20m	
	GT09-C300R40601-15P	30m	
	GT09-C30R40602-15P	3m	シャープ社製シーケンサ⇔ GOT 接続用
	GT09-C100R40602-15P	10m	
	GT09-C200R40602-15P	20m	
	GT09-C300R40602-15P	30m	
	GT09-C30R40603-6T	3m	シャープ社製リンクユニット⇔ GOT 接続用
	GT09-C100R40603-6T	10m	
	GT09-C200R40603-6T	20m	
	GT09-C300R40603-6T	30m	
RS-232 ケーブル	GT09-C30R20601-15P	3m	シャープ社製シーケンサ⇔ GOT 接続用
	GT09-C30R20602-15P	3m	シャープ社製シーケンサ⇔ GOT 接続用

東芝社製シーケンサ用接続ケーブル（別売）

品名	形名	ケーブル長	内容
RS-422 ケーブル	GT09-C30R40501-15P	3m	東芝社製シーケンサ⇔ GOT 接続用
	GT09-C100R40501-15P	10m	
	GT09-C200R40501-15P	20m	
	GT09-C300R40501-15P	30m	
	GT09-C30R40502-6C	3m	東芝社製シーケンサ⇔ GOT 接続用
	GT09-C100R40502-6C	10m	
	GT09-C200R40502-6C	20m	
	GT09-C300R40502-6C	30m	
	GT09-C30R40503-15P	3m	東芝社製シーケンサ⇔ GOT 接続用
	GT09-C100R40503-15P	10m	
	GT09-C200R40503-15P	20m	
	GT09-C300R40503-15P	30m	
RS-232 ケーブル	GT09-C30R20501-9P	3m	東芝社製シーケンサ⇔ GOT 接続用
	GT09-C30R20502-15P	3m	東芝社製シーケンサ⇔ GOT 接続用

ジェイテクト社製シーケンサ用シーケンサ接続ケーブル（別売）

品名	形名	ケーブル長	内容
RS-422 ケーブル	GT09-C30R41201-6C	3m	ジェイテクト社製シーケンサ，リンクユニット ⇔ GOT 接続用
	GT09-C100R41201-6C	10m	
	GT09-C200R41201-6C	20m	
	GT09-C300R41201-6C	30m	
RS-232 ケーブル	GT09-C30R21201-25P	3m	ジェイテクト社製 RS-232/RS-422 変換器 ⇔ GOT 接続用

日立産機システム社製シーケンサ用接続ケーブル（別売）

品名	形名	ケーブル長	内容
RS-422 ケーブル	GT09-C30R40401-7T	3m	日立産機システム社製インテリジェントシリアルポートモジュール ⇔ GOT 接続用
	GT09-C100R40401-7T	10m	
	GT09-C200R40401-7T	20m	
	GT09-C300R40401-7T	30m	
RS-232 ケーブル	GT09-C30R20401-15P	3m	日立産機システム社製シーケンサ，インテリジェントシリアルポートモジュール ⇔ GOT 接続用
	GT09-C30R20402-15P	3m	日立産機システム社製シーケンサ ⇔ GOT 接続用

日立製作所社製シーケンサ用接続ケーブル（別売）

品名	形名	ケーブル長	内容
RS-422 ケーブル	GT09-C30R41301-9S	3m	日立製作所社製シーケンサ ⇔ GOT 接続用
	GT09-C100R41301-9S	10m	
	GT09-C200R41301-9S	20m	
	GT09-C300R41301-9S	30m	
RS-232 ケーブル	GT09-C30R21301-9S	3m	日立製作所社製通信モジュール ⇔ GOT 接続用

富士電機機器制御社製シーケンサ用接続ケーブル（別売）

品名	形名	ケーブル長	内容
RS-422 ケーブル	GT09-C30R41001-6T	3m	富士電機機器制御社製 RS-232C インタフェースカード，RS-232C/485 インタフェースカプセル，汎用インタフェースモジュール ⇔ GOT 接続用
	GT09-C100R41001-6T	10m	
	GT09-C200R41001-6T	20m	
	GT09-C300R41001-6T	30m	
RS-232 ケーブル	GT09-C30R21003-25P	3m	

パナソニック電工社製シーケンサ用接続ケーブル（別売）

品名	形名	ケーブル長	内容
RS-232 ケーブル	GT09-C30R20901-25P	3m	パナソニック電工社製 RS422/232C 変換アダプタ⇔ GOT 接続用
	GT09-C30R20902-9P	3m	パナソニック電工社製シーケンサのツールポートおよび RS232C ポート，コンピュータコミュニケーションユニット⇔ GOT 接続用
	GT09-C30R20903-9P	3m	パナソニック電工社製シーケンサの RS232C ポート ⇔ GOT 接続用
	GT09-C30R20904-3C	3m	パナソニック電工社製シーケンサの RS232C ポート ⇔ GOT 接続用

安川電機社製シーケンサ用接続ケーブル（別売）

品名	形名	ケーブル長	内容
RS-422 ケーブル	GT09-C30R40201-9P	3m	安川電機社製 MEMOBUS モジュール ⇔ GOT 接続用
	GT09-C100R40201-9P	10m	
	GT09-C200R40201-9P	20m	
	GT09-C300R40201-9P	30m	
	GT09-C30R40202-14P	3m	安川電機社製シーケンサ ⇔ GOT 接続用
	GT09-C100R40202-14P	10m	
	GT09-C200R40202-14P	20m	
	GT09-C300R40202-14P	30m	
RS-232 ケーブル	GT09-C30R20201-9P	3m	安川電機社製シーケンサ ⇔ GOT 接続用
	GT09-C30R20202-15P	3m	
	GT09-C30R20203-9P	3m	
	GT09-C30R20204-14P	3m	
	GT09-C30R20205-25P	3m	安川電機社製 MEMOBUS モジュール ⇔ GOT 接続用

横河電機社製シーケンサ用接続ケーブル（別売）

品名	形名	ケーブル長	内容
RS-422 ケーブル	GT09-C30R40301-6T	3m	横河電機社製パソコンリンクモジュール ⇔ GOT 接続用
	GT09-C100R40301-6T	10m	
	GT09-C200R40301-6T	20m	
	GT09-C300R40301-6T	30m	
	GT09-C30R40302-6T	3m	
	GT09-C100R40302-6T	10m	
	GT09-C200R40302-6T	20m	
	GT09-C300R40302-6T	30m	
	GT09-C30R40303-6T	3m	横河電機社製温度調節器⇔ GOT 接続用
	GT09-C100R40303-6T	10m	
	GT09-C200R40303-6T	20m	
	GT09-C300R40303-6T	30m	
	GT09-C30R40304-6T	3m	
	GT09-C100R40304-6T	10m	
	GT09-C200R40304-6T	20m	
	GT09-C300R40304-6T	30m	
RS-232 ケーブル	GT09-C30R20301-9P	3m	横河電機社製 CPU ポート／ D サブ 9 ピン変換ケーブル ⇔ GOT 接続用
	GT09-C30R20302-9P	3m	横河電機社製パソコンモジュール ⇔ GOT 接続用
	GT09-C30R20304-9S	3m	横河電機社製変換器⇔ GOT 接続用

Allen-Bradley 社製シーケンサ用接続ケーブル（別売）

品名	形名	ケーブル長	内容
RS-232 ケーブル	GT09-C30R20701-9S	3m	Allen-Bradley 社製シーケンサ⇔ GOT 接続用
	GT09-C30R20702-25P	3m	Allen-Bradley 社製 Adapter ⇔ GOT 接続用

SIEMENS 社製シーケンサ用接続ケーブル（別売）

品名	形名	ケーブル長	内容
RS-232 ケーブル	GT09-C30R20801-9S	3m	SIEMENS 社製 HMI Adapter ⇔ GOT 接続用

神港テクノス社製指示調節計用シーケンサ用接続ケーブル（別売）

品名	形名	ケーブル長	内容
RS-232 ケーブル	GT09-C30R21401-4T	3m	神港テクノス社製指示調節計⇔ GOT 接続用

CF カード（別売）

品名	形名	内容
CF カード	GT05-MEM-128MC	フラッシュ ROM　128MB
	GT05-MEM-256MC	フラッシュ ROM　256MB
	GT05-MEM-512MC	フラッシュ ROM　512MB
	GT05-MEM-1GC	フラッシュ ROM　1GB
	GT05-MEM-2GC	フラッシュ ROM　2GB
	－	市販品の CF カード＊2

＊2： 弊社にて動作確認した一部機種が使用できます。
動作確認機種については，別資料の「GOT1000 シリーズ動作確認機器一覧」(PLC-D-498) を参照願います。
上記テクニカルニュースは三菱電機 FA 機器技術情報サービス MELFANSweb ホームページでも参照することができます。
(MELFANSweb ホームページ：http//www.MitsubishiElectric.co.jp/melfansweb)

メモリカードアダプタ（別売）

品名	形名	内容
メモリカードアダプタ	GT05-MEM-ADPC	CF カード→メモリカード（Type Ⅱ）変換アダプタ

オプション機能ボード（別売）

品名	形名	内容
オプション機能ボード	GT11-50FNB	オプション機能ボード＊3

＊3： GOT のハードウェアバージョンによりオプション機能ボードの要否が異なります。詳細は下記を参照してください。
☞8.3 節 オプション機能ボードについて

スタンド（別売）

品名	形名	内容
スタンド	GT05-50STAND	スタンド 5.7 型用 (GOT1000 シリーズ用)
	A9GT-50STAND	スタンド 5.7 型用 (GOT-A900 と兼用)

バッテリ（別売）

品名	形名	内容
バッテリ*4	GT11-50BAT	時計データ，アラーム履歴，レシピデータ，タイムアクション設定値保存用

＊4： GOT 購入時，本体に装着されています。

バス延長コネクタボックス（別売）

品名	形名	内容
バス延長コネクタボックス	A9GT-QCNB	QCPU（Q モード）/ モーションコントローラ CPU（Q シリーズ）長距離（13.2m 以上）バス接続時に使用

バスコネクタ変換ボックス（別売）

品名	形名	内容
バスコネクタ変換ボックス	A7GT-CNB	QnA/ACPU/ モーションコントローラ CPU（A シリーズ）長距離バス接続時に使用（大形タイプコネクタから小形タイプコネクタ変換用）

保護シート（別売）

品名	形名	内容	
保護シート	GT11-50PSCB	5.7 型用保護シート	クリア 5 枚
	GT11-50PSGB		アンチグレア 5 枚
	GT11-50PSCW		クリア（枠部：白色）5 枚
	GT11-50PSGW		アンチグレア（枠部：白色）5 枚

USB 耐環境カバー（別売）

品名	形名	内容
USB 耐環境カバー*5	GT11-50UCOV	交換用本体前面 USB インタフェース耐環境カバー（IP67f 対応用）

＊5： GOT 購入時，本体に装着されています。

耐油カバー（別売）

品名	形名	内容
耐油カバー	GT05-50PCO	5.7 型用耐油カバー

作画ソフトウェア（別売）

品名	形名	内容
GT Designer2	SW□D5C-GTD2-J（□はバージョンを表します）*6	GOT1000/GOT900 シリーズ用画面作成ソフト
GT Designer3	SW□DNC-GTD3-J（□はバージョンを表します）	GOT1000 シリーズ用画面作成ソフト

＊6： □には 2 以上の整数が入ります。

パソコン接続用ケーブル（別売）

品名	形名	ケーブル長	内容
データ転送用ケーブル	GT01-C30R2-9S	3m	パソコン（作画ソフトウェア）（D サブ 9 ピン：メス*7）⇔ GOT 接続用
	GT01-C30R2-25P	3m	パソコン（作画ソフトウェア）（D サブ 25 ピン：オス*7）⇔ GOT 接続用
	GT09-C20USB-5P	2m	パソコン（作画ソフトウェア）（USB）⇔ GOT 接続用（USB ミニ）*7
	GT09-C30USB-5P	3m	

*7：( ) 内はケーブル側コネクタの形状です。

バーコードリーダ（別売）

品名	形名	内容
バーコードリーダ	−	市販品のバーコードリーダ*8

*8： 弊社にて動作確認した一部機種が使用できます。
動作確認機種については，別資料の「GOT1000 シリーズ動作確認機器一覧」(GOT-D-0001) を参照願います。
上記テクニカルニュースは三菱電機 FA 機器技術情報サービス MELFANSweb ホームページでも参照することができます。
（MELFANSweb ホームページ：http://www.MitsubishiElectric.co.jp/melfansweb）

RFID コントローラ (別売）

品名	形名	内容
RFID コントローラ	−	市販品の RFID コントローラ*9

*9： 接続可能な RFID コントローラおよび構成機器については，下記テクニカルニュースを参照してください。
☞GOT1000 シリーズ動作確認機器一覧 (GOT-D-0001)
上記テクニカルニュースは三菱電機 FA 機器技術情報サービス MELFANSweb ホームページでも参照することができます。
（MELFANSweb ホームページ：http://www.MitsubishiElectric.co.jp/melfansweb）

シリアルマルチドロップユニット (別売）

品名	形名	内容
シリアルマルチドロップユニット	GT01-RS4-M	GOT マルチドロップ接続用

コネクタ変換アダプタ (別売）

品名	形名	内容
コネクタ変換アダプタ	GT10-9PT5S	GOT マルチドロップ接続用

3章　仕様

3.1　一般仕様

<table>
<tr><th colspan="2">項目</th><th colspan="6">仕様</th></tr>
<tr><td rowspan="2">使用周囲温度</td><td>表示部</td><td colspan="6">0 ～ 50 ℃</td></tr>
<tr><td>表示部以外</td><td colspan="6">0 ～ 55 ℃（横置き），0 ～ 50 ℃（縦置き）</td></tr>
<tr><td colspan="2">保存周囲温度</td><td colspan="6">-20 ～ 60 ℃</td></tr>
<tr><td colspan="2">使用周囲湿度 *1</td><td colspan="6">10 ～ 90%RH, 結露なきこと</td></tr>
<tr><td colspan="2">保存周囲湿度 *1</td><td colspan="6">10 ～ 90%RH, 結露なきこと</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="5">耐振動</td><td rowspan="5">JIS B 3502，
IEC 61131-2
に適合</td><td></td><td>周波数</td><td>加速度</td><td>振幅</td><td>掃引回数</td></tr>
<tr><td rowspan="2">断続的な振動
がある場合</td><td>5 ～ 9Hz</td><td>—</td><td>3.5mm</td><td rowspan="4">X,Y,Z 各方向
10 回</td></tr>
<tr><td>9 ～ 150Hz</td><td>9.8m/s^2</td><td>—</td></tr>
<tr><td rowspan="2">連続的な振動
がある場合</td><td>5 ～ 9Hz</td><td>—</td><td>1.75mm</td></tr>
<tr><td>9 ～ 150Hz</td><td>4.9m/s^2</td><td>—</td></tr>
<tr><td colspan="2">耐衝撃</td><td colspan="6">JIS B 3502，IEC 61131-2 に適合（147m/s^2，XYZ 各方向各 3 回）</td></tr>
<tr><td colspan="2">使用雰囲気</td><td colspan="6">油煙，腐食性ガス，可燃性ガスがなく，導通性の埃がひどくないこと，直射日光があたらないこと (保存時も同様)</td></tr>
<tr><td colspan="2">使用標高 *2</td><td colspan="6">2000m 以下</td></tr>
<tr><td colspan="2">設置場所</td><td colspan="6">制御盤内</td></tr>
<tr><td colspan="2">オーバボルテージカテゴリ *3</td><td colspan="6">Ⅱ以下</td></tr>
<tr><td colspan="2">汚染度 *4</td><td colspan="6">2 以下</td></tr>
<tr><td colspan="2">冷却方式</td><td colspan="6">自冷</td></tr>
<tr><td colspan="2">接地</td><td colspan="6">D 種接地（100Ω 以下），接地不可の時は盤に接続のこと</td></tr>
</table>

＊ 1：STN 液晶タイプは，湿球温度 39 ℃以下

＊ 2：GOT は，標高 0m の大気圧以上に加圧した環境で使用または保存しないでください。
使用した場合は，誤動作する可能性があります。
制御盤内を加圧によりエアパージすると，気圧によって表面のシートが浮いてタッチパネルが押しにくくなったり，シートがはがれたりする恐れがあります。

＊ 3：その機器が公衆配電網から構内の機械装置に至るまでのどこの配電部に接続されていることを想定しているかを示します。
カテゴリⅡは，固定設備から給電される機器などに適用されます。
定格 300V までの機器の耐サージ電圧は 2500V です。

＊ 4：その機器が使用される環境における導電性物質の発生度合を示す指標です。
汚染度 2 は，非導電性の汚染しか発生しない。ただし，たまたまの凝結によって一時的な導電が起こりうる環境です。

3.2 性能仕様

• GT1155-QTBD，GT1155-QSBD，GT1150-QLBD

項目		仕様		
		GT1155-QTBD	GT1155-QSBD	GT1150-QLBD
表示部 *1	種類	TFT カラー液晶	STN カラー液晶	STN モノクロ (白 / 黒) 液晶
	画面サイズ	5.7 型		
	解像度	320 × 240[ドット]		
	表示サイズ	115(W) × 86(H)[mm]（横表示時）		
	表示文字数	16 ドットフォント時 20 字× 15 行 (全角), 12 ドットフォント時 26 字× 20 行 (全角) (横表示時)		
	表示色	256 色		モノクロ (白 / 黒)16 階調
	視野角	左右各 70 度 , 上 70 度 , 下 50 度（横表示時）	・左右各 50 度 , 上 50 度 , 下 60 度 （ハードウェアバージョン A, B）（横表示時） ・左右各 55 度 , 上 65 度 , 下 70 度 （ハードウェアバージョン C ～ K 以降）（横表示時） ・左右各 50 度 , 上 50 度 , 下 70 度 （ハードウェアバージョン L 以降）	左右各 45 度 , 上 20 度 , 下 40 度（横表示時）
	コントラスト調整	-	16 段階調整	
	液晶単体輝度	400[cd/ ㎡](8 段階調整可)	・350[cd/ ㎡](8 段階調整可) （ハードウェアバージョン A, B） ・380[cd/ ㎡](8 段階調整可) （ハードウェアバージョン C 以降）	220[cd/ ㎡](8 段階調整可)
	輝度調整	8 段階調整		
	寿命	約 50,000 時間 (使用周囲温度 25 ℃でコントラストが 1/5 となる時間)		
バックライト		冷陰極管 (ユーザでの交換不可) バックライト切れ断線検出機能付き バックライト OFF/ スクリーンセーブ時間の設定可		
	寿命 *2	約 75,000 時間以上 (使用周囲温度が 25 ℃で表示輝度が 50%となる時間)		約 54,000 時間以上 (使用周囲温度が 25 ℃で表示輝度が 50%となる時間)
タッチパネル	タッチキー数	300 個 /1 画面 (15 行× 20 列のマトリクス構造)		
	キーサイズ	最小　16 × 16[ドット](1 キーあたり)		
	同時押し点数	最大 2 点		
	寿命	100 万回以上 (操作力 0.98N 以下)		
メモリ	C ドライブ *3	内蔵フラッシュメモリ　プロジェクトデータ (3M バイト) と OS 格納用		
	寿命 (書込み回数)	10 万回		
	D ドライブ	内蔵 SRAM　512K バイト (バッテリバックアップ)		
バッテリ		GT11-50BAT 形リチウムバッテリ		
	バックアップ対象	時計データ , アラーム履歴 , レシピデータ，タイムアクション設定値		
	寿命	交換目安約 5 年 (周囲温度 25 ℃)		
ブザー出力		単音色 (音長の調整可)		
耐環境保護構造 *4		IP67f(JEM1030) 相当 (前面部)　USB 耐環境カバー装着時		
外形寸法		164(W) × 135(H) × 56(D)[mm](USB 耐環境カバーを除く)（横表示時）		
パネルカット寸法		153(W) × 121(H)[mm]（横表示時）		
質量		0.7kg(取付金具を除く)		
対応ソフトウェアパッケージ		GT Designer2 Version2.72A 以上 , GT Designer3　Version1 以上	GT Designer2　Version2 以上 , GT Designer3　Version1 以上	

＊1：• 液晶パネルは，特性として輝点 (常時点灯している点) と黒点 (点灯しない点) が発生します。
液晶パネルには大変多くの表示素子があるため，輝点，黒点を 100% 発生しないようにすることはできません。
また，表示色によっては，ちらつきが発生することがあります。
輝点·黒点やちらつきの発生は，製品の不良または故障ではなく特性ですので，あらかじめご了承ください。
• 液晶パネルは表示内容やコントラスト調整などにより，明るさのムラやちらつきが生じることがありますが，故障ではなく特性ですのであらかじめご了承ください。
• 液晶パネルの表示の明るさや色調には個体差があります。複数台を並べて使用する場合，個体差が生じることをあらかじめご了承ください。
• 液晶パネルにクロストーク（表示延長上の影）が現れる場合があります。これは液晶パネルの特性ですのでご了承ください。

- 表示部を視野角外から見ると表示色が変化して見えます。これは液晶パネルの特性ですのでご了承ください。
  液晶パネルの応答時間，輝度，色合いは，使用環境温度により変動することがありますので，あらかじめご了承ください。
  特に低温環境下では，STN 液晶の特性上，表示応答性が低下しますので，あらかじめ表示応答性をご確認のうえご使用ください。
- 長時間同じ画面を表示していると，焼きつきにより残像やムラが発生し，消えなくなることがあります。
  焼きつき防止にはスクリーンセーブ機能が有効です。
  スクリーンセーブ機能についての詳細は，下記を参照してください。
  ☞ 11 章 表示と操作の設定（GOT セットアップ）

＊ 2：GOT のバックライト OFF 機能を使用することにより，バックライトの寿命を延ばすことができます。
バックライト OFF 機能についての詳細は，下記を参照してください。
☞ 11 章 表示と操作の設定（GOT セットアップ）

＊ 3：メモリは，書き込まれているデータを消去しなくても，新たなデータの上書きが可能な ROM です。

＊ 4：USB 耐環境カバー装着時，IP67ｆ に対応します。（USB ケーブル装着時は未対応。）
ただし，お客様のあらゆる環境を保証するものではありません。
また長時間油あるいは薬品がかかる環境や，オイルミストが充満する環境ではご使用になれない場合があります。

• GT1155-QTBDQ，GT1155-QSBDQ，GT1150-QLBDQ，GT1155-QTBDA，GT1155-QSBDA，GT1150-QLBDA

項目		仕様		
		GT1155-QTBDQ GT1155-QTBDA	GT1155-QSBDQ GT1155-QSBDA	GT1150-QLBDQ GT1150-QLBDA
表示部 *1	種類	TFT カラー液晶	STN カラー液晶	STN モノクロ (白 / 黒) 液晶
	画面サイズ	5.7 型		
	解像度	320 × 240[ドット]		
	表示サイズ	115(W) × 86(H)[mm]（横表示時）		
	表示文字数	16 ドットフォント時 20 字× 15 行 (全角), 12 ドットフォント時 26 字× 20 行 (全角) (横表示時)		
	表示色	256 色		モノクロ (白 / 黒)16 階調
	視野角	左右各 70 度，上 70 度，下 50 度（横表示時）	左右各 55 度，上 65 度，下 70 度（横表示時）	左右各 45 度，上 20 度，下 40 度（横表示時）
	コントラスト調整	－	16 段階調整	
	液晶単体輝度	400[cd/ ㎡](8 段階調整可）	380[cd/ ㎡](8 段階調整可）	220[cd/ ㎡](8 段階調整可)
	輝度調整	8 段階調整		
	寿命	約 50,000 時間 (使用周囲温度 25 ℃)		
バックライト		冷陰極管 (ユーザでの交換不可) バックライト切れ断線検出機能付き バックライト OFF/ スクリーンセーブ時間の設定可		
	寿命 *2	約 75,000 時間以上 (使用周囲温度が 25 ℃で表示輝度が 50%となる時間）		約 54,000 時間以上 (使用周囲温度が 25 ℃で表示輝度が 50%となる時間)
タッチパネル	タッチキー数	300 個 /1 画面 (15 行× 20 列のマトリクス構造)		
	キーサイズ	最小　16 × 16[ドット](1 キーあたり)		
	同時押し点数	最大 2 点		
	寿命	100 万回以上 (操作力 0.98N 以下)		
メモリ	C ドライブ *3	内蔵フラッシュメモリ　プロジェクトデータ (3M バイト) と OS 格納用		
	寿命 (書込み回数)	10 万回		
	D ドライブ	内蔵 SRAM　512K バイト (バッテリバックアップ)		
バッテリ		GT11-50BAT 形リチウムバッテリ		
	バックアップ対象	時計データ , アラーム履歴 , レシピデータ，タイムアクション設定値		
	寿命	交換目安約 5 年 (周囲温度 25 ℃)		
ブザー出力		単音色 (音長の調整可)		
耐環境保護構造 *4		IP67f(JEM1030) 相当 (前面部)　USB 耐環境カバー装着時		
外形寸法		167(W) × 135(H) × 65(D)[mm](USB 耐環境カバーを除く)（横表示時）		
パネルカット寸法		153(W) × 121(H)[mm]（横表示時）		
質量		0.9kg(取付金具を除く)		
対応ソフトウェアパッケージ		GT Designer2　Version2.55H 以上 , GT Designer3　Version1 以上		

＊1：• 液晶パネルは，特性として輝点 (常時点灯している点) と黒点 (点灯しない点) が発生します。
液晶パネルには大変多くの表示素子があるため，輝点，黒点を 100% 発生しないようにすることはできません。
また，表示色によっては，ちらつきが発生することがあります。
輝点･黒点やちらつきの発生は，製品の不良または故障ではなく特性ですので，あらかじめご了承ください。
• 液晶パネルは表示内容やコントラスト調整などにより，明るさのムラやちらつきが生じることがありますが，故障ではなく特性ですのであらかじめご了承ください。
• 液晶パネルの表示の明るさや色調には個体差があります。複数台を並べて使用する場合，個体差が生じることをあらかじめご了承ください。
• 液晶パネルにクロストーク（表示延長上の影）が現れる場合があります。これは液晶パネルの特性ですのでご了承ください。
• 表示部を視野角外から見ると表示色が変化して見えます。これは液晶パネルの特性ですのでご了承ください。
液晶パネルの応答時間，輝度，色合いは，使用環境温度により変動することがありますので，あらかじめご了承ください。
特に低温環境下では，STN 液晶の特性上，表示応答性が低下しますので，あらかじめ表示応答性をご確認のうえご使用ください。
• 長時間同じ画面を表示していると，焼きつきにより残像やムラが発生し，消えなくなることがあります。
焼きつき防止にはスクリーンセーブ機能が有効です。
スクリーンセーブ機能についての詳細は，下記を参照してください。
☞ 11 章　表示と操作の設定（GOT セットアップ）

＊2：GOT のバックライト OFF 機能を使用することにより，バックライトの寿命を延ばすことができます。
バックライト OFF 機能についての詳細は，下記を参照してください。
☞ 11 章　表示と操作の設定（GOT セットアップ）

＊3：メモリは，書き込まれているデータを消去しなくても，新たなデータの上書きが可能な ROM です。

＊4：USB 耐環境カバー装着時，IP67 f に対応します。(USB ケーブル装着時は未対応。)
ただし，お客様のあらゆる環境を保証するものではありません。
また長時間油あるいは薬品がかかる環境や，オイルミストが充満する環境ではご使用になれない場合があります。

3.3 内蔵インタフェース仕様

• GT1155-QTBD, GT1155-QSBD, GT1150-QLBD

項目		仕様	
		GT1155-QTBD	GT1155-QSBD GT1150-QLBD
内蔵インタフェース	RS-422	· RS422, 1ch 伝送速度　：115,200/57,600/38,400/19,200/9,600/4,800bps コネクタ形状　：D サブ 9 ピン (メス) 用途　：シーケンサ通信 · RS422/485, 1ch 伝送速度　：115,200/57,600/38,400/19,200/9,600/4,800bps コネクタ形状　：D サブ 9 ピン (メス) 用途　：シーケンサ通信 終端抵抗*2　：OPEN/110Ω/330Ω（終端抵抗切換えスイッチで切換え） (シリアルマルチドロップ接続対応：ハードウェアバージョン C 以降)	· RS422, 1ch 伝送速度　：115,200/57,600/38,400/19,200/9,600/4,800bps コネクタ形状　：D サブ 9 ピン (メス) 用途　：シーケンサ通信 · RS422/485, 1ch 伝送速度　：115,200/57,600/38,400/19,200/9,600/4,800bps コネクタ形状　：D サブ 9 ピン (メス) 用途　：シーケンサ通信 終端抵抗*2　：OPEN/110Ω/330Ω（終端抵抗切換えスイッチで切換え） (シリアルマルチドロップ接続対応：ハードウェアバージョン F 以降)
	RS-232	RS232, 1ch 伝送速度　：115,200/57,600/38,400/19,200/9,600/4,800bps コネクタ形状　：D サブ 9 ピン (オス) 用途　：シーケンサ通信, バーコードリーダ, RFID の接続, パソコン通信 (プロジェクトデータアップロード / ダウンロード , OS インストール , トランスペアレント機能)	
	USB	USB(Full Speed 12Mbps), デバイス , 1ch コネクタ形状　：Mini-B 用途　：パソコン通信 (プロジェクトデータアップロード / ダウンロード ,OS インストール , トランスペアレント機能)	
	CF カード	PCMCIA 準拠 , コンパクトフラッシュスロット , 1ch コネクタ形状　：TYPE Ⅰ専用 用途　：データ転送 , データ保存用	
	オプション機能ボード*1	オプション機能ボード装着用　1ch	

*1：GOT のハードウェアバージョンによりオプション機能ボードの要否が異なります。
詳細は下記を参照してください。

☞ 8.3 節 オプション機能ボードについて

*2：GOT マルチドロップ接続を行う場合，GOT の終端抵抗切り換えスイッチを接続形態に合わせて切換えてください。GOT マルチドロップ接続についての詳細は下記を参照してください。

☞ 8.10 節 シリアルマルチドロップ接続ユニット

• GT1155-QTBDQ, GT1155-QSBDQ, GT1150-QLBDQ,
GT1155-QTBDA, GT1155-QSBDA, GT1150-QLBDA

項目		仕様	
		GT1155-QTBDQ GT1155-QSBDQ GT1150-QLBDQ	GT1155-QTBDA GT1155-QSBDA GT1150-QLBDA
内蔵インタフェース	バス	QCPU(Q モード)/ モーションコントローラ CPU(Q シリーズ), 1ch 用途　：シーケンサ通信	−
		−	QnA/ACPU/ モーションコントローラ CPU(A シリーズ), 1ch 用途　：シーケンサ通信
	RS-232	RS232, 1ch 伝送速度　：115,200/57,600/38,400/19,200/9,600/4,800bps コネクタ形状　：D サブ 9 ピン (オス) 用途　：バーコードリーダ, RFID の接続, パソコン通信 (プロジェクトデータアップロード / ダウンロード , OS インストール , トランスペアレント機能)	
	USB	USB(Full Speed 12Mbps), デバイス , 1ch コネクタ形状　：Mini-B 用途　：パソコン通信 (プロジェクトデータアップロード / ダウンロード ,OS インストール , トランスペアレント機能)	
	CF カード	PCMCIA 準拠 , コンパクトフラッシュスロット , 1ch コネクタ形状　：TYPE Ⅰ専用 用途　：データ転送 , データ保存用	

3.4 電源部仕様

• GT1155-QTBD，GT1155-QSBD，GT1150-QLBD

項目	仕様		
	GT1155-QTBD	GT1155-QSBD	GT1150-QLBD
入力電源電圧	DC24V(+10%　-15%) リップル電圧 200mV 以下		
ヒューズ (内蔵 , 交換不可)	1.0A		
消費電力	9.84W 以下 (410mA/DC24V)		9.36W 以下 (390mA/DC24V)
バックライト消灯時	4.32W 以下 (180mA/DC24V)		
突入電流	15A 以下 (26.4V)　2ms		
許容瞬停時間	5ms 以内		
ノイズ耐量	ノイズ電圧 1000Vp-p, ノイズ幅 1 μs (ノイズ周波数 30 ～ 100Hz のノイズシュミレータによる)		
耐電圧	AC500V　1 分間　(電源端子一括⇔アース間)		
絶縁抵抗	DC500V 絶縁抵抗計にて 10MΩ 以上 (電源端子一括⇔アース間)		
適合電線サイズ	0.75 ～ 2[mm²]		
適合圧着端子	M3 ネジ用の圧着端子　RAV1.25-3, V2-N3A, FV2-N3A		
適合締付トルク (端子台端子ネジ)	0.5 ～ 0.8[N・m]		

• GT1155-QTBDQ，GT1155-QSBDQ，GT1150-QLBDQ，GT1155-QTBDA，GT1155-QSBDA，GT1150-QLBDA

項目	仕様		
	GT1155-QTBDQ GT1155-QTBDA	GT1155-QSBDQ GT1155-QSBDA	GT1150-QLBDQ GT1150-QLBDA
入力電源電圧	DC24V(+10%　-15%) リップル電圧 200mV 以下		
ヒューズ (内蔵 , 交換不可)	1.0A		
消費電力	11.16W 以下 (465mA/DC24V)	9.72W 以下 (405mA/DC24V)	7.92W 以下 (330mA/DC24V)
バックライト消灯時	5.04W 以下 (210mA/DC24V)		
突入電流	26A 以下 (26.4V) 4ms		
許容瞬停時間	10ms 以内		
ノイズ耐量	ノイズ電圧 500Vp-p, ノイズ幅 1 μs (ノイズ周波数 25 ～ 60Hz のノイズシュミレータによる)		
耐電圧	AC500V　1 分間　(電源端子一括⇔アース間)		
絶縁抵抗	DC500V 絶縁抵抗計にて 10MΩ 以上 (電源端子一括⇔アース間)		
適合電線サイズ	0.75 ～ 2[mm²]		
適合圧着端子	M3 ネジ用の圧着端子　RAV1.25-3, V2-N3A, FV2-N3A		
適合締付トルク (端子台端子ネジ)	0.5 ～ 0.8[N・m]		

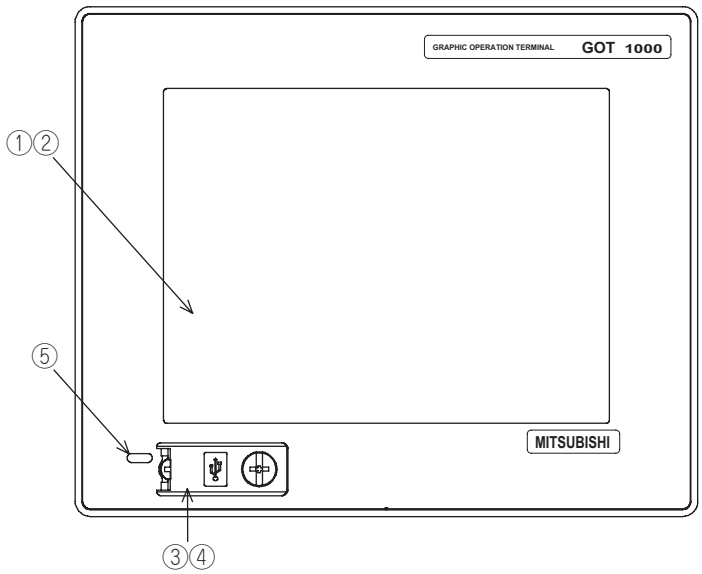
備　考

瞬停時の動作

電源が許容瞬停時間未満の瞬停を生じても GOT は動作を継続します。
また，長時間の停電や電圧低下が生じると GOT の動作は停止しますが，電源が復旧すると自動的に運転を再開します。

4章　各部の名称

4.1　正面パネル



No	名称	仕様
①	表示面	ユーティリティ画面及びユーザ作成画面を表示
②	タッチキー	ユーティリティ画面及びユーザ作成画面内のタッチスイッチ操作用
③	USB コネクタ	パソコン接続用 USB インタフェース （OS インストール，プロジェクトデータダウンロード，トランスペアレント）
④	USB 耐環境カバー	USB インタフェース使用時に開閉
⑤	POWER LED	緑色点灯　　：電源が正常に供給されているとき 橙色点灯　　：スクリーンセーブ中 橙色 / 緑色点滅：バックライト切れ 消灯　　：電源が供給されていないとき

パソコンの接続については，下記を参照してください。

☞GT Designer2 Version □ 基本操作･データ転送マニュアル

GT Designer3 Version1 画面設計マニュアル（共通編）

4.2 背面パネル

備　考

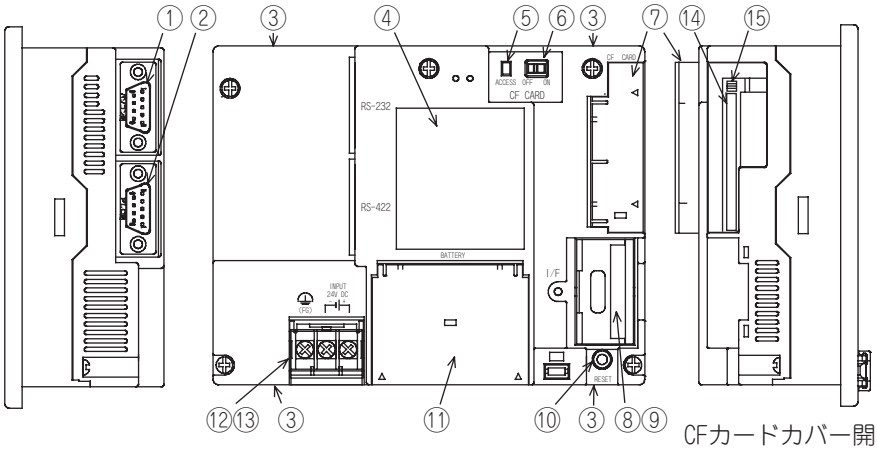
接続について

接続機器（シーケンサ，マイコン，バーコードリーダ，RFID など）やパソコンの接続については，下記を参照してください。

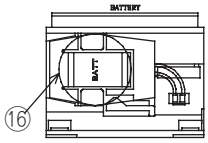
☞ GOT1000 シリーズ 接続マニュアル

1 GT1155-QTBD，GT1155-QSBD，GT1150-QLBD

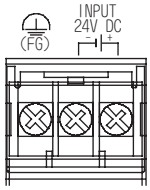
• ハードウェアバージョン
GT1155-QTBD : A
GT1155-QSBD : A ～ D
GT1150-QLBD : A ～ C



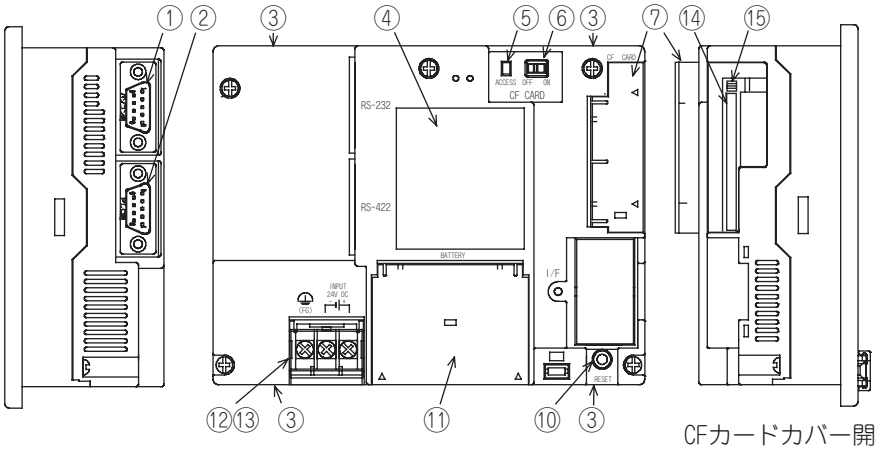
バッテリカバー開時



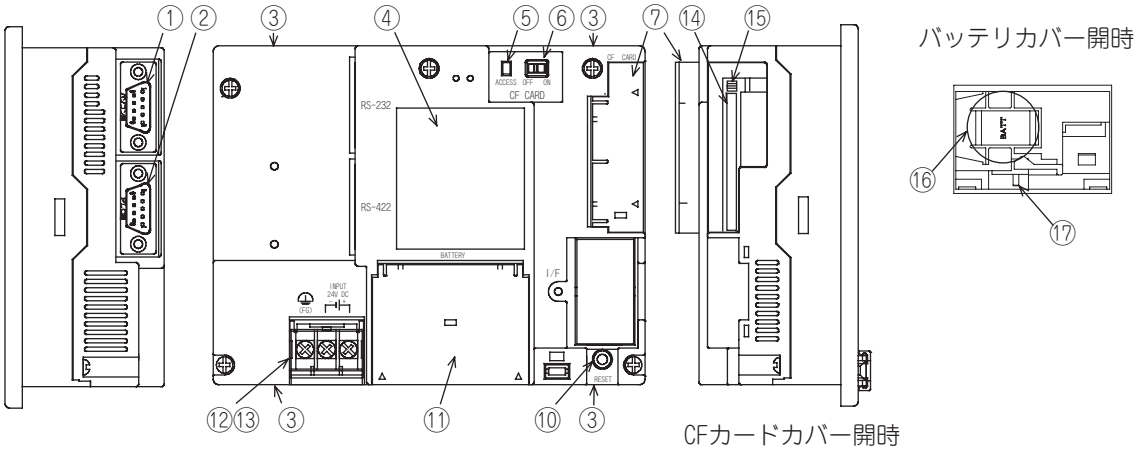
電源端子配列



• ハードウェアバージョン
GT1155-QTBD : B
GT1155-QSBD : E
GT1150-QLBD : D ～ E

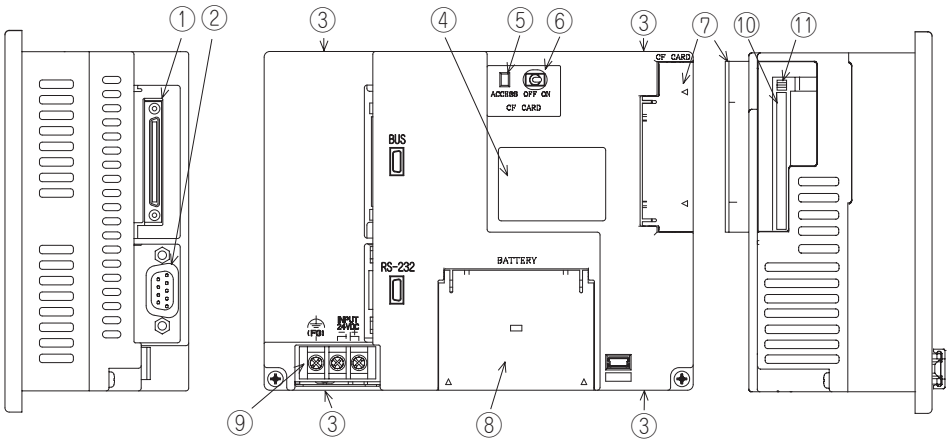


• シリアルマルチドロップ接続対応
GT1155-QTBD：C
GT1155-QSBD：F
GT1150-QLBD：F



No	名称	仕様
①	RS-232 インタフェース	接続機器（シーケンサ，マイコン，バーコードリーダ，RFID など）との接続，またはパソコン接続用（OS インストール，プロジェクトデータダウンロード，トランスペアレント）(D サブ 9pin オス)
②	RS-422 インタフェース	接続機器（シーケンサ，マイコンなど）との接続用 (D サブ 9pin メス)
③	ユニット固定金具用穴	GOT パネルに取付けるとき、取付け金具 (付属) を挿入する穴 (上下の 4 点)
④	定格名板 (ネームプレート)	−
⑤	CF カードアクセス LED	点灯：CF カードアクセス中，消灯：CF カード非アクセス時
⑥	CF カードアクセススイッチ	CF カードを GOT から抜き取る前に CF カードへのアクセスを禁止するスイッチ ON ：CF カードアクセス中 (CF カード抜取り禁止) OFF ：CF カード非アクセス (CF カード抜取り可能)
⑦	CF カードカバー	CF カード挿抜時に開閉
⑧	オプション機能ボード (オプション)	オプション機能使用時に接続
⑨	オプション機能ボードカバー	オプション機能ボード使用時は取外してください
⑩	リセットスイッチ	ハードウェアリセット用スイッチ (操作は , 絶縁棒で行ってください。)
⑪	バッテリカバー	バッテリ交換時に開閉
⑫	電源端子	電源端子 , FG 端子 (GOT への電源 (DC24V) の供給やアースの配線用)
⑬	電源端子カバー	電源端子接続時に開閉 (色：透明)
⑭	CF カードインタフェース	GOT に CF カードを装着するインタフェース
⑮	CF カードイジェクトボタン	CF カード取外しボタン
⑯	バッテリ	GT11-50BAT 形バッテリ 時計データ , アラーム履歴 , レシピデータ , タイムアクション設定値保存用。 (プロジェクトデータは内蔵のフラッシュメモリにより保存)
⑰	終端抵抗切換えスイッチ	RS422/485 の終端抵抗切換スイッチ (330Ω/OPEN/110Ω)（出荷時は 330Ω）

2 GT1155-QTBDQ，GT1155-QSBDQ，GT1150-QLBDQ，GT1155-QTBDA，GT1155-QSBDA，GT1150-QLBDA



No	名称	仕様
①	バスインタフェース	対応 GOT：GT1155-QTBDQ，GT1155-QSBDQ，GT1150-QLBDQ 用途　　：QCPU（Q モード）/ モーションコントローラ CPU（Q シリーズ）接続用
		対応 GOT：GT1155-QTBDA，GT1155-QSBDA，GT1150-QLBDA 用途　　：QnA/ACPU/ モーションコントローラ CPU（A シリーズ）接続用
②	RS-232 インタフェース	接続機器（バーコードリーダ，RFID）との接続，またはパソコン接続用（OS インストール，プロジェクトデータダウンロード，トランスペアレント）（D サブ 9pin オス ）
③	ユニット固定金具用穴	GOT パネルに取付けるとき、取付け金具 (付属) を挿入する穴 (上下の 4 点)
④	定格名板 (ネームプレート)	−
⑤	CF カードアクセス LED	点灯：CF カードアクセス中，消灯：CF カード非アクセス時
⑥	CF カードアクセススイッチ	CF カードを GOT から抜き取る前に CF カードへのアクセスを禁止するスイッチ ON　：CF カードアクセス中 (CF カード抜取り禁止) OFF ：CF カード非アクセス (CF カード抜取り可能)
⑦	CF カードカバー	CF カード挿抜時に開閉
⑧	バッテリカバー	バッテリ交換時に開閉
⑨	電源端子	電源端子 , FG 端子 (GOT への電源 (DC24V) の供給やアースの配線用)
⑩	CF カードインタフェース	GOT に CF カードを装着するインタフェース
⑪	CF カードイジェクトボタン	CF カード取外しボタン
⑫	バッテリ	GT11-50BAT 形バッテリ 時計データ , アラーム履歴 , レシピデータ , タイムアクション設定値保存用。 (プロジェクトデータは内蔵のフラッシュメモリにより保存)

5章　UL, cUL規格とEMC指令

5.1　UL, cUL 規格

■ GOT を使用する場合
GOT を組み込んだ機器を UL 申請する際は，タイプ 1 エンクロージャ の平面上に取り付けてください。

5.2　EMC 指令

欧州域内で発売されている製品に対しては，1996 年から欧州指令の一つである EMC 指令への適合証明が法的に義務づけられています。また，1997 年から欧州指令の一つである低電圧指令への適合も法的に義務づけられています。
EMC 指令および低電圧指令に適合していると製造者が認めるものは，製造者自らが適合宣言を行い，“CE マーク”を表示する必要があります。

- 本製品は一般工業環境下でご使用下さい。
- 製造業者、生産場所、EU 域内販売責任者は下記の通りです。

製造業者 : Mitsubishi Electric Corporation
住所 : 2-7-3 Marunouchi, Chiyoda-ku, Tokyo 100-8310 Japan

生産場所 : Mitsubishi Electric Corporation Himeji Works
住所 : 840 Chiyoda-machi, Himeji, Hyogo 670-8677 Japan

生産場所 : Mitsubishi Electric Corporation Nagoya Works
住所 : 1-14 Yada-minami 5-Chome, Higashi-ku, Nagoya 461-0048 Japan

EU 域内販売責任者 : Mitsubishi Electric Europe B.V.
住所 : Gothaer Str. 8, 40880 Ratingen, Germany.

5.2.1　EMC 指令適合のための要求

EMC 指令とは，「外部に強い電磁波を出さない：エミッション (電磁障害)」，「外部からの電磁波の影響を受けない：イミュニティ (電磁感受性)」を要求する指令です。
1 ～ 3 では，EMC指令適合のためにGOTを使用し，機械装置を構成する際の注意事項をまとめたものです。
なお，記述内容は弊社が得ている規制の要求事項や規格を基に最善を尽くして作成した資料ですが，本内容にしたがって製作された機械装置全体の上記指令への適合を保証するものではありません。EMC 指令への適合方法や適合の判断については，機械装置を製作するメーカ自身で最終判断する必要があります。

1 EMC 指令適合のための要求

タイプ：プログラマブルコントローラ（開放型機器）

規格		備考
EN61131-2：2007 プログラマブルコントローラ 装置への要求事項 及び試験	EMI	本製品に関連する項目を試験しています。 （放射ノイズ試験）
	EMS	本製品に関連する項目を試験しています。 （静電気イミュニティ試験，放射電磁界 AM 変調試験，ファーストトランジェントバースト試験，雷サージ試験，伝導妨害イミュニティ試験，電源周波数磁界イミュニティ試験）

対象製品：2005 年 4 月 1 日以降に製造された MELSEC GOT シリーズ製品
GT1155-QSBD，GT1150-QLBD
対象製品：2007 年 10 月 1 日以降に製造された MELSEC GOT シリーズ製品
GT1155-QTBD

規格		備考
EN61131-2：2007 プログラマブルコントローラ 装置への要求事項 及び試験	EMI	本製品に関連する項目を試験しています。 （放射ノイズ試験）
	EMS	本製品に関連する項目を試験しています。 （静電気イミュニティ試験，放射電磁界 AM 変調試験，ファーストトランジェントバースト試験，雷サージ試験，伝導妨害イミュニティ試験，電源周波数磁界イミュニティ試験）

対象製品：2008 年 1 月 7 日以降に製造された MELSEC GOT シリーズ製品
GT1155-QTBDQ，GT1155-QTBDA，GT1155-QSBDQ
GT1155-QSBDA，GT1150-QLBDQ，GT1150-QLBDA

詳細については，最寄りの三菱電機の支社にお問い合わせください。

2 制御盤

GOT は開放型機器（他の装置に組み込まれて使用される機器）であり，必ず制御盤に設置して使用する必要があります。これは，安全性の確保のみならず，GOT から発生するノイズを制御盤にて遮蔽する意味でも大きな効果があります。

(1) 制御盤

(a) 制御盤は導電性としてください。

(b) 制御盤の天板，底板などをボルトで固定するときは，面接触が図れるように接触面の塗装をしないでください。
また，扉と箱は高周波でも低インピーダンスが確保できるように太い接地線で接続してください。

(c) 制御盤内の内板は制御盤本体との電気的接触を確保するために，本体への取付ボルト部分の塗装をしないで，可能な限り広い面で導電性を確保してください。

(d) 制御盤本体は高周波でも低インピーダンスが確保できるよう太い接地線で大地に接地してください。

(e) 制御盤の穴は直径 10 cm以下となるようにしてください。10 cm以上の穴は電波が漏れる可能性があります。
また，制御盤扉と本体の間に隙間があると電波が漏れるため，極力隙間のない構造としてください。
なお，EMI ガスケットを塗装面上に直接貼って，隙間をふさぐことで電波の漏れを押さえることができます。

(2) 電源線，接地線のとりまわし

GOT の接地および電源供給線のとりまわしは以下に示すようにして行ってください。

(a) GOT の近くに制御盤への接地を可能にする接地点を設けて，GOT の FG 端子（FG：フレームグランド）を短絡し，可能な限り太く短い線（線長は 30 ㎝程度またはそれ以下）で接地してください。FG 端子は，シーケンサ内部で発生したノイズを大地に落とす役目をしていますので，可能な限り低インピーダンスを確保しておく必要があります。
また，ノイズを逃す役目をする以上その電線自体は大きなノイズを帯びたものであり，短く配線することはそれ自体がアンテナとなることを防ぐ意味を持っています。
注) 長い導体は，より効率の良いノイズを放射するアンテナとなります。

(3) 感電保護

オペレータ等，電気設備に関する十分な知識を有さない人間を感電の危険から保護するために，制御盤は下記の処置をする必要があります。

(a) 電気設備に関する教育を受け十分な知識を有する人間のみ制御盤を開けることができるよう，制御盤に鍵を掛ける。

(b) 制御盤を開ける事で，自動的に電源が遮断される構造にする。

(4) 防塵・防水

制御盤は防塵，防水の役目も持っています。防塵，防水が十分でないと絶縁耐圧が低下し，絶縁破壊が発生しやすくなります。弊社の GOT は，汚染度２を想定して絶縁設計されていますので，汚染度２以下の環境で使用してください。

汚染度１：乾燥し，導電性じんあいが発生しない環境。
汚染度２：導電性じんあいが通常発生しない環境。
ただし，時としてじんあいの堆積による一時的な導電が発生する環境。
一般的に工場内の制御室や工場フロアの制御盤内程度の環境。
汚染度３：導電性のじんあいが発生し，堆積による導電状態が発生し得る環境。
一般的な工場フロアの環境。
汚染度４：雨，雪等により継続的な導電状態が発生し得る環境。屋外環境。

3 接地

下記の接地端子があります。接地端子は接地した状態でご使用いただく必要があります。
なお，接地は安全確保および EMC 指令適合のため必ず接地してください。

機能接地 ⏚：機能接地端子は，耐ノイズ性を向上させる目的を持っています。

5.2.2 EMC 指令適合のためのシステム構成

EMC 指令が適合される接続状態，型名について以下に示します。

1 EMC 指令適合機種について

EMC 指令適合機種について以下に示します。

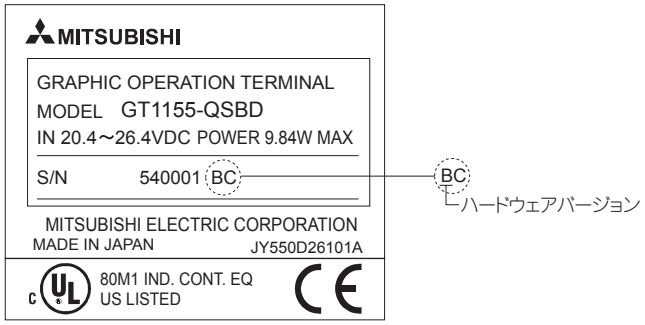
○：EMC 指令適合　　×：EMC 指令未適合

型名	EMC 指令	ハードウェアバージョン
GT1155-QTBD	○	A
GT1155-QSBD，GT1150-QLBD	○	B
GT1155-QTBDQ，GT1155-QTBDA，GT1155-QSBDQ， GT1155-QSBDA，GT1150-QLBDQ，GT1150-QLBDA	○	D

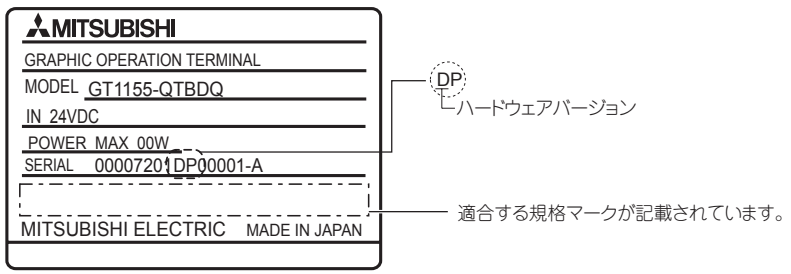
Point

上記ハードウェアバージョン以降の GOT を使用してください。
ハードウェアバージョンは，GOT 背面の定格銘板で確認してください。
（EMC 適合製品には，CE マークのロゴが印刷されています。）

(1) GT1155-QTBD，GT1155-QSBD，GT1150-QLBD の場合



(2) GT1155-QTBDQ，GT1155-QTBDA，GT1155-QSBDQ，GT1155-QSBDA，GT1150-QLBDQ，GT1150-QLBDA の場合



2 接続状態

GT11 が EMC 指令に適合している接続状態を下記に示します。

(1) GT1155-QTBD，GT1155-QSBD，GT1150-QLBD
接続状態：CPU 直接接続 (RS-422)

Point

当社シーケンサ（MELSEC-FX2N シリーズ）以外と接続する場合は，接続先（シーケンサ，マイコンなど）の EMC 指令適合についてのマニュアルを参照してください。

(2) GT1155-QTBDQ，GT1155-QTBDA，GT1155-QSBDQ，
GT1155-QSBDA，GT1150-QLBDQ，GT1150-QLBDA
接続状態：バス接続

5.2.3 EMC 指令適合品の配線 / 接続上の注意事項

下記に示す指示に従って GOT 設備を配線，接続してください。
下記に示す指示と異なる方法で GOT 設備を構成した場合，EMC 指令に適合しなくなる場合があります。

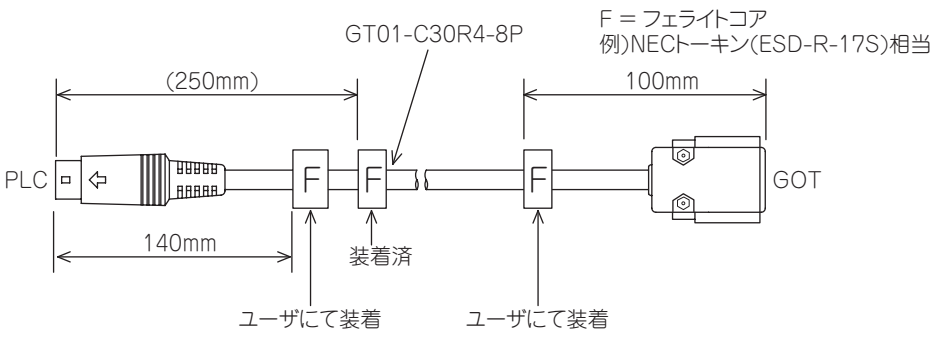
1 使用ケーブルについて

データ通信機能を利用する多くの機器は , 特定の EMC ノイズに広く影響を受けます。したがって通信ケーブルを取り付ける時 , ケーブルの引き回しや , 位置に注意する必要があります。
下記に示す通信ケーブルを使用した場合，前ページ記載の GOT は，EMC 指令に適合します。

(1) シリアル接続時

GOT	既存ケーブル	ユーザ作成ケーブル
GT1155-QTBD GT1155-QSBD GT1150-QLBD	例 1 に合わせ GT01-C30R4-8P を変更します。	ケーブルが GOT と FX2N シーケンサに使用される場合，EMC の互換性をユーザにてテストする必要があります。

例 1



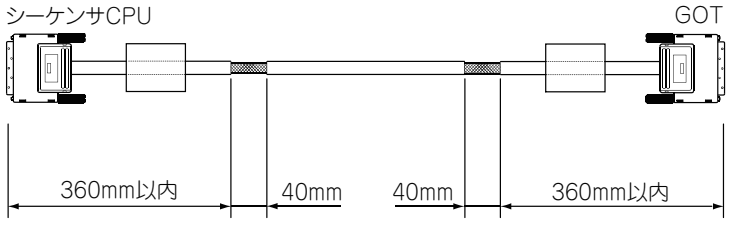
(2) バス接続時

弊社にて EMC 指令適合試験を行ったときに使用した製品を下記に示します。

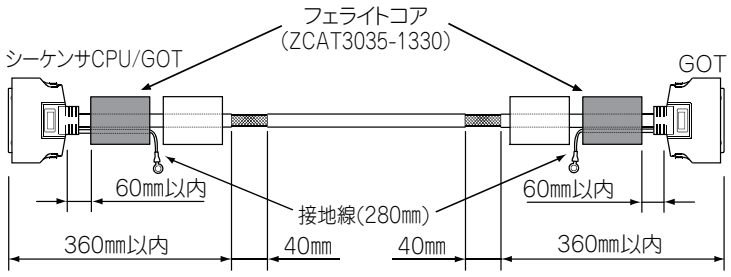
- TDK 株式会社製 ZCAT3035-1330 フェライトコア
- 三菱電機株式会社製 AD75CK 形ケーブルクランプ
- 日本ジッパーチュービング株式会社製 ジッパーチューブ SHNJ タイプ

GOT	既存ケーブル	ユーザ作成ケーブル
GT1155-QTBDQ GT1155-QSBDQ GT1150-QLBDQ	例 2 に合わせ GT15-QC □ B，GT15-QC □ BS を変更します。 ケーブル両端の被膜をむいて，接地用シールド編組を露出してください。（ 3 ケーブルの接地参照）	ケーブルが GOT と MELSEC-Q シリーズ，MELSEC-QnA シリーズ，MELSEC-A シリーズシーケンサに使用される場合，EMC の互換性をユーザにてテストする必要があります。
GT1155-QTBDA GT1155-QSBDA GT1150-QLBDA	例 3 に合わせ GT15-C □ BS，GT15-C □ EXSS-S1 を変更します。 ケーブル両端の被膜をむいて，接地用シールド編組を露出してください。（ 3 ケーブルの接地参照）	
	GT15-C □ BS，GT15-C □ EXSS-S1 以外のバス接続ケーブルを使用する場合，例 4 に合わせケーブルを作成します。 ケーブルにケーブルシールド材を巻いて，ケーブルシールド材の接地用編組線を引き出してください。 ケーブルの指定の位置にフェライトコアを装着し，シーケンサ側の接地用編組線をフェライトコアに通してください。	

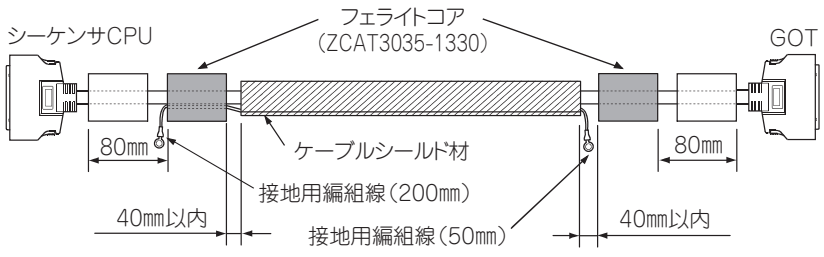
例 2



例 3



例 4



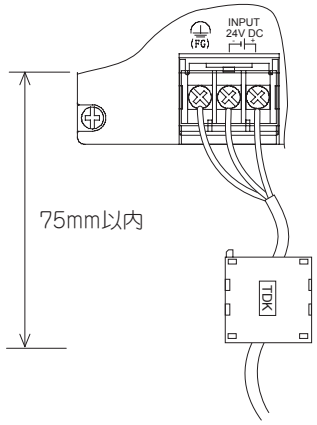
2 電源線，接地線の配線方法

(1) GT1155-QTBD，GT1155-QSBD，GT1150-QLBD

GT1155-QTBD，GT1155-QSBD，GT1150-QLBD には，DC24V ケーブルにフェライトフィルタを装着してください。フィルタは下図のように，電源ケーブルをフィルタで囲むように装着してください。

フェライトは，TDK ZCAT3035-1330 相当品を推奨します。

フェライトは，GT1155-QTBD，GT1155-QSBD，GT1150-QLBD の DC24V 端子台のできるだけ近い位置に装着してください。（GOT 端子台から 75mm 以内）



(2) GT1155-QTBDQ，GT1155-QTBDA，GT1155-QSBDQ，GT1155-QSBDA，GT1150-QLBDQ，GT1150-QLBDA

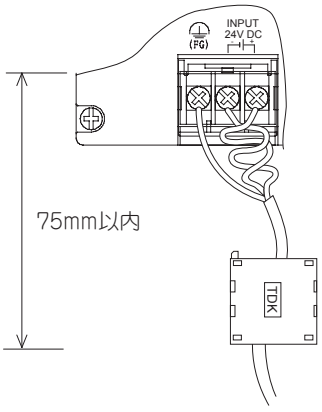
GT1155-QTBDQ，GT1155-QTBDA，GT1155-QSBDQ，GT1155-QSBDA，GT1150-QLBDQ，GT1150-QLBDA には，DC24V ケーブルをツイストした上で接続してください。

DC24V ケーブルにフェライトフィルタを装着してください。

フィルタは下図のように，電源ケーブルをフィルタで囲むように装着してください。

フェライトは，TDK ZCAT3035-1330 相当品を推奨します。

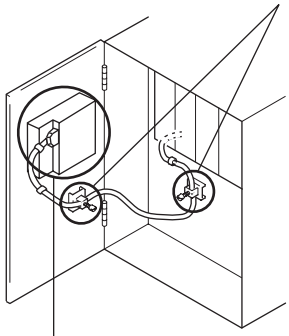
フェライトは，GT1155-QTBDQ，GT1155-QTBDA，GT1155-QSBDQ，GT1155-QSBDA，GT1150-QLBDQ，GT1150-QLBDA の DC24V 端子台のできるだけ近い位置に装着してください。（GOT 端子台から 75mm 以内）

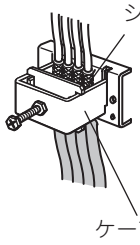


3 ケーブルの接地

バス接続用ケーブルを使用する場合，ケーブルおよび接地線は，GOT, ベースユニットを設置する制御盤に接地してください。

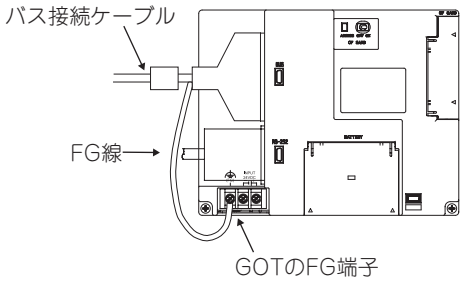
(1) ケーブルはシールド編組をケーブルクランプ(AD75CK)にて盤に接地してください。





ケーブルクランプの取付け詳細は，AD75CK形ケーブルクランプ取扱説明書<IB-68682>を参照してください。

(a) GT15-C□EXSS-1，GT15-C□BSの場合
接地線はGOT電源部のFG端子に接地してください。



(b) その他のバス接続ケーブルの場合
接地用編組線は，ネジ止めにて盤に接地してください。

6章　取付け

取付け上の注意事項　**⚠警告**

- GOT 本体を盤に取付け，取りはずす場合は，必ずシステムで使用している外部供給電源を全相遮断してから行ってください。
  全相遮断しないと，ユニットの故障や誤動作の原因になります。
- オプション機能ボードを GOT に着脱する場合は，必ずシステムで使用している外部供給電源を全相遮断してから行ってください。
  全相遮断しないと，ユニットの故障や誤動作の原因になります。
- オプション機能ボードやバッテリの取付け，リセットスイッチの操作を行う場合は，静電気による破壊を防ぐためアースバンドなどを着用してください。
  静電気によりユニットの故障や誤動作の原因になります。

取付け上の注意事項　**⚠注意**

- GOT は本マニュアル記載の一般仕様の環境で使用してください。
  一般仕様の範囲以外の環境で使用すると，感電，火災，誤動作，製品の損傷あるいは劣化の原因になります。
- GOT 本体を盤に取付け時，取付けネジの締付けは，規定トルク範囲で行ってください。
  取付けネジの締付けがゆるいと，落下，短絡，誤動作の原因になります。
  また，防水・防油効果が得られない場合があります。
  取付けネジを締めすぎると，ネジやユニットの破損による落下，短絡，誤動作の原因になります。
  また，GOT・パネルの " ゆがみ " により，防水・防油効果が得られない場合があります。
- オプション機能ボードは，オプション機能ボードのコネクタへ確実に装着して下さい。
- CF カードを GOT に着脱する場合は，メモリカードアクセススイッチを OFF 状態にしてから行ってください。
  OFF 状態にしないと，CF カード内のデータが壊れる原因になります。
- GOT 本体に，CF カードを装着するときは，GOT 装着部に挿入し，CF カードイジェクトボタンが浮き上がるまで押し込んでください。
  接触不良により，誤動作の原因になります。
- CF カードを取出す場合は，CF カードが飛び出す場合がありますので，手で支えて取り出してください。
  手で支えて取出さないと，落下による CF カードの破損，故障の原因になります。

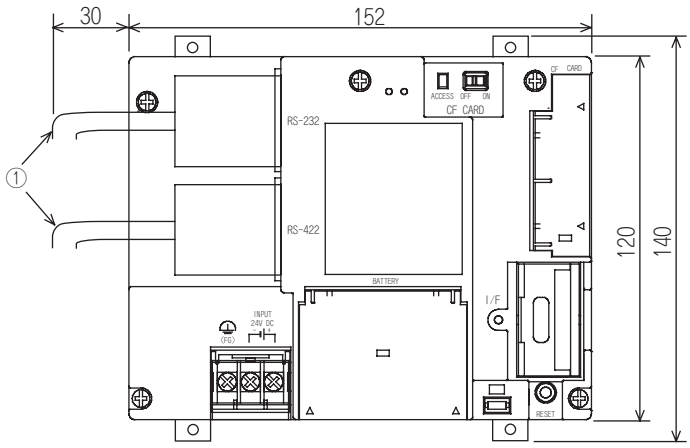
6.1 取付け時の盤内必要寸法

GOT を取付けるとき，下記盤内寸法を考慮し，取付けを行ってください。
（縦表示時は表示部から見て時計方向に 90 度回転した寸法が必要です。）

Point 接続ケーブルについて

GOT に取付ける接続ケーブルの種類によっては，記載されている寸法以上の距離が必要になる場合があります。コネクタの寸法やケーブル曲げ半径を考慮して設置してください。

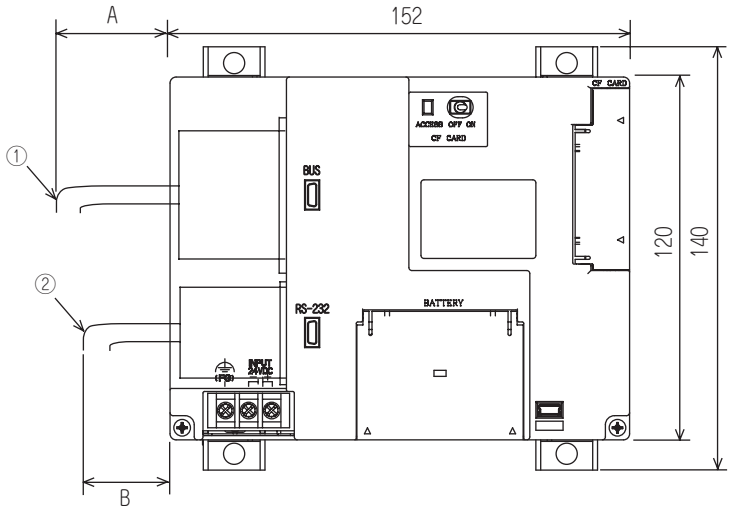
1 GT1155-QTBD，GT1155-QSBD，GT1150-QLBD



単位 mm

No	名称
①	シーケンサ接続ケーブル / パソコン接続ケーブル

2 GT1155-QTBDQ，GT1155-QSBDQ，GT1150-QLBDQ，GT1155-QTBDA，GT1155-QSBDA，GT1150-QLBDA



種類	A	B
GT1155-QTBDQ GT1155-QSBDQ GT1150-QLBDQ	56	40
GT1155-QTBDA GT1155-QSBDA GT1150-QLBDA	38	40

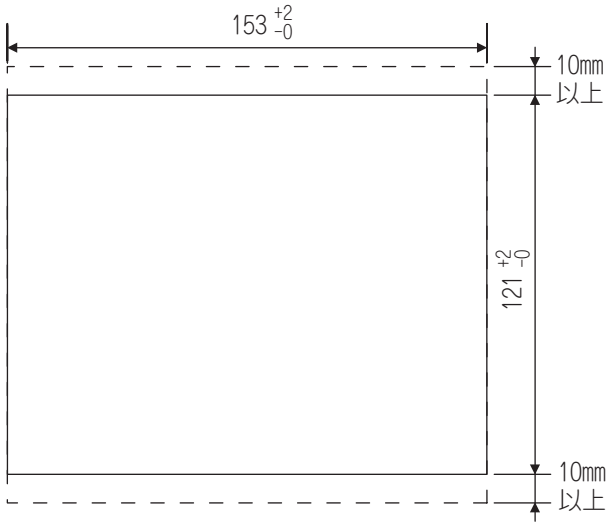
単位 mm

No	名称
①	バス接続ケーブル
②	パソコン接続ケーブル / バーコード接続ケーブル /RFID 接続ケーブル

6.2 パネルカット寸法

パネル面に下記寸法で取付け穴を空けてください。
このとき，上下に 10mm ずつ取付け金具分のスペースが必要となります。

横表示時（縦表示時は 90 度回転した寸法になります。）



単位mm

種類	パネル厚
GT1155-QTBD GT1155-QSBD GT1150-QLBD	2 ～ 4mm 以内
GT1155-QTBDQ GT1155-QSBDQ GT1150-QLBDQ GT1155-QTBDA GT1155-QSBDA GT1150-QLBDA	

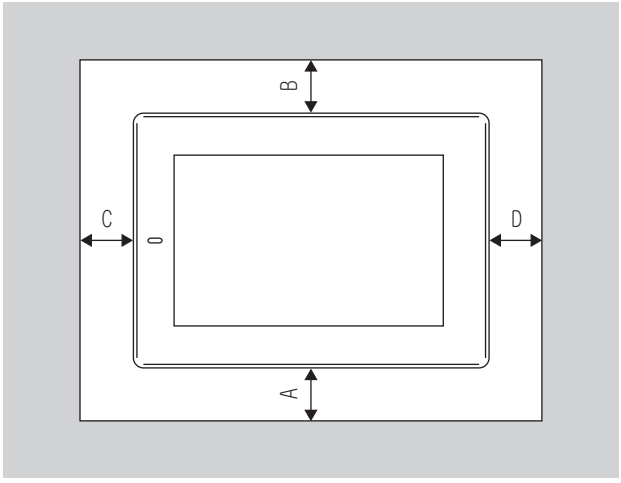
6.3 取付け位置

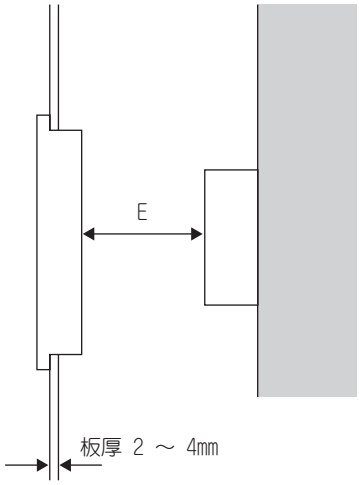
GOT を取付ける場合，下図のように構造物や他の機器からの距離が必要です。

横表示時（縦表示時は表示部から見て時計方向に 90 度回転した距離が必要です。）

条件	A，D	B	C		E
			CF カード 未使用時	CF カード 使用時	
放射ノイズを発生する機器や発熱する機器が周囲にある場合	50mm 以上	80mm 以上 *1	50mm 以上 *2	100mm 以上	100mm 以上
放射ノイズを発生する機器や発熱する機器が周囲にない場合	20mm 以上	20mm 以上	20mm 以上		20mm 以上

＊1：縦置きの場合は 50mm 以上
＊2：縦置きの場合は 80mm 以上



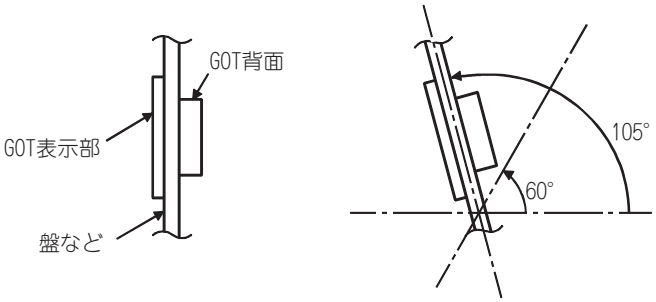


6.4 盤内温度と取付け角度

制御盤などへの本体の取付けは，表示部が下図となるようにしてください。

1 横置き時

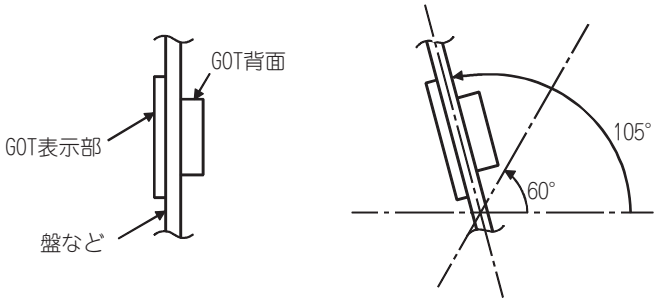
盤内温度 40 ～ 55 ℃の場合の取付け角度は 60 ˚ ～ 105 ˚ の範囲で行ってください。



- 上記以外の取付け角度で使用すると，GOT の劣化を早めることになります。
  盤内温度を 0 ～ 40 ℃にしてください。

2 縦置き時

盤内温度 40 ～ 50 ℃の場合の取付け角度は 60 ˚ ～ 105 ˚ の範囲で行ってください。



- 上記以外の取付け角度で使用すると，GOT の劣化を早めることになります。
  盤内温度を 0 ～ 40 ℃にしてください。

6.5 取付け手順

GOT はパネル埋込み方式になっています。
次の手順で取付けを行ってください。

Point **取付けパネルについてのご注意**

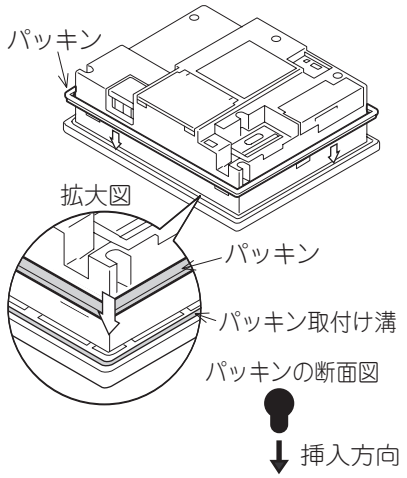
パネルカット寸法とパネル厚範囲は「6.2 節 パネルカット寸法」を参照してください。

パネル面には反り，傷，凸凹がないようにしてください。反り，傷，凸凹があると防水効果が得られない場合があります。
また，パネル厚については，パネル強度を考慮して選定してください。
（例えば，パネル厚が範囲内にあっても，パネルの材質や大きさによって強度が不足することがあります。パネルの強度が不足すると，GOT やその他機器の取付け位置などにより，パネルが反る場合があります。）

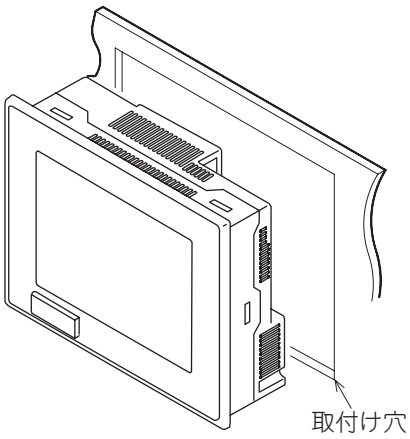
1 パッキンの取付け

(1) **GT1155-QTBD，GT1155-QSBD，GT1150-QLBD の場合**
GOT 背面のパッキン取付け溝にパッキンを取付けます。
右記パッキンの断面図を参考に，細い方をパッキン取付け溝に押し込んでください。
（右記は横表示時の例です。）

(2) **GT1155-QTBDQ，GT1155-QSBDQ，GT1150-QLBDQ，GT1155-QTBDA，GT1155-QSBDA，GT1150-QLBDA の場合**
パッキンは装着された状態で出荷されています。パッキンの取付けは不要です。



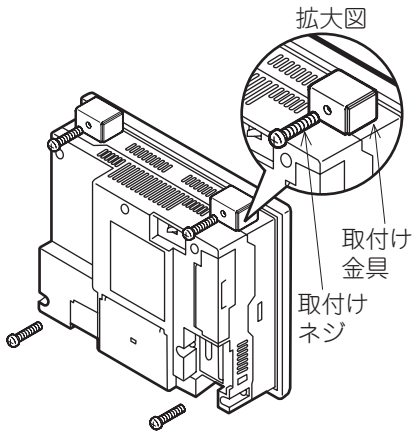
2 パネル面への挿入
GOT をパネル面の正面から挿入してください。



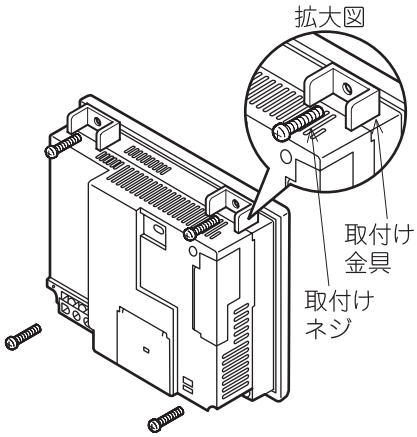
3 GOT の固定

GOT のユニット固定用穴に取付け金具 (付属) のフックを引っ掛け , 取付けボルト (付属) で固定されるまでネジを締めます。

GOT の取付けは，上下の 4 点で固定できます。



GT1155-QTBD，GT1155-QSBD，
GT1150-QLBD の場合



GT1155-QTBDQ，GT1155-QTBDA，
GT1155-QSBDQ，GT1155-QSBDA，
GT1150-QLBDQ，GT1150-QLBDA の場合

Point

取付け時のご注意

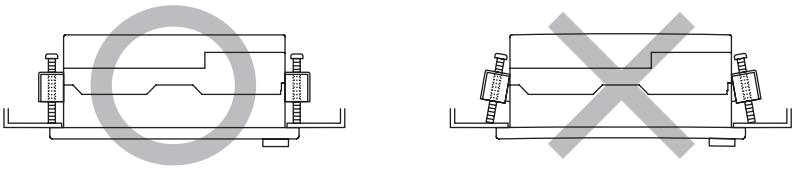
取付けネジは，規定トルクで締付けてください。

取付けネジの締付けがゆるいと，落下の原因になります。また，防水・防油効果が得られない場合があります。

規定トルク範囲以上で締め付けると，ユニットが破損したり，パネルの " ゆがみ " により , 表示部の表面に " しわ " が発生し，視認性低下やタッチパネルの誤入力をまねく恐れがあります。

また，防水・防油効果が得られない場合があります。

GOT	GT1155-QTBD，GT1155-QSBD GT1150-QLBD	GT1155-QTBDQ，GT1155-QTBDA GT1155-QSBDQ，GT1155-QSBDA GT1150-QLBDQ，GT1150-QLBDA
締付けトルク	0.3 ～ 0.5N・m	0.36 ～ 0.48N・m



4 GOT は工場出荷時，表示部に保護用のフィルムを貼り付けています。
取付けが完了した時点でフィルムをはがしてください。

7章　配線

配線上の注意事項

⚠警告

- 配線作業は，必ずシステムで使用している外部供給電源を全相遮断してから行ってください。
  全相遮断しないと，感電，製品の損傷，誤動作の恐れがあります。
- GOT 電源部の FG 端子は，GOT 専用の D 種接地（第三種接地）以上で必ず接地を行ってください。
  感電，誤動作の恐れがあります。
- GOT の電源配線は，製品の定格電圧および端子配列を確認した上で正しく行ってください。
  定格と異なった電源を接続したり，誤配線をすると，火災，故障の原因になります。
- GOT 電源部の端子ネジの締付けは，規定トルク範囲で行ってください。
  端子ネジの締付けがゆるいと短絡，誤動作の原因になります。
  端子ネジを締めすぎると，ネジやユニットの破損による短絡，誤動作の原因になります。
- ユニット内に，切粉や配線クズなどの異物が入らないように注意してください。
  火災，故障，誤動作の原因になります。

配線上の注意事項

⚠注意

- 通信ケーブルは，接続するコネクタに装着し，取付けネジおよび端子ネジを規定トルク範囲で締め付けてください。
  取付けネジおよび端子ネジの締付けがゆるいと短絡，誤動作の原因になります。
  取付けネジおよび端子ネジを締めすぎると，ネジやユニットの破損による短絡，誤動作の原因になります。

本章では GOT 電源部への配線を説明しています。
接続機器との接続に関しては，下記を参照してください。

☞ GOT1000 シリーズ接続マニュアル

接続ケーブルの外形寸法図に関しては，下記を参照してください。

☞ 付 .1　外形寸法図

備　考

一般的なノイズ対策の考え方

ノイズには空間を伝わる放射ノイズと接続線から直接伝わる伝播ノイズがあり，両方を考慮した対策が必要です。
対策には下記の 3 種類があります。

(1) ノイズを進入させない

（a）ノイズ源となる動力線や高出力の駆動回路から信号線を離す。

（b）信号線をシールドする。

(2) 発生ノイズを低減する

（a）高出力のモータ駆動回路などから発生するノイズをノイズフィルタなどで小さくする。

（b）配線用遮断器，電磁接触器，リレー，電磁弁，誘導発電機などの端子部にサージキラーを装着してノイズを抑える。

(3) ノイズを確実に大地へ逃がす

（a）接地線を確実に大地と接地する。

（b）接地線を太く短いものとし，接地線の接地抵抗を下げる。

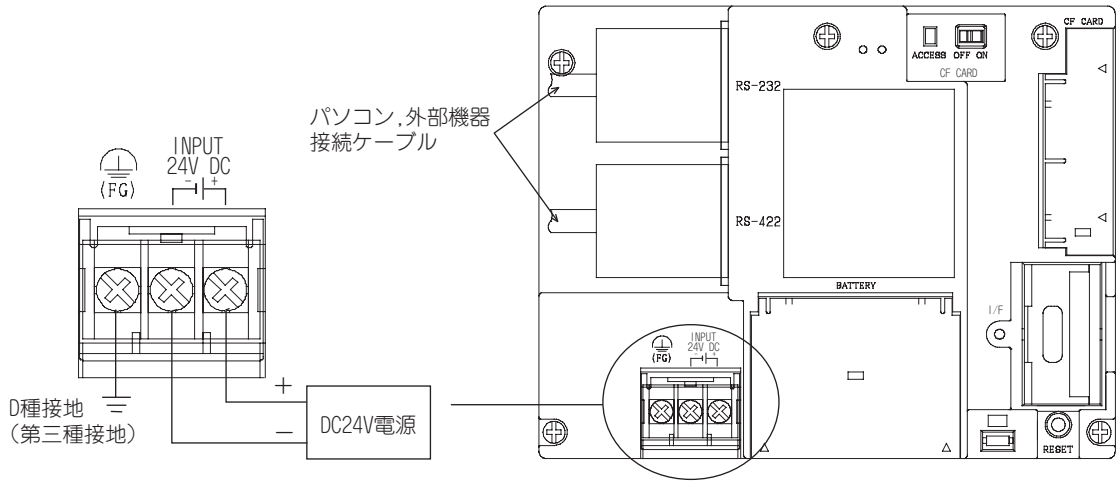
（c）動力系と制御系の接地を分離する。

7.1 電源配線

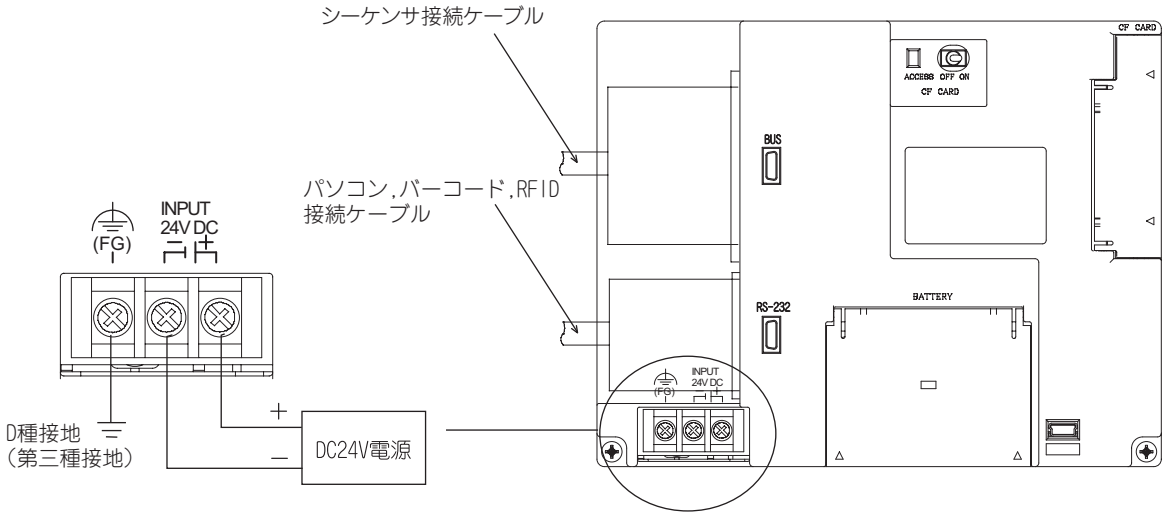
7.1.1 配線例

GOT 背面の電源端子へ電源を接続してください。
電源の配線は電圧降下が生じないよう，0.75mm^2 以上の電線を使用し，端子ネジは規定のトルクで確実に締め付けてください。

1 GT1155-QTBD，GT1155-QSBD，GT1150-QLBD



2 GT1155-QTBDQ，GT1155-QSBDQ，GT1150-QLBDQ，GT1155-QTBDA，GT1155-QSBDA，GT1150-QLBDA

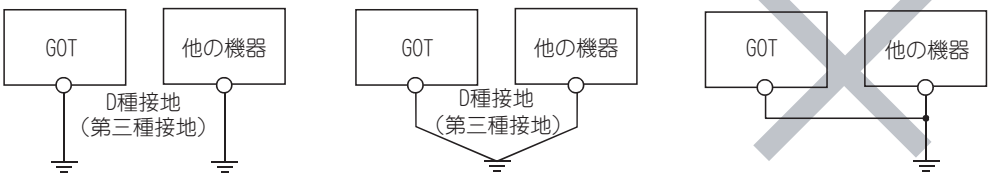


7.1.2 GOT の接地

1 接地について

接地は下記の 3 項目を実施してください。

- 接地はできるだけ専用接地としてください。
  接地工事は D 種接地（第三種接地）です。（接地抵抗を 100Ω 以下としてください。）
- 専用接地がとれないときは，下図の「(2) 共用接地」としてください。

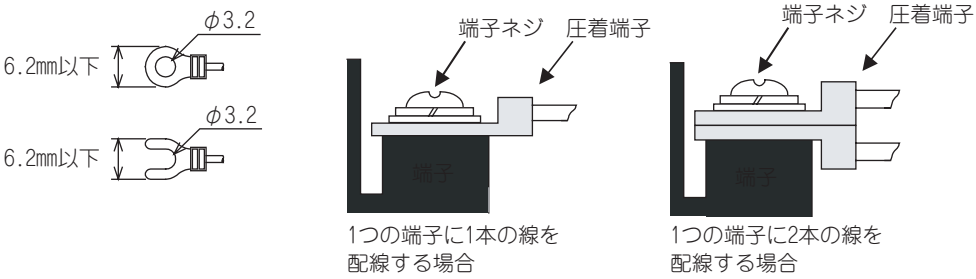


(1) 専用接地……最良　　(2) 共用接地……良　　(3) 共通接地……不可

- 接地用の電線は 2mm^2 以上を使用してください。
  接地点はできるだけ GOT の近くとし，接地線の距離を短くしてください。

2 推奨端子形状について

- 端子の締付トルクは 0.5 ～ 0.8N・m とし，誤作動の原因とならないように確実に締めてください。
  規定以上のトルクで端子ネジを締め付けないでください。故障，誤動作の原因となります。



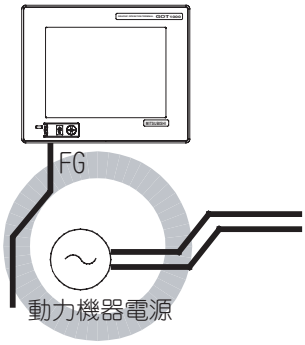
電線サイズ	電源用 : 0.75mm^2 以上　　接地用 : 2mm^2 以上
圧着端子	M3 用圧着端子 (適合圧着端子 : RAV 1.25-3, V2-N3A, FV2-N3A)
締付けトルク	0.5 ～ 0.8N・m

7.1.3 配線が関係する誤動作の原因と対策事例

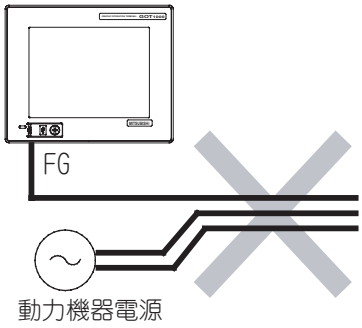
GOT を接地したときの誤動作の原因として，配置による接地間の電位差，ノイズの影響などがあります。電位差やノイズに関しては，以下の対策を行うことにより効果が得られるばあいがあります。

1 GOT の接地線と動力線の配線

GOT の接地線と動力線を束線すると，ノイズにより誤動作することがあります。
GOT の接地線と動力線を離して配線すると，ノイズの影響を受けにくくなります



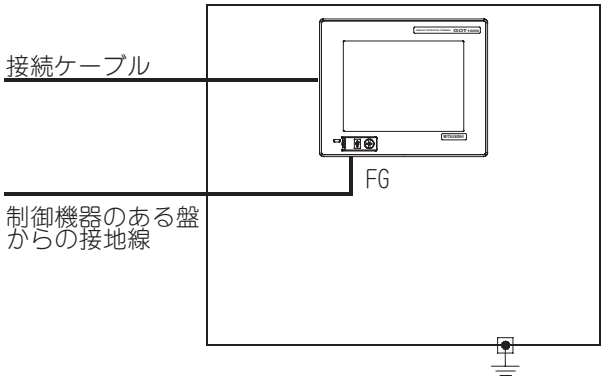
良い例：接地線と電源線を離して配線している



悪い例：接地線と電源線を束線している

2 制御機器が設置されている盤から，GOT が接地されている盤に接地線を引き込む場合

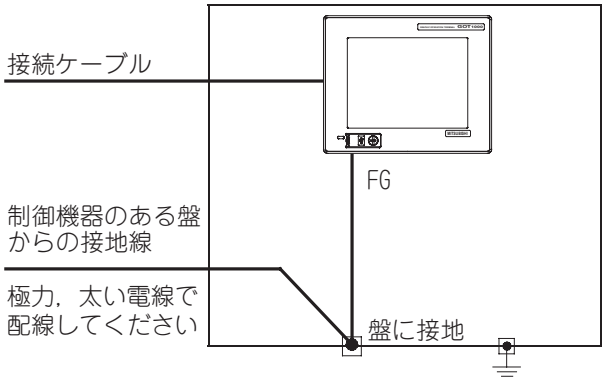
シーケンサなどの制御機器が設置されている盤から，GOT が接地されている盤に接地線を 1 本で引き込むばあい，配線上の都合により，直接 GOT の端子台に接続しなければならないことがあります。



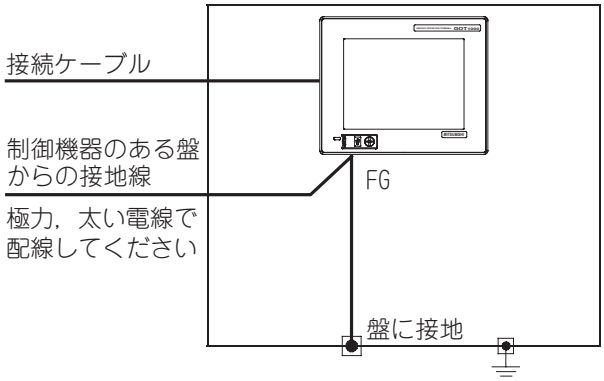
この場合に発生する接地間の電位差による誤動作は，次に示す対策事例 1 により電圧を下げることで効果が得られるばあいがあります。

• 対策事例 1（ 下図，対策事例 1-1，1-2 参照 ）

接地線と GOT が設置されている盤との間に電位差が生じ，その影響を受けているばあいには，接地線を GOT が設置されている盤にも接続してください。
配線できないなど，1-1 に示す方法が困難なばあいは，1-2 に示すような配線を行ってください。



対策事例1-1

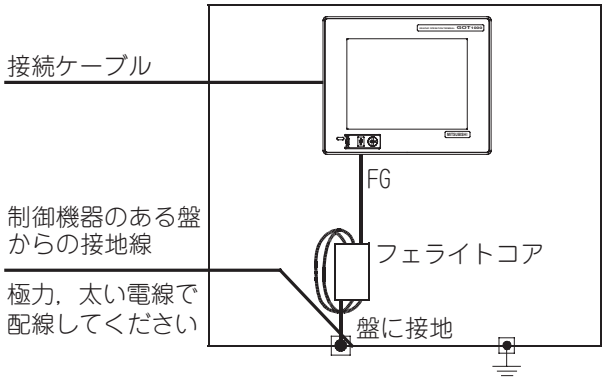


対策事例1-2

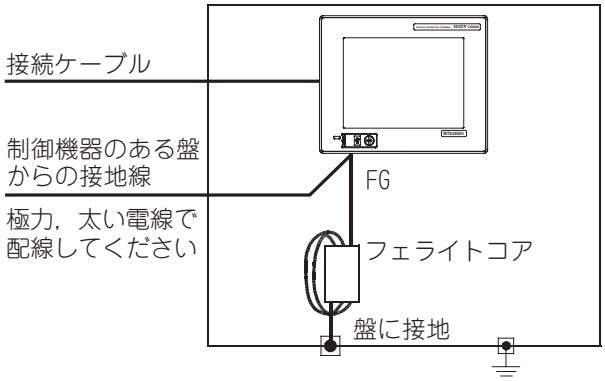
対策事例 1 を行うことでさらにノイズの影響を受けてしまうばあいは，対策事例２によりノイズの影響が低減するばあいがあります。

• 対策事例２（ 下図，対策事例 2-1，2-2 参照 ）

対策事例 1 を行っても，GOT 盤より発生するノイズが逆に GOT へ悪影響を与えるばあいには，フェライトコアを取り付けてください。
フェライトコアを取り付ける場合，内側を複数回（3 回程度）通してください。
配線できないなど，2-1 に示す方法が困難なばあいは，2-2 に示すような配線を行ってください。



対策事例2-1



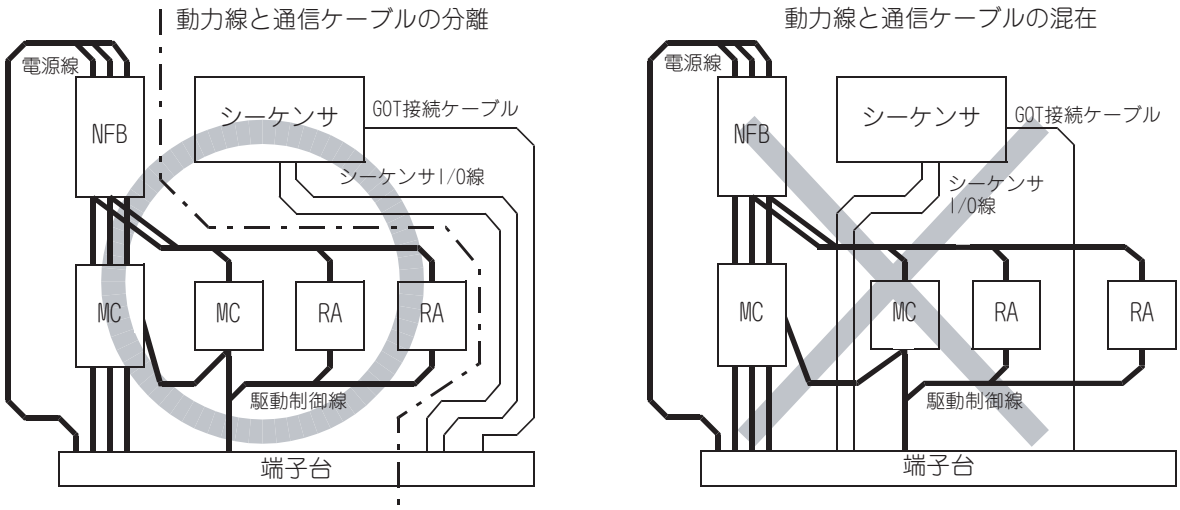
対策事例2-2

7.2 盤内配線，盤外配線

7.2.1 盤内配線

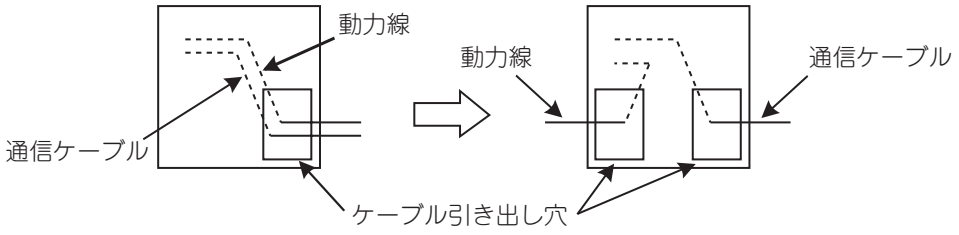
下図のように電源配線やサーボアンプ駆動線などの動力線と，通信ケーブルは，混在しないように配線してください。
動力線と通信ケーブルが混在した配線にすると，ノイズの影響で誤動作する場合があります。
また，配線用遮断器（NFB），電磁接触器（MC），リレー（RA），電磁弁，誘導電動機などサージノイズが発生する機器を使用する場合には，サージキラーが有効です。
サージキラーについては，下記を参照してください。

☞ 7.2.3 項　制御機器にサージキラーを取り付ける

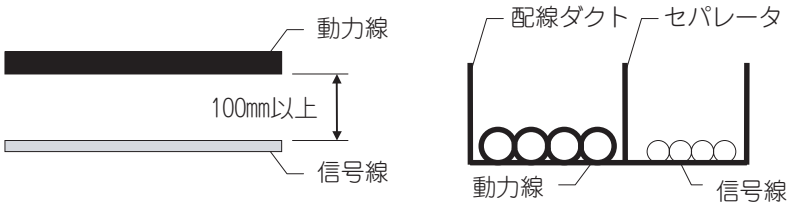


7.2.2 盤外配線

動力線と通信ケーブルを盤の外に出す場合，離した位置２箇所にケーブル引出し穴を開けて，別々に出してください。
配線の都合上，同じケーブル引出し穴から出す場合は，ノイズの影響を受けやすくなります。



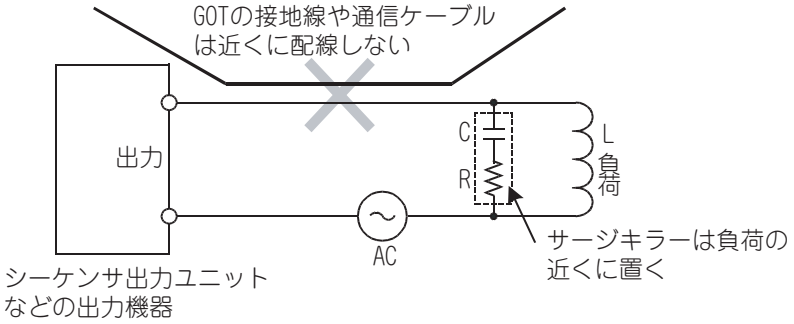
ダクト内の動力線と通信ケーブルは 100mm 以上離してください。
配線の都合上，近接する場合，ダクト内にセパレータ（金属製）を使用すると，ノイズの影響を受けにくくすることができます。



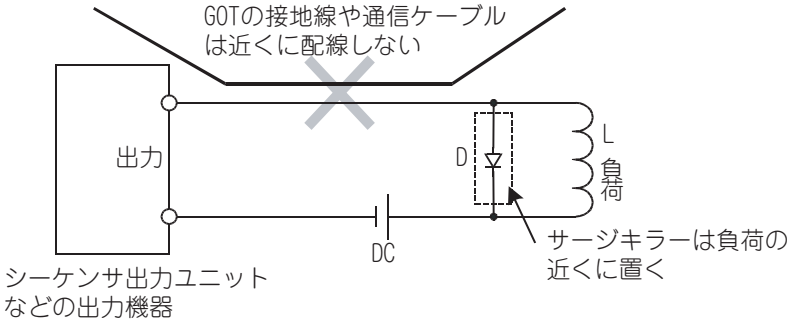
7.2.3　制御機器にサージキラーを取り付ける

GOT が配線用遮断器，電磁接触器，リレー，電磁弁，誘導電動機など特定の制御機器（以下，負荷と略します）の ON，OFF 時と同期して，通信エラーなどの動作不良になる場合，サージノイズの影響を受けている可能性があります。
この場合，接地線や通信ケーブルを負荷から離してください。
やむを得ず，接地線や通信ケーブルを負荷の近くに配線する場合，サージキラーを取り付けると効果的です。
サージキラーは，負荷に最も近い位置に取り付けてください。

交流誘導負荷の対策



直流誘導負荷の対策



7.2.4　バス接続ケーブルの FG 線の配線

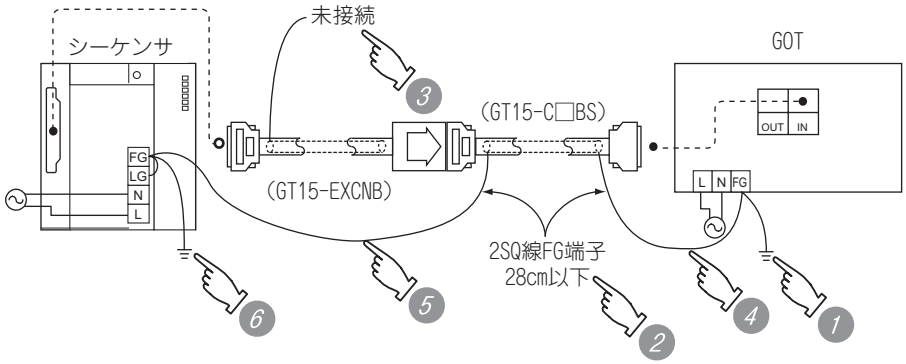
1 QCPU，モーションコントローラ CPU（Q シリーズ）と GOT を接続する場合

QCPU，モーションコントローラ CPU（Q シリーズ）へ接続するケーブルには，FG 線はありませんので FG 線の接地は不要です。

2 QnACPU，ACPU，モーションコントローラ CPU（A シリーズ）と GOT を接続する場合

GT15-C □ EXSS-1，GT15-C □ BS を使用する場合は，下記のように接地してください。

(1) GT15-C □ EXSS-1 の場合



1 GOT 本体電源の FG を接地します。

2 GT15-C □ BS の FG 線は，28cm 以下で配線します。

3 GT15-EXCNB の FG 接地線は，接続しません。

4 GOT 側の GT15-C □ BS の FG 線は，GOT 本体の電源端子台 FG へ接続します。

5 シーケンサ側の GT15-C □ BS の FG 線は，シーケンサの電源ユニット FG へ接続します。

6 シーケンサの LG/FG を端子台で接続して，1 本の線で接地します。

(2) GT15-C □ BS の場合

両側の GOT で，上記 (1) の GOT 側の接地を行ってください。

8章　オプション機器

8.1　CF カードについて

CF カードは，OS，プロジェクトデータの転送およびアラーム履歴機能のデータ格納を行うために使用します。
詳細は，下記を参照してください。

☞13 章　ファイルの表示とコピー （プログラム / データ管理）

8.1.1　CF カードの種類

GT11 □□で使用できる CF カードには下記の種類があります。

形名	仕様
GT05-MEM-128MC	フラッシュ ROM　128MB
GT05-MEM-256MC	フラッシュ ROM　256MB
GT05-MEM-512MC	フラッシュ ROM　512MB
GT05-MEM-1GC	フラッシュ ROM　1GB
GT05-MEM-2GC	フラッシュ ROM　2GB
－	市販品の CF カード*1

＊1：弊社にて動作確認した一部機種が使用できます。
動作確認機種については，別資料の「GOT1000 シリーズ動作確認機器一覧」(PLC-D-498) を参照願います。
上記テクニカルニュースは三菱電機 FA 機器技術情報サービス MELFANSweb ホームページでも参照することができます。
(MELFANSweb ホームページ：http://www.MitsubishiElectric.co.jp/melfansweb)

Point

GOT-A900 シリーズのフラッシュ PC カードについて

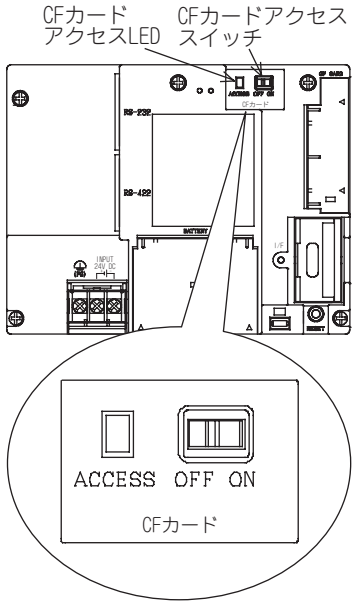
GT11 □□では，GOT-A900 シリーズ用フラッシュ PC カードを使用することはできません。
必ず，上記の CF カードを使用してください。

8.1.2 CF カードの着脱方法

CF カードの着脱は，GOT の電源が OFF の状態，または CF カードアクセススイッチを“OFF”にした状態で行ってください。

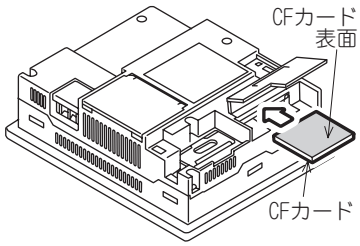
1 取付け

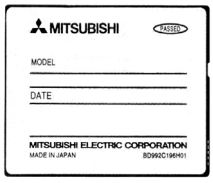
1 GOT の CF カードアクセススイッチを“OFF”にしてください。
CF カードアクセス LED が消灯するのを確認してください。
CF カードアクセス LED が消灯すれば，GOT の電源 ON 中でも CF カードの着脱が可能な状態です。



GT1155-QTBD,GT1155-QSBD,
GT1150-QLBDの場合

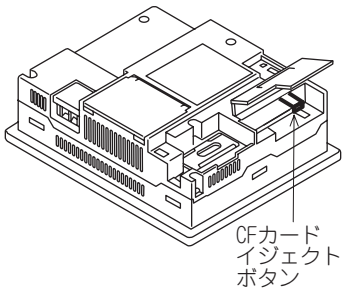
2 GOT に CF カードを装着する場合は，CF カードの表面を外側に向けて CF カードインタフェースに挿入してください。
CF カードは，CF カードイジェクトボタンが浮き上がるまで押し込んでください。





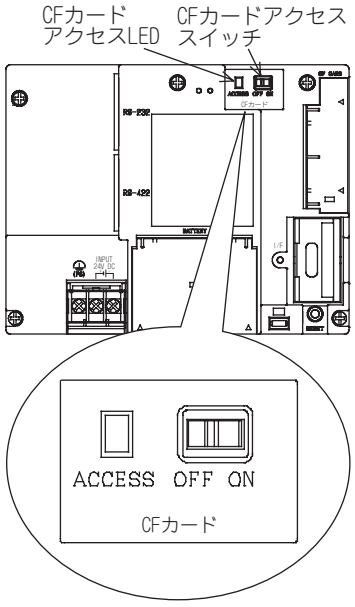
CFカード表面

3 CF カードアクセススイッチを“ON”にしてください。
CF カードアクセススイッチが "ON" の状態で CF カードが使用可能になります。



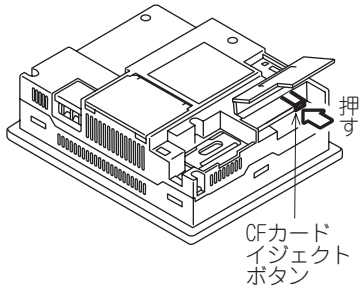
2 取外し

1 GOT の CF カードアクセススイッチを“OFF”にしてください。
CF カードアクセス LED が消灯するのを確認してください。
CF カードアクセス LED が消灯すれば，GOT の電源 ON 中でも CF カードの着脱が可能な状態です。



GT1155-QTBD,GT1155-QSBD,
GT1150-QLBDの場合

2 GOT の CF カードイジェクトボタンを押し込み，CF カードを押し出してから取外してください。



Point

CF カード取外し時の注意

(1) CF カードアクセス LED 点灯中は，CF カードを抜いたり，GOT の電源を OFF にしないでください。
データの破損や誤動作の原因となります。

(2) CF カードを取り出す場合は，CF カードが飛び出すことがありますので，手で支えて取り出してください。
手で支えて取り出さないと，落下による CF カードの破損，故障の原因となります。

8.2 メモリカードアダプタについて

メモリカードアダプタは，CF カードをメモリカード（Type Ⅱ）に変換するために使用します。
PCMCIA インタフェースが搭載されたパソコンに取付けて，パソコンから OS，プロジェクトデータを CF カードに書き込んだり，CF カード内のアラーム履歴データをパソコンに読出すことができます。
CF カードに関する詳細は，下記を参照してください。

☞8.1 節 CF カードについて

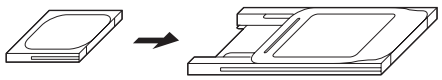
8.2.1 メモリカードアダプタの種類

メモリカード変換アダプタには下記の種類があります。

形名	内容
GT05-MEM-ADPC	CF カード → メモリカード（Type Ⅱ）変換アダプタ

8.2.2 メモリカードアダプタの取付け方法

メモリカードアダプタに CF カードを装着します。



CFカード　　メモリカードアダプタ

8.3 オプション機能ボードについて

1 GT1155-QSBD，GT1150-QLBD

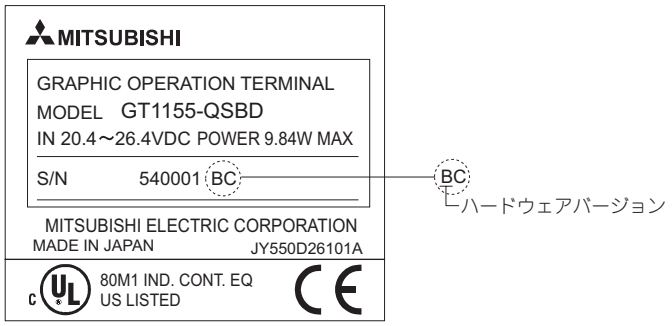
オプション機能ボードは，オプション機能を使用する場合に装着します。
ハードウェアバージョン C 以降の製品は，GOT 本体にオプション機能を内蔵しているため，オプション機能ボードは不要です。

ハードウェアバージョン A または B の製品を使用時に，オプション機能ボードが必要となる機能については，下記を参照してください。

☞ GT Designer2 Version □ 画面設計マニュアル
GT Designer3 Version1 画面設計マニュアル

Point **ハードウェアバージョンの確認方法**

GT11 のハードウェアバージョンは，GT11 背面の定格銘板で確認してください。



2 GT1155-QTBD，GT1155-QTBDQ，GT1155-QTBDA，GT1155-QSBDQ，GT1155-QSBDA，GT1150-QLBDQ，GT1150-QLBDA

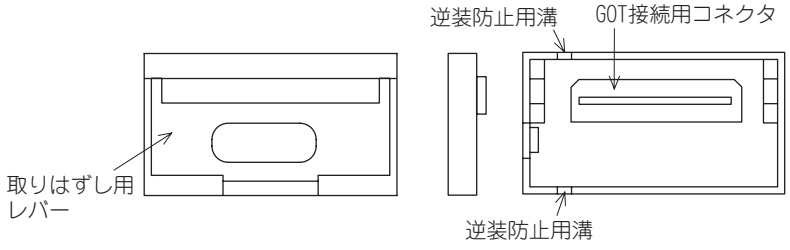
GOT 本体にオプション機能を内蔵しているため，オプション機能ボードは不要です。

8.3.1 オプション機能ボードの種類

GT1155-QSBD，GT1150-QLBD で使用できるオプション機能ボードには下記の種類があります。

形名	内容
GT11-50FNB	オプション機能ボード

8.3.2 各部名称



8.3.3 オプション機能ボードの着脱方法

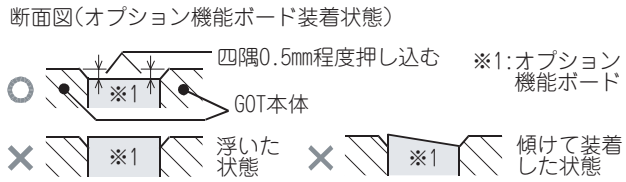
1 取付け

1 GOT の電源を OFF にします。

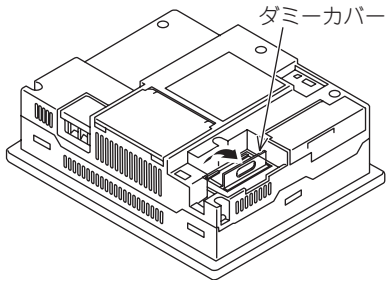
2 右図のようにダミーカバーの取外し用レバーをツメで引っ掛けて起こします。

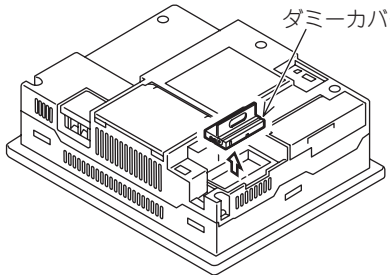
3 取外し用レバーを指で摘まみ，垂直に引っ張り，ダミーカバーをはずします。

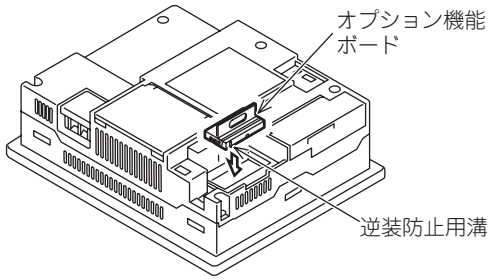
4 オプション機能ボードを GOT 背面のオプション機能ボード装着用コネクタに装着します。
逆装防止用溝に合わせて，オプション機能ボードを指で 0.5mm 程度奥まで押し込んでください。



オプション機能ボードが浮いた状態や傾いた状態にしないでください。
オプション機能ボード装着時，GOT 本体内部の基盤に手が触れないように注意してください。





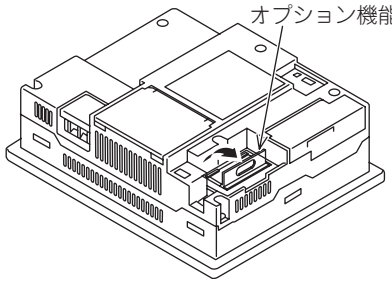


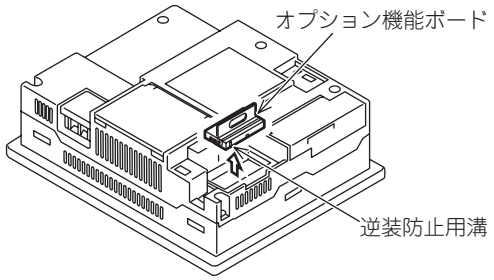
2 取外し

1 GOT の電源を OFF にします。

2 右図のようにオプション機能ボードの取外し用レバーをツメで引っ掛けて起こします。

3 取外し用レバーを指で摘まみ垂直に引っ張り，オプション機能ボードをはずしてください。





Point

オプション機能ボード着脱時の注意

(1) オプション機能ボードを取りはずすとき，取外し用レバーをねじらないようにしてください。取外し用レバーを破損することがあります。

(2) オプション機能ボードを使用しないときは，ダミーカバーを装着してください。

8.4 バッテリについて

バッテリは，時計データ，内蔵 RAM（D ドライブ）に保存されたデータ（アラーム履歴，レシピデータ ）の保持を行っています。
GT11 □□は，工場出荷時にバッテリを内蔵しています。

8.4.1 バッテリの種類

GT11 □□で使用できるバッテリには下記の種類があります。

形名	内容
GT11-50BAT	時計データ，アラーム履歴（内蔵 RAM 保存時）， レシピデータ（内蔵 RAM 保存時），タイムアクション設定値バックアップ用電池

8.4.2 バッテリ仕様

項目	仕様
種別	二酸化マンガンリチウム一次電池
初期電圧	3.0V
保存寿命	交換目安約 5 年（周囲温度 25 ℃）
用途	時計データ，アラーム履歴（内蔵 RAM 保存時）， レシピデータ（内蔵 RAM 保存時），タイムアクション設定値バックアップ用

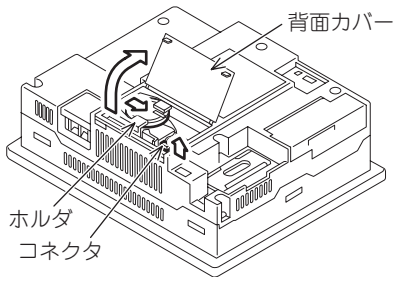
備　考

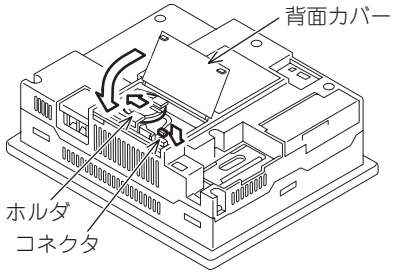
EU 加盟国内でのバッテリの規制については下記を参照してください。

☞17.4 節 2 EU 加盟国内でのバッテリおよびバッテリ組込み機器の取扱いについて

8.4.3 バッテリの交換手順

バッテリは，4 ～ 5 年を目安に定期的な交換を行ってください。





1. GOT の電源を OFF にします。
2. GOT の背面カバーを開けます。
3. 旧バッテリをホルダからはずします。
4. 旧バッテリのコネクタを抜き，30 秒以内に新バッテリのコネクタを差し込みます。
5. 新バッテリをホルダに挿入し，背面カバーを閉じます。
6. GOT の電源を ON にします。
7. ユーティリティにより，バッテリの状態が正常であることを確認してください。
   バッテリの状態表示に関する詳細は，下記を参照してください。

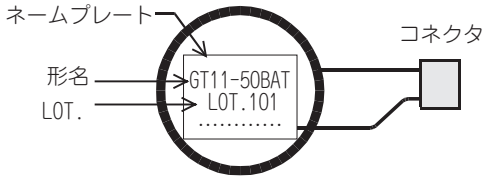
   ☞12 章 時計の設定とバッテリの状態表示（時計の表示と設定画面）

Point

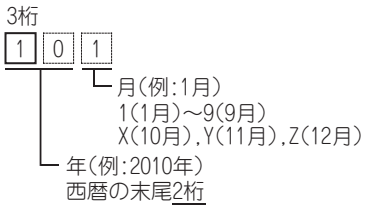
(1) バッテリの寿命について

バッテリの寿命は約５年です。

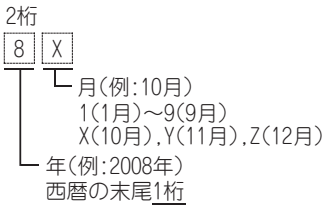
オプション（交換用）のバッテリは，バッテリに貼られているネームプレート（ラベル）のロット No. で製造年月を知ることができます。



＜2010年1月以降の製品＞



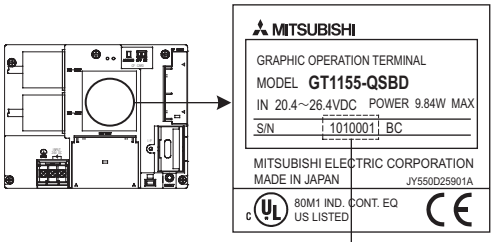
＜2009年12月以前の製品＞



GOT を購入時に内蔵しているバッテリの製造年月日は，GOT 本体の製造番号(S/N)で確認できます。

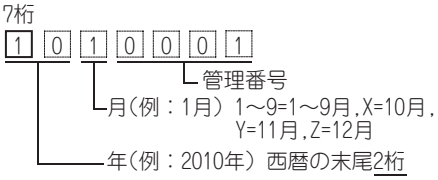
(a) GT1155-QTBD，GT1155-QSBD，GT1150-QLBDの場合

ネームプレートの記載例（製造番号：1010001）

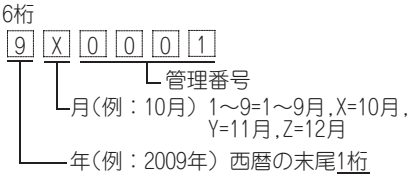


※実際のネームプレートは上記の例と一部異なります。

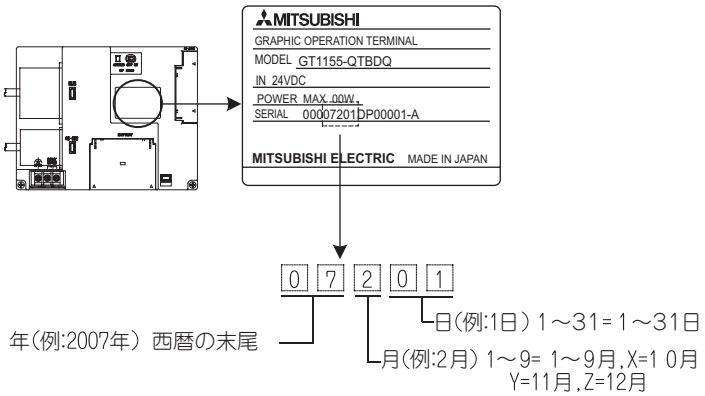
＜2010年1月以降の製品＞



＜2009年12月以前の製品＞



(b) GT1155-QTBDQ，GT1155-QTBDA，GT1155-QSBDQ，
GT1155-QSBDA，GT1150-QLBDQ，GT1150-QLBDAの場合



(2) バッテリの手配について

バッテリには自然放電がありますので，必要時にお求めください。

8.5 保護シートについて

保護シートは，GOT 表示部のタッチキーを操作するときに，操作面を傷，汚れから保護するために使用します。

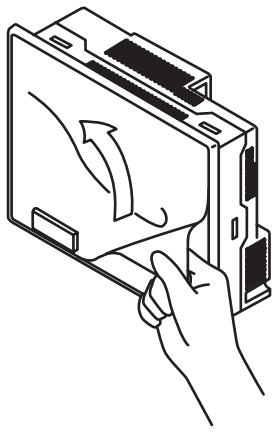
8.5.1 保護シートの種類

GT11 □□で使用できる保護シートには下記の種類があります。

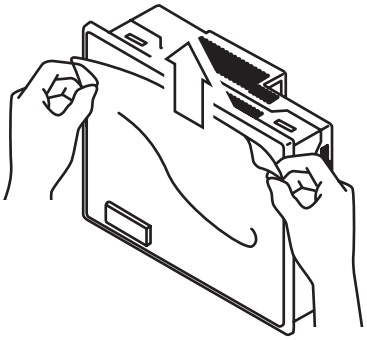
品名	形名	内容	
保護シート	GT11-50PSCB	5.7 型用保護シート	クリア 5 枚
	GT11-50PSGB		アンチグレア 5 枚
	GT11-50PSCW		クリア（枠部：白色）5 枚
	GT11-50PSGW		アンチグレア（枠部：白色）5 枚

8.5.2 取付け方法

1 既に保護シートを使用しているばあいは，GOT の表示部から古い保護シートを右下からはがします。



2 新しい保護シートのはく離フィルムをはがし，粘着面を GOT の表示部に貼り付けます。(右図)
保護シートを貼るときは，保護シートがゆるんだり，接着面に隙間ができないようにご注意ください。



備　考

保護シートの交換時期

保護シートは日常点検により目視にて状態を確認してください。
汚れがひどいときや傷があると視認性が悪くなり，誤操作の原因となることがあります。速やかに交換していただくことをおすすめします。

8.6 USB 耐環境カバーについて

USB 耐環境カバーは，GOT 正面の USB コネクタを粉塵，水，油から保護するためのカバーです。
GOT は工場出荷時に USB 耐環境カバーを装着した状態で出荷しています。
破損，劣化が生じた場合に，交換を行ってください。

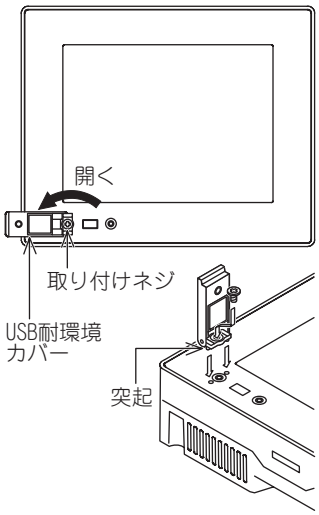
8.6.1 USB 耐環境カバーの種類

GT11 □□で使用できる USB 耐環境カバーには下記の種類があります。

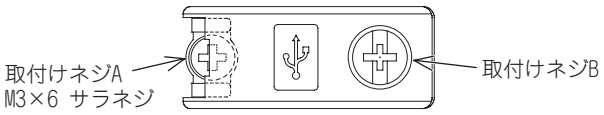
品名	形名	内容
USB 耐環境カバー	GT11-50UCOV	本体前面 USB インタフェース用耐環境カバー（IP67f 対応用）

8.6.2 取付け方法

1. GOT の電源を OFF にします。
2. GOT に USB ケーブルを接続している場合は，ケーブルをはずします。
3. GOT に取付けられている USB 耐環境カバーを開き，取付けネジをはずしてください。
4. 旧 USB 耐環境カバーを GOT からはずし , 新しい USB 耐環境カバーと交換してください。
5. 新しい USB 耐環境カバーの突起を GOT の穴に合わせ固定し , 取付けネジにより GOT に装着してください。



締付けトルク	取付けネジ A, B 共に 0.36 ～ 0.48N・m



Point

USB 耐環境カバーを開いている場合のご注意

USB 耐環境カバーを開いている場合，USB インタフェースの耐環境保護構造は「IP2X」となります。

8.7 スタンドについて

スタンドは，GOT を立てた状態で固定し，プロジェクトデータのデバッグを行いやすくするために使用します。

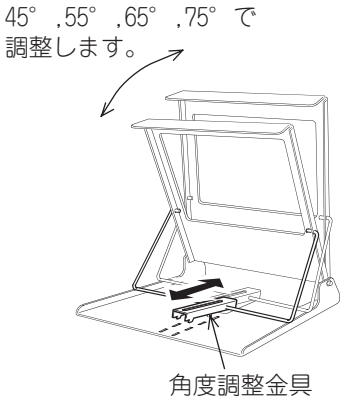
8.7.1 スタンドの種類

GT11 □□で使用できるスタンドには下記の種類があります。

品名	形名	内容
スタンド	GT05-50STAND	スタンド 5.7 型用（GOT1000 シリーズ用）
	A9GT-50STAND	スタンド 5.7 型用（GOT-A900 と兼用）

8.7.2 取付け方法

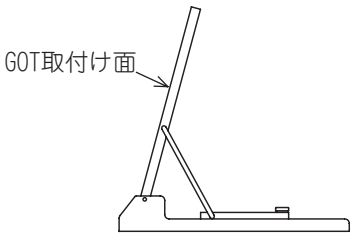
1 デバッグスタンドの角度調整金具により，GOT を取付ける角度を調整してください。



2 GOT をデバッグスタンドの前面から入れ，GOT 本体の取付け金具により，デバッグスタンドに取付けてください。
GOT 本体の取付け金具による設置方法は，下記を参照してください。

☞6.5 節 取付け手順

デバッグスタンドの詳細は，下記を参照してください。



GT05-50STAND

☞GOT1000 スタンド　取扱説明書

A9GT-50STAND

☞A9GT-50STAND ユーザーズマニュアル

8.8 耐油カバーについて

耐油カバーは，GOT 本体に被せることにより，耐油機能，耐薬品機能を向上させるカバーです。

8.8.1 耐油カバーの種類

GT11 □□で使用できる耐油カバーには下記の種類があります。

品名	形名	内容
耐油カバー	GT05-50PCO	5.7 型耐油カバー

8.8.2 取付け方法

Point

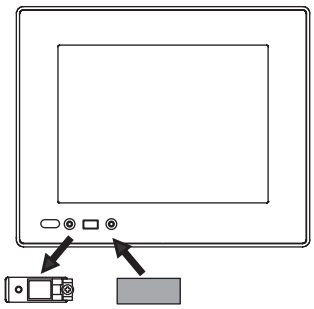
耐油カバーを取り付ける前に

GOT は出荷時，表示部に保護用フィルムを貼り付けていますので，耐油カバーを取り付ける前に必ず保護用フィルムを剥がしてください。
また，すでに盤に設置されている GOT に耐油カバーを取り付ける場合，下記のことを行ってください。

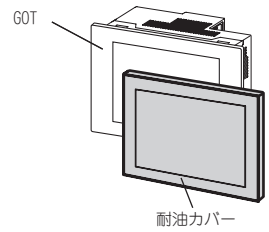
- 盤から GOT を取り外してください。
  取り外す際，GOT の電源を外部にて全相遮断し，ケーブル類を GOT からすべて外してください。
- GOT や盤の表面の汚れを取ってください。

1 USB 耐環境カバーが装着している場合，取り外します。

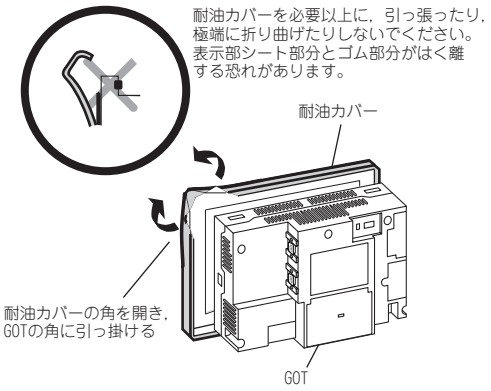
2 USB 耐環境カバーを取り外した後，USB コネクタの角穴に，付属の USB 角穴保護シールを貼ります。



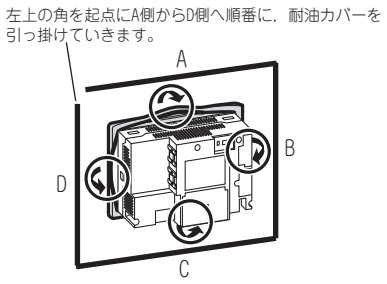
3 耐油カバーにある POWER LED 用の窓を，GOT の正面パネル上にある POWER LED に合わせ，耐油カバーの向きを決めます。



4 耐油カバーのひとつの角を外側に引っ張り，GOT の正面パネルの角に引っ掛けます。

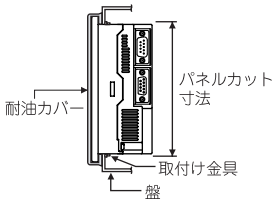


5 耐油カバーを引っ掛けたところから，順番に耐油カバーの端を，GOT の正面パネル裏にあるゴムパッキンを覆うよう，耐油カバーを取り付けてください。
（A 側から D 側へ矢印の順）



盤内への液体などの浸入を防ぐため，ゴムパッキンが GOT 正面パネルの裏側溝に正しく装着されているか全周囲を確認してください。次に，耐油カバーがゴムパッキン部分を確実に覆っているか全周囲を確認してください。

6 GOT を盤に取り付けます。GOT を取り付ける盤が汚れている場合は清掃してください。パネルカット寸法や，取付けネジの締付けトルクは，耐油カバーを GOT に取り付けても変更ありません。



Point

(1) 取付け時のご注意

取付けネジは，規定トルクで締め付けてください。取付けネジの締付けがゆるいと落下の原因になります。また，防水・防油効果が得られない場合があります。

取付けネジを締めすぎると，GOT や取付金具の破損による落下の原因になります。また，耐油カバー・GOT・パネルの " ゆがみ " により，防水・防油効果が得られない場合があります。

(2) 耐油カバー使用時のご注意

- 耐油カバーは消耗品です。
  定期的に点検して，キズや破損，ひどい汚れなどが発生した場合は交換してください。
- 耐油カバーは，シャープペンシルやドライバのように先端が鋭利なもので押さないでください。キズや破損の原因になります。
- 耐油カバーは漂白剤，シンナー，有機溶剤，腐食性の薬品などで洗浄しないでください。変形，変色の原因となります。
- 耐油カバーを GOT に装着する際，耐油カバーを必要以上に引っ張ったり，極端に折り曲げたりしないでください。シート部分とゴム部分がはく離するおそれがあります。
- 直射日光の当たる場所で，耐油カバーを保管／使用しないでください。
- 耐油カバーにホコリが付着した場合，水で湿らせた布で拭き取ってください。
- 耐油カバーの頻繁な着脱はしないでください。
  耐油性能，耐薬品性能の劣化原因となります。
- お客様のあらゆる環境を保証するものではありません。
  また，長時間油，あるいは薬品がかかる環境やオイルミストが充満する環境ではご使用になれない場合があります。

8.9 コネクタ変換アダプタについて

GT10-9PT5S 形コネクタ変換アダプタは，GOT に装着し，GOT マルチドロップ接続時の渡り配線を容易にするための製品です。
コネクタ変換アダプタと接続機器との配線については下記マニュアルを参照してください。

☞GOT1000 シリーズ　接続マニュアル

Point

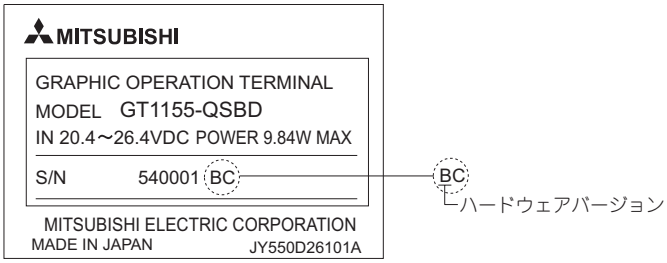
(1) コネクタ変換アダプタを装着できる GOT

コネクタ変換アダプタを装着できる GOT について以下に示します。

GOT	ハードウェアバージョン
GT1155-QTBD	バージョン C 以降
GT1155-QSBD,GT1150-QLBD	バージョン F 以降

(2) ハードウェアバージョンの確認方法

GOT のハードウェアバージョンは，GOT 背面の定格銘板で確認してください。



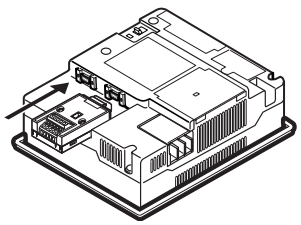
8.9.1 コネクタ変換アダプタの種類

コネクタ変換アダプタには下記の種類があります。

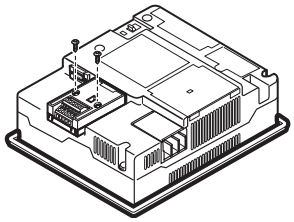
形名	内容
GT10-9PT5S	GOT マルチドロップ接続用

8.9.2 コネクタ変換アダプタの取付け方法

1. GOT の電源を OFF します。
2. GOT の RS-422/485 インタフェースにコネクタ変換アダプタを装着します。



3. コネクタ変換アダプタを付属のタッピンネジで固定します。
   締付トルク：0.3 ～ 0.6N・m



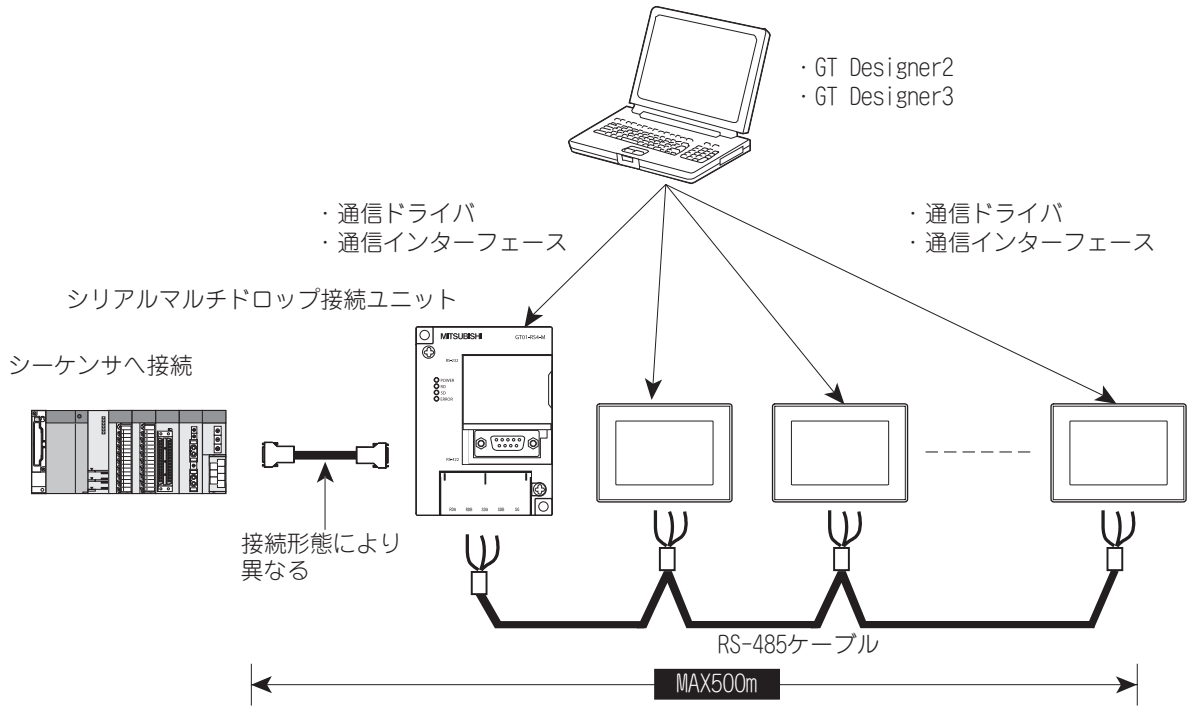
8.10 シリアルマルチドロップ接続ユニット

8.10.1 シリアルマルチドロップ接続ユニット

GT01-RS4-M 型シリアルマルチドロップ接続ユニットは，GT01-RS4-M 形シリアルマルチドロップ接続ユニットを介して ,1 台の PLC に複数台の GOT を接続して 1:N の通信を行う通信方式です。

GOT マルチドロップ接続についての詳細は下記マニュアルを参照してください。

☞GOT1000 シリーズ　接続マニュアル



Point

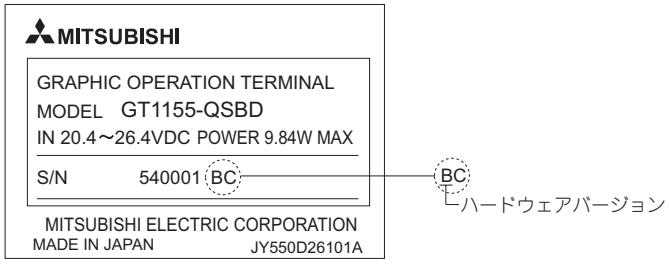
(1) GOT マルチドロップ接続が可能な GOT について

GOT マルチドロップ接続が可能な GOT を以下に示します。

GOT	ハードウェアバージョン
GT1155-QTBD	バージョン C 以降
GT1155-QSBD,GT1150-QLBD	バージョン F 以降

(2) ハードウェアバージョンの確認方法

GOT のハードウェアバージョンは，GOT 背面の定格銘板で確認してください。

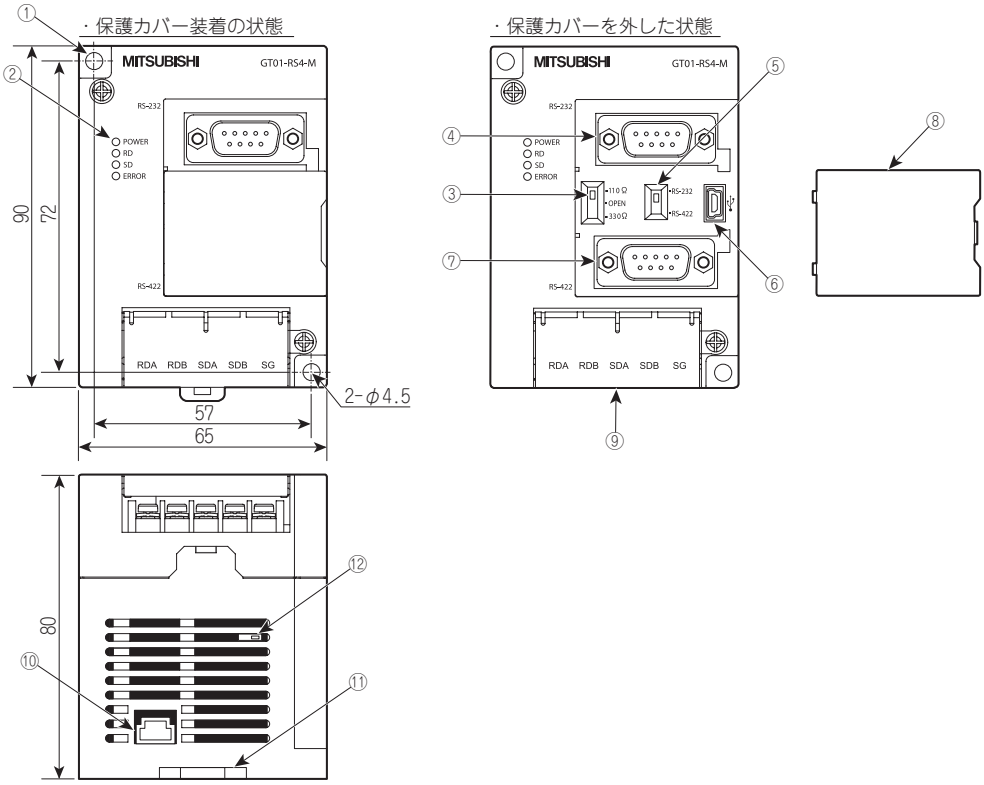


8.10.2 シリアルマルチドロップ接続ユニットの種類

シリアルマルチドロップ接続ユニットには下記の種類があります。

形名	内容
GT01-RS4-M	GOT マルチドロップ接続用

8.10.3 各部名称



No.	名称		仕様
①	本体取り付け穴		取付け穴 (2-Φ4.5)
②	LED	POWER	電源が正常に供給されている時 , 緑色に点灯します。
		SD	PLC へデータを送信している時 , 緑色に点灯します。
		RD	PLC からデータを受信している時 , 緑色に点灯します。
		ERROR	状態に応じて , 点灯 / 点滅します。
③	終端抵抗切換えスイッチ		110Ω,OPEN,330Ω の切換え可能 (出荷時は OPEN に設定)
④	PLC 通信用コネクタ		D-sub9 ピン (オス) RS-232 接続用
⑤	PLC 通信用コネクタ選択スイッチ		RS422/RS232 の選択スイッチ (出荷時は RS-422 に設定)
⑥	USB ポート		パソコン接続用 (通信ドライバ入れ替え用)
⑦	PLC 通信用コネクタ		D-sub9 ピン (メス) RS-422 接続用
⑧	保護カバー		未使用側の D-sub コネクタと USB, スイッチ類を保護するカバー
⑨	シリアルマルチドロップ通信用端子台		端子台 5 ピン (保護カバー付) M3 締付トルク 0.5 ～ 0.6N.m
⑩	電源コネクタ		DC24V 給電コネクタ差込口 (専用ケーブルは同梱品)
⑪	DIN レール取付け用スライダ		−
⑫	モード切換えスイッチ (スライドスイッチ)		操作しないでください。(出荷時は右側に設定されています。左側に設定すると正常に動作しません)

8.10.4　取付け

1 DIN レール

DIN レールを用いてマルチドロップ接続ユニットのフック (1 カ所) で取付けます。

• 適用 DIN レール　DIN46277(35mm 幅)

(DIN レールの取付けネジ間隔は，150mm としてください。)

2 盤直接取付け

φ4.5 穴 (2 カ所) を使用して盤に直接取付けます。

8.10.5　EMC 指令に適合するための注意

シリアルマルチドロップユニットは，シールドされた導電性の制御盤内に設置された状態で使用してください。シリアルマルチドロップユニットは開放型機器であり，必ず導電性の制御盤内に設置して使用する必要があります。このとき制御盤と制御盤の蓋は，接続 (導通) してください。
制御盤内への設置は，安全性の確保のみならず，シリアルマルチドロップユニットから発生するノイズを遮蔽する意味でも大きな効果があります。

9章　ユーティリティ機能

ユーティリティは，GOT と接続機器との接続，画面表示の設定，操作方法の設定，プログラム / データ管理，自己診断などを行うための機能です。

ユーティリティ機能一覧に関しては，下記を参照してください。

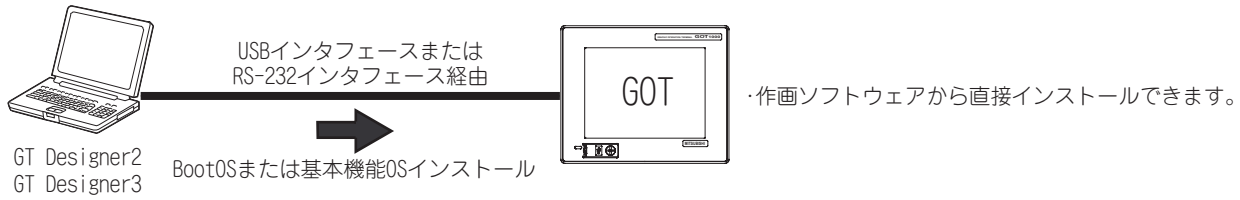
☞ 9.2 節 ユーティリティ機能一覧

9.1　ユーティリティの実行について

ユーティリティ機能を実行するためには，BootOS，基本機能 OS を C ドライブ (内蔵フラッシュメモリ) にインストールしてユーティリティを表示させる必要があります。

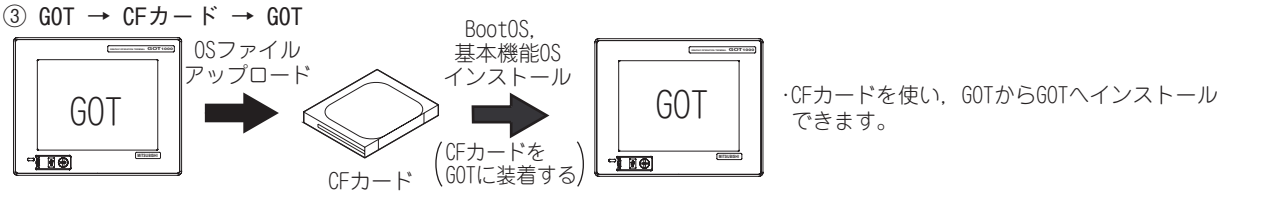
BootOS，基本機能 OS のインストール方法には，下記の 3 通りがあります。

① 作画ソフトウェア → GOT



② 作画ソフトウェア → CFカード → GOT

③ GOT → CFカード → GOT



作画ソフトウェアを使用したインストールに関しては，下記を参照してください。

☞ GT Designer2 Version □ 基本操作・データ転送マニュアル
GT Designer3 Version1 画面設計マニュアル（共通編）

CF カードを使用したインストールに関しては，下記を参照してください。

☞ 16 章　CoreOS，BootOS，基本機能 OS のインストール

9.2 ユーティリティ機能一覧

ユーティリティの各画面で設定・操作できる内容は下記のとおりです。

項目			機能概要
接続機器設定*1			通信インタフェースへのチャンネル番号設定と通信ドライバの割付け
	接続機器詳細設定		通信パラメータの設定
			シーケンスプログラム保護用キーワード設定 (FX シリーズシーケンサ接続時)
			シーケンスプログラム保護用キーワード削除 (FX シリーズシーケンサ接続時)
			シーケンスプログラム保護状態解除 (FX シリーズシーケンサ接続時)
			シーケンスプログラム再プロテクト (FX シリーズシーケンサ接続時)
GOTセットアップ	表示に関する設定		タイトル表示時間の設定
			スクリーンセーブ時間の設定
			スクリーンセーブ時バックライト ON/OFF の設定
			メッセージ言語切換え (日本語／英語／中国語（簡体字）／韓国語／ドイツ語）* 2
			バッテリ低下アラーム出力 ON/OFF の設定
			白黒反転表示 ON/OFF の設定 GT1150-Q
		輝度・コントラスト調整	液晶の輝度設定
			液晶のコントラスト設定
	操作に関する設定		ブザー音量の設定
			ウィンドウ移動時ブザー音あり／なしの設定
		セキュリティ設定* 3	セキュリティレベル変更 (オブジェクト単位のセキュリティパスワード入力)
		ユーティリティ呼出キー	ユーティリティメインメニュー呼出キーの設定
		キー感度	キー感度の設定
		キー反応速度	キー反応速度の表示
時計の表示と設定			基準時計の選択
			時計の現在時刻を表示
			時計の現在時刻を設定
			バッテリ状態の表示

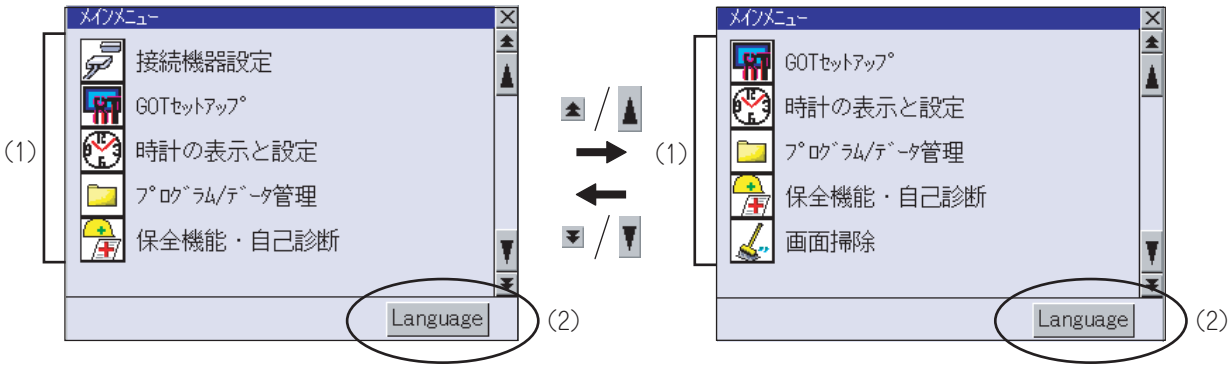
（次のページへつづく）

項目			機能概要
プログラム/データ管理	OS 情報		OS のインストール
			OS のアップロード
			OS のプロパティ表示（種別，バージョン，日付）
			システムファイル (OS) のデータチェック
	プロジェクト情報		プロジェクトファイルのダウンロード
			プロジェクトファイルのアップロード
			プロジェクトファイルの削除
			プロジェクトファイルのコピー (A ドライブ→ A ドライブ)
			プロジェクトファイルのプロパティ表示（日付，バージョン，画面タイトル）
			プロジェクトファイルのデータチェック
	アラーム情報		アラームログファイルの削除
			アラームログファイルのコピー
	メモリカードフォーマット		CF カードや内蔵 SRAM のフォーマット
	メモリ情報		GOT のメモリ空き容量の表示
	GOT データ一括取得		OS, プロジェクトデータをメモリカードへコピー
保全機能・自己診断	保全機能	システムモニタ	シーケンサのデバイスモニタ，テスト機能，インテリジェントユニットのバッファメモリモニタとバッファメモリの現在値変更
		A リスト編集	A CPU のシーケンスプログラムとパラメータの変更
		FX リスト編集	FX シーケンサのシーケンスプログラムとパラメータの変更
	自己診断	メモリチェック	A ドライブ（標準 CF カード）のメモリチェック
			C ドライブ（内蔵フラッシュメモリ）のメモリチェック
		描画チェック	液晶のビット欠け，色，描画，表示，重ね合わせ表示チェック
		フォントチェック	搭載フォントのチェック
		タッチパネルチェック	タッチパネル動作のチェック
		I/O チェック	接続相手先確認
			自己折り返しチェック *4
	システムアラーム表示		GOT エラー，CPU エラーの表示
			GOT エラーのリセット
	GOT 起動時間		GOT を起動した日時，現在時刻，現在までの運転時間の表示
画面掃除	画面掃除		表示部を掃除するための画面を表示

＊ 1： 作画ソフトウェアにより，次のことを行う必要があります。
・通信ドライバのインストール
・接続機器設定 (チャンネル番号，通信ドライバの割付け) を行ったプロジェクトデータのダウンロード
＊ 2： インストールされた標準フォントの内容により選択可能な言語が異なります。
＊ 3： 作画ソフトウェアにより，セキュリティレベル設定を行う必要があります。
＊ 4： テスト用の RS-232 コネクタを装着する必要があります。(14.10 節 I/O チェック)

9.3 ユーティリティの表示

各種ユーティリティ機能の画面を表示するためには，まずメインメニューを表示させる必要があります。
（ユーティリティ機能の画面は，横表示固定です。）



(1) メインメニュー

ユーティリティで設定できるメニュー項目が表示されます。
各メニュー項目部をタッチすると，それぞれの設定画面，または次の項目選択画面を表示します。

(2) システムメッセージ切換えボタン

ユーティリティ上の言語やシステムアラームの言語を切り換えるボタンです。
「Language」ボタンをタッチすると Select Language 画面が表示されます。

1 表示させたい言語のボタンをタッチして 確定 （選択した言語によりボタンの表示が変化します。）ボタンをタッチすると，言語が選択されます。＊1（▶ が移動します。）

2 ☒ ボタンをタッチすると GOT は再起動し，ユーティリティ上の言語が選択した言語に切り換わります。

＊1： 選択できる言語のみ表示されます。
選択できる言語は，GOT にインストールされているフォントにより異なります。
フォントの詳細については，下記のマニュアルを参照してください。

☞ GT Designer2 Version□ 画面設計マニュアル
GT Designer3 Version1 画面設計マニュアル（共通編）

Point

ユーティリティの表示言語切換え

(1) GOT 起動時に言語が選択されていない場合，または選択されている言語と GOT にインストールされているフォントに不整合が生じた場合

GOT 起動時にインストールされているフォントからの言語選択画面が表示されます。

表示させたい言語のボタンをタッチすると，GOT が再起動し，選択した言語に切り換わります。

(2) デバイスによるユーティリティの表示言語切換え

任意のデバイスを使用して，ユーティリティの表示言語を切換えることができます。詳細は，下記を参照してください。

☞ GT Designer3 Version1 画面設計マニュアル（共通編）
4.3 言語切換えデバイスを設定する

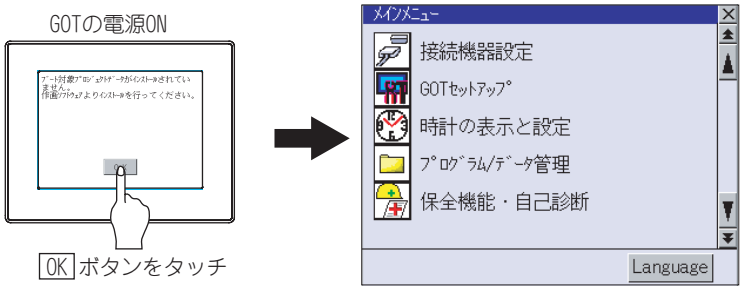
デバイスを使用して，ユーティリティの表示言語切換えを行っている場合，GOT 本体ユーティリティ画面から言語切換えを行ってもユーティリティ表示言語は切り換わりません。

9.3.1　メインメニューの表示操作

メインメニューは，下記 4 通りの操作で表示できます。
（いずれも作画ソフトウェアから基本機能 OS を GOT の内蔵フラッシュメモリへインストールした後に行ってください。）

(1)　プロジェクトデータ未ダウンロード時

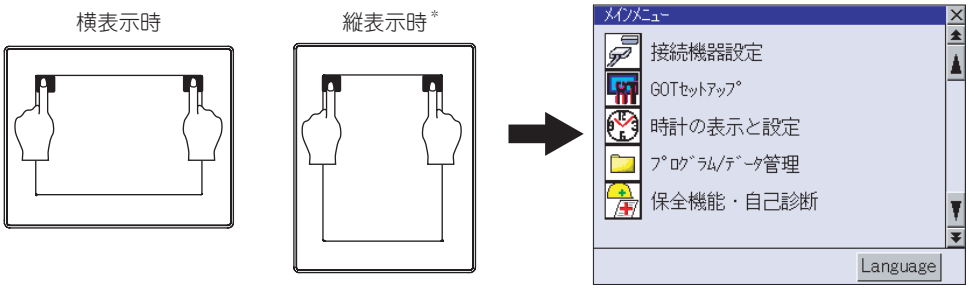
GOT の電源を ON すると，プロジェクトデータが存在しないことを通知するダイアログを表示します。表示後，[OK] ボタンをタッチするとメインメニューが表示されます。



(2)　ユーティリティ呼出キータッチ時

ユーザ作成画面を表示中，ユーティリティ呼出キーをタッチするとメインメニューが表示されます。ユーティリティ呼出キーは，GOT のユーティリティ画面，または作画ソフトウェアにより設定できます。
（工場出荷時は，「GOT の画面右上隅と左上隅の 2 点同時押し」に設定されています。）

ユーティリティ呼出キー同時2点タッチ



＊：ユーティリティ機能の画面は横表示固定です。

Point

ユーティリティ呼出しキーを 0 点設定した場合

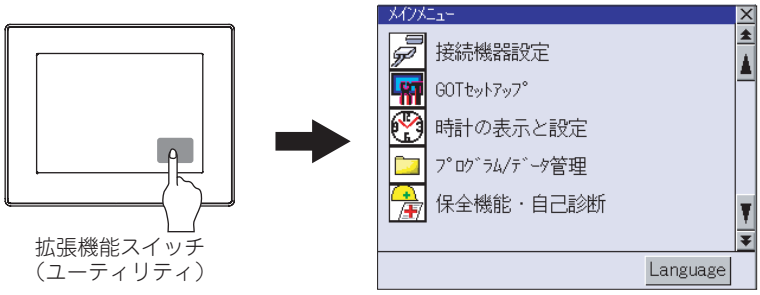
ユーティリティ呼出しキーを 0 点に設定した場合も，下記 2 通りの操作でメインメニューを表示させることができます。

- ユーザ作成画面上に設定した拡張機能スイッチを押下
- GOT の画面左上隅を押したまま電源を投入する

(3) 拡張機能スイッチ（ユーティリティ）タッチ時

ユーザ作成画面を表示中，拡張機能スイッチ（ユーティリティ）をタッチすると，メインメニューが表示されます。

拡張機能スイッチ（ユーティリティ）は，作画ソフトウェアによりユーザ作成画面中に表示するタッチスイッチとして設定できます。

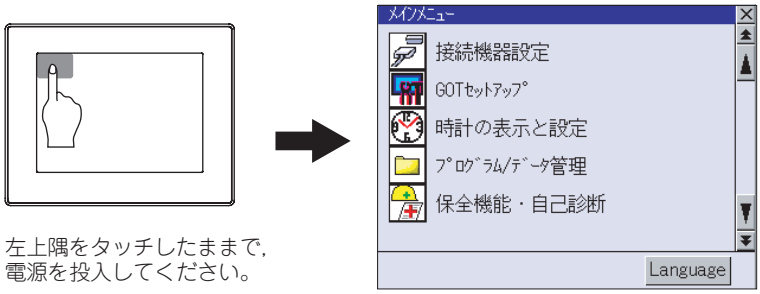


拡張機能スイッチの設定に関する詳細は，下記を参照してください。

☞GT Designer2 Version □ 画面設計マニュアル
GT Designer3 Version1 画面設計マニュアル（作画編）

(4) 電源投入時

GOT の画面左上隅を押したまま電源を投入するとメインメニューが表示されます。

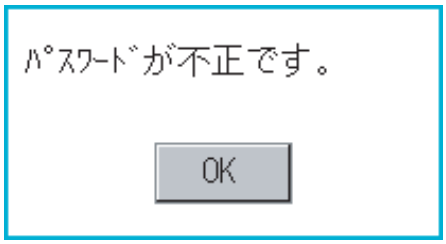


備　考

ユーティリティの表示をパスワードでロックする

作画ソフトウェアで GOT にパスワード設定した場合，ユーティリティのメインメニューを表示しようとすると，パスワード入力のダイアログが表示されます。
（作画ソフトウェアのパスワード設定は，共通設定メニューの中にあります。）

パスワードが不一致の場合は，エラーメッセージを表示します。



OK ボタンをタッチするとモニタ画面に戻ります。

(1)　パスワードの入力操作

① 0 ～ 9，A ～ F キーをタッチして，パスワードを入力してください。
② パスワード入力後，Enter キーをタッチして，パスワードを確定してください。
③ 入力した文字を修正するときは，Del キーをタッチして修正する文字を削除し，新しい文字を再入力してください。

(2)　パスワード入力を中断する操作

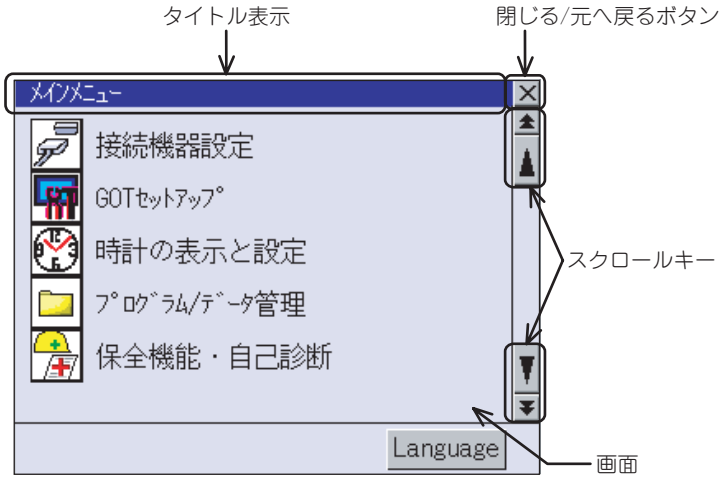
☒ ボタンをタッチすると，モニタ画面に戻ります。

パスワード設定に関する詳細は，下記を参照してください。

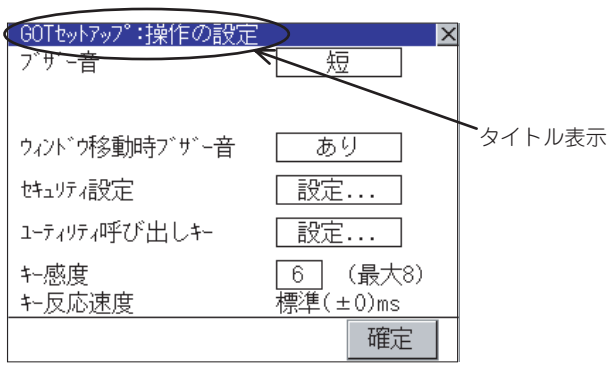
☞GT Designer2 Version □ 画面設計マニュアル
GT Designer3 Version1 画面設計マニュアル（共通編）

9.3.2　ユーティリティの基本構成

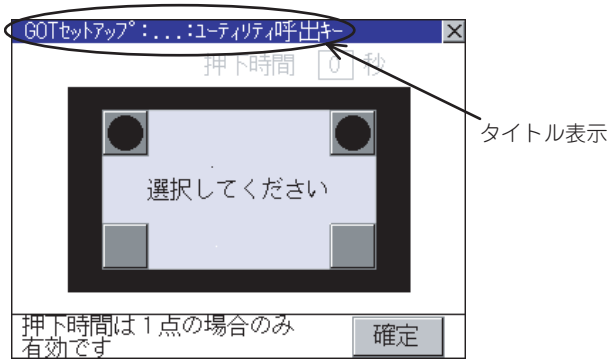
画面の基本構成は以下のとおりです。



(1)　タイトル表示



タイトル表示部にはその画面のタイトル名が表示されます。
画面は複数階層で構成されているため，その階層も含めたタイトル表示を行います。



タイトル名がタイトル表示部に収まらないときは，途中を "…" で省略表示します。

(2)　閉じる / 元へ戻るボタン

階層の途中の画面が表示されているときに，画面右上隅にある☒（閉じる / 元へ戻る）ボタンをタッチすると，１つ前の階層の画面へ戻ります。
モニタ画面から直接表示されたときに，このボタンをタッチすると画面を閉じ，モニタ画面へ戻ります。

(3)　スクロールキー

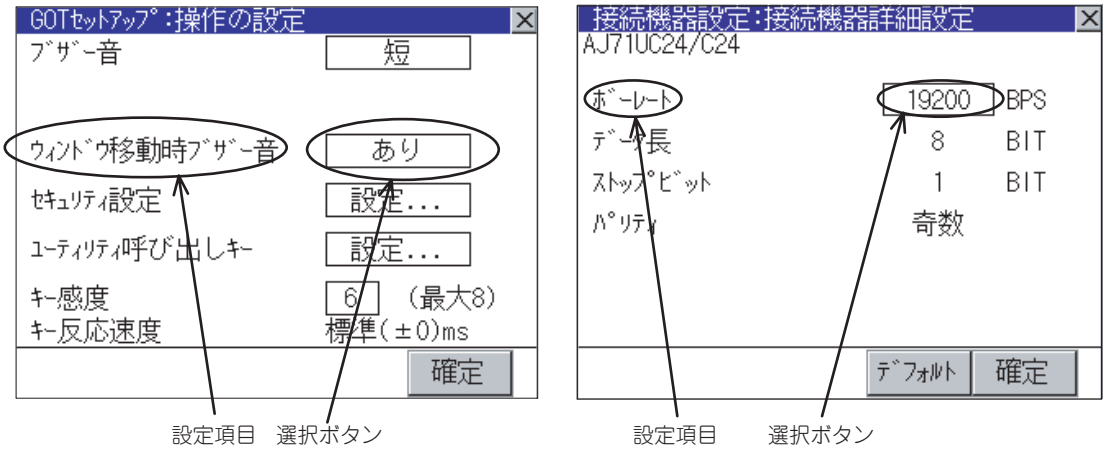
画面１枚に収まりきらない内容をもつ画面には右，または下にスクロールキーがあります。

▲▼ ◀▶ キーで１行あるいは１列分スクロールします。

⏫⏬ ⏪⏩ キーで１画面分スクロールします。

9.3.3　設定変更の操作

1 設定値の変更



1 画面にて選択ボタン（設定個所）をタッチしてください。

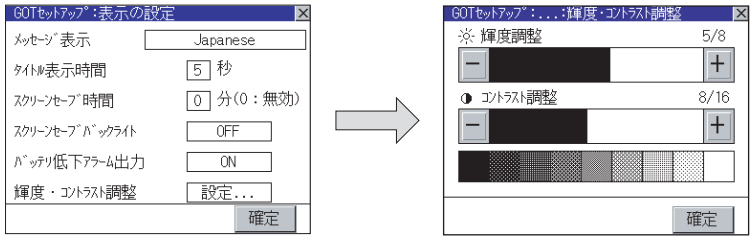
・[あり] キー：設定値を選択するキーです。タッチするごとにあり　なし を繰り返します。

・[数値] キー：数値を入力するキーです。タッチすると，画面の下にキーボードを表示します。
上記画面例では，キーボードを表示する設定項目はありません。キーボードの操作は次ページを参照してください。

[Enter] で数値入力を確定します。
設定範囲がある場合はキーボードを表示せず，数値の繰り返しとなります。

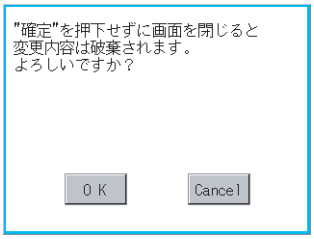
例： 4800bps　9600bps　19200bps

・[設定 ...] キー：タッチすると，各設定項目の設定画面に移行します。



2 [確定] ボタンをタッチすると設定内容が反映されます。

3 [確定] ボタンをタッチせずに，[☒] ボタンをタッチすると，下記のダイアログが表示されます。



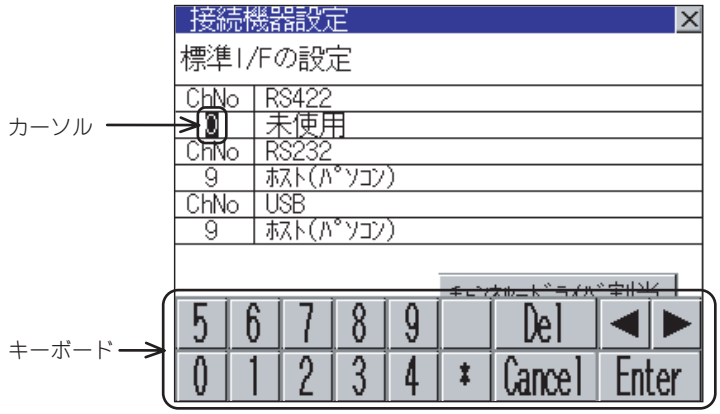
[OK] ボタン：変更内容は破棄され，画面が閉じます。

[Cancel] ボタン：設定画面に戻ります。

2 キーボードの操作

1 変更したい数値をタッチしてください。

2 数値入力用のキーボードが表示され，同時にカーソルが表示されます。
キーボードはタッチされた数値の位置により表示される位置が変化します。
（数値入力の際，邪魔にならない位置に表示されます）。



3 キーボードにより数値を入力してください

- [0]～[9]キー：数値を入力します。
- [Enter]キー　：[Enter]キーをタッチすると数値の入力を完了し，キーボードを閉じます。
- [Cancel]キー　：[Cancel]キーをタッチすると数値の入力を中断し，キーボードを閉じます。
- [◀][▶]キー　：カーソル位置の左右に入力可能な項目がある場合，カーソルを左右に移動します。
- [Del]キー　：[Del]キーは入力を１文字取り消すときに使用します。
- [*]キーおよびキートップに記載のないキーは何も機能しません。

4 [Enter]キーをタッチすると入力を完了し，キーボードを閉じます。

10章 通信インタフェースの設定 (接続機器設定)

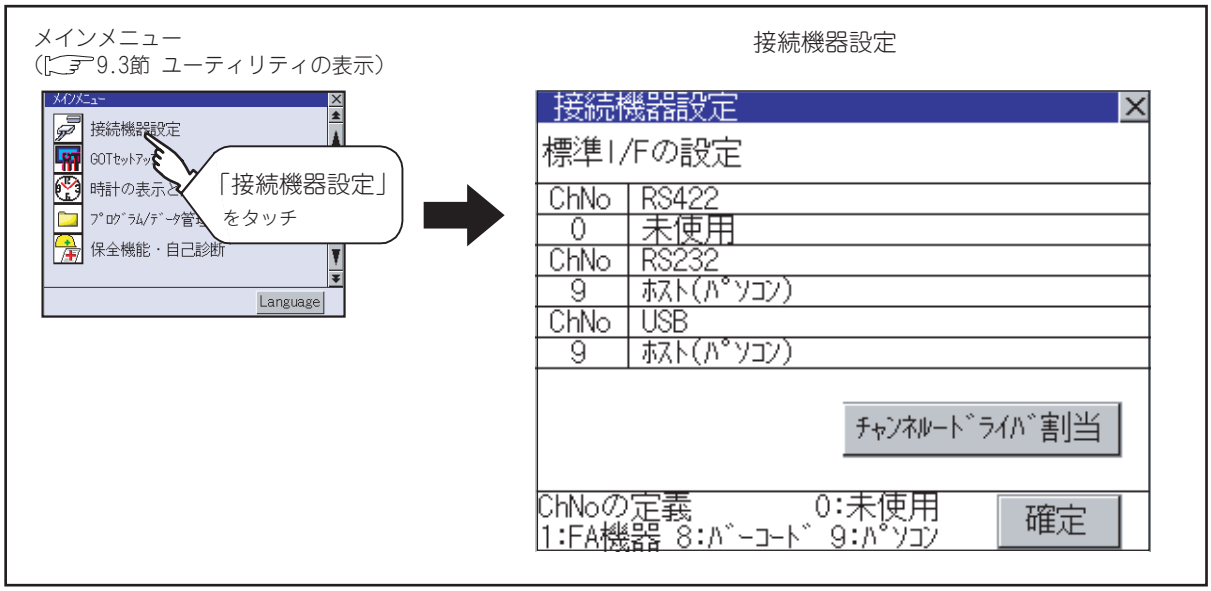
接続機器設定では，通信インタフェースの名称と，それに関連付けられている通信チャンネル，通信ドライバ名の表示，チャンネル番号の設定をします。
また，接続機器詳細設定では，各通信インタフェースの詳細設定 (通信パラメータの設定) をします。

10.1 接続機器設定

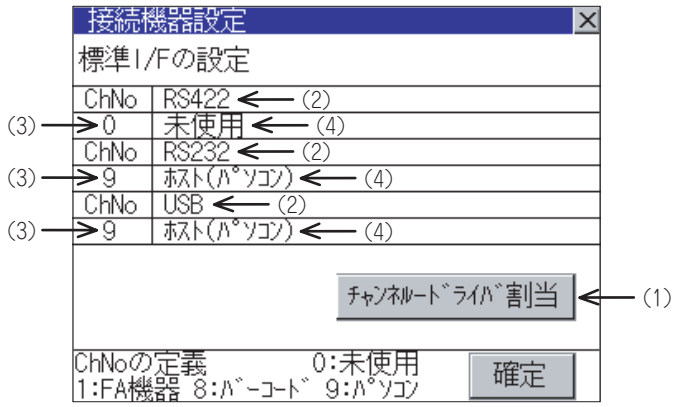
10.1.1 接続機器設定機能

機能	内容
チャンネル - ドライバ割当	チャンネル番号と通信ドライバの割付けを変更します。
チャンネル番号（ChNo.）設定	通信インタフェースのチャンネル番号を設定します。
通信パラメータ設定	接続機器の通信パラメータを設定します。

10.1.2 接続機器設定の表示操作



10.1.3 接続機器設定画面の内容



接続機器設定での設定項目欄，表示項目欄の名称について

(1) チャンネル - ドライバ割当

(a) チャンネル番号の割り当て

GOT へインストールした通信ドライバに対して，チャンネル番号を割り当てることができます。作画ソフトウェアで「接続機器設定」をしていない場合でも，本機能でチャンネル番号を割り当てればシーケンサ CPU と通信できます。

(b) 通信ドライバの変更

ユーティリティでチャンネルに割当てる通信ドライバを変更できます。
(通信ドライバを変更する場合は，あらかじめ変更先の通信ドライバを GOT にインストールしておく必要があります。)

チャンネル - ドライバ割当操作は下記を参照してください。

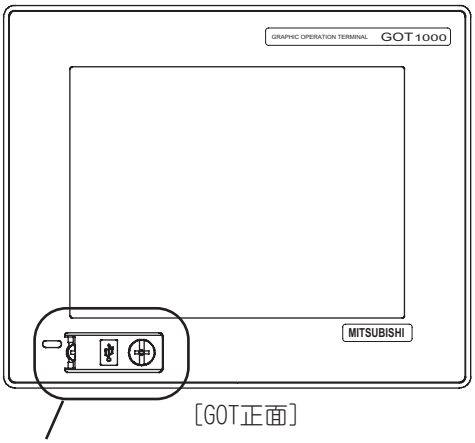
☞ 10.1.4 項 接続機器設定の操作

(2) 標準インタフェース表示 BOX：

GT11 □□に標準装備されている通信インタフェースを表示します。

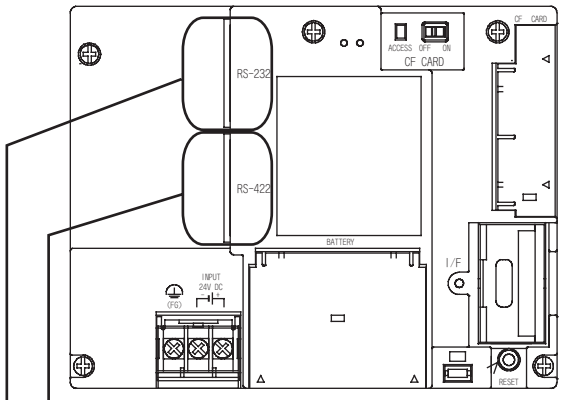
(a) GT1155-QTBD，GT1155-QSBD，GT1150-QLBD

標準インタフェースには，以下の 3 種類があります。
RS232・・・パソコン（作画ソフトウェア），接続機器，バーコードリーダ，RFID との通信用
RS422・・・接続機器との通信用
USB・・・・パソコン（作画ソフトウェア）との通信用



［GOT正面］

USBインタフェース(標準インタフェース)
(mini)



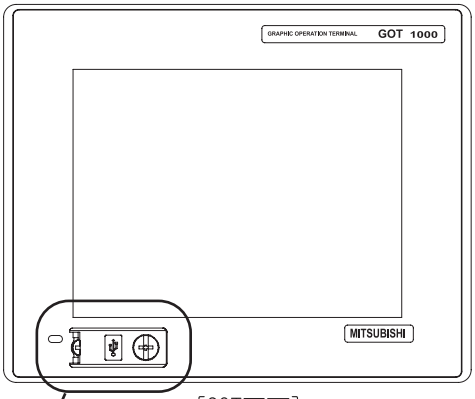
［GOT背面］

RS-422インタフェース(標準インタフェース)

RS-232インタフェース(標準インタフェース)

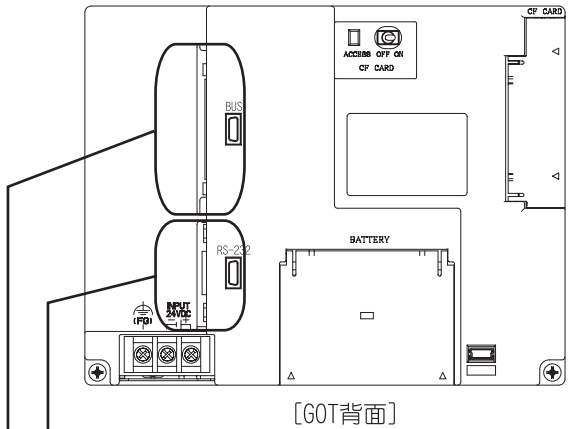
(b) GT1155-QTBDQ，GT1155-QSBDQ，GT1150-QLBDQ，GT1155-QTBDA，GT1155-QSBDA，GT1150-QLBDA

標準インタフェースには，下記の 3 種類があります。
BUS・・・・シーケンサとの通信用
RS232・・・パソコン（作画ソフトウェア），バーコードリーダ，RFID との通信用
USB・・・・パソコン（作画ソフトウェア）との通信用



［GOT正面］

USBインタフェース(標準インタフェース)
(mini)



［GOT背面］

RS-232インタフェース(標準インタフェース)

バスインタフェース(標準インタフェース)
(QCPU(Q モード)/モーションコントローラCPU(Q シリーズ)接続用バス
またはQnA/ACPU/モーションコントローラCPU(A シリーズ)接続用バス)

(3) チャンネル番号指定メニュー BOX

0： 通信インタフェース未使用時に設定します。
1： 接続機器（シーケンサやマイコンなど）との接続時に設定します。
（インタフェースのうち，1 つのみ設定可）
8: バーコードリーダ，RFID との接続時に設定します。
9： パソコン（作画ソフトウェア）またはモデムとの接続時に設定します。(USB，RS-232 インタフェースに対しては，どちらへも同時設定可。ただし一方が交信中の場合，他方は交信不可）

- 2 ～ 7，＊は設定できません。
- USB インタフェースに対しては，9 で固定してください。
- バスインタフェースに対しては，1 固定です。

(4) ドライバ表示 BOX

チャンネル番号に割付けた通信ドライバの名称が表示されます。

以下に示すいずれかの場合，ドライバ表示 BOX には「未使用」と表示されます。

- 通信ドライバがインストールされていない場合。(☞13.2 節 OS 情報)
- チャンネル番号指定メニュー BOX に「0」を設定している場合。

RS-232 インタフェースにチャンネル番号を「9」に設定した場合，通信ドライバ「ホスト（パソコン）」または「ホスト（モデム）」が選択できます。
USB インタフェースにチャンネル番号を「9」に設定した場合，通信ドライバ「ホスト（パソコン）」に自動的に割付けされます。

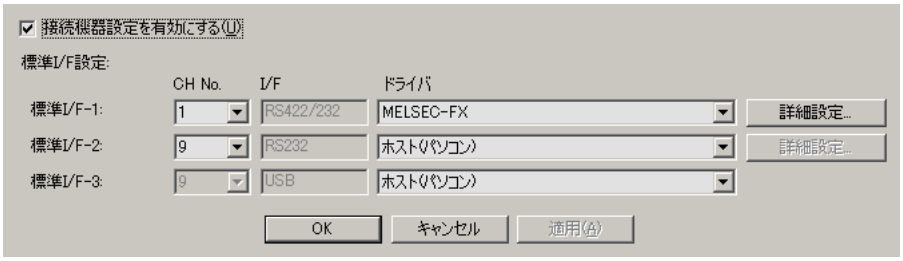
Point

GOT と接続機器の通信を行うためのご注意

(1) 通信ドライバのインストールと接続機器設定のダウンロード

接続機器との通信を行うために，通信インタフェースに対して，下記を行う必要があります。

① 通信ドライバのインストール（最大 4 つ，OS インストール）
② 通信インタフェースに対するチャンネル番号，通信ドライバの割付け（接続機器設定）
③ ②で割付けた接続機器設定（プロジェクトデータ）のダウンロード
上記①，②，③は作画ソフトウェアにより，行ってください。



接続機器設定については，下記マニュアルを参照してください。

☞GT Designer2 Version□ 画面設計マニュアル
GT Designer3 Version1 画面設計マニュアル（共通編）

通信ドライバ (OS) のインストール，プロジェクトデータのダウンロードについては，下記マニュアルを参照してください。

☞GT Designer2 Version□ 基本操作・データ転送マニュアル
GT Designer3 Version1 画面設計マニュアル（共通編）

(2) 作画ソフトウェアで接続機器設定をダウンロードされていない場合

（GT1155-QTBD，GT1155-QSBD，GT1150-QLBD のみ）

接続機器設定がダウンロードされていない場合，GOT はインストールされた通信ドライバを RS-422 インタフェースに自動割付けします。

複数の通信ドライバをインストールされた場合は，最初にインストールされた通信ドライバを RS-422 インタフェースに自動割付けします。

通信ドライバを RS-232 インタフェースに割付ける場合や，既に割付けた通信ドライバを変更する場合は，ユーティリティの接続機器設定，または作画ソフトウェアの接続機器設定で設定してください。

バス接続専用品の場合，インストールされたバス接続通信ドライバをバスインタフェースに割付けます。

(a) 自動で割付け後について

自動で割付け後に，確定ボタンを押して設定を GOT に保存した場合，次回起動時からは自動割付けは行われません。

(b) 作画ソフトウェアの「接続機器設定」との優先度

自動で割付け後に，作画ソフトウェアで接続機器設定を GOT にダウンロードすると，GOT は作画ソフトウェアの接続機器設定で動作します。(最後に設定した接続機器設定で動作します。)

10.1.4 接続機器設定の操作

1 チャンネル - ドライバ割当操作

チャンネル - ドライバ割当の操作方法を説明します。
本項では，計算機リンク接続の GOT（通信ドライバ：「AJ71QC24，MELDAS C6*」）から，CPU 直接接続（通信ドライバ：「A/QnA/QCPU，QJ71C24」）に変更する場合の例を説明します。
（本例では，接続機器設定はダウンロードしないものとします）

Point

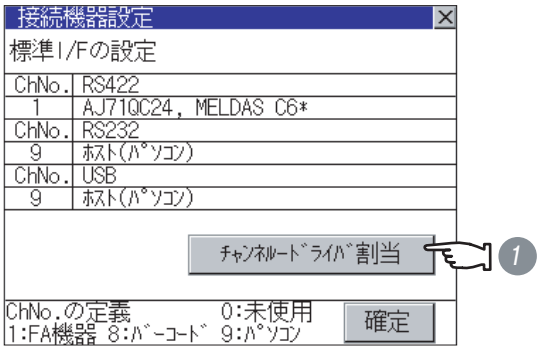
操作を行う前に

(1) GOT の再起動について

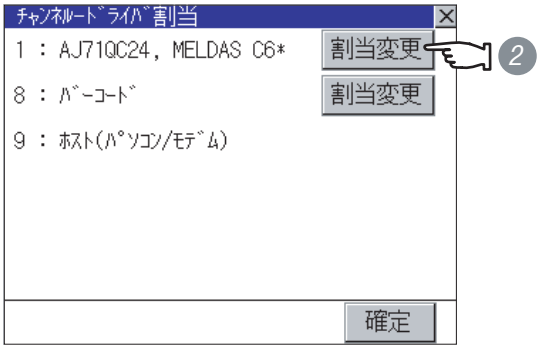
本設定を実行すると，GOT は自動的に再起動します。
また，プロジェクトデータがダウンロードされていると，再起動後に，接続機器のモニタを開始します。
本操作を行う前に，安全を十分確認した上で実行してください。

(2) 設定の保持について

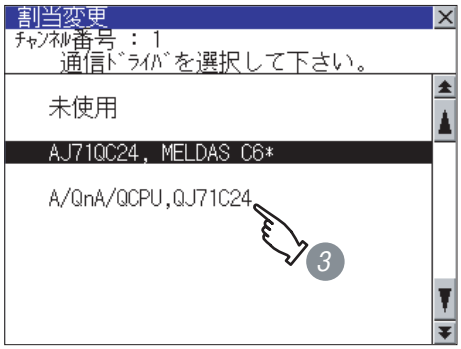
一度確定したチャンネル - ドライバ割当は，接続機器設定を更新するまで保持します。



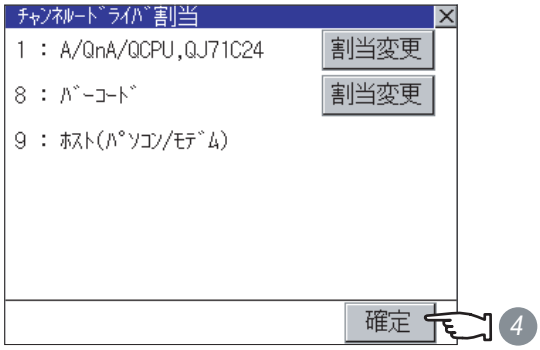
1 既に，AJ71QC24，MELDAS C6* との接続機器設定を行っている GOT に，通信ドライバ「A/QnA/QCPU，QJ71C24」をインストールします。（作画ソフトウェアから「接続機器設定」はダウンロードしないものとします。）通信ドライバインストール後，「接続機器設定」で ﾁｬﾝﾈﾙ-ﾄﾞﾗｲﾊﾞ割当 ボタンをタッチします。



2 左記の画面が表示されます。
割当変更 ボタンをタッチします。

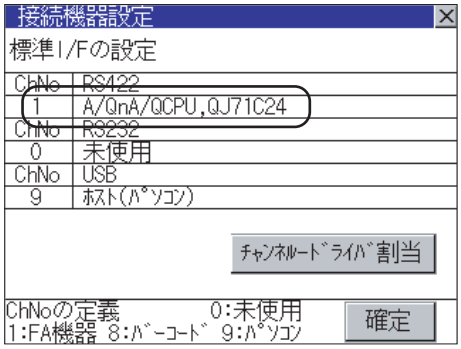


3 GOT にインストールされている通信ドライバ（「A/QnA/QCPU, QJ71C24」）をタッチします。



4 チャンネル - ドライバ割当画面に戻ります。
確定 ボタンをタッチします。

5 ☒ ボタンをタッチして，接続機器設定画面に戻ります。



6 選択した通信ドライバ（「A/QnA/QCPU,QJ71C24」）が割り当てられていることを確認してください。

7 確認後，確定 ボタンをタッチします。

8 ☒ ボタンをタッチすると，GOT が再起動します。

Point

通信ドライバについて

(1) マルチチャンネル機能について

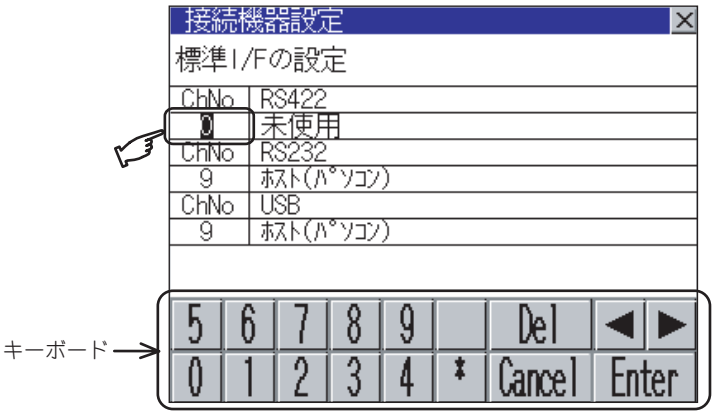
GT11 は，最大４つまで通信ドライバをインストールできます。
ただし，複数の通信ドライバを同時に使用することはできません。
（マルチチャンネル機能は使用できません。）

(2) 通信ドライバの表示について

通信ドライバはインストールされた順に表示されます。
表示されていない通信ドライバに割当てを変更したい場合は，作画ソフトウェアの「接続機器設定」で変更し，GOT にダウンロードしてください。

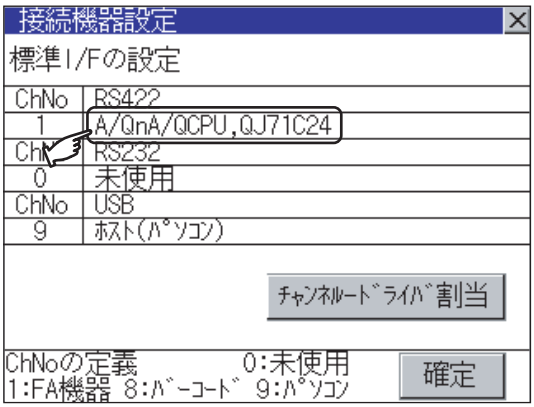
2 チャンネル番号設定操作

1 設定したいチャンネル番号指定メニュー BOX をタッチします。



2 チャンネル番号指定メニュー BOX にカーソルが表示されます。
同時に，数値入力用キーボードが表示されます。

3 キーボードからチャンネル番号を入力し，Enter キーをタッチすると値が確定します。
チャンネル番号を 1 に設定した場合は，作画ソフトウェアでチャンネル 1 に割付けた通信ドライバの名称がドライバ表示ボックスに表示されます。



3 接続機器詳細設定への切換え操作

1 ドライバ表示 BOX をタッチすると関連する接続機器の詳細設定に切り換わります。
（☞ 10.2 節 接続機器詳細設定）

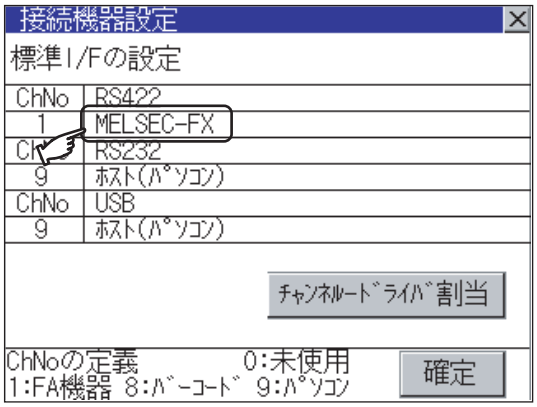
10.2 接続機器詳細設定

10.2.1 接続機器詳細設定機能

機能	内容
通信パラメータ設定	接続機器の各種通信パラメータを設定できます。 設定できるパラメータは接続機器により異なります。
キーワード登録	接続機器が FX シリーズシーケンサの場合，シーケンサ内のプログラム保護のためのキーワードを設定できます。
キーワード削除	接続機器が FX シリーズシーケンサの場合，シーケンサ内のプログラム保護のためのキーワードを削除できます。
キーワード保護解除	接続機器が FX シリーズシーケンサの場合，シーケンサ内のプログラム保護状態を解除できます。
キーワードプロテクト	接続機器が FX シリーズシーケンサの第 2 キーワード使用時，シーケンサ内の解除したプログラム保護を再度保護の状態にできます。

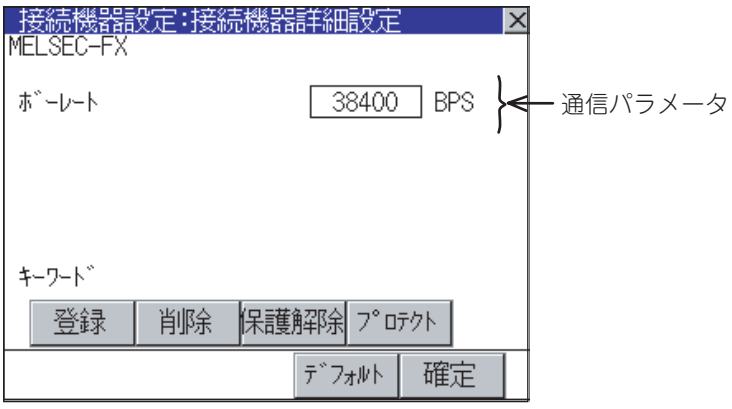
10.2.2 接続機器詳細設定の表示操作

1 接続機器設定で，設定したい通信パラメータのドライバ表示ボックスをタッチします。



2 接続機器詳細設定へ切り換わります。
この画面から，通信パラメータを設定します。
設定変更の操作は，下記を参照してください。

☞9.3.3 節 設定変更の操作



Point

作画ソフトウェアによる通信パラメータ設定

(1) それぞれの通信ドライバに対する通信パラメータの設定は，GT Designer2 の場合，「システム環境」→「接続機器設定」で行ってください。
GT Designer3 の場合，「共通の設定」→「接続機器の設定」で行ってください。
プロジェクトデータのダウンロード後に通信パラメータの設定を変更する場合は，GOT の接続機器詳細設定（本項）にて設定を変更してください。
作画ソフトウェアによる接続機器の設定については，下記マニュアルを参照してください。

☞GT Designer2 Version □ 画面設計マニュアル
GT Designer3 Version1 画面設計マニュアル（共通編）

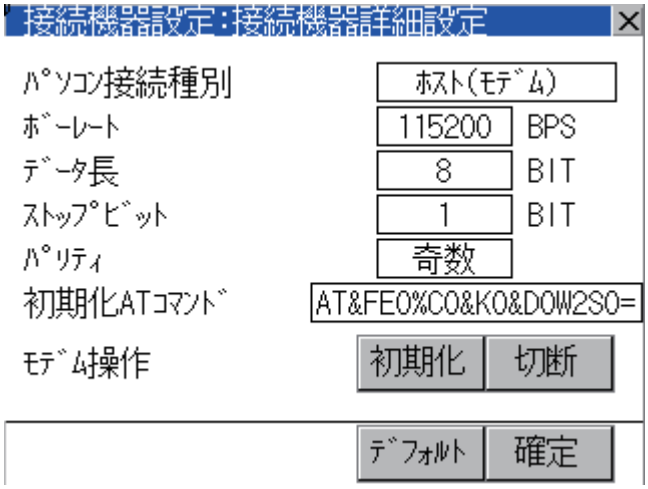
10.2.3 接続機器詳細設定の表示内容

接続機器詳細設定の表示項目や設定項目は，GOT にインストールされている通信ドライバの種類により異なります。
各ドライバに対する設定内容は下記を参照してください。
☞GT Designer2 Version □ 画面設計マニュアル
GT Designer3 Version1 画面設計マニュアル（共通編）

本項では，ユーティリティでのみ設定できる項目について説明します。

(1) ホスト (モデム) の接続機器詳細設定

ホスト (モデム) の接続機器詳細設定画面では，GOT とモデム間の通信設定やモデム操作を行なうことができます。

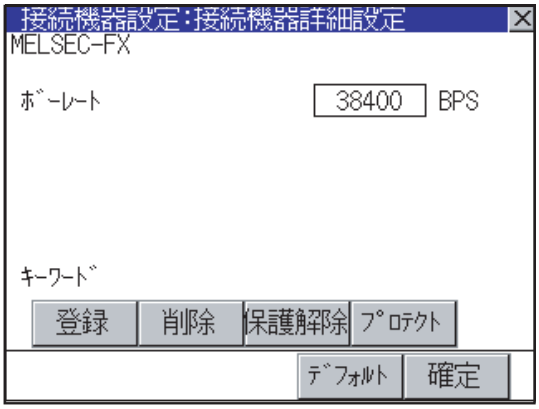


項目	内容	設定範囲
パソコン接続種別	パソコンへの接続方法が選択できます。	ホスト (パソコン) ／ホスト (モデム) <デフォルト：ホスト (パソコン) >
ボーレート (BPS)	通信時のボーレートを設定します。	9600/19200/38400/57600/115200 <デフォルト：115200 >
データ長	通信時のデータ長を設定します。	7bit/8bit <デフォルト：8bit >
ストップビット	通信時のストップビット長を設定します。	1bit/2bit <デフォルト：1bit >
パリティ	通信時のパリティチェックを行うかどうか，行う場合どの形式で行うかを設定します。	奇数／偶数／無<デフォルト：奇数>
初期化 AT コマンド	モデムを初期化するための，AT コマンドを設定します。	<デフォルト : AT & FE0%C0 & K0 & D0W2S0=1 >
モデム操作	「初期化」ボタンをタッチすると，モデムが初期化されます。 「切断」ボタンをタッチすると，回線が切断されます。	-

(2) MELSEC-FX のキーワード設定

MELSEC-FX の接続機器詳細設定画面では FX シリーズシーケンサのキーワードを登録，削除，保護解除，プロテクトできます。

MELSEC-FX



1 登録

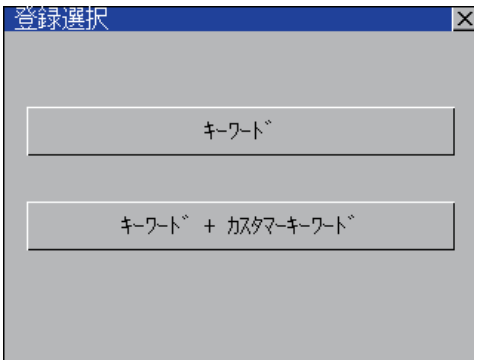
キーワードの登録を行います。

1 登録キーをタッチすると登録選択画面が表示されます。

カスタマーキーワードに対応していない FX シーケンサ※1 の場合は2のキーワード入力用キーボードが表示されます。

「キーワード」または「キーワード＋カスタマーキーワード」を選択します。

Enter キーをタッチすると選択が完了しキーワード入力用キーボードが表示されます。



選択	内容
「キーワード」選択時	キーワードのみ登録できます。
「キーワード＋カスタマーキーワード」選択時	キーワードの登録に続けてカスタマーキーワードの登録ができます。

※1：カスタマーキーワード対応機種については，使用されるシーケンサのマニュアルを参照して下さい。

Point

カスタマーキーワードはキーワードで設定するプロテクトの保護解除を行うことができます。保護の削除はできません。

② 登録選択を行った場合またはカスタマーキーワードに対応していないシーケンサで登録キーをタッチするとキーワード入力用キーボードがポップアップ表示されます。

キーワードを入力し，Enterキーをタッチすると登録が完了します。

登録選択画面で「キーワード＋カスタマーキーワード」を選択した場合は③のカスタマーキーワード登録画面が表示されます。

キーワードは，0～9，A～Fで8桁の数値を設定します

接続シーケンサ	設定	
	キーワードと第2キーワードを登録した場合	キーワードのみ登録した場合
第2キーワード対応のFXシーケンサの場合※1	登録条件を選択できます。	登録条件※2は選択できません
第2キーワード未対応のFXシーケンサの場合※1	—	

※1：第2キーワードの対応機種については，使用されるシーケンサのマニュアルを参照してください。

※2：登録条件

「読出 / 書込禁止」，「書込禁止」，「全てのオンライン操作禁止」から選択できます。

各設定時のアクセス制限は使用されるシーケンサのマニュアルを参照してください。

Point

(1) キーワードの保護レベルの選択方法

FX シーケンサに対してオンライン操作が可能な機器に対しては，3 段階の保護レベルが設定できます。
オンライン機器によるモニタや設定変更などを必要とする場合は，下記を考慮したキーワードを設定してください。

(a) キーワードのみ登録時

キーワードの先頭文字で保護レベルを選択します。
全操作禁止：A，D ～ F，0 ～ 9 のいずれかで始まるキーワードを設定します。
誤書込，読出禁止：B で始まるキーワードを設定します。
誤書込禁止　　：C で始まるキーワードを設定します。

(b) キーワードと第2キーワードを登録時

「登録条件」で保護レベルを選択します。

(2) キーワードの保護レベルごとのモニタ可否

保護レベルごとのデバイスのモニタ可否は下記のとおりです。

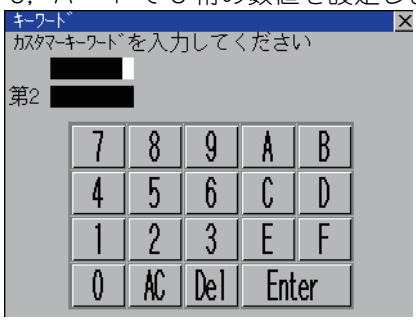
項目		キーワードのみ登録時			キーワードと第 2 キーワードを登録時			キーワード未登録／保護解除
		全操作禁止	誤書込読出禁止	誤書込禁止	全てのオンライン操作禁止	読出／書込禁止	書込禁止	
デバイスのモニタ		○	○	○	×	○	○	○
デバイスの変更	T，C 設定値とファイルレジスタ（D1000 ～）	×※1	×※1	×※1	×	○	○	○
	上記以外	○	○	○	×	○	○	○

※ 1：T, C 設定値が間接指定の場合，デバイスの変更は可能です。

(3) 「全てのオンライン操作禁止」と「全操作禁止」の違い

「全てのオンライン操作禁止」を設定時は，プログラミングツール，GOT でのデバイス表示，入力共に禁止されます。
「全操作禁止」設定時は , プログラミングツールでの操作は全て禁止されますが，GOT でのデバイス表示，入力は可能です。

3 登録選択画面で「キーワード + カスタマーキーワード」を選択し，キーワードの入力が完了した場合，カスタマーキーワード登録画面が表示されます。
カスタマーキーワードを入力し，Enter キーをタッチすると登録が完了します。
カスタマーキーワードは 0 ～ 9，A ～ F で 8 桁の数値を設定します。



2 削除

登録したキーワードを削除します。

1 削除 キーをタッチするとキーワード入力用キーボードがポップアップ表示されます。

2 キーワードを入力し，Enter キーをタッチするとキーワードが削除されます。

接続シーケンサ	設定
第 2 キーワード対応の FX シーケンサの場合※ 1	削除するキーワードを入力してください。
第 2 キーワード未対応の FX シーケンサの場合※ 1	「キーワード」のみ，削除するキーワードを入力してください。 「第 2 キーワード」は無視されます。

※ 1：第 2 キーワードの対応機種については，使用されるシーケンサのマニュアルを参照してください。

3 保護解除

キーワードが登録されている FX シーケンサへアクセスするために，キーワードによる保護を解除します。

1 保護解除 キーをタッチすると，キーワード入力用キーボードがポップアップ表示されます。

2 キーワードを入力し，Enter キーをタッチすると保護が解除されます。

接続シーケンサ	設定
第 2 キーワード対応の FX シーケンサの場合※ 1	保護を解除するキーワードまたはカスタマーキーワードを入力してください。
第 2 キーワード未対応の FX シーケンサの場合※ 1	「キーワード」のみ，保護を解除するキーワードを入力してください。 「第 2 キーワード」は無視されます。

※ 1：第 2 キーワード，カスタマーキーワード対応機種については，使用されるシーケンサのマニュアルを参照してください。

4 プロテクト

保護を解除したキーワードを再度保護の状態にします。
プロテクトは第 2 キーワードを登録した場合に有効です。

1 プロテクト キーをタッチすると，キーワード保護の状態になります。

11章 表示と操作の設定（GOTセットアップ）

GOT セットアップから表示の設定画面や操作の設定画面を表示できます。
表示の設定画面や操作の設定画面では下記の設定ができます。

画面	設定項目	参照ページ
表示の設定画面	タイトル表示時間，スクリーンセーブ時間，スクリーンセーブバックライト，メッセージ表示 バッテリー低下アラーム出力，白黒反転表示	11-1
	輝度・コントラスト調整	11-8
操作の設定画面	ブザー音，ウィンドウ移動時ブザー音，キー感度，キー反応速度	11-12
	セキュリティ設定	11-13
	ユーティリティ呼出キー	11-15

11.1 表示の設定

11.1.1 表示の設定機能

表示に関する設定ができます。設定できる項目には下記のものがあります。

項目	内容	設定範囲
タイトル表示時間	本体起動時のタイトル表示時間を設定できます。	0 ～ 60 秒*1 ＜工場出荷時：5 秒＞
スクリーンセーブ時間	ユーザがタッチパネルを操作しなくなってからスクリーンセーブ機能起動までの時間を設定できます。	0 ～ 60 分 ＜工場出荷時：0 分＞ 0 分設定時は，機能が無効になります。
スクリーンセーブバックライト	スクリーンセーブ機能起動時に同時にバックライトを OFF するか ON するかを指定できます。	ON/OFF ＜工場出荷時：OFF＞
メッセージ表示	ユーティリティとダイアログで表示される言語について，現在の言語の確認と言語の切換えができます。	日本語（日本語） English（英語） 中文(简体)（中国語（簡体字）） 한국어（韓国語） Deutsch（ドイツ語） ＜工場出荷時：ユーザ選択による＞
バッテリ低下アラーム出力	GOT 内蔵バッテリの電圧低下時に，システムアラームを表示する／しないを指定できます。	ON/OFF ＜工場出荷時：OFF＞
輝度・コントラスト調整	輝度・コントラストの調整ができます。 ☞ 11.2 節　輝度・コントラスト調整	－
白黒反転表示*2 GT1150-Q	ユーザ作成画面とユーティリティ画面について，表示の白と黒を反転する / しないを指定できます。	ON/OFF ＜工場出荷時：OFF＞

＊ 1: 0 秒を設定してもタイトル画面非表示にはなりません。
タイトル画面は必ず 4 秒以上 (プロジェクトデータの内容により変化します) 表示されます。
＊ 2: GT1150-QLBD のみ設定できます。(基本 OS バージョン [03.01.00] 以降)
(BootOS バージョン [03.01.**.M] 以降)

Point

(1) 作画ソフトウェアによる表示の設定

タイトル表示時間，スクリーンセーブ時間，スクリーンセーブバックライトの設定は，GT Designer2 の場合，「システム環境」の「GOT セットアップ」で行ってください。
GT Designer3 の場合，「GOT 環境設定」の「GOT セットアップ」で行ってください。
プロジェクトデータをダウンロード後に一部の設定を変更する場合には，GOT の「表示の設定」にて設定を変更してください。

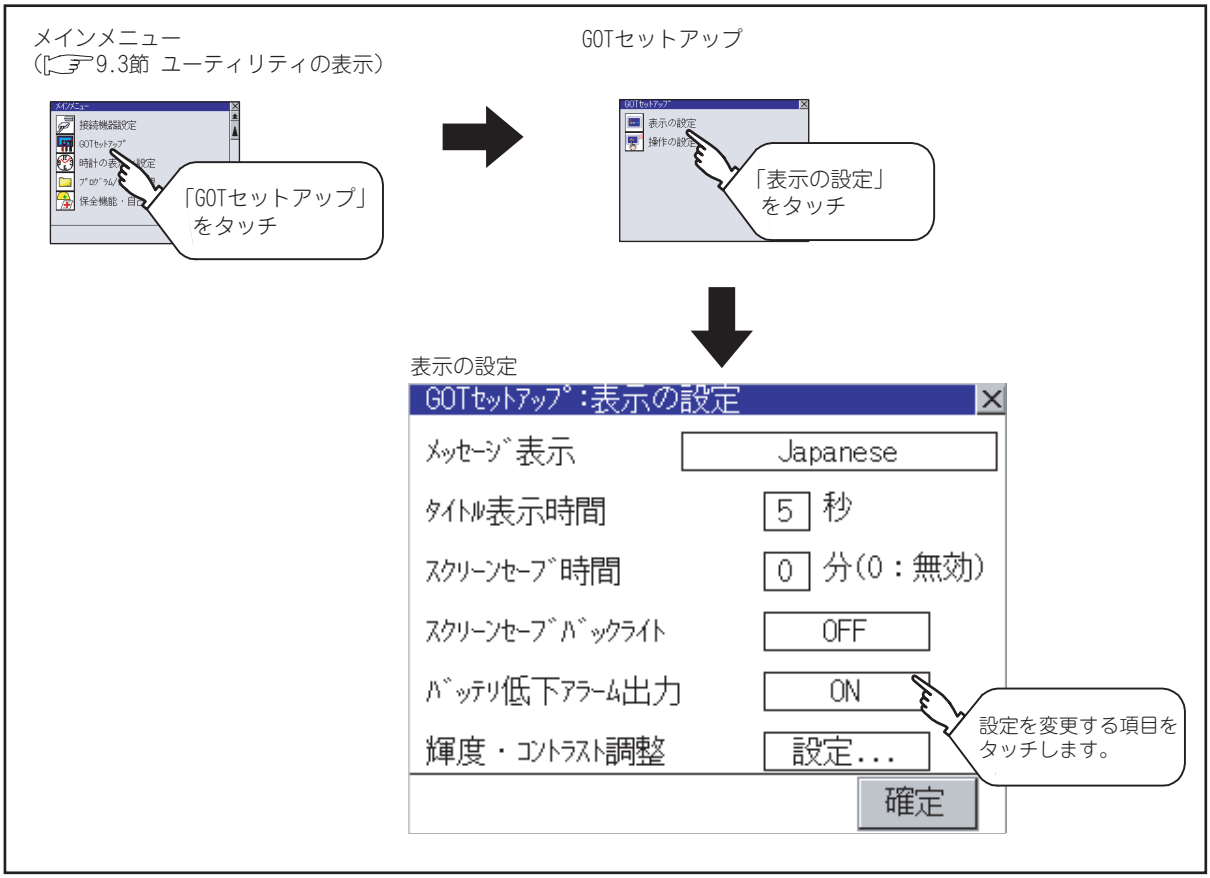
☞GT Designer2 Version □ 画面設計マニュアル
GT Designer3 Version1 画面設計マニュアル（共通編）

(2) スクリーンセーブとスクリーンセーブバックライト OFF 機能について

スクリーンセーブやスクリーンセーブバックライト OFF 機能を使用するときは，GT Designer2 の場合，「システム環境」にある「システム情報」の読み出しデバイスで有効 / 無効の選択をしてください。
GT Designer3 の場合，「GOT 環境設定」の「システム情報」の読み出しデバイスで有効 / 無効の選択をしてください。
システム情報に関する詳細は，下記を参照してください。

☞GT Designer2 Version □ 画面設計マニュアル
GT Designer3 Version1 画面設計マニュアル（共通編）

11.1.2 表示の設定の表示操作



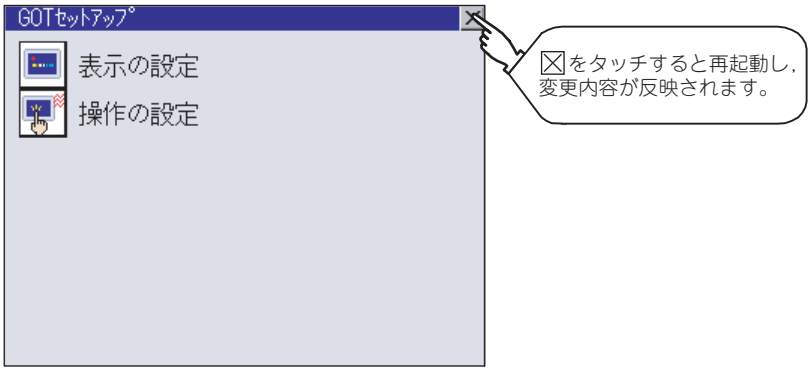
Point

設定変更後の再起動について

各項目の設定を変更した後，☒ボタンで GOT セットアップ画面まで表示を戻し，さらに GOT セットアップ画面で☒ボタンをタッチすると，GOT は再起動します。

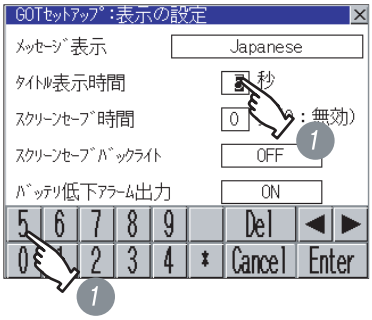
再起動後は，変更した設定で表示します。

上記操作を行わず GOT の電源 OFF → ON により再起動した場合は，設定内容は反映されずに破棄されます。

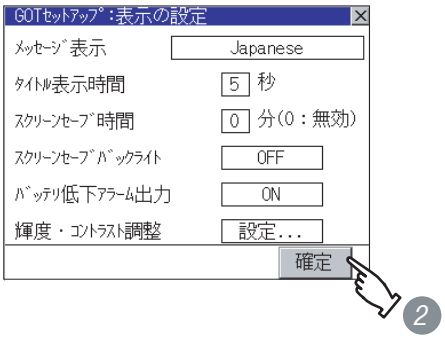


11.1.3 表示の設定操作

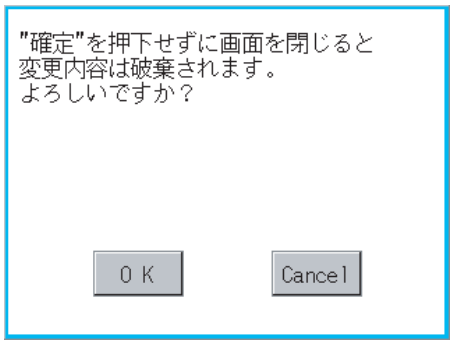
1 タイトル表示，スクリーンセーブ時間



1 設定時間（数字）をタッチするとキーボードが表示されます。
キーボードにより数字を入力します。



2 確定 ボタンをタッチすると設定内容が決定されます。



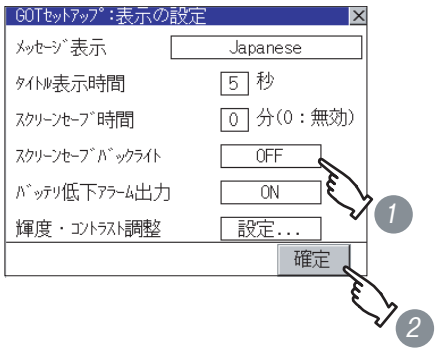
3 確定 ボタンをタッチせずに☒ボタンをタッチすると，左記のダイアログが表示されます。

OK ボタン：変更内容は破棄され，画面が閉じます。

Cancel ボタン：表示の設定画面に戻ります。

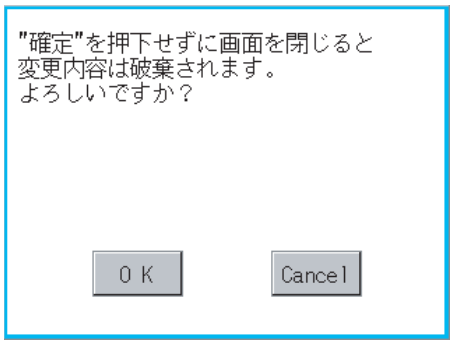
4 表示の設定で変更したい項目の設定をすべて終了した後，☒ボタンで表示の設定とGOT セットアップを閉じると，GOT は再起動し，設定内容を反映します。

2 スクリーンセーブバックライト，バッテリ低下アラーム出力



1 設定項目をタッチすると設定内容が変わります。(ON⇄OFF)

2 確定 ボタンをタッチすると設定内容が決定されます。



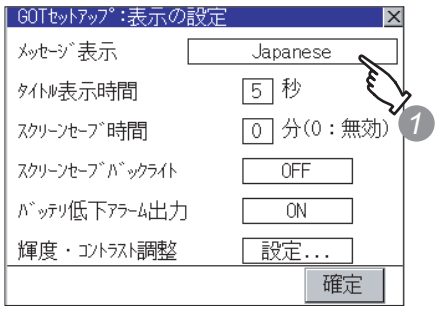
3 確定 ボタンをタッチせずに☒ボタンをタッチすると，左記のダイアログが表示されます。

OK ボタン：設定内容は破棄され，画面が閉じます。

Cancel ボタン：表示の設定画面に戻ります。

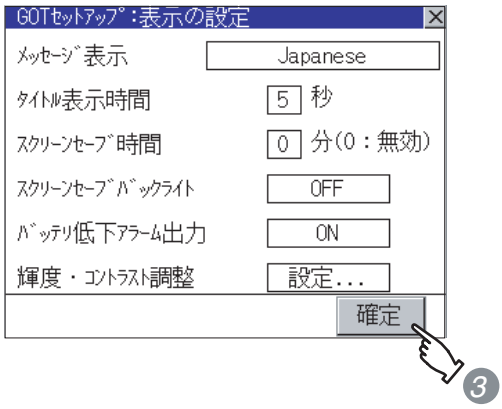
4 表示の設定で変更したい項目の設定をすべて終了した後，☒ボタンで表示の設定とGOT セットアップを閉じると，GOT は再起動し，設定内容を反映します。

3 メッセージ表示

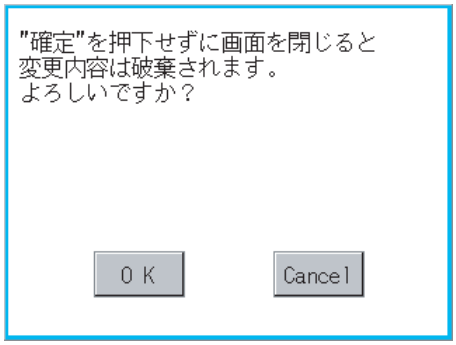


1 設定項目をタッチすると Select Language 画面が表示されます。

2 表示させたい言語のボタンをタッチすると，言語が選択され，表示の設定に戻ります。



3 確定 ボタンをタッチすると設定内容が決定されます。
言語の表示は，5 の操作を行うまで変わりません。



4 確定 ボタンをタッチせずに☒ボタンをタッチすると，左記のダイアログが表示されます。

OK ボタン：設定内容は破棄され，画面が閉じます。

Cancel ボタン：表示の設定画面に戻ります。

5 表示の設定で変更したい項目の設定をすべて終了した後，☒ボタンで表示の設定と GOT セットアップを閉じると，GOT は再起動し，設定内容を反映します。

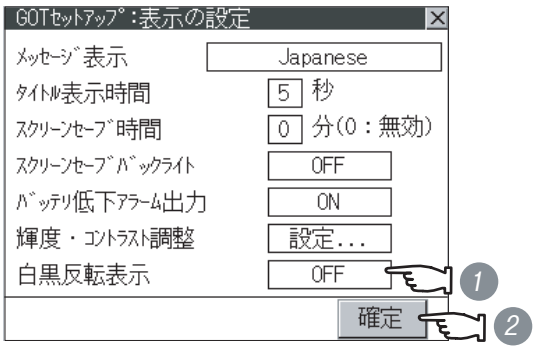
4 輝度・コントラスト調整

輝度・コントラスト調整については，下記を参照してください。

☞11.2 節　輝度・コントラスト調整

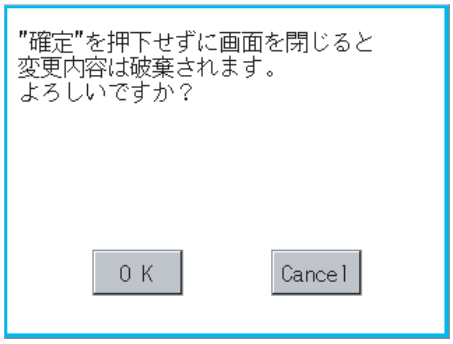
5 白黒反転表示

GT1150 -Q



1 設定項目をタッチすると設定内容が変わります。(ON⇄OFF)

2 確定 ボタンをタッチすると設定内容が決定されます。



3 確定 ボタンをタッチせずに☒ボタンをタッチすると，左記のダイアログが表示されます。

OK ボタン：設定内容は破棄され，画面が閉じます。

Cancel ボタン：表示の設定画面に戻ります。

4 表示の設定で変更したい項目の設定をすべて終了した後，☒ボタンで表示の設定とGOT セットアップを閉じると，GOT は再起動し，設定内容を反映します。

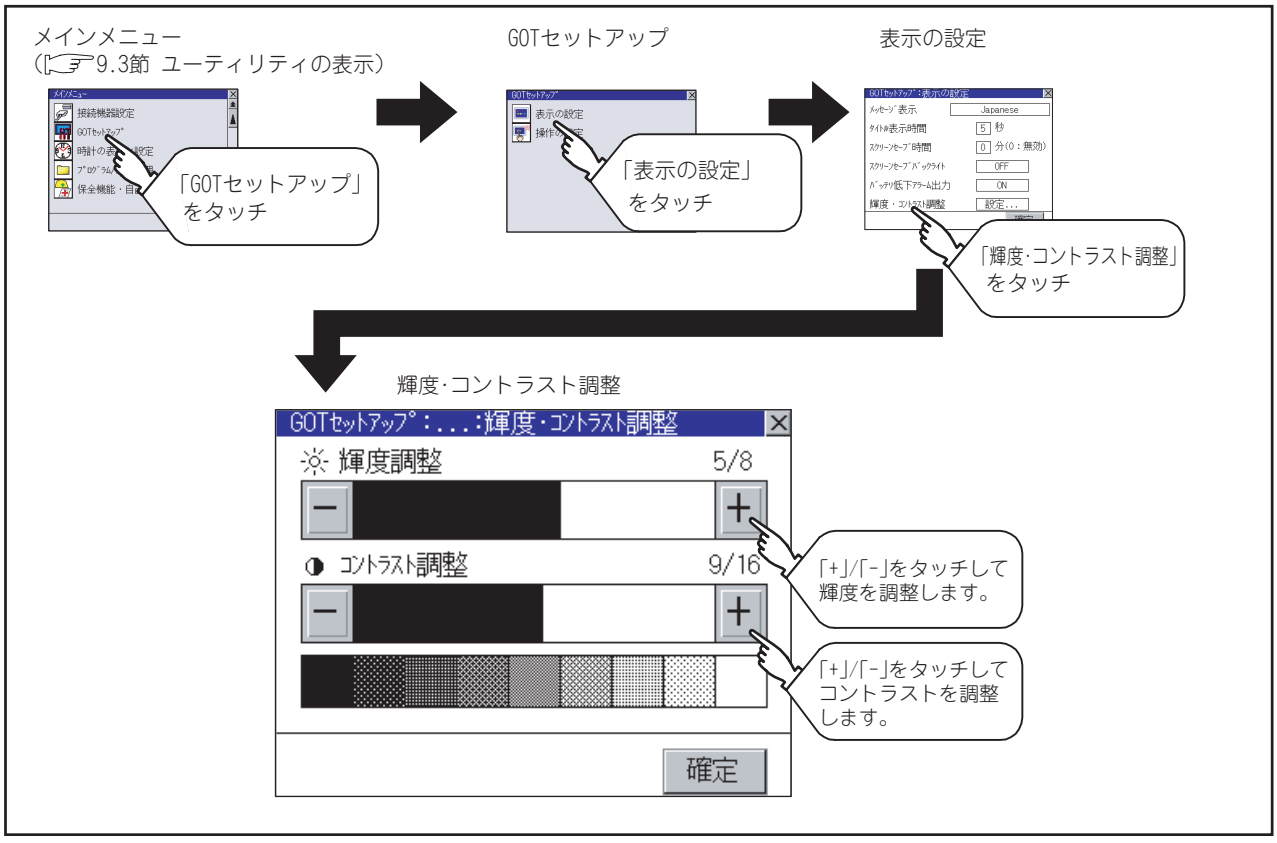
11.2 輝度・コントラスト調整

11.2.1 輝度・コントラスト調整機能

輝度・コントラスト調整ができます。

機能	内容
輝度調整	表示液晶部の輝度を８段階で調整できます。
コントラスト調整	表示液晶部のコントラストを 16 段階で調整できます。 (GT1155-QTBD，GT1155-QTBDQ，GT1155-QTBDA を除く)

11.2.2 輝度・コントラスト調整の表示操作

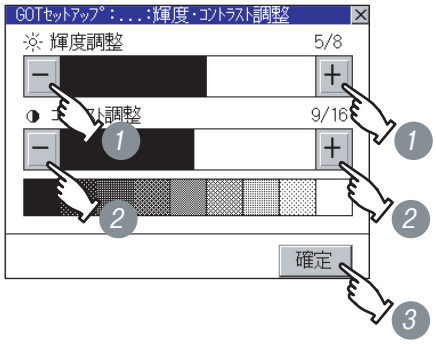


備　考

電源投入直後の表示

電源投入直後の「Booting」画面表示中は，工場出荷時のコントラスト調整値で表示されます。
その後，「Booting project data..」画面以降にユーティリティで設定されたコントラスト調整値が反映されるので，電源投入直後の表示が変化します。

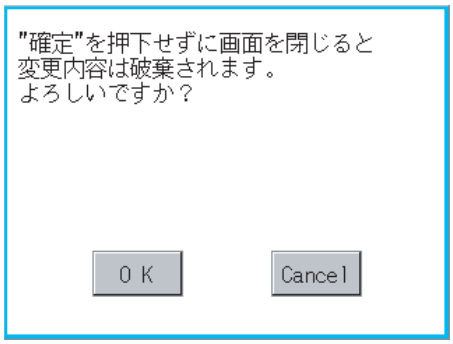
11.2.3 輝度の調整操作



1 輝度調整の [+], [−] キーをタッチすることで輝度を調整できます。

2 コントラスト調整の [+], [−] キーをタッチすることでコントラストを調整できます。

3 [確定] ボタンをタッチすると設定内容が反映されます。



4 [確定] ボタンをタッチせずに [☒] ボタンをタッチすると左記のダイアログボックスが表示されます。
[OK] ボタン：変更内容は破棄され，画面が閉じます。
[Cancel] ボタン：輝度・コントラスト調整画面に戻ります。

11.3 操作の設定

11.3.1 操作の設定機能

GOT の操作に関する設定ができます。
設定できる項目には以下のものがあります。

機能	内容	設定範囲
ブザー音設定	ブザー音の設定を変更できます。	無 / 短 / 長 ＜工場出荷時 : 短＞
ウィンドウ移動時ブザー音設定	ウィンドウを移動させる時にブザー音を鳴らすか鳴らさないかを選択できます。	あり / なし ＜工場出荷時 : あり＞
セキュリティ設定画面切換え	セキュリティレベル変更画面を表示できます。 ☞11.4 節　セキュリティレベル変更	−
ユーティリティ呼出キー画面切換え	ユーティリティ呼出キー設定画面を表示できます。 ☞11.5 節　ユーティリティ呼出キーの設定	−
キー感度の設定	GOT の画面をタッチしたときのタッチパネルの感度を設定できます。	1 ～ 8 *1

＊ 1「キー感度」の設定と「キー反応速度」の関係

「キー感度」の設定と「キー反応速度」の関係は下記のとおりです。
•「キー感度」を小さくする：キー反応速度が速くなります。
•「キー感度」を大きくする：キー反応速度が遅くなります。

「キー感度」の設定値	8	7	6	5	4	3	2	1
「キー反応速度」[ms]	-20	-10	標準（± 0）	+10	+20	+40	+80	+120

例えば，GOT の画面を 1 回タッチしたときに 2 回タッチの動作になってしまう場合は，「キー感度」の設定を小さくしてください。（反応速度を遅くします。）

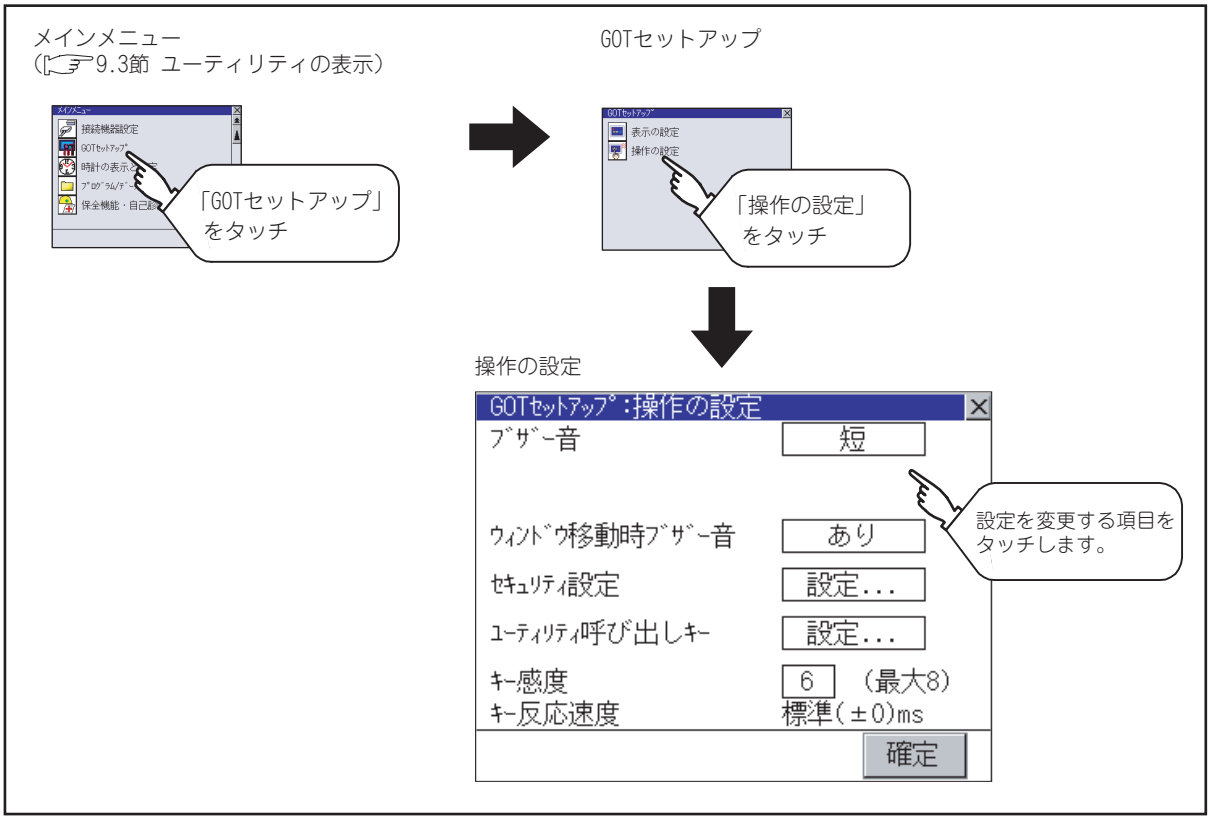
Point

作画ソフトウェアによる操作の設定

ブザー音およびウィンドウ移動時ブザー音の設定は，GT Designer2 の場合，「システム環境」の「GOT セットアップ」で行ってください。
GT Designer3 の場合，「GOT 環境設定」の「GOT セットアップ」で行ってください。
プロジェクトデータをダウンロード後に一部の設定を変更する場合には，GOT の「表示の設定」にて設定を変更してください。

☞GT Designer2 Version □ 画面設計マニュアル
GT Designer3 Version1 画面設計マニュアル（共通編）

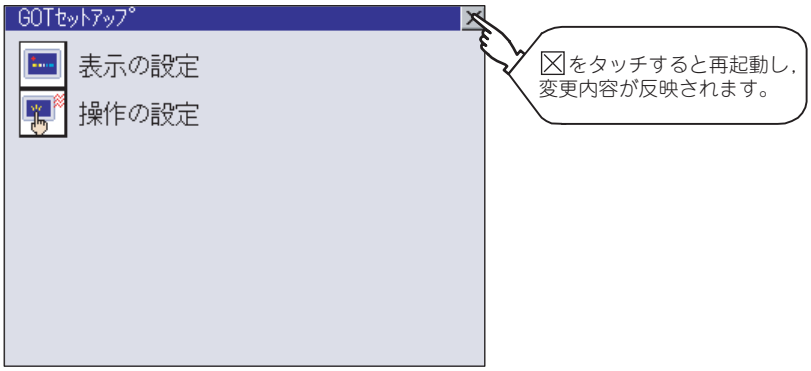
11.3.2 操作の設定の表示操作



Point

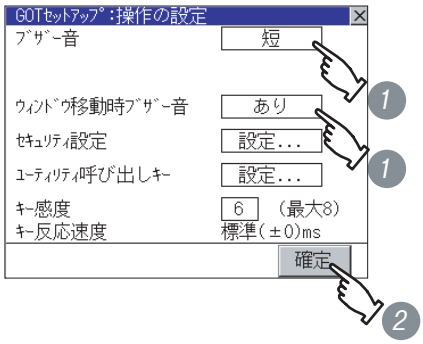
設定変更後の再起動について

各項目(セキュリティ設定を除く)の設定を変更した後,☒ボタンで GOT セットアップ画面まで表示を戻し,さらに GOT セットアップ画面で☒ボタンをタッチすると,GOT は再起動します。
再起動後は,変更した設定で動作します。
上記操作を行わず GOT の電源 OFF → ON により再起動した場合は,設定内容は反映されずに破棄されます。



11.3.3 操作の設定操作

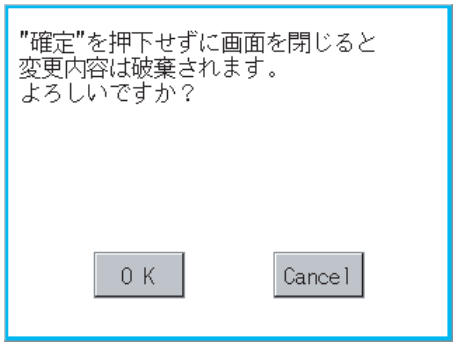
1 ブザー音，ウィンドウ移動時ブザー音



1 設定項目をタッチすると設定内容が変わります。

（ブザー音：短 → 長 → 無し
ウィンドウ移動時ブザー音：なし → あり）

2 確定 ボタンをタッチすると設定内容が決定されます。



3 確定 ボタンをタッチせずに☒ボタンをタッチすると，左記のダイアログボックスが表示されます。

OK ボタン：変更内容は破棄され，画面が閉じます。

Cancel ボタン：操作の設定画面に戻ります。

4 操作の設定で変更したい項目の設定がすべて終了した後，☒ボタンで操作設定とGOT セットアップを閉じると，GOT は再起動し，設定内容を反映します。

2 セキュリティ設定

セキュリティ設定の操作は，下記を参照してください。

☞11.4 節　セキュリティレベル変更

3 ユーティリティ呼出キー

ユーティリティ呼出キーの操作は，下記を参照してください。

☞11.5 節　ユーティリティ呼出キーの設定

4 キー感度の設定

1 設定項目をタッチするとキーボードが表示されます。

2 キーボードにより数値を入力します。

3 「キー感度」の設定に応じたキー反応速度が表示されます。

4 確定 ボタンをタッチすると設定内容が決定されます。

11.4 セキュリティレベル変更

11.4.1 セキュリティレベルの変更機能

各オブジェクトや画面切換えで設定したセキュリティレベルに変更します。
セキュリティレベルを変更するには，作画ソフトウェアで設定した変更先セキュリティレベルのパスワードを入力します。

セキュリティレベルの設定..... ☞ GT Designer2 Version □ 画面設計マニュアル
GT Designer3 Version1 画面設計マニュアル（共通編）

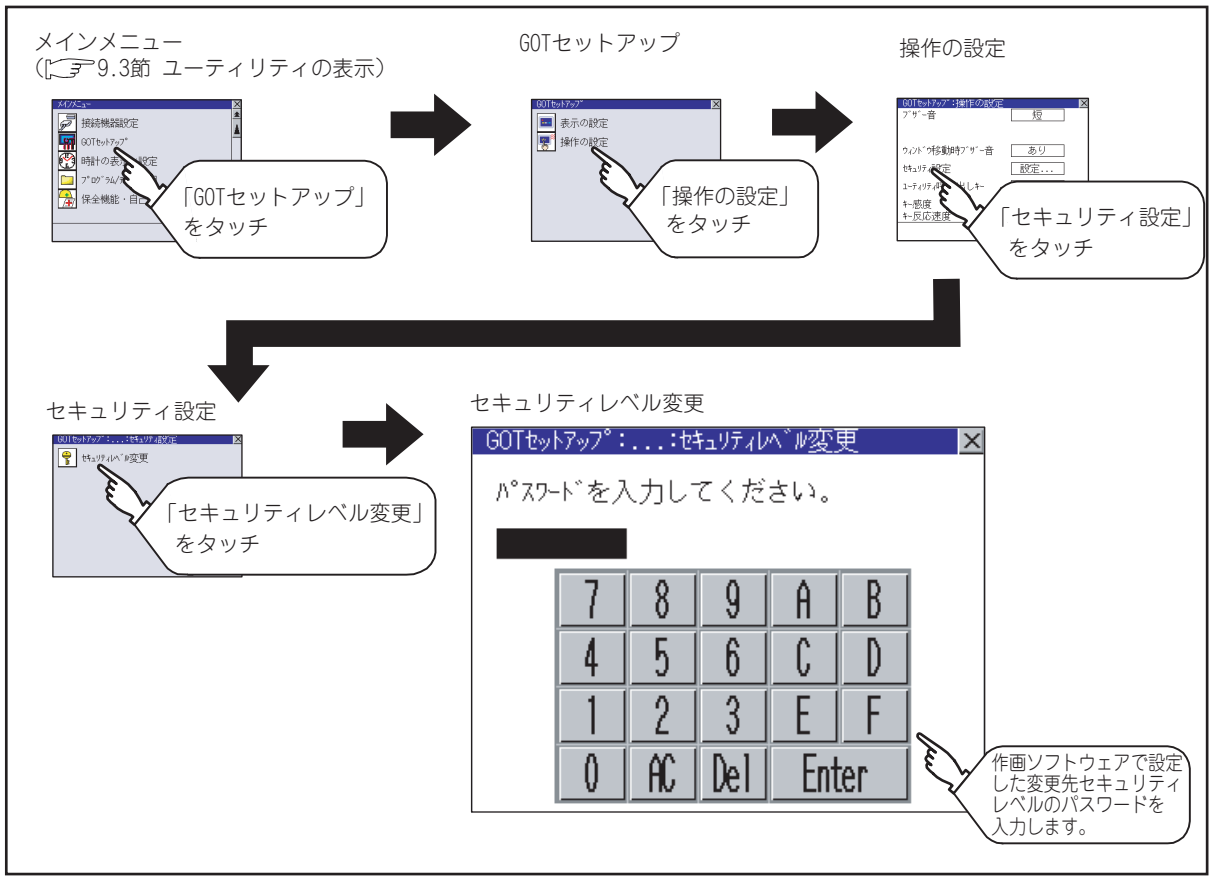
パスワード設定..... ☞ GT Designer2 Version □ 画面設計マニュアル
GT Designer3 Version1 画面設計マニュアル（共通編）

Point

画面表示に関する制約事項

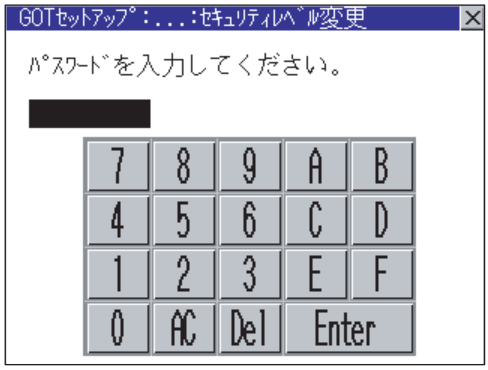
GOT にプロジェクトデータが存在しない場合，セキュリティレベル変更画面は表示できません。
プロジェクトデータを GOT にダウンロードしてから，セキュリティレベルを変更してください。

11.4.2 セキュリティ変更の表示操作



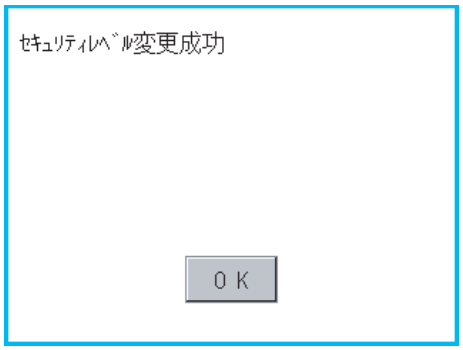
11.4.3 セキュリティレベルの変更操作

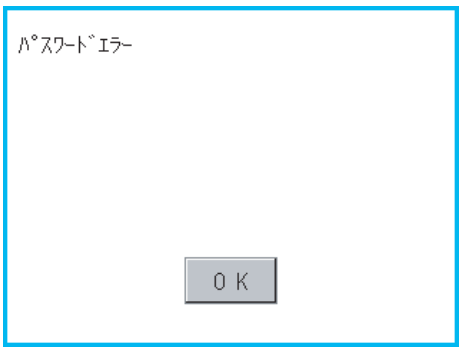
1 パスワードの入力操作



1 0 ～ 9 , A ～ F キーをタッチして変更先セキュリティレベルのパスワードを入力します。

2 入力した文字を修正する場合には，Del キーをタッチして修正する文字を削除し，再入力してください。





3 パスワードを入力後，Enter キーをタッチします。
パスワードが一致した場合には，セキュリティレベル変更成功のメッセージを表示します。
パスワードが不一致の場合には，エラーメッセージを表示します。

4 OK ボタンをタッチすると再度パスワードの入力画面に戻ります。

5 ☒ボタンをタッチすると，セキュリティ設定画面に戻ります。

備　考

セキュリティレベル一時的変更時の戻し忘れについて

セキュリティレベルを一時的に変更して GOT を使用した場合，セキュリティレベルを元のレベルに戻し忘れることのないように，注意してください。

11.5 ユーティリティ呼出キーの設定

11.5.1 ユーティリティ呼出キーの設定機能

ユーティリティのメインメニューを呼び出すための，キー位置を指定できます。
キー位置は画面 4 隅のうちから 1 点または 2 点を指定できます。
キー位置を 1 点にした場合は，誤操作によるユーティリティへの表示切換えを防止するために，画面を押しつづける時間を設定できます。
デフォルトの設定は上右隅と上左隅の 2 点です。

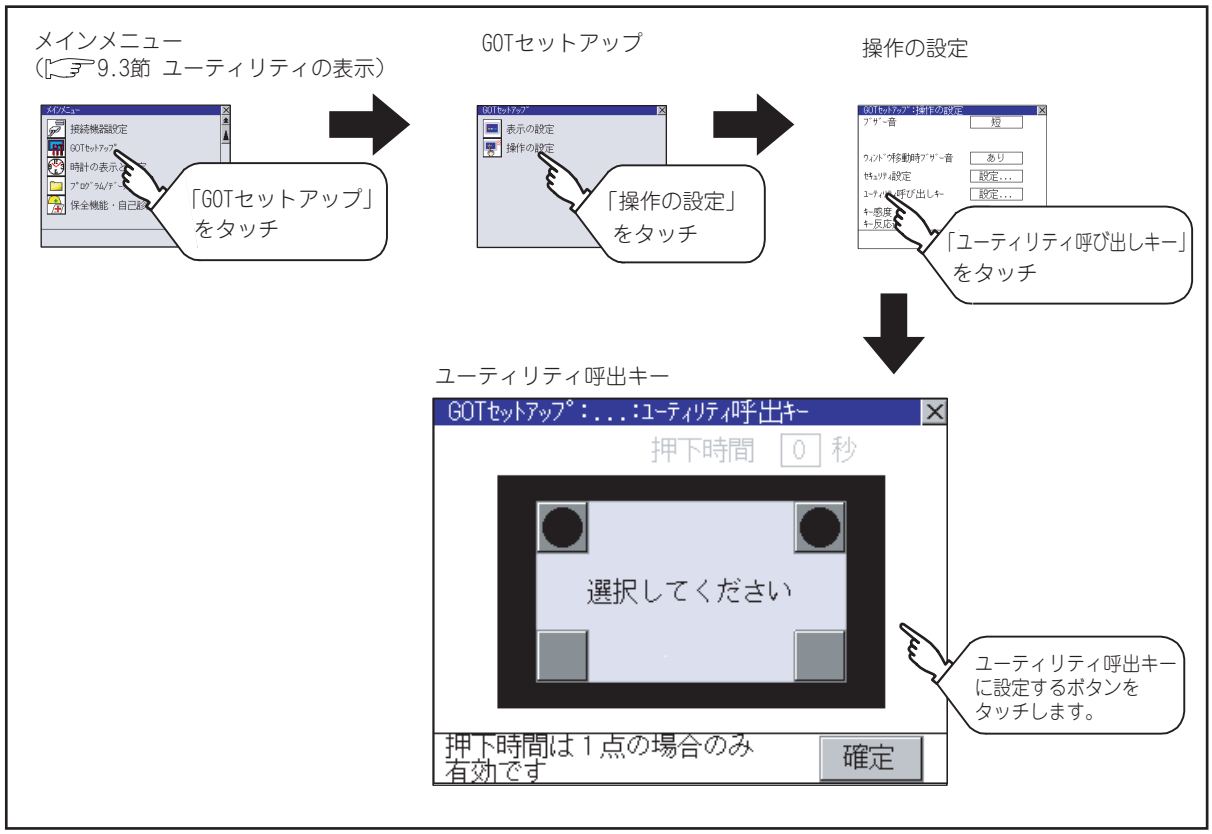
Point

作画ソフトウェアによる操作の設定

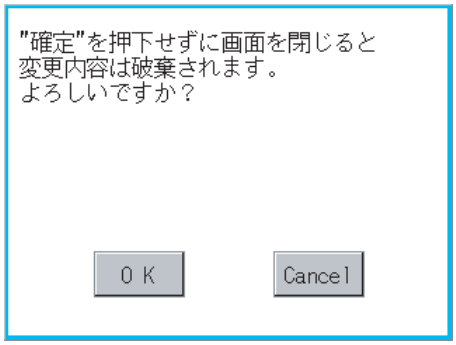
ユーティリティ呼出キーの設定は，GT Designer2 の場合，「システム環境」の「GOT セットアップ」で行ってください。
GT Designer3 の場合，「GOT 環境設定」の「GOT セットアップ」で行ってください。
プロジェクトデータをダウンロード後に一部の設定を変更する場合には，GOT の「表示の設定」にて設定を変更してください。

☞GT Designer2 Version □ 画面設計マニュアル
GT Designer3 Version1 画面設計マニュアル（共通編）

11.5.2 ユーティリティ呼出キーの表示操作



11.5.3 ユーティリティ呼出キーの設定操作



1 設定画面の 4 隅に表示される ● または □ をタッチします。
ボタンはタッチするごとに ● ⇄ □ を繰り返します。
キー位置に設定したい部分を ● にします。
また，0 点にすることもできます。

2 キー位置を 1 点に設定した場合は、キー位置を押しつづけたときにユーティリティへ切換える時間を設定できます。
時間のエリアをタッチしてください。

3 入力エリアをタッチするとキーボードが表示されます。
キーボードにより設定時間を入力してください。

4 確定 ボタンをタッチすると設定内容が決定されます。

5 確定 ボタンをタッチせずに ☒ ボタンをタッチすると，左記のダイアログボックスが表示されます。
OK ボタン：変更内容は破棄され，画面が閉じます。
Cancel ボタン：ユーティリティ呼出キー設定画面に戻ります。

6 操作の設定で変更したい項目の設定をすべて終了した後，☒ ボタンで「操作の設定」と「GOT セットアップ」画面を閉じると，GOT は再起動し，設定内容を反映します。

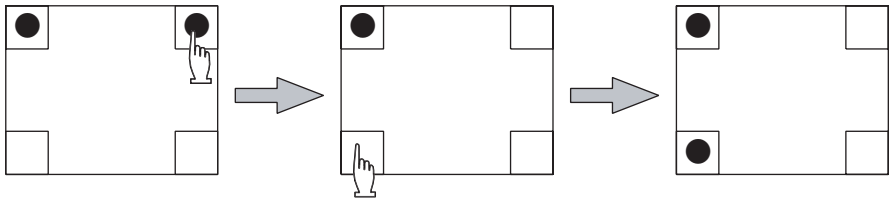
Point

(1) ● が２つの状態で別のキー位置を設定する場合

いずれか一方のキー位置を ● → □ にしてから設定を行ってください。

● は，３つ同時に設定できません。

例：左上隅と右上隅の 2 点から，左上隅と左下隅の 2 点に変更する場合



右上隅の ● を □ にする。左下隅 □ を ● にする。

(2) ユーティリティ呼出しキーを０点設定した場合

ユーティリティ画面を表示させる方法は，下記を参照してください。

- ユーザ作成画面上に設定した拡張機能スイッチを押下
- GOT の画面左上隅を押したまま電源を投入する

☞ 9.3.1 項　メインメニューの表示操作

(3) ユーティリティの表示，操作を制限する場合

ユーティリティの表示，操作するユーザを制限する場合，作画ソフトウェアで GOT にパスワードを設定してください。ユーティリティのメインメニューを表示しようとすると，パスワード入力が表示されます。
パスワード設定に関する詳細は，下記を参照してください。

☞ GT Designer2 Version □ 画面設計マニュアル
GT Designer3 Version1 画面設計マニュアル (共通編)

12章 時計の設定とバッテリの状態表示（時計の表示と設定画面）

時計の表示に関する設定項目と時刻を表示します。
また内蔵バッテリの電圧状態を表示します。

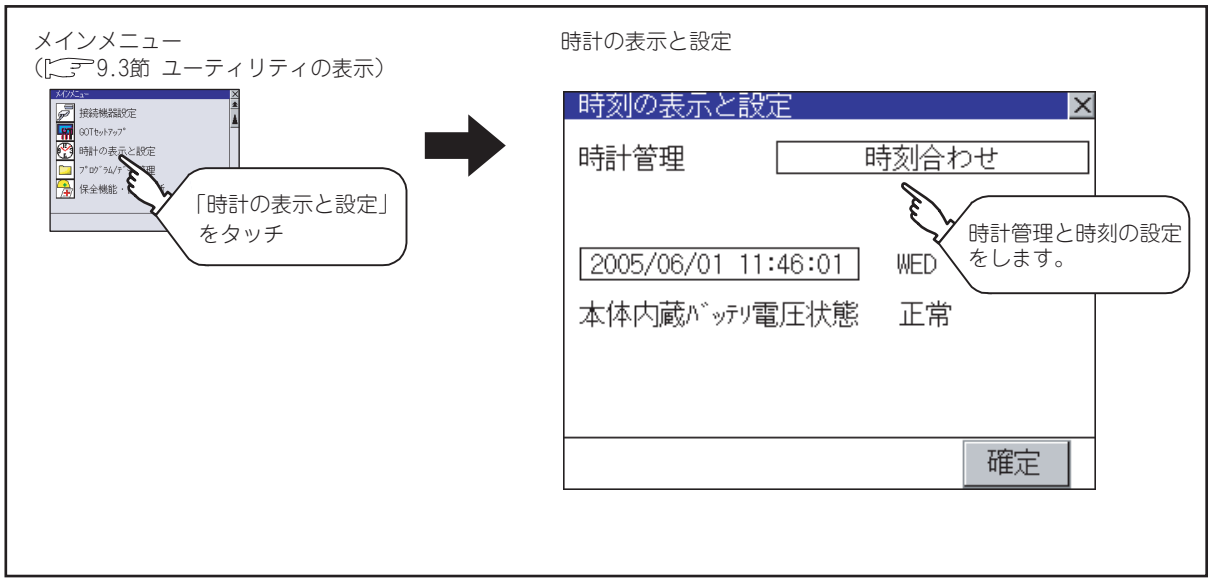
12.1 時計の表示と設定画面

12.1.1 時計の表示と設定機能

時計に関する設定と GOT 内蔵バッテリの状態表示ができます。

機能	内容	参照ページ
時計管理	GOT の時計データと接続した接続機器の時計データとで，時刻を合わせる方法を設定します。	12-2
時計表示	GOT の時計データの表示および設定を行います。	12-4
本体内蔵バッテリ電圧状態	本体内蔵バッテリの電圧状態が表示されます。	12-5

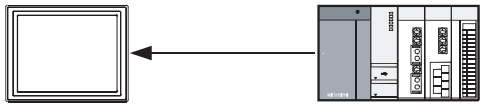
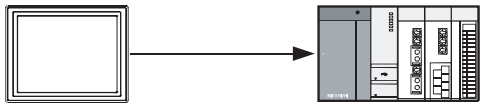
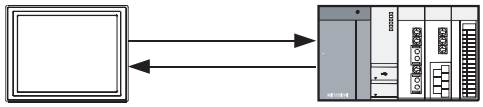
12.1.2 時計の表示と設定の表示操作

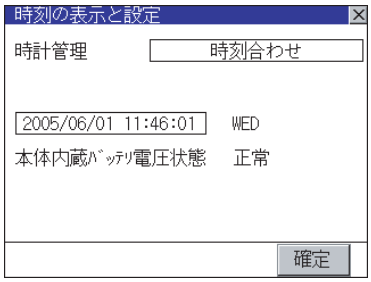


12.1.3 時計の設定操作

1 時計管理

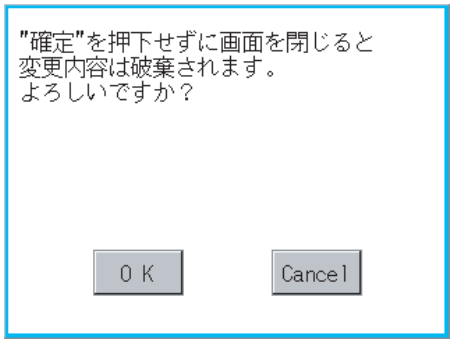
GOT の時計データと接続した接続機器の時計データとで，時刻を合わせる方法を設定します。

設定	内容
時刻合わせ	GOT の時計データを接続機器の時計データに合わせます。  GT Designer2 では，「システム環境」の「GOT セットアップ」で設定した場合と同じです。 GT Designer3 では，「GOT 環境設定」の「GOT セットアップ」で設定した場合と同じです。 ☞ GT Designer2 Version □ 画面設計マニュアル GT Designer3 Version1 画面設計マニュアル（共通編）
時刻通知	接続機器の時計データを GOT の時計データに合わせます。  GT Designer2 では，「システム環境」の「GOT セットアップ」で設定した場合と同じです。 GT Designer3 では，「GOT 環境設定」の「GOT セットアップ」で設定した場合と同じです。 ☞ GT Designer2 Version □ 画面設計マニュアル GT Designer3 Version1 画面設計マニュアル（共通編）
時刻合わせ／時刻通知	時刻合わせ，時刻通知の使い分けができます。  GT Designer2 では，「システム環境」の「GOT セットアップ」で設定した場合と同じです。 GT Designer3 では，「GOT 環境設定」の「GOT セットアップ」で設定した場合と同じです。 ☞ GT Designer2 Version □ 画面設計マニュアル GT Designer3 Version1 画面設計マニュアル（共通編）
未使用	時計データの時刻を合わせません。



1 設定項目をタッチすると設定内容が変わります。
（時刻合わせ → 時刻通知 → 時刻合わせ／時刻通知 → 未使用）

2 確定 ボタンをタッチすると設定内容が決定されます。



3 確定 ボタンをタッチせずに☒ボタンをタッチすると，左記のダイアログが表示されます。
OK ボタン：設定内容は破棄され，画面が閉じます。
Cancel ボタン：時刻の表示と設定画面に戻ります。

4 ☒ボタンをタッチすると，GOT は再起動します。
再起動後，変更した設定で動作します。

Point

(1) 時計機能を持たない外部機器と接続時

時計機能を持たない外部機器（シーケンサやマイコン）と接続時，時計管理で“時刻合わせ”，または“時刻通知”の設定を行った場合，時計データの時刻を合わせません。
時計機能を持っているシーケンサの一覧は，下記を参照してください。

☞GT Designer2 Version□ 画面設計マニュアル
GOT1000 シリーズ　接続マニュアル（GT Works3 対応）
（三菱電機機器接続編），（他社機器接続編 1），（他社機器接続編 2），
（マイコン，MODBUS，周辺機器接続編）

(2) 時計管理の設定とバッテリ

時計管理で「時刻通知」や「未使用」を選択した場合，GOT のバッテリが正常な状態であることが必要です。

本項の 3 本体内蔵バッテリ状態表示によりバッテリの状態を確認してください。

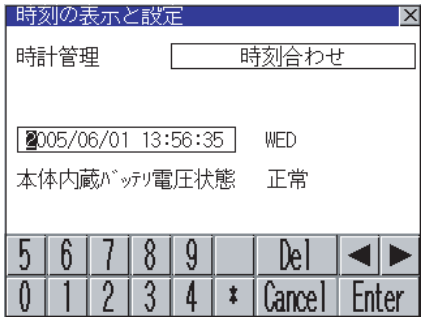
(3) 作画ソフトウェアによる操作の設定

時計管理の設定は，GT Designer2 の場合，「システム環境」の「GOT セットアップ」で行ってください。
GT Designer3 の場合，「GOT 環境設定」の「GOT セットアップ」で行ってください。
プロジェクトデータをダウンロード後に一部の設定を変更する場合には，GOT の「表示の設定」にて設定を変更してください。

☞GT Designer2 Version□ 画面設計マニュアル
GT Designer3 Version1 画面設計マニュアル（共通編）

2 時計表示

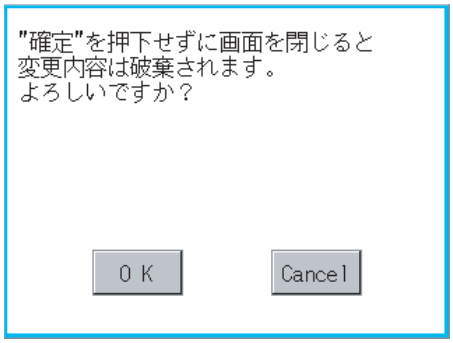
GOT の時計データの表示と設定を行います。
時計データの設定時は，時計管理の設定に関係なく GOT と接続機器の時計データを変更します。
時計データの設定方法を下記に示します。



1 時計表示をタッチすると，入力用のキーボードが表示され，時計の更新が止まります。

2 下表を参照してキーボードを操作し，時刻を入力します。
入力した時刻は 3 の操作で時計データに反映されるので，3 の操作を行う予定時刻を入力してください。
曜日の表示は，入力された時刻に対応し，自動的に表示されます。

キー	内容
0 ～ 9 キー	カーソルの位置に数値を入力します。
◀ / ▶ キー	カーソルを移動します。
Del キー	年，月，日，時，分，秒の各項目を入力中に Del キーをタッチした場合は，カーソルを一文字分左に移動します。 入力中以外に Del キーをタッチした場合は，何もしません。
Enter キー	入力された時刻を時計表示に表示したまま，キーボードを閉じます。 キーボードを閉じても時計表示の更新は再開しません。 3 の操作を行うと再開します。
Cancel キー	入力された時刻を破棄し，時計表示の時刻をキーボードが表示されたときの時刻に戻して，キーボードを閉じます。 キーボードを閉じても時計表示の更新は再開しません。 3 の操作を行うと再開します。



3 確定 ボタンをタッチすると，設定内容が反映され，時計表示の更新を再開します。
このとき，GOT の時計データと外部機器の両方に設定内容が反映されます。

4 ☒ ボタンをタッチすると，時計管理の設定を変更した場合は再起動し，時計管理の設定を変更していない場合は画面が閉じます。
確定 ボタンをタッチせずに ☒ ボタンをタッチすると，左記のダイアログが表示されます。
OK ボタン：変更内容は破棄され，画面が閉じます。
Cancel ボタン：時刻の表示と設定画面に戻ります。

3 本体内蔵バッテリ状態表示

バッテリの電圧状態が表示されます。

表示	状態
正常	正常時
低下 / なし	電圧低下発生時

バッテリ電圧低下時は速やかにバッテリを交換してください。
バッテリの交換手順は下記を参照してください。

☞8.4 節　バッテリについて

13章 ファイルの表示とコピー（プログラム/データ管理）

GOT や CF カードに書き込まれている OS，プロジェクトデータ，アラームデータの表示や GOT と CF カード間のデータ転送が行えます。
また，CF カードのフォーマットもできます。

13.1 データの保存先

13.1.1 ドライブ名の割り付け

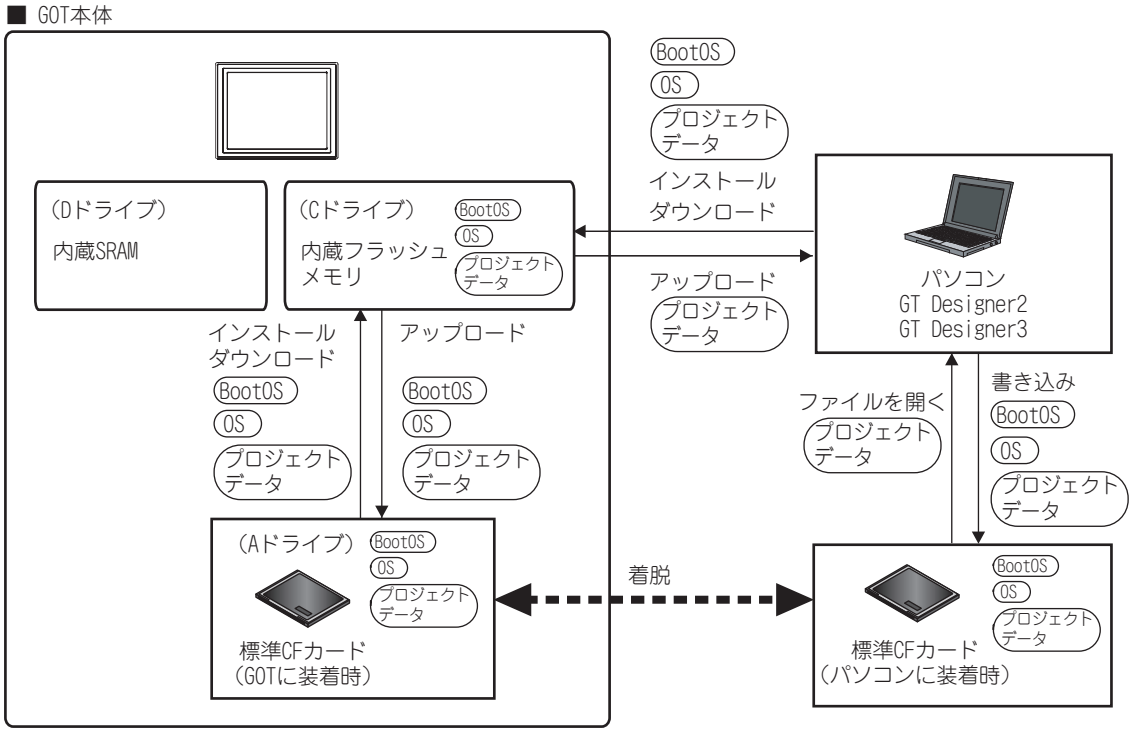
GOT では標準 CF カードや内蔵フラッシュメモリ，内蔵 SRAM に下記のドライブ名（A ドライブ，C ドライブ，D ドライブ）が割り付けられています。

ドライブ名	割り付け
A ドライブ	標準 CF カード
C ドライブ	内蔵フラッシュメモリ
D ドライブ	内蔵 SRAM

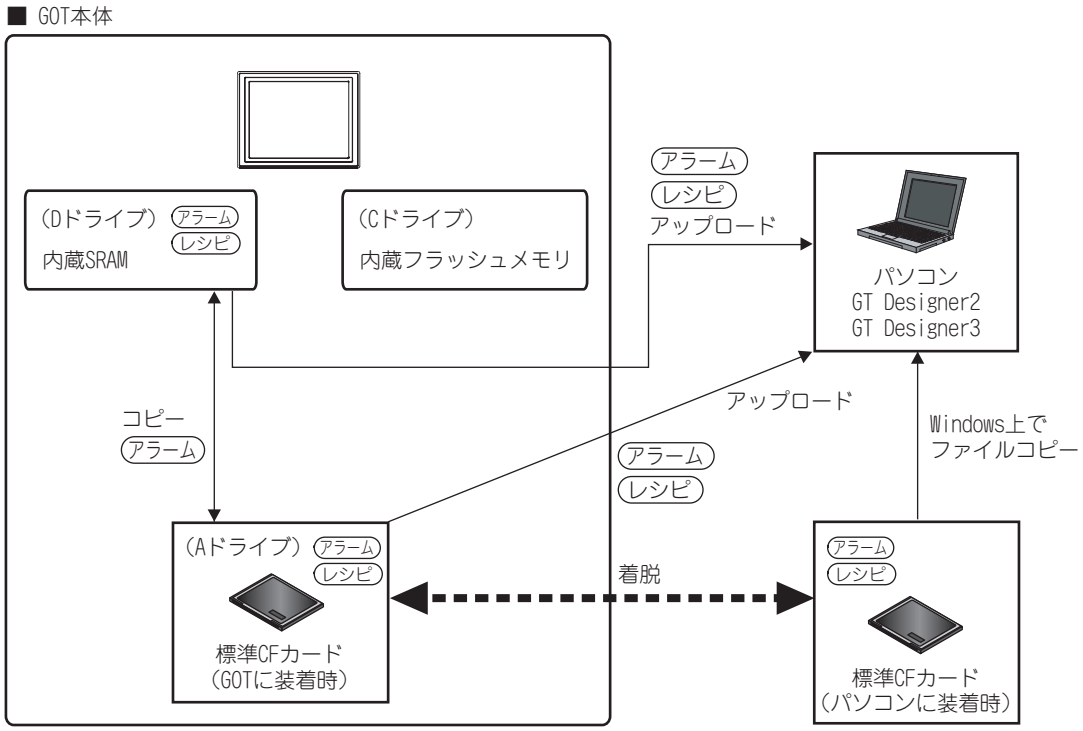
13.1.2 データの種類と格納先

1 システム立上げ時

データの種類ごとに，データの格納先と転送 (書込み / 読出し) 経路を下記に示します。



2 メンテナンス時



内蔵フラッシュメモリのデータ (プロジェクトデータなど) は，バッテリ電圧が低下した場合でも保持されます。

	データの種類	格納先
BootOS	BootOS	内蔵フラッシュメモリ（C ドライブ）
OS	基本機能 OS	
	通信ドライバ	
	拡張機能 OS	
	オプション機能 OS	
プロジェクトデータ	プロジェクトデータ （レシピ設定，アラーム条件，タイムアクション，GOT セットアップを含む）	内蔵フラッシュメモリ（C ドライブ）*1
アラーム	アラームデータ (アラームログファイル)	内蔵 SRAM（D ドライブ） 標準 CF カード（A ドライブ）
レシピ	レシピデータ	

＊1 プロジェクトデータは，内蔵フラッシュメモリ (C ドライブ) のみ起動できます。
標準 CF カード (A ドライブ) からは起動できません。

Point **メモリカード内のフォルダ・ファイルについて**

OS・プロジェクトデータをメモリカード内に転送した際，複数のフォルダやファイルが生成されます。
これらのフォルダやファイルは GOT が管理するため，削除 / 編集しないようにしてください。
フォルダやファイルを削除 / 編集した場合，GOT は正常に動作しなくなります。

13.1.3 OS バージョンの確認

BootOS，基本機能 OS のインストール時は，OS のバージョンに注意が必要です。
OS のインストール時，GOT は自動的に OS のバージョンを比較チェックします。

(1) BootOS インストール時

インストール対象 BootOS のメジャーバージョンが古い場合，古いバージョンに書き換えられるのを防ぐためにインストール不可メッセージを表示し，インストールを中止します。
（バージョンが同じ，もしくは新しい場合でも，バージョン情報と，継続する・しないを選択するダイアログが表示されます。）
標準 CF カードからのインストール時は，本体でダイアログ表示します。
作画ソフトウェアで USB・RS-232 からインストール時は，作画ソフトウェアでダイアログを表示します。

(2) 基本機能 OS，通信ドライバ，オプション機能 OS インストール時

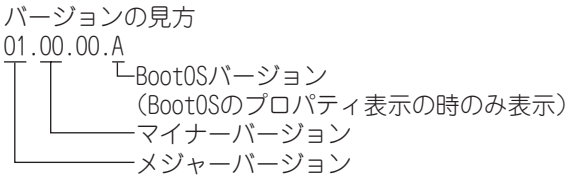
基本機能 OS，通信ドライバ，オプション機能 OS が既にインストールされている場合，インストール済 OS のバージョン情報と，継続する・しないを選択するダイアログが表示されます。
また，OS のインストールによって全 OS(基本機能 OS，通信ドライバ，オプション機能 OS) 間でバージョンの混在が発生する場合には，インストール不可を示すダイアログを表示し，インストール処理を中断します。

(3) プロジェクトデータダウンロード時

GOT はダウンロードするプロジェクトデータと，既にインストール済の OS とのバージョンを自動的に比較します。
バージョンが異なる場合は，OS もあわせてインストールするかどうかを確認するダイアログが表示されます。

CF カードからプロジェクトデータをダウンロードする場合は，あらかじめプロジェクトデータと OS を格納しておくことをお勧めします。

各 OS のバージョンは OS 情報画面のプロパティ表示によって確認できます。



画面の表示操作は，下記を参照してください。

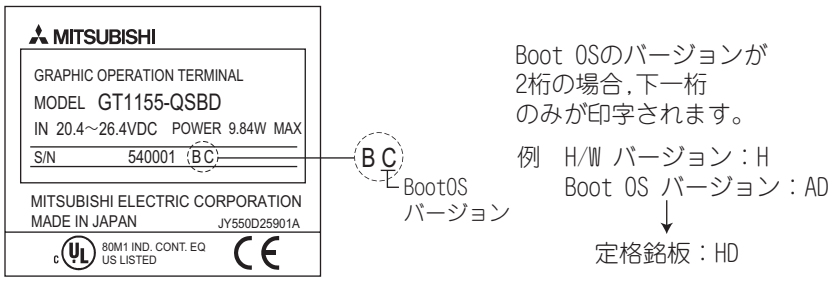
☞13.2 節　OS 情報

Point

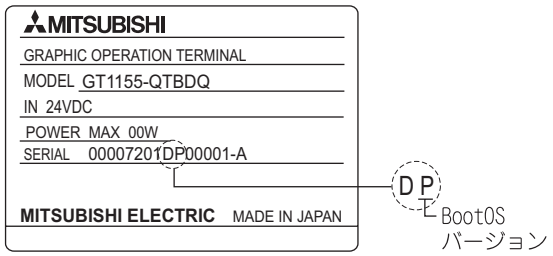
定格銘板による BootOS のバージョン確認について

製品出荷時に GOT にインストールされている BootOS のバージョンは，GOT 背面の定格銘板で確認してください。

(a) GT1155-QTBD，GT1155-QSBD，GT1150-QLBDの場合



(b) GT1155-QTBDQ，GT1155-QTBDA，GT1155-QSBDQ，
GT1155-QSBDA，GT1150-QLBDQ，GT1150-QLBDAの場合



13.1.4 表示ファイル

各データの表示画面と格納先を以下に示します。
ユーティリティでは , プロパティ表示により , 各データのファイル名と内容を表示できます。

項目			表示画面	格納先 (ドライブ名 / フォルダ名)
BootOS			OS 情報画面	内蔵フラッシュメモリ　C:￥G1BOOT￥*3
基本機能	基本 OS システム画面データ			内蔵フラッシュメモリ　C:￥G1SYS￥*3
	基本 OS システム画面管理情報ファイル			
	基本 OS（モニタ機能）*1			
		6 × 8 ドットフォント（ASCII 文字 ）		
		12 ドット数字高品位フォント		
		16 ドット数字高品位フォント		
	TrueType 数字フォント			
	12 ドット標準フォント			
	16 ドット標準フォント			
拡張機能				
オプション機能				
通信ドライバ				
プロジェクトデータ*2			プロジェクト 情報画面	内蔵フラッシュメモリ　C:￥PROJECT1￥*3*4
	ユーザ画面データ			
	コメントデータ			
	12 ドット高品位フォント (明朝 / ゴシック)			
	16 ドット高品位フォント (明朝 / ゴシック)			
	TrueType（明朝 / ゴシック）			
リソースデータ	アラームログファイル　CSV ファイル		アラーム 情報画面	内蔵 SRAM　D:￥または A:￥ 作画ソフトウェアで任意にフォルダ名を指定できます。 ファイル名は ALARMHST.CSV に固定です。

＊1 6 × 8 ドットフォント，12 ドット数字高品位フォント，16 ドット数字高品位フォントは，基本 OS として表示します。
＊2 ユーザ画面データ，コメントデータや各フォントデータは，プロジェクトデータとして表示します。
＊3 各フォルダは，各ファイルのインストール，ダウンロード，およびアップロード時に自動的に作成されます。
＊4 フォルダ名およびファイル名は，GT Designer2 の場合，「システム環境」の「システム設定」で設定できます。
GT Designer3 の場合，「共通の設定」の「GOT 機種設定」で設定できます。

☞ GT Designer2 Version □ 画面設計マニュアル
GT Designer3 Version1 画面設計マニュアル（共通編）

13.2 OS 情報

13.2.1 OS 情報の機能

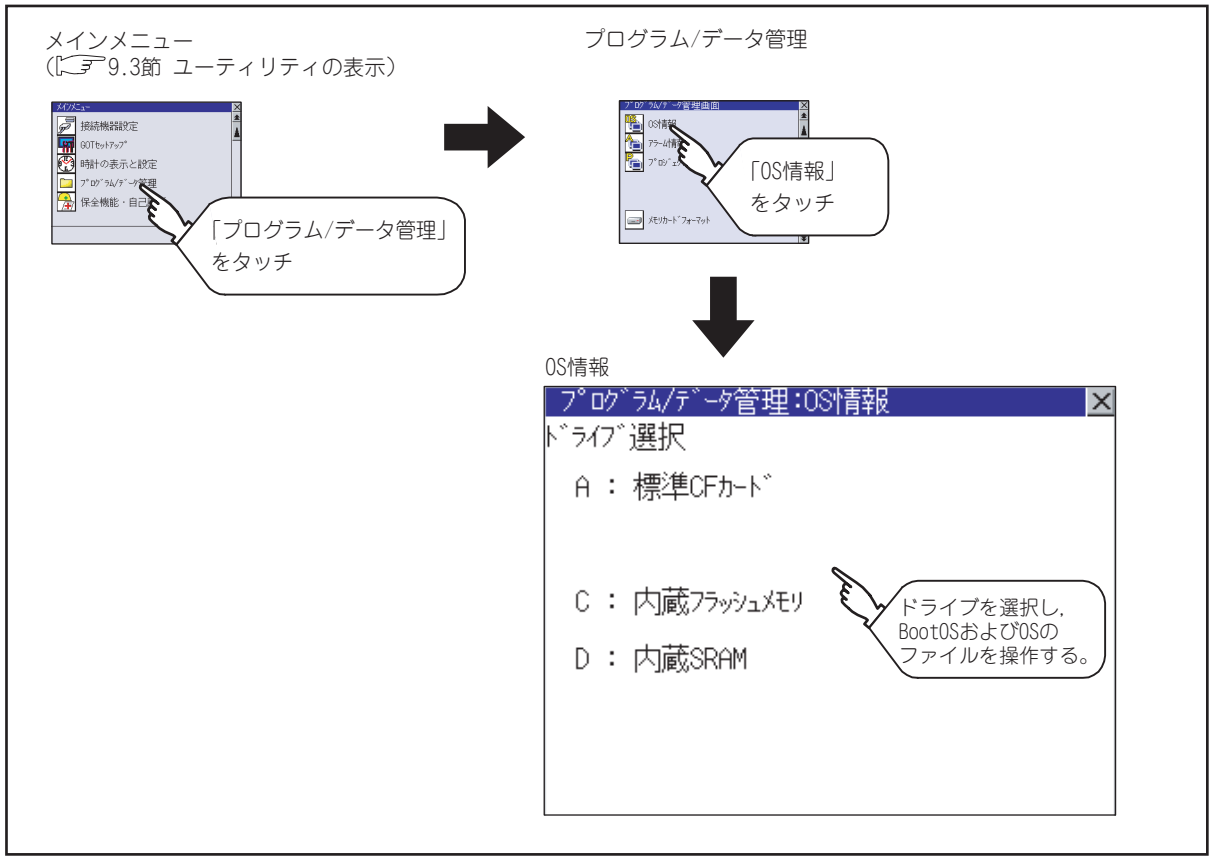
各ドライブ（A: 標準 CF カード，C: 内蔵フラッシュメモリ）が保持している BootOS および OS（基本機能 OS，通信ドライバ，オプション機能 OS）の各ファイル名 / フォルダ名をリスト表示できます。
また，各ファイルのインストール，アップロードなどができます。

機能	内容	参照ページ
ファイル，フォルダの情報表示	ファイルやフォルダの種類と名称，データサイズ，作成日時を表示します。	13-7, 13-8
インストール	A ドライブ（標準 CF カード）に書き込まれているすべての OS ファイルを C ドライブ（内蔵フラッシュメモリ）にインストールできます。	13-9
アップロード	C ドライブ（内蔵フラッシュメモリ）のすべての OS ファイルを A ドライブ（標準 CF カード）にアップロードできます。	13-10
プロパティ表示	ファイルのプロパティ（ファイル名，データサイズ，種別，バージョン，作成日付）を表示します。	13-11
データチェック	ファイルのデータチェックが行えます。	13-12

Point **OS インストール時の注意事項**

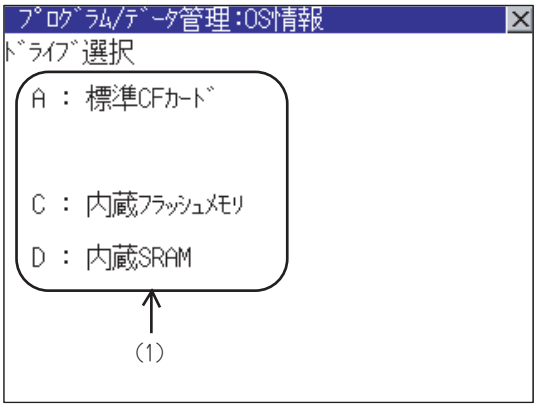
Boot OS や基本 OS をインストールすると，GOT 内のプロジェクトデータなどが削除されます。
Boot OS や基本 OS をインストール後は，必要なデータを再度インストール / ダウンロードしてください。

13.2.2 OS 情報画面表示操作

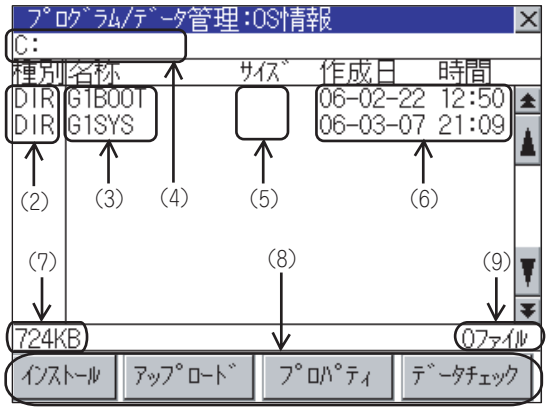


13.2.3 OS 情報表示例

OS情報画面



OS情報画面　保存ファイル/フォルダ表示画面



番号	項目	内容
(1)	ドライブ選択	ファイルやフォルダの表示を行う対象ドライブを選択できます。 CF カードが装着されていない場合，「A: 標準 CF カード」は表示されません。
(2)	種別	表示されている名称がファイルなのかフォルダなのかを表示します。 ファイルの場合は拡張子，フォルダの場合は DIR と表示します。
(3)	名称	選択されたドライブまたはフォルダが保持しているファイル名やフォルダ名が表示されます。 ファイル名やフォルダ名が 20 文字を超える場合，21 文字目からは表示されません。
(4)	パス名	現在表示されているドライブ / フォルダのパス名が表示されます。
(5)	サイズ	名称に表示されたファイルのサイズを表示します。
(6)	作成日，時間	各ファイルをインストールした日時が表示されます。
(7)	ドライブのサイズ	ドライブ選択で選択したドライブの，使用中のサイズを表示します。
(8)	操作スイッチ	OS 情報画面で行える各機能 (インストール，アップロードなど) の実行スイッチ
(9)	ファイル数	表示しているファイルの合計を表示します。

備　考

表示されるフォルダとファイル

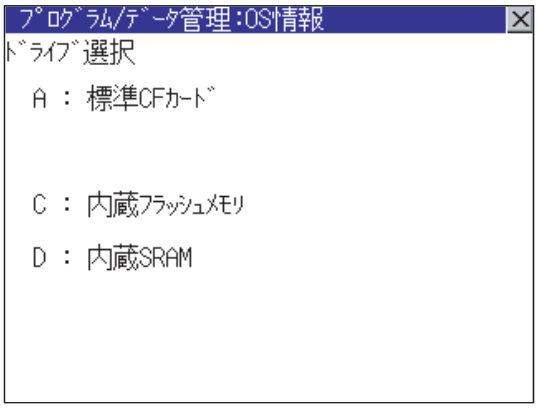
表示されるフォルダとファイルの詳細は，下記を参照してください。

☞ 13.1.4 項　表示ファイル

13.2.4 OS 情報の操作

1 OS 情報の表示操作

OS情報画面



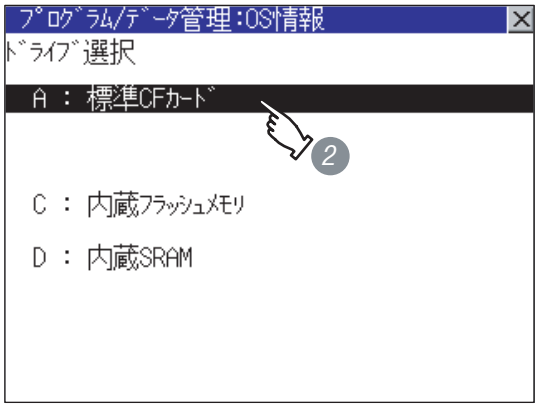
OS情報画面　保存ファイル/フォルダ表示画面

1. ドライブ選択のドライブをタッチすると，タッチしたドライブの先頭フォルダ内の情報が表示されます。
2. フォルダの名称をタッチすると，タッチしたフォルダ内の情報が表示されます。
3. 名称が「. .」のフォルダをタッチすると，1 階層上のフォルダ内の情報が表示されます。
4. スクロールバーの ▲ ▼ ボタンをタッチすると，1 行ずつ上下にスクロールします。
   ⏫ ⏬ ボタンをタッチすると 1 画面分上下にスクロールします。
5. ファイルの名称をタッチすると，ファイルを選択して反転表示されます。
6. インストール，アップロード，プロパティ，データチェックの操作については，下記を参照してください。
   インストール ..... ☞ 本項 2
   アップロード ..... ☞ 本項 3
   プロパティ ..... ☞ 本項 4
   データチェック ..... ☞ 本項 5
7. ☒ ボタンをタッチすると，画面を閉じます。

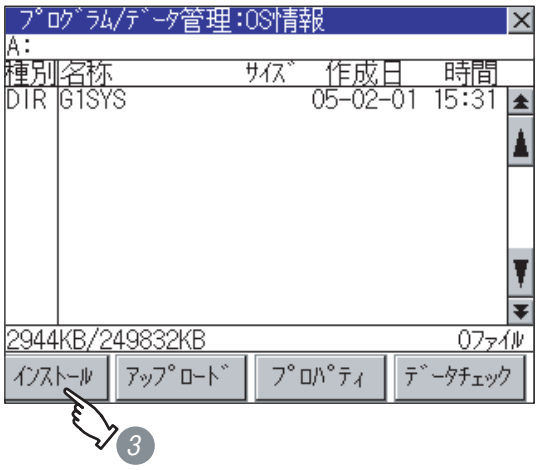
2 インストール操作

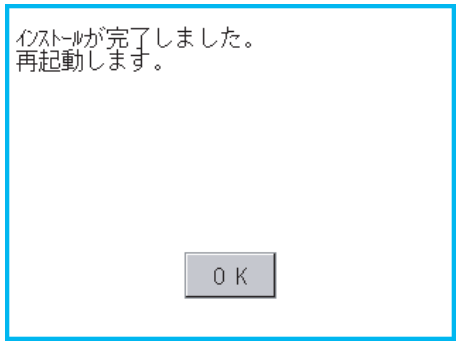
A ドライブ（標準 CF カード）に書き込まれた BootOS および OS を GOT にインストールできます。

OS情報画面



OS情報画面　保存ファイル/フォルダ表示画面





1 BootOS または OS を書き込んだ CF カードを GOT に装着します。
CF カードの着脱方法は，下記を参照してください。
☞ 8.1 節　CF カードについて

2 ドライブ選択で「A: 標準 CF カード」をタッチします。

3 インストール ボタンをタッチすると，インストールを開始します。

4 インストールが完了すると，左記ダイアログが表示されます。
OK ボタンをタッチすると，GOT を再起動します。

3 アップロード操作

C ドライブ（内蔵フラッシュメモリ）の BootOS および OS を A ドライブ（標準 CF カード）へアップロードできます。
アップロード後の CF カードは他の GOT への OS インストールに使用できます。

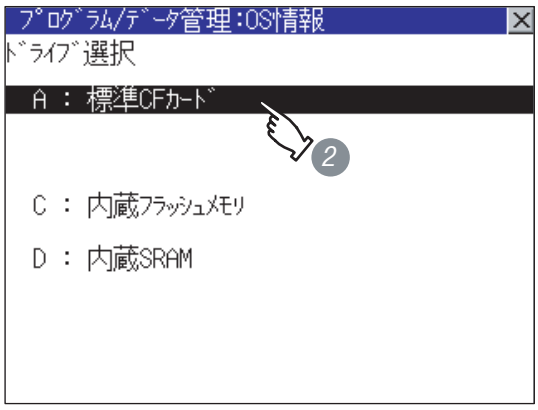
☞16 章 CoreOS，BootOS，基本機能 OS のインストール

1 アップロード先に使用する CF カードを GOT に装着します。
CF カードの着脱方法は，下記を参照してください。
☞ 8.1 節　CF カードについて

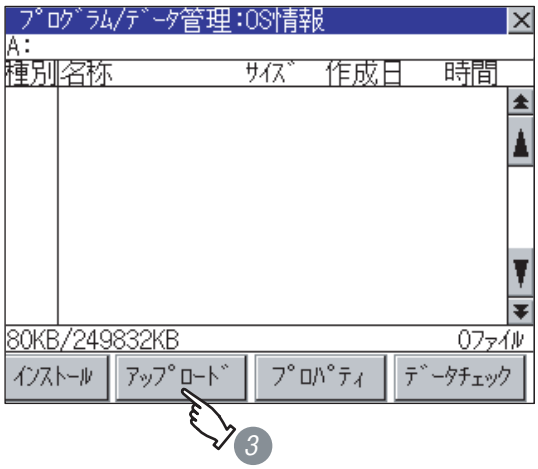
2 ドライブ選択で「A: 標準 CF カード」をタッチします。

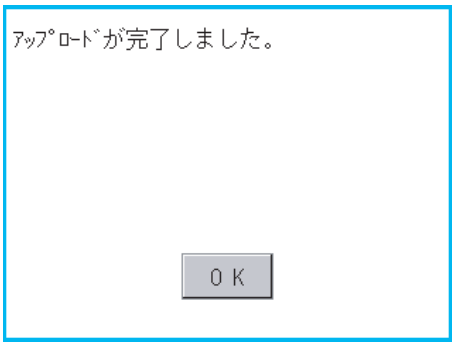
3 アップロード ボタンをタッチすると，アップロードを開始します。

OS情報画面



OS情報画面　保存ファイル/フォルダ表示画面

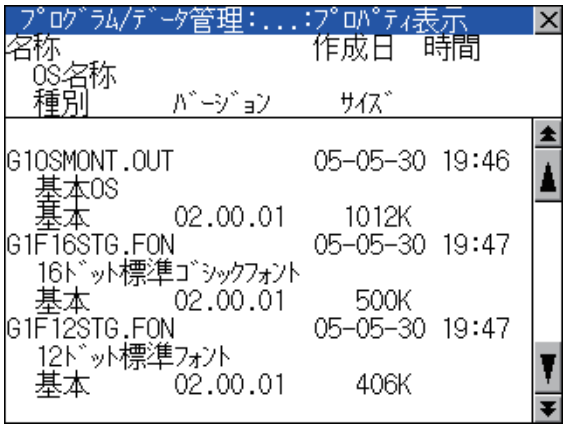




4 アップロードが完了すると，左記ダイアログが表示されます。
OK ボタンをタッチすると，ダイアログを閉じます。

4 プロパティ表示操作

選択したフォルダ内に含まれるファイルのプロパティを表示します。



1 プロパティ表示対象フォルダを選択した後，[プロパティ]ボタンをタッチすると，左記のプロパティ表示が表示されます。
プロパティ表示では，1 で選択したフォルダ内のファイルごとに下記の情報を表示します。

項目	内容
名称	ファイル名を表示します。
種別	ファイルの種類に応じて下記を表示します。 Boot : BootOS 基本 : 基本機能 OS 通信 : 通信ドライバ オプション: オプション機能 OS 拡張 : 拡張機能 OS
バージョン	BootOS および OS のバージョンを表示します。
作成日，時間	ファイルの作成日時を表示します。
サイズ	ファイルサイズを表示します。

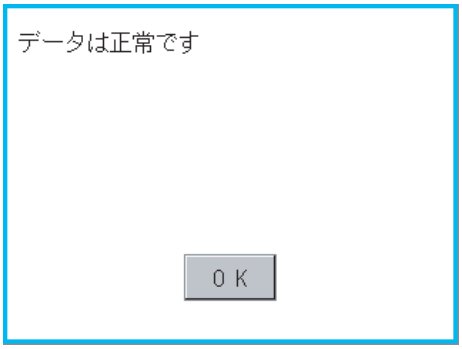
2 スクロールバーの[▲][▼]ボタンをタッチすると，1 行ずつ上下にスクロールします。
[⏫][⏬]ボタンをタッチすると 1 画面分上下にスクロールします。

3 [☒]ボタンをタッチすると 1 つ前の画面表示へ戻ります。

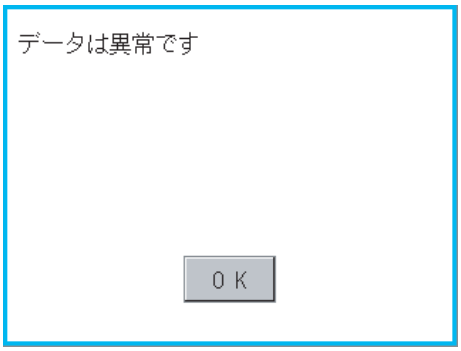
5 データチェック操作

選択したシステムファイルのデータチェックを行います。

データが正常である場合



データに異常がある場合



1. データチェック対象ファイルを選択状態にした後，[データチェック] ボタンをタッチしてください。
   データチェックを実行した後，左記のダイアログでデータチェック結果が表示されます。

2. [OK] ボタンをタッチするとダイアログを閉じます。

3. データチェックを失敗した場合，対象ファイルが壊れている可能性があります。
   対象ファイルを再度インストールしてください。
   インストールの操作に関する詳細は，下記を参照してください。

   ☞ 16 章 CoreOS，BootOS，基本機能 OS のインストール

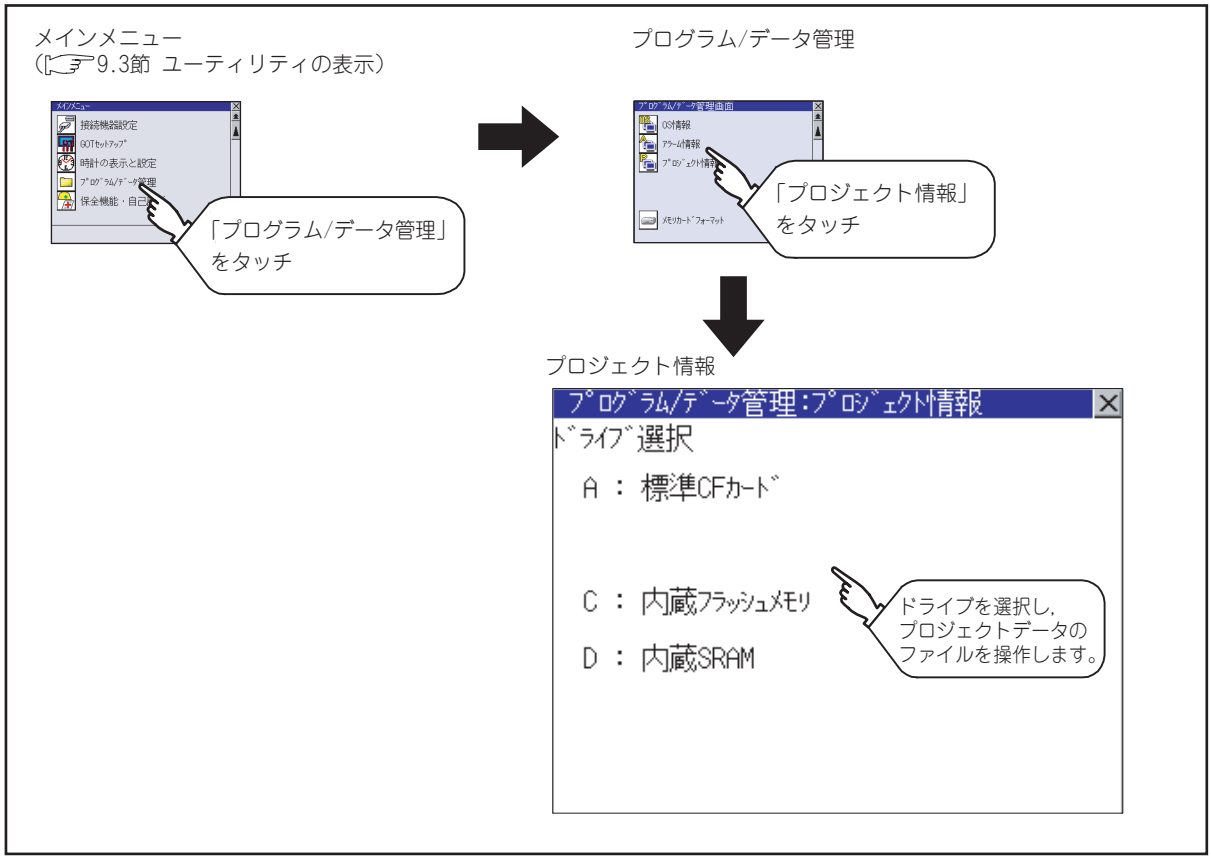
13.3 プロジェクト情報

13.3.1 プロジェクト情報の機能

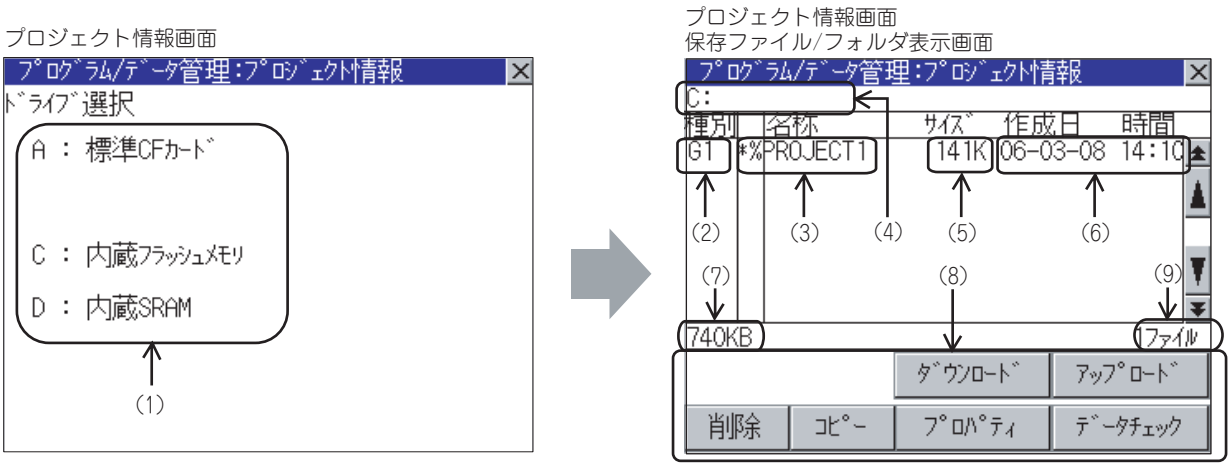
各ドライブ (A: 標準 CF カード，C: 内蔵フラッシュメモリ) が保持しているプロジェクトデータのファイルをリスト表示できます。
また，各ファイルのダウンロード，アップロード，削除，コピーなどができます。

機能	内容	参照ページ
ファイル，フォルダの情報表示	ファイルやフォルダの種類と名称，データサイズ，作成日時を表示します。	13-14，13-15
削除	プロジェクトデータを削除します。	13-16
コピー	プロジェクトデータをコピーします。(A ドライブから A ドライブのみコピーできます)	13-17
プロパティ表示	プロジェクトデータを作成した日付，作成者名，作画ソフトウェアのバージョンを表示します。	13-18
データチェック	ファイルのデータチェックが行えます。	13-19
ダウンロード	A ドライブ (標準 CF カード) に書込まれているプロジェクトデータを C ドライブ (内蔵フラッシュメモリ) にダウンロードします。	13-20
アップロード	C ドライブ (内蔵フラッシュメモリ) に書込まれているプロジェクトデータを A ドライブ (標準 CF カード) にアップロードします。	13-22

13.3.2 プロジェクト情報の表示操作



13.3.3 プロジェクト情報の表示例



番号	項目	内容
(1)	ドライブ選択	ファイルやフォルダの表示を行う対象ドライブを選択できます。 CF カードが装着されていない場合，「A: 標準 CF カード」は表示されません。
(2)	種別	表示されている名称がファイルなのかフォルダなのかを表示します。 ファイルの場合は拡張子，フォルダの場合は DIR と表示します。
(3)	名称	選択されたドライブまたはフォルダが保持しているファイル名やフォルダ名を表示します。 ファイル名やフォルダ名が 18 文字を超える場合，19 文字目からは表示されません。 表示されているプロジェクトデータが GOT でモニタ対象となるファイルの場合，ファイル名の前に“%”を表示します。 表示されているプロジェクトデータが現在，表示するデータとして選択されているファイルの場合，ファイル名の前に“*”を表示します。
(4)	パス名	現在表示されているドライブ / フォルダのパス名を表示します。
(5)	サイズ	名称に表示されたファイルのサイズを表示します。
(6)	作成日，時間	各ファイルをインストールした日時を表示します。
(7)	ドライブのサイズ	ドライブ選択で選択したドライブの，使用中のサイズを表示します。
(8)	操作スイッチ	プロジェクト情報で行える各機能 (ダウンロード，アップロードなど) の実行スイッチを表示します。
(9)	ファイル数	表示しているファイルの合計を表示します。

備　考

表示されるフォルダとファイル

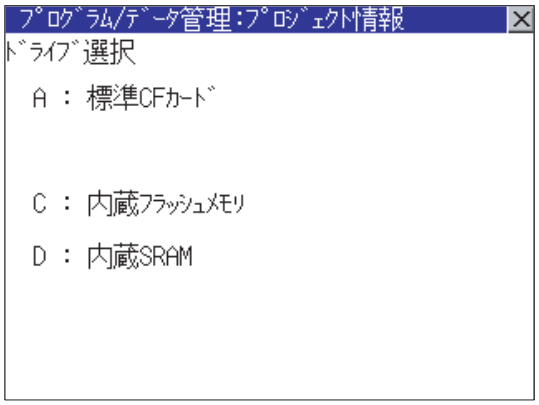
表示されるフォルダとファイルの詳細は，下記を参照してください。

☞ 13.1.4 項　表示ファイル

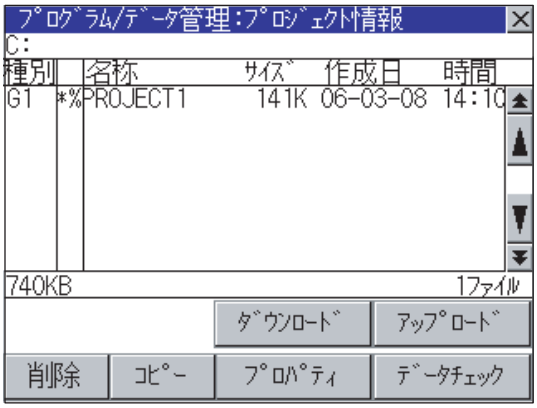
13.3.4 プロジェクト情報の操作

1 プロジェクト情報の表示操作

プロジェクト情報画面



プロジェクト情報画面　保存ファイル/フォルダ表示画面



(1) ドライブ選択のドライブをタッチすると，タッチしたドライブの先頭フォルダ内の情報が表示されます。

(2) フォルダの名称をタッチすると，タッチしたフォルダ内の情報が表示されます。

(3) 名称が「. .」のフォルダをタッチすると，1 階層上のフォルダ内の情報が表示されます。

(4) スクロールバーの ▲ ▼ ボタンをタッチすると，1 行ずつ上下にスクロールします。
⏫ ⏬ ボタンをタッチすると 1 画面分上下にスクロールします。

(5) ファイルの名称をタッチすると，ファイルを選択して反転表示されます。

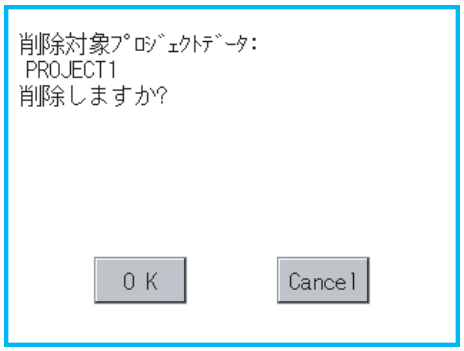
(6) 削除，コピー，プロパティ，データチェック，ダウンロード，アップロードの操作については，下記を参照してください。

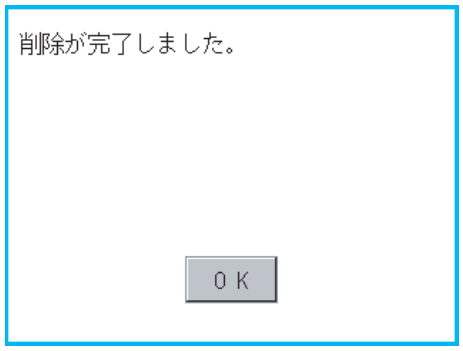
削除 ..... ☞ 本項 2
コピー ..... ☞ 本項 3
プロパティ ..... ☞ 本項 4
データチェック ..... ☞ 本項 5
ダウンロード ..... ☞ 本項 6
アップロード ..... ☞ 本項 7

(7) ☒ ボタンをタッチすると，画面を閉じます。

2 削除操作

選択したファイルを削除します。





1 削除するファイルをタッチして選択します。

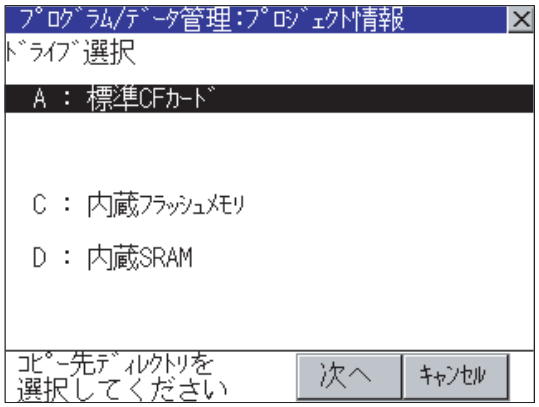
2 削除 ボタンをタッチすると，左記の画面が表示されます。
削除対象ファイルが間違っていないことを確認してください。
OK ボタンをタッチするとファイルを削除します。
Cancel ボタンをタッチすると削除を中止します。

3 削除が完了すると，左記ダイアログボックスが表示されます。
OK ボタンをタッチするとダイアログを閉じます。

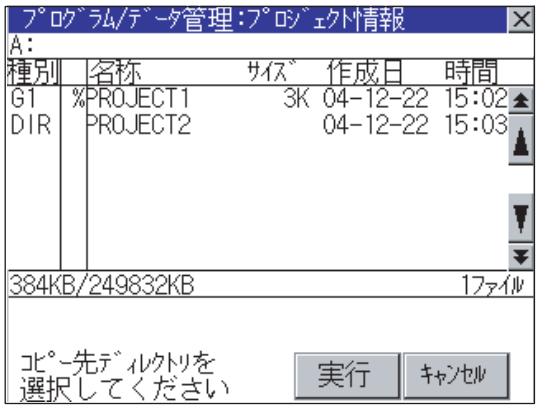
3 コピー操作

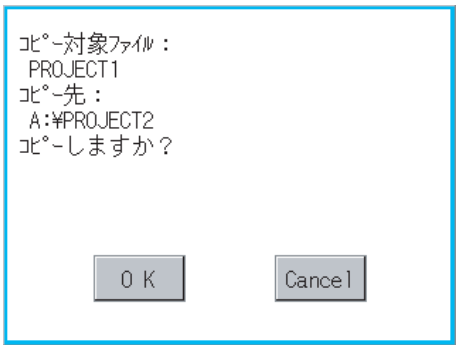
Aドライブのファイルを Aドライブの他のディレクトリへコピーします。
Cドライブや Dドライブからコピー，または Cドライブや Dドライブへのコピーはできません。

コピー先ドライブ選択ダイアログ



コピー先フォルダ選択ダイアログ





1 パソコンに CF カードを装着し，コピー先に指定するフォルダを作成します。
フォルダ名称は，GT Designer2 の場合、「システム環境」の「システム設定」と同じ文字を設定してください。
GT Designer3 の場合、「共通の設定」の「GOT 機種設定」と同じ文字を設定してください。

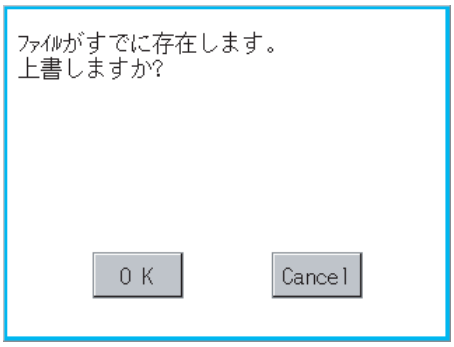
☞ GT Designer2 Version □ 画面設計マニュアル
GT Designer3 Version1 画面設計マニュアル（共通編）

2 上記の CF カードを GOT に装着します。
CF カードの着脱方法は，下記を参照してください。

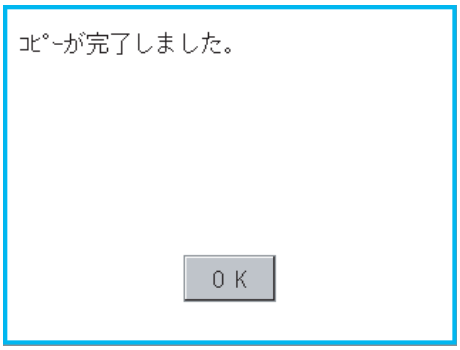
☞ 8.1 節　CF カードについて

3 プロジェクト情報を開き，コピーするファイルのあるドライブ名をタッチし，ドライブを選択した後，次へ ボタンをタッチしてください。左記のコピー先フォルダを選択するダイアログが表示されます。

4 フォルダが表示されている領域をタッチし，フォルダを選択した後，実行 ボタンをタッチしてください。左記のダイアログが表示されます。



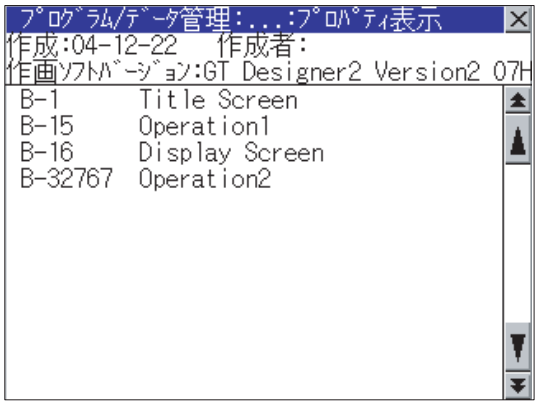
5 OK ボタンをタッチします。
コピー先のフォルダに同一名称のファイルが存在しなければコピーを開始します。
コピー先のフォルダに同一名称のファイルが存在する場合は，コピーを開始せずに左記のダイアログが表示されます。
この場合，コピーするとコピー先フォルダのプロジェクトデータに上書きします。
OK ボタンをタッチするとコピーを開始します。
Cancel ボタンをタッチするとコピーを中止します。



6 コピーが完了すると完了のダイアログが表示されます。
OK ボタンをタッチすると，ダイアログを閉じます。

4 プロパティ表示操作

選択したフォルダ内に含まれるプロジェクトデータのプロパティを表示します。



1 プロパティ表示対象プロジェクトデータを選択状態にして，プロパティ ボタンをタッチすると，左記のプロパティが表示されます。
プロパティ表示では，下記の情報を表示します。

項目	内容
作成	プロジェクトデータの作成日を表示します。
作成者	プロジェクトデータの作成者を表示します。
作画ソフトバージョン	プロジェクトデータを作成した作画ソフト名称とバージョンを表示します。

2 ▲▼ ボタンをタッチすると，1 行ずつ上下にスクロールします。

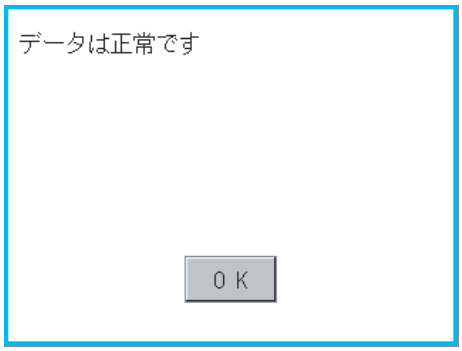
3 ⏫⏬ ボタンをタッチすると 1 画面分上下にスクロールします。

4 ☒ ボタンをタッチするとプロパティ表示を閉じ，前の画面に戻ります。

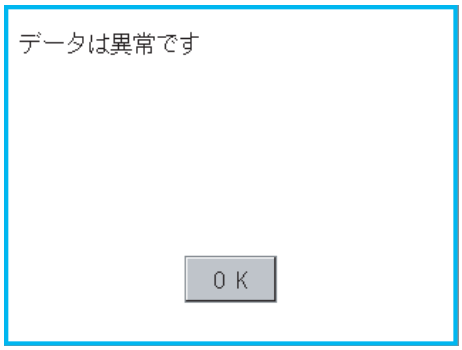
5 データチェック操作

選択したプロジェクトファイルのデータチェックを行います。

データが正常である場合



データに異常がある場合



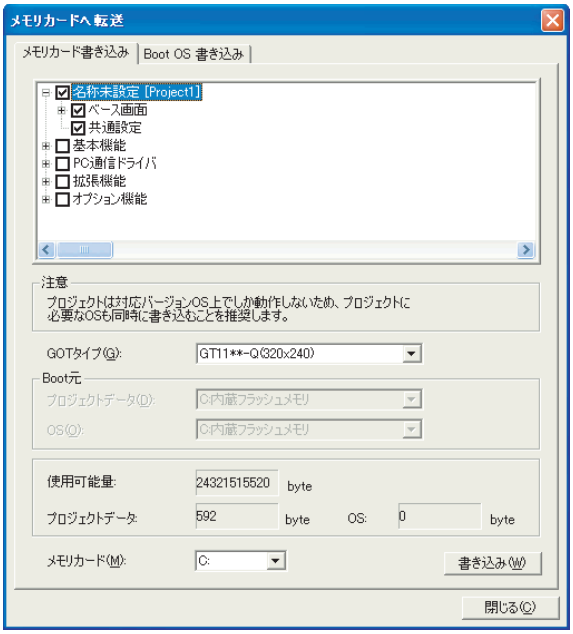
1 データチェック対象ファイルを選択状態にした後，データチェック ボタンをタッチしてください。
データチェックを実行した後，左記のダイアログでデータチェック結果が表示されます。

2 OK ボタンをタッチするとダイアログを閉じます。

3 「データは異常です」と表示した場合，対象ファイルが壊れている可能性があります。
対象ファイルを再度ダウンロードしてください。

6 ダウンロード

プロジェクトデータを A ドライブ（標準 CF カード）から C ドライブ（内蔵フラッシュメモリ）に転送します。



1 GOT にダウンロードするプロジェクトデータを，作画ソフトウェアまたは他の GOT で CF カードに転送します。

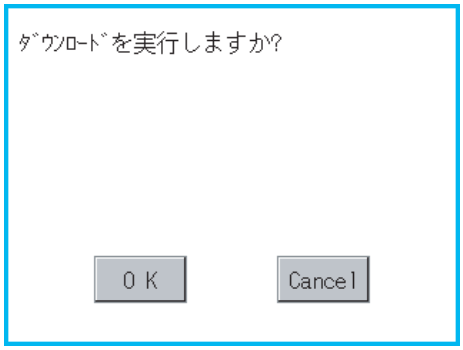
2 上記 1 の CF カードを GOT に装着します。CF カードの着脱方法は，下記を参照してください。

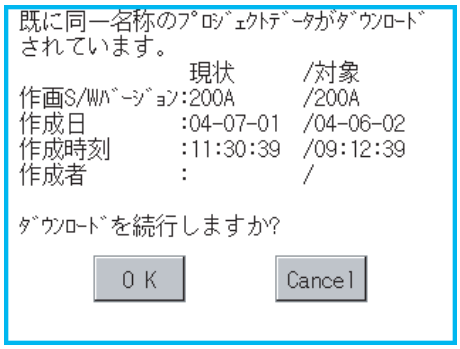
☞ 8.1 節　CF カードについて

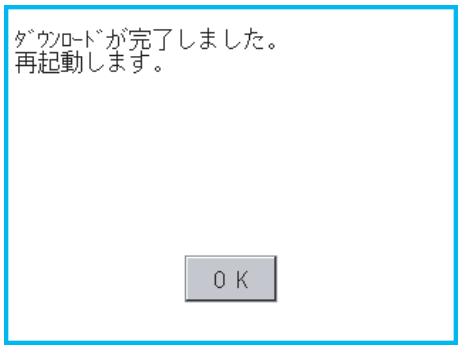
3 ドライブ選択で「A: 標準 CF カード」をタッチします。

4 ダウンロード ボタンをタッチすると，左記の画面が表示されます。

OK ボタンをタッチするとダウンロードを実行します。





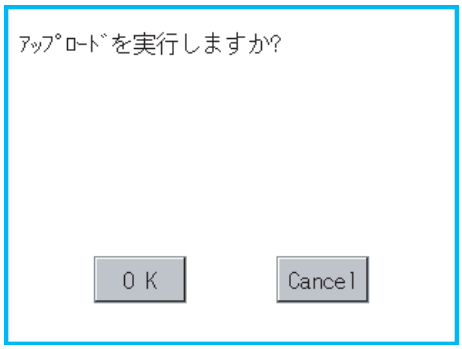


5 OK ボタンをタッチします。
C ドライブに同一名称のプロジェクトデータが存在しなければダウンロードを開始します。
OK ボタンをタッチすると同一名称のプロジェクトデータに上書きダウンロードを実行します。
Cancel ボタンをタッチするとダウンロードを中止します。

6 ダウンロードが完了すると左記のダイアログが表示されます。
OK ボタンをタッチすると，GOT を再起動します。

7 アップロード

C ドライブ（内蔵フラッシュメモリ）に格納されているプロジェクトデータを A ドライブ（標準 CF カード）に転送します。
アップロード後の CF カードは他の GOT へのプロジェクトデータダウンロードに使用できます。

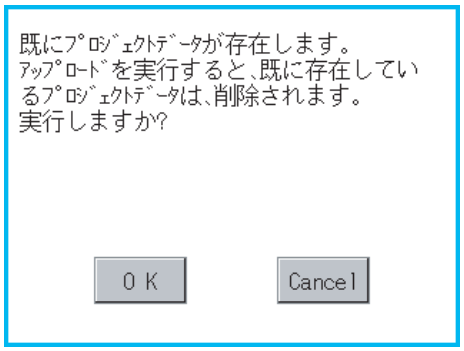


1 CF カードを GOT に装着します。
CF カードの着脱方法は，下記を参照してください。
☞ 8.1 節　CF カードについて

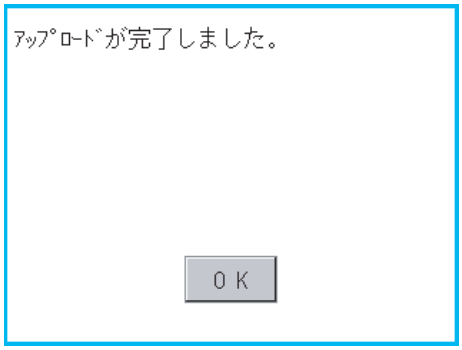
2 ドライブ選択で「 A: 標準 CF カード」をタッチします。

3 アップロード ボタンをタッチすると，左記の画面が表示されます。

4 OK ボタンをタッチするとアップロードを実行します。



5 A ドライブに同一名称のプロジェクトデータが存在する場合は，アップロードを開始せずに左記の画面が表示されます。
OK ボタンをタッチすると同一名称のプロジェクトデータに上書きアップロードを実行します。
Cancel ボタンをタッチするとアップロードを中止します。



6 アップロードが完了すると左記のダイアログが表示されます。
OK ボタンをタッチすると，ダイアログを閉じます。

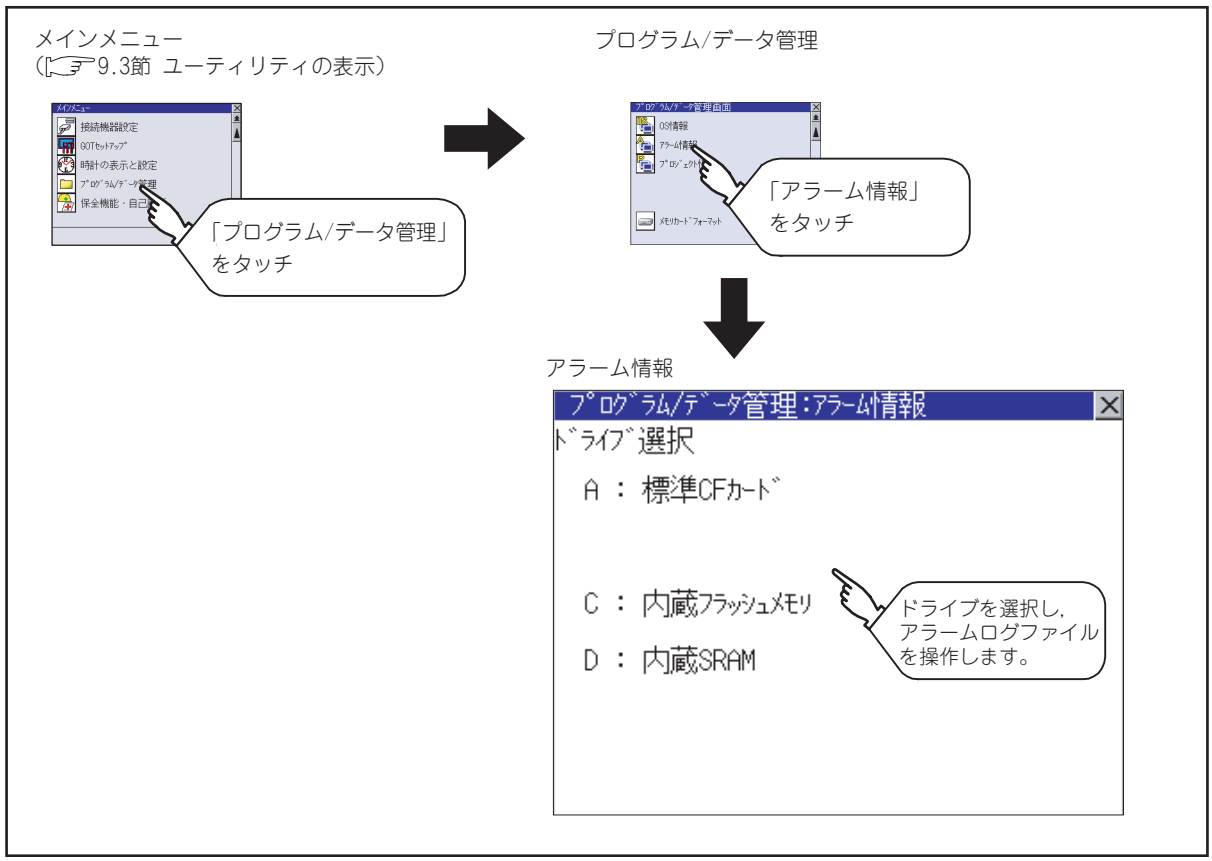
13.4 アラーム情報

13.4.1 アラーム情報の機能

D ドライブ (内蔵 SRAM) が保持しているアラームログファイルを表示します。
また，ファイルに対して下記項目の処理を行えます。

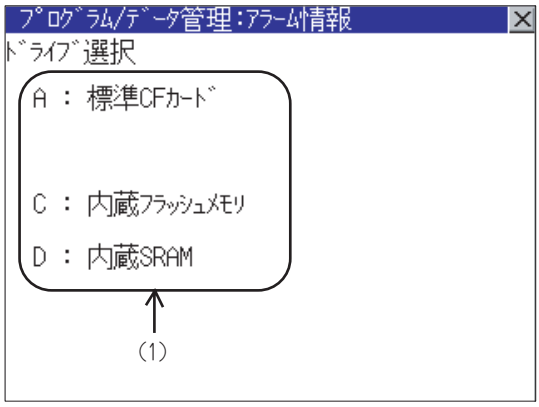
機能	内容	参照ページ
ファイル，フォルダの情報表示	ファイルやフォルダの名称，データサイズ，作成日時を表示します。	13-24, 13-25
削除	ファイルを削除します。	13-26
コピー	ファイルをコピーします。	13-27

13.4.2 アラーム情報画面の表示操作

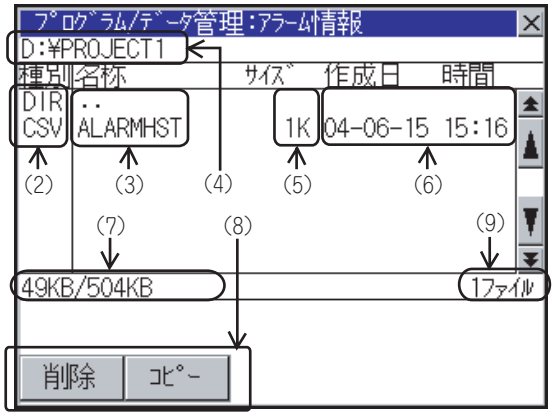


13.4.3 アラーム情報画面の表示例

アラーム情報画面



アラーム情報　保存ファイル/フォルダ表示画面



番号	項目	内容
(1)	ドライブ選択	ファイルやフォルダの表示を行う対象ドライブを選択できます。 CF カードが接続されていない場合，「A: 標準 CF カード」は表示されません。
(2)	種別	表示されている名称がファイルなのかフォルダなのかを表示します。 ファイルの場合は拡張子，フォルダの場合は DIR と表示します。
(3)	名称	選択されたドライブまたはフォルダが保持しているファイル名やフォルダ名を表示します。 ファイル名やフォルダ名が 20 文字を超える場合，21 文字目からは表示されません。
(4)	パス名	現在表示されているドライブ / フォルダのパス名を表示します。
(5)	サイズ	名称に表示されたファイルのサイズを表示します。
(6)	作成日，時間	各ファイルをインストールした日時を表示します。
(7)	ドライブのサイズ	ドライブ選択で選択したドライブの , 使用中のサイズとドライブ全体のサイズを表示します。
(8)	操作スイッチ	アラーム情報画面で行える各機能 (削除，コピー) の実行スイッチを表示します。
(9)	ファイル数	表示しているファイルの合計を表示します。

Point

作成日，時間欄の表示について

アラーム情報表示画面表示中にファイルが作成または更新されても，作成日，時間欄の表示は更新されません。
現在表示している画面を一旦閉じ（上の階層のフォルダへ移動するなど），再度該当の画面を表示すると更新した内容が表示されます。

備　考

表示されるフォルダとファイル

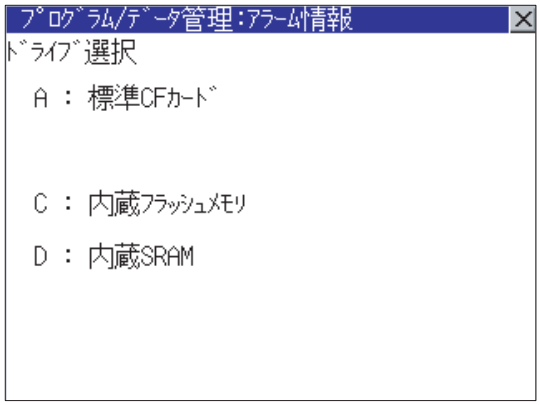
表示されるフォルダとファイルの詳細は，下記を参照してください。

☞ 13.1.4 項　表示ファイル

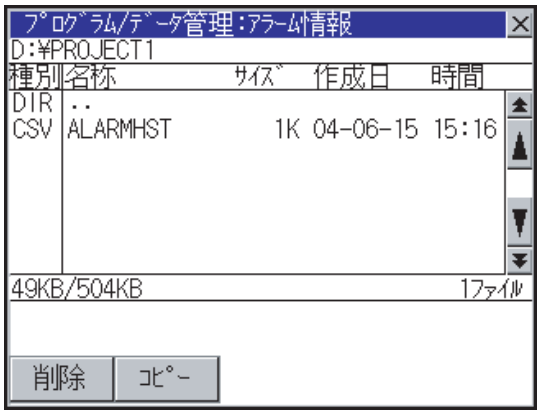
13.4.4 アラーム情報の操作

1 アラーム情報の表示操作

アラーム情報画面



アラーム情報　保存ファイル/フォルダ表示画面



1 ドライブ選択のドライブをタッチすると，タッチしたドライブの先頭フォルダ内の情報が表示されます。

2 フォルダの名称をタッチすると，タッチしたフォルダ内の情報が表示されます。

3 名称が「. .」のフォルダをタッチすると，1 階層上のフォルダ内の情報が表示されます。

4 スクロールバーの ▲ ▼ ボタンをタッチすると，1 行ずつ上下にスクロールします。
⏫ ⏬ ボタンをタッチすると 1 画面分上下にスクロールします。

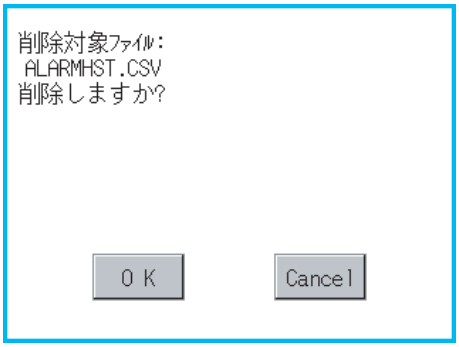
5 ファイルの名称をタッチすると，ファイルを選択して反転表示されます。

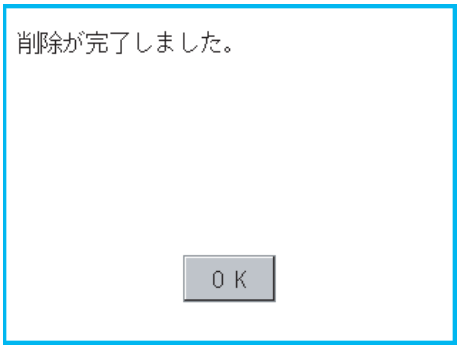
6 削除，コピーの操作については，下記を参照してください。
削除 ..... ☞ 本項 2
コピー ..... ☞ 本項 3

7 ☒ ボタンをタッチすると，画面を閉じます。

2 削除操作

選択したファイルを削除します。





1 削除するファイルをタッチして選択します。

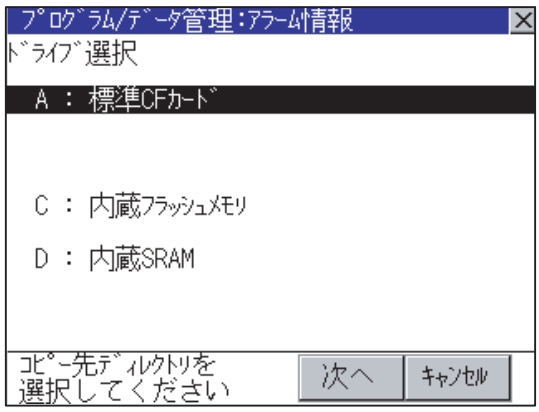
2 削除 ボタンをタッチすると，左記のダイアログが表示されます。
削除対象ファイルに表示されたファイルが間違っていないことを確認してください。
OK ボタンをタッチするとファイルを削除します。
Cancel ボタンをタッチすると削除操作を中止します。

3 削除が完了すると，完了のダイアログが表示されます。
OK ボタンをタッチすると，ダイアログを閉じます。

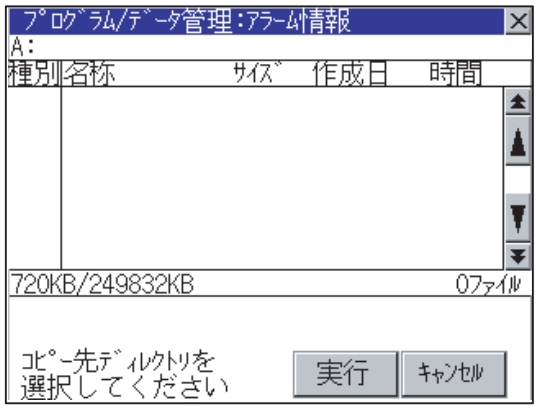
3 コピー操作

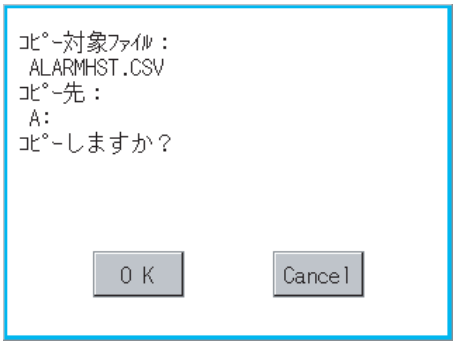
選択したファイルをコピーします。

コピー先ドライブ選択ダイアログ



コピー先フォルダ選択ダイアログ



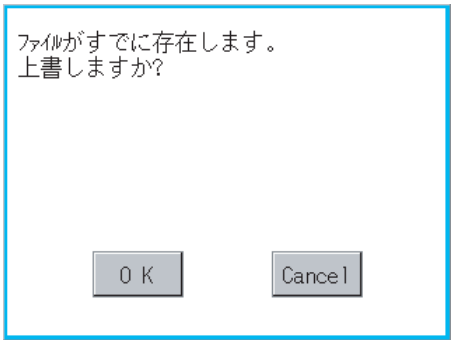


1 コピーするファイルをタッチして選択します。

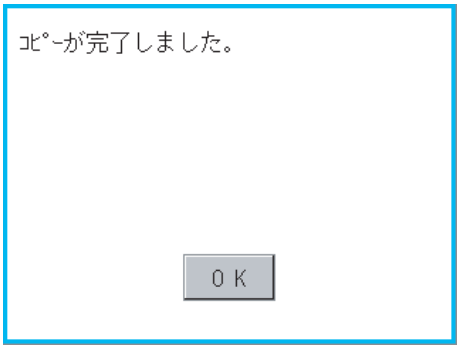
2 コピー ボタンをタッチすると，画面左下に「コピー先ディレクトリを選択してください。」と表示されます。

3 ドライブ名が表示されている領域をタッチし，ドライブを選択した後，次へ ボタンをタッチしてください。左記のコピー先フォルダを選択するダイアログが表示されます。

4 フォルダが表示されている領域をタッチし，フォルダを選択した後，実行 ボタンをタッチしてください。左記の確認のダイアログが表示されます。



5 OK ボタンをタッチします。
コピー先のフォルダに同一名称のファイルが存在しなければコピーを開始します。
コピー先のフォルダに同一名称のファイルが存在する場合は，コピーを開始せずに左記の画面が表示されます。
この場合，コピーするとコピー先フォルダのプロジェクトデータに上書きします。
OK ボタンをタッチするとコピーを開始します。
Cancel ボタンをタッチするとコピーを中止します。



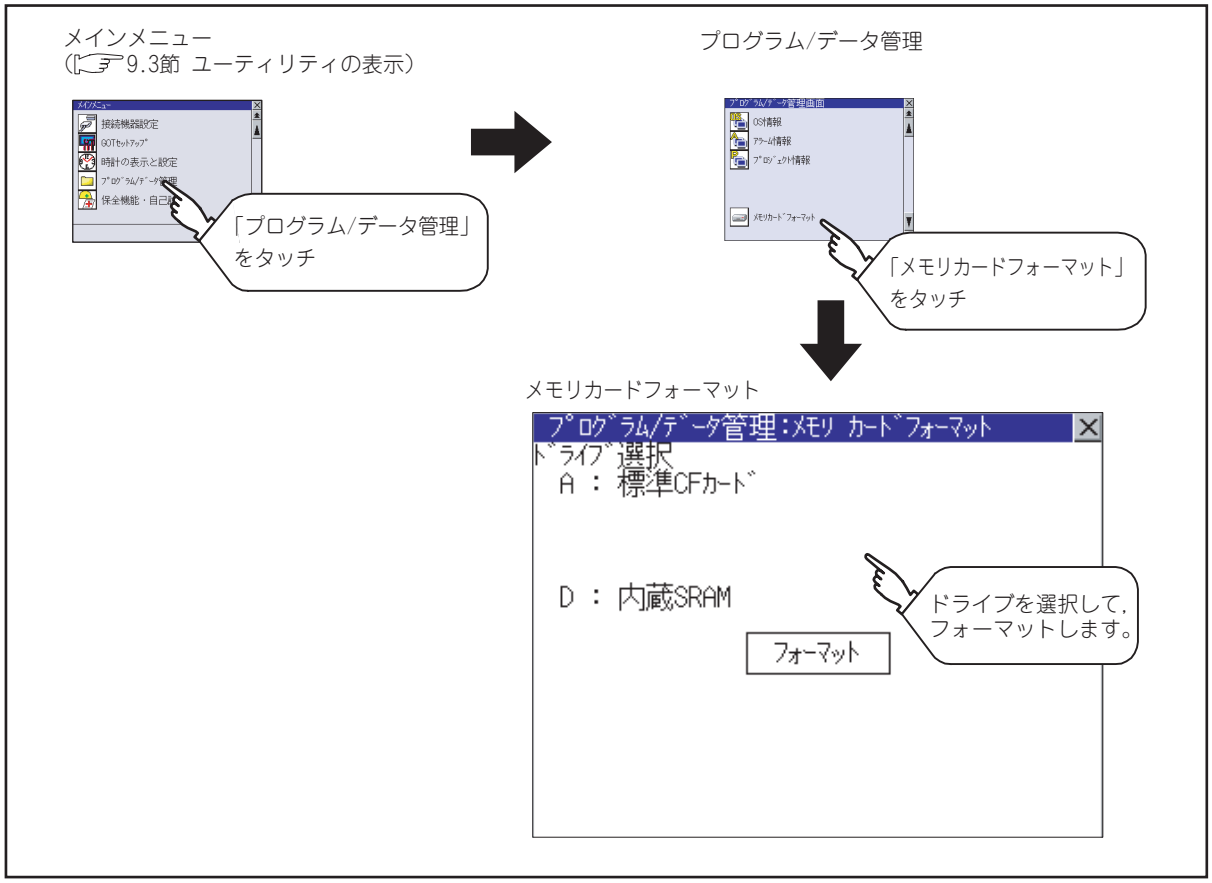
6 コピーが完了すると完了のダイアログが表示されます。
OK ボタンをタッチすると，ダイアログを閉じます。

13.5 メモリカードフォーマット

13.5.1 メモリカードのフォーマット機能

CF カードや内蔵 SRAM をフォーマットします。

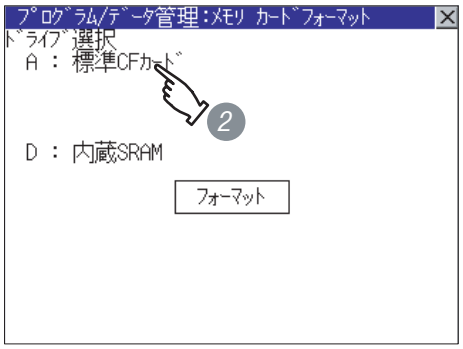
13.5.2 メモリカードフォーマットの表示操作



Point **D ドライブ (内蔵 SRAM) のフォーマットについて**

GOT の電源を OFF にし，バッテリを外した状態が 30 秒以上続くと，D ドライブ (内蔵 SRAM) の内容が不定な値になり，各データの書込みができなくなることがあります。バッテリを 30 秒以上外した後は，一度 D ドライブ (内蔵 SRAM) をフォーマットしてください。

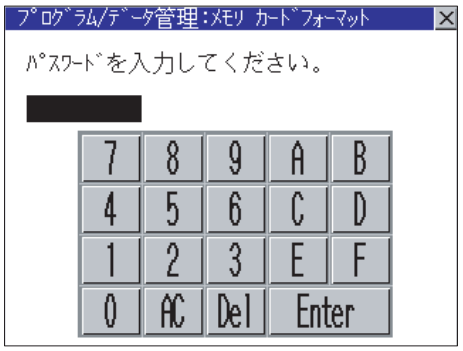
13.5.3 メモリカードのフォーマット操作



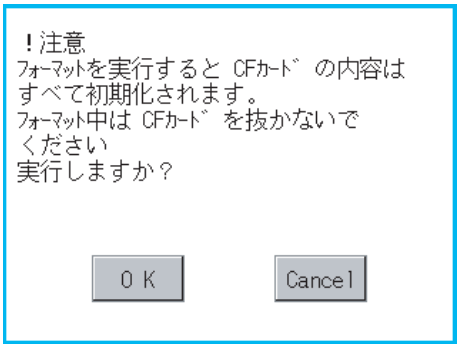
1 CF カードをフォーマットするときは，はじめに CF カードを GOT に装着してください。
CF カードの着脱方法は，下記を参照してください。

☞8.1 節　CF カードについて

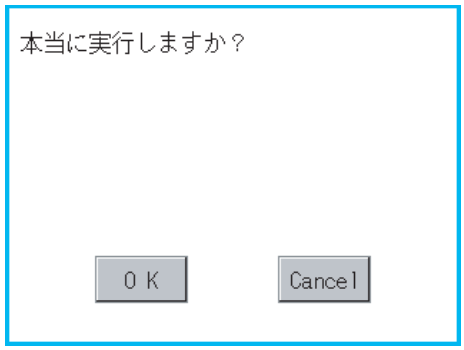
2 ドライブ選択でフォーマットするドライブをタッチして選択します。



3 フォーマット ボタンをタッチするとパスワード入力画面が表示されます。

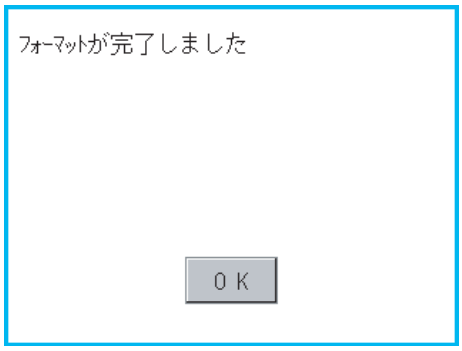


4 1 1 1 1 を入力して Enter キーをタッチすると，左記のダイアログが表示されます。（パスワードは 1111 固定です。）
ダイアログの内容を確認し，CF カードのフォーマットを実行する場合は，OK ボタンをタッチします。
CF カードのフォーマットを中断する場合は，Cancel ボタンをタッチします。



5 4 の操作で OK ボタンをタッチすると，再度確認のため左記のダイアログが表示されます。

6 再度 CF カードをフォーマットすることの確認をしてください。
OK ボタンをタッチするとフォーマットを開始します。
Cancel ボタンをタッチすると CF カードのフォーマットを中断します。



7 フォーマットが完了すると左記の完了ダイアログが表示されます。

8 OK ボタンをタッチするとダイアログを閉じます。

備　考

フォーマットの制約について

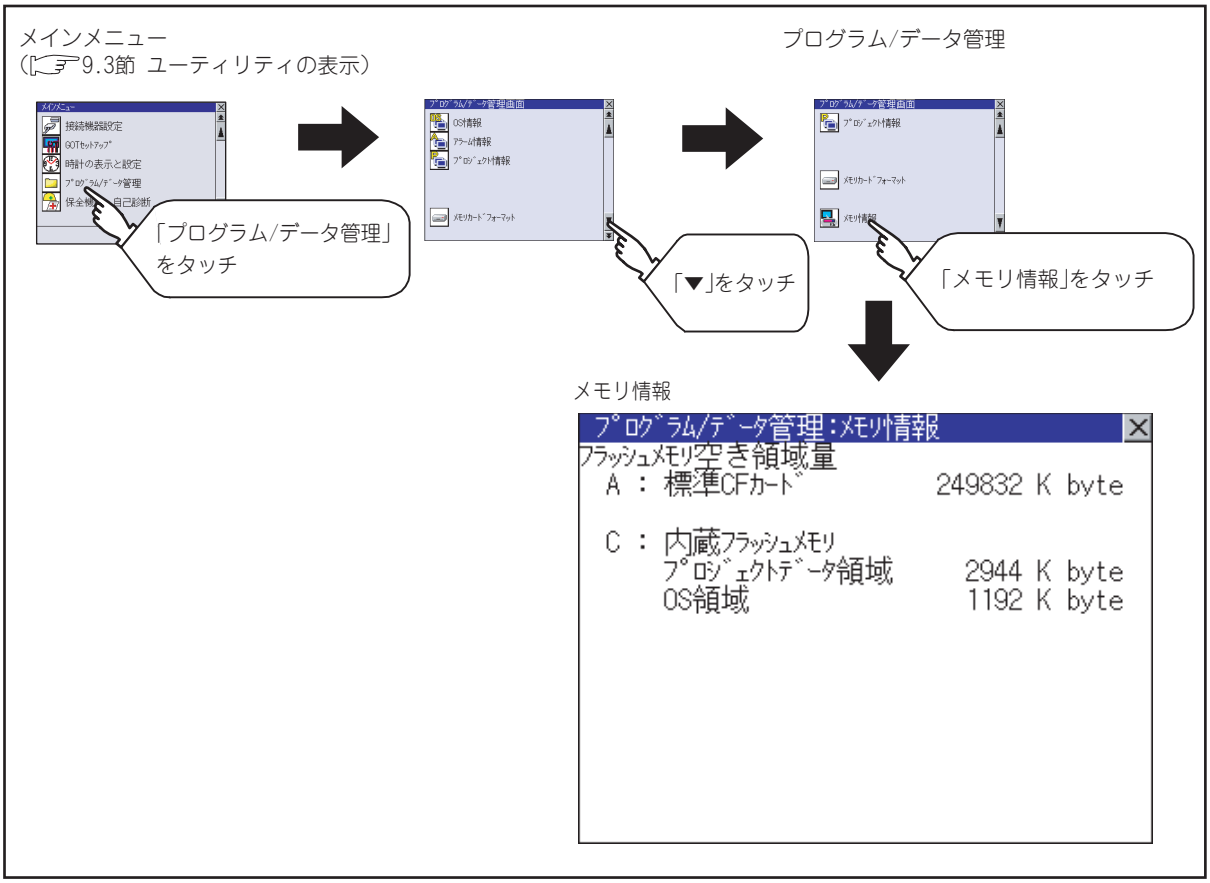
- 未フォーマットの CF カードは, パソコンでフォーマットしてから GOT で使用してください。
  GOT では未フォーマットの CF カードをフォーマットできません。
- GOT のフォーマットは CF カードのファイルシステム（例：FAT16）を変更しません。フォーマット前のファイルシステムを継承します。

13.6 メモリ情報

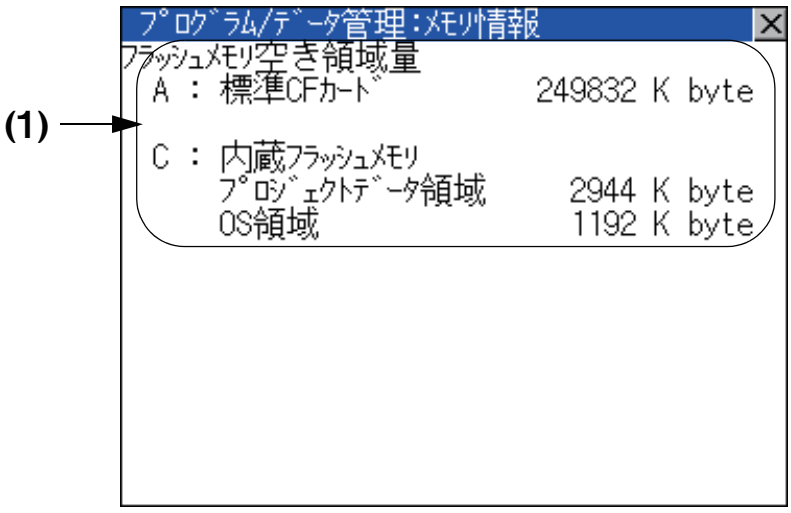
13.6.1 メモリ情報の機能

各ドライブ (A: 標準 CF カード，C: 内蔵フラッシュメモリ) のユーザが使用できるメモリ空き領域量とブート先空き領域量を表示します。

13.6.2 メモリ情報の表示操作



13.6.3 メモリ情報の表示例



番号	項目	内容
(1)	フラッシュメモリ空き領域量	ファイルやフォルダを格納できる各ドライブのメモリ空き領域量を示します。 CF カードが装着されていない場合，「A: 標準 CF カード」は表示されません。

13.7 GOT データー括取得

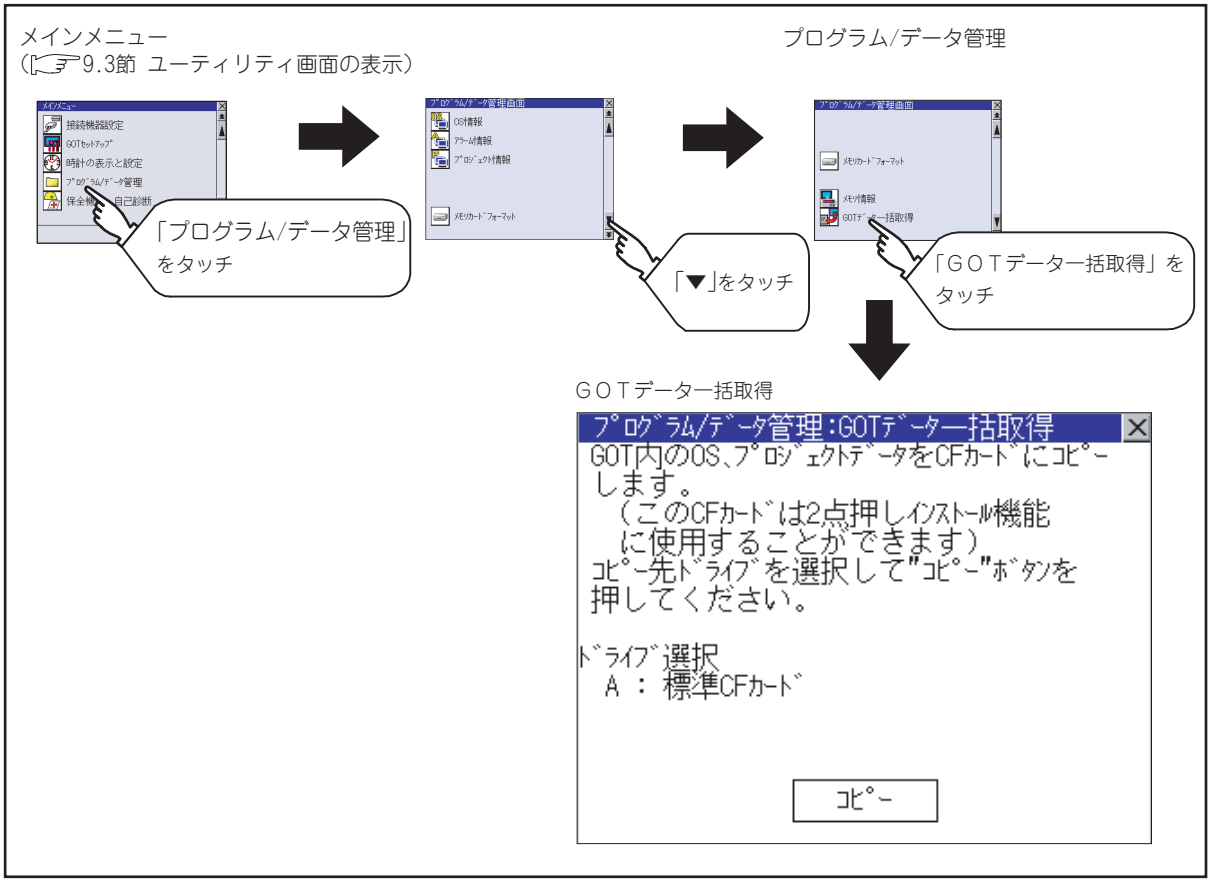
13.7.1 GOT データー括取得の機能

GOT 本体にインストールされている下記 OS，データをメモリカードへコピーする機能です。

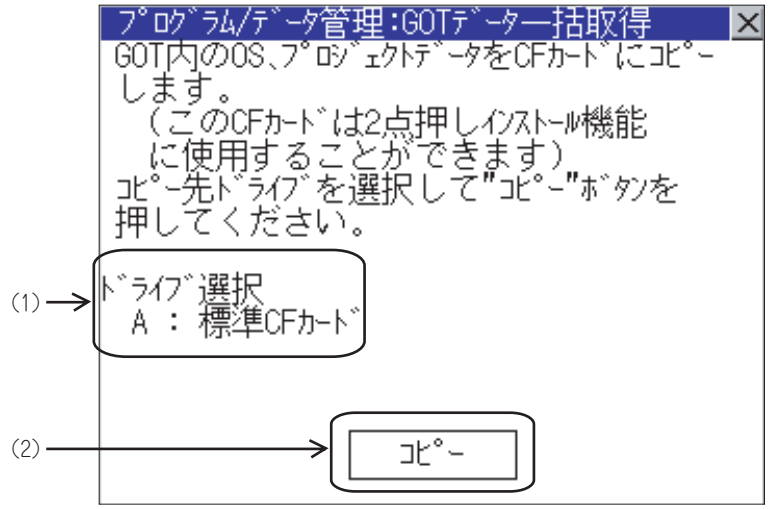
- OS（BootOS，基本機能 OS，通信ドライバ，拡張機能 OS，オプション機能 OS）
- プロジェクトデータ

コピーしたデータは，バックアップ用として使用したり，他の GOT へインストールして，同一システムの GOT を作成することができます。
GOT のインストール機能に関しては，下記を参照してください。
☞ 16.3 節　CF カードを使用した BootOS，基本機能 OS のインストール

13.7.2 GOT データー括取得の表示操作



13.7.3 GOT データー括取得の表示例

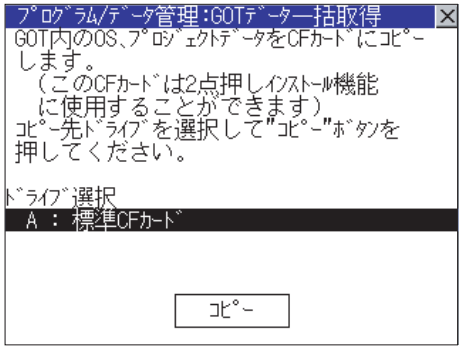


番号	項目	内容
(1)	ドライブ選択	ユーザが OS，データをコピーできるドライブを表示します。 CF カードが装着されていない場合，「A: 標準 CF カード」は表示されません。
(2)	コピー	タッチすると，コピーを開始します。

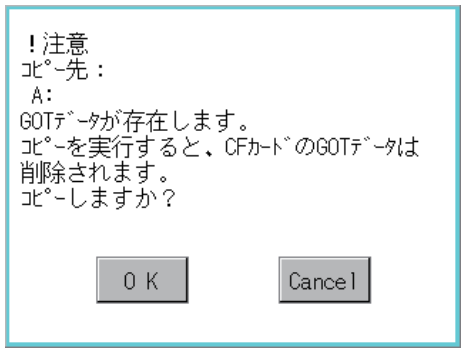
13.7.4 GOT データ一括取得の操作

1 GOT データ一括取得の表示操作

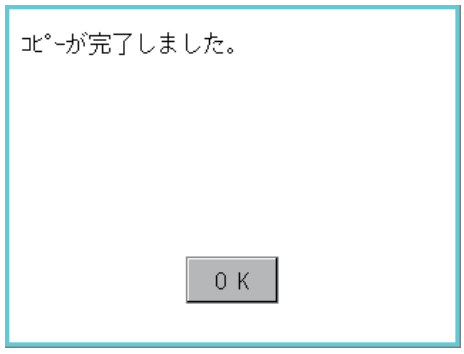
GOT 本体にインストールされている下記の OS，データを CF カードへコピーします。



1 ドライブ選択で「A: 標準 CF カード」をタッチします。タッチすると，名称の行が表示反転します。
「コピー」ボタンをタッチするとコピーを開始します。



2 コピー先の状態により，表示される内容が異なります。表示されたダイアログに従い，操作してください。



3 OS，データのコピーを実施し，コピーを完了すると完了のダイアログが表示されます。
OK ボタンをタッチするとダイアログを閉じます。

2 操作時の注意事項

(1) GOT へコピーした場合

データ一括取得で作成したメモリカードを使用して，OS やプロジェクトデータを GOT へコピーした場合，ユーティリティの設定もコピーされます。
GOT へコピーした後は，ユーティリティの各設定を確認し，必要に応じて設定を変更してください。

(2) 使用する CF カードについて

GOT データ一括取得をする場合，メモリカードには他のデータを格納しないでください。
格納されている他のデータは，使用できなくなります。

14章 GOTの自己診断（保全機能･自己診断）

保全機能や自己診断を実行するための画面を表示できます。
保全機能や自己診断では下記の機能が使用できます。

項目	内容	参照ページ
保全機能	システムモニタ，A リスト編集，FX リスト編集	14-1
自己診断	メモリチェック，描画チェック，フォントチェック，タッチパネルチェック，I/O チェック	14-117
システムアラーム表示	GOT エラー，CPU エラー	14-134
GOT 起動時間	GOT 起動時間	14-136

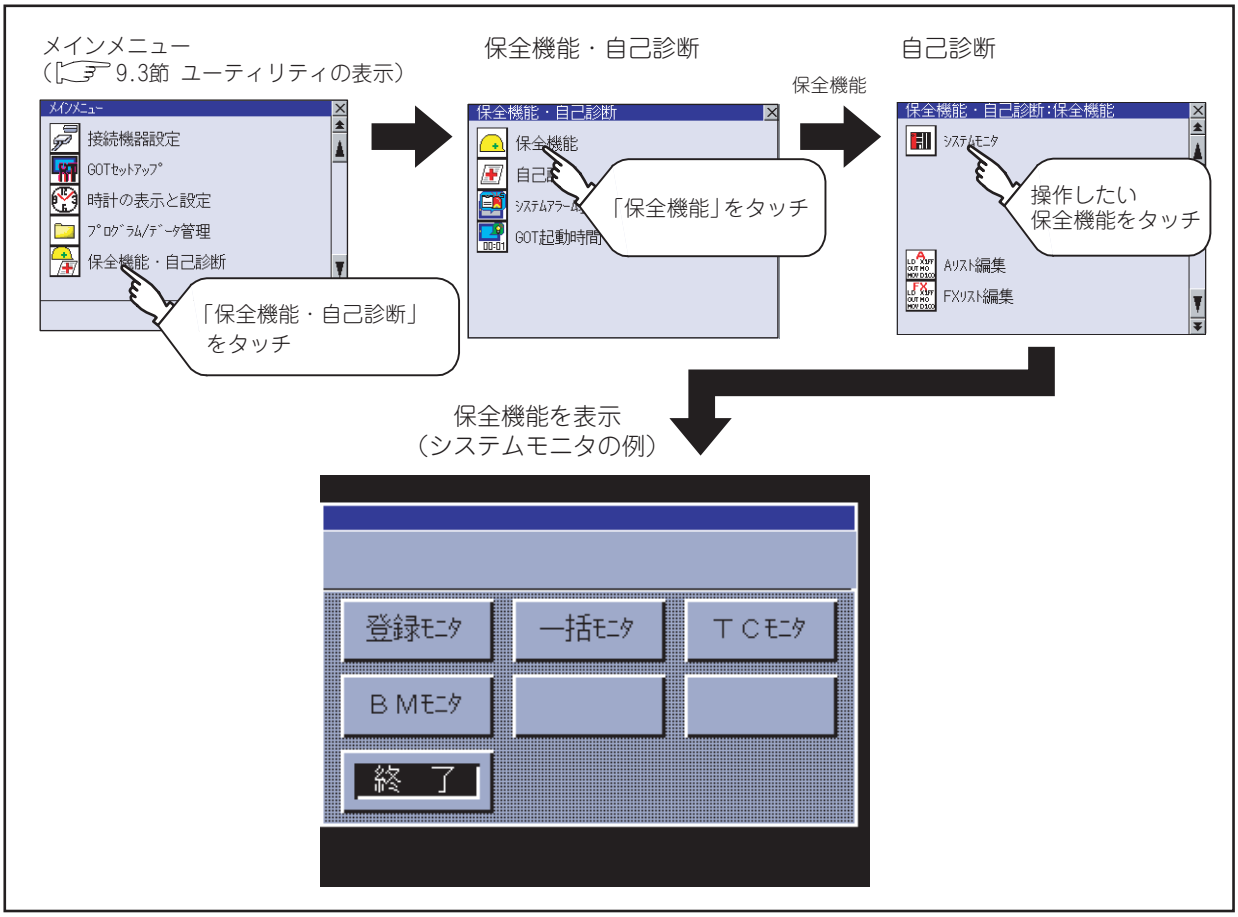
14.1 保全機能

14.1.1 保全機能の機能

保全機能では，シーケンサシステムの状態確認やトラブル対応の効率化を図る機能が用意されています。
保全機能でできる項目は下記のとおりです。

項目	内容
システムモニタ	シーケンサ CPU のデバイス，インテリジェント機能ユニットのバッファメモリをモニタ・テストできます。
A リスト編集	ACPU のシーケンスプログラムをリスト編集できます。
FX リスト編集	FXCPU のシーケンスプログラムをリスト編集できます。

14.1.2 保全機能の表示操作



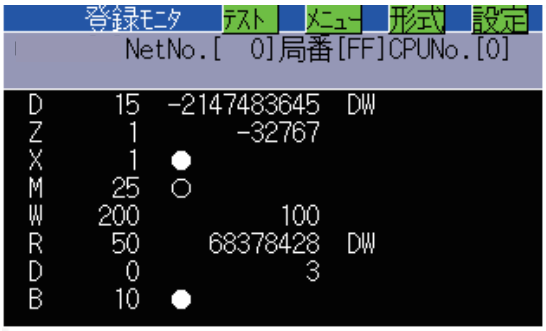
14.2 システムモニタ

システムモニタ機能は，接続機器内のデバイスのモニタ，および変更を行うことができます。
接続機器システムのトラブル対応，メンテナンスを行うための保全作業の効率化を図るための機能です。
作画ソフトウェアから拡張機能 OS のシステムモニタを GOT へインストールすることにより，接続機器のデバイス，インテリジェント機能ユニットのバッファメモリをモニタ・テストすることができます。

1 4 種類の専用画面で，任意のデバイスをモニタ可能

システムモニタ機能には，登録モニタ，一括モニタ，T/C モニタ，バッファメモリモニタがあり，用途に合わせて任意のデバイスをモニタすることができます。

登録モニタ

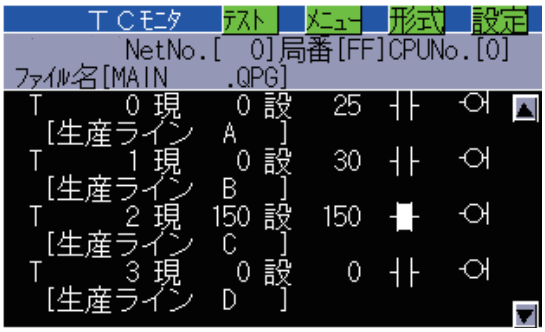


ユーザが登録した接続機器のデバイスを，1 ウィンドウに最大 8 点分モニタします。
(☞ 14.2.10 項 登録モニタ)

一括モニタ

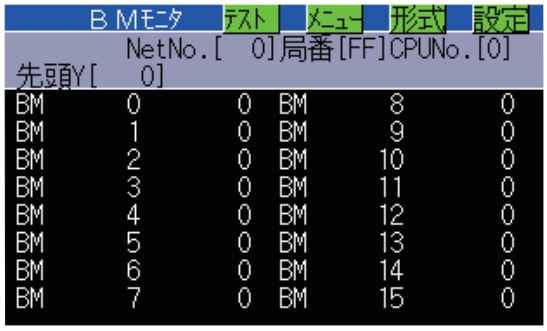
ユーザが指定した接続機器のデバイス番号以降を，1 ウィンドウに最大 16 点分モニタします。
(☞ 14.2.14 項 一括モニタ)

T／Cモニタ



ユーザが指定した接続機器のタイマ (T) ／カウンタ (C) のデバイス番号以降の現在値，設定値，接点，コイルを 1 ウィンドウに最大 8 点分モニタします。
(☞ 14.2.17 項 TC モニタ（タイマ，カウンタのモニタ))

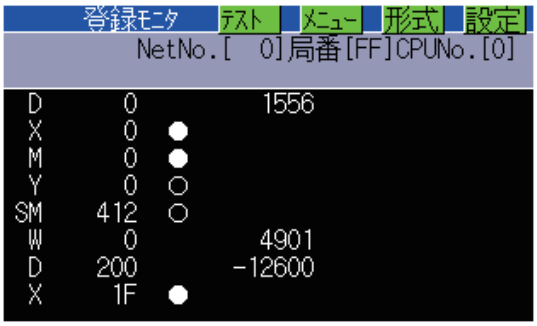
バッファメモリモニタ



ユーザが指定したインテリジェント機能ユニットのバッファメモリの先頭デバイス番号以降を 1 ウィンドウに最大 16 点分モニタします。
(☞ 14.2.21 項 BM モニタ（バッファメモリのモニタ))

Point システムモニタ画面表示

フルスクリーンで 4 種類のモニタ画面の内 1 つを表示することができます。



2 テスト操作によるデータ変更が可能

詳細内容は，下記を参照してください。

☞ 14.2.24 項 テスト操作

（テスト例）

M0をONする場合

D0現在値を変更する場合

(1) ビットデバイスに対するテスト

ユーザ指定のデバイスを ON/OFF します。

(2) ワードデバイスに対するテスト

ユーザ指定のデバイスに指定値を書き込みます。

(3) タイマ／カウンタに対するテスト

ユーザ指定のデバイスの現在値／設定値として指定値を書き込みます。

(4) バッファメモリに対するテスト

ユーザ指定のバッファメモリに指定値を書き込みます。

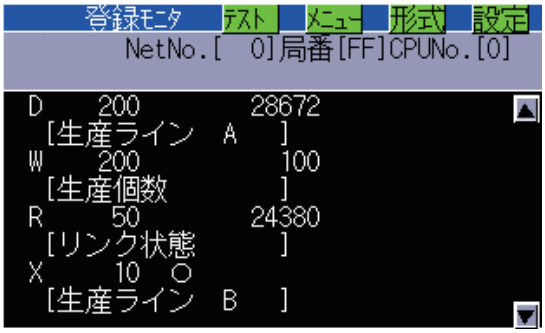
3 表示形式の切換え，デバイスコメント表示が可能

詳細内容は，下記を参照してください。

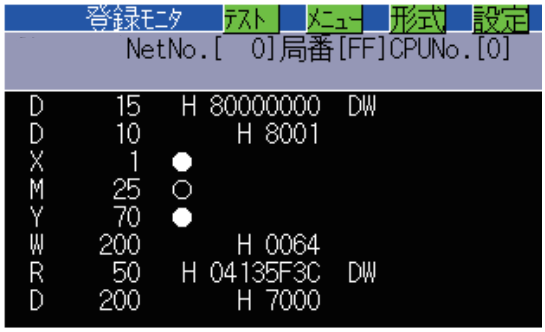
☞ 14.2.7 項 表示形式（10 進／16 進），およびコメント表示有無の切換え操作

（テスト例）

登録モニタの場合
（コメント表示）



登録モニタ場合
（16進数表示）



(1) 表示形式の切換え

登録モニタ，一括モニタ，T/C モニタ，バッファメモリモニタにおいて，ワードデバイスの値を 10 進数／16 進数でモニタします。

(2) デバイスコメント表示

接続機器のデバイスをモニタしている場合，接続機器に書き込まれているコメントを表示します。

4 他局モニタが可能

GOT（または GOT 接続局）が含まれるデータリンクシステム，ネットワークシステム，CC-Link システム上の他局に対してシステムモニタすることが可能です。
モニタ可能な接続形態の詳細内容については，下記を参照してください。

☞ 14.2.1 項 1 システム構成

14.2.1 仕様

1 システム構成

システムモニタできる接続機器名，および GOT と接続機器の接続形態について説明します。
各接続形態の PC 通信ユニットやケーブルに関する詳細は，下記を参照してください。

☞ GOT1000 シリーズ　接続マニュアル

2 対象接続機器

接続機器
QCPU（Q モード），Q シリーズモーションコントローラ CPU
QSCPU ＊1
QnACPU
ACPU/QCPU（A モード），A シリーズモーションコントローラ CPU
FXCPU
リモート I/O 局（MELSECNET/H システム）

＊1 QSCPU 使用時は，GOT からデバイスの書込みができません。（テスト操作ができません。）

3 接続形態

(1) QCPU（Q モード），Q シリーズモーションコントローラ CPU，QSCPU と接続時

（○：使用可能，△：一部制約有り，×：使用不可）

機能		GOT と接続機器の接続形態					参照先
名称	内容	バス接続*6	CPU 直接接続*6	計算機リンク接続*6	CC-Link 接続 G4*4*6	GOT マルチドロップ接続	
登録モニタ	モニタデバイスの事前登録による現在値のモニタ	○	○	○	○	×	14.2.10 項
一括モニタ	指定デバイス以降 n 点分の現在値のモニタ						14.2.14 項
TC モニタ	指定デバイス以降 m 点分の現在値，設定値，接点，コイルのモニタ	△*1	△*1	△*1	△*1		14.2.17 項
BM モニタ	指定インテリジェント機能ユニットの指定バッファメモリ以降 x 点分の現在値のモニタ						14.2.21 項
テスト操作によるデータ変更	ビットデバイスの SET/RESET	△*3	△*3	○	△*3		14.2.24 項
	ワードデバイス，バッファメモリの現在値変更			△*2			
	T/C の現在値変更（TC モニタの中で操作可）			△*3			
	T/C の設定値変更（TC モニタの中で操作可）*5						
クイックテスト	クイックテストによるデバイス値変更						14.2.8 項
表示切換え	デバイスコメントの表示						14.2.7 項
	ワードデバイス値，バッファメモリ値の 10 進，16 進表示						

＊1 モーションコントローラ（Q シリーズ）のモニタ時は，モニタできません。
＊2 Z の現在値は変更できません。また、V は全接続形態においてサポートしていません。
＊3 モーションコントローラ（Q シリーズ）を接続時、デバイスコメントの表示はできません。
＊4 CC-Link 接続（G4 経由）を示します。
＊5 QCPU の二重化システム時に、設定値のデータ変更はできません。
＊6 QSCPU ではサポートしていない接続形態です。

(2) QnACPU と接続時

（○：使用可能，△：一部制約有り，×：使用不可）

機　能		GOT と接続機器の接続形態					参照先
名称	内容	バス接続	CPU 直接接続	計算機リンク接続	CC-Link 接続 G4 *3	GOT マルチドロップ接続	
登録モニタ	モニタデバイスの事前登録による現在値のモニタ	△*2	△*2	○	×	×	14.2.10 項
一括モニタ	指定デバイス以降 n 点分の現在値のモニタ						14.2.14 項
TC モニタ	指定デバイス以降 m 点分の現在値，設定値，接点，コイルのモニタ						14.2.17 項
BM モニタ	指定インテリジェント機能ユニットの指定バッファメモリ以降 x 点分の現在値のモニタ						14.2.21 項
テスト操作によるデータ変更	ビットデバイスの SET/RESET						14.2.24 項
	ワードデバイス，バッファメモリの現在値変更			△*1			
	T/C の現在値変更（TC モニタの中で操作可）			△*2			
	T/C の設定値変更（TC モニタの中で操作可）						
クイックテスト	クイックテストによるデバイス値変更						14.2.8 項
表示切換え	デバイスコメントの表示						14.2.7 項
	ワードデバイス値，バッファメモリ値の 10 進，16 進表示						

＊1 Z の現在値は変更できません。また、V は全接続形態においてサポートされていません。
＊2 定格銘板の DATE 欄が 9707B より古い QnACPU と接続時、デバイスコメントは表示できません。
＊3 CC-Link 接続（G4 経由）を示します。

(3) ACPU/QCPU（A モード），A シリーズモーションコントローラ CPU と接続時

（○：使用可能，△：一部制約有り，×：使用不可）

機　能		GOT と接続機器の接続形態					参照先
名称	内容	バス接続	CPU 直接接続	計算機リンク接続	CC-Link 接続 G4 *3	GOT マルチドロップ接続	
登録モニタ	モニタデバイスの事前登録による現在値のモニタ	○	○	△*2	×	×	14.2.10 項
一括モニタ	指定デバイス以降 n 点分の現在値のモニタ						14.2.14 項
TC モニタ	指定デバイス以降 m 点分の現在値，設定値，接点，コイルのモニタ	△*1	△*1	△*1			14.2.17 項
BM モニタ	指定インテリジェント機能ユニットの指定バッファメモリ以降 x 点分の現在値のモニタ						14.2.21 項
テスト操作によるデータ変更	ビットデバイスの SET/RESET	○	○	○			14.2.24 項
	ワードデバイス，バッファメモリの現在値変更			△*2			
	T/C の現在値変更（TC モニタの中で操作可）			○			
	T/C の設定値変更（TC モニタの中で操作可）						
クイックテスト	クイックテストによるデバイス値変更			△*2			14.2.8 項
表示切換え	デバイスコメントの表示			○			14.2.7 項
	ワードデバイス値，バッファメモリ値の 10 進，16 進表示						

＊1 A モーションコントローラ CPU のモニタ時は，モニタできません。
＊2 V, Z, A のモニタや現在値の変更はできません。
＊3 CC-Link 接続（G4 経由）を示します。

(4) FXCPU と接続時

（○：使用可能，△：一部制約有り，×：使用不可）

機　能		GOT と接続機器の接続形態		参照項
名称	内容	CPU 直接接続	GOT マルチドロップ接続	
登録モニタ	モニタデバイスの事前登録による現在値のモニタ	△＊2＊3	×	14.2.10 項
一括モニタ	指定デバイス以降 n 点分の現在値のモニタ	△＊1＊3		14.2.14 項
TC モニタ	指定デバイス以降 m 点分の現在値，設定値，接点，コイルのモニタ	○	×	14.2.17 項
BM モニタ	指定特殊増設ユニット / ブロックの指定バッファメモリ以降 x 点分の現在値のモニタ	○	×	14.2.21 項
テスト操作によるデータ変更	ビットデバイスの SET/RESET	△＊3	×	14.2.24 項
	ワードデバイス，バッファメモリの現在値変更	△＊3		
	T/C の現在値変更 (TC モニタの中で操作可)	○		
	T/C の設定値変更 (TC モニタの中で操作可)	○		
クイックテスト	クイックテストによるデバイス値変更	△＊3	×	14.2.8 項
表示切換え	デバイスコメントの表示	×	×	14.2.7 項
	ワードデバイス値，バッファメモリ値の 10 進，16 進表示	△＊3		

＊1 T/C の設定値、接点コイルはモニタできません。
＊2 T/C の設定値、接点コイル、現在値はモニタできません。TC モニタを使用してください。
＊3 V, Z のモニタや現在値の変更はできません。

(5) MELSECNET/H システムのリモート I/O 局と接続時

（○：使用可能，△：一部制約有り，×：使用不可）

機能		GOT と接続機器の接続形態					参照先
名称	内容	バス接続	CPU 直接接続	計算機リンク接続	CC-Link 接続 G4 *2	GOT マルチドロップ接続	
登録モニタ	モニタデバイスの事前登録による現在値のモニタ	×	○	○	×	×	14.2.10 項
一括モニタ	指定デバイス以降 n 点分の現在値のモニタ						14.2.14 項
TC モニタ	指定デバイス以降 m 点分の現在値，設定値，接点，コイルのモニタ						14.2.17 項
BM モニタ	指定インテリジェント機能ユニットの指定バッファメモリ以降 x 点分の現在値のモニタ						14.2.21 項
テスト操作によるデータ変更	ビットデバイスの SET/RESET						14.2.24 項
	ワードデバイス，バッファメモリの現在値変更			△*1			
	T/C の現在値変更（TC モニタの中で操作可）			○			
	T/C の設定値変更（TC モニタの中で操作可）*3						
クイックテスト	クイックテストによるデバイス値変更						14.2.8 項
表示切換え	デバイスコメントの表示						14.2.7 項
	ワードデバイス値，バッファメモリ値の 10 進，16 進表示						

＊1 V, Z の現在値は変更できません。
＊2 CC-Link 接続（G4 経由）を示します。
＊3 QCPU の二重化システム時に、設定値のデータ変更はできません。

4 必要な拡張機能 OS

(1) 下表の拡張機能 OS が必要です。

拡張機能 OS	OS の容量 (ユーザ領域)	オプション機能ボード
システムモニタ	0KB	不要

(2) 拡張機能 OS をインストールしてください。

システムモニタ（拡張機能 OS）を GOT にインストールしてください。
詳細インストール手順は，下記を参照してください。

☞ GT Designer2 Version □ 基本操作・データ転送マニュアル
GT Designer3 Version1 画面設計マニュアル（共通編）

5 モニタできるデバイス

モニタ可能なデバイス名，および範囲の詳細内容については，下記を参照ください。

☞ GT Designer2 Version □ 画面設計マニュアル
GT Designer3 Version1 画面設計マニュアル（共通編）

6 アクセス範囲

MELSECNET/H ネットワークシステムのリモート I/O 局に接続時はマスタ局のみモニタできます。
上記以外のアクセス範囲は，GOT を接続機器に接続した場合のアクセス範囲と同様です。
アクセス範囲の詳細は，下記のマニュアルを参照してください。

☞ GT Designer2 Version □ 画面設計マニュアル
GOT1000 シリーズ 接続マニュアル（三菱電機機器接続編）GT Works3 対応

7 注意事項

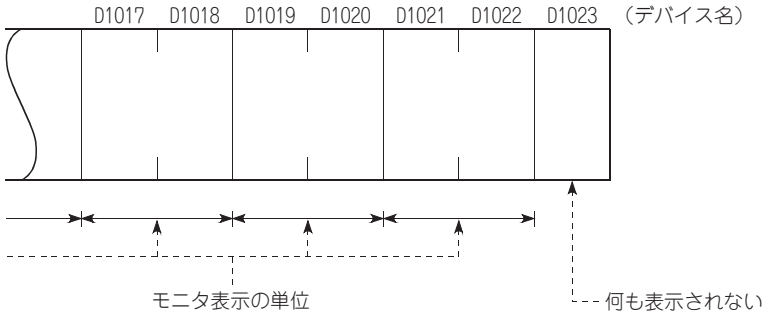
(1) 実数データのモニタ・テスト

実数データのモニタ・テストはできません。
実数データを格納しているワードデバイスに対するモニタは，すべて整数データ（バイナリデータ）で行われます。

(2) 32 ビット単位のモニタ

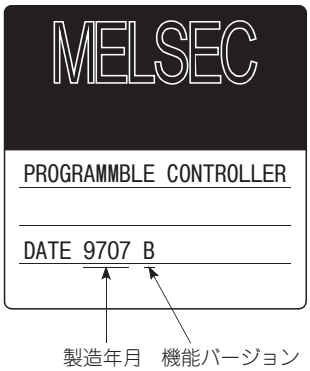
ワードデバイス（T,C,D,W など）を 32 ビット（2 ワード）単位でモニタする場合，モニタ処理の残りが 32 ビット存在するところまでモニタします。
残りが 16 ビット（1 ワード）分になったところは，モニタされません。
モニタデバイスの先頭番号として奇数番号を指定したとき接続機器のもつ最後のデバイス番号が表示できなくなります。

（例）A2NCPU のデータレジスタを奇数番号 (D1,D3…) から 32 ビット単位でモニタした場合



(3) 大形 QnACPU，小形 QnACPU の T/C 設定値変更，デバイスコメント表示

CPU 定格銘板の DATE 欄の記載が [9707 B] 以降のものについて T/C 設定値変更，デバイスコメント表示を行えます。
＜定格銘板の見方＞



(4) タイマ／カウンタの設定値変更が行えるプログラム

- AnNCPU，AnACPU，AnUCPU でタイマ／カウンタの設定値変更を行えるのは，メインプログラムのみです。
- QCPU（Q モード），QnACPU で複数プログラム実行時，タイマ／カウンタの設定値変更は，T/C モニタ画面で表示されているファイル名のプログラム（GX Developer のパラメータ設定で，1 番上の番号に設定しているスキャン実行タイププログラム）に対してのみできます。
  なお，表示するファイルを GOT で変更することはできません。

(5) Q，QnA の Z0 および ACPU の Z0，V0

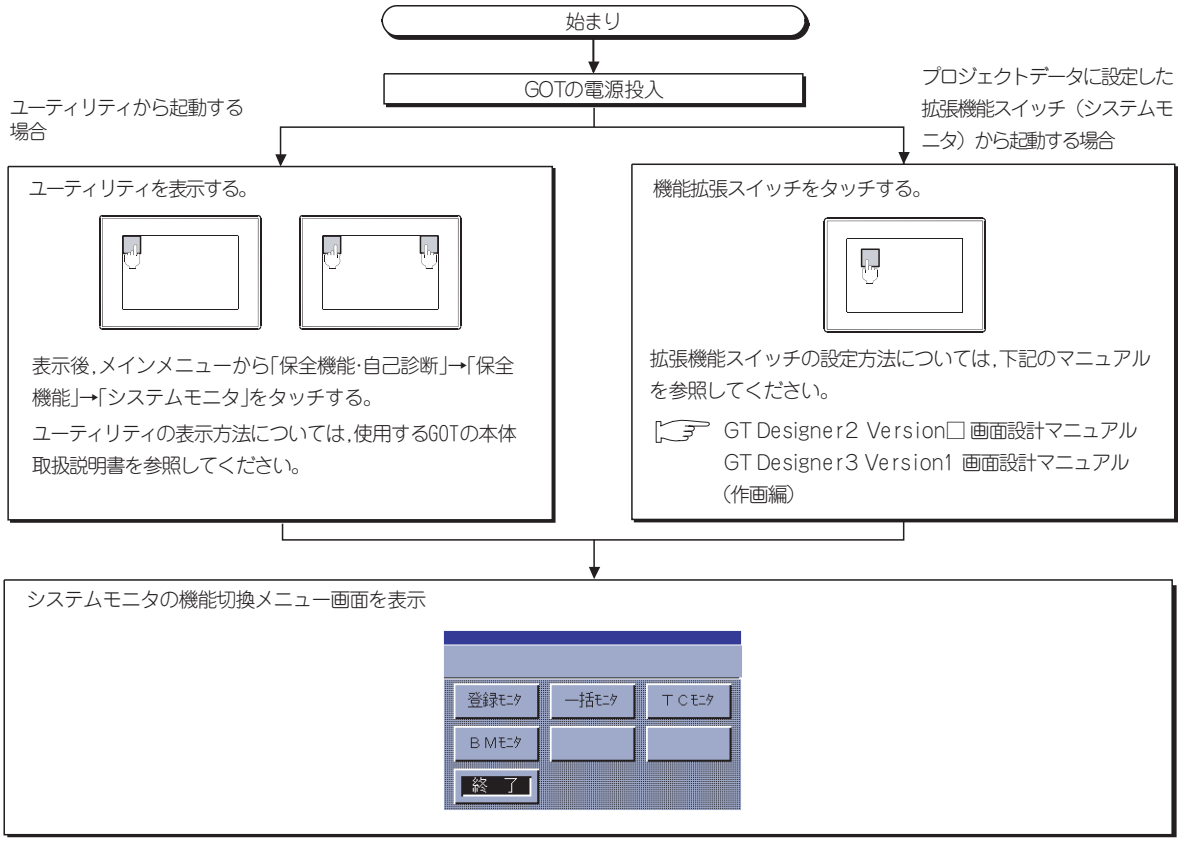
- Q，QnA の Z0 および ACPU の Z0，V0 はそれぞれ Z，V と表示されます。

14.2.2 表示操作

GOT 電源投入からシステムモニタ表示までの操作手順を説明します。

1 開始までの概要

システムモニタ（拡張機能 OS）を GOT にインストール後，システムモニタの画面を表示するまでを説明します。



Point

(1) ユーティリティの表示方法

ユーティリティの表示方法については，下記を参照してください。

☞ 9.3 節 ユーティリティの表示

(2) プロジェクトデータをダウンロードしていない場合

システムモニタは，プロジェクトデータを GOT にダウンロードしていなくても，ユーティリティから起動できます。

14.2.3 各システムモニタ画面の共通操作手順

14.2.4 機能切換メニュー画面

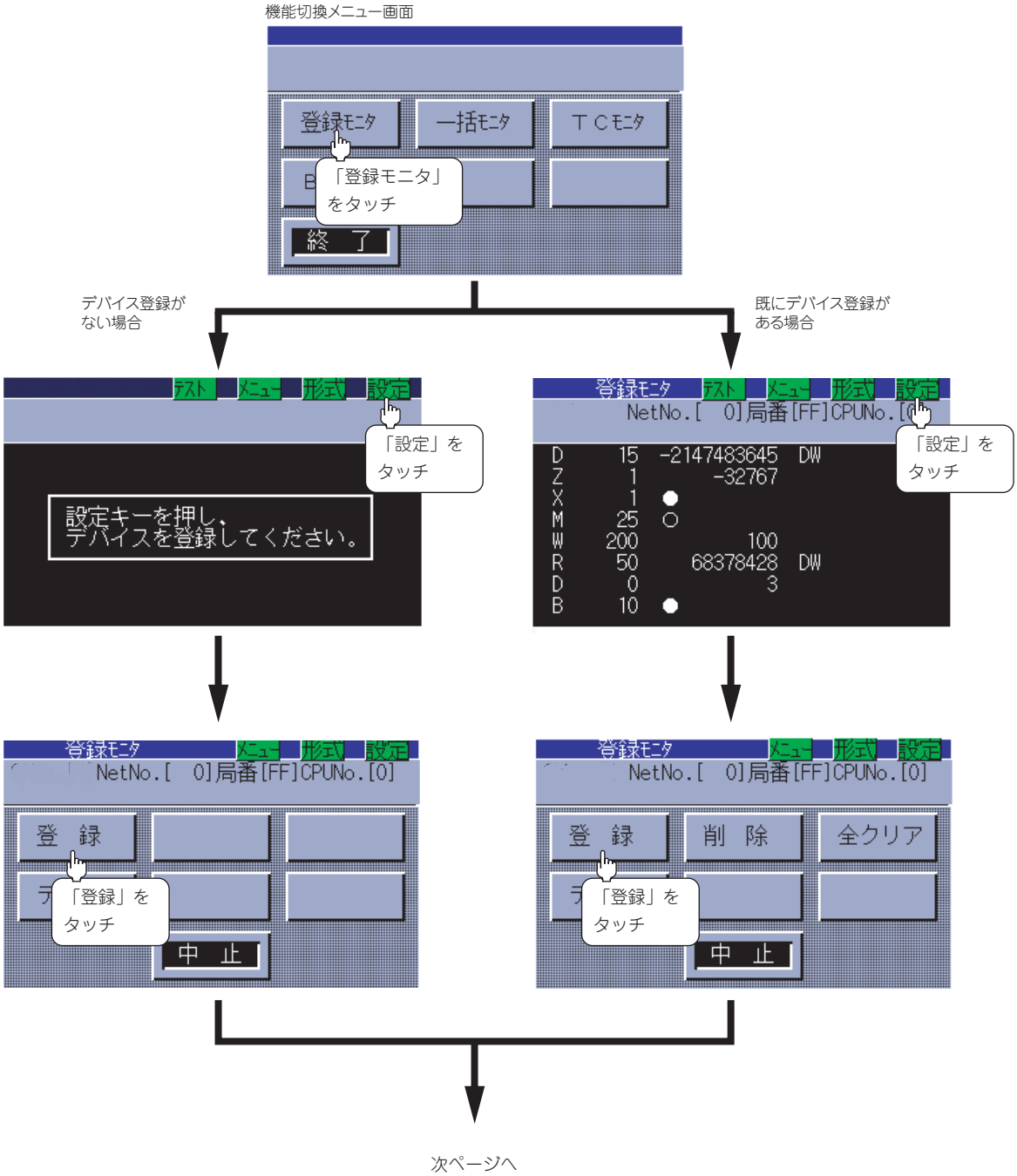
GOT 画面に表示される機能切換メニュー画面の構成と，画面上に表示しているキー機能について説明します。

機能切換メニュー画面のキー機能を下表に示します。

キー	機能
登録モニタ	該当ウィンドウで，登録モニタを行う。 ☞ 14.2.10 項 登録モニタ
一括モニタ	該当ウィンドウで，一括モニタを行う。 ☞ 14.2.14 項 一括モニタ
TCモニタ	該当ウィンドウで，TC モニタを行う。 ☞ 14.2.17 項 TC モニタ（タイマ，カウンタのモニタ）
BMモニタ	該当ウィンドウで，BM モニタを行う。 ☞ 14.2.21 項 BM モニタ（バッファメモリのモニタ）
終了	システムモニタが終了し，ユーティリティのメインメニュー画面へ戻ります。 ユーザ画面から起動している場合は，ユーザ画面へ戻ります。

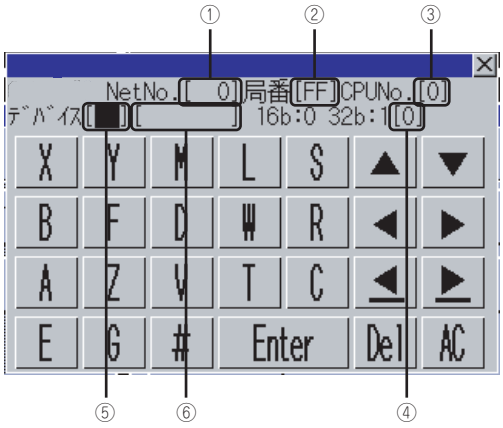
14.2.5　モニタデバイスの登録（モニタ局，デバイスの指定操作）

ネットワーク No.，対象局，対象デバイスを指定する操作を，登録モニタを選択したウィンドウを例として，説明します。
「登録モニタ」以外を選択したときも，モニタ局，デバイスの指定操作手順は同じです。
（例）　登録モニタ使用時のモニタデバイスの登録操作

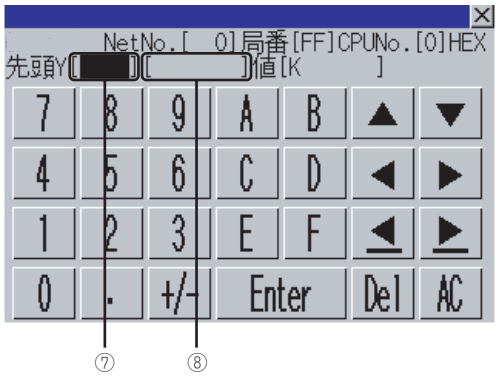


前ページから

登録,一括、およびＴＣモニタの場合のデバイス登録画面



BMモニタの場合のデバイス登録画面



①～⑧を下表の通り設定した後，Enter キーをタッチしてください。
キーウィンドウの操作は，下記参照してください。

☞ 14.2.6 項 キーウィンドウの設定欄，および操作手順

番号	項目	設定内容			
		バス接続	CPU 直結接続	計算機リンク接続	CC-Link 接続 G4 * 2
①	ネットワーク No.	0			
②	局番	FF			FF：自局の時 0：マスタ局の時 1 ～ 64：ローカル局の時
③* 3	CPU 号機	0 ～ 4：Q マルチ CPU と接続時のみ設定が必要です。Q マルチ CPU 以外は，設定不要です。			
④	データ形式	1：デバイス値がダブルワード（32 ビット）であることを示します。 0：デバイス値がワード（16 ビット）であることを示します。			
⑤	デバイス名	モニタするデバイス名とデバイス番号を設定してください。			
⑥* 1	デバイス番号				
⑦* 1	ユニット先頭	ユニットの先頭入力出力信号を 3 桁で表現したときの上 2 桁を設定してください。			
⑧* 1	先頭デバイス番号	バッファメモリの先頭デバイス番号を 10 進数で設定ください。			

＊ 1 設定できるデバイスは，下記を参照してください。

☞ GT Designer2 Version□ 画面設計マニュアル
GT Designer3 Version1 画面設計マニュアル（共通編）

＊ 2 CC-Link 接続（G4 経由）を示します。

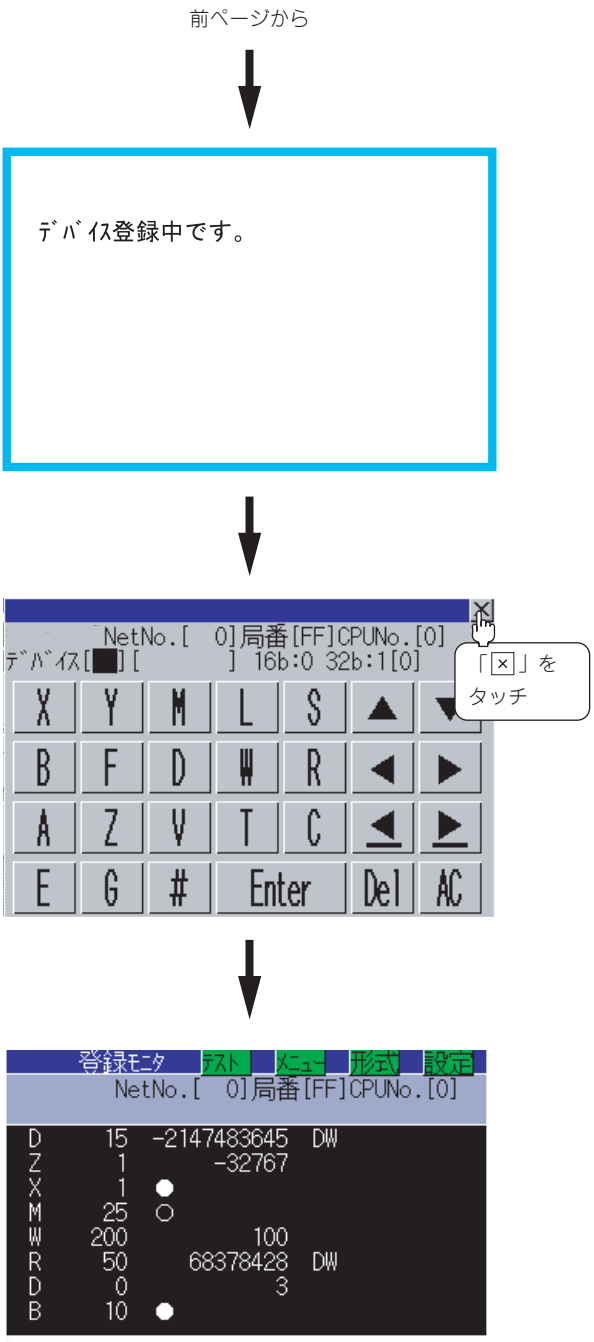
＊ 3 局番を自局 (FF) に設定時は，ネットワーク No. を 0 に設定してください。

Point **データ形式の表示**

登録／一括／ TC ／ BM モニタの表示画面では，データ形式を下記の通り表示します。

- DW：ダブルワード（32 ビット）
- 表示なし：ワード（16 ビット）

次ページへ



Point

(1) 登録内容の保持

GOT の電源を遮断せずに，システムモニタ機能を再起動すると，前回の登録内容が保持されます。

GOT の電源を再投入し，システムモニタ機能を再起動した時は，前回の登録内容が削除されています。

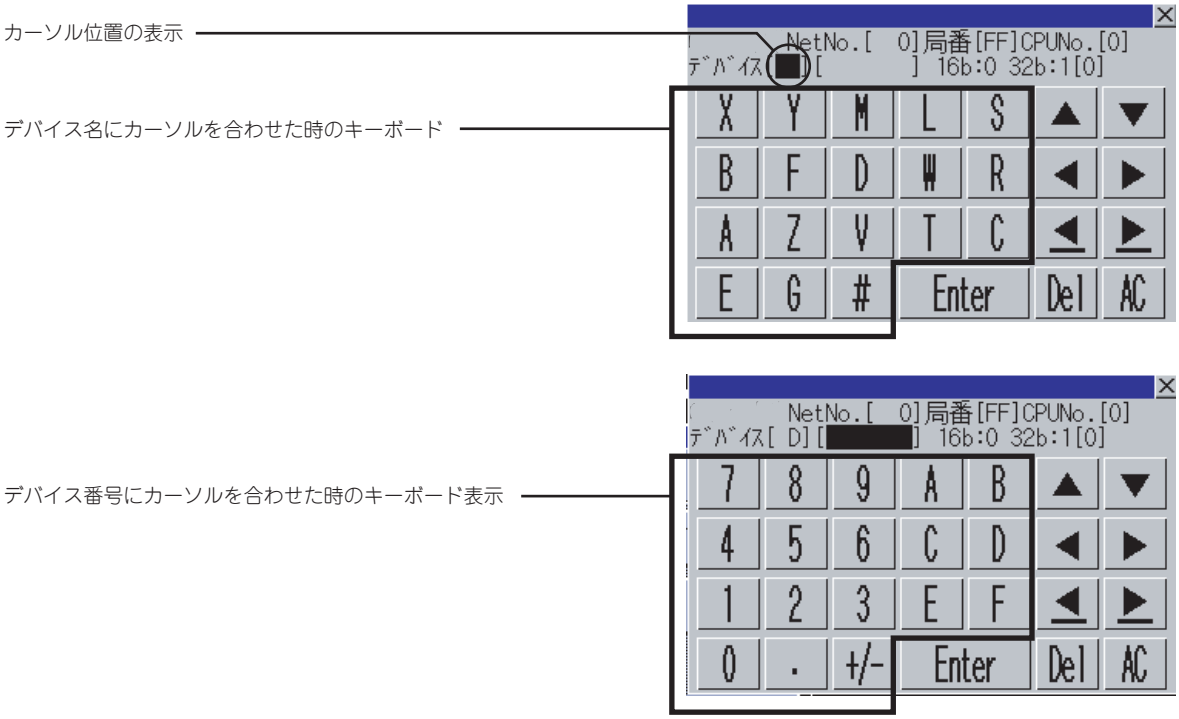
(2) モニタデバイスの登録単位

ネットワーク No. と CPU 局番の組合せ単位です。局番を変更すると，それまで登録したモニタデバイスは無効となります。

14.2.6 キーウィンドウの設定欄，および操作手順

1 キーウィンドウの操作

1 設定したい項目に，◀ ▶キーをタッチして，カーソルを合わせてください。
カーソル位置により，キーボード表示が下記の通り変わります。



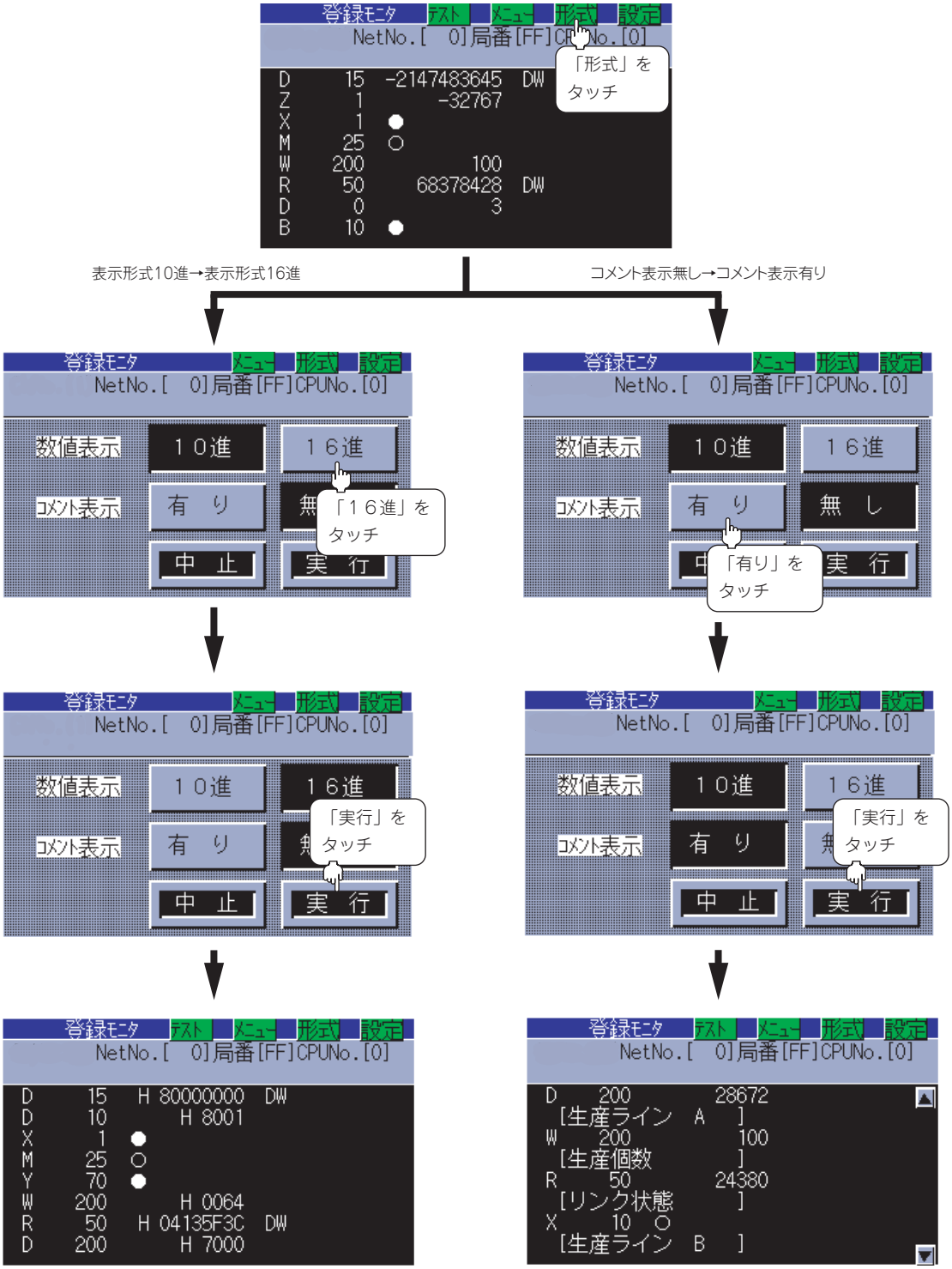
2 必要に応じて，キーボードにより数値または文字を入力してください。

- Del キー: Del キーは入力を 1 文字取り消すときに使用します。
- AC キー ：AC キーはカーソル位置の文字をすべて取り消すときに使用します。
- ▲／▼キーおよび説明の記載のないキーは何も機能しません。

3 Enter キーをタッチすると入力を完了します。
× キーをタッチするとキーボードを閉じます。

14.2.7　表示形式（10 進／16 進），およびコメント表示有無の切換え操作

下記に表示形式，およびコメント表示有無の切換え手順を説明します。
システムモニタ機能実行時に，モニタの対象局，対象デバイスを指定するときの操作について，登録モニタを選択したウィンドウを例として説明します。
「登録モニタ」以外を選択したときも，表示形式（10 進／16 進），コメント表示有無の切換え操作手順は同じです。
（登録モニタ　切換え操作例）
表示形式 10 進→表示形式 16 進
コメント表示無し→コメント表示有り



Point

(1) 接続機器のコメントまたはコメント容量の変更

システムモニタ機能を開始後，接続機器のコメントまたはコメント容量を変更すると，各モニタ画面にコメントが正しく表示されないことがあります。
コメント，コメント容量を変更したときは，GOT の再立上げを行ってください。

(2) 表示形式（10 進／ 16 進）の切換え

ワードデバイスの現在値，タイマ・カウンタの現在値と設定値を 10 進数または 16 進数で表示します。

(3) コメント表示有無の切換え

対象接続機器に書き込まれているコメントを対象に表示します。
（コメント表示の優先順位：拡張コメント＞コメント）

(4) コメント表示の有無

(a) ＢＭモニタは，コメント表示されません。

(b) 下記のCPUをモニタしている場合，コメントは表示されません。

- FXCPU
- 定格銘板の DATE 欄が 9707B より前の QnACPU, Q シリーズモーションコントローラ CPU

(c) 下記のデバイスをモニタしている場合，コメントは表示されません。

- GOT の内部デバイス（GB,GD,GS）
- CC-Link 接続時の自局デバイス（X,Y,WW,WR）

(d) QCPU（Q02CPU,Q02HCPU,Q06HCPU,Q12HCPU,Q25HCPU, Q12PHCPU, Q25PHCPU, Q12PRHCPU, Q25PRHCPU, Q02UCPU, Q03UDCPU, Q04UDHCPU, Q06UDHCPU）のコメント表示

PC パラメータ（PC ファイル設定）で下記の設定をしている場合，コメントは表示されません。

- コメントファイルを「使用しない」に選択時
- コメントファイルを「プログラムと同一ファイル名を使用」に選択時
- コメントファイルにパスワードを設定時
- プログラムメモリにコメントファイルを格納時

(e) QCPU（Q00JCPU,Q00CPU,Q01CPU）のコメント表示

PC パラメータ（PC ファイル設定）で下記の設定をしている場合，コメントは表示されません。

- コメントファイル“MAIN”がプログラムメモリに存在しない場合

(f) QnACPUのコメント表示

定格銘板の DATE 欄が 9707B より古い QnACPU では，コメント表示ができません。
定格銘板の DATE 欄が 9707B 以降の QnACPU を使用してください。
また，PC パラメータ（PC ファイル設定）で下記の設定をしている場合，コメントは表示されません。

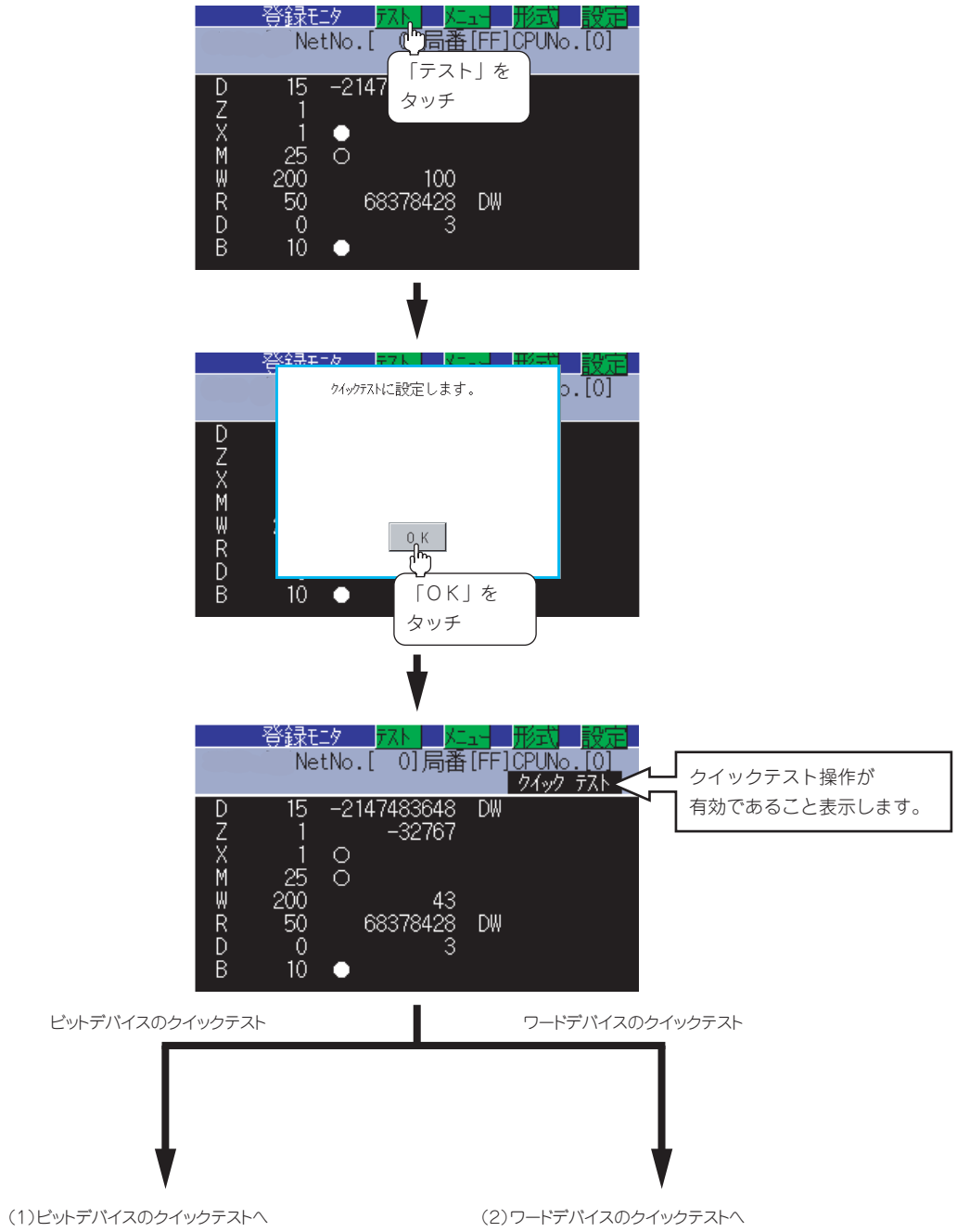
- コメントファイルを「使用しない」に選択時
- コメントファイルを「プログラムと同一ファイル名を使用」に選択して、メモリごとのキーワードを登録時

14.2.8　モニタデバイスのクイックテスト操作

⚠警告

● システムモニタ機能のクイックテスト操作（ビットデバイスの ON/OFF，ワードデバイスの現在値変更，タイマ／カウンタの設定値，現在値変更，バッファメモリの現在値変更）の操作はマニュアルを熟読し操作方法を十分理解した上で操作を行ってください。
また，システムに対する重大な動作を行うデバイスに対しては絶対にクイックテスト操作でデータ変更を行わないでください。誤出力，誤動作により事故の原因になります。

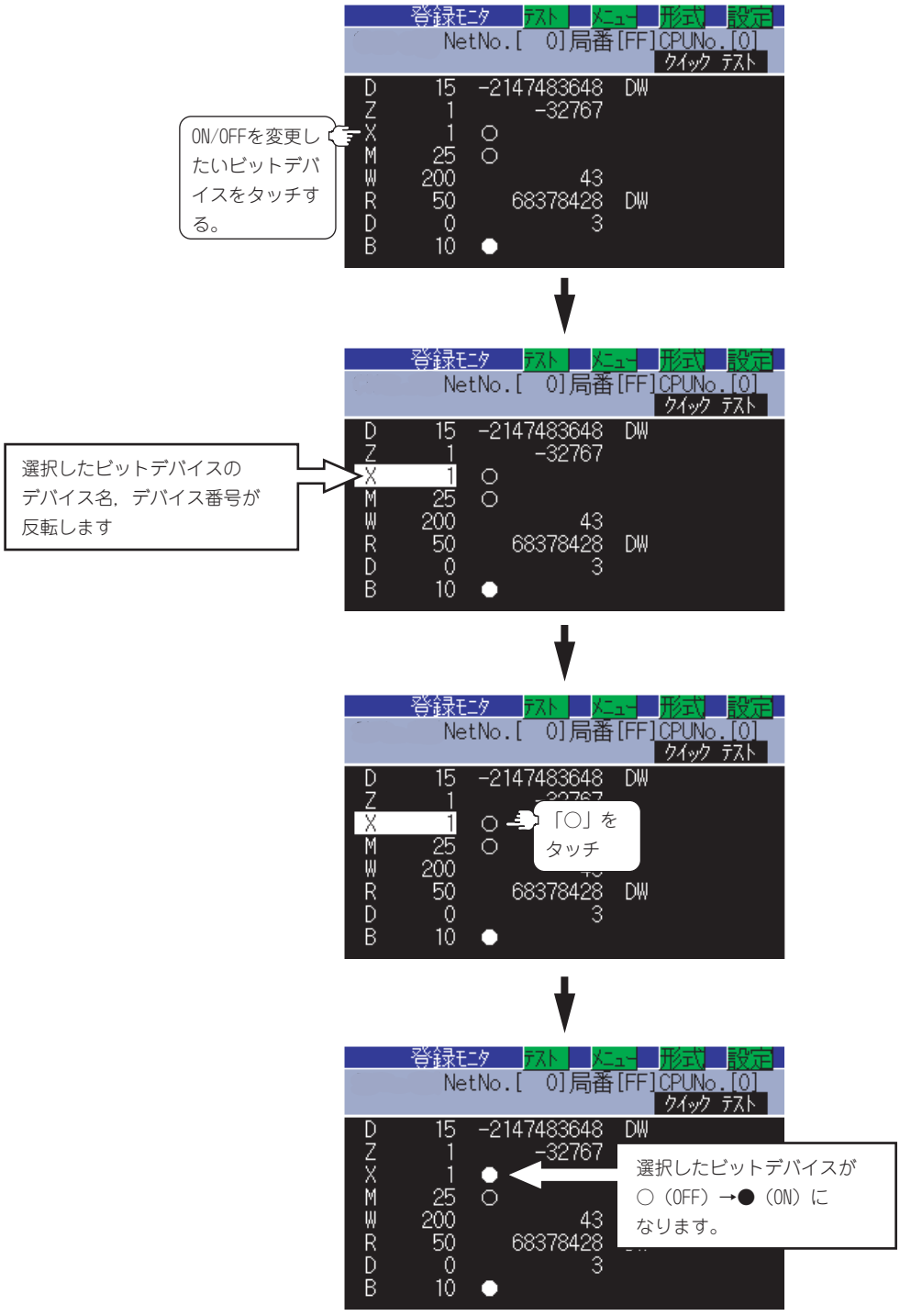
下記にモニタデバイスのクイックテスト操作手順を説明します。
システムモニタ機能実行時のクイックテスト操作を，登録モニタ画面を例として説明します。
「登録モニタ」以外を選択したときも，一括モニタ，TC モニタ，BM モニタでの操作手順は同じです。
（登録モニタのクイックテスト操作例）



(1) ビットデバイスのクイックテスト

（操作例）

ビットデバイス X001 を OFF（○）→ON（●）にします。

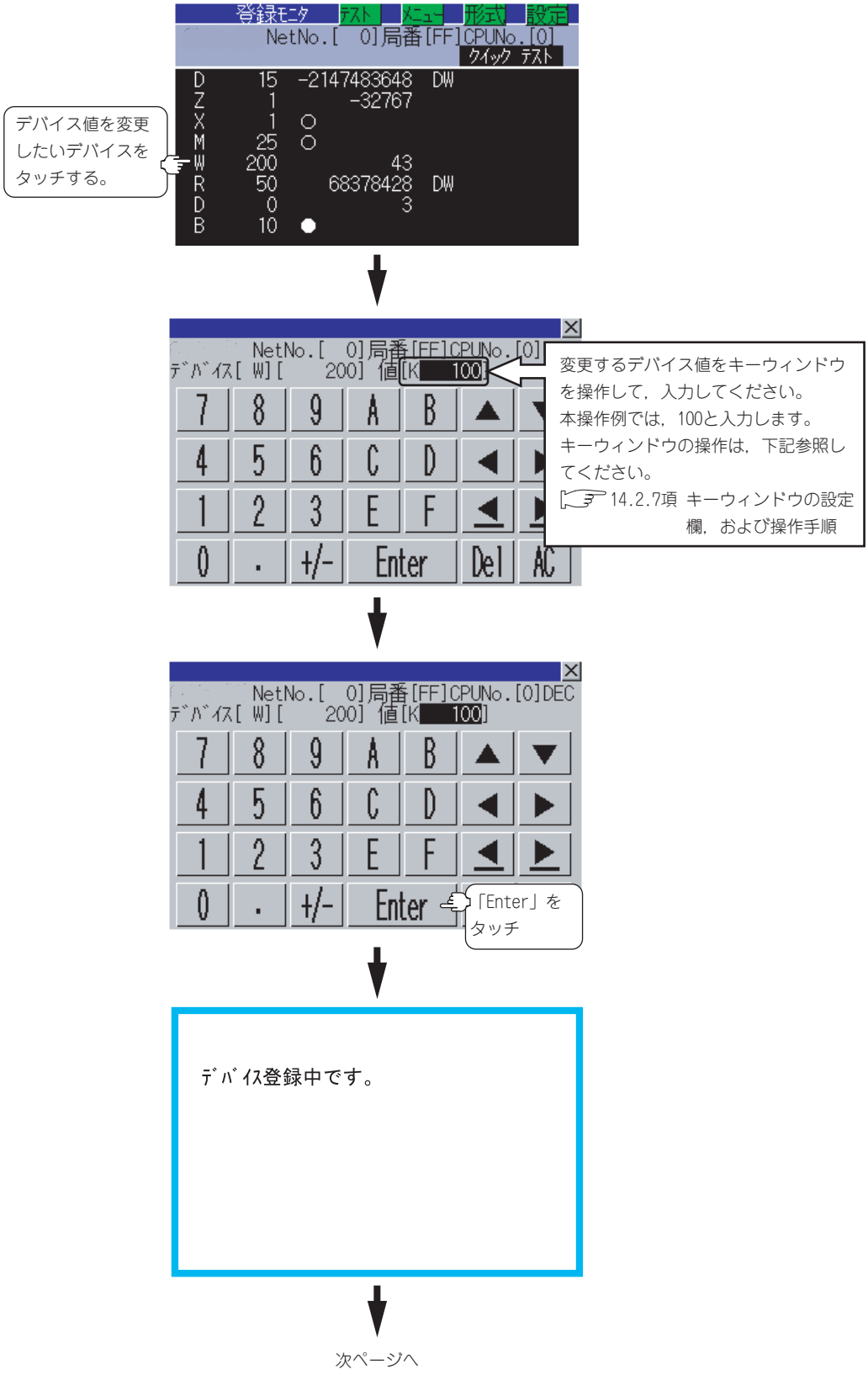


(2) ワードデバイスのクイックテスト

（操作例）

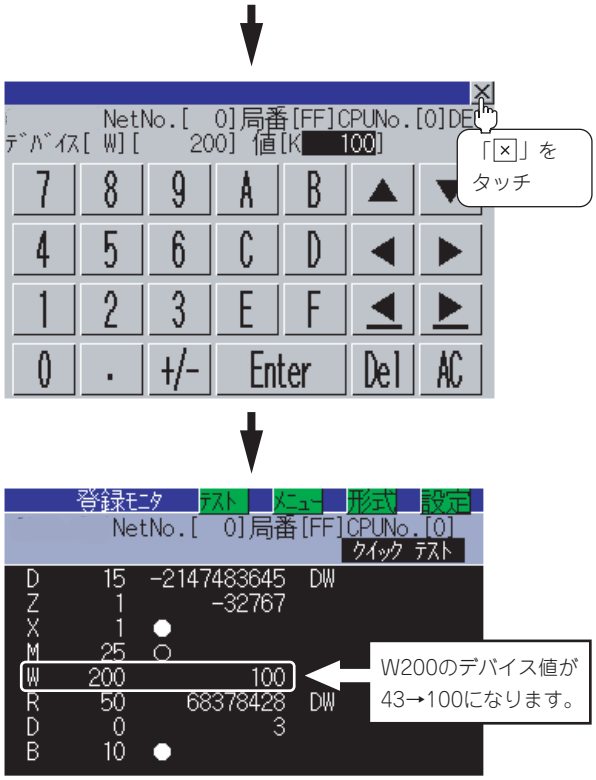
ワードデバイス W200 のデバイス値を 43 → 100 にします。

条件：データ形式：16 ビット，デバイス値表示形式：10 進数



次ページへ

前ページから



Point

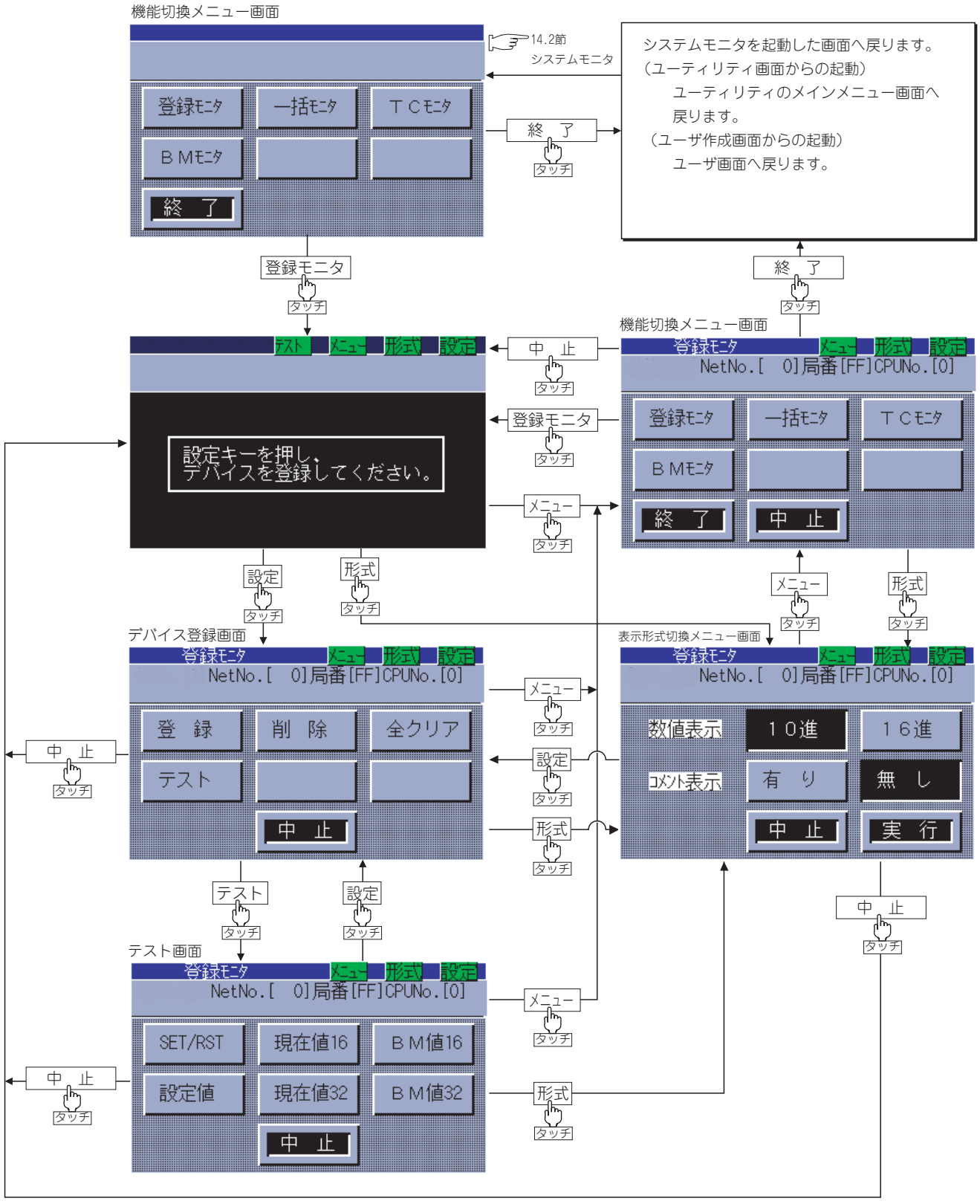
デバイス値の変更できる有効桁数

下記桁数を超えて数値を入力した場合は，デバイス値を変更することができません。

【10 進数】
16 ビット単位　　：6 桁（符号 1 桁を含みます）
32 ビット単位（DW）：10 桁（符号 1 桁を含みます）
【16 進数】
16 ビット単位　　：4 桁
32 ビット単位（DW）：8 桁

14.2.9 画面遷移（共通操作）

登録モニタを例に，画面遷移を説明します。

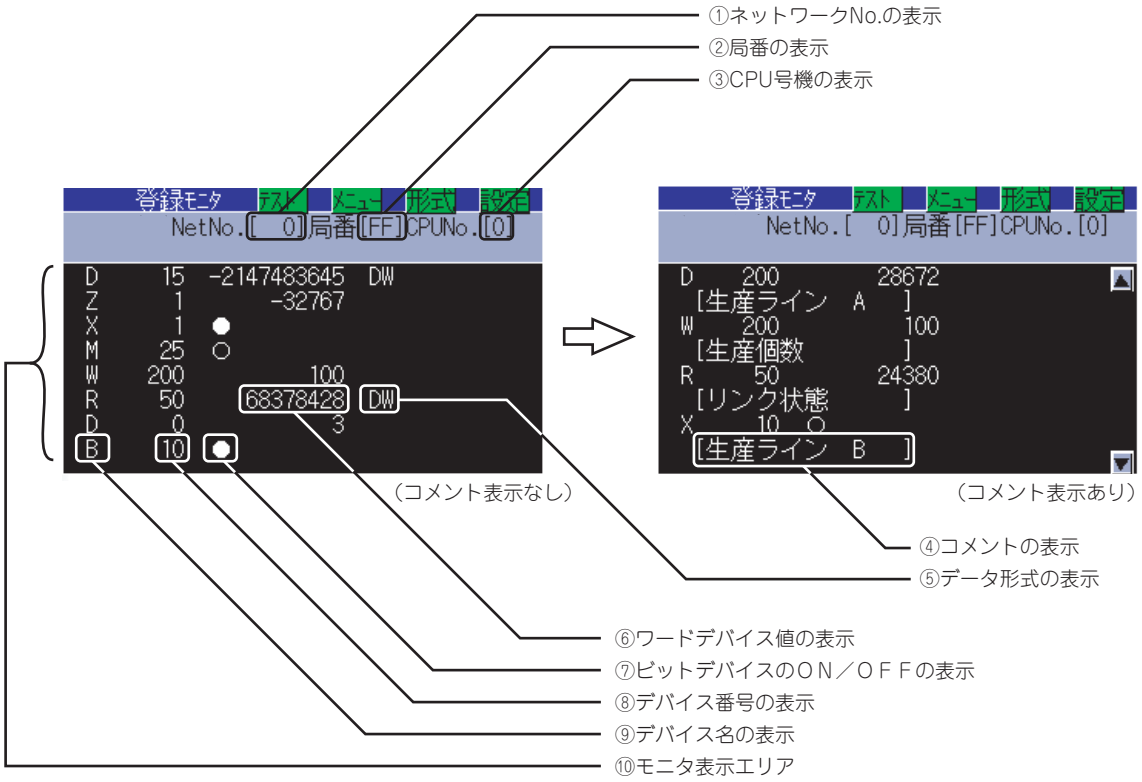


14.2.10 登録モニタ

登録モニタは，モニタするデバイスを事前登録し，登録したデバイスのみをモニタする機能です。
システムモニタ実行時に，登録モニタを行うときの操作について説明します。

14.2.11 登録モニタ画面の表示内容とキー機能

(1) 画面表示内容を説明します。
キー機能は，次ページを参照してください。



表示項目①～⑩の詳細内容は，次ページ参照してください。

(2) 登録モニタ表示画面のキー機能を下表に説明します。

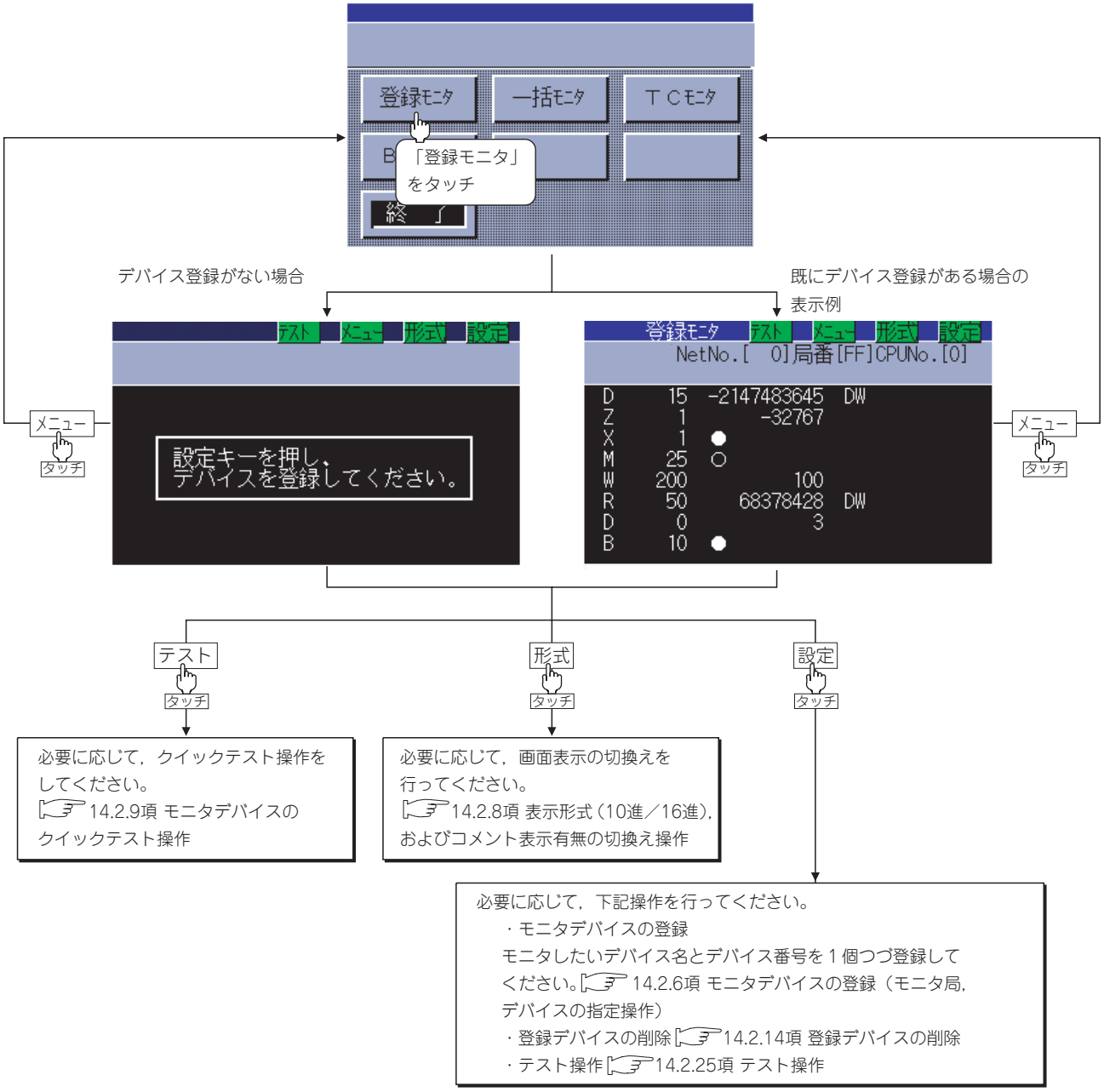
キースイッチ	機能
テスト	クイックテスト操作への切換えを行います。 ☞ 14.2.8 項 モニタデバイスのクイックテスト操作
メニュー	他モニタ機能への切換え，システムモニタ機能の終了を行うための，機能切換えメニュー画面へ遷移します。 ☞ 14.2.9 項 画面遷移（共通操作）
形　式	登録モニタ画面上の数値表示の切換え（10 進／ 16 進 ），コメント表示有無の切換えを行うための，表示切換えメニュー画面へ遷移します。 ☞ 14.2.7 項 表示形式（10 進／ 16 進 ），およびコメント表示有無の切換え操作
設　定	モニタデバイスの登録，登録デバイスの削除，テストを行うための，デバイス登録画面へ遷移します。 • モニタデバイスの登録　☞ 14.2.5 項 モニタデバイスの登録（モニタ局，デバイスの指定操作） • 登録デバイスの削除　☞ 14.2.13 項 登録デバイスの削除 • テスト操作　☞ 14.2.24 項 テスト操作
▲ ▼	表示内容を上／下方向へ 1 行分スクロールし，現在表示されていない直前／直後のモニタデバイスについて表示する。5 点以上のモニタデバイスが登録されている場合，モニタデバイスのコメントを表示しているときに操作可能です。 ▲ ：1 行分，上方向へスクロール ▼ ：1 行分，下方向へスクロール

(3) 表示項目①～⑩の表示範囲を下表に説明します。

番号	項目	設定内容			
		バス接続	CPU 直結接続	計算機リンク接続	CC-Link 接続 G4 * 1
①	ネットワーク No.	0			
②	局番	FF			FF：自局の時 0：マスタ局の時 1 ～ 64：ローカル局の時
③	CPU 号機	0 ～ 4：Q マルチ CPU と接続時のみ設定が必要です。Q マルチ CPU 以外は設定不要です。			
④	コメント	コメント表示（最大文字数：半角 16 文字） 表示形式をコメント表示【有り】とした場合に，表示します。			
⑤	データ形式	DW　：デバイス値がダブルワード（32 ビット）であることを示します。 表示なし：デバイス値がワード（16 ビット）であることを示します。			
⑥	ワードデバイス値	【10 進数】 16 ビット単位：6 桁（符号 1 桁を含みます）を表示します。（表示例：-12345） 32 ビット単位：10 桁（符号 1 桁を含みます）を表示します。（表示例：-123456789） 【16 進数】 16 ビット単位：4 桁を表示します。（表示例：H AB12） 32 ビット単位：8 桁を表示します。(表示例：H ABCDE123)			
⑦	ビットデバイスの ON/OFF	●：ON を示します。 ○：OFF を示します。			
⑧	デバイス番号	局番単位に，最大 8 点までデバイスをモニタ表示できます。 登録できるデバイス番号とデバイス名の詳細は，☞ GT Designer2 Version □ 画面設計マニュアル GT Designer3 Version1 画面設計マニュアル（共通編）			
⑨	デバイス名				
⑩	モニタ表示エリア	コメント表示しない時：最大 8 デバイスを表示可能 コメント表示する時　：最大 4 デバイスを表示可能			

＊ 1 CC-Link 接続（G4 経由）を示します。

14.2.12 登録モニタ基本操作の手順



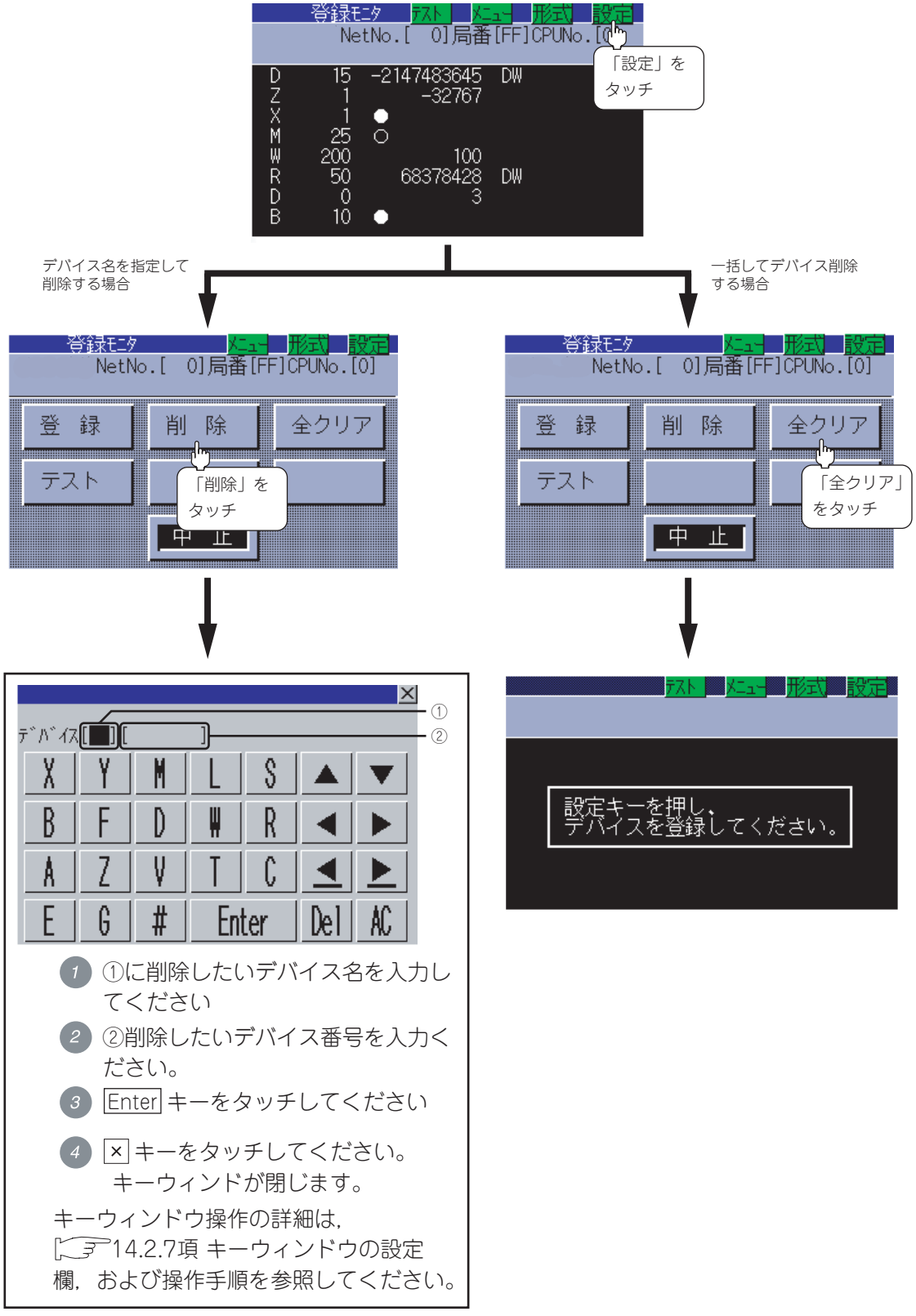
Point

最大登録数 8 点を超えてデバイス登録した場合

登録デバイスは，最大 8 点です。それ以上登録した時は，古い登録デバイスから順次削除されて，最新の登録デバイス 8 点分のモニタを行います。
必要に応じて登録デバイスの削除を行ってから再度登録してください。

14.2.13 登録デバイスの削除

下記に登録デバイスの削除の操作手順を説明します。
システムモニタ機能実行時の登録デバイスの削除の操作を説明します。



1. ①に削除したいデバイス名を入力してください
2. ②削除したいデバイス番号を入力ください。
3. Enter キーをタッチしてください
4. × キーをタッチしてください。
   キーウィンドが閉じます。

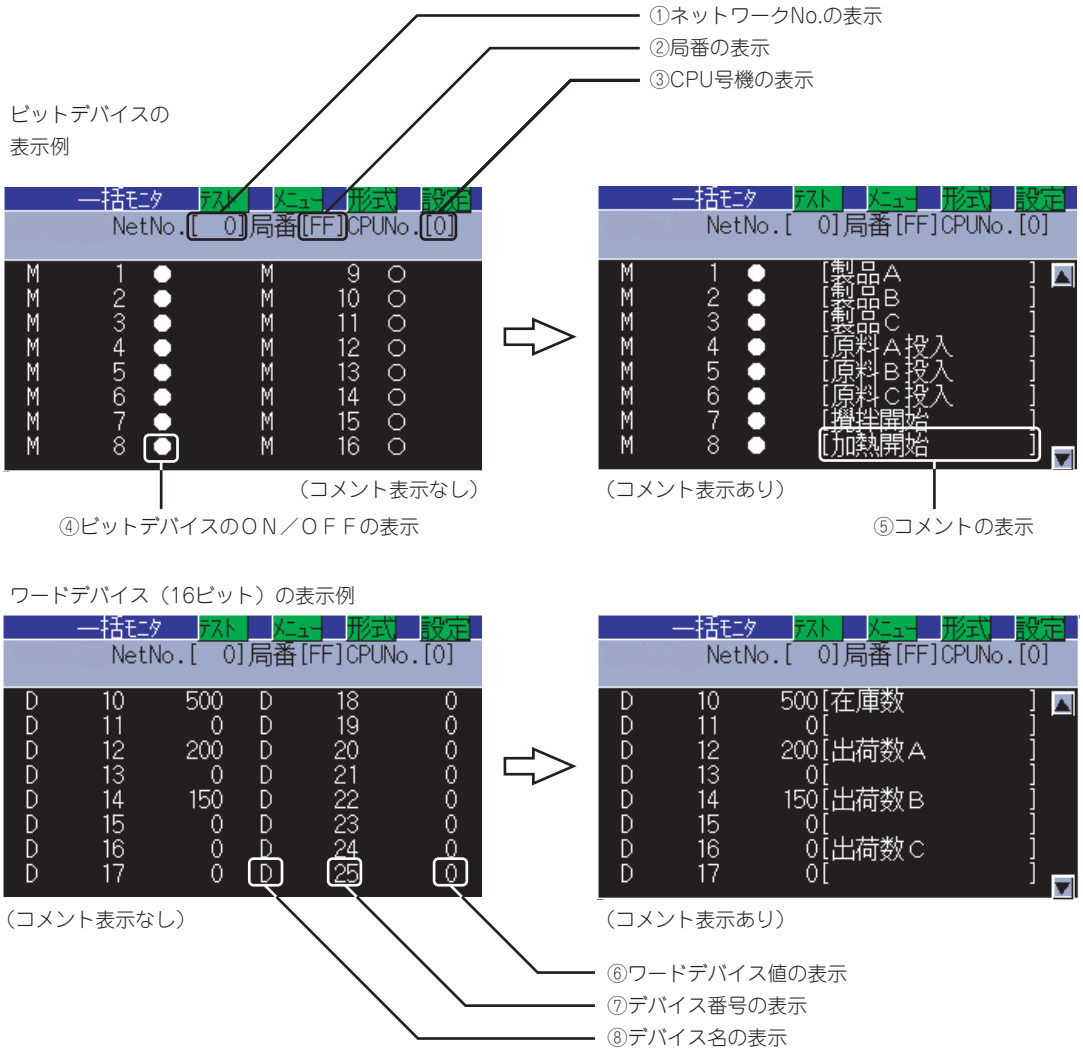
キーウィンドウ操作の詳細は,
☞14.2.7項 キーウィンドウの設定欄, および操作手順を参照してください。

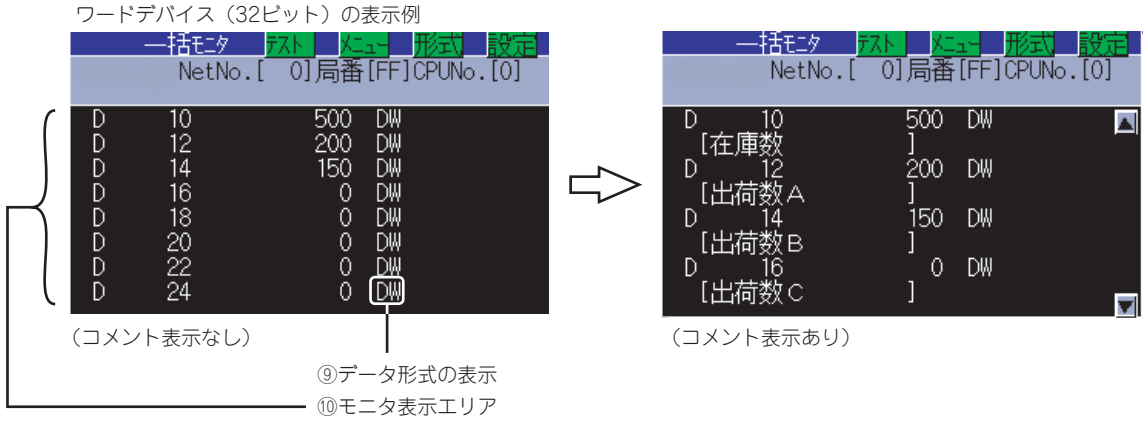
14.2.14 一括モニタ

一括モニタは，モニタ時，任意のデバイス範囲の先頭デバイスを指定してモニタする機能です。
システムモニタ実行時に，一括モニタを行うときの操作について説明します。

14.2.15 一括モニタ画面の表示内容とキー機能

(1) 画面表示内容を説明します。





表示項目①～⑩の詳細内容は，次ページ参照してください。

Point

1 画面あたりの表示点数

データ形式の設定により，1 画面あたりの表示点数が下記の通り異なります。
ワードデバイス（16 ビット）：16 点（コメント表示なし），8 点（コメント表示あり）
ワードデバイス（32 ビット）：8 点（コメント表示なし），4 点（コメント表示あり）
ビットデバイス　　：16 点（コメント表示なし），8 点（コメント表示あり）
データ形式の設定の詳細は，下記参照してください。

☞ 14.2.5 項 モニタデバイスの登録（モニタ局，デバイスの指定操作）

(2) 一括モニタ表示画面のキー機能を下表に説明します。

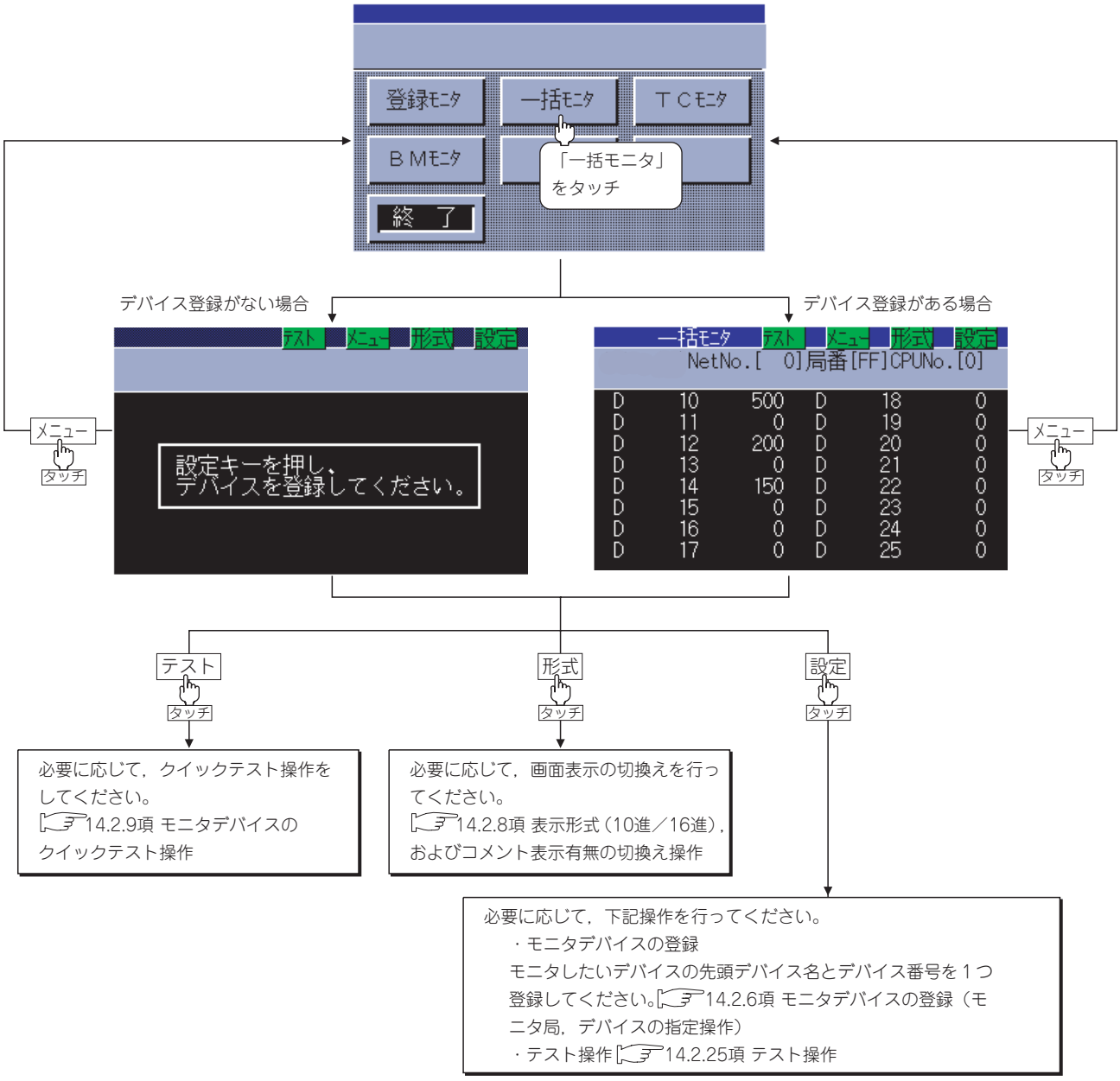
キースイッチ	機能
テスト	クイックテスト操作への切換えを行います。 ☞ 14.2.8 項 モニタデバイスのクイックテスト操作
メニュー	他モニタ機能への切換え，システムモニタ機能の終了を行うための，機能切換えメニュー画面へ遷移します。 ☞ 14.2.9 項 画面遷移（共通操作）
形　式	一括モニタ画面上の数値表示の切換え（10 進／16 進），コメント表示有無の切換えを行うための，表示切換えメニュー画面へ遷移します。 ☞ 14.2.7 項 表示形式（10 進／16 進），およびコメント表示有無の切換え操作
設　定	モニタデバイスの登録，テストを行うための，デバイス登録画面へ遷移します。 ・モニタデバイスの登録　☞ 14.2.5 項 モニタデバイスの登録（モニタ局，デバイスの指定操作） ・テスト操作　☞ 14.2.24 項 テスト操作
▲　▼	表示内容を上／下方向へ 1 行分スクロールし，現在表示されていない直前／直後のモニタデバイスについて表示する。5 点以上のモニタデバイスが登録されている場合，モニタデバイスのコメントを表示しているときに操作可能です。 ▲　：1 行分，上方向へスクロール ▼　：1 行分，下方向へスクロール

(3) 表示項目①～⑩の表示範囲を下表に説明します。

番号	項目	設定内容			
		バス接続	CPU 直結接続	計算機リンク接続	CC-Link 接続 G4 *1
①	ネットワーク No.	0			
②	局番	FF			FF：自局の時 0：マスタ局の時 1 ～ 64：ローカル局の時
③	CPU 号機	0 ～ 4：Q マルチ CPU と接続時のみ設定が必要です。Q マルチ CPU 以外は，設定不要です。			
④	ビットデバイスの ON/OFF	●：ON を示します。 ○：OFF を示します。			
⑤	コメント	コメント表示（最大文字数：半角 16 文字） 表示形式をコメント表示【有り】とした場合に，表示します。			
⑥	ワードデバイス値	【10 進数】 16 ビット単位：6 桁（符号 1 桁を含みます）を表示します。（表示例：-12345） 32 ビット単位：10 桁（符号 1 桁を含みます）を表示します。（表示例：-123456789） 【16 進数】 16 ビット単位：4 桁を表示します。（表示例：H AB12） 32 ビット単位：8 桁を表示します。（表示例：H ABCDE123）			
⑦	デバイス番号	データ形式がワード（16 ビット）の場合，16 点までデバイスを登録できます。 データ形式がダブルワード（32 ビット）の場合，8 点までデバイスを登録できます。 登録できるデバイス番号とデバイス名の詳細は，☞ GT Designer2 Version □ 画面設計マニュアル GT Designer3 Version1 画面設計マニュアル（共通編）			
⑧	デバイス名				
⑨	データ形式	DW　：デバイス値がダブルワード（32 ビット）であることを示します。 表示なし：デバイス値がワード（16 ビット）であることを示します。			
⑩	モニタ表示エリア	コメント表示しない時：最大 16 デバイスを一度に表示可能（データ形式：ワード） 最大 8 デバイスを一度に表示可能（データ形式：ダブルワード） コメント表示する時　：最大 8 デバイスを一度に表示可能（データ形式：ワード） 最大 4 デバイスを一度に表示可能（データ形式：ダブルワード）			

＊1 CC-Link 接続（G4 経由）を示します。

14.2.16 一括モニタ基本操作の手順

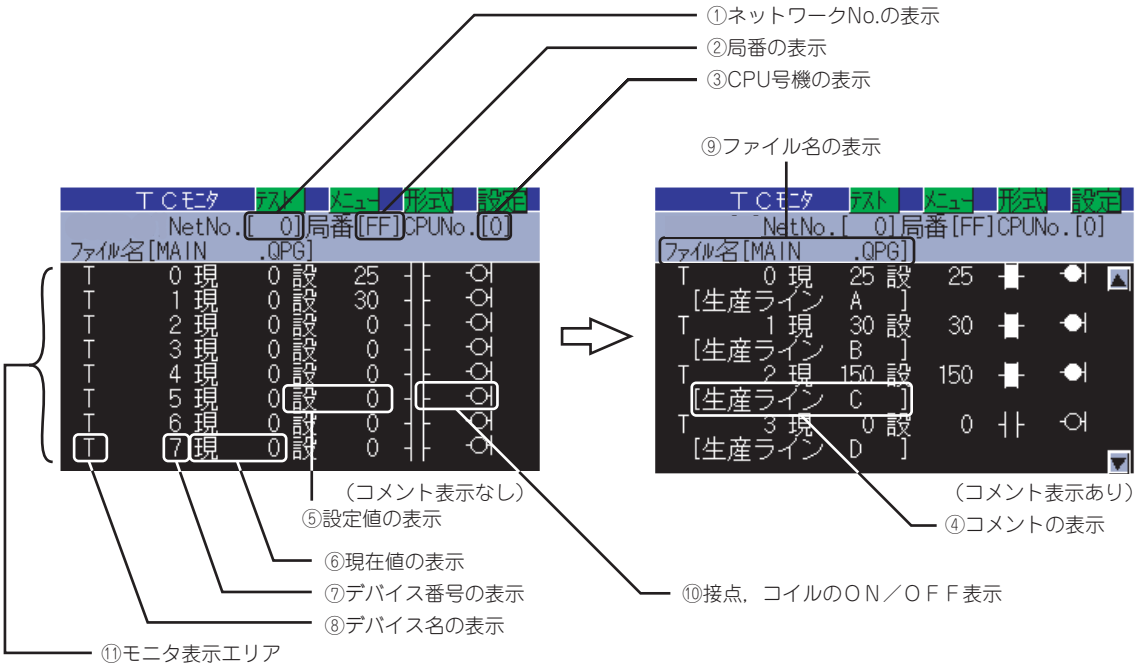


14.2.17 TC モニタ（タイマ，カウンタのモニタ）

TC モニタは，モニタ時，タイマ (T) とカウンタ (C) のみを対象にしてモニタする機能です。
システムモニタ実行時に，TC モニタを行うときの操作について説明します。

14.2.18 TC モニタ画面の表示内容とキー機能

(1) 画面表示内容を説明します。



表示項目①～⑪の詳細内容は，次ページ参照してください。

(2) TC モニタ表示画面のキー機能を下表に説明します。

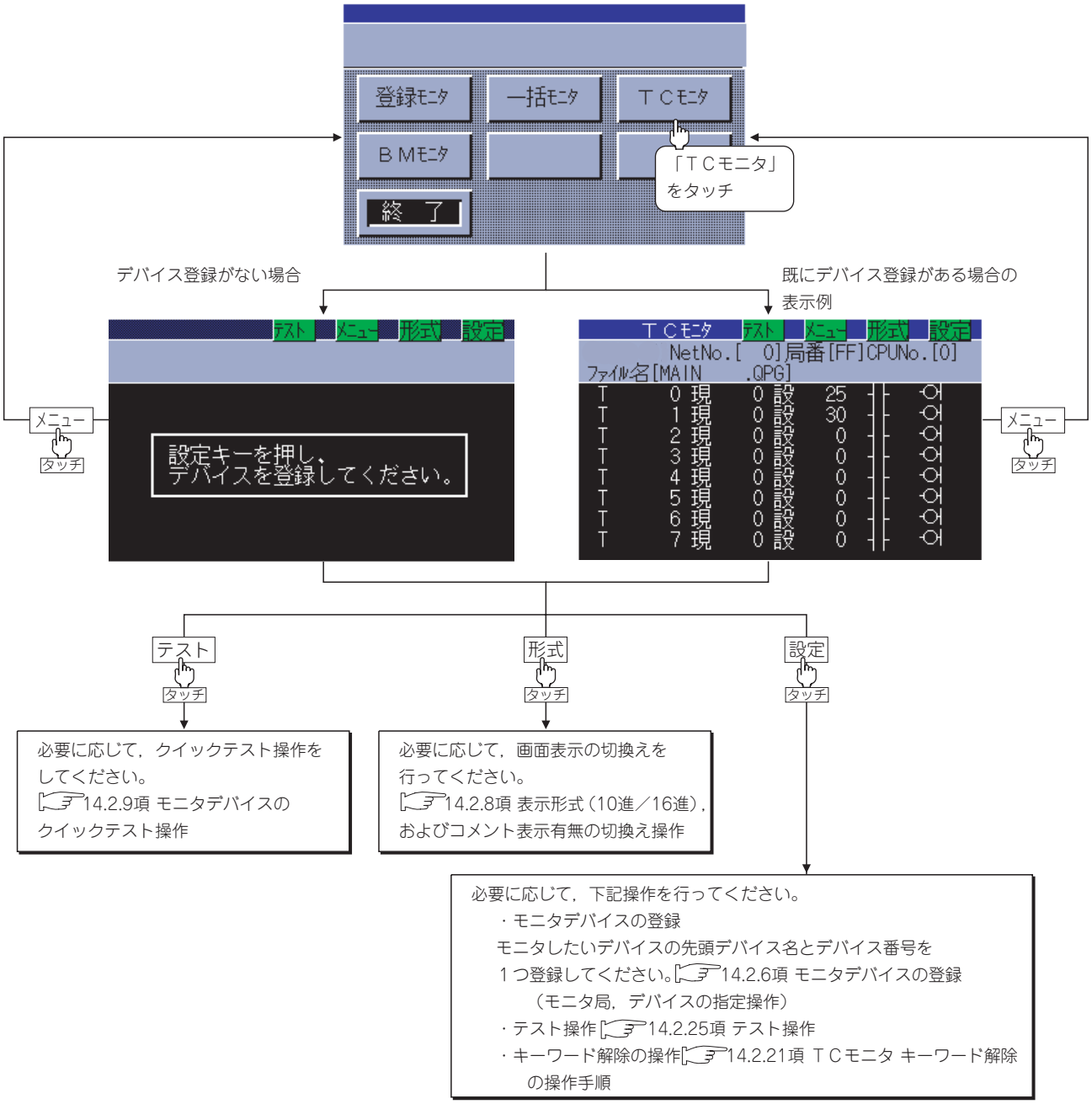
キースイッチ	機能
テスト	クイックテスト操作への切換えを行います。 ☞ 14.2.8 項 モニタデバイスのクイックテスト操作
メニュー	他モニタ機能への切換え，システムモニタ機能の終了を行うための，機能切換えメニュー画面へ遷移します。 ☞ 14.2.9 項 画面遷移（共通操作）
形　式	TC モニタ画面上の数値表示の切換え（10 進／ 16 進），コメント表示有無の切換えを行うための，表示切換えメニュー画面へ遷移します。 ☞ 14.2.7 項 表示形式（10 進／ 16 進），およびコメント表示有無の切換え操作
設　定	モニタデバイスの登録，テストを行うための，デバイス登録画面へ遷移します。 ・モニタデバイスの登録　☞ 14.2.5 項 モニタデバイスの登録（モニタ局，デバイスの指定操作） ・テスト操作　☞ 14.2.24 項 テスト操作 ・キーワードの解除　☞ 14.2.20 項 TC モニタ キーワード解除の操作手順
▲ ▼	表示内容を上／下方向へ 1 行分スクロールし，現在表示されていない直前／直後のモニタデバイスについて表示する。5 点以上のモニタデバイスが登録されている場合，モニタデバイスのコメントを表示しているときに操作可能です。 ▲ ：1 行分，上方向へスクロール ▼ ：1 行分，下方向へスクロール

(3) 表示項目①～⑪の表示範囲を下表に説明します。

番号	項目	設定内容			
		バス接続	CPU 直結接続	計算機リンク接続	CC-Link 接続 G4 * 1
①	ネットワーク No.	0			
②	局番	FF			FF：自局の時 0：マスタ局の時 1 ～ 64：ローカル局の時
③	CPU 号機	0 ～ 4：Q マルチ CPU と接続時のみ設定が必要です。Q マルチ CPU 以外は設定不要です。			
④	コメント	コメント表示（最大文字数：半角 16 文字） 表示形式をコメント表示【有り】とした場合に，表示します。			
⑤	設定値	【10 進数】 4 桁を表示します。（表示例：1234） 【16 進数】 4 桁を表示します。（表示例：H AB12）			
⑥	現在値	【10 進数】 4 桁を表示します。（表示例：1234） 【16 進数】 4 桁を表示します。（表示例：H AB12） （CPU が FXCPU の場合は，現在値をモニタできません。）			
⑦	デバイス番号	8 点までデバイスを登録できます。 登録できるデバイス番号とデバイス名の詳細は，☞ GT Designer2 Version □ 画面設計マニュアル GT Designer3 Version1 画面設計マニュアル（共通編）			
⑧	デバイス名				
⑨	ファイル名	CPU が QnA，QCPU の場合：プログラム名を表示します。複数ある場合は，先頭の実行プログラム名を表示します。 CPU が ACPU，FXCPU の場合：「メインプログラム」を固定表示します。			
⑩	接点，コイルの ON/OFF	⊣●⊢は，ON を示します。⊣/⊢は，OFF を示します。 （CPU が FXCPU の場合は，接点，コイルをモニタできません。）			
⑪	モニタ表示エリア	コメント表示しない時：最大 8 デバイスを一度に表示可能 コメント表示する時　：最大 4 デバイスを一度に表示可能			

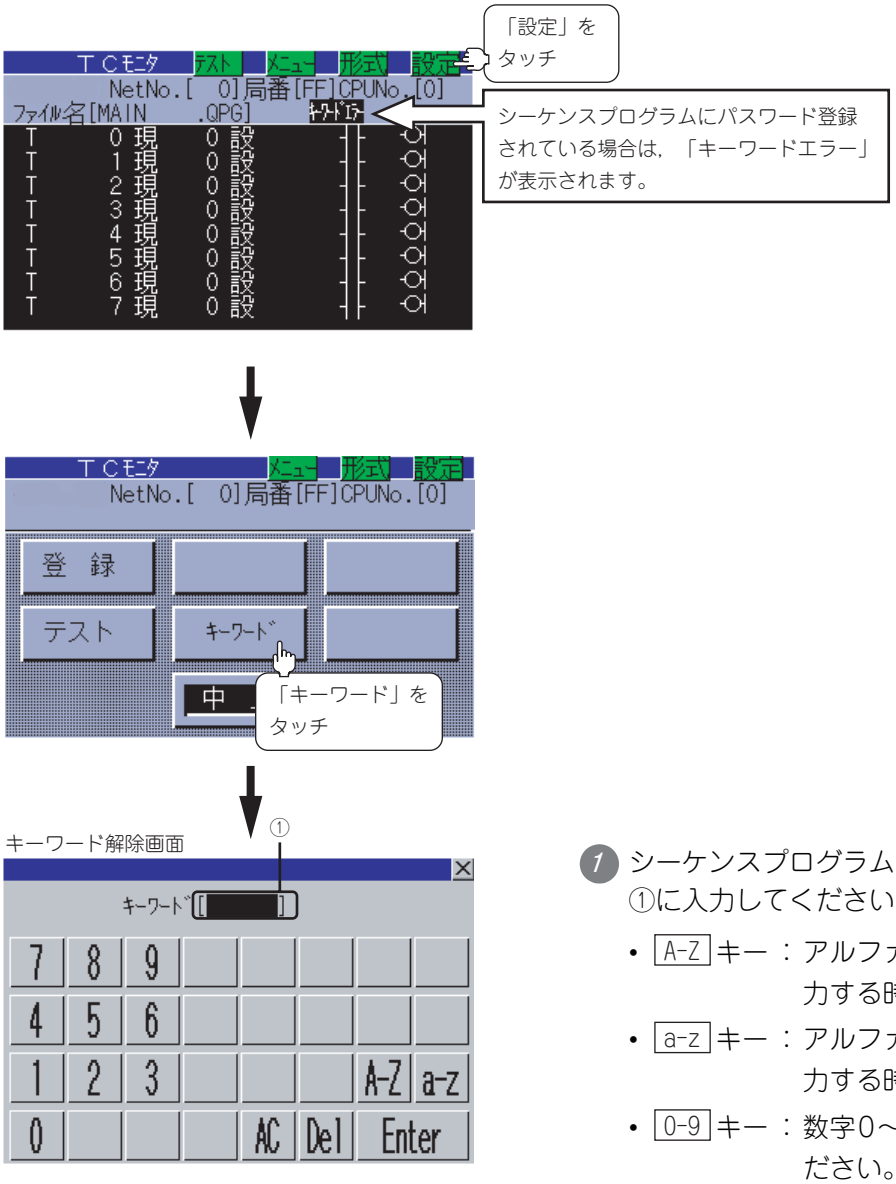
＊ 1 CC-Link 接続（G4 経由）を示します。

14.2.19 TC モニタ基本操作の手順



14.2.20 TC モニタ キーワード解除の操作手順

接続機器が QCPU で，シーケンスプログラムにパスワードが登録されている場合，T（タイマー），C（カウンター）の設定値を表示するときにキーワードを解除する必要があります。
下記のキーワード解除手順を説明します。



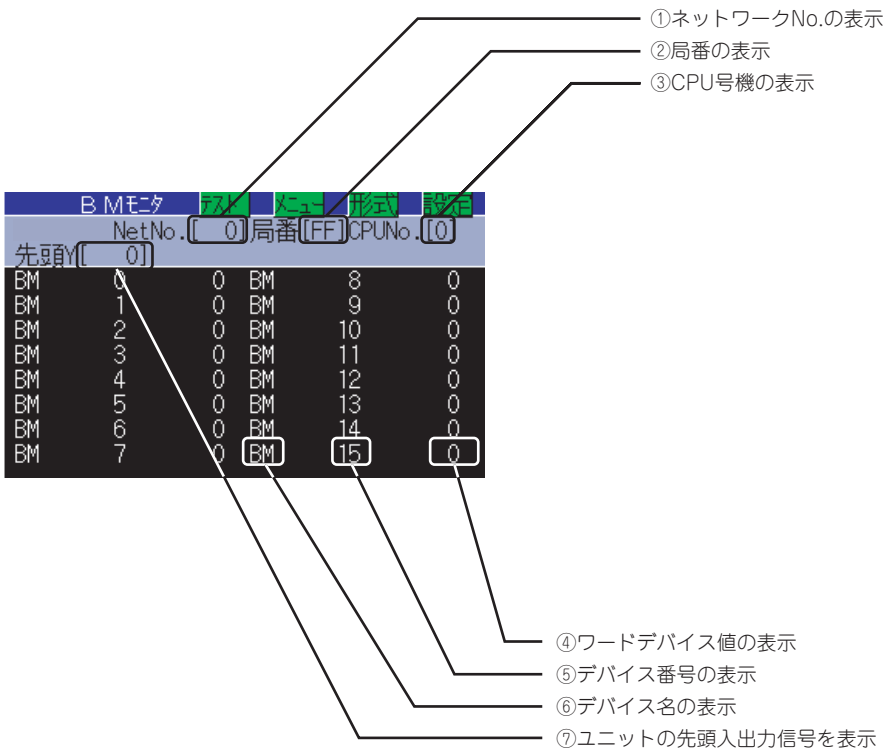
1. シーケンスプログラムに登録されているパスワードを①に入力してください。
   - A-Z キー ：アルファベット A ～ Z（大文字）を入力する時にタッチしてください。
   - a-z キー ：アルファベット a ～ z（小文字）を入力する時にタッチしてください。
   - 0-9 キー ：数字0～9を入力する時にタッチしてください。
   - Del キー ：入力を 1 文字取り消すときに使用します。
   - AC キー ：カーソル位置の文字をすべて取り消すときに使用します。
2. Enter キーをタッチすると入力が完了し，キーボードが閉じます。

14.2.21 BM モニタ（バッファメモリのモニタ）

BM モニタ（バッファメモリのモニタ）は，モニタ時，特殊機能ユニットのバッファメモリを対象にしてモニタする機能です。
システムモニタ実行時に，BM モニタを行うときの操作について説明します。

14.2.22 BM モニタ画面の表示内容とキー機能

(1) 画面表示内容を説明します。



表示項目①～⑦の詳細内容は，次ページ参照してください。

(2) BM モニタ表示画面のキー機能を下表に説明します。

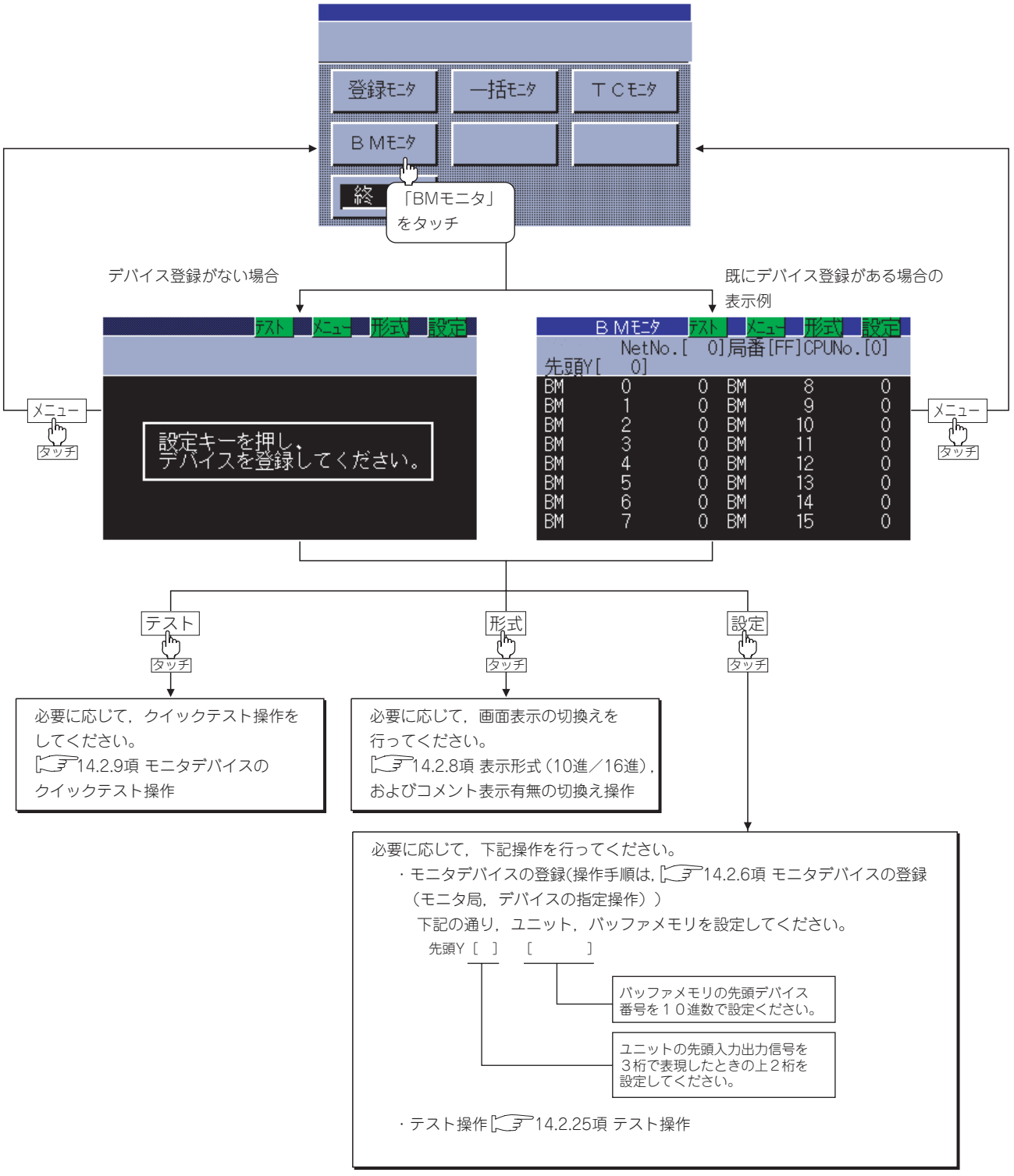
キースイッチ	機能
テスト	クイックテスト操作への切換えを行います。 ☞ 14.2.8 項 モニタデバイスのクイックテスト操作
メニュー	他モニタ機能への切換え，システムモニタ機能の終了を行うための，機能切換えメニュー画面へ遷移します。 ☞ 14.2.9 項 画面遷移（共通操作）
形　式	BM モニタ画面上の数値表示の切換え（10 進／ 16 進 ），コメント表示有無の切換えを行うための，表示切換えメニュー画面へ遷移します。 ☞ 14.2.7 項 表示形式（10 進／ 16 進 ），およびコメント表示有無の切換え操作
設　定	モニタデバイスの登録，テストを行うための，デバイス登録へ遷移します。 • モニタデバイスの登録　☞ 14.2.5 項 モニタデバイスの登録（モニタ局，デバイスの指定操作） • テスト操作　☞ 14.2.24 項 テスト操作
▲　▼	表示内容を上／下方向へ 1 行分スクロールし，現在表示されていない直前／直後のモニタデバイスについて表示する。5 点以上のモニタデバイスが登録されている場合，モニタデバイスのコメントを表示しているときに操作可能です。 ▲ ：1 行分，上方向へスクロール ▼ ：1 行分，下方向へスクロール

(3) 表示項目①～⑦表示範囲を下表に説明します。

番号	項目	設定内容			
		バス接続	CPU 直結接続	計算機リンク接続	CC-Link 接続 G4 * 1
①	ネットワーク No.	0			
②	局番	FF			FF：自局の時 0：マスタ局の時 1 ～ 64：ローカル局の時
③	CPU 号機	0 ～ 4：Q マルチ CPU を接続時のみ設定が必要です。Q マルチ CPU 以外は設定不要です。			
④	ワードデバイス値	【10 進数】 4 桁（符号 1 桁を含みます）を表示します。（表示例：1234） 【16 進数】 4 桁を表示します。（表示例：H AB12）			
⑤	デバイス番号	16 点までデバイスを登録できます。（CPU が FXCPU の場合は，デバイス登録できません）			
⑥	デバイス名	登録できるデバイス番号とデバイス名の詳細は，☞ GT Designer2 Version □ 画面設計マニュアル GT Designer3 Version1 画面設計マニュアル（共通編）			
⑦	モニタ表示エリア	最大 16 デバイスを一度に表示可能			

＊ 1 CC-Link 接続（G4 経由）を示します。

14.2.23 BM モニタ基本操作の手順



14.2.24 テスト操作

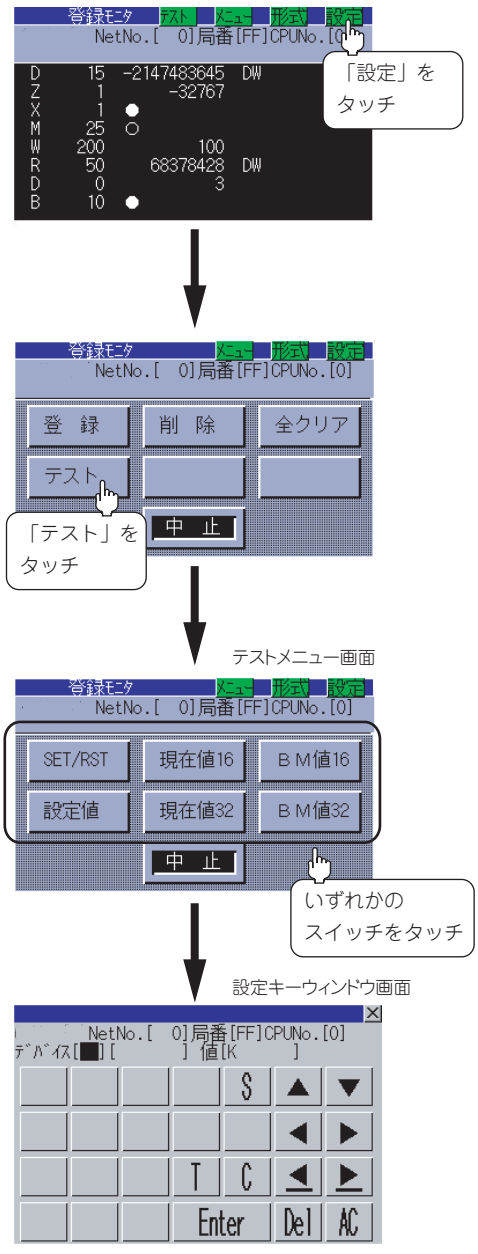
⚠警告

● システムモニタ機能のテスト操作（ビットデバイスの ON/OFF，ワードデバイスの現在値変更，タイマ／カウンタの設定値，現在値変更，バッファメモリの現在値変更）の操作はマニュアルを熟読し操作方法を十分理解した上で操作を行ってください。
また，システムに対する重大な動作を行うデバイスに対しては絶対にテスト操作でデータ変更を行わないでください。誤出力，誤動作により事故の原因になります。

システムモニタ機能でモニタ時，モニタ可能な任意の局およびデバイスを指定してテストすることができます。接続機器のビットデバイス，ワードデバイスまたはインテリジェントユニットのバッファメモリに対してテストを行うときの操作について説明します。

14.2.25 テストメニュー画面 , および設定キーウィンドウ画面の表示手順

テストメニュー画面，および設定キーウィンドウ画面の表示手順を説明します。



1 設 定 をタッチしてください。
（登録モニタ画面からテスト操作を行う場合の操作）

2 テスト をタッチしてください。

3 テストメニュー画面が表示されます。
SET/RST , 設定値 , 現在値16 , 現在値32 , BM値16 , および BM値32 のいずれかをタッチしてください。
操作例：設定値 をタッチする。
各キー機能の詳細説明は、下記を参照してください。
☞ 14.2.26 項 テストメニュー画面の表示内容，およびキー機能

4 設定キーウィンドウ画面が表示されます。
表示例：T（タイマー），C（カウンター）の設定値操作画面各設定キーウィンドウ画面の表示内容、および設定項目の詳細は、下記を参照してください。
☞ 14.2.27 項 各設定キーウィンドウ画面の表示内容，および設定項目
テスト操作の手順の詳細は、下記を参照してください。
☞ 14.2.28 項 テスト操作の手順

14.2.26 テストメニュー画面の表示内容，およびキー機能

(1) テストメニュー画面

キー機能を下表で説明します。

キー	機能
メニュー	他モニタ機能への切換え，システムモニタの終了を行うための，切換えメニュー画面へ遷移します。 ☞ 14.2.9 項 画面遷移（共通操作）
形 式	数値表示の切換え（10 進／ 16 進），コメント表示有無の切換えを行うための，表示形式切換えメニュー画面へ遷移します。 ☞ 14.2.7 項 表示形式（10 進／ 16 進），およびコメント表示有無の切換え操作
設 定	デバイス登録画面への遷移します。
SET/RST	ビットデバイスの ON/OFF 操作画面を表示します。
設定値	T（タイマー），C（カウンター）の設定値操作画面を表示します。
現在値16	ワードデバイスの現在値操作画面を表示します。 データ形式：ワード（16 ビット）
現在値32	ワードデバイスの現在値操作画面を表示します。 データ形式：ワード（32 ビット）
ＢＭ値16	バッファメモリの現在値操作画面を表示します。 データ形式：ワード（16 ビット）
ＢＭ値32	バッファメモリの現在値操作画面を表示します。 データ形式：ワード（32 ビット）
中 止	テストメニュー画面を終了し，各モニタ画面に遷移します。

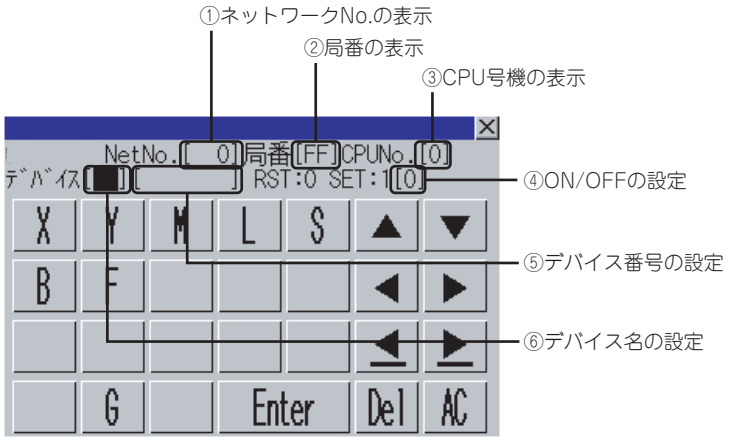
14.2.27 各設定キーウィンドウ画面の表示内容，および設定項目

各テストで使用する設定キーウィンドウの表示内容と設定項目を下記に説明します。

(1) 各設定キーウィンドウ画面の表示内容

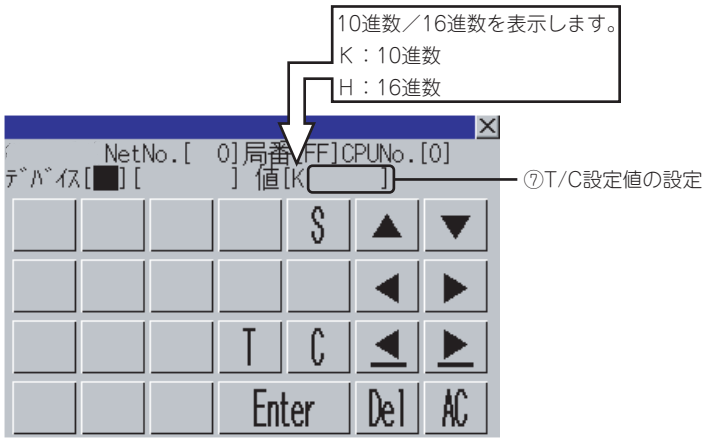
SET/RST

ビットデバイスの ON/OFF 操作画面



設定値

T（タイマー），C（カウンター）の設定値操作画面

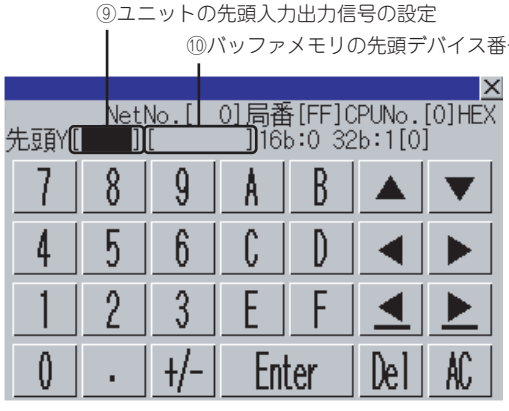


現在値16　現在値32

ワードデバイスの現在値操作画面
（16 ビット単位／ 32 ビット単位）

ＢＭ値16　ＢＭ値32

バッファメモリの現在値操作画面
（16 ビット単位／ 32 ビット単位）



(2) 設定キーウィンドウ画面の設定項目

前ページの設定項目の詳細を下表で説明します。

番号	項目	設定内容			
		バス接続	CPU 直結接続	計算機リンク接続	CC-Link 接続 G4 *1
①	ネットワーク No.	0			
②	局番	FF			FF：自局の時 0：マスタ局の時 1 ～ 64：ローカル局の時
③	CPU 号機	0 ～ 4：Q マルチ CPU と接続時のみ設定が必要です。Q マルチ CPU 以外は，設定不要です。			
④	ON/OFF の設定	SET「1」: ON，SET[0] : OFF			
⑤	デバイス番号	登録できるデバイス番号とデバイス名の詳細は，☞ GT Designer2 Version□ 画面設計マニュアル GT Designer3 Version1 画面設計マニュアル（共通編）			
⑥	デバイス名				
⑦	T/C 設定値	【10 進数】 16 ビット単位：6 桁（符号 1 桁を含みます）を設定します。（設定例：-12345） 32 ビット単位：10 桁（符号 1 桁を含みます）を設定します。（設定例：-123456789） 数値入力欄に表示している [K] は，10 進数の入力であることを表しています。 【16 進数】 16 ビット単位：4 桁を設定します。（設定例：H AB12） 32 ビット単位：8 桁を設定します。(設定例：H ABCDE123） 数値入力欄に表示している [H] は，16 進数の入力であることを表しています。			
⑧	ワードデバイスの現在値	【10 進数】 16 ビット単位：6 桁（符号 1 桁を含みます）を設定します。（設定例：-12345） 32 ビット単位：10 桁（符号 1 桁を含みます）を設定します。（設定例：-123456789） 数値入力欄に表示している [K] は，10 進数の入力であることを表しています。 【16 進数】 16 ビット単位：4 桁を設定します。（設定例：H AB12） 32 ビット単位：8 桁を設定します。(設定例：H ABCDE123） 数値入力欄に表示している [H] は，16 進数の入力であることを表しています。			
⑨	ユニットの先頭入力出力信号	3 桁で表現したときの上 2 桁を設定してください。			
⑩	バッファメモリの先頭デバイス番号	10 進数で設定ください。			

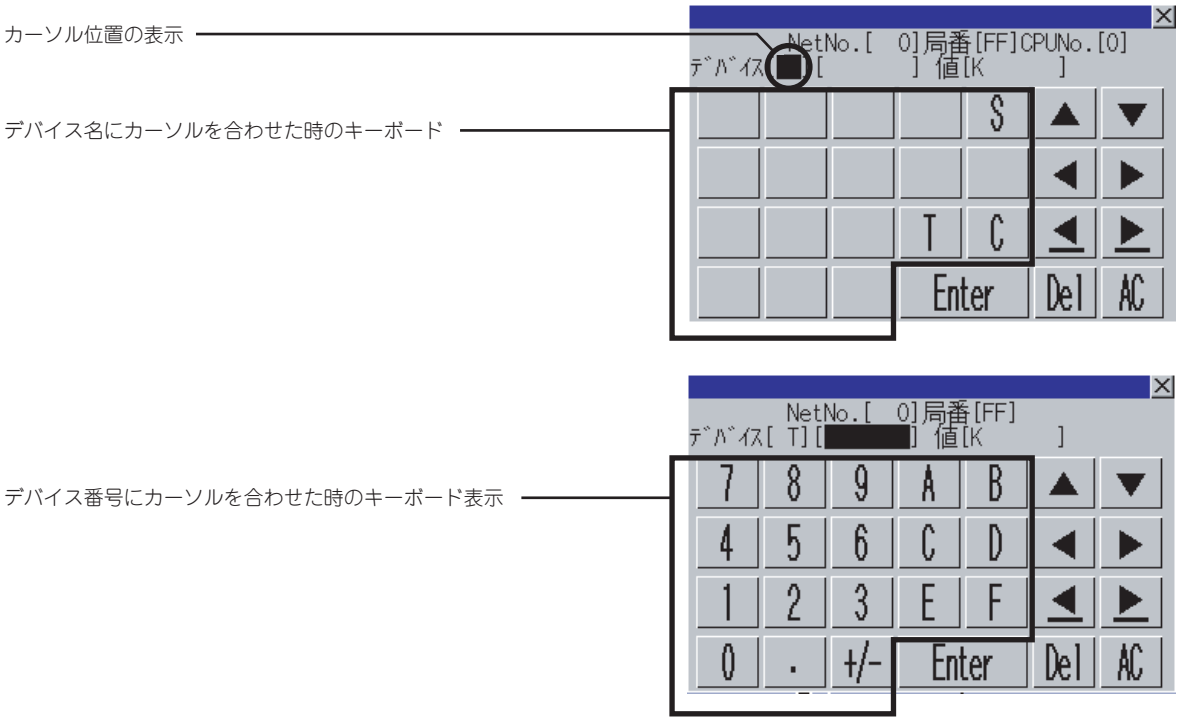
＊1 CC-Link 接続（G4 経由）を示します。

14.2.28 テスト操作の手順

設定キーウィンドウ画面にデバイス名，デバイス番号、バッファメモリの先頭デバイス番号、およびユニットの先頭入力出力信号を設定し、変更値を入力することにより、テスト操作をします。
設定値の変更する場合を例にして，テスト操作の手順を説明します。

1 テストメニュー画面にある 設定値 キーをタッチしてください。
設定キーウィンドウ画面が表示されます。

2 設定したい項目に，◀ ▶ キーをタッチして，カーソルを合わせてください。
カーソル位置により，キーボード表示が下記の通り変わります。



3 必要に応じて，キーボードにより数値または文字を入力してください。
- Del キー：Del キーは入力を 1 文字取り消すときに使用します。
- AC キー ：AC キーはカーソル位置の文字をすべて取り消すときに使用します。
- ▲／▼キーおよび説明の記載のないキーは何も機能しません。
- 設定範囲の詳細は、下記を参照してください。

☞ 14.2.27 項 各設定キーウィンドウ画面の表示内容，および設定項目

4 Enter キーをタッチすると入力を完了します。

5 × キーをタッチするとキーボードが閉じます。

Point

T（タイマー），C（カウンター）の設定値操作

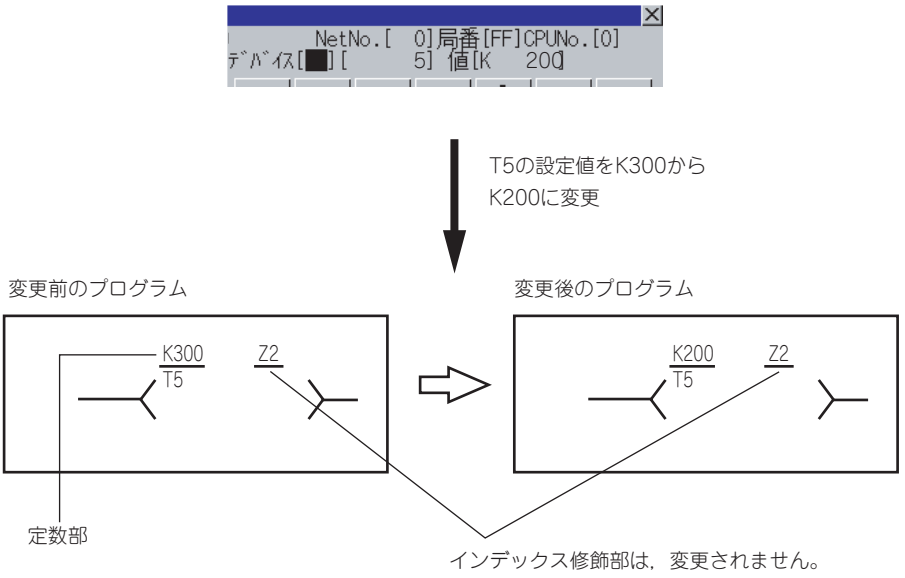
(1) タイムアップ／カウントアップの状態

タイマ（T）がタイムアップ，またはカウンタ（C）がカウントアップ後に設定値／現在値を変更しても，タイムアップ状態／カウントアップ状態は変わりません。現在の状態が保持されます。

(2) インデックス修飾部の変更

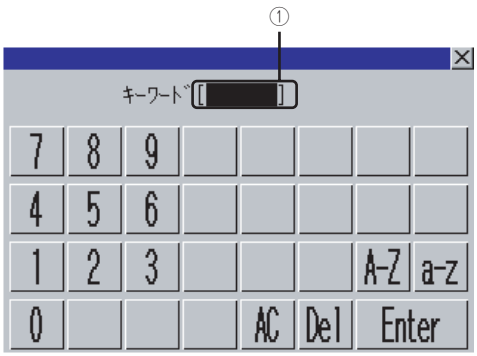
インデックス修飾付の T／C 設定値を変更する場合，変更できるのは定数部のみとなります。インデックス修飾部は変更されません。

（例）T5 の設定値を 300 から 200 に変更する。



(3) 接続機器にパスワードが登録されている時の操作

接続機器が QCPU の場合，キーワード解除画面が表示されるので，パスワードを入力してください。

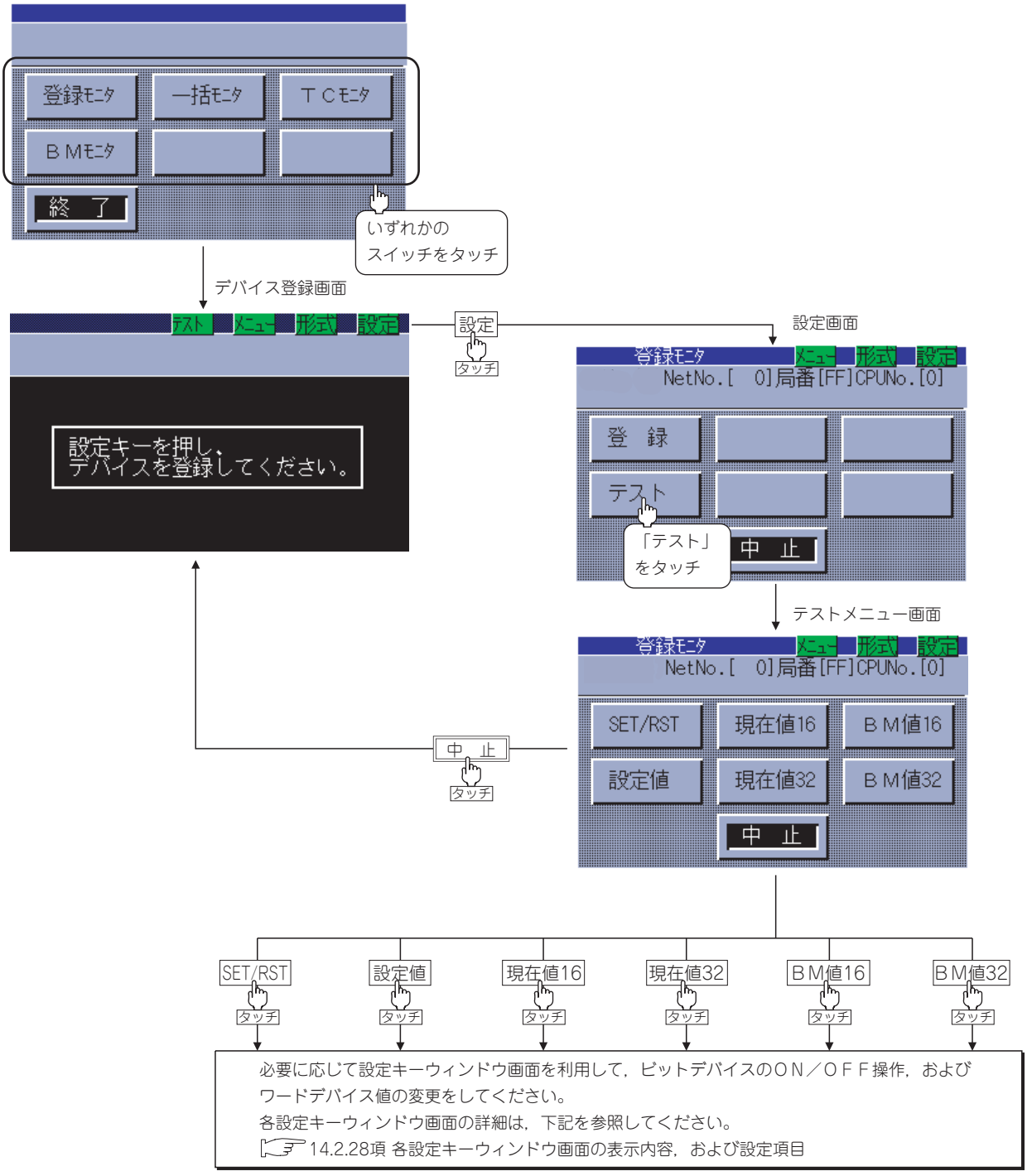


1 ①にシーケンスプログラムに登録されているパスワードを入力してください。

- A-Z キー：アルファベット A ～ Z（大文字）を入力する時にタッチしてください。
- a-z キー：アルファベット a ～ z（小文字）を入力する時にタッチしてください。
- 0-9 キー：数字 0 ～ 9 を入力する時にタッチしてください。
- Del キー：入力を 1 文字取り消すときに使用します。
- AC キー：カーソル位置の文字をすべて取り消すときに使用します。

2 Enter キーをタッチすると入力が完了し，キーボードが閉じます。

14.2.29 テスト操作の基本手順



14.2.30 エラーメッセージと対処法

システムモニタ機能実行時に表示されるエラーメッセージと，その処置方法を説明します。

エラーメッセージ	エラー内容	処置方法
交信エラー	モニタ先のシーケンサ CPU と交信できない。	(1) シーケンサ CPU と GOT の接続（コネクタ抜け，ケーブル断線）を確認してください。 (2) シーケンサ CPU でエラーが発生していないか確認してください。 (3) 下記を参照の上、ネットワークワーク上のエラーが発生していないか確認してください。 ☞ GT11 本体取扱説明書

14.3 A リスト編集

MELSEC-A リスト編集は，ACPU/QCPU（A モード）上のシーケンスプログラムを変更することができます。
シーケンサシステムのトラブル対応，メンテナンスを行うための保全作業の効率化を図るための機能です。
作画ソフトウェアでオプション機能 OS の MELSEC-A リスト編集を GOT へインストールすることによって ACPU/QCPU（A モード）シーケンサのプログラムを編集することができます。
以下に，MELSEC-A リスト編集の特長を示します。

1 パラメータ・シーケンスプログラムなどのメンテナンスが容易

簡単なキー操作でシーケンサ CPU のパラメータおよびシーケンスプログラムをチェックしたり，部分修正／変更／追加が行えます。
GOT 以外の周辺機器を用意しなくても，簡単なシーケンスプログラムの編集ができます。

シーケンスプログラムの命令変更例

2 他局へのアクセスが可能

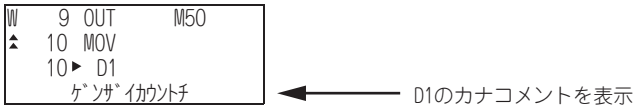
GOT（または GOT 接続局）が含まれるデータリンクシステム，ネットワークシステム，CC-Link システム上の他局に対してシーケンスプログラムを編集することが可能です。

3 ヘルプ機能

メニュー選択形式で読出し／書込み／挿入／削除の操作ができる便利なヘルプ機能をサポートしています。

4 各デバイスのカナコメント表示が可能

カーソル位置のデバイスのコメントを表示することができます。



14.3.1 仕様

1 システム構成

MELSEC-A リスト編集できるシーケンサ CPU シリーズ名，および GOT とシーケンサの接続形態について説明します。

各接続形態の通信ユニットやケーブルに関する詳細は，下記を参照してください。

☞ GOT1000 シリーズ　接続マニュアル

2 対象シーケンサ

シーケンサ
ACPU/QCPU（A モード）＊1＊2

＊1 モーションコントローラ CPU の場合，接続できません。
MELSEC-A リスト編集立上がり時，“モーションコントローラ使用不可”のメッセージが表示されます。

＊2 シーケンサが A2USH-S1 の場合，A3U の範囲で動作し，A2SH-S1/A2SH/A1SH/A1SJH の場合，A3N の範囲で動作します。

3 接続形態

ACPU/QCPU（A モード）と接続時

（○：使用可能，×：使用不可）

機　能		GOT とシーケンサの接続形態				
名称	内容	バス接続＊1＊3	CPU 直接接続	計算機リンク接続	CC-Link 接続＊1＊2 G4＊4	GOT マルチドロップ接続
A リスト編集		○	○	×	×	×

＊1 シーケンサが A2SH-S1/A2SH/A1SH/A1SJH の場合，各 CPU のバージョンは E 版以降をご使用ください。
CPU のバージョンが D 版以前はプログラム書込みができません。

＊2 シーケンサが A3N/A2N-S1/A2N/A1N の場合，使用できません。

＊3 シーケンサが QCPU（A モード）の場合，使用できません。

＊4 CC-Link 接続（G4 経由）を示します。

4 必要なオプション機能 OS とオプション機能ボード

以下のオプション機能 OS とオプション機能ボードが必要です。

オプション機能 OS	OS の容量（ユーザー領域）	オプション機能ボード
A リスト編集	0KB	GT11-50FNB

(1) オプション機能 OS

上記表のオプション機能 OS を GOT にインストールしてください。
インストール方法については，下記のマニュアルを参照してください。

☞ GT Designer2 Version □ 基本操作･データ転送マニュアル
GT Designer3 Version1 画面設計マニュアル（共通編）

(2) OS の容量

オプション機能 OS を GOT にインストールする場合，上記表の空き容量がユーザ領域に必要です。
ユーザ領域の空き容量の確認方法や，その他のユーザ領域を使用するデータについては，下記のマニュアルを参照してください。

☞ GT Designer2 Version □ 基本操作･データ転送マニュアル
GT Designer3 Version1 画面設計マニュアル（共通編）

(3) オプション機能ボード

上記表のオプション機能ボードを，GOT に装着してください。
オプション機能ボードの装着方法については，下記を参照してください。

☞ 8.3 節 オプション機能ボードについて

14.3.2 アクセス範囲

アクセス範囲は，GOT を接続機器に接続した場合のアクセス範囲と同様です。
アクセス範囲の詳細は，下記のマニュアルを参照してください。

☞ GT Designer2 Version □ 画面設計マニュアル
GOT1000 シリーズ 接続マニュアル（三菱電機機器接続編）GT Works3 対応

14.3.3 注意事項

MELSEC-A リスト編集の使用時の注意事項を示します。

(1) 命令指定による読出し時
専用命令を指定して読出しを行うことができません。

(2) MELSEC-A リスト編集時
対象シーケンサが STOP 時に MELSEC-A リスト編集を行ってください。
RUN 中に MELSEC-A リスト編集することはできません。

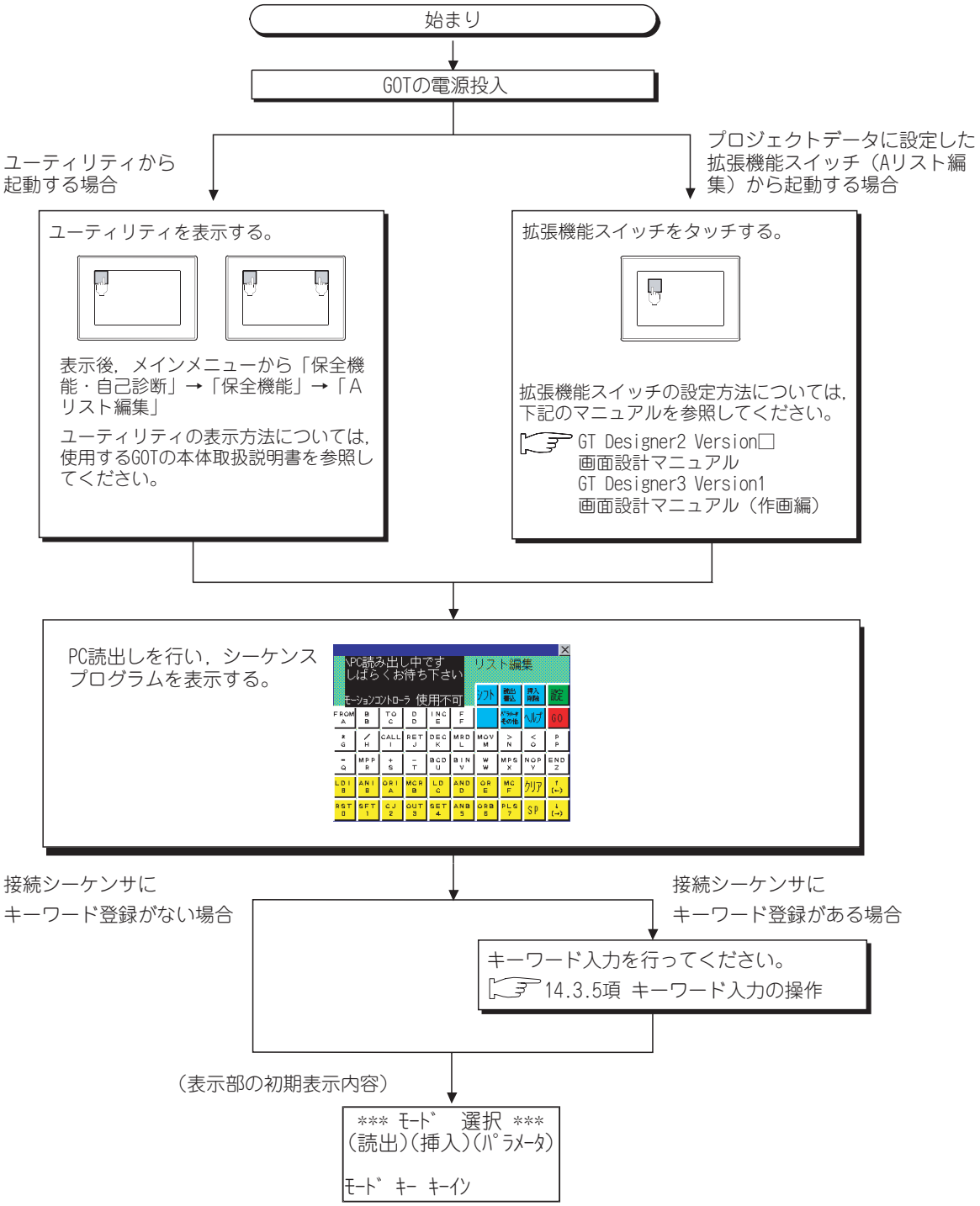
(3) 他の周辺機器によるシーケンスプログラム・パラメータ変更時
MELSEC-A リスト編集を使用時は，他の周辺機器からシーケンサ CPU 内のプログラムやパラメータの変更を行わないでください。
変更を行った場合，GOT 本体をリセットするか，PC No. 設定を再度行ってください。
1 台のシーケンサに複数の周辺機器（GOT を含む）から不用意にプログラムを変更すると，シーケンサ CPU，各周辺機器間でプログラムの内容が不一致となり，シーケンサ CPU が意図しない動作になる場合があります。

(4) シーケンスプログラムの書込み時
接続先 CPU が E^2PROM 運転中の場合，プログラムの書込みはできません。

14.3.4 表示操作

1 開始までの概要

MELSEC-A リスト編集（オプション機能 OS）を GOT にインストール後，MELSEC-A リスト編集の操作画面が表示するまでの概要を説明します。



Point

(1) ユーティリティの表示方法

ユーティリティの表示方法については，下記を参照してください。

☞ 9.3 節 ユーティリティの表示

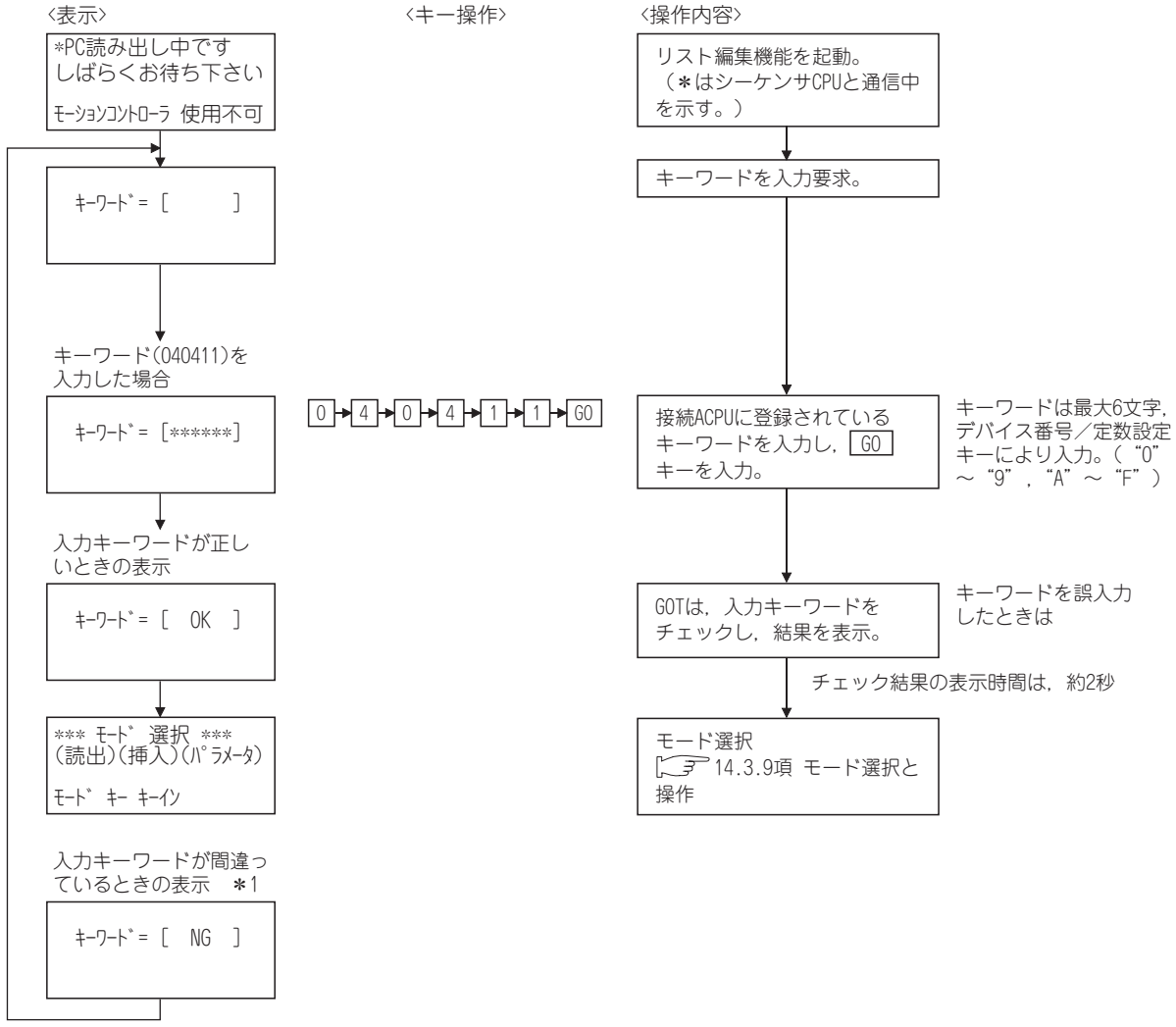
(2) プロジェクトデータをダウンロードしていない場合

A リスト編集は，プロジェクトデータを GOT にダウンロードしていなくても，ユーティリティから起動できます。

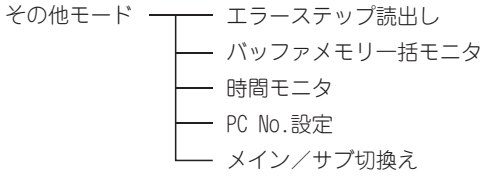
14.3.5 キーワード入力の操作

接続した ACPU または操作の対象 ACPU PC NO. を切り換えたとき，ACPU にキーワードが登録されている場合，GOT は登録しているキーワードを入力要求します。
ACPU に登録されているキーワードを入力し，[GO] キーを入力してください。
なお，ACPU にキーワードが登録されていないときは，本項の操作はありません。

MELSEC-A リスト編集のキーワードの入力操作手順



＊1 入力したキーワードが，ACPU に登録されているキーワードと一致しなかったときは，14.3.27 項に示す操作の中で次の操作のみ行えます。



Point

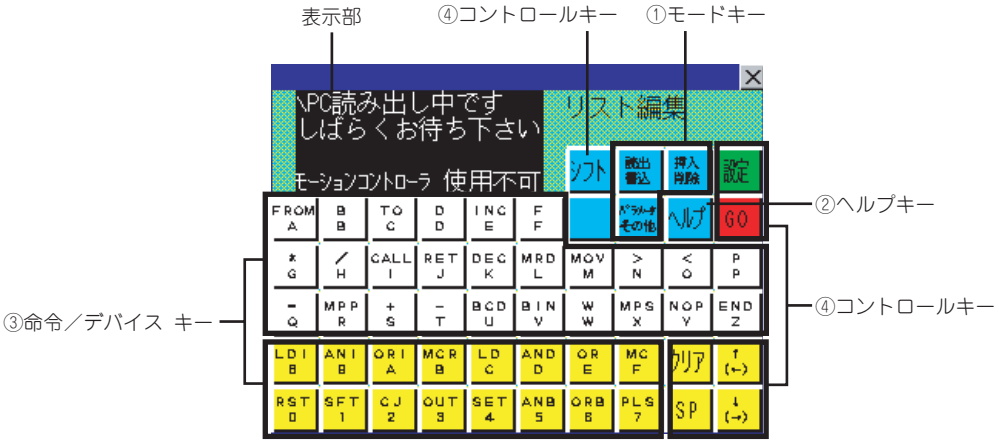
ACPU に登録されたキーワードを忘れた時の処置

- ACPU に登録されたキーワード不明なときキーワードのみを削除することはできません。シーケンスプログラムなどのユーザデータを消去しても良い時は“PC メモリオールクリア”の操作で，登録しているキーワードをクリア（削除）してください。
  なお，“PC メモリオールクリア”を行うと，シーケンスプログラムなどのユーザデータもクリアされます。
  PC メモリオールクリアの操作に関する詳細は，下記を参照してください。
  ☞ 14.3.19 項 PC メモリのオールクリア
- キーワードがわかっている場合は ACPU に登録されているキーワードの変更，キーワードの新規登録は，下記を参照してください。
  ☞ 14.3.21 項 共通操作

14.3.6 操作方法

1 キー配列とキー機能一覧

(1) MELSEC-A リスト編集ウィンドウのキー配列と機能を説明します。



キー名称		機能概要	参照先
① モードキー	読出書込	読出し／書込みモードを指定します。 シフト で有効キーを切り換えます。	14.3.9 項 14.3.22 項 14.3.23 項
	挿入削除	挿入／削除モードを指定します。 シフト で上段／下段を切り換てください。	14.3.9 項 14.3.24 項 14.3.25 項
	パラメータその他	パラメータ／その他モードを指定します。 シフト で機能を切り換えます。	14.3.9 項 14.3.26 項 14.3.27 項
② ヘルプキー	ヘルプ	ヘルプ機能を操作できます。	14.3.18 項
③ 命令／デバイスキー	FROM A ～ END Z	命令，デバイス名，および定数入力時の K/H を入力するキーです。 シフト，設定 で有効キーを切り換えます。	−
	RST 0 ～ MC F	命令，デバイス番号，定数を入力するキーです。 シフト，設定 で有効キーを切り換えます。	−
④ コントロールキー	設定	・ステップ番号の入力開始または自動スクロール開始などを宣言するキー ・有効キー（上段／下段）の切換をします。	14.3.9 項
	シフト	有効キー（上段／下段）の切換をします。 上段と下段のどちらが有効かは，表示部の表示で確認できます。	14.3.9 項
	クリア	ヘルプ機能使用時，ヘルプ キー入力前の表示に戻ります。	−
		パラメータモードのとき処理を中断する。再開時は，そのまま操作を続行すること。	−
		パラメータ，その他モード，ヘルプ機能以外のときクリアキーが入力されると，モード選択が行われた状態に戻る。（モードを除いて，入力されていた命令やデバイス番号などがクリアされる。） キー操作をまちがえた場合の操作のやり直し時に使用する	14.3.11 項
		その他モードのとき一つ前の表示に戻る	−
	SP	命令部とデバイス名間など，空白を入力するキー	−
	↑(←) ↓(→)	表示部のカーソル（▶，■）移動，またはスクロール表示のスクロール方向指示を行うキーです。	14.3.8 項
	GO	一連のキー操作の最後に押し，それまでのキー操作の実行を行わせるキーです。 一連のキー操作の内容を表示部で確認してから，キー入力してください。	14.3.10 項

(2) キー，およびキー操作説明の表現方法

本文中の MELSEC-A リスト編集のキーと操作方法を下記のように省略して表現します。

(a) [RST 0], [MOV M] キーのように，2 つの目的で使用できるキーがあります。
必要に応じて，キーの上段に表記した機能，および下段に表記した機能のどちらかを有効にしながらキー操作をします。
説明文にあるキー表記は，操作に必要なキー表記となっています。
（説明例）

文字“M”を入力する場合は，[MOV M] キーは説明文の中では [M] と表記します。

[シフト] キーまたは [設定] キーを使用して，上段または下段を有効にしてください。上段または下段を有効する操作の詳細は，下記を参照してください。

☞ 14.3.8 項 有効キー（上段／下段）の切換え

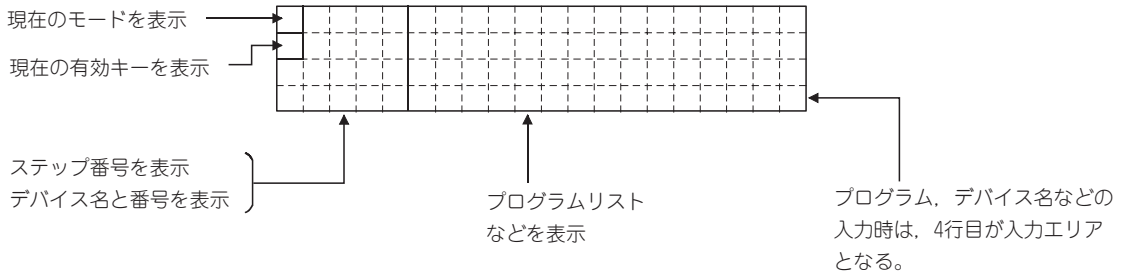
(b) [キー1] → [キー2] → ・・・[キーn] の表現は，[キー1] から [キーn] を順番にタッチ入力することを表します。
（説明例）

下記の説明例では，[設定] を最初にタッチし，[F] を 2 番目にタッチ，[0] を 3 番目にタッチ・・・・・・，最後に [GO] をタッチすることを説明しています。

[設定] → [F] → [0] → [R] → [SP] → [K] → [5] → [GO]

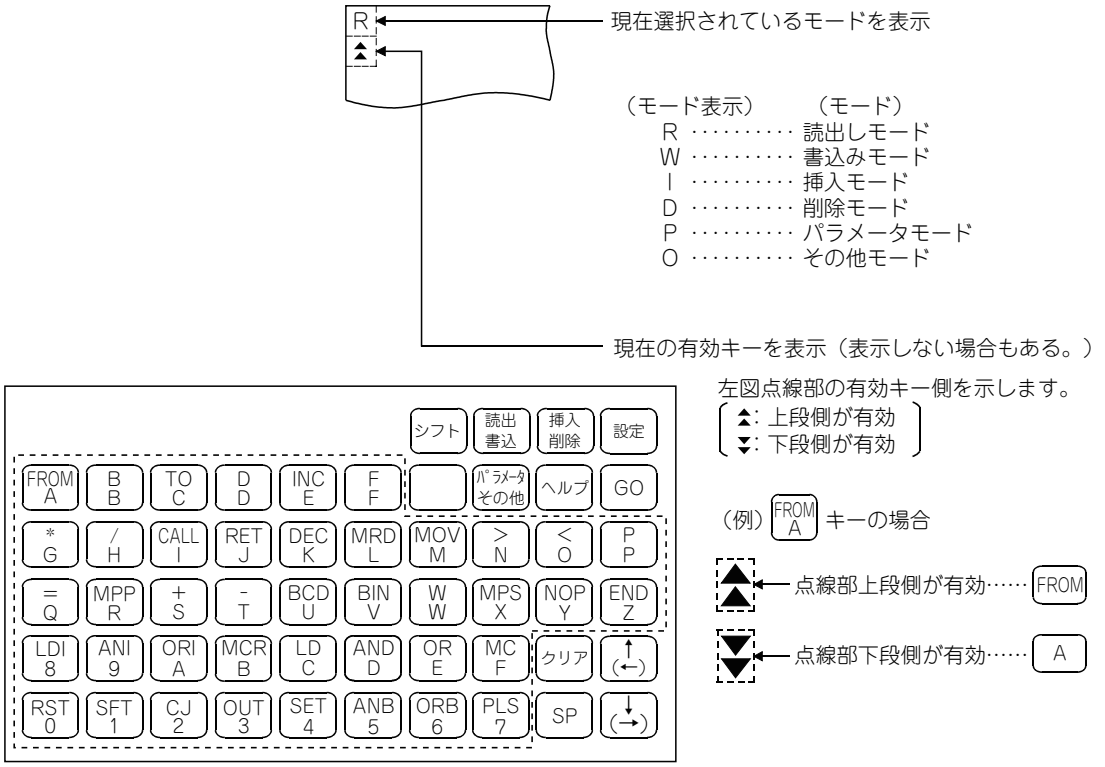
14.3.7 表示部の表示形式

MELSEC-A リスト編集の表示部への，各データの表示位置と表示内容を示します。



(1) モードおよび有効キーの表示

MELSEC-A リスト編集のモード選択後のモード表示と，2 つの目的で使用できる各キーの上段と下段のどちらが有効になっているかを示す有効キーの表示について示します。



Point

有効キーの切換え（上段 ⇔ 下段）は，シフト，および設定キーで行えます。
詳細は，下記参照ください。

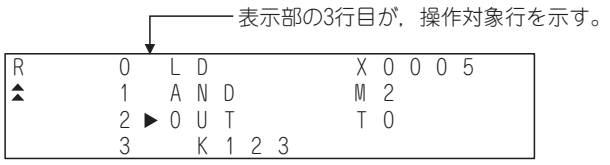
☞ 14.3.8 項 有効キー（上段／下段）の切換え

(2) カーソルの表示

データ入力時，カーソルは“■”で反転表示します。

(3) 操作対象行の表示

プログラムリストを表示しているとき，操作の対象行をステップ番号の直後に“▶”で表示します。



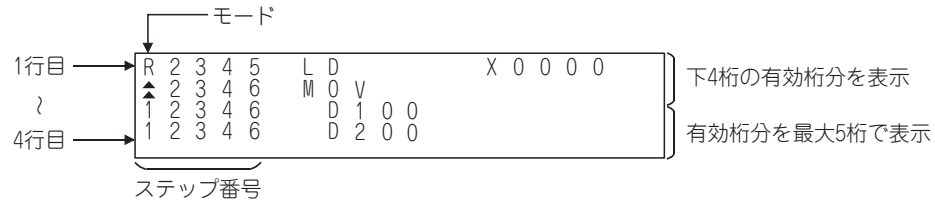
“▶”は，[↑(←)]または[↓(→)]キーで指定方向（上下）に移動できます。

(4) ステップ番号表示

ステップ番号は 10 進数で表示します。

表示部の 1 行目～ 2 行目は，ステップ番号の下 4 桁の有効桁分だけ表示します。

表示部の 3 行目～ 4 行目は，ステップ番号の有効桁分を最大 5 桁で表示します。



(5) デバイスの表示

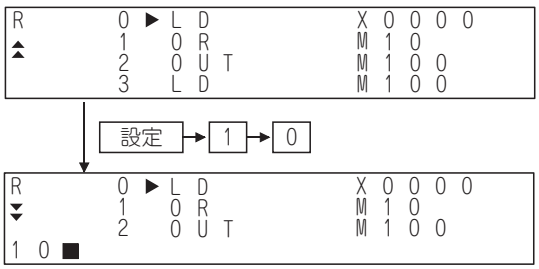
基本命令，応用命令でデバイス部が 2 個以上のものについては，同じステップ番号で表示します。(4) を参照してください。

(6) キー入力データの表示

キー入力データはカーソル表示位置に順次表示し，カーソルは順次右へ移動します。

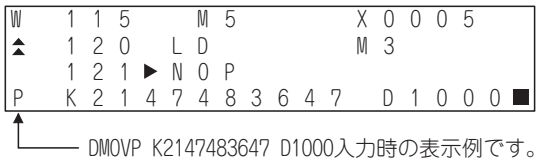
カーソル部は，“■”表示となります。

（例）[設定]→[1]→[0]を入力した場合



(7) プログラム入力時の左シフト表示

プログラム入力時は，GO キー入力までのプログラムを表示部の 4 行目（最下行）に表示します。
1 行で表示しきれないときは，キー入力ごとに 4 行目の表示内容のみ，順次左へシフトします。
（入力内容は，内部に記憶されています。）



“■”は，↑(←) または ↓(→) キーで指定方向（左右）に移動できます。

(8) エラーメッセージの表示

エラーメッセージは，表示部の 4 行目に表示します。
表示しているエラーメッセージは，いずれかのキー入力で消去でき，エラーメッセージ表示前の状態に戻ります。
エラーメッセージを表示したときは，下記を参照して対応してください。

☞ 14.3.28 項 エラーメッセージと対処法

14.3.8 有効キー（上段／下段）の切換え

必要に応じて，2 つの目的で使用できるキーの上段と下段のどちらかを有効にして，MELSEC-A リスト編集操作をします。

(1) モードキーの上段／下段の切換え

通常，モードキーは上段が有効になっています。

下段を有効にするには，[シフト] キーをタッチ後，モードキーをタッチしてください。

モードキーの上段／下段の切換え操作では，有効キーの表示は▲▲のままです。

(2) 命令 / デバイスキーの上段 / 下段の切換え

必要に応じて，下記キーにより命令 / デバイスキーの上段 / 下段の切換えをおこなってください。

[シフト]：上段キーを有効にします。

[設定] ：下段キーを有効にします。

＊ 下記に示すキー入力は，有効キーが下段側になっていても入力できます。

（[シフト] キーの入力は不要です。）

・比較演算命令入力時の比較記号キー [<], [>], [=]

・命令のソースデータ部のマイナスキー [-]

有効キーの表示の詳細は，下記を参照してください。

☞ 14.3.7 項 表示部の表示形式

(3) 各モード設定後の命令 / デバイスキーの有効キー

各モード設定後，命令 / デバイスキーの有効キーは，下記のようになります。

(a) 読出しモード，書込みモード，および挿入モード設定後の有効キー
命令 / デバイスキーは，上段キーが有効になっています。
必要に応じて，上段 / 下段を切換えて，キー操作してください。

(b) パラメータモード，その他モード，およびヘルプモード設定後の有効キー
命令 / デバイスキーは，下段キーが有効になっています。
必要に応じて，上段 / 下段を切換えて，キー操作してください。

14.3.9 モードの選択と操作

14.3.13 項，および 14.3.20 項に示す操作を行うための MELSEC-A リスト編集のモード選択を行います。

モードの変更は 14.3.13 項，および 14.3.20 項に示す操作を行っているときに自由に変えられますので，モードを変更しながら各種操作を続けて行うことができます。

[読出] ……読出しモード
[書込] ……書込みモード
[挿入] ……挿入モード
[削除] ……削除モード
[パラメータ] ……パラメータモード
[その他] ……その他モード

備　考

モードキー入力はいつでも有効です。
プログラムの入力操作中にモードキーの入力を行った場合，ステップ番号を除いた入力データがクリアされ，入力されたモードの初期状態に戻ります。

14.3.10 命令の入力方法

MELSEC-A リスト編集への命令の入力方法は，次の 3 通りがあります。

① 使用する命令が書かれたキーを入力する。
② 命令の各文字に対応する英数字キーを順次入力する。
③ ヘルプ機能により使用する命令を選択して入力する。

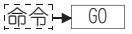
上記①②による命令入力方法を以下に示します。
③のヘルプ機能による命令入力方法は，14.3.10 項 命令の入力方法を参照してください。

Point

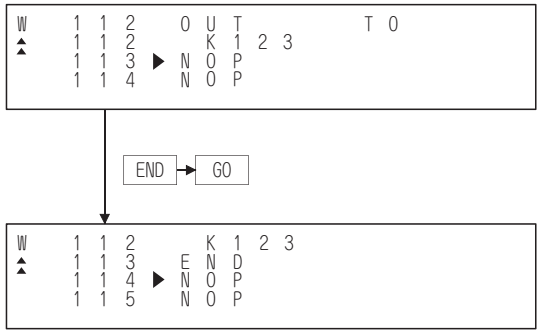
命令を入力しているときは，入力内容を表示部の 4 行目（最下行）に表示します。
以下の説明において，[SP]キーの入力が必要な場合，入力した命令とカーソル位置の間に空白が自動挿入されているときは，[SP]キーの入力を省略できます。
各説明の（例）を参照してください。

(1) 命令コードのみの場合

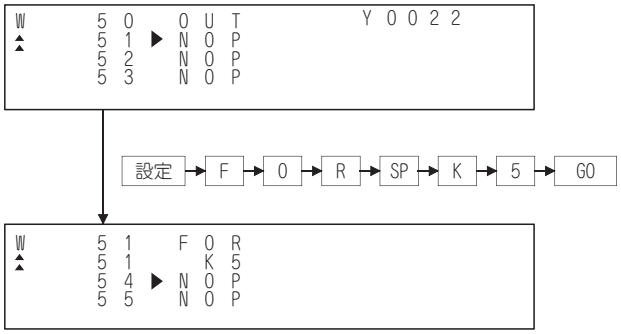
（a）キーボード上に存在する命令を入力するとき



（例）END を入力する場合



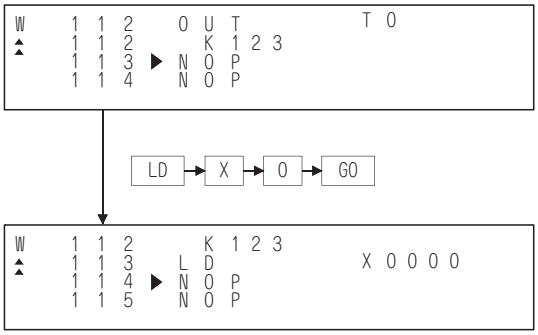
（b）キーボード上に存在しない命令を入力するとき
（例）FOR K5 を入力する場合



(2) 命令コードとデバイス (1 つ) の場合

命令 → SP → デバイス → デバイス番号 → GO

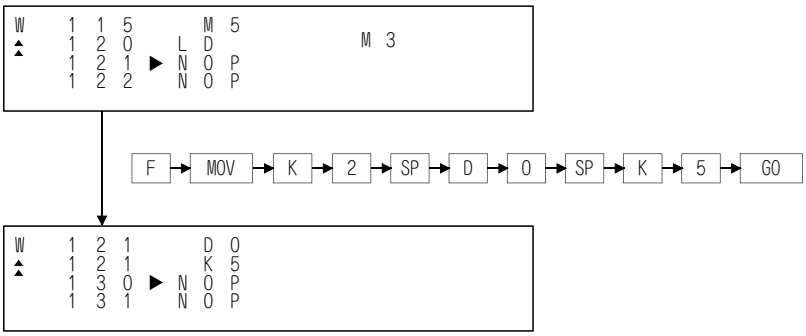
（例）LD X0 を入力する場合



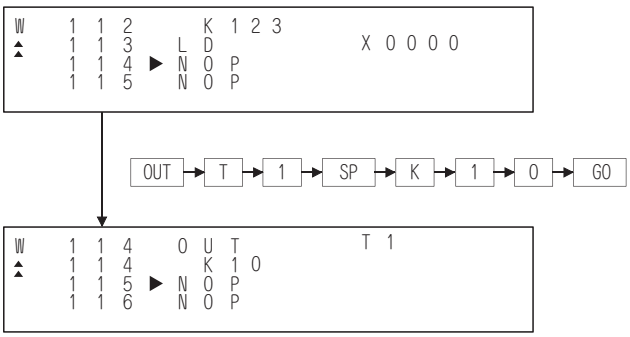
(3) 上記以外の命令の場合

命令とデバイス，ソースデータ，ディストネーションデータの間には，各々 SP キーを入力します。

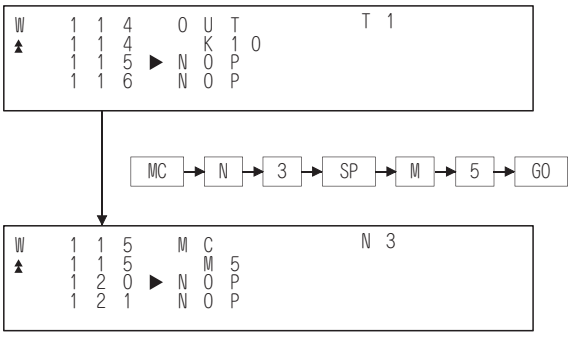
（例 1）FMOV K2 D0 K5 を入力する場合



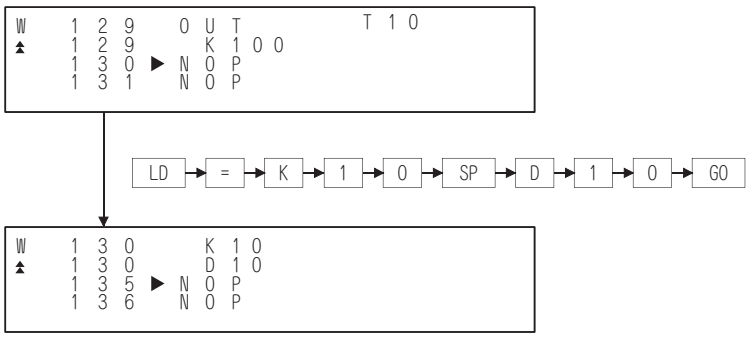
（例 2）OUT T1 K10 を入力する場合



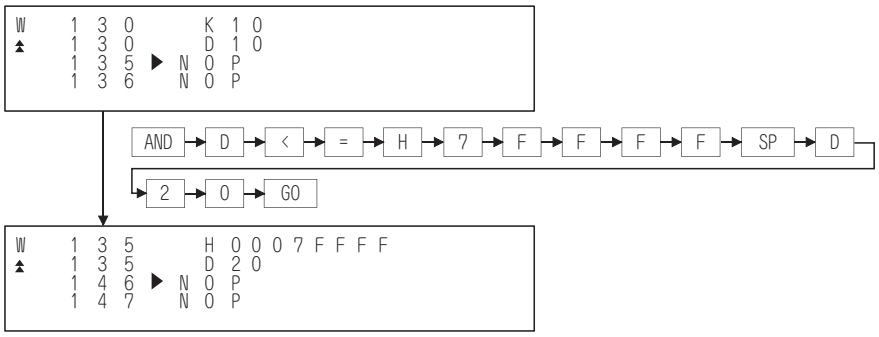
（例 3）MC N3 M5 を入力する場合



（例 4）LD= K10 D10 を入力する場合



（例 5）ANDD<= H7FFFF D20 を入力する場合



(4) デバイス M，L，S の取扱い

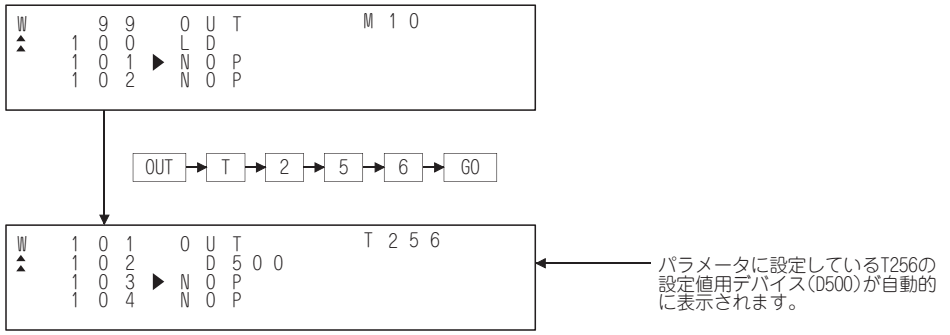
テスト，モニタ，書込み，挿入モードでのデバイス M，L，S は，パラメータで設定された内容により表示を変更します。

たとえば，パラメータ設定 M0 ～ 999，L1000 ～ L2047 のときに，LD L0 を入力すると LD M0 となります。

(5) AnA，AnUCPU の拡張タイマ／拡張カウンタの場合

命令の第 1 デバイスとして拡張タイマ (T256 ～ T2047)，拡張カウンタ (C256 ～ C1023) を入力する場合，第 1 デバイス，デバイス番号までを入力してください。

（例）OUT T256 D500 を入力する場合



Point

拡張タイマ，拡張カウンタを使用する場合は，パラメータにタイマ，カウンタ共に 257 点以上の点数と設定値用デバイス (D，W，R) を必ず設定してください。

14.3.11 キー操作を間違えたときの処置方法

キー操作を間違えたときに，入力した内容を取り消します。

1 操作

(1) GO キーのタッチ前（入力内容を読出し／書込み前）

GO キーのタッチ前にクリア キーをタッチします。

(2) GO キーの入力後（入力内容を読出し／書込み後）

再度，命令の書込みを行ってください。(☞ 14.4.9 項 命令の書込み)

書込みや挿入操作によって確定した命令が，プログラムの書込みより修正 (上書き) されます。

備　考

パラメータモードのときに，クリア キーを入力したときは，GOT は処理を中断します。

操作を続行するときは，そのままキー入力を続行してください。

14.3.12 機能一覧

各モード毎の機能を下表に示します。

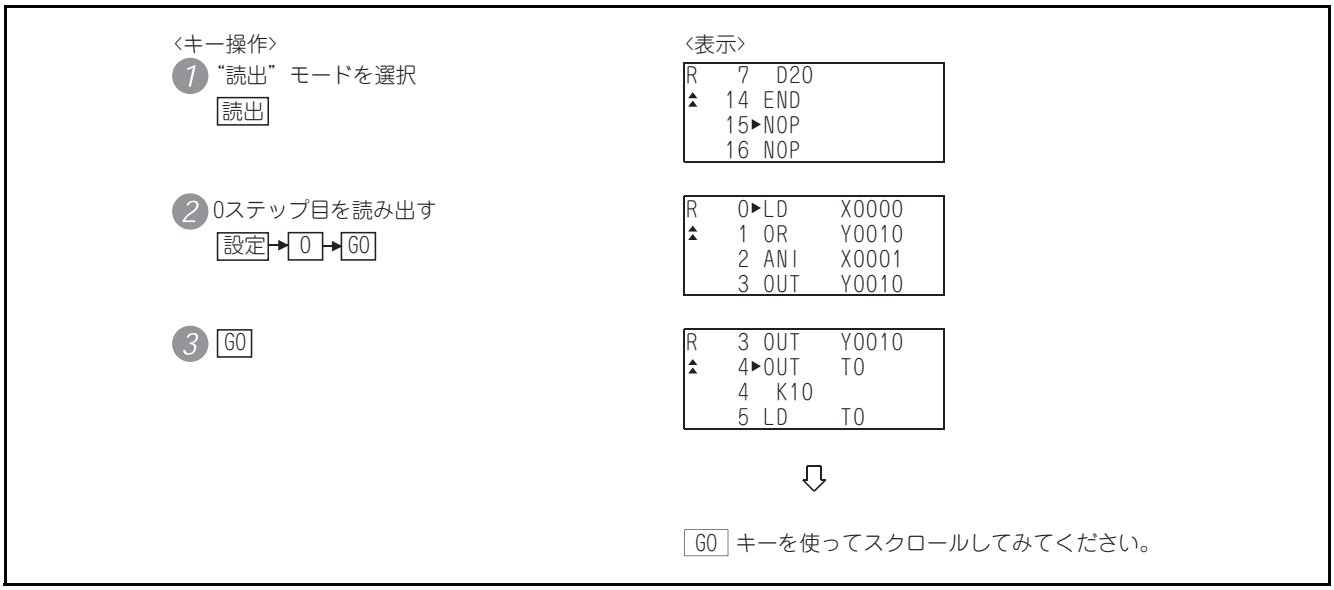
モード （モード表示）	機能
書込み (W)	プログラムを書き込む／追加・変更する。
	プログラム中の指定ステップで使用しているデバイスを変更する。
	指定文字で始まる命令の表示／選択
	ステップ番号を指定してプログラムを読み出す。
	プログラム中の指定範囲を NOP にする。
	指定デバイスのカナコメントを表示する。
読出し (R)	ステップ番号を指定してプログラムを読み出す。
	使用している命令を指定してプログラムを読み出す。
	使用しているデバイスを指定してプログラムを読み出す。
	指定ステップまで読み出したプログラムを自動スクロールしながら表示する。
	各々，上記プログラムの読出し機能，自動スクロール機能と同じ。
	指定デバイスのカナコメントを表示する。
挿入 (I)	既存のプログラムに，新たなプログラムを挿入する。
	指定文字で始まる命令の表示／選択
	ステップ番号を指定してプログラムを読み出す。
	プログラム中の指定範囲を，指定位置へ移動する。
	プログラム中の指定範囲を，指定位置へコピーする。
	指定デバイスのカナコメントを表示する。
削除 (D)	指定ステップのプログラムを削除する。
	プログラム中の指定範囲を削除する。
	END 命令までのプログラム中に含まれる NOP 命令を一括削除する。（NOPLF 命令は削除しない。）
	指定デバイスのカナコメントを表示する。
パラメータ (P)	ACPU 内のパラメータのみをオールクリアする。
	メモリ容量，タイマ・カウンタ，ラッチ範囲など各種パラメータを設定する。または設定値を変更する。
	キーワードを設定する。またはキーワードを変更する。
その他 (O)	指定デバイス (T・C) の設定値を変更する。
	ACPU で発生しているエラー内容，エラーが発生したステップ番号を表示する。
	プログラム中の 2 重コイル／命令コードなどを確認する。
	指定入出力番号の特殊機能ユニットに対し，指定アドレスのバッファメモリ内容をモニタする。
	ACPU の時計 (D9025 ～ D9027) をモニタする。
	ACPU のメモリをオールクリアし，初期状態にする。
	現在選択（メイン／サブ）しているプログラムをクリアする。
	特 D，特 M，R を除く全デバイスメモリをクリアする。
	各モード操作の対象 ACPU を切り換える。
	各モード操作の対象プログラム（メイン／サブ）を切り換える。
	ACPU の実行状態を強制的に切り換える。(RUN/STOP)
	ACPU のメモリに対して，マシン語で読み書きする。

14.3.13 基本操作

簡単な操作例を用いて MELSEC-A リスト編集の基本操作について説明します。

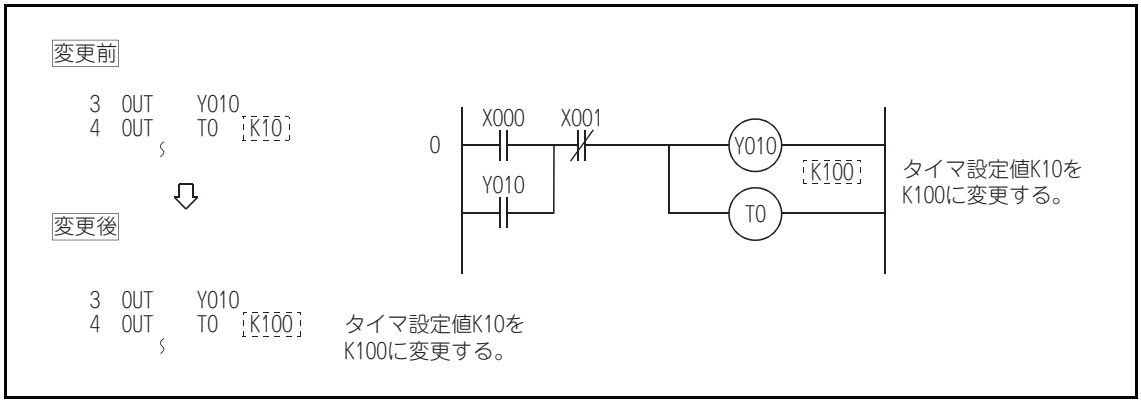
14.3.14 シーケンスプログラムを読み出す

【操作例】

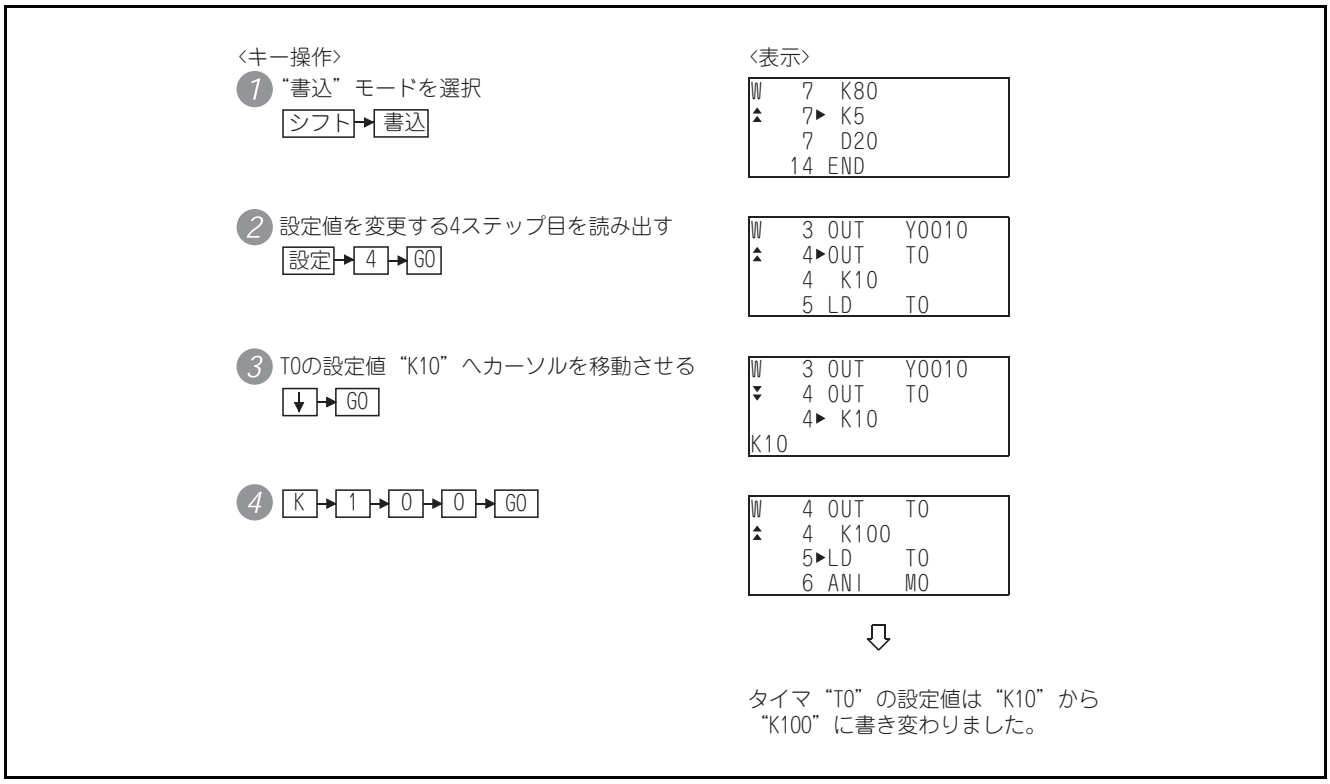


14.3.15 命令を変更（上書き）する

シーケンスプログラムの変更方法を下記のような例で説明します。

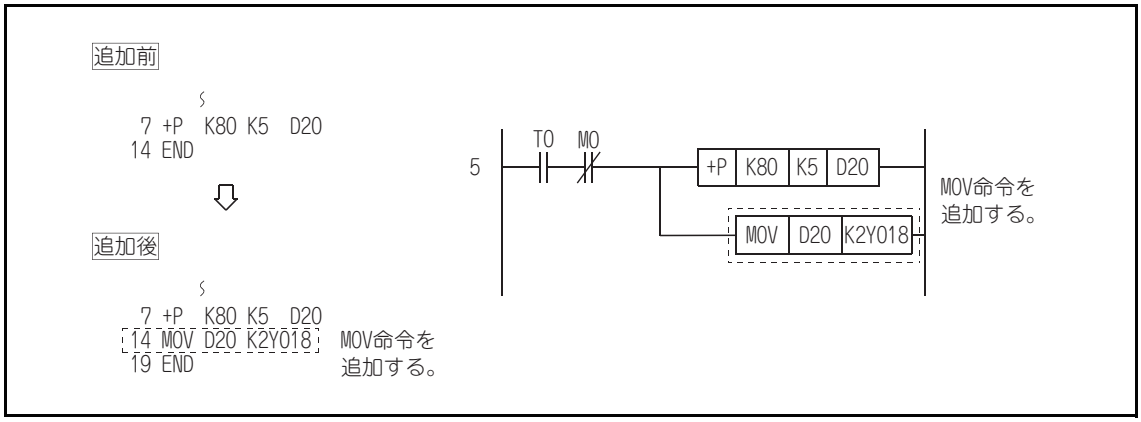


【操作例】

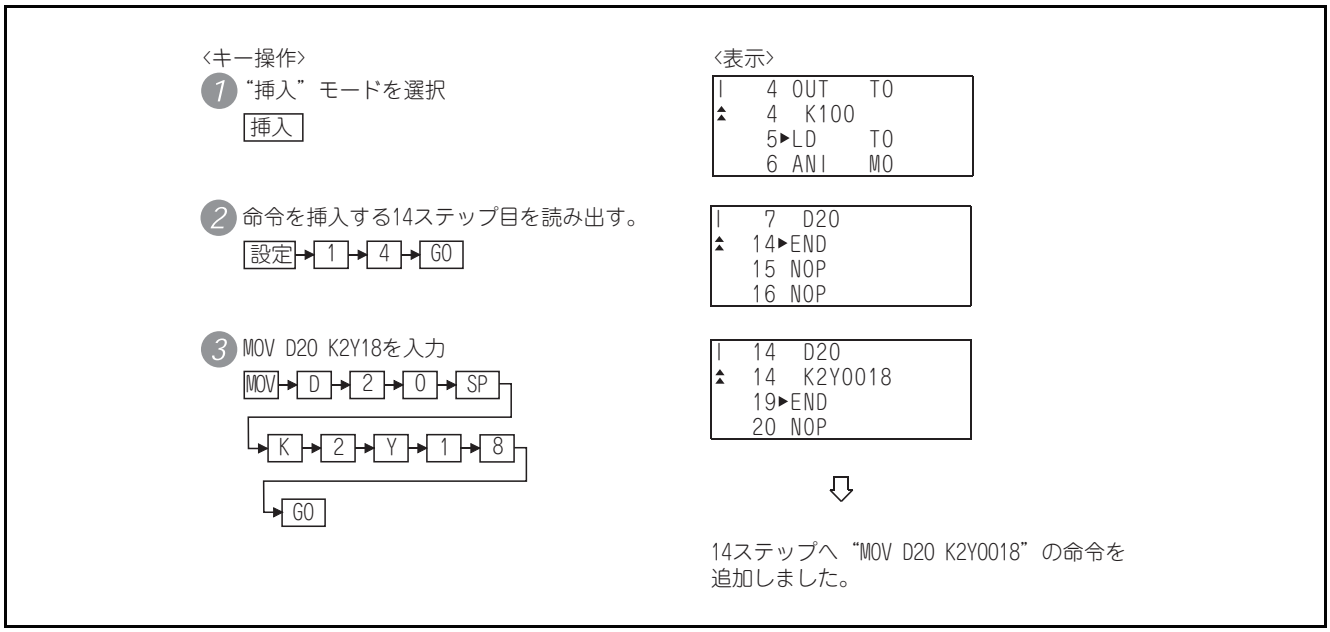


14.3.16 命令を追加（挿入）する

シーケンスプログラムの追加する方法を下記のような例で説明します。

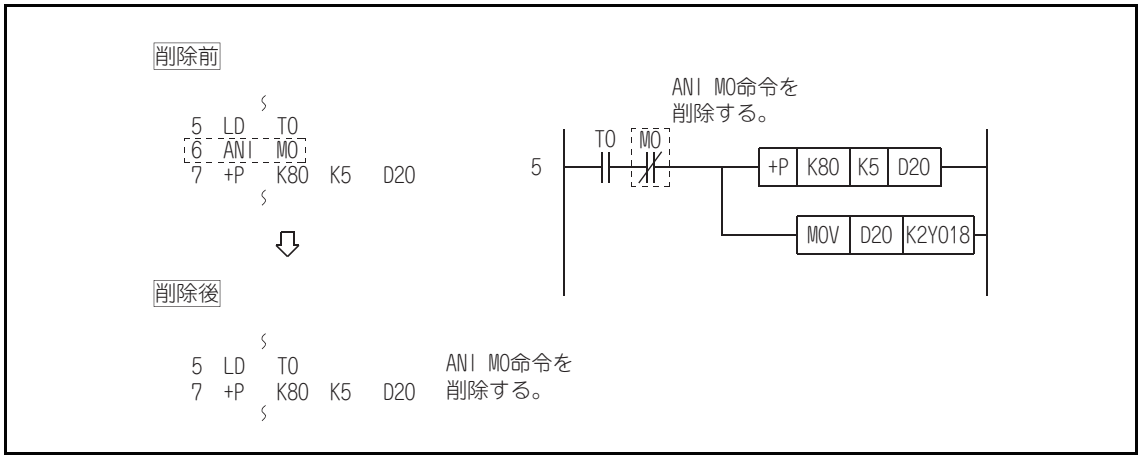


【操作例】



14.3.17 命令を削除する

シーケンスプログラムの命令を削除する方法を下記のような例で説明します。



【操作例】

〈キー操作〉

1. “削除”モードを選択
   シフト → 削除

2. 命令を削除する6ステップ目を読み出す
   設定 → 6 → GO

3. GO

〈表示〉

```
D  14  D20
▲  14  K2Y0018
   19▶END
   20  NOP
```

```
D   5 LD    T0
▲   6▶ANI   M0
    7 +P
    7  K80
```

```
D   5 LD    T0
▲   6▶+P
    6  K80
    6  K5
```

GO キーによりカーソル位置の命令が削除され，ステップ番号は前詰めされる

“ANI M0”の命令を削除しました。

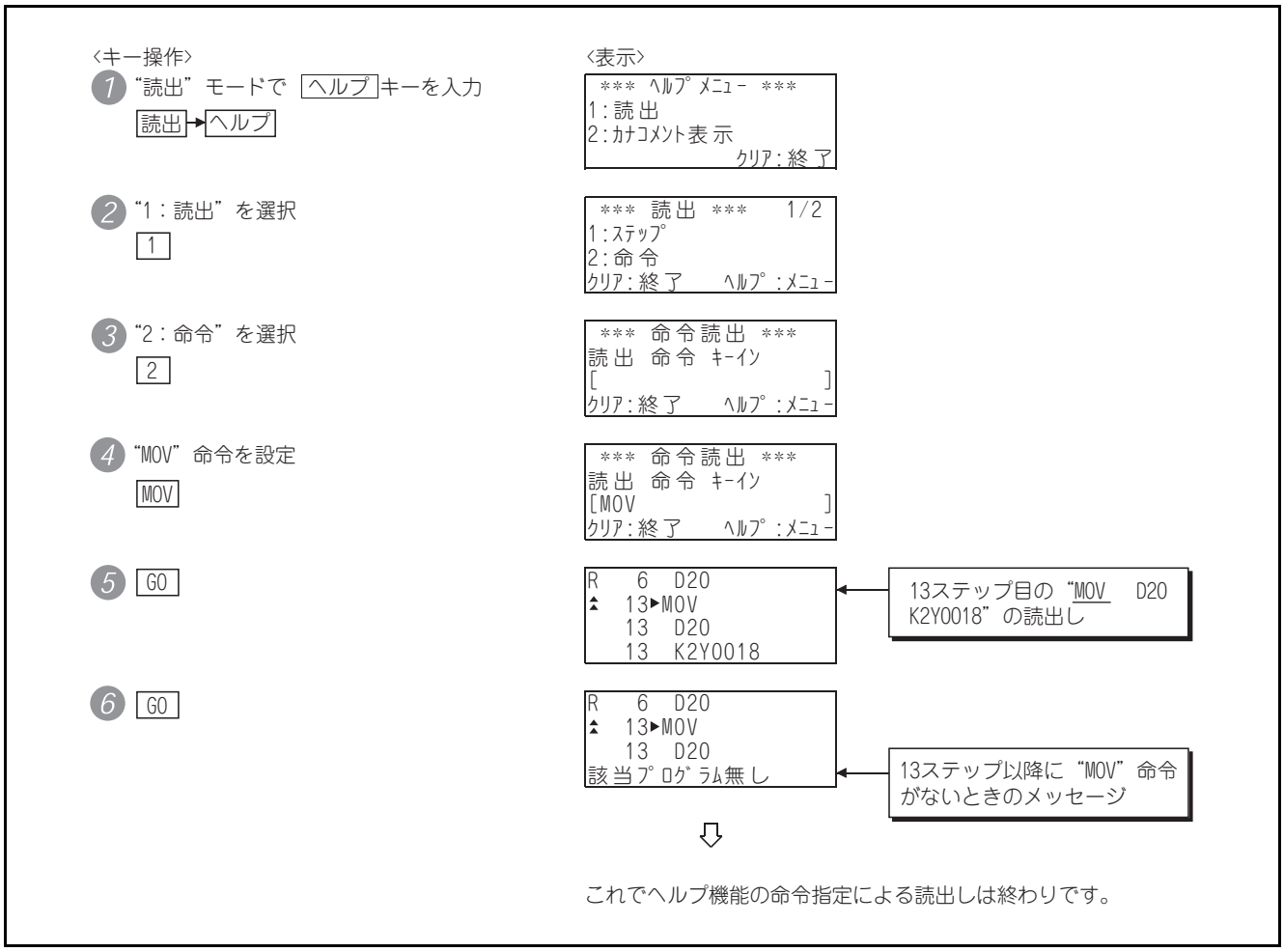
14.3.18 ヘルプ機能を使用する

ヘルプ は，ヘルプ機能を使用する時に入力するキーです。
ヘルプ を入力することにより，各モードのヘルプ機能の項目がメニュー形式で表示されますので，該当する項目を選択して実行することができます。

(1) シーケンスプログラムの中の命令を読み出す

シーケンスプログラムの中の“MOV”命令を使用している箇所を読み出す例で説明します。

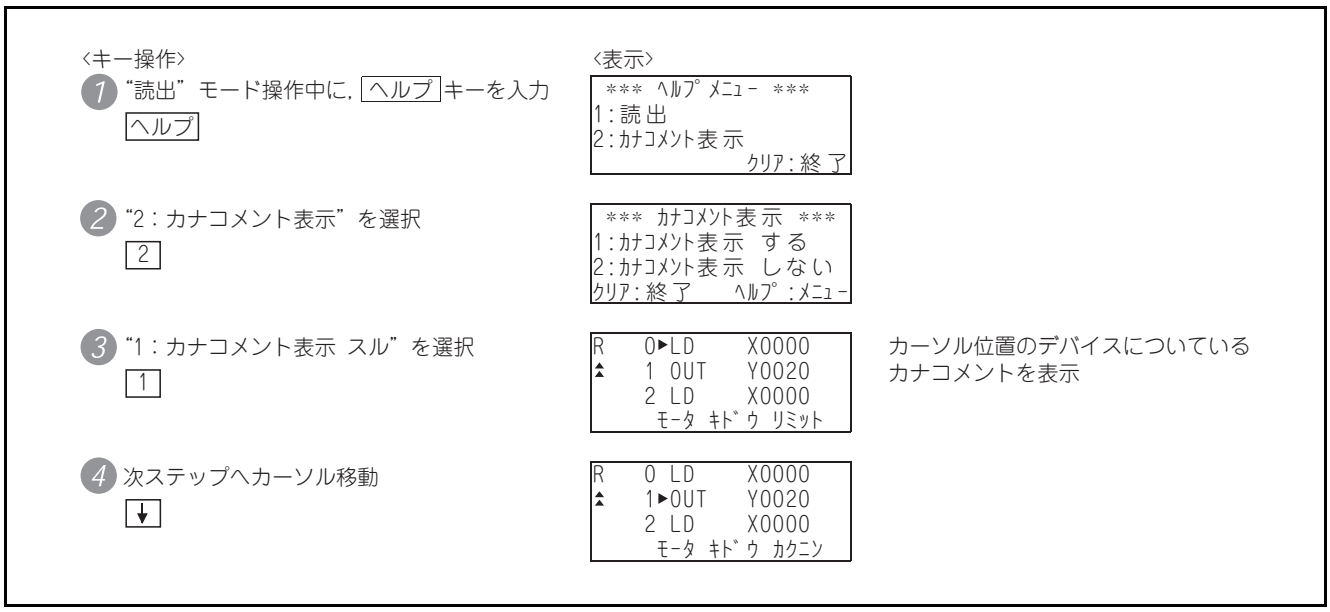
【操作例】



(2) カナコメントを表示する

カナコメントの表示方法を，読出モード中にカナコメントを表示する例で説明します。

【操作例】

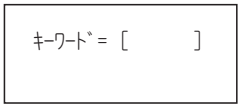


14.3.19 PC メモリのオールクリア

キーワードを入力要求しているとき，次の操作で ACPU に登録しているキーワードと共にパラメータおよびシーケンスプログラムもオールクリアすることが可能です。

（操作手順）

1 キーワード入力要求を表示

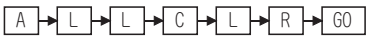


2 ACPU の STOP 操作

対象 ACPU を STOP 状態にしてください。

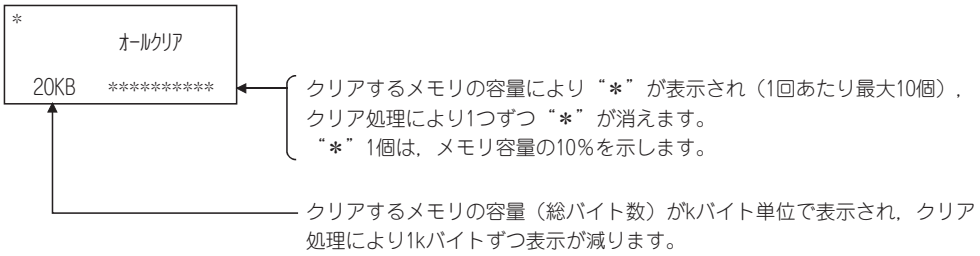
3 PC メモリオールクリア操作

“ALLCLR”を入力し，GO キーを入力してください。



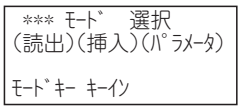
4 PC メモリオールクリア処理の表示

GOT によるクリア処理が始まると左図の表示となり，順次“＊”列と総バイト数の表示が変化します。



5 PC メモリオールクリア処理の完了

GOT によるクリア処置が完了すると，画面は左図の表示となります。
（リスト編集機能のモード選択前の状態）



6 必要に応じて，次の操作を開始してください。

14.3.20 操作方法一覧

14.3.21 共通操作

操作内容		操作目的	操作方法（キー入力順序）
基本操作	立上げ時のキーワード入力	ACPU にキーワードが登録されている時に入力する。	キーワード → [GO]
	モード選択	モード選択をする。	モードキー（ [読出] ,[挿入] ,[パラメータ] ） [シフト] → モードキー（ [書込] ,[削除] ,[その他] ）
	有効キーの切換え	有効キー（上段／下段）をユーザで切り換える。	[シフト] または [設定]
	誤入力時の処置	キー操作を間違えた時に行う。	[クリア] ，モードキーまたは [シフト] → モードキー
	命令ヘルプ機能の操作	ヘルプ機能の命令指定による操作を行う。	書込・挿入モードでのプログラム表示操作 → [ヘルプ] → [1] → [1] → [1] → 命令の頭文字を入力 → [GO] → [↑] / [↓] → 該当する命令の番号を入力 → 該当命令のソース，ディスティネーションを入力 → [GO]
	カナコメントの表示	ACPU に格納されているコメントを表示する。	書込・読出・挿入・削除モードでのプログラム表示操作 → [ヘルプ] → [2] → [1] / [2]
命令入力操作	命令コードのみ	命令コードのみを入力する。	命令 → [GO]
	命令コードとデバイス１つ	命令コードとデバイス１つを入力する。	命令 → [SP] → デバイス → デバイス番号 → [GO]
	上記以外（命令キー入力）	上記以外を命令キーを使って入力する。	デバイス，ソースデータ，ディスティネーションの間に各々[SP]入力
	上記以外（デバイスキー入力）	上記以外を命令キーを使わずに入力する。	命令とデバイス，ソースデータ，ディスティネーションの間に各々[SP]入力

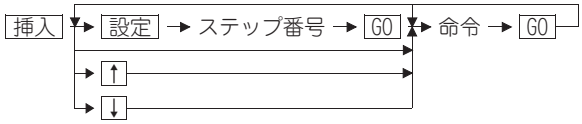
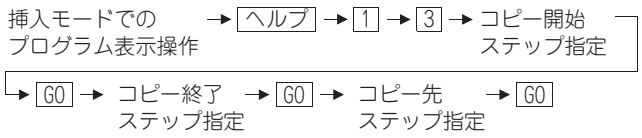
14.3.22 書込みモード (W) での操作

操作内容	操作目的	操作方法（キー入力順序）
NOP の連続書込み	プログラム中の指定範囲を NOP にする。	書込モードでの プログラム表示操作 → [ヘルプ] → [1] → [2] → [1] → 開始ステップ指定 → [GO] → 最終ステップ指定 → [GO] → [2] → 開始ステップ指定 → [GO]
プログラムの書込み／修正（変更）	プログラムを新規に書き込む／修正（変更）する。	[シフト] → [書込] → [設定] → ステップ番号 → [GO] → 命令 → [GO] → [↑] → [↓]

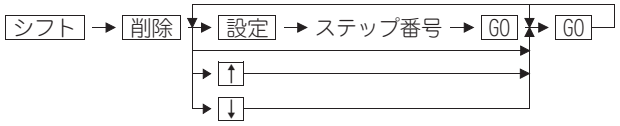
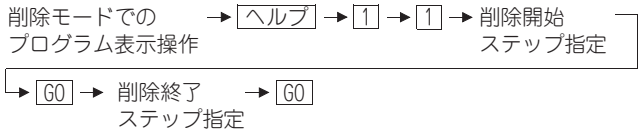
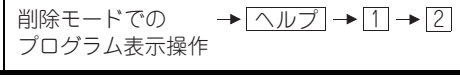
14.3.23 読出しモード (R) での操作

操作内容	操作目的	操作方法（キー入力順序）
ステップ番号指定による命令読出し	プログラム中の指定ステップ番号の命令を読み出す。	[読出] → [設定] → ステップ番号 → [GO] → [GO]
命令指定による命令読出し	プログラム中の指定命令を読み出す。	[読出] → 命令 → デバイス → デバイス番号 → [GO] → [GO]
デバイス指定による命令読出し	プログラム中の使用デバイスを指定して命令を読み出す。	[読出] → [設定] → デバイス → デバイス番号 → [GO] → [GO]
自動スクロール	プログラムを自動スクロールしながら表示する。	上記読出し操作 → [設定] → [↑] → [↓] → [設定] → ステップ番号 → [↑] → [↓] → [設定] → [SP] → [↑] → [↓]

14.3.24 挿入モード (I) での操作

操作内容	操作目的	操作方法（キー入力順序）
プログラムの挿入	プログラム中に命令を挿入する。	
プログラムの移動	プログラムを一括移動する。	
プログラムのコピー	プログラムをコピーする。	

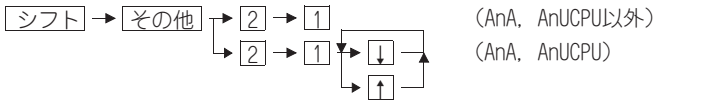
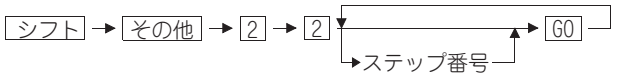
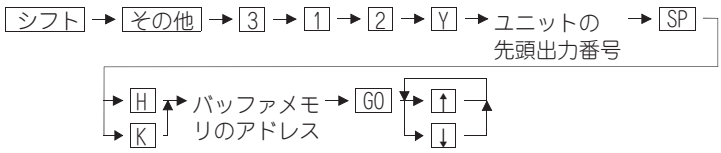
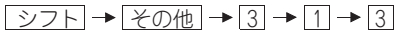
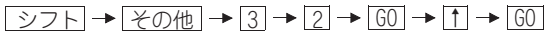
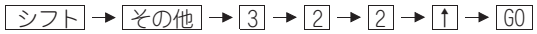
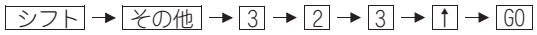
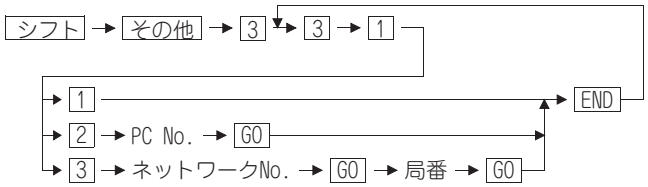
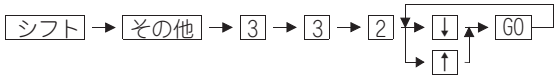
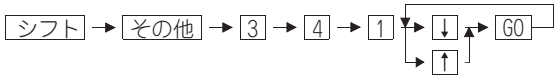
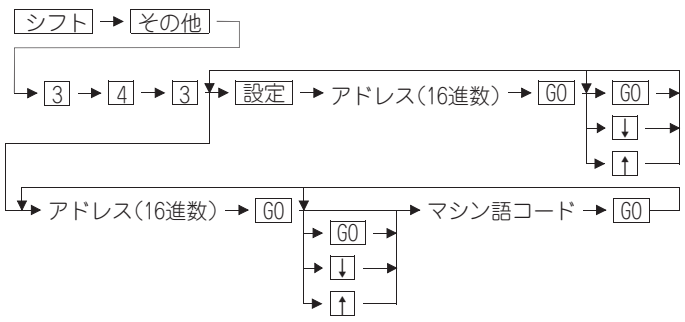
14.3.25 削除モード (D) での操作

操作内容	操作目的	操作方法（キー入力順序）
プログラムの削除	プログラム中の命令を削除する。	
プログラムの範囲指定削除	プログラムを範囲指定して削除する。	
NOP の一括削除	プログラム中の NOP を一括削除する。	

14.3.26 パラメータモード (P) での操作

操作内容	操作目的	操作方法（キー入力順序）
パラメータのオールクリア	パラメータを初期設定の状態に戻す。	パラメータ → 1 → ↑ → GO → END → ↑ → GO
パラメータの設定（A0J2HCPU の場合）	A0J2HCPU のパラメータの設定をする。	パラメータ → 2 → ①
ラッチ範囲設定	ラッチ範囲を「ラッチなし」,「1/2 ラッチ」,「オールラッチ」から選択する。	① → 1 → ↑/↓ → GO → ②
ステップリレー設定	ステップリレーのあり (S1536 ～ 2047) ／なしを設定する。	① → 2 → ↑/↓ → GO → ②
設定完了 (書込み)	パラメータ設定が完了してシーケンサ CPU に書込みを行う。	② → クリア → END → ↑ → GO （書込み完了表示） 複数項まとめて設定も可。
パラメータの設定（A0J2HCPU 以外の場合）	A0J2HCPU 以外のパラメータの設定をする。	パラメータ → 2 → ①
メモリ容量設定	メインシーケンスプログラム容量，ファイルレジスタ容量を設定する。	① → 1 → 容量 → GO → END → ②（メイン用, 入力単位：1Kステップ） ① → 1 → ↓ → 容量 → GO → END → ②（サブ用, 入力単位：1Kステップ） ① → 1 → ↓ → 点数 → GO → END → ②（ファイルレジスタ用, 入力単位：1K点）
M，L，S 設定（AnA，AnUCPU 以外 ）	ラッチリレー／ステップリレーで使用する先頭デバイス番号を設定する。	① → 2 → Lの先頭番号 → GO → Sの先頭番号 → GO → ②
M，L，S 設定（AnA，AnUCPU のみ ）	ラッチリレー／ステップリレー／内部リレーで使用する先頭デバイス番号を設定する。	① → 2 → Lの先頭番号 → GO → Sの先頭番号 → GO Mの先頭番号 → GO → ②
タイマ設定（AnACPU 以外 ）	低速／高速／積算タイマで使用する先頭デバイスを設定する。	① → 3 → タイマの先頭番号 → GO → ②
タイマ設定 (AnACPU)	タイマの使用点数，T256 以降の設定値を格納する先頭デバイス番号，低速／高速／積算タイマで使用する先頭デバイスを設定する。	① → 3 → タイマの点数 → GO → 設定値格納用先頭デバイス GO → タイマの先頭番号 → GO → ②
カウンタ設定（AnACPU のみ ）	カウンタの使用点数と，C255 以降の設定値を格納する先頭デバイス番号を設定する。	① → 4 → カウンタの点数 → GO → 設定値格納用先頭デバイス GO → ②
ラッチ範囲設定	ラッチ設定するデバイスの範囲を設定する。	① → 5 → ↑/↓ → ラッチ先頭番号 → GO ラッチ終了番号 → GO ↑/↓ → GO → END → ②
WDT 設定（AnA，AnU では不可）	ウォッチドックタイマの設定値を 10ms 単位で設定する。	① → 6 → WDT値 → GO → ② （入力単位：10ms）
I/O 制御方式の設定（A3H，A3MCPU のみ ）	I/O の制御方式を設定する。	① → 7 → ↑/↓ → GO → ②
設定完了 (書込み)	パラメータ設定が完了してシーケンサ CPU に書込みを行う。	② → クリア → END → ↑ → GO （書込み完了表示） 複数項まとめて設定も可。

14.3.27 その他のモード(O)での操作

操作内容	操作目的	操作方法（キー入力順序）
エラーチェック	ACPUで発生しているエラーのエラーステップ番号／エラーコードを確認する操作です。	
プログラムチェック	プログラムをチェック（2重コイル，命令コード，END命令）する。	
バッファメモリ一括モニタ	特殊機能ユニットのバッファメモリ内容をモニタする。	
時計モニタ	ACPUの時計データをモニタする。	
PCメモリオールクリア	ACPUのメモリ内容をすべてクリアする。	
プログラムオールクリア	シーケンスプログラム，マイコンプログラム，T/C設定値エリアをすべてクリアする。	
デバイスメモリオールクリア	ACPU内のビットデバイス，ワードデバイスの内容をすべてクリアする。	
PC No.設定	CC-Link，MELSECNET/10上において，アクセスする他局のPC No.を設定する。	
メイン／サブ切換え	リスト編集画面に表示するメインプログラム／サブプログラムを選択する。	
リモートRUN/STOP	GOTからACPUのRUN/STOP態を操作する。	
マシン語読出し／書込み	ACPUのメモリアドレス（絶対アドレス）を指定して，メモリ内容の読出し，メモリへマシン語の書込みを行う。	

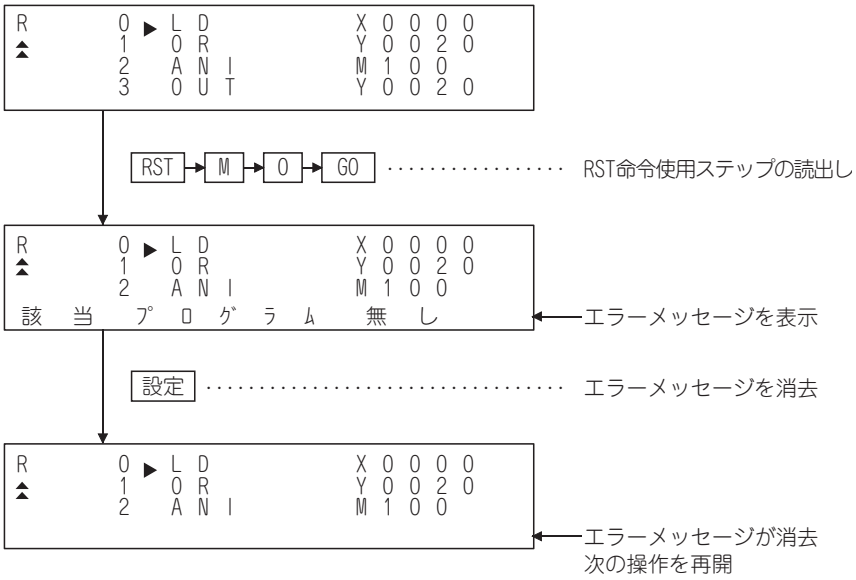
14.3.28 エラーメッセージと対処法

1 CPU 直接接続時のエラーメッセージと対処法

各モードの操作時に，MELSEC-A リスト編集がエラーを検出したときは，表示部の 4 行目にエラーメッセージを表示します。
以下に，表示するエラーメッセージ，表示条件および処置方法を示します。
エラーメッセージを表示したときは次のことを行い，操作を再開してください。

1. エラーメッセージを確認
2. エラー発生原因を取り除く
3. いずれかのキーを入力
   （エラーメッセージが消去し，エラー発生前の状態に戻ります。）

（例）



エラーメッセージ	表示条件	処　置
アドレスエラー	マシン語書込みなどの操作で書き込もうとしたアドレスが書込み禁止エリアである。	正しいアドレスを設定する。
該当プログラム無し	指定命令をさがしたが見つからない。	プログラムを確認する。
メモリカセットチェック	キーワードのクリア，パラメータ書込みでの CPU との交信時，メモリカセット不良または未装着である。	(1) メモリカセットを正しく装着する。 (2) 新しいメモリカセットに変更する。
ステップオーバーエラー	設定したステップ番号が最大ステップ番号より大きい。	正しいステップ番号を設定する。
設定ミス	設定している値が正しくない。	正しい設定を行う。
選択できません	実行できない機能を選択した。	別の機能を選択する。
操作ミス	操作ミスをした。	正しいキー操作を行う。
デバイスエラー	(1) 設定したデバイス記号が間違っている。 (2) デバイス番号が越えている。	(1) 正しいデバイス記号を再設定する。 (2)CPU のデバイス範囲で再設定する。
同一コイル有り	シーケンスプログラム中に同一コイルがある。	(1) 制御上，問題なければ次の操作を行う。 (2) 制御上，問題あればプログラムを修正する。
命令エラー	プログラムを読み出したとき，正規の命令に変換できない。	CPU がエラー検出している場合は，RUN → STOP にし，CPU リセット後，エラー発生ステップの前後の命令を確認し，正しい命令を書き込む。（エラーステップの確認については，14.3.27 項参照）
命令設定ミス	読出し，書込み，挿入時に，設定した命令が正しくない。	再設定する。
メモリプロテクト	書込み，挿入／削除モードなどで書込み時，メモリカセット内のメモリプロテクトスイッチが ON になっている。	メモリカセット内のメモリプロテクトスイッチを OFF にする。
容量オーバー	パラメータで設定したメモリ割付けが，メモリカセットの容量を越えた。	メモリカセットの容量以内で，パラメータを再設定する。
END 命令なし	END 命令がない。	プログラムの最終ステップに END 命令を書き込む。
PC 交信エラー	CPU と正常に交信できない。	MELSEC-A リスト編集機能を再起動してみる。交信できない場合，下記チェックが必要です。 (1)GOT 本体 (2) ケーブル接続状態 (3)CPU 本体 （エラーが発生していないか）
PC 交信エラー クローズして下さい	リスト編集起動時に CPU と正常に交信できない。	クローズして再起動してみる。交信できない場合，下記チェックが必要です。 (1)GOT 本体 (2) ケーブル接続状態 (3)CPU 本体
PC ライトエラー	書込み，挿入モードなどで CPU に正しく書き込めなかった。	(1)RAM/ROM の設定を確認する。 (2)RAM の装着などを確認する。 (3)CPU のメモリプロテクトスイッチの設定を確認する。
PC RUN 中	CPU が RUN 中に書込み，挿入／削除などをしようとした。	CPU を STOP にする。
PC No. エラー	PC No. が自局以外に設定されているとき。	PC No. 変更でアクセスする対象局を自局に設定し直す。
**KS オーバー	プログラム容量設定可能範囲より K ステップ分越えた値を設定しようとした。	プログラム容量を K ステップ分減らして設定する。
**KP オーバー	ファイルレジスタ容量設定可能範囲より K 点分越えた値を設定しようとした。	ファイルレジスタ容量を K 点分減らして設定する。

エラーメッセージ	表示条件	処　置
QnACPU には使えません PCNo. を設定して下さい	MELSEC-A リスト編集の対象 CPU が QnACPU である。	PC No. を設定してアクセスする対象局を変更する。
キーワード入力がありません PC No. を設定して下さい	キーワード入力画面で，キーワード入力をしないで GO キーを押した。	PC No. を設定して MELSEC-A リスト編集の対象局を変更する。または，再度同じ局を選択し，キーワード入力する。
シーケンサのパラメータを変更したため回路モニタは再度読出しを行って下さい	ファイル (R) レジスタ容量以外のシーケンサパラメータ設定を行った。	必要な時は，GOT システムを再立ち上げする。
シーケンサのパラメータを変更したため GOT システムを再立ち上げして下さい	ファイル (R) レジスタ容量設定を行った。	必要な時は，再度回路モニタの PC 読出しを行う。
シーケンスプログラムを編集したため回路モニタは再度読出しを行って下さい	シーケンスプログラムの編集を行った。	必要な時は，再度回路モニタの PC 読出しを行う。

2 シーケンサ CPU のエラーメッセージと対処法

その他モードのエラーステップ読出しを行うと，ACPU で発生しているエラーのエラーメッセージおよびエラーステップなどを表示します。
以下に，エラーメッセージ，異常内容および処置方法を示します。
エラーメッセージを表示したときは次のことを行い，操作を再開してください。

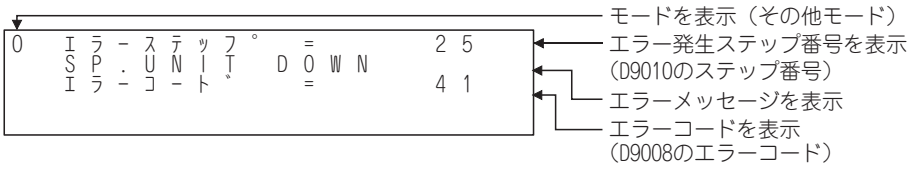
1 エラーメッセージを確認

2 エラーコードを表示していないときは，システムモニタ機能（14.2 節参照）により特殊レジスタ D9008 のエラーコードを確認

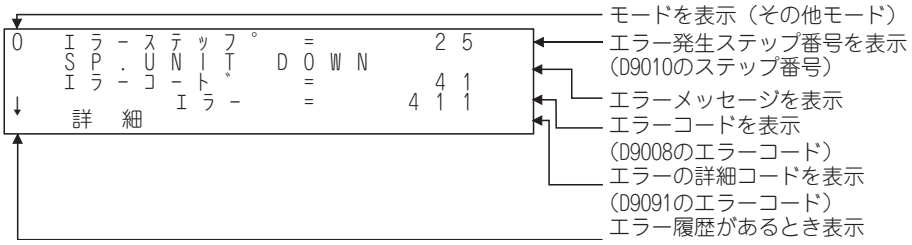
3 エラー発生原因を取り除く

（表示形式 ）

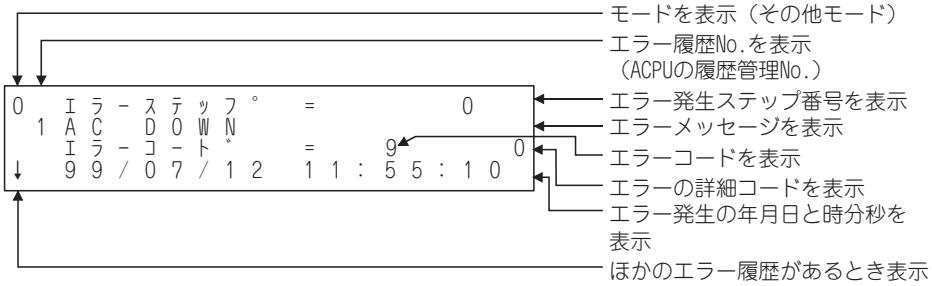
(1) AnA，AnU 以外の CPU でエラーが発生しているときの表示例



(2) AnA，AnUCPU でエラーが発生しているときの表示例



(3) 上記“↓”表示時 (エラー履歴があるとき) の次の表示例



Point

シーケンサ CPU のエラーメッセージを表示したときは，ACPU プログラミングマニュアル (共通命令編)，各 CPU のユーザーズマニュアルを参照し処置してください。

3 リンクシステム接続形態でのエラー内容と対処法

リンクシステム上で MELSEC-A リスト編集を使用した場合“PC 交信エラー（ｒｒ）”が表示されることがあります。そのときはエラー内容と処置を確認してください。

エラー番号	エラー内容	処　置
2	タイムアウトエラー：要求に対する応答がない	ケーブルの配線などをチェックする。
4	処理キャンセル： CPU が処理中にもかかわらずリスト編集機能から新しい処理要求を出したとき。	再度 GOT 側のキー操作を行う。
5	サムチェックエラー： リンク交信のサムチェックエラーが発生している。	ノイズ影響が考えられます。システムを再度チェックしてください。
16	PC No. エラー： 該当 PC 番号局が存在しない。	PC 番号の設定を確認し，正しい番号を設定する。
19	モニタ中に ACPU をリセットした時に発生することがある。	再度モニタ操作を行う。
24	リモートエラー： 計算機リンクユニットなどからリモート STOP/PAUSE を行っているのにリスト編集機能からリモート RUN/STOP を行ったとき。	どちらか一方からリモート RUN/STOP/PAUSE を行う。
25	エラー内容，及び処置は，次ページ参照してください。 システムモニタ機能により次ページで説明するデバイス値を確認の上，処置してください。	
32	リンクエラー： 子局から親局のモニタを行っているときに親局をリセットしたとき。	再度モニタ操作を行う。
34	EEPROM 不良： EEPROM 書込み時に EEPROM 不良で書込みができないとき。	新しい EEPROM と交換する。

【エラー番号“25”の詳細説明】

エラー番号“25”が表示された場合は下記原因と考えられます。内容と処置を確認してください。

(1) マスタ局（親局）に接続時

デバイス番号	名　称	内　容	
M9210	リンクカード異常 （マスタ局用）	OFF：正常 ON　：異常	リンクカードの H/W に異常があるか，ないかにより制御します。CPU リンクユニット内のリンクカードを CPU にて判断します。リンクユニットを交換してください。
M9224	リンク状態	OFF：オンライン ON　：オフライン， または局間テスト， 自己折返しテスト	マスタ局自身がオンラインになっているか，オフラインまたは局間テスト，自己折返しテストモードになっているかにより判断を行います。モードスイッチを確認してください。
M9227	ループテスト状態	OFF：未実行 ON　：正ループテスト， 副ループテスト 実行中	マスタ局自身が正ループテスト，または副ループテストを実行しているかしていないかにより判断します。

(2) ローカル局に接続時

デバイス番号	名　　称	内　　容	
M9211	リンクカード異常 （ローカル局用）	OFF：正常 ON　：異常	リンクカードの H/W に異常があるか，ないかにより判断します。 CPU リンクユニット内のリンクカードを CPU にて判断します。 リンクユニットを交換してください。
M9240	リンク状態	OFF：オンライン ON　：オフライン， または局間テスト， 自己折返しテスト	ローカル局自身がオンラインになっているか，オフラインまたは局間テスト，自己折返しテストモードになっているかにより判断を行います。 モードスイッチを確認してください。
M9257	ループテスト状態	OFF：未実行 ON　：正ループテスト， 副ループテスト 実行中	ローカル局自身が正ループテスト，または副ループテストを実行しているかしていないかにより判断します。

本節に記載されていないエラー番号を表示することがあります。そのときは恐れいりますが，最寄りのシステムサービス，代理店または支社に連絡ください。

14.4 FX リスト編集

MELSEC-FX リスト編集は，FX シーケンサ上のシーケンスプログラムを変更できます。
シーケンサシステムのトラブル対応，メンテナンスを行うための保全作業の効率化を図るための機能です。
作画ソフトウェアでオプション機能 OS（MELSEC-FX リスト編集）を GOT へインストールすることによって，FX シーケンサのプログラムを編集できます。
以下に，MELSEC-FX リスト編集の特長を示します。

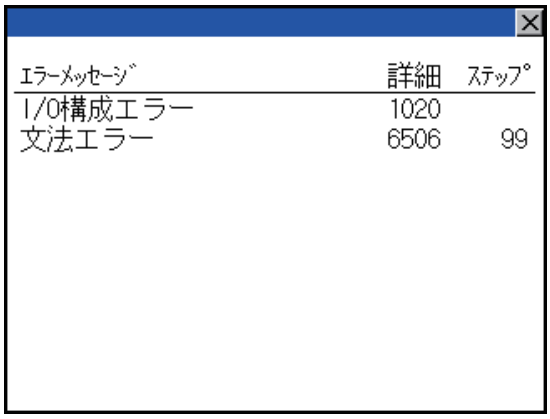
1 パラメータ・シーケンスプログラムなどのメンテナンスが容易

簡単なキー操作で FX シーケンサのパラメータおよびシーケンスプログラムをチェックしたり，部分修正／変更／追加が行えます。
GOT 以外の周辺機器を用意しなくても，簡単なシーケンスプログラムの編集ができます。

（シーケンスプログラムの命令変更例）

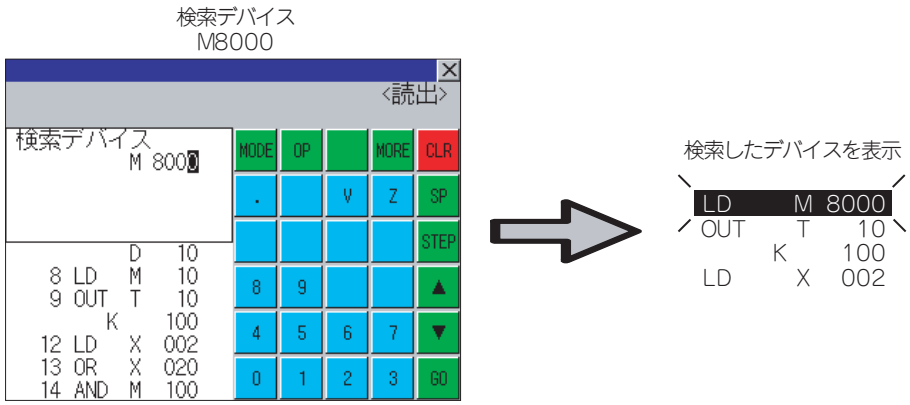
2 リスト編集時に発生したエラーを容易に確認

FX シーケンサで発生しているエラーのエラーメッセージ，エラーコード，ステップ数が確認できます。
リスト編集時にエラーが発生した場合も，すぐにエラー内容を確認できます。



3 命令，デバイスを検索して表示

シーケンスプログラムで使用している命令，デバイスが検索できます。
特定のデバイスを修正したい場合などに，該当箇所が検索できます。



14.4.1 仕様

1 システム構成

MELSEC-FX リスト編集のシステム構成について説明します。
各接続形態の設定方法や，使用する通信ユニット／ケーブル，接続形態に関する注意事項については，下記のマニュアルを参照してください。

☞ GOT1000 シリーズ 接続マニュアル

2 MELSEC-FX リスト編集の対象接続機器

対象接続機器
FXCPU

3 接続形態

（○：使用可能，△：一部制約あり，×：使用不可）

機能		GOT と接続機器の接続形態				
名称	内容	バス接続	CPU 直接接続	計算機リンク接続	CC-Link 接続 G4 *1	GOT マルチドロップ接続
MELSEC-FX リスト編集	シーケンスプログラムの書込み，パラメータの設定，PC 診断，キーワードの登録など。	×	○	×		×

*1 CC-Link 接続（G4 経由）を示します。

4 必要なオプション機能 OS とオプション機能ボード

以下のオプション機能 OS とオプション機能ボードが必要です。

オプション機能 OS	OS の容量（ユーザー領域）	オプション機能ボード
MELSEC-FX リスト編集	0KB	GT11-50FNB

(1) オプション機能 OS

上記表のオプション機能 OS を GOT にインストールしてください。
インストール方法については，下記のマニュアルを参照してください。

☞ GT Designer2 Version □ 基本操作・データ転送マニュアル
GT Designer3 Version1 画面設計マニュアル（共通編）

(2) OS の容量

オプション機能 OS を GOT にインストールする場合，上記表の空き容量がユーザ領域に必要です。
ユーザ領域の空き容量の確認方法や，その他のユーザ領域を使用するデータについては，下記のマニュアルを参照してください。

☞ GT Designer2 Version □ 基本操作・データ転送マニュアル
GT Designer3 Version1 画面設計マニュアル（共通編）

(3) オプション機能ボード

オプション機能ボードの装着方法については，下記を参照してください。

☞ 8.3 節 オプション機能ボードについて

5 機能一覧とモニタ可能な条件

MELSEC-FX リスト編集がモニタ可能なメモリと，FX シーケンサの状態の条件を下記に示します。

○：モニタ可能　△：条件付きでモニタ可能　×：モニタ不可

機　能		モニタ可能なメモリ*2				FX シーケンサの状態	参　照
		内蔵メモリ	RAM メモリカセット	EEPROM メモリカセット，フラッシュメモリカセット	EPROM メモリカセット		
シーケンスプログラムの読出し	シーケンスプログラムの表示	○	○	○	○	RUN/STOP	14.4.7 項
	命令，デバイスの検索						14.4.8 項
シーケンスプログラムの書込み	命令の書込み	○	○	△*1	×	STOP 時のみ	14.4.9 項
	オペランド・設定値の変更						14.4.10 項
命令の挿入							14.4.9 項
命令の削除							14.4.11 項
シーケンスプログラムのオールクリア							14.4.12 項
PC 診断		○	○	○	○	RUN/STOP	14.4.13 項
パラメータ設定	表示						14.4.14 項
	設定	○	○	△*1	×	STOP 時のみ	
キーワード		○	○	○	○	RUN/STOP	14.4.15 項

＊1 プロテクトスイッチが OFF 時のみ操作可能です。

＊2 使用可能なメモリは，使用している FX シーケンサにより異なります。
詳細は，下記のマニュアルを参照してください

☞使用している FX シーケンサのハードウェアマニュアル

14.4.2 アクセス範囲

アクセス範囲は，GOT を接続機器に接続した場合のアクセス範囲と同様です。
アクセス範囲の詳細は，下記のマニュアルを参照してください。

☞ GT Designer2 Version□ 画面設計マニュアル
GOT1000 シリーズ 接続マニュアル（三菱電機機器接続編）GT Works3 対応

14.4.3 注意事項

(1) 他の周辺機器によるシーケンスプログラム・パラメータ変更

MELSEC-FX リスト編集を使用時は，他の周辺機器からシーケンサ CPU 内のプログラムやパラメータの変更を行わないでください。
変更を行った場合，MELSEC-FX リスト編集を一旦終了させた後に，再度 MELSEC-FX リスト編集を起動してください。
1 台のシーケンサ CPU に複数の周辺機器（GOT を含む）から不用意にプログラムを変更すると，シーケンサ CPU，各周辺機器間でプログラムの内容が不一致となり，シーケンサ CPU が意図しない動作になる場合があります。

(2) シーケンスプログラムの変更時

シーケンスプログラムの変更（書込み，挿入，削除），パラメータの変更時は，FX シーケンサを STOP 状態にしてください。
FX シーケンサが RUN 状態時は操作できません。

(3) GO キーを押しても次の操作（検索など）に進まない場合

入力した内容（応用命令の番号，デバイス値など）をチェックしてください。

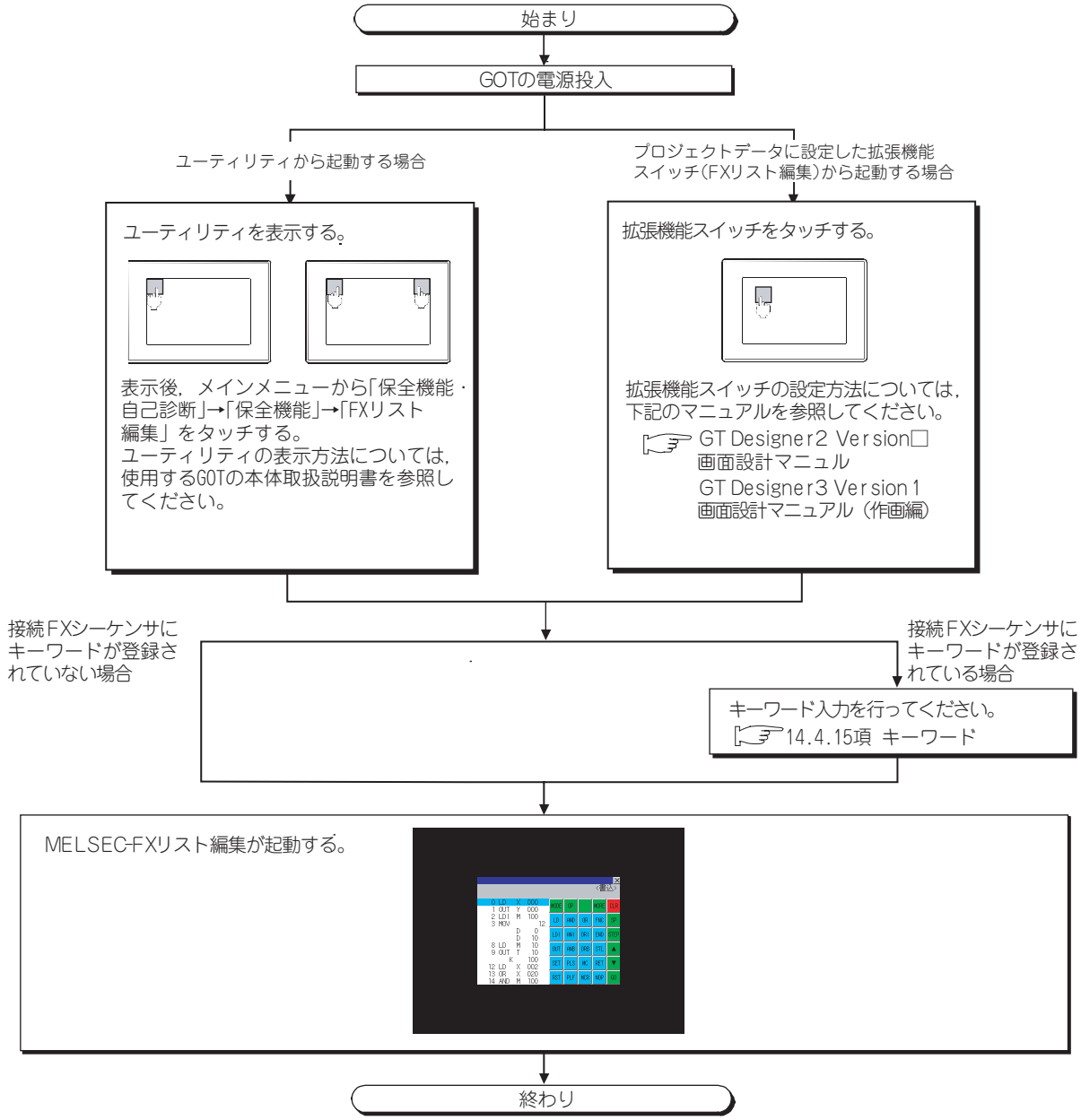
(4) リストモニタ使用時

基本命令の対象となるデバイスのみモニタできます。
応用命令の対象となるデバイス（ビット，ワード）の状態はモニタできません。

14.4.4 表示操作

1 表示するまでの操作

MELSEC-FX リスト編集（オプション機能 OS）を GOT にインストール後，MELSEC-FX リスト編集の操作画面が表示するまでの概要を説明します。



Point

(1) ユーティリティの表示方法

ユーティリティの表示方法については，下記を参照してください。

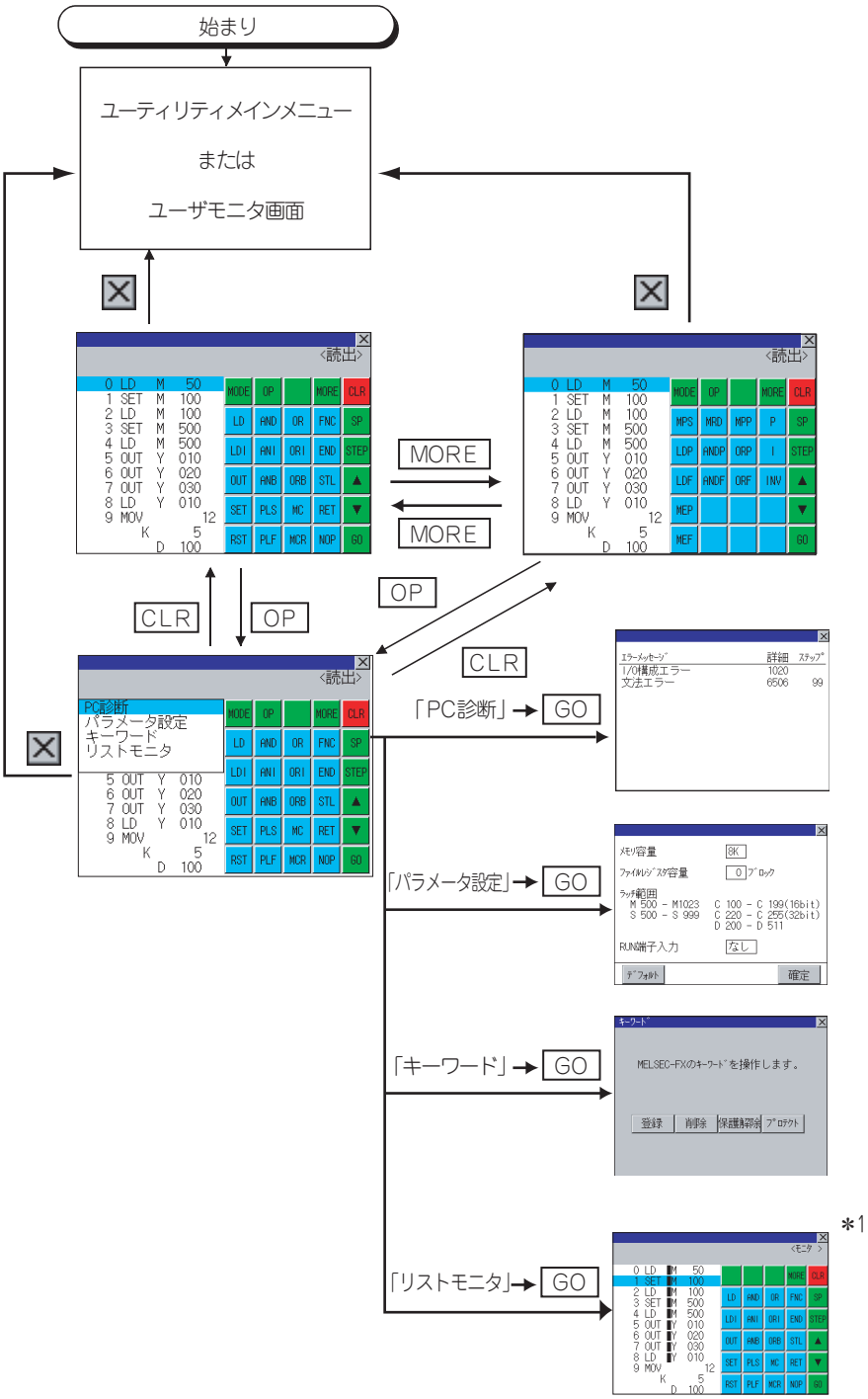
9.3 節 ユーティリティの表示

(2) プロジェクトデータをダウンロードしていない場合

MELSEC-FX リスト編集は，プロジェクトデータを GOT にダウンロードしていなくても，ユーティリティから起動できます。

2 画面遷移

画面遷移の概要を説明します。



＊1 拡張機能スイッチ（FX リストモニタ）を設定することで、モニタ画面からリストモニタを起動できます。
モニタ画面からリストモニタを起動した場合，リスト編集はできません。
拡張機能スイッチの設定方法については，下記のマニュアルを参照してください。

☞ GT Designer2 Version □ 画面設計マニュアル
GT Designer3 Version1 画面設計マニュアル（作画編）

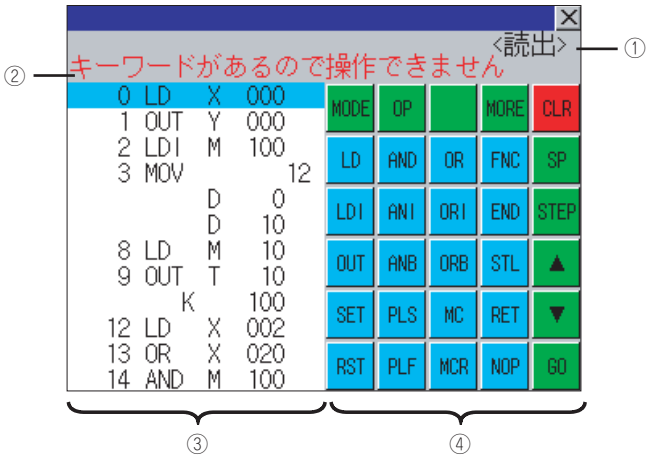
14.4.5 操作方法

MELSEC-FX リスト編集の内容と，画面上に表示されるキー機能について説明します。

1 キー配列とキー機能一覧

MELSEC-FX リスト編集の起動後に表示される画面の構成とキー機能について説明します。

2 表示される内容について



番号	項目	表示内容
①	モード	MELSEC-FX リスト編集のモードを表示します。(☞ 14.4.6 項 モードの選択と操作) リストモニタ実行時は，「モニタ」と表示されます。(☞ 14.4.16 項 リストモニタ)
②	エラーメッセージ	MELSEC-FX リスト編集で発生しているエラー内容を表示します (☞ 14.4.18 項 エラーメッセージと対処法)
③	リスト表示領域	シーケンスプログラムをリスト形式で表示 (12 桁) します。 編集が可能な位置 (行) は，バーで表示されます。
④	キー領域	MELSEC-FX リスト編集で使用するキーを表示します。

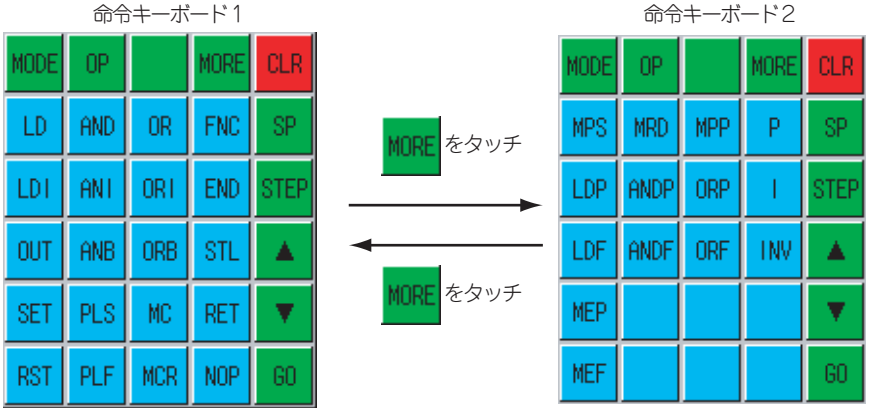
3 キー機能について

MELSEC-FX リスト編集画面の操作で使用するキーの機能を示します。

キー	機　能
MODE	MELSEC-FX リスト編集のモードを選択します。(☞ 14.4.6 項 モードの選択と操作)
OP	PC 診断，パラメータ設定，キーワードの選択メニューを表示します。
MORE	命令キーボード 1 と命令キーボード 2 を切り換えます。 (☞ 本項 4 キーボードの切換え)
CLR	命令入力時：途中まで操作しているキー入力内容をキャンセルします。 (☞ 14.4.17 項 キー操作を間違えたときの処置方法) オプションメニュー表示時：オプションメニューを終了します。 本キーで命令は削除できません。(☞ 14.4.11 項 命令の削除)
SP	スペースキーです。 タイマ，カウンタの設定値や応用命令書込み時などに使用します。
STEP	ステップ番号入力により指定ステップ番号から一覧表示します。
▲ ▼	リスト表示領域のバーを上下し，編集行を切り換えます。
GO	キー操作の決定を行います。
LD ～ INV ， 0 ～ 9 など	命令，デバイス名などを入力します。 入力内容に応じて，キー内容が変わります。 使用できる命令は，接続した FX シーケンサにより異なります。 使用する FX シーケンサのマニュアルを参照してください。
☒	MELSEC-FX リスト編集を終了します。

4 キーボードの切換え

MORE ボタンをタッチすると，命令キーボード 1 と命令キーボード 2 を切り換えます。
キーボードの各機能ボタンをタッチすると自動的に各機能の入力に最適なキーボードを表示します。

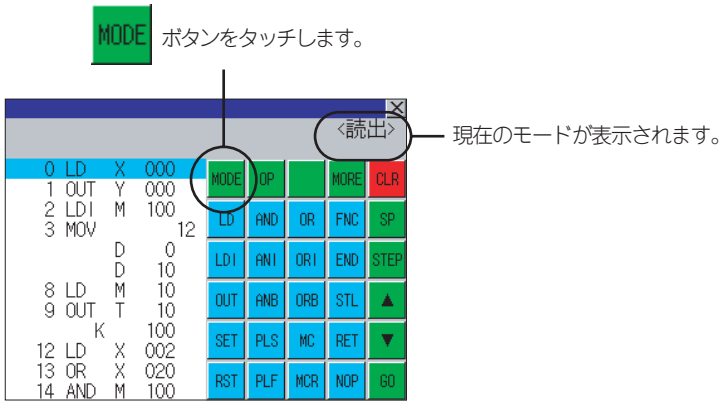


14.4.6 モードの選択と操作

MELSEC-FX リスト編集には，読出し，書込み，挿入，削除の 4 つのモードがあります。
操作内容に応じて，モードを選択します。
選択するモードについては，14.4.7 項以降の各機能の操作を参照してください。

1 モードの変更方法

MODE ボタンをタッチします。
タッチするごとに，モードが変わります。



2 モードが変更できない場合

下記の場合は，読出しモードにのみ変更可能です。
読出しモード以外に変更しようとすると，エラーメッセージが表示されます。
読出しモード以外に変更する場合は，下記に示す処置を行ってください。

エラーメッセージ	原　因	処　置
PC が RUN 中です。	FX シーケンサが RUN 状態になっている。	FX シーケンサを STOP 状態にしてください。
書込み禁止です。	EEPROM メモリカセットのプロテクトスイッチが ON になっている。	EEPROM メモリカセットのプロテクトスイッチを OFF にしてください。
	EPROM メモリカセットが有効になっている。	書込み先のメモリを EPROM 以外にしてください。

14.4.7 シーケンスプログラムの表示

FX シーケンサからシーケンスプログラムを GOT に読み出して表示します。
表示には，ステップ番号を指定した表示や，1 画面ごとにスクロールした表示があります。

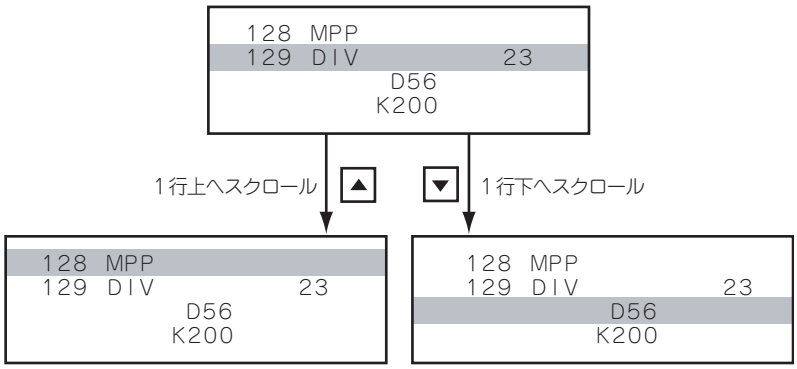
1 カーソルキーによる表示

(1) 操作

[▲] または [▼] でスクロール。

(2) 例

1 行上または 1 行下へスクロールします。



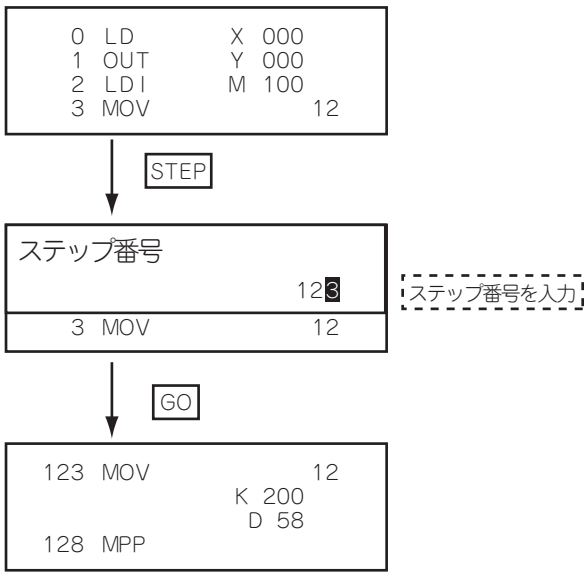
2 ステップ番号を指定した表示

(1) 操作

[STEP] → ステップ番号を入力 → [GO]

(2) 例

ステップ番号 123 を表示します。



Hint!

指定したステップ番号が応用命令のオペランドの場合

指定したステップ番号が，タイマ (T) やカウンタ (C) の設定値，または応用命令のオペランドの場合は，その命令部分を先頭に表示します。

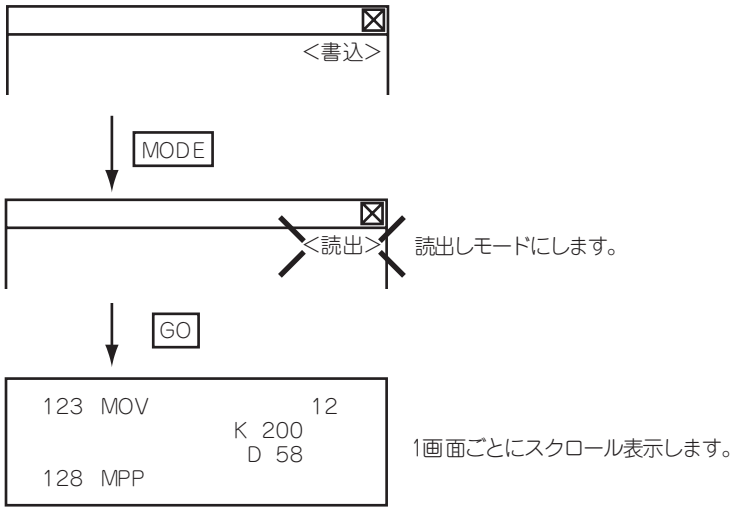
3 1 画面ごとにスクロール表示

(1) 操作

MODE → GO
(読出しモード)

(2) 例

1 画面ごとにスクロール表示します。



14.4.8 命令，デバイスの検索

シーケンスプログラム内の命令またはデバイスをステップ 0 から検索して表示します。

1 命令の検索

(1) 操作

MODE → 検索する命令を選択 *1 → デバイス名とデバイス番号を入力 *2 → GO → GO *3
（読出しモード）

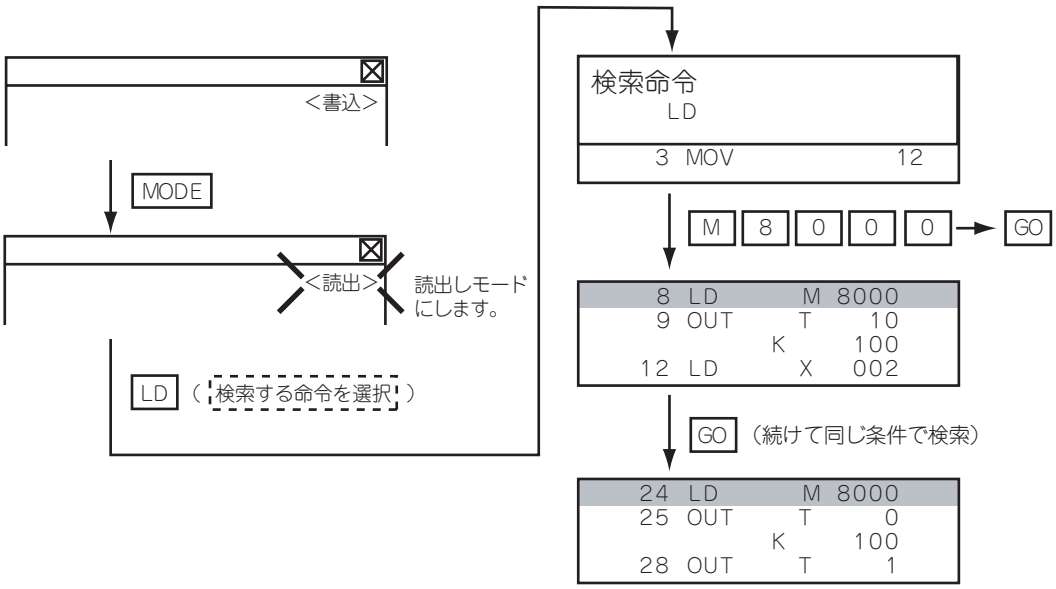
＊1 検索する命令がキーボード上にない場合は，MORE キーをタッチしてキーボードを切り換えます。
応用命令を検索する場合は FNC キーをタッチし，応用命令の番号を入力します。
ラベルを検索する場合は P または I をタッチし，ポインタ番号を入力します。
（☞ 14.4.9 項 2 応用命令の書込み）

＊2 デバイス名とデバイス番号が必要な命令を検索時のみ入力します。

＊3 検索表示後に GO キーをタッチすると，同じ条件で続けて検索できます。
GO キー以外をタッチすると，検索を終了します。

(2) 例

LD M8000 を検索します。



Point **ポインタ（P，I）の検索**

ポインタの検索対象は，ラベルのみです。
応用命令中のオペランドとして指定しているポインタは検索されません。

2 デバイスの検索

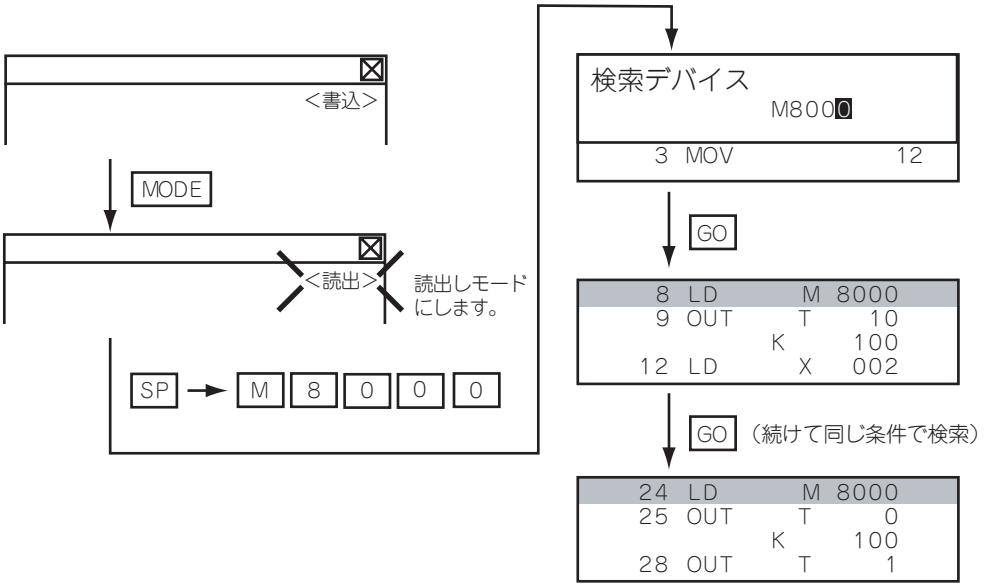
(1) 操作

MODE → SP → デバイス名とデバイス番号を入力 → GO → GO *1
（読出しモード）

＊1 検索表示後に GO キーをタッチすると，同じ条件で続けて検索できます。
GO キー以外をタッチすると，検索を終了します。

(2) 例

M8000 を検索します。



Point **検索できないデバイス**

下記のデバイスは検索できません。

- ポインタ，割込みポインタ
- 定数 K，定数 H，定数 E
- ビットデバイスの桁指定
- 特殊増設ユニット / ブロックのバッファメモリ
- 応用命令のオペランドで指定されているデバイス

ポインタ，割込みポインタの検索は，命令の検索で可能です。
（☞ 本項 1 命令の検索）

14.4.9 命令の書込み

FX シーケンサにシーケンスプログラムを書き込みます。（上書き／挿入）

1 基本命令の書込み

(1) 操作

(a) 命令のみ入力（例：ANB，ORB 命令など）

FXシーケンサをSTOP状態にする → MODE → 命令を入力 → GO

上書きの場合:（書込みモード）
挿入の場合 :（挿入モード）

(b) 命令とデバイスを入力（LD，AND 命令など）

FXシーケンサをSTOP状態にする → MODE → 命令を入力

上書きの場合:（書込みモード）
挿入の場合 :（挿入モード）

→ デバイス名とデバイス番号を入力 → GO

(c) 命令と第 1 デバイス，第 2 デバイスを入力（MC，OUT（T，C）命令など）

FXシーケンサをSTOP状態にする → MODE → 命令を入力 → デバイス名とデバイス番号を入力

上書きの場合:（書込みモード）
挿入の場合 :（挿入モード）

→ SP → デバイス名とデバイス番号を入力 → GO

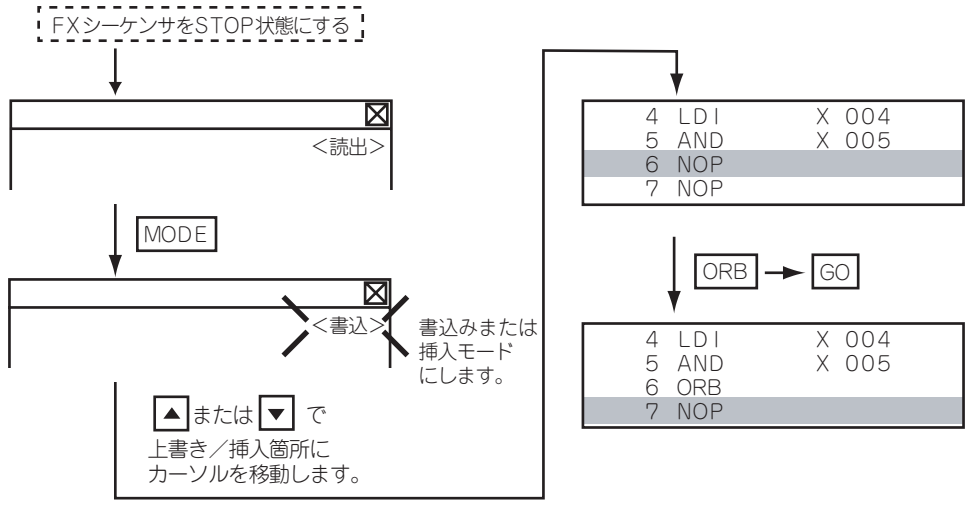
Point

命令の書込み箇所にカーソルを移動するとき

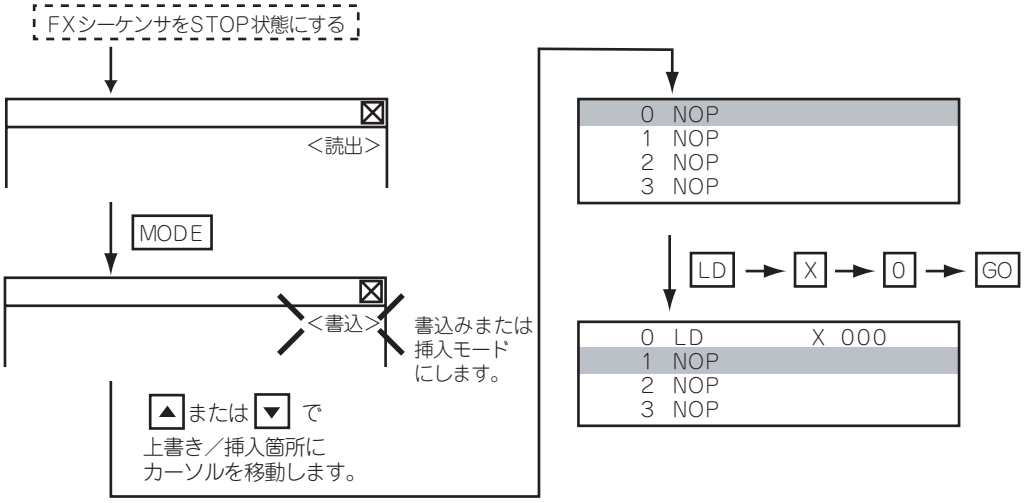
命令の書込み開始時は，命令行（ステップ番号が表示されている行）にカーソルを合わせてください。
カーソルをオペランド，設定値の行に合わせた場合は書込み操作できません。

(2) 例

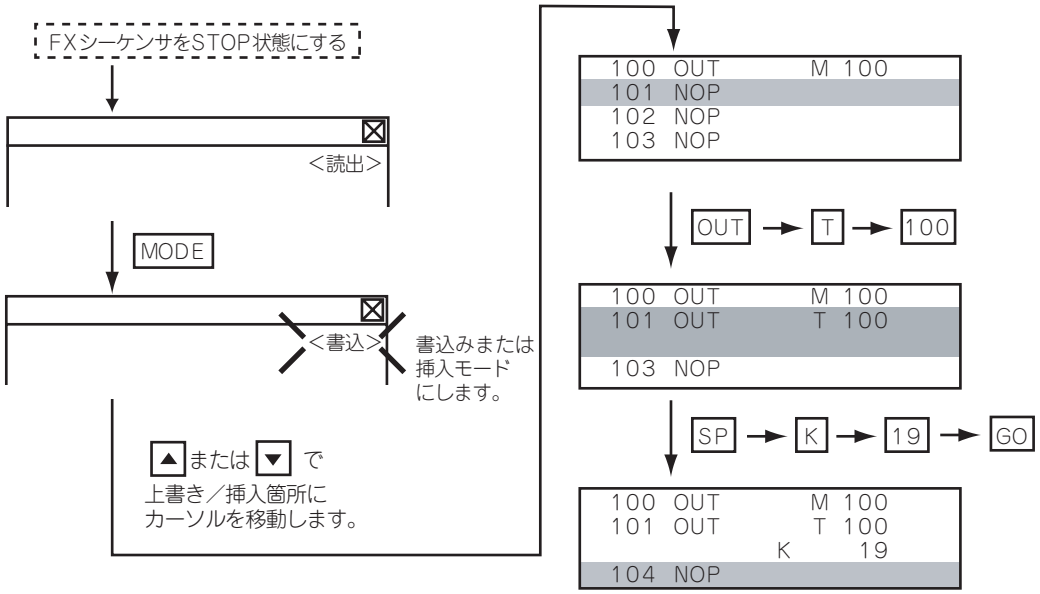
(a) ORB 命令の書込み



(b) LD X000 の入力

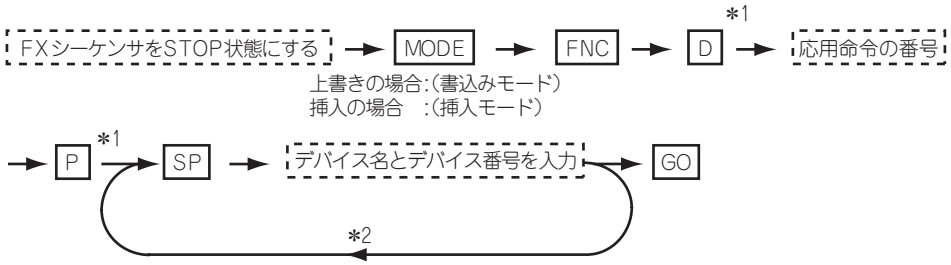


(c) OUT T100 K19 の入力



2 応用命令の書込み

(1) 操作



＊1 D（ダブルワードの命令）およびP（パルス実行形式の命令）の入力は，応用命令の番号を入力後でも可能です。
また，P → Dの順でも入力可能です。

＊2 演算するためのデバイスを複数指定する命令の場合は，SPキーのあとにデバイス名とデバイス番号を入力します。

Point

(1) 命令の書込み箇所にカーソルを移動するとき

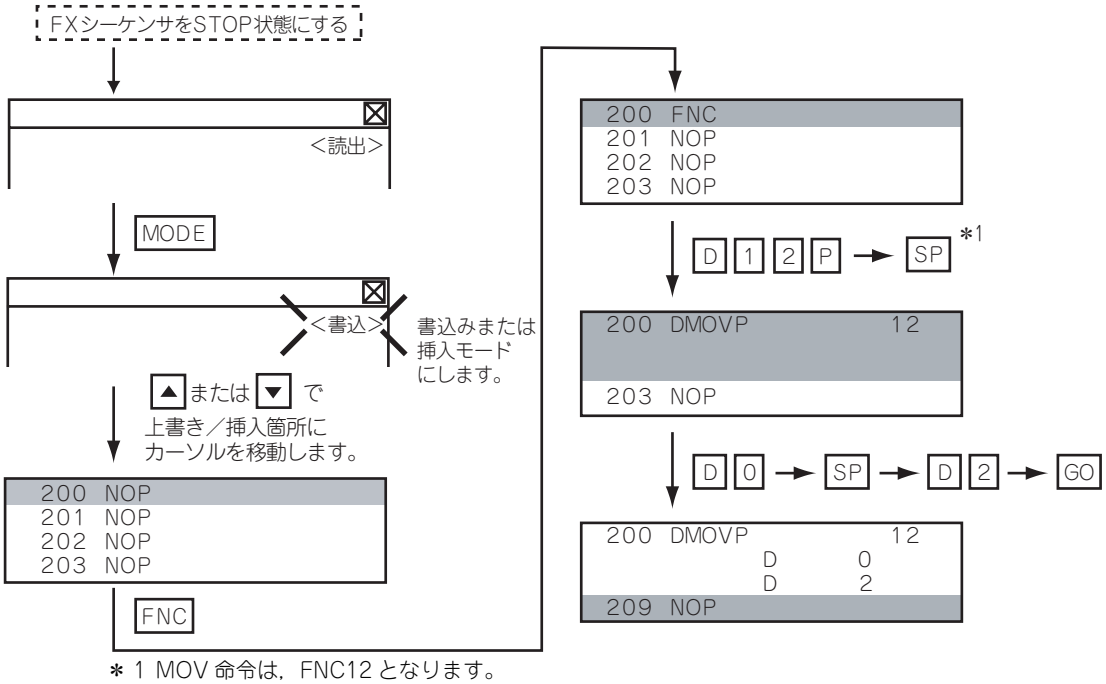
命令の書込み開始時は，命令行（ステップ番号が表示されている行）にカーソルを合わせてください。
他の行に合わせると，命令の書込み操作ができません。

(2) 命令のオペランドに文字列定数を使用する命令（ASC 命令など）

MELSEC-FX リスト編集では，オペランドに文字列定数が書き込めません。
（ASC 命令など）
書込みは，GX Developer を使用してください。

(2) 例

DMOVP D0 D2 を入力します。



＊1 MOV 命令は，FNC12 となります。

14.4.10 オペランド，設定値の変更

応用命令のオペランド部分や，OUT（T，C）命令の設定値を変更します。

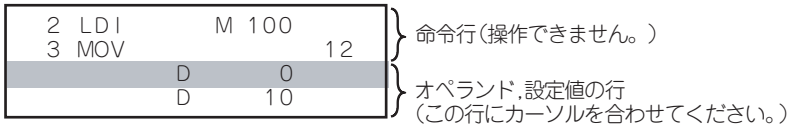
1 操作

＊1 10進数はKキーのあとに数値を入力します。
16進数はHキーのあとに数値を入力します。

Point

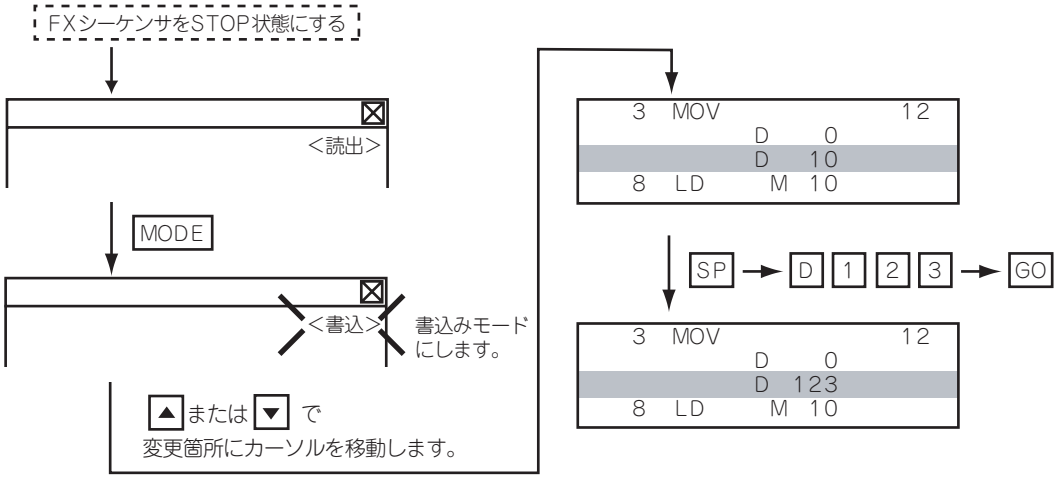
オペランド，設定値の変更行にカーソルを移動するとき

オペランド，設定値の変更開始時は，変更するオペランド，設定値の行（ステップ番号が表示されていない行）にカーソルを合わせてください。
命令行にカーソルを合わせると，入力操作ができません。



2 例

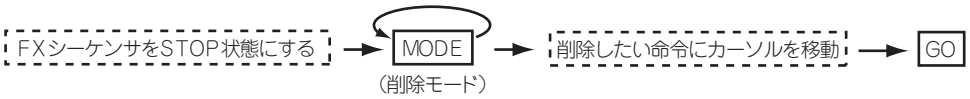
MOV D0 D10 を MOV D0 D123 に変更します。



14.4.11 命令の削除

シーケンスプログラムを 1 命令単位で削除します。

1 操作



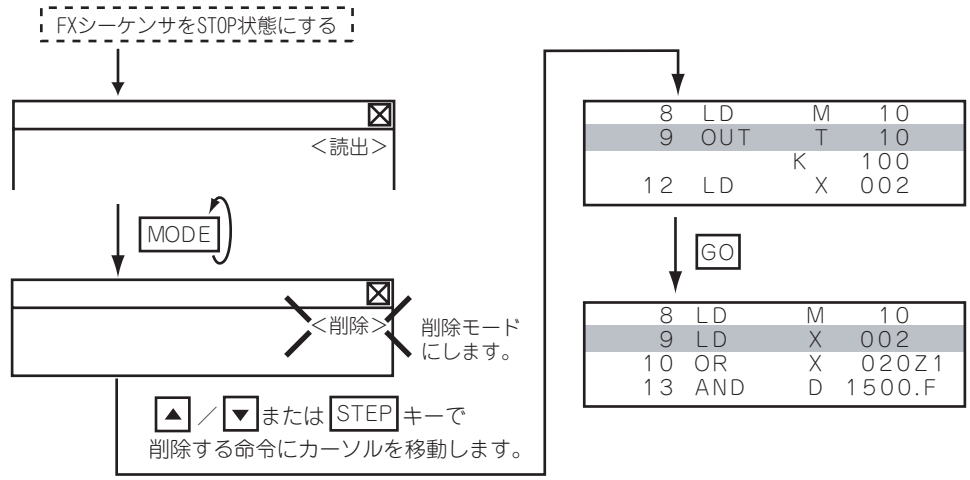
Point

命令の削除箇所にカーソルを移動するとき

カーソルは命令行（ステップ番号が表示されている行）に合わせてください。
カーソルをオペランド，設定値の行に合わせた場所は操作できません。

2 例

OUT T10 K100 を削除します。



14.4.12 シーケンスプログラムのオールクリア

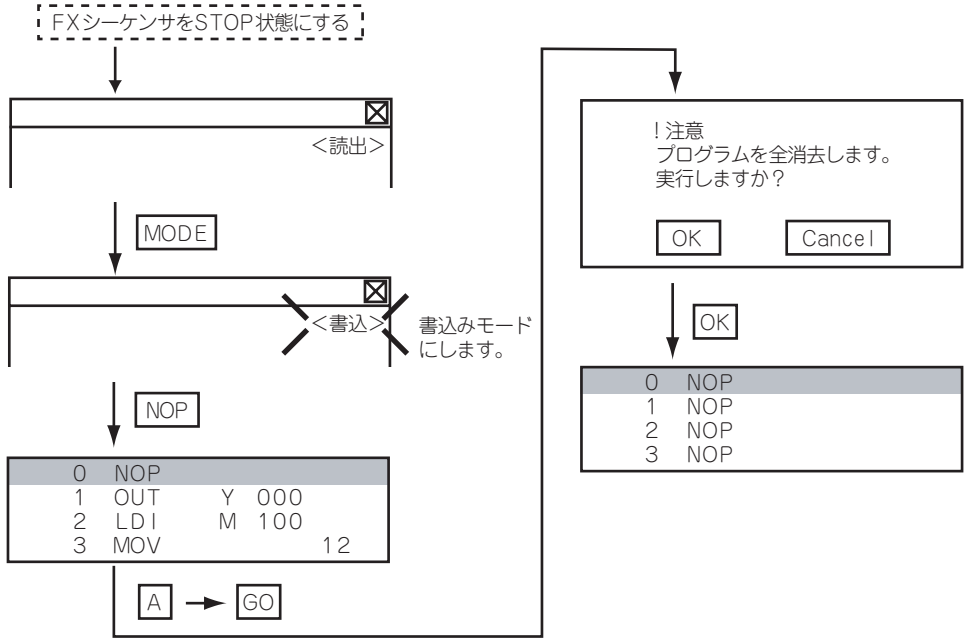
シーケンスプログラムをオールクリアします。

1 操作

FXシーケンサをSTOP状態にする → MODE（書込みモード） → NOP → A → GO

2 例

シーケンスプログラムをオールクリアします。



Point

シーケンスプログラムのオールクリア時にクリアされるもの

オールクリアを実施すると，プログラム実行前のパラメータは初期化され，ラッチクリアされます。

メモリ容量はデフォルト値，コメント領域は 0 ブロック，ファイルレジスタ容量は 0 ブロック，キーワードは未登録状態になります。

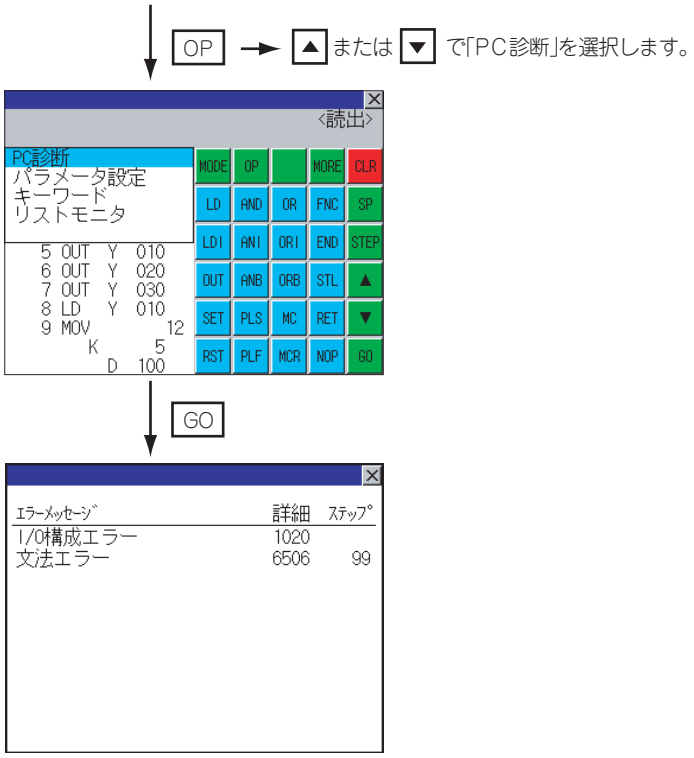
オールクリア後は，上記のパラメータなどを再設定してください。

14.4.13 PC 診断

FX シーケンサのエラーメッセージ，エラーコード，エラー発生ステップを表示します。

1 操作

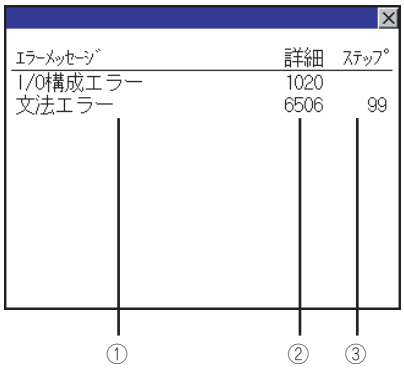
OP → 「PC診断」 → GO



2 PC 診断画面

PC 診断画面の表示内容と，画面上に表示されるキー機能について説明します。

(1) 表示される内容について



番号	項　　目	表示内容
①	エラーメッセージ	エラーメッセージを表示します。(I/O 構成エラー／ PC ハードエラー／ PC/PP 通信エラー／シリアル通信エラー／パラメータエラー／文法エラー／回路エラー／演算エラー)
②	詳細	エラーコードを表示します。
③	ステップ	エラーが発生しているシーケンスプログラムのステップ番号を表示します。 (文法エラー／回路エラー／演算エラー発生時のみ表示します。)

備　考　**エラーの詳細**

FX シーケンサのエラーの詳細は，下記のマニュアルを参照してください。

☞ 使用している FXCPU のプログラミングマニュアル

(2)　キー機能について

PC 診断画面の操作で使用するキー機能を示します。

キー	機　能
☒	PC 診断を終了します。

14.4.14 パラメータ設定

FX シーケンサのパラメータを設定します。

1 変更可能なパラメータと変更対象

(1) 変更可能なパラメータ

MELSEC-FX リスト編集で変更可能なパラメータと，対象 FX シーケンサは下記のとおりです。

○：設定／変更可能　×：設定／変更不可

項　目	対象 CPU								
	FX0(S) /FX0N	FX1	FX2(C)	FX1S	FX1N(C)	FX2N(C)	FX3S	FX3G(C)	FX3U(C)
メモリ容量設定	×	○	○	×	×	○	○	○	○
ファイルレジスタ容量設定	○*1	×	○	○	○	○	○	○	○
ラッチ範囲設定	×*2	○	○	×*2	×*2	○	×	×	○
RUN 端子設定	×	×	×	○	○	○	○	○	○
パラメータの初期化	○	○	○	○	○	○	○	○	○

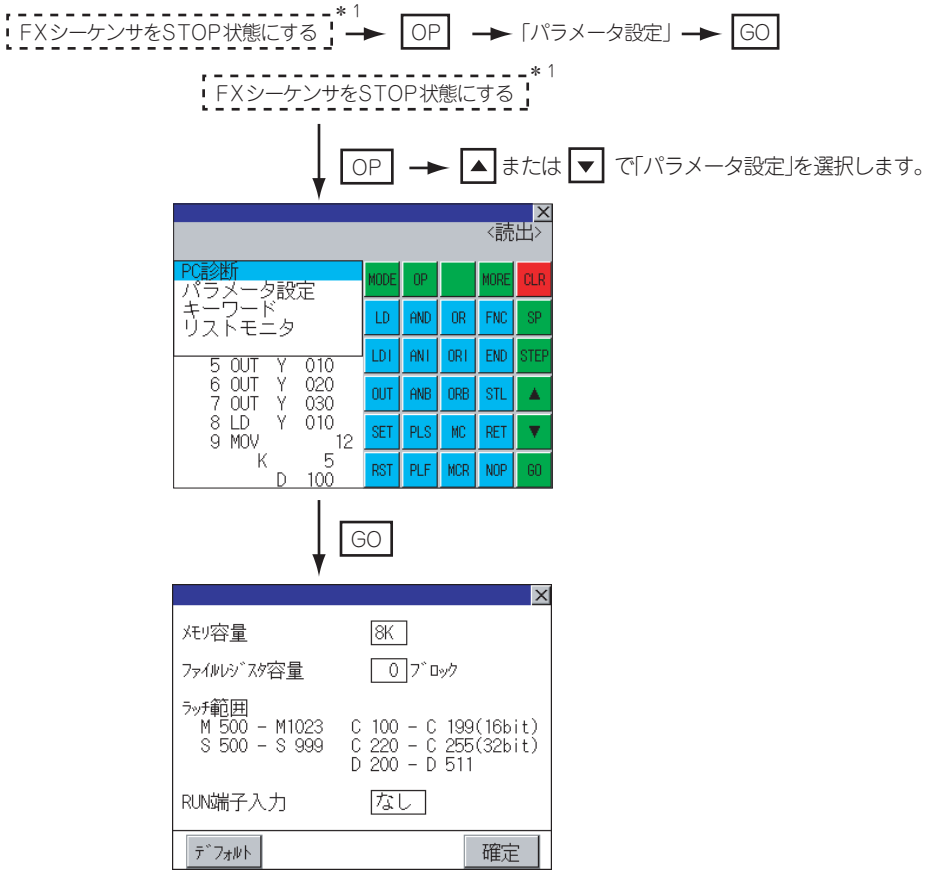
＊1 FX0(S) 接続時は“0”に設定してください。
“0”以外に設定するとパラメータエラーになります。

＊2 パラメータの初期化を行った場合，MELSEC-FX リスト編集上の表示は FX シーケンサの初期値と異なりますが，ラッチ範囲は変更しないでください。変更するとエラーになります。

(2) 変更対象

メモリカセット装着時は，メモリカセット内のパラメータが変更対象になります。

2 操作

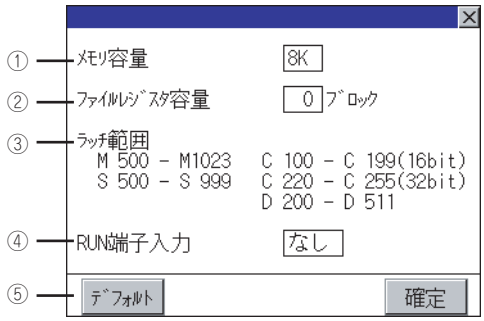


＊1 パラメータの確認時（パラメータを変更しない場合）は，STOP 状態にする必要はありません。

3 パラメータ設定画面

PC 診断画面の表示内容と，画面上に表示されるキー機能について説明します。

(1) 表示される内容について



番号	項　目	表示内容
①	メモリ容量	メモリ容量 (ステップ数) を設定します。 *K の部分をタッチすると，メモリ容量が変更できます。
②	ファイルレジスタ容量	ファイルレジスタに割り付けるメモリの容量（ブロック数）を設定します。 □の部分をタッチし，ブロック数を入力します。
③	ラッチ範囲	ラッチ範囲（停電保持領域）を設定します。 数値部分をタッチし，値を入力します。
④	RUN 端子入力	FX シーケンサの入力端子の 1 つを RUN 入力に使うかどうかを設定します。 □の部分をタッチし，RUN 端子にするデバイスを設定します。
⑤	デフォルト	パラメータを初期化します。

Point

メモリ容量，ファイルレジスタ容量変更後のカナコメント容量

メモリ容量が，ファイルレジスタ容量とカナコメント容量の合計より小さくなるような設定をした場合，カナコメント容量が自動的に減少します。
(MELSEC-FX リスト編集では，カナコメント容量が表示されません。)
下記の条件に当てはまる設定をした場合は，カナコメント容量が減少しますので注意してください。
(カナコメント容量が減少する設定と、設定変更後のカナコメント容量)
Nm < Nf × 500 + Nk × 500 + 500　となる設定

$$\text{設定変更後のカナコメント容量(ステップ)} = \frac{Nm - Nf \times 500 - 500}{500}$$

Nm：変更後のメモリ容量（ステップ）
Nf ：変更後のファイルレジスタ容量（ブロック）
Nk：変更前のカナコメント容量（ブロック）

備　考

設定可能な範囲と初期値

設定可能な範囲と初期値は，FX シーケンサごとに異なります。
設定可能な範囲と初期値の詳細は，下記のマニュアルを参照してください。
☞ 使用している FX シーケンサのプログラミングマニュアル

(2) キー機能について

パラメータ設定画面の操作で使用するキー機能を示します。

キー	機　能
デフォルト	パラメータを初期化します。
確定	変更した設定内容を確定します。
☒	パラメータ設定を終了します。

14.4.15 キーワード

FX シーケンサのキーワードを登録／削除／保護解除／プロテクトします。

1 キーワードの保護レベルにおける MELSEC-FX リスト編集の機能

キーワードの保護レベルによって，MELSEC-FX リスト編集で使用できる機能が異なります。

○：使用可能　×：使用不可

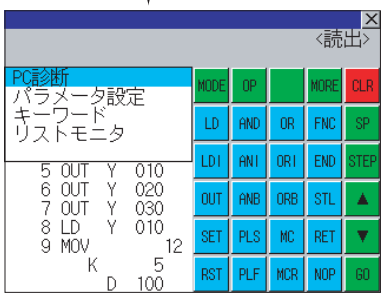
機能		キーワードの保護レベル				参照
		全操作禁止（全てのオンライン操作禁止）＊2	誤書込，読出禁止（読出／書込禁止）＊2	誤書込禁止（書込禁止）＊2	キーワード未登録／キーワード保護解除	
シーケンスプログラム読出し	シーケンスプログラムの表示	×	×	○	○	14.4.7 項
	命令，デバイスの検索	×	×	○	○	14.4.8 項
シーケンスプログラム書込み	命令の書込み	×	×	×	○	14.4.9 項
	オペランド・設定値の変更	×	×	×	○	14.4.10 項
命令の挿入		×	×	×	○	14.4.9 項
命令の削除		×	×	×	○	14.4.11 項
シーケンスプログラムのオールクリア		×	×	×	○	14.4.12 項
PC 診断		○＊1	○	○	○	14.4.13 項
パラメータ設定		×	×	×	○	14.4.14 項

＊1 第 2 キーワード対応の FX シーケンサで第 2 キーワードを設定している場合は，“×”（使用不可）となります。
＊2 () 内の名称は，キーワード＋第 2 キーワードを設定時のものです。

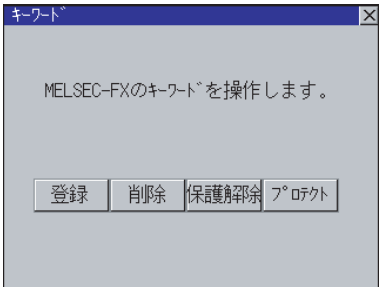
2 操作

OP →「キーワード」→ GO

OP → ▲ または ▼ で「キーワード」を選択します。



GO



3 キーワード画面と保護レベル

MELSEC-FX リスト編集で「キーワード」を選択すると，キーワード画面が表示されます。
キーワード操作については，下記を参照してください。

☞ 10.2.3 項 接続機器詳細設定の表示内容

備　考

キーワードについて

キーワードの詳細は，下記のマニュアルを参照してください。

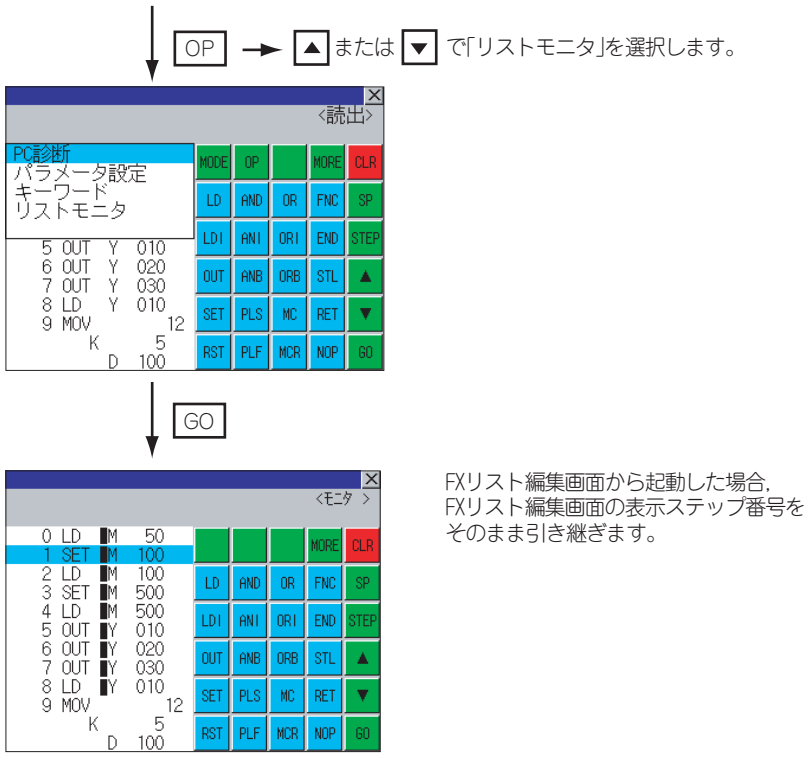
☞ 使用している FX シーケンサのプログラミングマニュアル

14.4.16 リストモニタ

シーケンスプログラムの接点やコイルの状態を表示します。

1 操作

OP →「リストモニタ」→ GO



FXリスト編集画面から起動した場合，
FXリスト編集画面の表示ステップ番号を
そのまま引き継ぎます。

Point

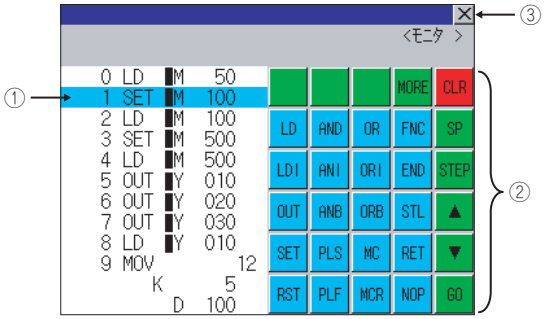
拡張機能スイッチ（FX リストモニタ）によるリストモニタの起動

拡張機能スイッチ（FX リストモニタ）を設定することで、モニタ画面からリストモニタを起動できます。
モニタ画面からリストモニタを起動した場合，リスト編集はできません。
拡張機能スイッチの設定方法については，下記のマニュアルを参照してください。

☞ GT Designer2 Version □ 画面設計マニュアル
GT Designer3 Version1 画面設計マニュアル（作画編）

2 表示される内容とキー機能について

リストモニタ時の画面の内容について説明します。



番号	項目	表示内容
①	リスト表示領域＊1	デバイス表示部分の左側に，接点やコイルの状態を表示します。
②	各種キー	FX リスト編集の読出しモードと同様の操作ができます。 (☞14.4.7 項 シーケンスプログラムの表示)
③	[×]	リストモニタを終了します。 (FX リスト編集からリストモニタを実行した場合は，FX リスト編集に戻ります。)

＊1 接点やコイルの状態は，以下のように表示されます。

命令種類	内容	状態	
		■表示	■非表示
LD，AND，OR（接点命令 (a 接)）	接点	ON	OFF
LDI，ANI，ORI（接点命令 (b 接)）	接点	OFF	ON
OUT，SET	TC の場合：コイル	ON	OFF
	TC 以外の場合：接点	ON	OFF
RST	TC の場合：リセット	ON	OFF
	ワードデバイスの場合	値が“0”	値が“0”以外
	TC，ワードデバイス以外の場合：接点	OFF	ON
MC，STL	接点	ON	OFF
LDP，ANDP，ORP，LDF，ANDF，ORF（立上り，立下り接点命令）	モニタしません	常時■非表示	

14.4.17 キー操作を間違えたときの処置方法

キー操作を間違えたときに，入力した内容を取り消します。

1 操作

(1) GO キーのタッチ前（入力内容を読出し／書込み前）

GO キーのタッチ前に CLR キーをタッチします。

(2) GO キーの入力後（入力内容を読出し／書込み後）

再度，命令の書込みを行ってください。(☞ 14.4.9 項 命令の書込み)

書込みや挿入操作によって確定した命令が，プログラムの書込みより修正 (上書き) されます。

14.4.18 エラーメッセージと対処法

MELSEC-FX リスト編集の操作時に表示されるエラー表示と，その処置方法を示します。

エラーメッセージ	エラー内容	処置方法
キーワードがあるので表示できません プロテクトされているので操作できません	全操作禁止，プログラム盗難禁止，プログラム誤書込み禁止のキーワードが設定されている。	• 禁止されている操作を確認してください。 • キーワードの保護解除・削除を行ってください。 （☞ 14.4.15 項 キーワード）
パラメータ不良のため表示できません	FX シーケンサのパラメータが不良である。	FX シーケンサに正しいパラメータを設定してください。
PC 通信エラー	FX シーケンサとの通信が不良である。	• FX シーケンサ，ケーブル，GOT に異常がないか調べてください。 • 接続機器設定が正しいか確認してください。
PC が RUN 中です	FX シーケンサが RUN 中に書込み操作などを実施した。	FX シーケンサを STOP 状態にしてください。
書込み禁止です	• 書込み先のメモリが EPROM である。 • EEPROMのプロテクトスイッチがONになっている。	• 書込み先のメモリを EPROM 以外に変更してください。 • EEPROM のプロテクトスイッチを OFF にしてください。
入力したステップ番号は範囲外です	指定したステップ番号が最大値をオーバした。	最大値以下のステップ番号を指定してください。
該当する命令はありません	指定した命令が見つからない。	次の操作に移ってください。
該当デバイスはありません	指定したデバイスが見つからない。	次の操作に移ってください。
プログラム容量オーバ	プログラムが容量を越える恐れがある。（書込みは実行しません。）	プログラムの容量を確認し，容量内になるようにプログラム削除を行ってください。 （☞ 14.4.11 項 命令の削除）
入力した命令が間違っています	正しくない命令（存在しない命令）を指定した。	正しい命令を入力してください。

Point

表示されるエラーメッセージの消去方法

エラーメッセージは，エラーの原因を解消しても消去されません。
エラーメッセージを消去するためには，MELSEC-FX リスト編集上のキーをタッチしてください。

14.5 自己診断

14.5.1 自己診断の機能

GOT のハードウェアやメモリなどの自己診断を行います。
自己診断できる項目は下記のとおりです。

項目	内容	参照ページ
メモリチェック	CF カード，内蔵フラッシュメモリ，内蔵 SRAM のライト / リードチェックを行います。 パスワード：5920(固定)	14-118
描画チェック	ビット欠け，色チェック，描画チェックを行います。	14-122
フォントチェック	文字データを画面に表示し，目視によるチェックを行います。	14-127
タッチパネルチェック	タッチキー最小単位 (16 ドット× 16 ドット) での不感帯領域がないかのチェックを行います。	14-129
I/O チェック	RS-422，RS-232 の相手先確認（シーケンサ CPU との通信チェック）や RS-232 の自己折り返しチェック（RS-232 インタフェースのハードウェアチェック）を行います。	14-131

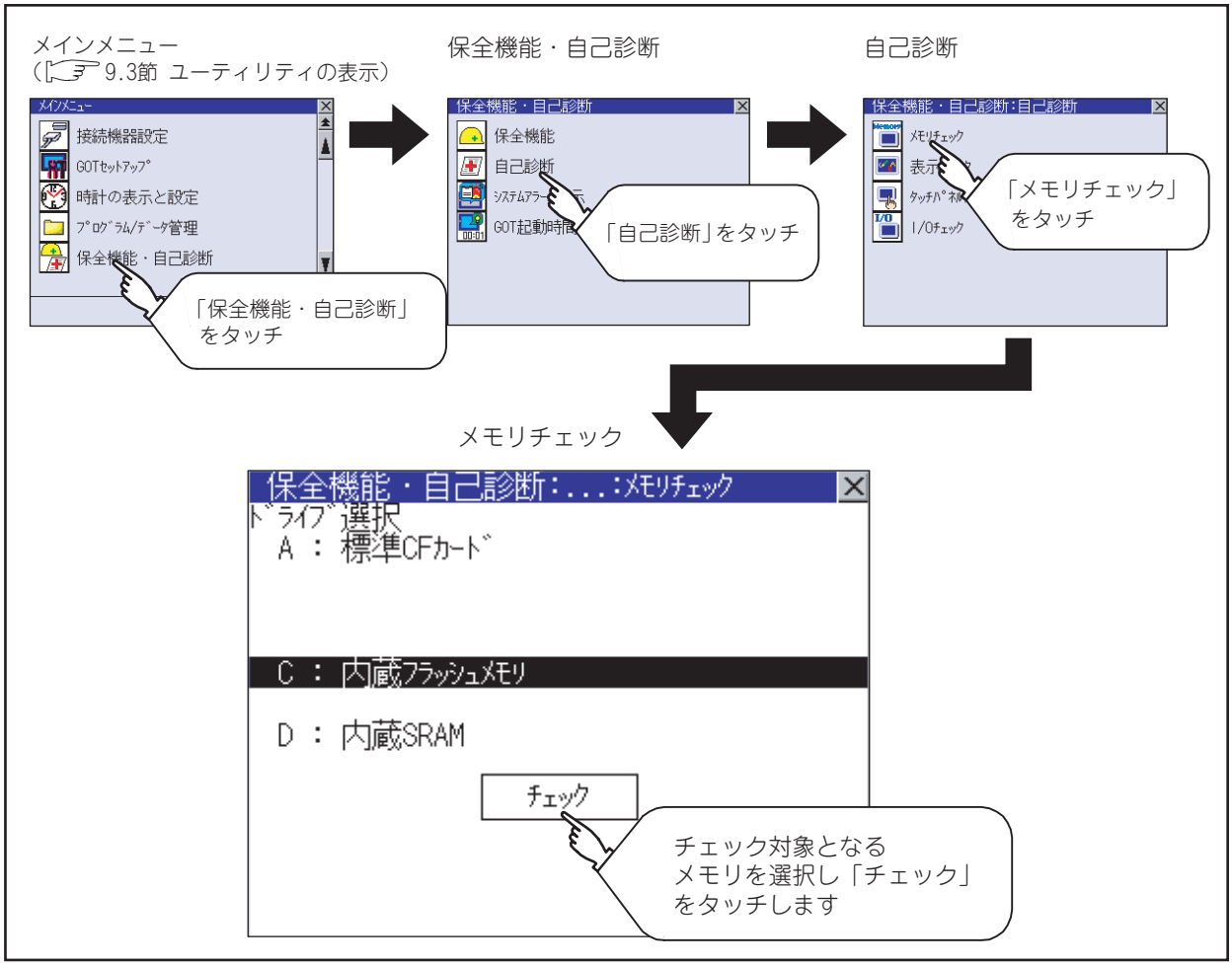
14.6 メモリチェック

14.6.1 メモリチェック機能

メモリチェック機能は，標準 CF カード，内蔵フラッシュメモリ，内蔵 SRAM に対するライト / リードチェックを行います。

機能	内容
A ドライブメモリチェック	A ドライブのメモリ (標準 CF カード) が正常に読み書きできるかチェックします。
C ドライブメモリチェック	C ドライブのメモリ (内蔵フラッシュメモリ) が正常に読み書きできるかチェックします。
D ドライブメモリチェック	D ドライブのメモリ (内蔵 SRAM) が正常に読み書きできるかチェックします。

14.6.2 メモリチェックの表示操作



14.6.3 メモリチェック操作

メモリのライト／リードチェックを行います。

Point

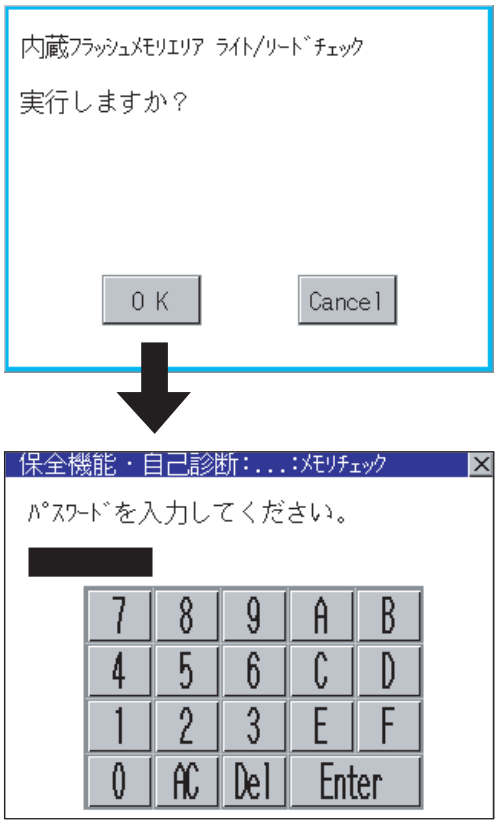
ドライブが表示されない場合

チェックしたいドライブ（メモリ）が表示されない場合は下記を参照し，装着要領やメモリ種類の確認を行ってください。

・ CF カードの着脱方法 ☞ 8.1 節 CF カードについて

装着などに問題がない場合，メモリの故障が考えられます。
CF カードの交換または内蔵フラッシュメモリ（C ドライブ）の交換を実施してください。
内蔵フラッシュメモリは，最寄りの三菱電機システムサービス（株）までお問い合わせください。

内蔵フラッシュメモリ（C ドライブ）の場合を例に説明します。
標準 CF カード（A ドライブ）のチェック時は，はじめに CF カードを装着した後，内蔵フラッシュメモリの場合と同様のキー操作を行ってください。

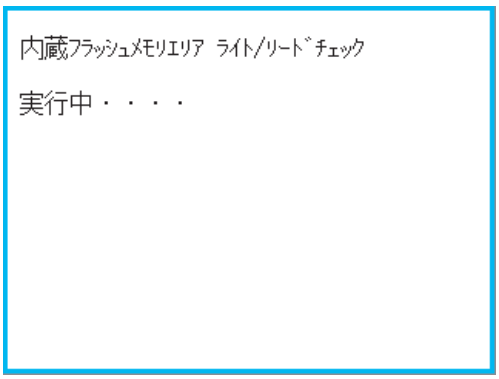


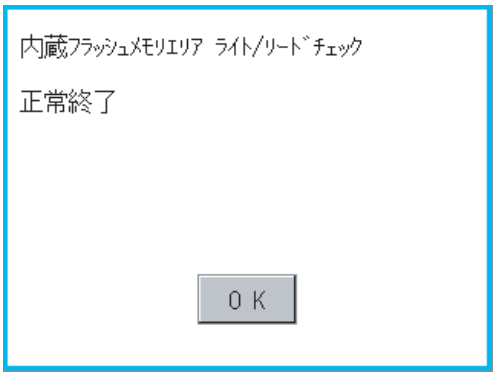
1 メモリチェックの設定画面にて内蔵フラッシュメモリを選択し，[チェック]ボタンをタッチしてください。

[OK]ボタンを選択するとテンキーウィンドウが表示されます。

[Cancel] ボタンを選択すると初期のメニューに戻ります。

2 [5][9][2][0] をタッチし，[Enter] をタッチしてください。
（パスワードは 5920 固定です。）
[Enter] をタッチすると内蔵フラッシュメモリのライト / リードチェックが実行されます。



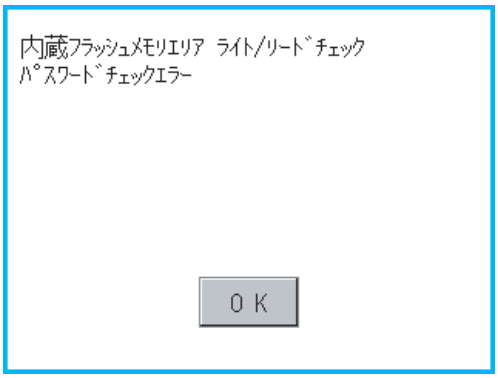


③ OKボタンをタッチするとメモリチェックに戻ります。

備　考

パスワードの変更について

パスワードは変更できません。
パスワード入力でエラーの場合には中断ダイアログを表示します。

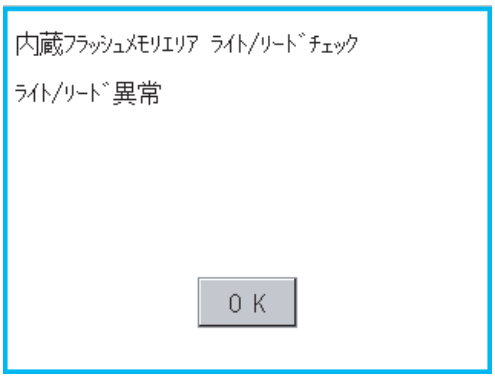


OKボタンをタッチするとメモリチェックに戻ります。

Point

メモリに異常が発見された場合

メモリチェックで異常が発見された場合には異常発生個所を示すダイアログが表示されます。
内蔵 SRAM で異常が発生した時は，一度内蔵 SRAM をフォーマットしてください。
内蔵 SRAM のフォーマットに関する詳細は下記を参照してください。
☞ 13.5 節 メモリカードフォーマット
内蔵フラッシュメモリやフォーマット直後の内蔵 SRAM で異常が発生した時は，最寄りの三菱電機システムサービス（株）までお問い合わせください。



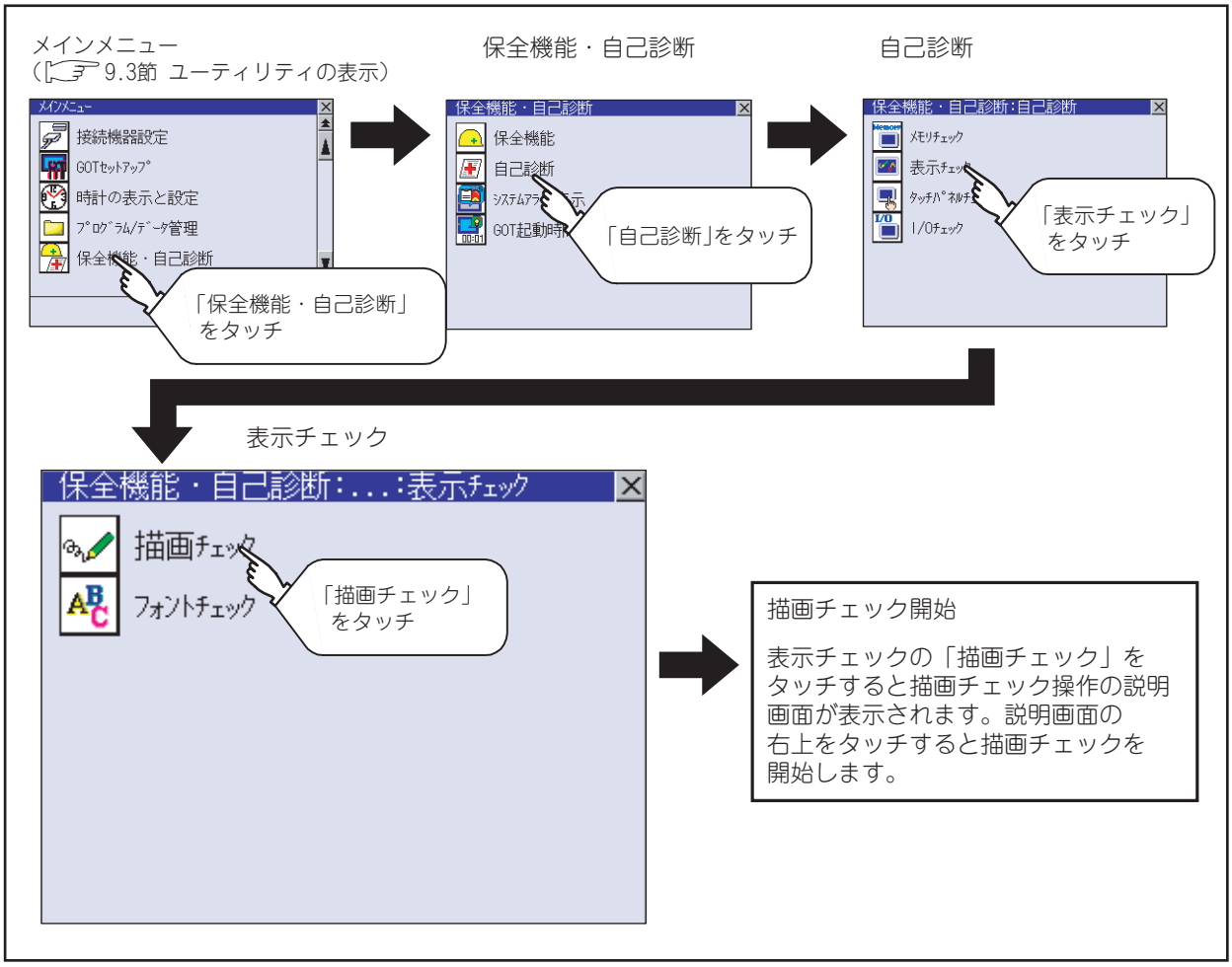
OKボタンをタッチするとメモリチェック画面に戻ります。

14.7 描画チェック

14.7.1 描画チェック機能

描画チェック機能は，ビット欠け，色チェック，基本図形表示チェック，スクリーン間ムーブチェックにより表示に関するチェックを行う機能です。

14.7.2 描画チェックの表示操作



Point **描画チェックの留意点**

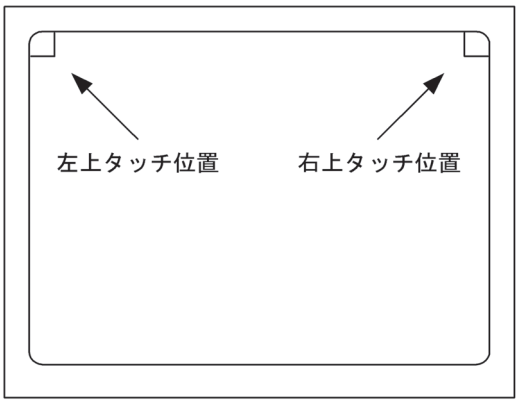
下記の場合，ビット欠けが発生しています。
1. 塗り込み色と異なる色で描画されている部分がある。
2. 基本図形，描画パターンが「14.7.3 項 描画チェックの表示と操作」に記載のレイアウトおよび手順どおりに描画されていない部分がある。

ビット欠けが発生した場合には，最寄りの三菱電機システムサービス（株）にお問い合わせください。
液晶パネルは，特性として輝点（常時点灯している点）と黒点（点灯しない点）が発生します。液晶パネルには大変多くの表示素子があるため，輝点，黒点を 100% 発生しないようにすることはできません。
また，表示色によっては，ちらつきが発生することがありますが，製品の不良または故障ではなく液晶パネルの特性ですので，あらかじめご了承ください。

14.7.3 描画チェックの表示と操作

表示チェックメニューで，「描画チェック」をタッチすると描画チェック操作の説明画面が表示されます。
画面の右上をタッチすると描画チェックを開始します。

1 描画チェック実行のまえに

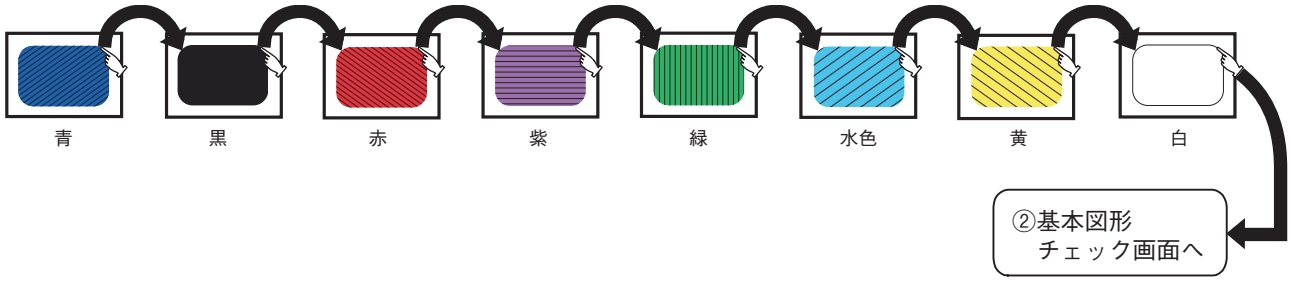


(1) 描画チェック中は画面右上をタッチすることにより，順次，次のチェックに進むことができます。
また，画面左上をタッチすると表示チェックへ戻ります。

(2) GT1155(256 色) の場合は，カラー表示 (青，黒，赤，紫，緑，水色，黄，白) します。
また，GT1150(モノクロ 16 階調) の場合は，カラー表示をモノクロ 16 階調に減色して表示します。
本項では，GT1155(256 色) の場合で説明します。

1 ビット欠け，色チェック

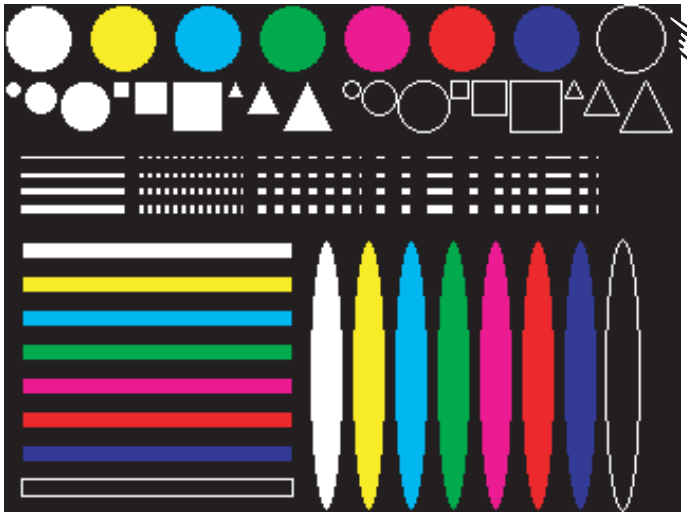
画面右上をタッチするたびに，全画面領域が，青色→黒色→赤色→紫色→緑色→水色→黄色→白色の順に表示されます。
目視により，ビット欠けチェック，色チェックを行ってください。



最後の色（白画面）で，画面右上をタッチすると，次の②基本図形チェック画面を表示します。

② 基本図形チェック

目視により，基本図形の形状変形，表示漏れがないかをチェックしてください。
描画させる基本図形は，1. 塗り込み円，2. 線 ,3. 矩形 ,4. 楕円の 4 種類です。



(3)スクリーン間ムーブチェックの
(a)パターン1へ

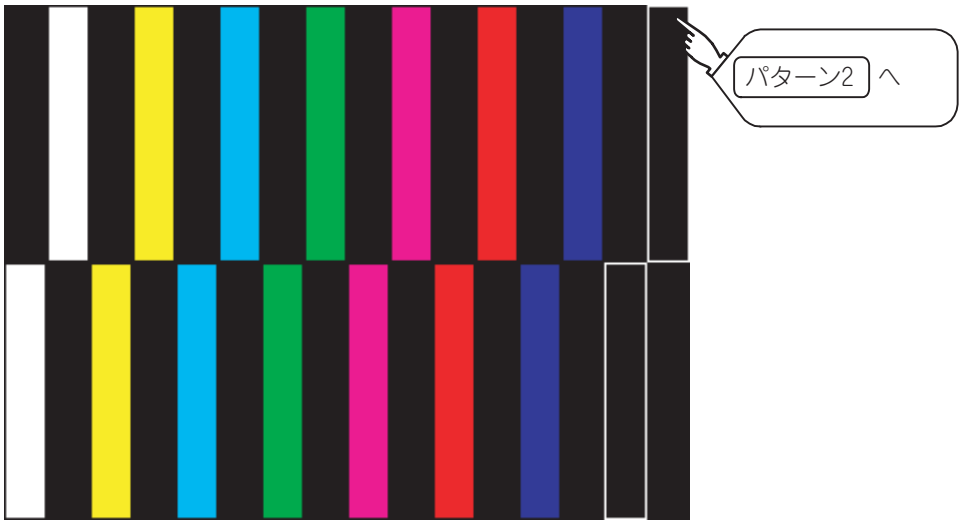
③ スクリーン間ムーブチェック

(a) パターン 1：形状変形，色チェック

描画される図形は，等間隔に規則正しく表示されます。

目視により形状や色 (白，黄，水色，緑，紫，赤，青，黒) が規則正しく表示されれば正常です。

GT1150(モノクロ 16 階調) の場合は，それぞれの色をモノクロ 16 階調に減色して表示します。



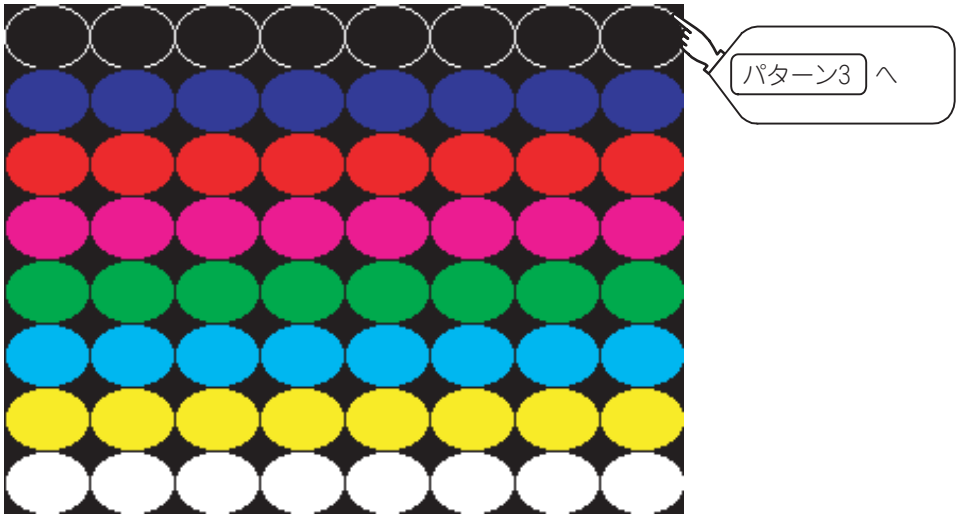
パターン1

(b) パターン 2：形状変形，色チェック

描画される図形は等間隔に規則正しく表示されます。

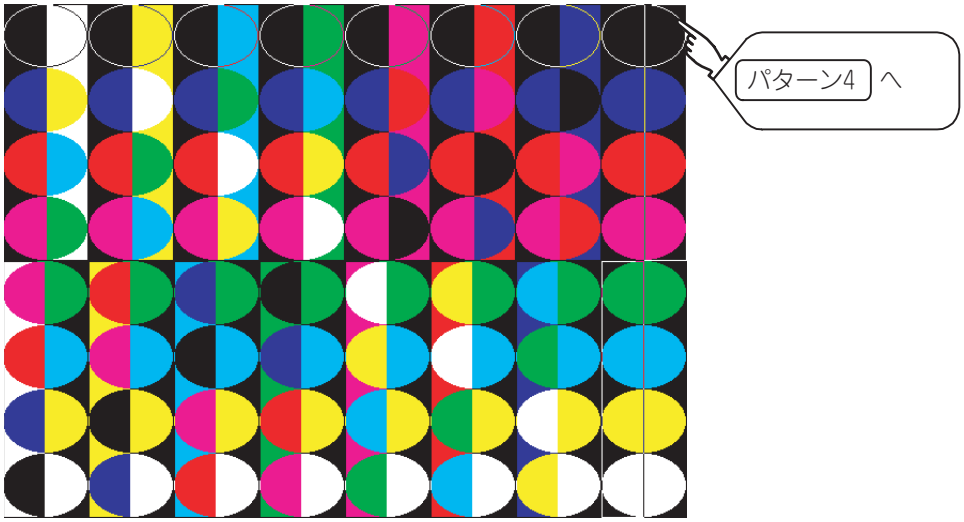
目視により，形状や色 (白，黄，水色，緑，紫，赤，青，黒) が規則正しく表示されれば正常です。

GT1150(モノクロ 16 階調) の場合は，それぞれの色をモノクロ 16 階調に減色して表示します。

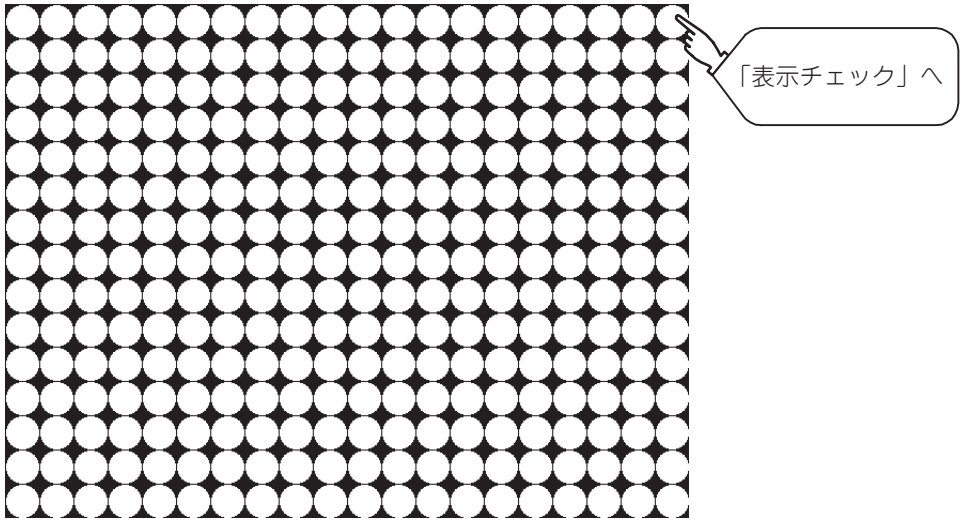


パターン2

(c) パターン 3：形状変形，色チェック
パターン 1 とパターン 2 の図形が重なって表示されます。
目視により，形状や色 (白，黄，水色，緑，紫，赤，青，黒) が規則正しく表示されれば正常です。
GT1150(モノクロ 16 階調) の場合は，それぞれの色をモノクロ 16 階調に減色して表示します。



(d) パターン 4：形状字形チェック
描画される図形は，等間隔に規則正しく表示されます。
目視により，形状や間隔が正しく表示されれば正常です。
画面右上をタッチすると，表示チェックに戻ります。

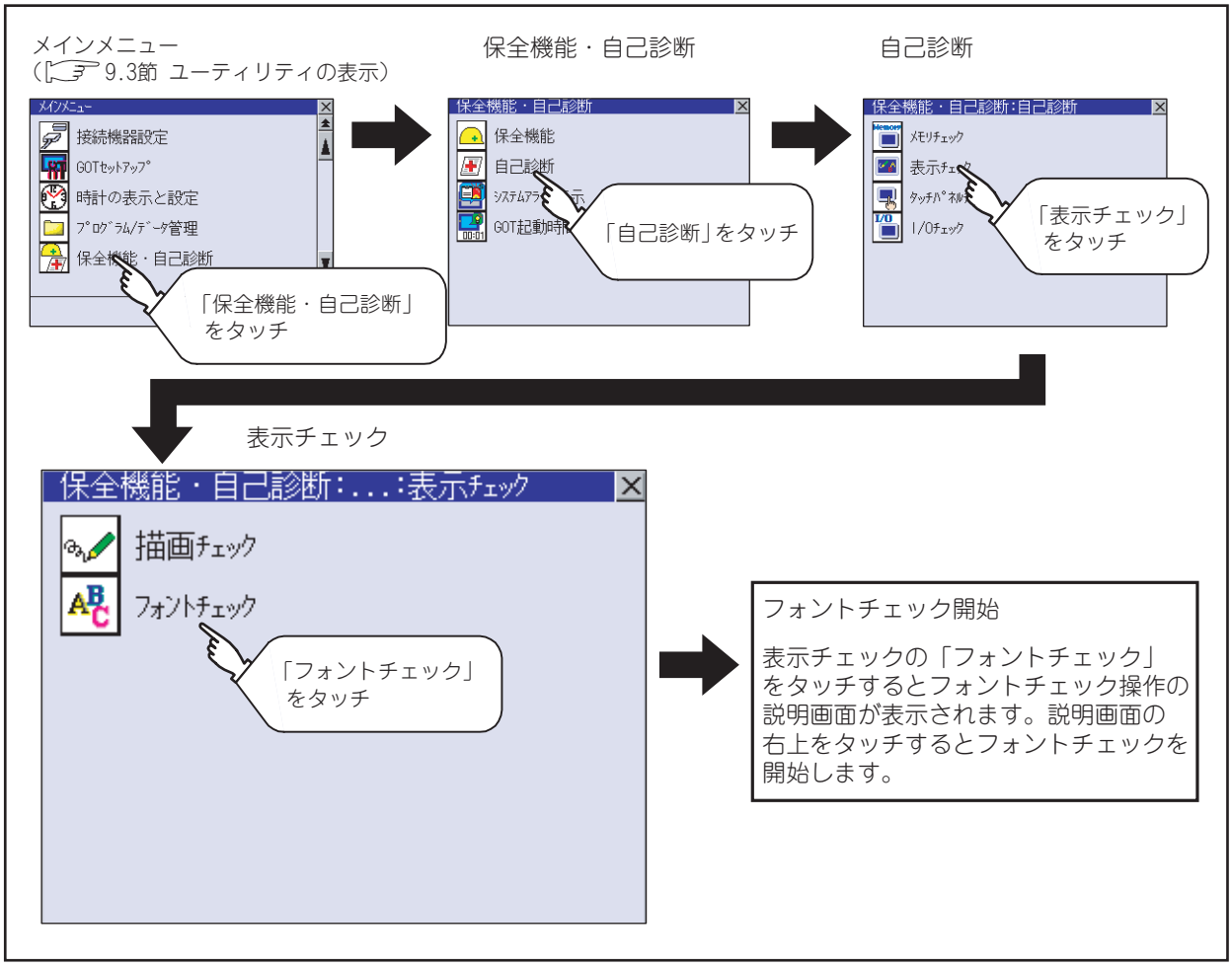


14.8 フォントチェック

14.8.1 フォントチェック機能

フォントチェック機能は，GOT に搭載されているフォントの文字データを画面左上から順次表示することにより，GOT にインストールされているフォントを確認する機能です。

14.8.2 フォントチェックの表示操作



Point **フォントチェックの留意点**

下記の文字が正しく表示されていれば正常と判断できます（UNICODE）

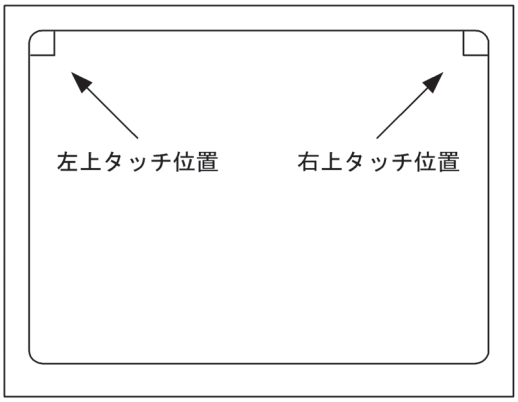
アルファベット文字など ：0 x 0000 ～ 0 x 04F9（基本ラテンからキリールまで）
ハングル文字 ：0 x AC00 ～ 0 x D7A3（ハングル・ハングル補助）
漢字 ：0 x 4E00 ～ 0 x 9FA5（CJK 総合漢字）

正しく表示されない場合はフォントが正常にインストールされていない可能性があります。基本機能 OS を再インストールしてください。

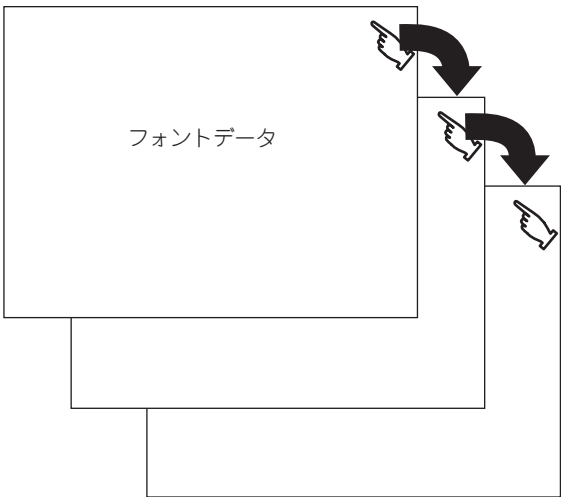
14.8.3 フォントチェック操作

表示チェックメニューで，「フォントチェック」をタッチするとフォントチェック操作の説明画面が表示されます。
画面の右上をタッチするとフォントチェックを開始します。
内蔵フォント（内蔵フラッシュメモリ内）の文字データを画面に順次表示し，目視にてフォントの描画をチェックできます。

1 フォントチェック実行のまえに



フォントチェック中は画面右上をタッチすることにより，順次，次のチェックに進むことができます。
また，画面左上をタッチすると表示チェックへ戻ります。



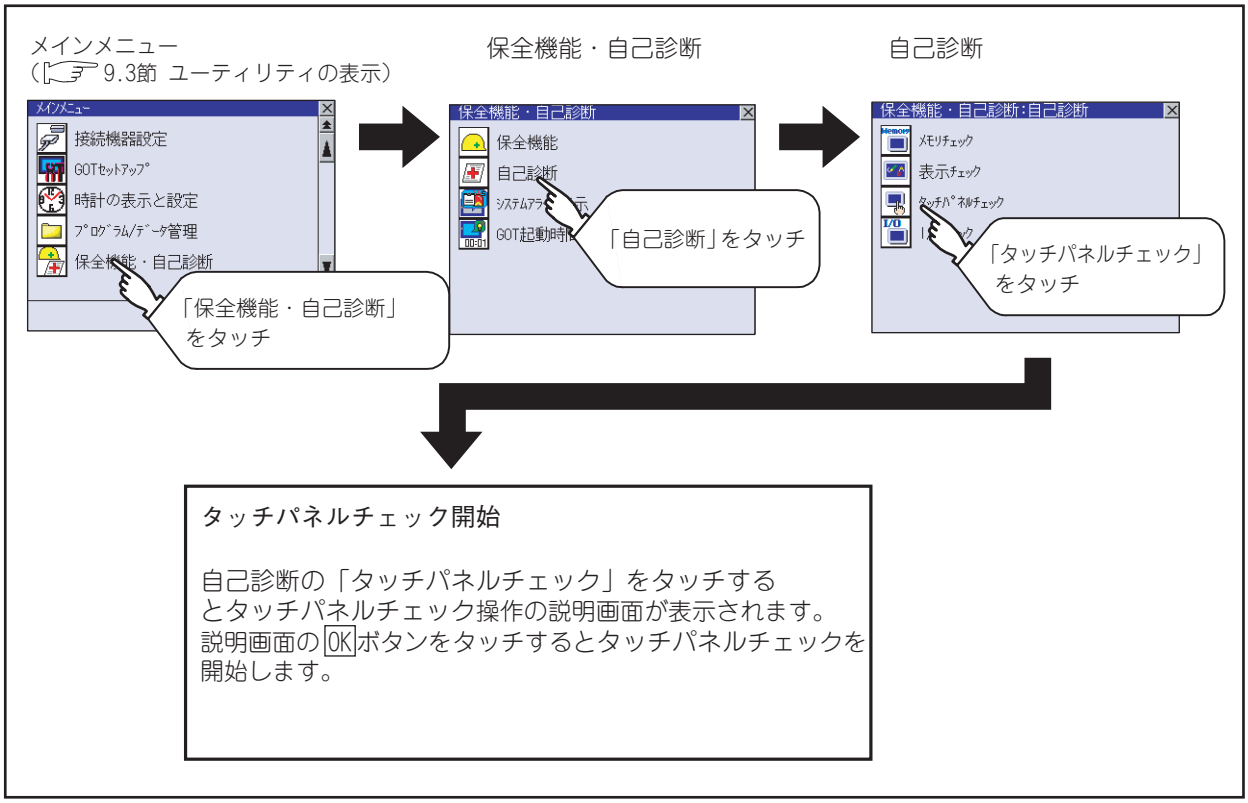
画面右上をタッチするごとに，インストールされているフォントデータを表示します。

14.9 タッチパネルチェック

14.9.1 タッチパネルチェック機能

タッチパネルチェック機能は，タッチキー最小単位（16 ドット× 16 ドット）での不感帯領域がないかのチェックを行う機能です。

14.9.2 タッチパネルチェックの表示操作



Point

タッチパネルチェックの留意点

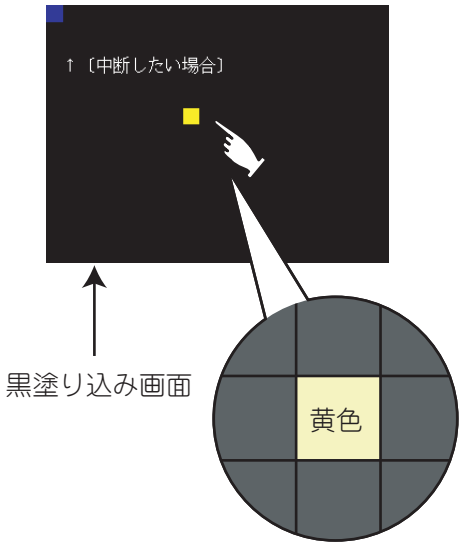
タッチした部分が黄色の塗り込み表示にならなかった場合、以下の２つの原因が考えられます。

1. 表示部分の故障
2. タッチパネルの故障

この場合，最寄りの三菱電機システムサービス（株）にお問い合わせください。

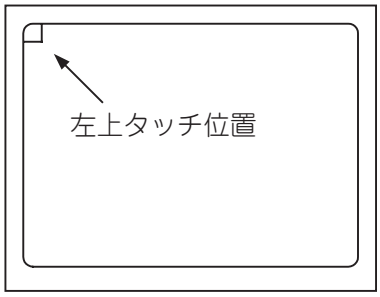
14.9.3　タッチパネルチェックの操作

自己診断で「タッチパネルチェック」をタッチするとタッチパネルチェック操作の説明画面が表示されます。OK ボタンをタッチするとタッチパネルチェックを開始します。



1 画面の任意領域をタッチしてください。
タッチされた部分が黄色 *1 の塗り込み表示になります。
タッチしても黄色の塗り込み表示にならない場合には，その領域の表示部分が故障の可能性があります。その場合，最寄りの三菱電機システムサービス（株）にお問い合せください。

*1: モノクロ 16 階調の場合は，黄色を減色した色になります。



2 画面左上の領域をタッチすると，自己診断に戻ります。

備　考

画面左上領域のチェックについて

画面左上の領域のみ，黄色 *1 の塗り込み表示ができません。
自己診断へ戻ることができることで左上領域が正常動作すると判断してください。

*1: モノクロ 16 階調の場合は，黄色を減色した色になります。

14.10 I/O チェック

14.10.1 I/O チェック機能

I/O チェックは，GOT とシーケンサが通信できるかをチェックする機能です。
このチェックが正常終了すれば通信インタフェース，接続ケーブルのハードウェアは正常とみなされます。
I/O チェックを行う場合は，あらかじめ作画ソフトウェアから通信ドライバを GOT にインストールしておく必要があります。
通信ドライバのインストールに関する詳細は，下記を参照してください。

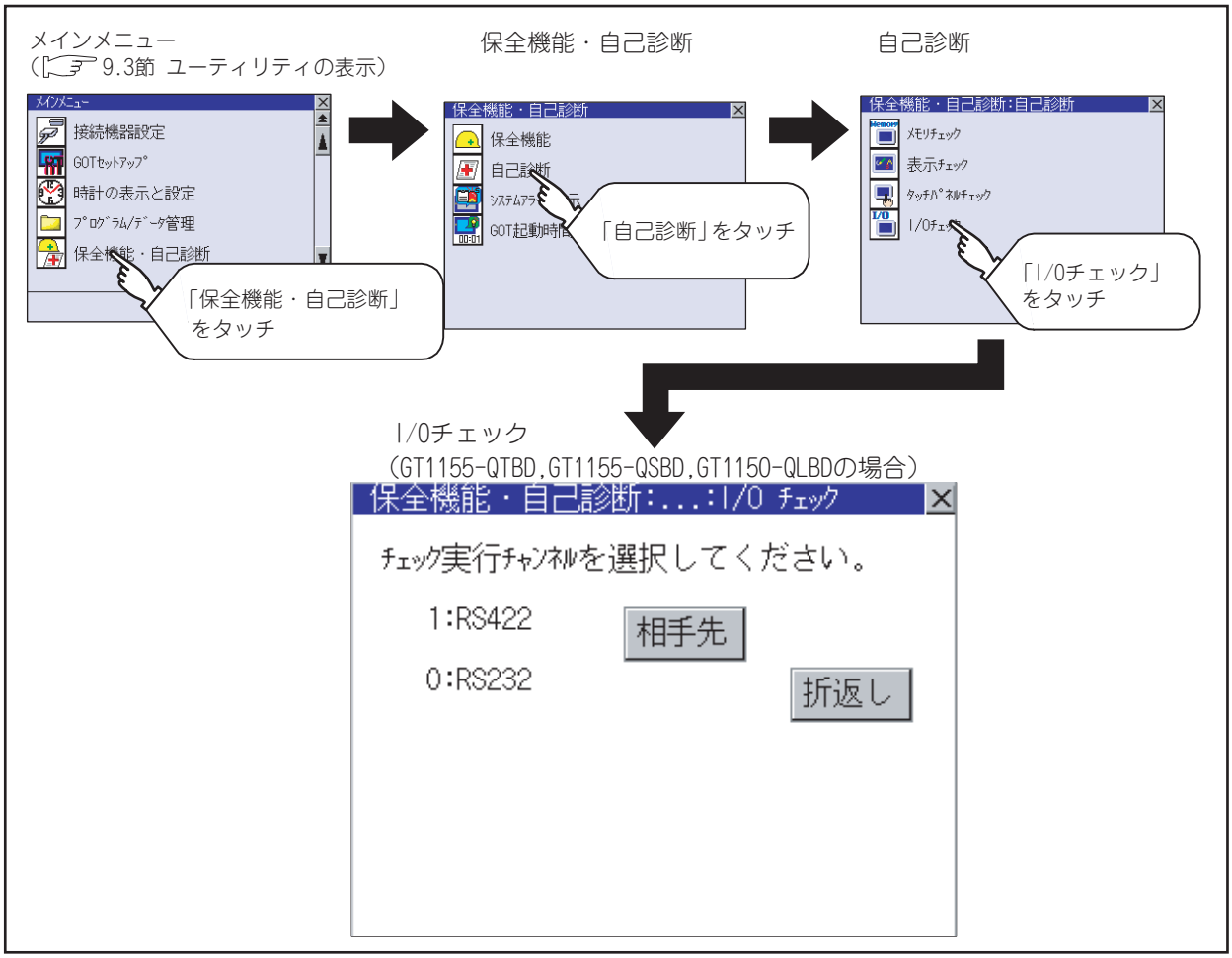
☞ GT Designer2 Version □ 基本操作･データ転送マニュアル
GT Designer3 Version1 画面設計マニュアル（共通編）

Point **I/O チェック機能の対象について**

三菱電機社製シーケンサ以外の接続機器では，I/O チェック機能の対象外となるものがあります。
接続機器との通信を確認する場合は，「GOT1000 シリーズ接続マニュアル」に記載している「モニタするまでの手順」に沿って行ってください。

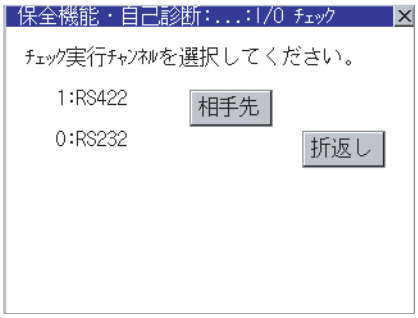
☞ GOT1000 シリーズ　接続マニュアル

14.10.2 I/O チェックの表示操作



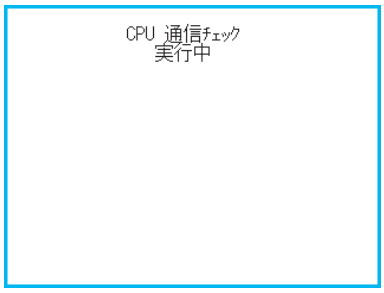
14.10.3 I/O チェックの操作

1 相手先確認

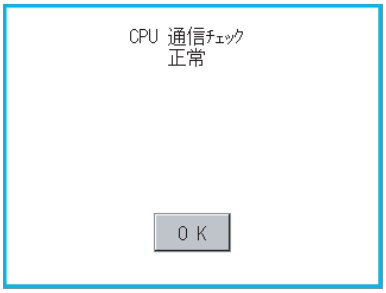


1 相手先確認を実施する前準備として下記の項目を行ってください。
- 通信ドライバのインストール：作画ソフトウェアによりインストールしてください。
- 接続機器設定：作画ソフトウェアにより設定，ダウンロードしてください。
- 接続機器の接続：相手先確認を行う通信インタフェースにシーケンサを接続し，通信できる状態にしてください。
（電源投入やエラーの有無を確認してください。）

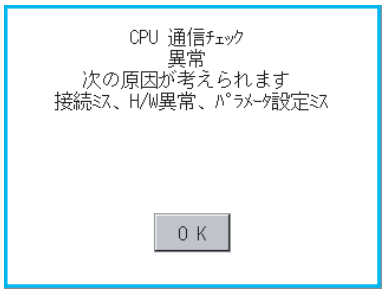
2 相手先 ボタンをタッチすると，相手先確認通信チェックを行います。



3 CPU 通信が正常に開始された後，相手先確認通信が正常に完了するまでは，チェック中であることを通知する左のダイアログが表示されます。

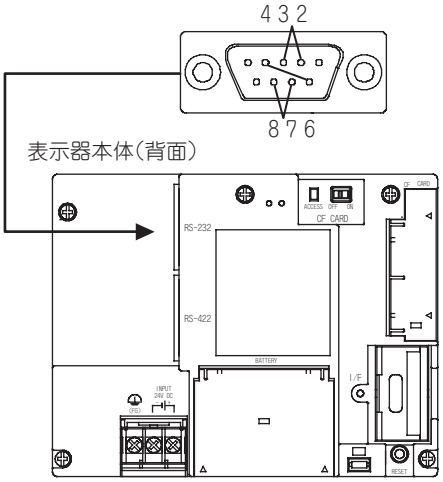


4 相手先確認通信が終了すると，その結果はダイアログにて通知されます。
相手先確認通信が正常終了すれば，正常終了であることを通知する左のダイアログが表示されます。結果内容を確認後，ダイアログ内の OK ボタンをタッチすると I/O チェックへ戻ります。



相手先確認選択後および CPU 通信チェックに左のダイアログが表示された場合，
・CPU との接続ミスがないか。
（☞ GOT1000 シリーズ接続マニュアル）
・ハードウェアに異常がないか。
（☞ GOT1000 シリーズ接続マニュアル）
・パラメータ設定ミスはないか。
（☞ 10.2 節 接続機器詳細設定）
を確認してください。
結果内容を確認後，ダイアログ内の OK ボタンをタッチすると I/O チェックへ戻ります。

2 自己折り返し



1 自己折り返し通信チェック実施する前準備として，下記の項目を行ってください。

- 左図に示す自己折り返しチェック用コネクタ（お客様で準備）を RS-232 インタフェースに装着してください。
  このコネクタでは，2,3 ピン，7,8 ピン，4,6 ピンをそれぞれ短絡してください。
- GOT 本体の接続機器設定にて，RS-232 インタフェースのチャンネル設定を未使用 (ChNo.：0) に設定してください。

2 [折返し] ボタンをタッチすると，RS-232 インタフェースのハードウェアチェックを行います。

RS232自己折り返しﾁｪｯｸ
異常
次の原因が考えられます
自己折り返しｺﾈｸﾀ異常、接続ﾐｽ、
H/W異常
再起動します

3 [折返し] 選択後，自己折り返しコネクタを介して，送信データと受信データのベリファイを行います。
データ送信実行時，データを受信できない場合には，自己折り返しコネクタ異常，自己折り返しコネクタ接続エラーもしくは RS-232 インタフェースのハードウェア異常を通知する左のダイアログが表示され，その後再起動されます。

RS232自己折り返しﾁｪｯｸ
実行中

4 チェック中は，左のダイアログが表示されます。

RS232自己折り返しﾁｪｯｸ
正常
再起動します

5 チェックがすべて正常に終了した場合，左のダイアログが表示され，その後再起動されます。

RS232自己折り返しﾁｪｯｸ
異常
4ﾊﾞｲﾄ目にﾍﾞﾘﾌｧｲｴﾗｰ発生
再起動します

6 エラーが発生すると，その時点で異常終了であることおよびエラーが何バイト目で発生したかを通知するダイアログが表示され，その後再起動されます。
ベリファイエラーが発生した場合，RS-232 インタフェースのハードウェア異常が考えられます。

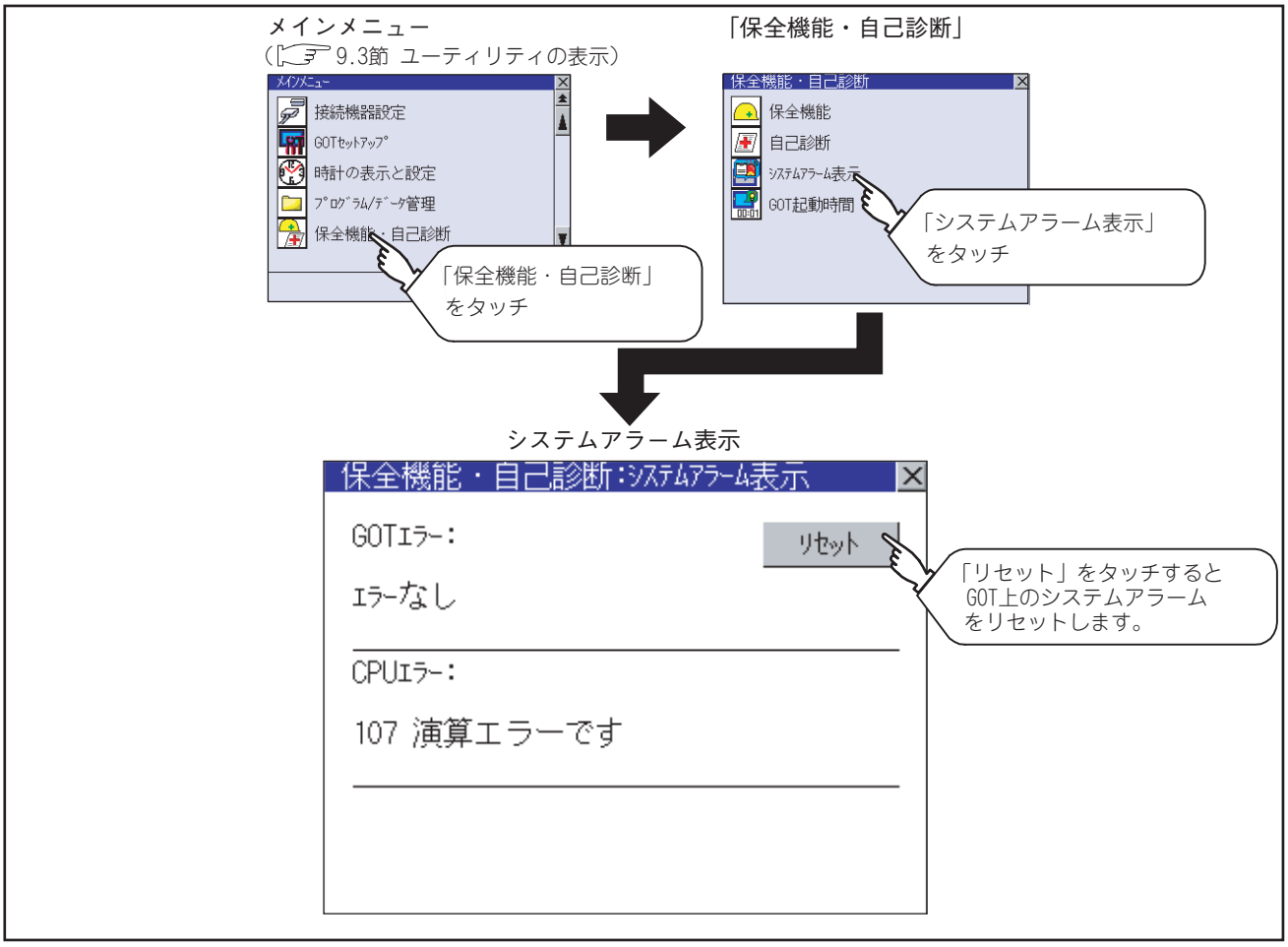
14.11 システムアラーム表示

14.11.1 システムアラーム表示機能

システムアラーム表示は，GOT，接続機器，ネットワークのエラーが発生時に，エラーコードとエラーメッセージを表示する機能です。
また，システムアラーム表示画面では，システムアラームのリセットができます。
システムアラームの詳細については，下記のマニュアルを参照してください。

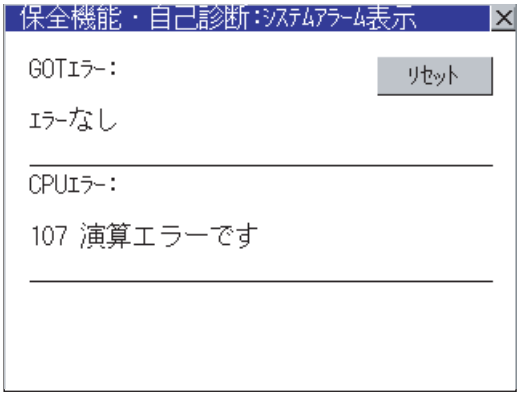
☞ GT Designer2 Version □ 画面設計マニュアル
GT Designer3 Version1 画面設計マニュアル（作画編）

14.11.2 システムアラームの表示操作

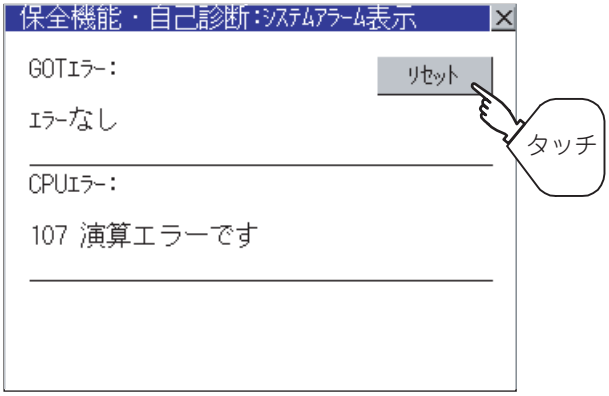


14.11.3 システムアラーム操作

1 システムアラームのリセット



1 発生しているシステムアラームの要因を解消します。
要因は，システムアラーム表示に表示されるエラーコード，エラーメッセージ，チャンネル No. で特定できます。
☞ 18 章　エラーメッセージとシステムアラーム



2 「リセット」ボタンをタッチして，システムアラームをリセットします。

Point

(1) システムアラームのリセットを行う前に

リセットを行う前に，システムアラームの要因を解消してください。
要因が解消されていない場合は，リセット操作を行ってもシステムアラームがリセットされません。

(2) リセット時の処理内容

システム情報の下記のエリアもリセットされます。

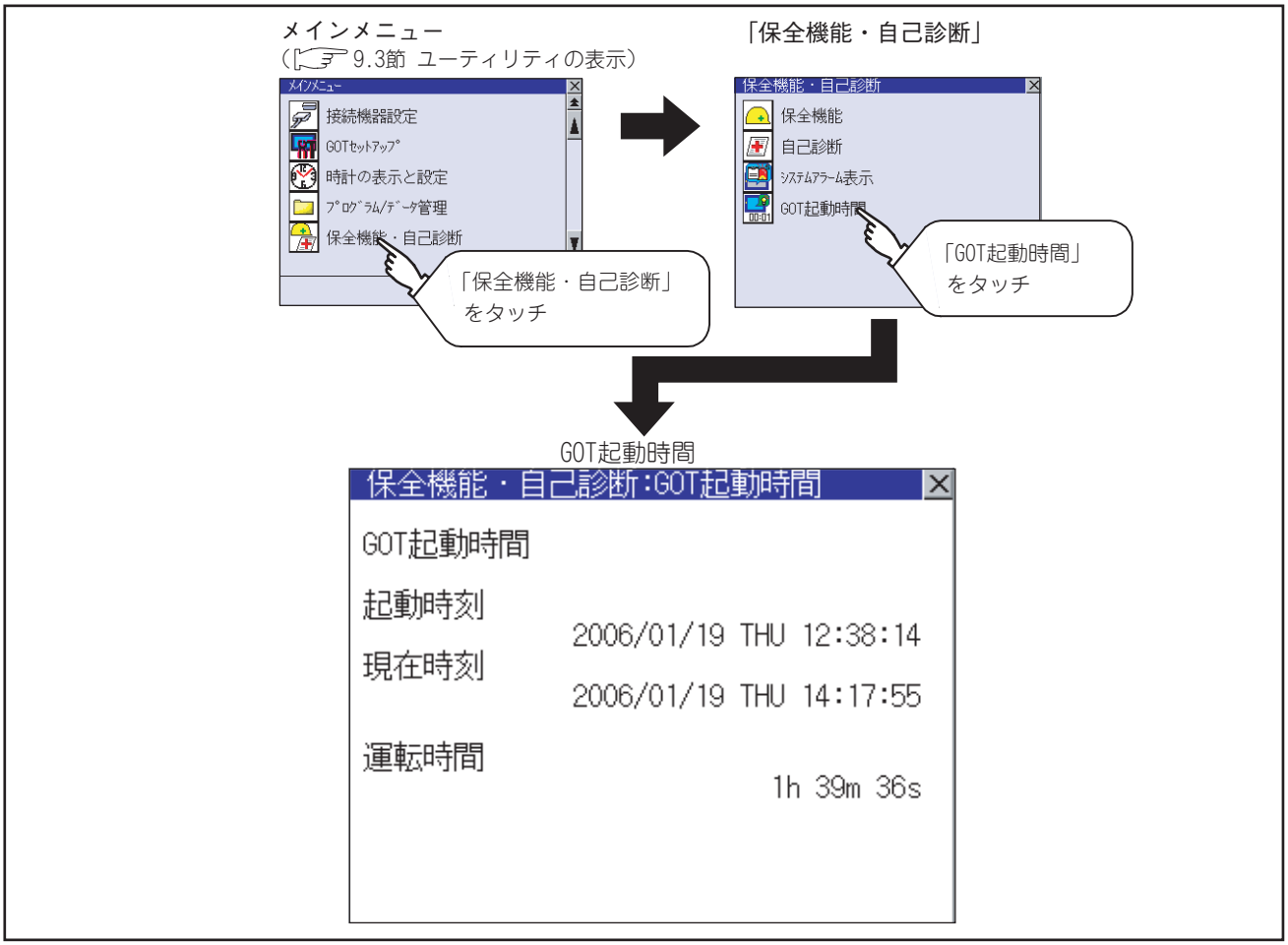
- GOT エラーコード（書込みデバイス）
- GOT エラー検出信号（システム信号 2-1.b13）

14.12 GOT 起動時間

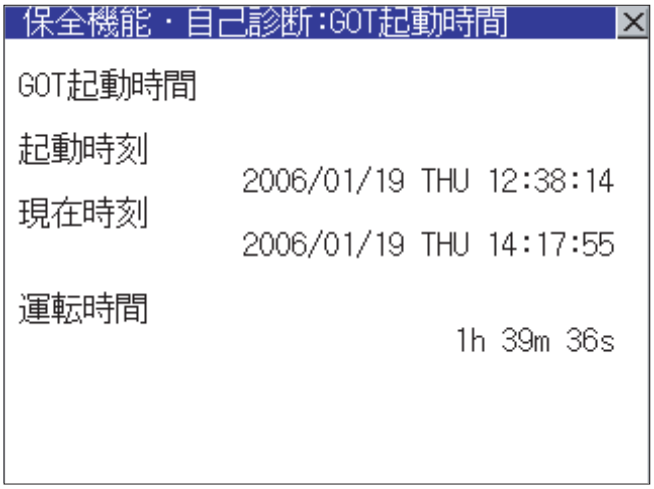
14.12.1 GOT 起動時間機能

GOT 起動時間は，下記の日時を表示する機能です。
- GOT の起動時刻
- GOT の現在時刻
- GOT の運転時間

14.12.2 GOT 起動時間の表示操作



14.12.3 GOT 起動時間の表示



項目	内容
起動時刻	GOT の電源 ON，またはリセット再起動（OS インストール，接続機器設定変更）したときの時刻を表示します。
現在時刻	現在の時刻を表示します。
運転時間	GOT の運転時間を表示します。 表示される運転時間は，GOT の電源 ON，またはリセット再起動（OS インストール，接続機器設定変更）してから現在までの累計時間です。 GOT の電源 OFF，またはリセット再起動すると，運転時間はクリアされます。

Point

正しい時刻を表示するためには

GOT の時計を設定してください。☞ 12.1 節　時計の表示と設定画面

時計を設定していない場合は，「起動時刻」，「現在時刻」に正しい時刻が表示されません。

備　考

「運転時間」に表示される時間

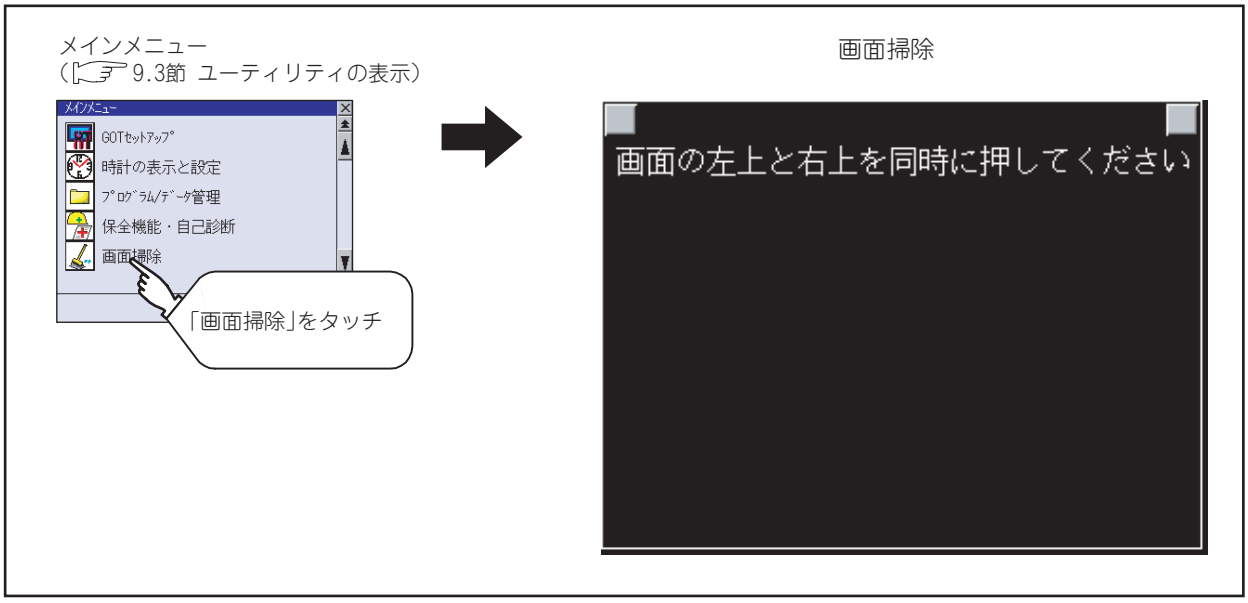
「運転時間」は，「起動時刻」と「現在時刻」に関係なく表示されます。
GOT の時計を変更した場合，「運転時間」は「現在時刻」と「起動時刻」の差と一致しなくなります。（「運転時間」は「現在時刻」と「起動時刻」から算出されたものではありません。）
「運転時間」に表示される時間は，GOT の電源 ON，またはリセット再起動（OS インストール，接続機器設定変更）してから現在までの累計時間の目安としてください。

15章 表示部の掃除（画面掃除）

ユーティリティでは，画面を布などでふき掃除をしたいときに画面をタッチしても影響のないようにすることができます。
掃除要領については「17.3 節 画面掃除要領」を参照してください。

15.1 画面掃除

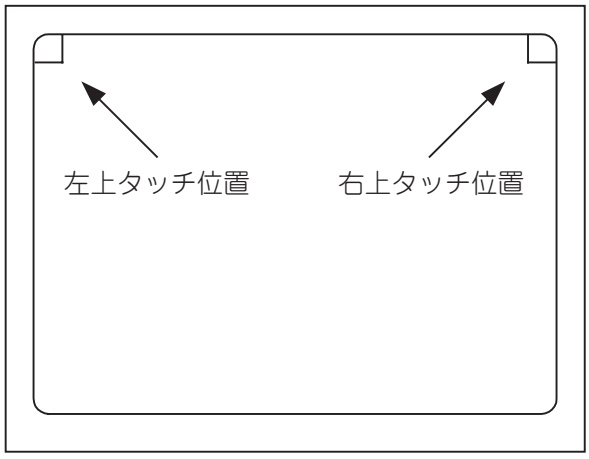
15.1.1 画面掃除の表示操作



画面の左上隅と右上隅以外にタッチしても何も動作しません。

15.1.2 画面掃除の操作

画面の左上隅と右上隅を同時にタッチすることで１つ前の画面表示へ戻ります。



画面掃除の要領に関する詳細は，下記を参照してください。

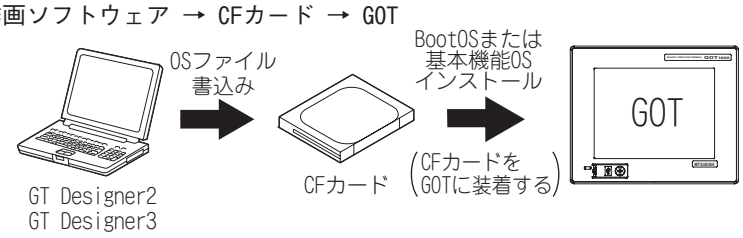
☞ 17.3 節 画面掃除要領

16章 CoreOS，BootOS，基本機能OSのインストール

GOT のユーティリティを実行するためには，GOT の C ドライブ（内蔵フラッシュメモリ）に BootOS，基本機能 OS がインストールされている必要があります。
（GOT は，工場出荷時に BootOS をインストールしています。BootOS のバージョンアップを必要としない場合 ,BootOS のインストール作業は不要です。）

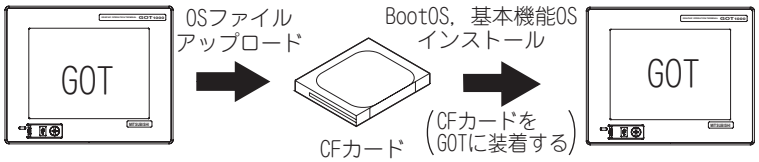
本章では，GOT を使用したインストールについて説明します。

作画ソフトウェア → CFカード → GOT



·GOTが離れた場所にある場合，CFカードで手軽にインストールできます。

GOT → CFカード → GOT



·CFカードを使い，GOTからGOTへインストールできます。

作画ソフトウェアを使用したインストールに関しては，下記を参照してください。

☞ GT Designer2 Version □ 基本操作·データ転送マニュアル
GT Designer3 Version1 画面設計マニュアル（共通編）

Point CoreOS について

本章の 16.1 節～ 16.4 節は，BootOS，基本機能 OS についてのみ記載しています。
CoreOS については下記を参照してください。

☞ 16.5 節 CoreOS について

16.1 インストールが必要な BootOS，基本機能 OS

ユーティリティを実行するためには下記の BootOS，基本機能 OS が必要です。

<table>
<tr><th>OS 名</th><th colspan="2">機能概要</th><th>格納場所</th></tr>
<tr><td>BootOS</td><td colspan="2">GOT の制御やパソコンと GOT 間の通信に必要な OS です。
工場出荷時にインストールされています。
（作画ソフトウェアまたは CF カードからインストールすることもできます。
インストールすると GOT が初期化され，工場出荷時の状態になります。
なお作画ソフトウェアから Boot OS を再インストールする場合，GOT に基本機能 OS がインストールされている必要があります。）</td><td>内蔵フラッシュメモリ
C:￥G1BOOT￥</td></tr>
<tr><td rowspan="6">基本機能 OS</td><td>基本機能 OS（モニタ機能 ）</td><td rowspan="6">ユーザ作成画面やユーティリティ画面の表示，操作に必要な OS です。
工場出荷時は GOT にインストールされていません。
作画ソフトウェア，または CF カードからインストールしてください。
また，インストール時，16 ドット標準フォントは，明朝，ゴシックのいずれかを選択します。</td><td rowspan="6">内蔵フラッシュメモリ
C:￥G1SYS￥</td></tr>
<tr><td>システム画面データ</td></tr>
<tr><td>システム画面管理情報ファイル</td></tr>
<tr><td>TrueType 数字フォント</td></tr>
<tr><td>12 ドット標準フォント</td></tr>
<tr><td>16 ドット標準フォント</td></tr>
</table>

16.2 BootOS，基本機能OSのインストール前準備

GOTを使用したインストールでは，あらかじめBootOS，基本機能OSを格納済みのCFカードが必要です。
BootOS，基本機能OSをCFカードへ書き込む方法としては，以下の2通りがあります。

(1) 作画ソフトウェアから「メモリカードへの転送」による方法

☞ GT Designer2 Version□ 基本操作･データ転送マニュアル
GT Designer3 Version1 画面設計マニュアル（共通編）

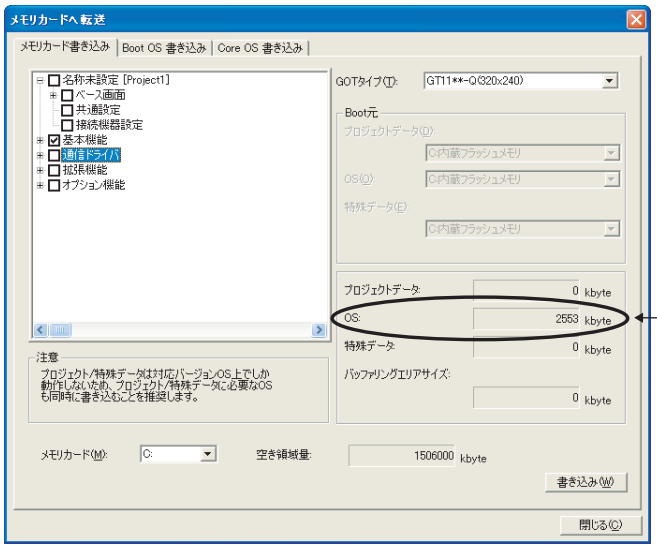
(2) 他のGOT（BootOS，基本機能OSインストール済み）からアップロードする方法

☞ 13章 ファイルの表示とコピー （プログラム/データ管理）

Point

BootOS，基本機能OSなどをCFカードへ書き込む場合のご注意

BootOS，基本機能OSなどをCFカードへ書き込む場合は，必ず他のGOTのユーティリティ，または作画ソフトウェアにより実行してください。
GOTのユーティリティからのアップロード，または作画ソフトウェア以外からのコピーを実行したCFカードでは，GOTに正しくインストールされません。
また，CFカードの空き容量にご注意ください。
BootOS，基本機能OSの空き容量については，作画ソフトウェアの「メモリカードへ転送」で確認できます。



16.3 CFカードを使用したBootOS，基本機能OSのインストール

CFカードを使用したBootOS，基本機能OSのインストールには，以下の2通りがあります。

(1) GOT電源投入時にインストールする方法

GOT 電源投入時に，メモリカードに格納した OS やプロジェクトデータをすべて，GOT へ転送します。

このインストール方法は，以下に示す場合に有効です。

- GOT のユーティリティが表示できない場合
- 基本機能 OS がインストールされていない場合
- GOT データ一括取得機能を使用し、コピー元と同一システムの GOT を作成する場合

(2) プログラム/データ管理機能（ユーティリティ）を使用してインストールする方法

ユーティリティの操作により，メモリカードに格納した OS やプロジェクトデータを選択して，GOT へ転送します。

Point **BootOS，基本機能 OS インストール時のご注意**

(1) BootOSと基本機能OSの両方をインストールする場合

BootOSのインストール完了後，基本機能OSをインストールしてください。
BootOSをインストールすると，GOT内の内蔵フラッシュメモリが初期化され，工場出荷時の状態になります。（各OSやプロジェクトデータは削除されます。）
BootOS は工場出荷時にインストール済みです。BootOS のバージョンアップを行わない場合，BootOS のインストールは不要です。

(2) CFカードを使用してプロジェクトデータをコピーする場合

BootOS，基本機能OSや各OSをインストールした後にプロジェクトデータをダウンロードしてください。
このとき，GOT内の基本OSとプロジェクトデータを作成した基本OSのバージョンを一致させてください。

(3) CFカード内にOSとプロジェクトデータが存在する場合（作画ソフトウェア使用時）

2点押しインストールの場合，OSインストール完了後にプロジェクトデータがダウンロードされます。
ユーティリティでインストールする場合は，OSのインストールとプロジェクトデータのダウンロードをそれぞれの操作画面で行ってください。

(4) インストールの中断はできません。

BootOS，基本機能 OS をインストール中は下記のことをしないでください。
インストールに失敗し，GOT が動作しなくなる場合があります。

- GOT の電源を OFF にする
- GOT のリセットボタンを押す
- CF カードアクセススイッチを OFF にする
- CF カードを取外す

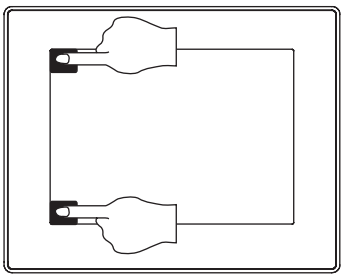
インストールに失敗して GOT が動作しなくなった場合は，下記の処置を行ってください。

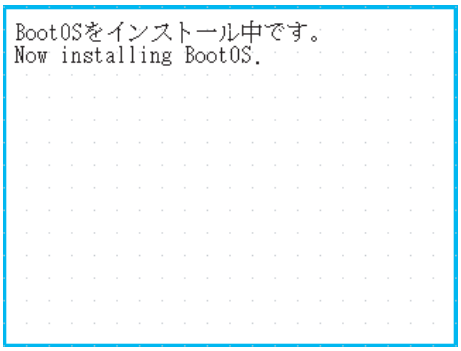
- BootOS のインストールに失敗した場合：
  CoreOS をインストールしてください。
  ☞ 16.5.1 項 CoreOS のインストール方法
- 基本 OS のインストールに失敗した場合：
  BootOS をインストールしてください。
  ☞ 16.3.1 項 GOT 電源投入時にインストールする方法

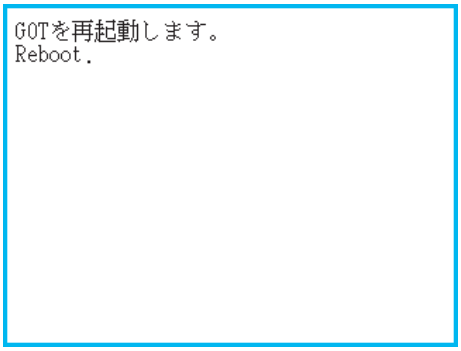
16.3.1 GOT電源投入時にインストールする方法

GOT 内の基本機能 OS のインストール状態により，表示されるメッセージが異なります。
操作を要求する画面が表示された場合は，画面の指示に従って操作してください。

1 操作手順







1 GOT の電源を OFF，CF カードアクセススイッチを OFF にし，BootOS，基本機能 OS，プロジェクトデータ格納済みの CF カードを GOT の CF カードインタフェースへ装着してください。

2 GOT の CF カードアクセススイッチを ON にしてください。

3 GOT の画面左の上と下をタッチしたまま，GOT の電源を ON してください。

4 BootOS，基本機能 OS が内蔵フラッシュメモリにインストールされます。

5 インストール実行中は CF カードアクセス LED が点灯します。
CF カードアクセス LED 点灯中は CF カードを抜いたり，GOT の電源 OFF やリセットをしないでください。

6 インストール完了後，自動的に再起動されます。
（基本機能 OS インストール済みの時は，[OK] ボタンをタッチすると再起動します。）

7 正常に再起動ができたことを確認した後，GOT の CF カードアクセススイッチを OFF にしてください。

8 CF カードアクセス LED の消灯を確認し，CF カードを GOT の CF カードインタフェースから取外してください.

16.3.2 プログラム / データ管理機能（ユーティリティ）を使用してインストールする方法

プログラム / データ管理機能に関する詳細は，下記を参照してください。

☞ 13 章 ファイルの表示とコピー （プログラム / データ管理）

Point

プログラム / データ管理機能実行時のご注意

プログラム / データ管理機能を実行する場合，あらかじめ GOT に基本機能 OS がインストールされている必要があるため，GOT 購入後，初回の基本機能 OS のインストールには，本機能は使用できません。
基本機能 OS は，以下の 2 通りの方法により，インストールしてください。

(1) 作画ソフトウェアによる方法

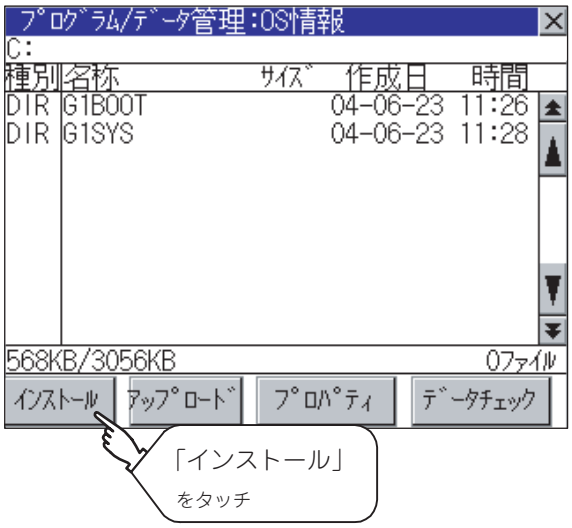
☞ GT Designer2 Version □ 基本操作・データ転送マニュアル
GT Designer3 Version1 画面設計マニュアル（共通編）

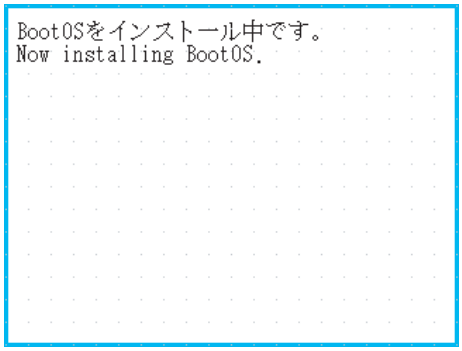
(2) GOT 電源投入時にインストールする方法

☞ 16.3.1 項 GOT 電源投入時にインストールする方法

1 操作手順

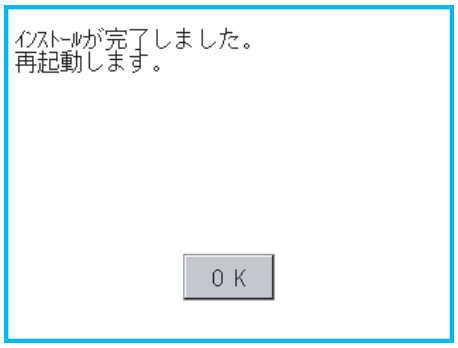
1. GOT の CF カードアクセススイッチを OFF にし，CF カードアクセス LED の消灯後，BootOS，基本機能 OS，プロジェクトデータ格納済みの CF カードを GOT の CF カードインタフェースへ装着してください。
2. GOT の CF カードアクセススイッチを ON にしてください。
3. GOT でプログラム / データ管理機能用画面（ユーティリティ）を表示し，CF カードから GOT に BootOS，基本機能 OS をインストールしてください。





4 インストール実行中は CF カードアクセス LED が点灯します。

5 CF カードアクセス LED 点灯中は CF カードを抜いたり，GOT の電源 OFF やリセットをしないでください。



6 インストールが完了すると，下記ダイアログが表示されます。

7 OK ボタンをタッチすると，GOT を再起動します。

8 正常に再起動ができたことを確認した後，GOT の CF カードアクセススイッチを OFF にしてください。

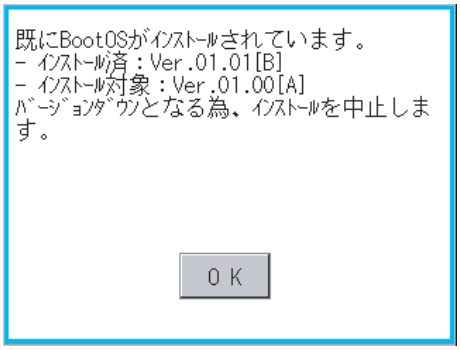
9 CF カードアクセス LED の消灯を確認し，CF カードを GOT の CF カードインタフェースから取外してください。

16.4 BootOS，基本機能OSのバージョンが異なる場合

(1) BootOS インストール時

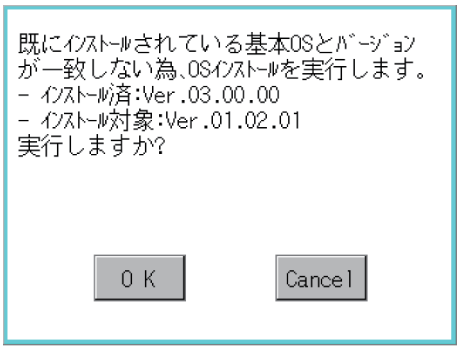
GOT は，BootOS をインストール時に，インストール済み BootOS とインストールする BootOS のバージョンを比較します。
インストールする BootOS のメジャーバージョンが古い場合，書き換えられるのを防ぐために下記の動作を実行します。
(作画ソフトウェアからインストール時はパソコンの画面にメッセージが表示されます。
表示に従い，操作を行ってください。)

(a) CF カードに BootOS のみを格納している場合
インストール不可メッセージが表示されます。



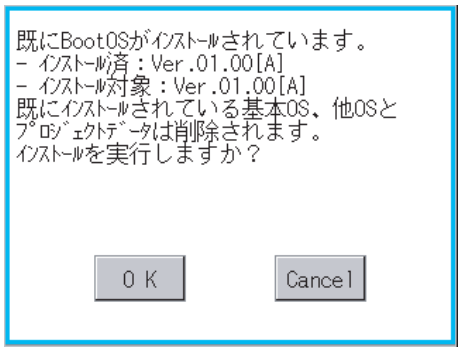
OK ボタンをタッチし，インストールを中止してください。
インストールの中止後，再起動を実行します。

(b) CF カードに BootOS ，基本 OS や他の OS を格納している場合
BootOS の インストールをスキップし，基本 OS インストール以降の処理を行います。
既に、GOT に基本 OS がインストールされているときは下記のメッセージが表示されます。



OK ボタンをタッチすると，インストールを実行します。
Cancel ボタンをタッチすると，インストールを中止します。
インストールの実行，または中止後，再起動を実行します。

CF カード内の格納データ（前述 (a),(b) の条件）に関係なく、バージョンが同一または，新しい場合でも，バージョン情報と，継続する・しないを選択するダイアログが表示されます。



＜ CF カードから BootOS をインストールした場合の GOT 画面＞

OK ボタンをタッチすると，インストールを実行します。

Cancel ボタンをタッチすると，インストールを中止します。

(2) 基本機能OSインストール時

基本機能OSのインストール時は，各OSファイルのバージョンを合わせるようにしてください。
各OSファイルのバージョンが合っていない場合，基本機能OSはインストールできません。

＜インストール処理が中断される場合＞

基本機能 OS	:	1.	○. ○
通信ドライバ	:	2.	○. ○
オプション機能 OS	:	2.	○. ○

番号を合わせてください

＜インストール処理が正常実行される場合＞

基本機能 OS	:	2.	○. ○
通信ドライバ	:	2.	○. ○
オプション機能 OS	:	2.	○. ○

Point

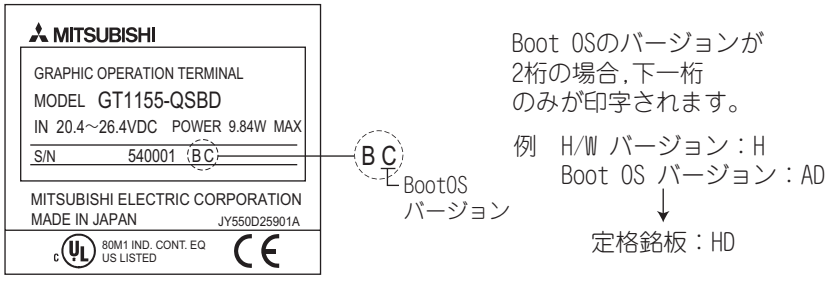
Boot OS，基本機能 OS のバージョンの確認方法

1. GOT にインストールされている Boot OS，基本機能 OS のバージョンは，ユーティリティ「OS 情報」で確認してください。
詳細は下記を参照してください。

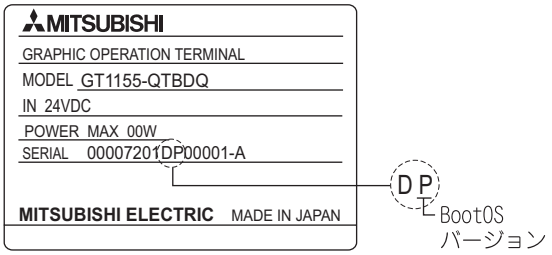
☞ 13.2 節 OS 情報

2. 製品出荷時に GOT にインストールされている Boot OS のバージョンは，GOT 背面の定格銘板で確認してください。

(a) GT1155-QTBD，GT1155-QSBD，GT1150-QLBDの場合



(b) GT1155-QTBDQ，GT1155-QTBDA，GT1155-QSBDQ，
GT1155-QSBDA，GT1150-QLBDQ，GT1150-QLBDAの場合



16.5 CoreOS について

CoreOS は，BootOS をインストールしても GOT が工場出荷時の状態にならない場合のみ，インストールしてください。
通常は，インストールする必要ありません。

Point

CoreOS をインストール時の注意事項

CoreOS のインストールを実行すると，途中で中断できません。
CoreOS をインストール中は下記のことをしないでください。
GOT が動作しなくなる場合があります。

- GOT の電源を OFF にする
- GOT のリセットボタンを押す
- CF カードアクセススイッチを ON にする
- CF カードを取外す

動作しなくなった場合，最寄りの三菱電機システムサービス株式会社，代理店または支社にご相談ください。

CoreOS をインストールしても GOT が復旧しない場合は，ハードウェア異常が考えられます。
最寄りの三菱電機システムサービス株式会社，代理店または支社にご相談ください。

16.5.1 CoreOS のインストール方法

1 CoreOS をインストールする前に

(1) インストール方法について

CoreOS は，メモリカードを使用したインストールのみ可能です。
USB ／ RS-232 でのインストールはできません。

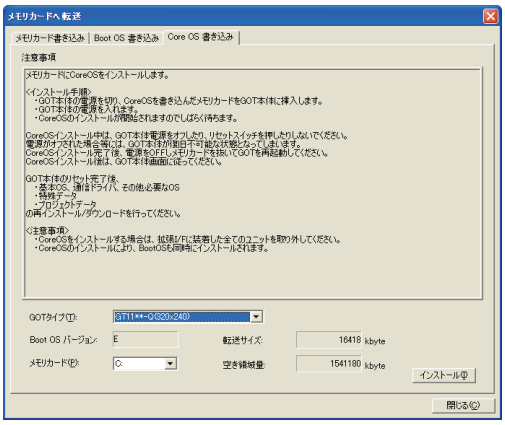
(2) 使用する CF カードについて

32MB 以上の CF カードが必要です。

(3) BootOS について

CoreOS をインストールすると，BootOS も自動的に最新にインストールされます。
（ユーザでの作業は発生しません。）

2 CoreOS のインストール方法



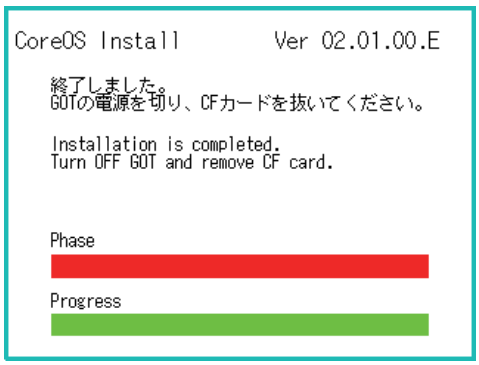
1 作画ソフトウェアから CoreOS を CF カードに書き込みます。
作画ソフトウェアの操作方法の詳細については，下記のマニュアルを参照してください。

☞ GT Designer2 Version □ 基本操作・データ転送マニュアル
GT Designer3 Version1 画面設計マニュアル（共通編）

2 GOT の本体の電源が OFF になっていることを確認して，CF カードを GOT に装着します。
装着後，CF カードアクセススイッチを ON にします。

3 GOT の電源を ON します。
電源投入後しばらくすると，自動的に CoreOS のインストール実行画面が表示されます。

4 CF カードアクセススイッチを OFF にすると CoreOS のインストールが開始されます。



5 インストールが完了したら，左記のメッセージが表示されます。
メッセージが表示されたことを確認して，GOT の電源を OFF してください。
（インストールが完了すると電源 LED が点滅します。）

6 電源 OFF 後，CF カードを取り外します。

7 再度 GOT の電源を ON すると，左記の画面が表示されます。
（GOT が工場出荷時の状態になります。）
必要に応じて，各 OS（基本機能 OS，通信ドライバなど）のインストールや，プロジェクトデータのダウンロードを行ってください。
各 OS のインストール，プロジェクトデータのダウンロード方法については，下記のマニュアルを参照してください。

☞ GT Designer2 Version □ 基本操作・データ転送マニュアル
GT Designer3 Version1 画面設計マニュアル（共通編）

16.5.2 CoreOS がインストールできない場合

CoreOS がインストールできない場合，下記の項目を確認してください。
下記の項目を確認しても CoreOS がインストールできない場合は，ハードウェア異常が考えられます。
最寄りの三菱電機システムサービス株式会社，代理店または支社にご相談ください。

内容	処置
CF カードを GOT に装着しても，CoreOS のインストールが実行されない	• GOT の CF カードアクセススイッチが ON になっているか確認してください。スイッチが OFF になっている場合は，ON にしてください。 • (2) 作画ソフトウェアからのメモリカード書込みが正常に完了しなかった可能性があります。再度，作画ソフトウェアからメモリカード書込みを実行してください。
GOT に下記のメッセージが表示される。 “GOT が故障しています。 修理を依頼してください。”	GOT 本体が故障しています。 最寄りの三菱電機システムサービス株式会社，代理店または支社にご相談ください。
GOT に下記のメッセージが表示される。 “CF カードが異常です。修復してください。”	CF カードに異常があります。 • CF カードをフォーマットしてから，再度実行してください。 • CF カードを交換してください。
GOT に下記のメッセージが表示される。 “OS が不正です。”	作画ソフトウェアの「CoreOS 書き込み」時に選択した GOT タイプが間違っているか、CF カード内のデータが壊れています。 GOT タイプを確認して，再度「CoreOS 書き込み」を実施してください。
GOT に下記のメッセージが表示される。 “この GOT 本体に対応できないバージョンの OS です。 インストールを中止します。 OS のバージョンを確認してください。”	最新の作画ソフトウェアから，CoreOS をインストールしてください。

17章 保守・点検

立上げ保守時の注意

⚠警告

- 通電中に端子に触れないでください。
  感電の原因になります。
- バッテリは正しく接続してください。
  充電，分解，加熱，火中投入，ショート，ハンダ付けなどを行わないでください。
  バッテリの取扱いを誤ると，発熱，破裂，発火などにより，ケガ，火災の恐れがあります。
- 清掃や端子ネジの増し締めは，必ず電源を外部にて全相遮断してから行ってください。
  全相遮断しないと，ユニットの故障や誤動作の原因になります。
  ネジの締付けがゆるいと短絡，誤動作の原因になります。
  ネジを締め過ぎると，ネジやユニットの破損による短絡，誤動作の原因になります。

立上げ保守時の注意

⚠注意

- ユニットの分解，改造はしないでください。
  故障，誤動作，ケガ，火災の原因になります。
- ユニットの導電部分や電子部品には直接触らないでください。
  ユニットの誤動作，故障の原因になります。
- ユニットに接続するケーブルは，必ずダクトに納めるか，またはクランプによる固定処理を行ってください。
  ケーブルをダクトに納めなかったり，クランプによる固定処理をしていないと，ケーブルのブラツキや移動，不注意の引っ張りなどによるユニットやケーブルの破損，ケーブルの接触不良による誤動作の原因となります。
- ユニットに接続されたケーブルを取りはずすときは，ケーブル部分を手に持って引っ張らないでください。
  ユニットの接続された状態でケーブルを引っ張ると，ユニットやケーブルの破損，ケーブルの接続不良による誤動作の原因となります。
- ユニットに触れる前には，必ず接地された金属などに触れて，人体などに帯電している静電気を放電してください。
  静電気を放電しないと，ユニットの故障や誤動作の原因になります。

廃却時の注意

⚠注意

- 製品を廃棄するときは，産業廃棄物として扱ってください。

GOT では，短期的な寿命の要因となる消耗品は内蔵していません。
しかし，バッテリ，液晶画面とバックライトには寿命があります。
バッテリは定期交換することをおすすめします。
(液晶画面，バックライトの交換は三菱電機システムサービス株式会社にご相談ください。)
バッテリの寿命は，下記を参照してください。

☞ 3.4 節 電源部仕様

液晶画面，バックライトの寿命は下記を参照してください。

☞ 3.2 節 性能仕様

17.1 日常点検

日常実施していただきたい点検項目

項目	点検項目		点検方法	判定基準	処置
1	GOT の取付け状態		取付けネジのゆるみを確認	確実に取付けられていること	規定トルクでのネジの増締め
2	接続状態	端子ネジのゆるみ	ドライバによる増締め	ゆるみがないこと	端子ネジの増締め
		圧着端子の近接	目視	適正な間隔のこと	矯正
		コネクタのゆるみ	目視	ゆるみがないこと	コネクタ固定ネジの増締め
3	使用状態	保護シートの汚れ	目視	汚れがひどくないこと	交換
		ごみ，異物の付着	目視	付着がないこと	除去，清掃

保護シートの形名や交換手順は，下記を参照してください。

☞ 8.5 節 保護シートについて

17.2 定期点検

6ヶ月～1年に1～2回程度実施していただきたい点検項目

設備の移転や改造をしたときや布線の変更を行ったときなどにも点検を実施してください。

項目	点検項目		点検方法	判定基準		処　置
1	周囲環境	周囲温度	温度・湿度計で測定腐食性ガスの測定	表示部	0 ～ 50 ℃	盤内使用の場合，盤内温度が周囲温度となります。
				その他の部分	0 ～ 55 ℃	
		周囲湿度		10 ～ 90%RH		
		雰囲気		腐食性ガスのないこと		
2	電源電圧チェック		DC24V 端子間で電圧測定	DC20.4V ～ 26.4V		供給電源の変更
3	取付け状態	ゆるみ，ガタ	ユニットを動かしてみる	強固に取付けられていること		ネジの増締め
		ごみ，異物の付着	目視	付着がないこと		除去，清掃
4	接続状態	端子ネジのゆるみ	ドライバによる増締め	ゆるみがないこと		端子ネジの増締め
		圧着端子の近接	目視	適正な間隔のこと		矯正
		コネクタのゆるみ	目視	ゆるみがないこと		コネクタ固定ネジの増締め
5	バッテリ		アラーム情報画面（13.4 節 アラーム情報）システムアラーム（エラーコード：500）の通知を確認	（予防保全）		バッテリ電圧低下の表示がなくても，規定寿命超過では交換してください。

17.3 画面掃除要領

GOT は，常時清潔な状態で使用してください。
掃除時には，中性洗剤をしみ込ませた柔らかい布でよごれた部分を軽くふき取ってください。
画面掃除の表示操作は，下記を参照してください。

☞15 章 表示部の掃除（画面掃除）

画面掃除

Point

画面掃除時の注意

シンナー，有機溶剤，強酸系などの薬品は保護シートの変形，および表面の溶解，塗装のはがれの原因になりますので使用しないでください。
また，スプレー式の溶剤は，GOT および周辺機器の電気的故障の原因になりますので使用しないでください。

17.4 バッテリの電圧低下検出と交換

1 バッテリ電圧低下検地と交換について

バッテリは，時計データ，アラーム履歴，レシピデータの保持を行っています。
バッテリは，定期的な交換を行うことをおすすめします。
バッテリの交換手順については，下記を参照してください。

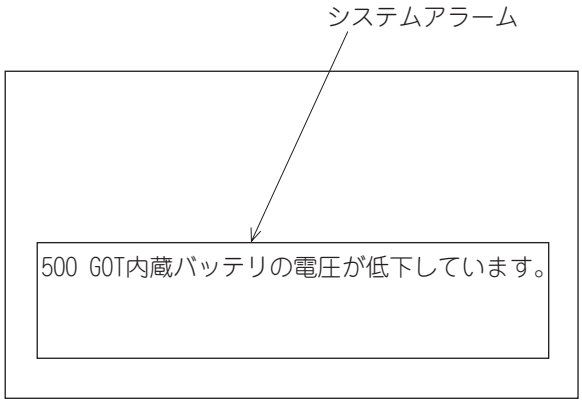
☞ 8.4 節 バッテリについて

バッテリの電圧低下は，ユーティリティ画面とシステムアラームにより確認することができます。
ユーティリティ画面によるバッテリの状態表示に関する詳細は，下記を参照してください。

☞ 12 章 時計の設定とバッテリの状態表示（時計の表示と設定画面）

システムアラームを使用することにより，バッテリの電圧低下時，GOT の画面上にバッテリ電圧が低下したことを通知するメッセージを表示させることができます。
システムアラームにメッセージを表示させる場合は，「バッテリ低下アラーム出力」を ON に設定してください。

☞ 12.1.1 項　時計の表示と設定機能



システムアラームの表示に関する詳細は，下記を参照してください。

☞ GT Designer 2 Version □ 画面設計マニュアル
GT Designer 3 Version1 画面設計マニュアル（作画編）

Point

バッテリの交換時期について

バッテリの電圧降下を検出した場合は，速やかにバッテリを交換してください。
バッテリの電圧低下を検出後，約 1 カ月間はデータを保持していますが，これを超えるとデータが保持できなくなります。
電圧低下を検出してからバッテリ交換まで 1ヶ月以上経過した場合は，時計データ，D ドライブ (内蔵 SRAM) のデータが不定な値になることがあります。
時計の再設定と D ドライブ (内蔵 SRAM) のフォーマットを行ってください。

Hint!

外部機器 (ランプやブザーなど) への警報出力の例

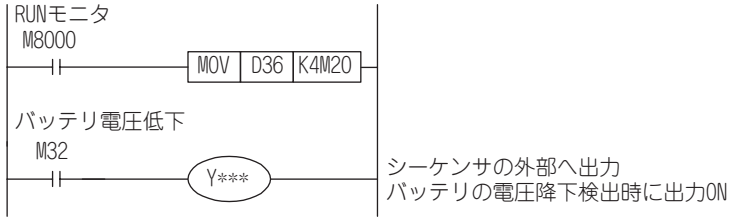
システム情報を使用し，FX シリーズシーケンサから外部機器へバッテリの電圧低下信号を出力する例を記載します。

条件： システム情報の割付けは，書込みデバイスを D20 とし，全情報 (作画ソフトウェアの設定画面で 全選択 ボタンをクリック) を使用した場合とします。

D36 b12: バッテリ電圧低下 (システム信号 2-2)

バッテリ電圧が低下すると，ON します。

シーケンスプログラムでは下記のように使用します。



*は外部機器を接続する出力番号

システム情報に関する詳細は，下記を参照してください。

☞ GT Designer2 Version □ 画面設計マニュアル

GT Designer3 Version1 画面設計マニュアル（共通編）

2 EU 加盟国内でのバッテリおよびバッテリ組込み機器の取扱いについて

EU 加盟国で使用済みバッテリを廃棄する場合，また EU 加盟国内にバッテリおよびバッテリ組み込み機器を輸出する場合の注意事項について記載します。

(1) 廃棄時の注意事項

EU 加盟国では使用済みのバッテリに対して分別収集システムがありますので，各地域の収集／リサイクルセンタにて，バッテリを正しく処理していただけるようお願いいたします。
三菱グラフィックオペレーションターミナル（GOT）では，バッテリまたはバッテリ組込み機器の梱包に下記のシンボルマークを表示しています。

シンボルマーク

Point

このシンボルマークは EU 加盟国においてのみ有効です。
このシンボルマークは，欧州新電池指令 (2006/66/EC) の第 20 条「最終ユーザーへの情報」および付属書 II にて指定されています。

上記シンボルマークは，バッテリを廃棄する際に，一般ごみとは分別して処理する必要が有ることを意味しています。

(2) 輸出時の注意事項

欧州新電池指令 (2006/66/EC) の施行に伴い，バッテリおよびバッテリ組込み機器を EU 加盟国に販売，輸出する場合は，下記の対応が義務付けられます。

- バッテリ，機器または包装へのシンボルマークの表示
- マニュアルへのシンボルマークに関する説明の記載

(a) シンボルマークの表示
シンボルマークが表示されていないバッテリ本体およびバッテリ組込み機器を 2008 年 9 月 26 日以降に EU 加盟国内に販売，輸出する場合は，(1) のシンボルマークを GOT または包装に表示してください。

(b) マニュアルへの説明文の追記
2008 年 9 月 26 日以降に EU 加盟国へ弊社 GOT 組込み機器を輸出する際，弊社 GOT のマニュアルを添付される場合は，電池のシンボルマークについての説明文が記載されている最新版を添付してください。
弊社 GOT のマニュアルを同梱されない場合，もしくは，添付するマニュアルがシンボルマークの説明が無い旧版の場合は，別途シンボルマークの説明文を各機器のマニュアルに記載してください。

備　考

欧州新電池指令 (2006/66/EC) の施行前に生産されたバッテリおよびバッテリ組込み機器であっても規制の対象になります。

17.5 バックライト切れ検出

GOT は，液晶表示用にバックライトを内蔵しています。
GOT は，バックライト切れを検出すると POWER LED を橙色 / 緑色交互に点滅表示します。
また，バックライトは使用期間の経過とともに輝度が下がります。バックライト切れ時，または表示が見にくくなった場合は，バックライトを交換してください。
バックライトの交換は，三菱電機システムサービス株式会社にお問い合わせください。

(1) バックライトの寿命

バックライトは，GOT のユーティリティ機能（GOT セットアップ）で「スクリーンセーブ時バックライト OFF」に設定することにより，使用期間を延ばすことができます。
詳細は，下記を参照してください。

☞ 11 章 表示と操作の設定（GOT セットアップ）

17.5.1 バックライト切れ検出と外部警報

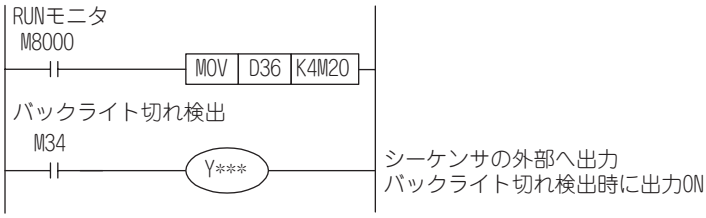
GOT がバックライト切れを検出すると，作画ソフトウェアで設定されたシステム情報が ON します。
システム情報を使用して GOT のバックライト切れをシーケンサから外部機器（ランプやブザーなど）に出力できます。
スクリーンセーブ中と誤ってタッチ操作をしないように，外部にて警報を設けるとともに，危険を伴う負荷には，外部にてインタロックを施してください。
システム情報の詳細は，下記を参照してください。

☞ GT Designer2 Version □ 画面設計マニュアル
GT Designer3 Version1 画面設計マニュアル（共通編）

Hint!

外部機器（ランプやブザーなど）への警報出力の例

システム情報を使用し，FX シリーズシーケンサから外部機器へバックライト切れ検出信号を出力する例。
条件：システム情報の割付けは，書込みデバイスを D20 とし，全情報 (作画ソフトウェアの設定画面で 全選択 ボタンをクリック) を使用した場合とします。
D36 b14: バックライト切れ検出 (システム番号 2-2)
バックライト切れを検出すると，ON します。
シーケンスプログラムでは下記のように使用します。



*は外部機器を接続する出力番号

Point

バックライト切れの状態でのご注意

バックライトが切れた状態でも，タッチキーは動作します。
バックライトは早めに交換されることを推奨します。

18章　エラーメッセージとシステムアラーム

GOT で表示されるエラーメッセージとシステムアラームについて説明します。
GOT，接続機器のエラー発生時にエラーコードとエラーメッセージを表示する機能としてシステムアラームがあります。
システムアラームのエラーコードは，システム情報機能のエラーコード格納エリアでも確認することができます。
システムアラームおよびシステム情報機能の詳細は，下記を参照してください。

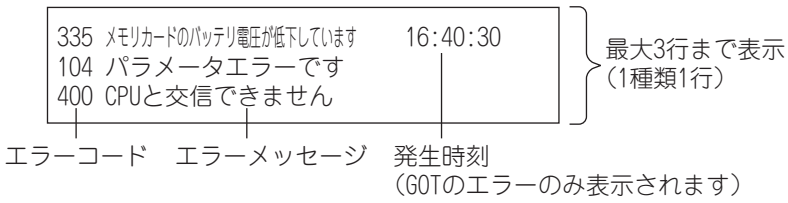
☞GT Designer2 Version □ 画面設計マニュアル
GT Designer3 Version1 画面設計マニュアル（共通編）

18.1　表示内容の見方

システムアラーム表示機能により，モニタ画面に表示されるエラーコードとエラーメッセージの見方，対応する参照先などについて説明します。

(1)　モニタ画面への表示形式・・・・・・ユーザ設定位置へ表示

システムアラームでは，エラーコードと，エラーメッセージ，発生時刻が表示されます。
表示されるエラーコードとエラーメッセージは，GOT にあらかじめ登録されているため，ユーザで作成する必要はありません。



表示の優先度
表示範囲が 2 行以下の場合，次の優先順位でアラームを表示します。
① GOT エラー　　：GOT のエラーをアラームとして表示
② CPU エラー　　：シーケンサ CPU のエラーをアラームとして表示
③ネットワークエラー　　：ネットワークエラーをアラームとして表示
システムアラームでは，アラーム発生数が表示範囲を超えたとき，優先度の低いアラームは表示できません。
また，表示範囲の 1 行に収まらないエラーコード，エラーメッセージや時刻は表示されません。

(2) エラーコードと参照マニュアル

エラーの発生元	エラーコード	内容	参照先
接続機器	0 ～ 99 （D9008 の値）	CPU のエラーコード（ACPU）	GOT を接続しているユーザーズマニュアル
	100 ～ 299	下記接続機器のエラーコード ・FX シーケンサ＊1 ・他社シーケンサ ・温度調節器 （オムロン社製温度調節器のみ）	GOT を接続している FX シーケンサのユーザーズマニュアル 他社シーケンサを接続している場合は，エラーメッセージの内容を見て対処してください。 ☞ GOT1000 シリーズ接続マニュアル
GOT	300 ～ 399	GOT 本体機能のエラーコード	18.2 節参照
	400 ～ 499	GOT 通信機能のエラーコード	
	500 ～ 699	GOT 本体機能のエラーコード	
CPU	1000 ～ 10000 （SD0 の値）	CPU のエラーコード （QCPU，QnACPU）	GOT を接続している QCPU，QnACPU のユーザーズマニュアル
サーボアンプ *2	20016 ～ 20237	サーボのエラーコード	GOT を接続しているサーボアンプのマニュアル

＊1 FX シーケンサの場合，エラーコード 100 ～ 109 があり，M8060 ～ M8069 の状態をエラーコードで表示します。
（例）エラーコード (100) のエラーが発生したときは，M8060 の説明によりエラー処置を行ってください。

＊2 GOT で表示するエラーコードは，サーボアンプで表示されるエラーコードを 10 進表記にして + 20000 したものが表示されます。
そのため，GOT のシステムアラームで表示されるエラーコードをもとにサーボアンプのマニュアルを参照する場合は -20000 して，下 3 桁を 16 進に読みかえてください。
（例：GOT のシステムアラームが 20144 の場合，サーボアンプのエラーコードは，20144-20000 =144(BIN)=90(HEX) となります。）

18.2 エラーメッセージ・システムアラーム一覧

GOT で検出したシステムアラームを下記に示します。

エラーコード	エラーメッセージ	対処
303	モニタ点数が多すぎます 設定数を減らして下さい	表示しようとした画面のオブジェクト設定数が多いため，システムのワークエリアを確保できません。 表示している画面からオブジェクトの点数を減らしてください。1 画面の最大オブジェクト点数は，下記を参照してください。 ☞GT Designer2 Version □ 画面設計マニュアル GT Designer3 Version1 画面設計マニュアル（共通編）
304	トリガ点数が多すぎます 設定数を減らして下さい	周期 /ON 中周期 /OFF 中周期を使用するオブジェクトの点数が 100 点を超えています。 オブジェクトの点数を減らしてください。
306	プロジェクトデータがありません プロジェクトデータをダウンロードして下さい	内蔵フラッシュメモリにプロジェクトデータがダウンロードされていません。 プロジェクトデータを内蔵フラッシュメモリにダウンロードしてください。
307	モニタデバイスが設定されていません	オブジェクトのモニタデバイスが決定されていません。 オブジェクトのモニタデバイスを決定してください。
308	コメントデータがありません コメントをダウンロードして下さい	コメントファイルが存在しません。 コメントファイルを作成し，GOT にダウンロードしてください。
309	デバイス読み出しエラーです デバイスを修正して下さい	連続デバイスを読出ししたとき，エラーが発生しました。 デバイスを修正してください。
310	指定プロジェクトデータが存在しないまたは指定番号が範囲外です	1.指定したベース画面 / ウィンドウ画面が，プロジェクトデータに存在しません。 2.指定したベース画面 / ウィンドウ画面が許容範囲外です。存在するベース画面 / ウィンドウ画面を指定してください。
311	アラーム履歴件数が上限を越えました 復旧した履歴を削除して下さい	アラーム履歴表示機能で履歴件数が監視できる最大点数（1024 点）を超えました。 アラーム履歴件数を減らしてください。 （復旧した履歴を削除してください）
312	散布ｸﾞﾗﾌの収集回数が上限を超えました 収集ﾃﾞｰﾀを消去して下さい	散布グラフで“メモリ保存”“累積回数 / 平均値書込み”の設定をしている場合に，収集回数が上限を超えました。 1. 散布グラフで設定した“消去トリガ”を成立させてください。 2. 散布グラフの“回数オーバー時動作”を“初期化して継続”に設定してください。
315	デバイス書き込みエラーが発生しました　デバイスを修正して下さい	デバイスへ書込みをしたとき，エラーが発生しました。 デバイスを修正してください。
316	演算結果の値が表示／入力できません　演算式を見直して下さい	コメント／部品番号の間接指定において，データ演算結果がデバイス型で表現できる範囲を超えました。 データ演算式を見直し，デバイス型で表現できる範囲を超えないようにしてください。

エラーコード	エラーメッセージ	対処
320	指定部品が存在しないまたは指定番号が範囲外です	部品ファイルが存在しません。 部品ファイルを作成し，GOT にダウンロードしてください。
321	モニタデバイスの指定局番が不正です。モニタ先局番を確認してください	プロジェクトデータのモニタ先局番を確認してください。
322	指定デバイス No. が範囲外です 使用可能範囲を確認して下さい	モニタするデバイス No. が対象接続機器の許容範囲外または 32 ビット専用のデバイスにデータ長が 32 ビット以外の設定がされています。 1. モニタする接続機器およびパラメータ設定により，モニタ可能範囲のデバイスを設定してください。 2. AB：L デバイス／ S7-200：HC デバイス／オムロン社製温調器：CO，C1，C3 デバイスのデータ長を 32 ビットで選定してください。
330	メモリカードの容量不足です 容量を確認して下さい	メモリカードの空き容量が不足しています。 作画ソフトウェアのドライブ情報でメモリカードの空き容量を確認してください。 ☞GT Designer2 Version □ 基本操作･データ転送マニュアル GT Designer3 Version1 画面設計マニュアル（共通編）
331	ドライブにメモリカードが未装着またはアクセススイッチが OFF です	ドライブにメモリカードが装着されていない，またはアクセススイッチが OFF しています。 1. 指定ドライブにメモリカードを装着してください。 2. アクセススイッチを ON してください。
332	メモリカードが未フォーマットです	フォーマットされていない，または不正なフォーマットです。 メモリカードをフォーマットしてください。
334	メモリカードが異常です メモリカードを交換して下さい	メモリカードが異常です。 メモリカードを交換してください。
345	BCD ／ BIN 変換エラーが発生しました　データを修正して下さい	BCD ／ BIN（バイナリ）変換できない値を表示／入力しようとしています。 1.表示対象のデバイスデータを BCD 値にしてください。 2.入力値を整数 4 桁にしてください。
351	レシピファイルが異常です　レシピファイル内容を確認して下さい	レシピファイルの内容が正常でありません。 1.メモリカード内のレシピファイルの内容を確認してください。 2.メモリカード内のレシピファイルを削除（フォーマット）後，GOT を再起動してください。
352	レシピファイルの生成に失敗しました　ﾒﾓﾘｶｰﾄﾞ挿入後 GOT を起動して下さい	レシピファイルの生成に失敗しました。 メモリカードを装着した後，GOT を再起動してください。
353	レシピファイルに書込みできません　メモリカードを確認して下さい	レシピファイルへの書込みに失敗しました。 1.メモリカードの容量を確認してください。 2.レシピ動作中にメモリカードを抜かないようにしてください。
354	レシピファイル書込み中にエラーが発生しました	レシピファイルの書込み中にエラーが発生しました。 レシピ動作中にメモリカードを抜かないようにしてください。
355	レシピファイル読込み中にエラーが発生しました	レシピファイルの読込み中にエラーが発生しました。 1.レシピ動作中にメモリカードを抜かないようにしてください。 2.メモリカード内のレシピファイルの内容（デバイス値）を確認してください。

エラーコード	エラーメッセージ	対処
356	PC でﾌｧｲﾙｼｽﾃﾑｴﾗｰが発生しました ﾌｧｲﾙﾚｼﾞｽﾀを確認して下さい	ファイルレジスタ名を指定してレシピ機能実行時，指定したファイルレジスタにエラーが発生しました。 1. ファイルレジスタ名を確認後，再度レシピ機能を実行してください。 2. 指定したシーケンサ CPU ドライブを，GX Developer で PC メモリフォーマット後，再度レシピ機能を実行してください。
357	指定された PC のドライブが異常です　PC ドライブを確認して下さい	ファイルレジスタ名を指定してレシピ機能実行時，シーケンサ CPU のドライブに異常があります。 1. 指定したシーケンサ CPU ドライブを確認後，再度レシピ機能を実行してください。 2. 指定したシーケンサ CPU ドライブを，GX Developer で PC メモリフォーマット後，再度レシピ機能を実行してください。
358	PC のファイルアクセスに失敗しました　PC ドライブを確認して下さい	ファイルレジスタ名を指定してレシピ機能実行時，シーケンサ CPU のファイルレジスタにアクセスできませんでした。 指定したシーケンサ CPU のドライブ／ファイルレジスタ名を確認後，再度レシピ機能を実行してください。（ドライブ 0 を指定していた場合は，他のドライブに変更後，再度レシピ機能を実行してください。）
359	他の周辺機器から処理を行っています　処理完了後に実行して下さい	ファイルレジスタ名を指定してレシピ機能実行時，他の周辺機器がファイルレジスタに対して処理を行っています。 他の周辺機器の処理が終了するまで待って，再度レシピ機能を実行してください。
360	除数 0 で除算エラーが発生しました　演算式を見直して下さい	データ演算式で除算 0 が発生しました。 データ演算式を見直し，除数が 0 にならないようにしてください。
370	上下限値の大小関係に矛盾があります　設定内容を確認して下さい	上下限値の設定内容が [上限＜下限] になっています。 上下限値の設定内容を確認し，[上限≧下限] になるよう修正してください。
402	通信タイムアウトです　通信経路またはユニットを確認して下さい	通信時にタイムアウトエラーが発生しました。 1. ケーブル抜け，シーケンサの状態を確認してください。 2. A,QnA,QCPU と接続時，シーケンススキャンが長い場合は，COM 命令を入れてください。
403	通信の SIO 受信ｽﾃｰﾀｽが異常です　通信経路･ﾕﾆｯﾄを確認して下さい	RS-422/RS-232 通信の受信時に，オーバランエラー，パリティビットエラー，フレーミングエラーのいずれかのエラーが発生しました。 ケーブル抜け，通信ユニットの装着状態，シーケンサの状態，計算機リンクの伝送速度を確認してください。
406	指定局がアクセス範囲外です。局番を確認して下さい。	(1)CC-Link 接続（G4 経由）時にマスタ／ローカル局以外の局番を指定しています。 (2)QCPU 以外の CPU にアクセスしました。 モニタ画面データの局番を確認してください。
410	PC が RUN 中のため操作できません　PC を STOP させて下さい	シーケンサ CPU の RUN 中にできない操作をしました。 シーケンサ CPU を STOP させてください。
411	PC に装着したﾒﾓﾘｶｾｯﾄが書き込み禁止状態です ﾒﾓﾘｶｾｯﾄを確認下さい	シーケンサ CPU に装着したメモリカセットが EPROM，または E^2PROM でプロテクトがかかった状態です。 シーケンサ CPU に装着したメモリカセットを確認してください。
412	ｷｰﾜｰﾄﾞによりモニタ／書き込み禁止状態です　ｷｰﾜｰﾄﾞを解除してください	シーケンサ CPU にキーワードが設定されています。 キーワードを解除してください。

エラーコード	エラーメッセージ	対処
448	ﾌｧｲﾙﾚｼﾞｽﾀ等の範囲外のﾃﾞﾊﾞｲｽが含まれています　設定を確認下さい	QnACPU のファイルレジスタ，バッファメモリの範囲外のデバイスを指定しました。 シーケンサ CPU のファイルレジスタを設定して，モニタデバイスも修正してください。
480	通信ﾁｬﾝﾈﾙが未設定です ﾕｰﾃｨﾘﾃｨより通信ﾁｬﾝﾈﾙを設定して下さい	接続機器と通信するためのチャンネル（CH No.1）が設定されていません。 1. 作画ソフトウェアで接続機器設定後，接続機器設定を GOT にダウンロードしてください。 2. ユーティリティの接続機器設定で，チャンネルの割付けを変更してください。
500	GOT 内蔵バッテリの電圧が低下しています	GOT 内蔵バッテリの電圧が低下しています。 GOT 内蔵バッテリを交換してください。
510	時計データとして入力された値が入力範囲外です	時計データとして入力された値が入力範囲外となっています。 この場合入力値は受け付けません。 時計データとして入力する値の入力範囲を確認した後に再度適正な値を入力してください。
522	内容の異なるファイルを破棄して新しいファイルを作成しました	内容の異なるファイルを破棄して新しいファイルを作成しました。 ファイル作成時に同一ファイル名で内容の異なるファイルが存在すると古いファイルを破棄して新しいファイルを作成しますので注意してください。
524	デバイス書き込みエラーが発生しました。デバイスを修正して下さい	デバイスへ書込みをしたとき，エラーが発生しました。 デバイスを修正してください。
525	異なるﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄで保存されたｱﾗｰﾑﾛｸﾞﾌｧｲﾙのため読み込めません	異なるプロジェクトで保存されたアラームログファイルのため読み込めません。 アラームログファイル，およびアラームログファイルの保存先を確認してください。
535	イメージファイルオープン中にエラーが発生しました	・ドライブにメモリーカードが装着されていないか，またはアクセススイッチが OFF しています。 1. 指定ドライブに記録メディアを装着してください。 2. アクセススイッチを ON にしてください。 ・カード内に指定されたファイルが存在しません。 3. イメージファイルを追加，またはイメージファイル名を正しい名前に変更してください。
536	イメージファイルが異常，または非対応形式です	イメージファイルデータに異常があるか，またはイメージファイルのフォーマットが非対応形式です。 正しいイメージファイルに更新してください。
550	対象外のキーコードが入力されました	対象外のキーコードがキーコード格納デバイスにセットされた状態で，キーコード入力実行トリガが ON されました。 エラーが発生したオブジェクトがサポートするキーコードを確認してください。
570	レシピデバイスの設定点数が仕様範囲外です	レシピデバイスの設定点数が仕様範囲を超えています。 レシピデバイスの設定点数を仕様範囲内に収めてください。

エラーコード	エラーメッセージ	対処
571	D ドライブの空き容量がありません	D ドライブの空き容量がありません。 D ドライブにあるアラームログファイルのバックアップが必要な場合は，ユーティリティで CF カードにコピーした後，D ドライブをフォーマットしてください。 また，レシピ機能でデバイスの読出しを行っている場合は，D ドライブをフォーマットした後，再度読出し操作を行い，レシピデータを作成してください。

18.3 バス接続時のトラブルシューティング

GOT とシーケンサ CPU をバス接続したときに，「18.2 節 エラーメッセージ・システムアラーム一覧」で原因が分からない場合は，以下のトラブルシューティングを実施してください。
バス接続に関する詳細は，下記を参照してください。

☞ GOT1000 シリーズ接続マニュアル

18.3.1 エラー箇所の特定

エラー箇所を特定する方法について説明します。
(シーケンサ CPU のエラーおよび特殊レジスタに関する詳細は，使用するシーケンサ CPU のユーザーズマニュアルを参照してください。)

(1) エラー箇所の特定方法

(a) 周辺機器を使用する。
GX Developer などの周辺機器を使用して，シーケンサ CPU にどのようなエラーが検出されているかを確認し，シーケンサ CPU のエラーメッセージをもとに，各ユニット，ケーブルの装着状態や接地状況を確認してください。

(b) エラーのタイミング
エラーがどのようなタイミングで発生しているか確認します。
①電源投入あるいはリセット直後にエラーが発生
シーケンサ CPU のイニシャル処理にてエラーが検出されていることが考えられます。
この場合，該当ユニットを特定できないことが多いため，シーケンスプログラムを END 命令のみにし，1 枚ずつ装着されているユニットをはずしてください。
はずしたことによりエラーが発生しなくなったユニットに原因がある可能性があります。

②特定の操作あるいは数秒後にエラーが発生
シーケンスプログラムにてエラーが検出されている可能性が高いため，エラーが発生しているエラーステップとその部分のシーケンスプログラムを確認してください。
またはシーケンスプログラムを END 命令のみにすることで，シーケンスプログラム全体に問題があるかどうかを判断することができます。

③特定の機器が動作したときにエラーが発生
ノイズによる誤動作が考えられます。
動作する機器に近接してバスケーブルなどの信号線が敷設されていないか確認し，もし近接している場合は機器と 100mm 以上距離を離してください。

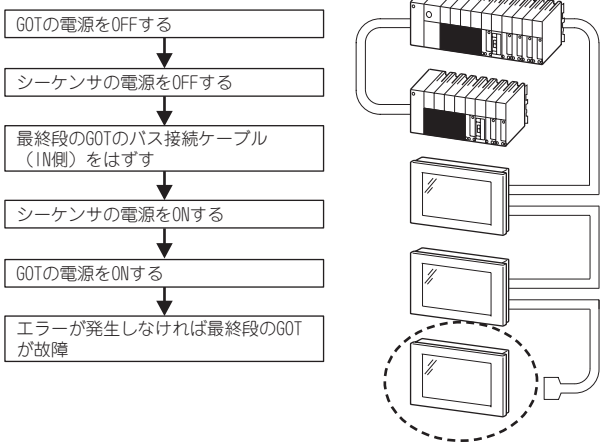
(c) エラー発生ユニットの特定
シーケンサ CPU のエラーコードや特殊レジスタの情報をもとに，エラーが発生しているユニットを特定してください。

以上の方法によりシーケンスプログラムの修正，または特定したユニットの交換をし，エラーが発生するか確認してください。
エラーが継続して発生する場合は他の要因によるものと考えられます。
「18.3.2 項 エラー箇所の範囲の絞り込み」を参照して，さらにエラー箇所の範囲を絞り込んでください。

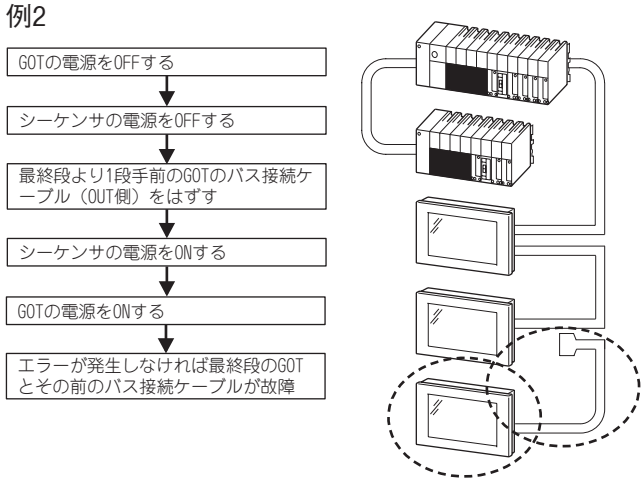
18.3.2 エラー箇所の範囲の絞り込み

エラーが発生しているユニットを交換しても復旧できない場合には，他のユニットの影響によりエラーが発生していることが考えられます。
システム上で 1 番遠くのユニットから順番に増設ケーブル／バス接続ケーブルをはずし，それぞれの状態でエラーの発生状況を確認します。
エラーが発生しなくなれば，そのときはずしたユニットあるいは増設ケーブル／バス接続ケーブルが原因と考えられます。
エラー箇所の範囲の絞り込み例を下記に示します。（QnASCPU，増設ベースユニット使用時）

例1



例2



上記の例 1，例 2 を繰り返してエラー箇所を特定してください。

Point

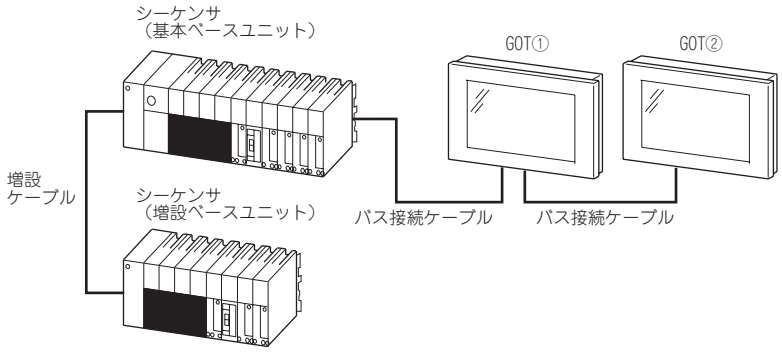
エラー箇所範囲絞り込みの注意事項

1. 増設ベースユニットをはずしていく場合，シーケンスプログラムを END 命令のみにすることでシーケンスプログラムに起因するエラーが発生しなくなるので，エラーの発生状況が確認しやすくなります。
2. 発生頻度が少ない場合は，ユニットなどをはずした状態で，ある程度時間をかけて確認してください。

上記方法はノイズなどにより誤動作する場合，どこからノイズが侵入してくるかを特定するのにも有効です。

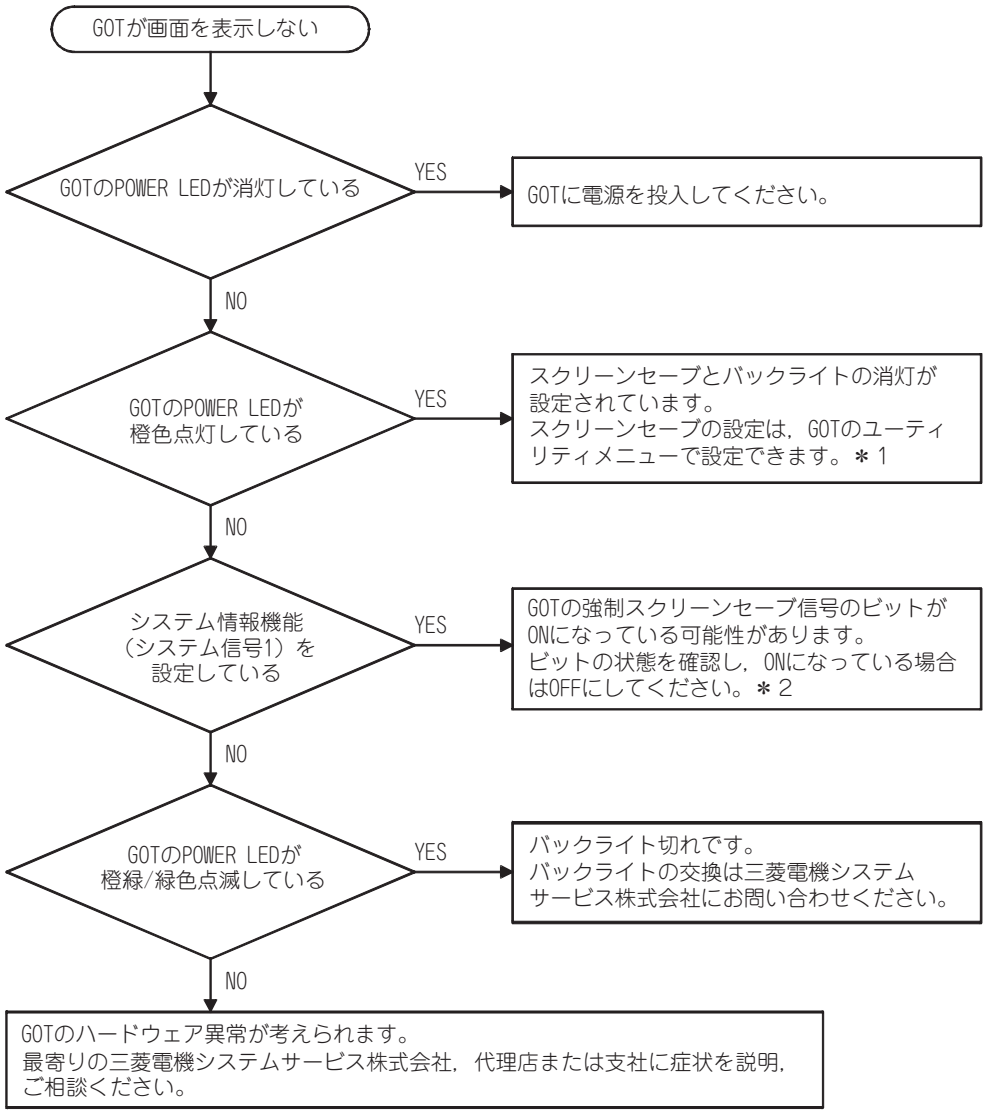
18.3.3 トラブルシューティングの具体例

下記のシステムを例にして，実際にシーケンサ CPU エラーが発生した場合のトラブルシューティングを示します。（QnASCPU，増設ベースユニットを使用時）



18.4 モニタ時のトラブルシューティング

GOT がモニタ画面を表示しない場合の対処方法を下記に示します。
下記の対処方法を行ってもトラブルが解消されない場合は，最寄の三菱電機システムサービス株式会社，代理店または支社に症状を説明，ご相談ください。



＊1 ユーティリティメニューについては，下記を参照してください。

☞ 11 章 表示と操作の設定（GOT セットアップ）

＊2 強制スクリーンセーブ信号の詳細については，下記を参照してください。

☞ GT Designer2 Version □ 画面設計マニュアル
GT Designer3 Version1 画面設計マニュアル（共通編）

18.5 GOT 起動時の操作

18.5.1 電源遮断について

GOT へ電源を投入した直後の起動中，または各 OS やプロジェクトデータの転送後およびユーティリティ画面で設定変更後の再起動中に，GOT の電源を OFF にしないでください。
（起動中，再起動中：GOT の画面上に「Booting」や「Booting project data」が表示されている状態）

＜ GOT の基本機能 OS が V 01.02.01 以前の場合＞
電源を OFF にした場合，次回電源投入時，工場出荷状態へ戻ることがあります。
停電等により，起動中に電源が OFF になった場合は，再度 OS のインストールおよびプロジェクトデータのダウンロードを行って下さい。

＜ GOT の基本機能 OS が V 01.02.02 以降の場合＞
起動中に電源が OFF になっても，次回電源投入時，電源 OFF 以前の OS およびプロジェクトデータが格納された状態で起動します。

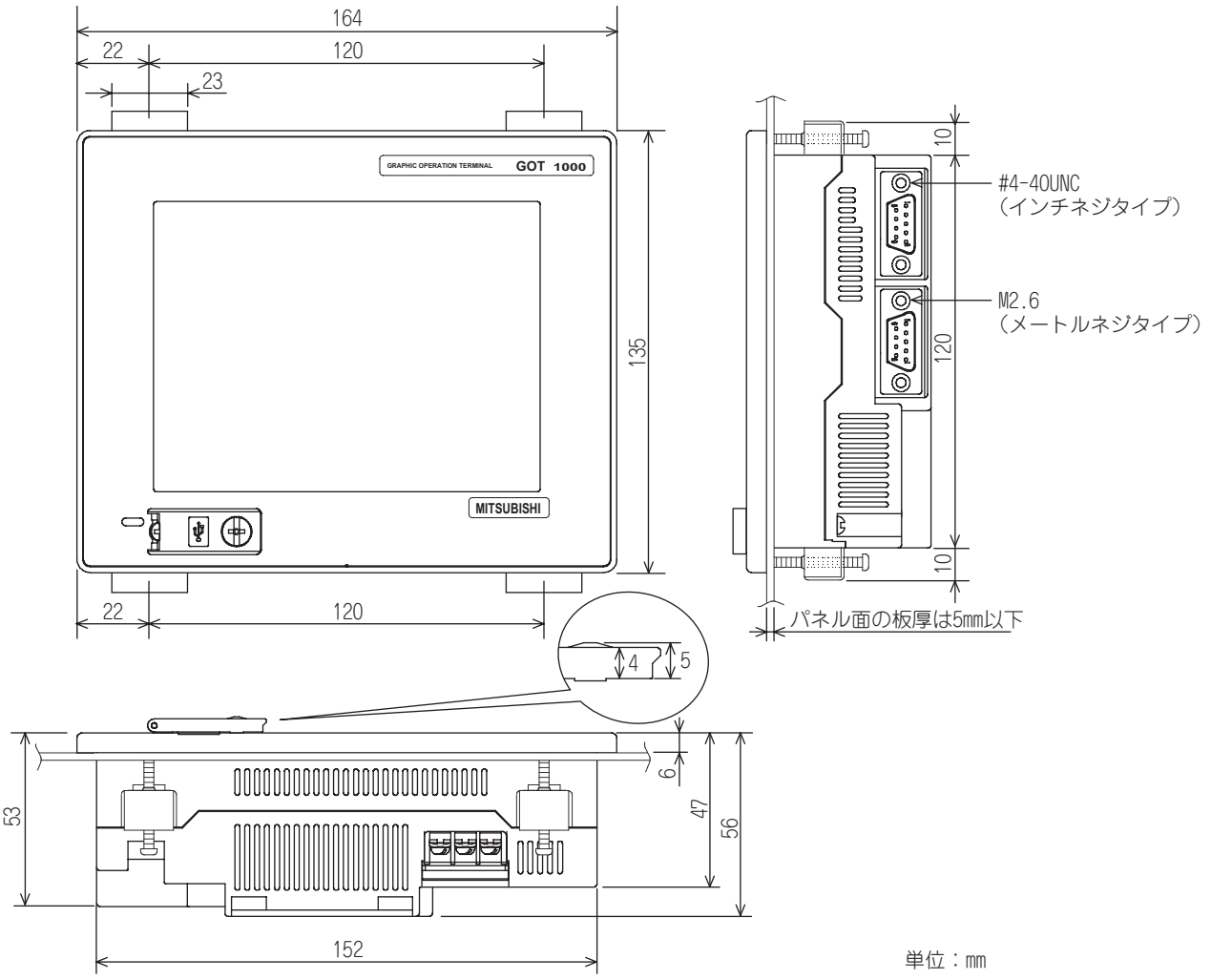
18.5.2 作画ソフトウェアから GOT への通信について

GOT へ電源を投入した直後，または各 OS やプロジェクトデータの転送後およびユーティリティ画面で設定変更後の再起動時，GOT の画面上に「Booting」が表示されている間は，作画ソフトウェアから GOT への通信操作はできません。
通信を実施すると作画ソフトウェアで通信エラーが発生します。
GOT の画面上に「Booting project data」が表示されてから通信操作を行ってください。
ただし，接続機器によって通信開始までに時間がかかる場合があります。
GOT は接続機器との通信確立後，作画ソフトウェアとの通信を開始します。

付録

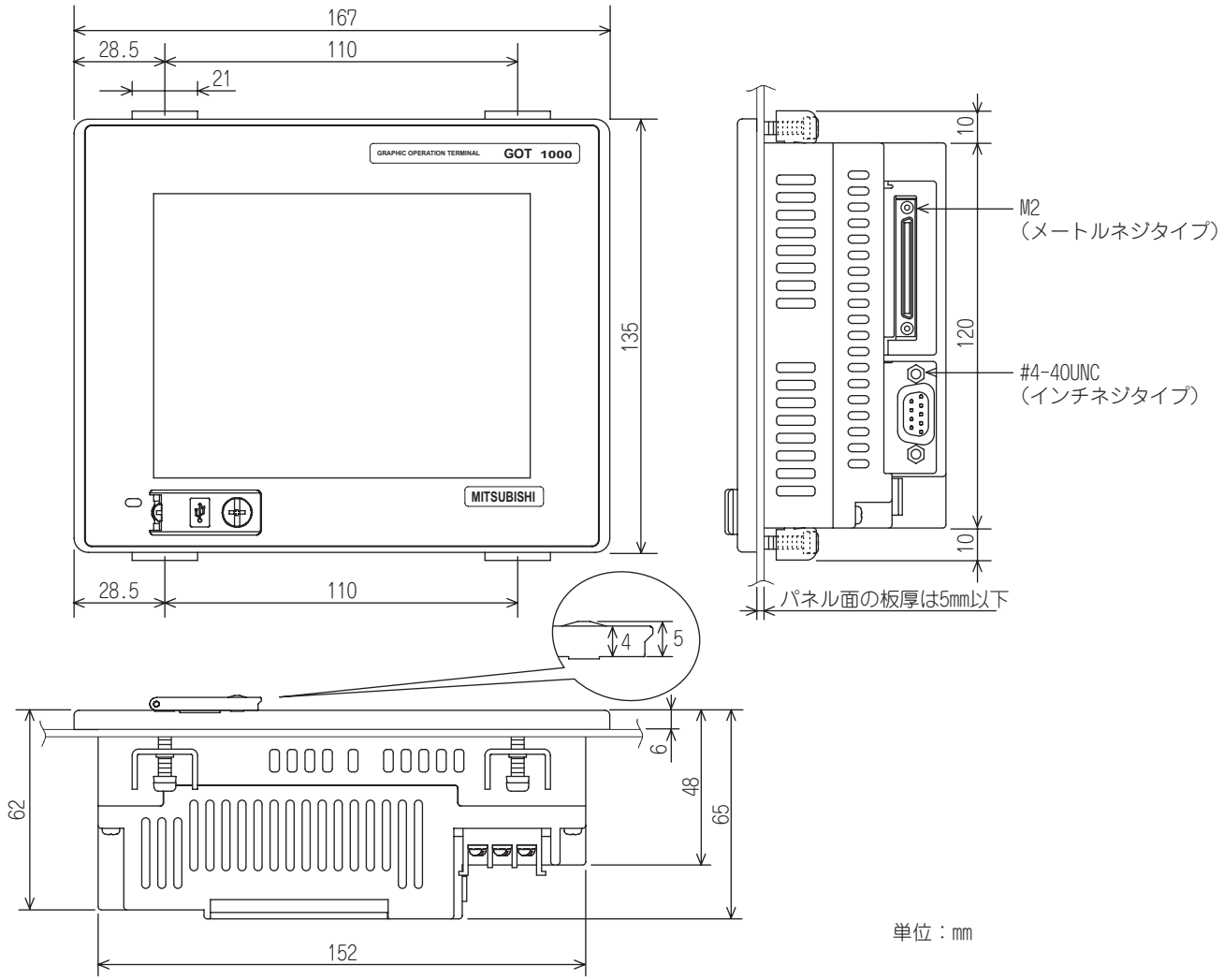
付 .1　外形寸法図

GT1155-QTBD，GT1155-QSBD，GT1150-QLBD の外形寸法図



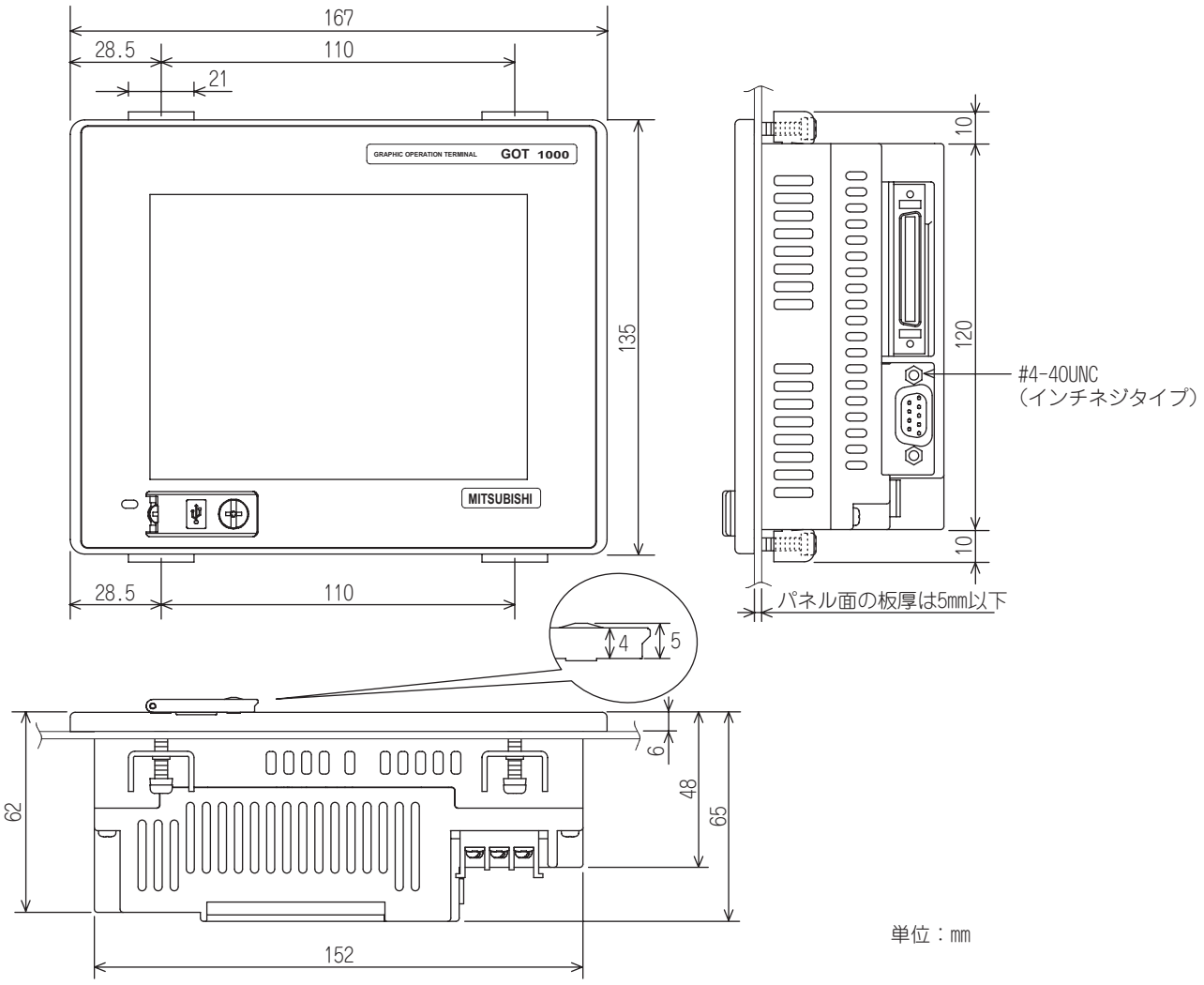
単位：mm

GT1155-QTBDQ，GT1155-QSBDQ，GT1150-QLBDQ の外形寸法図

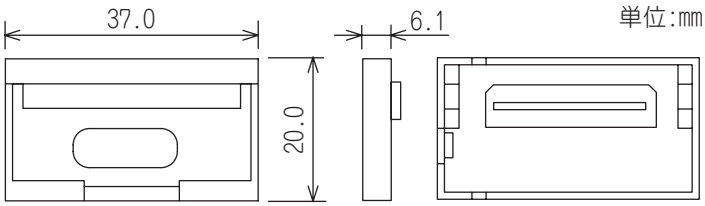


単位：mm

GT1155-QTBDA，GT1155-QSBDA，GT1150-QLBDA の外形寸法図

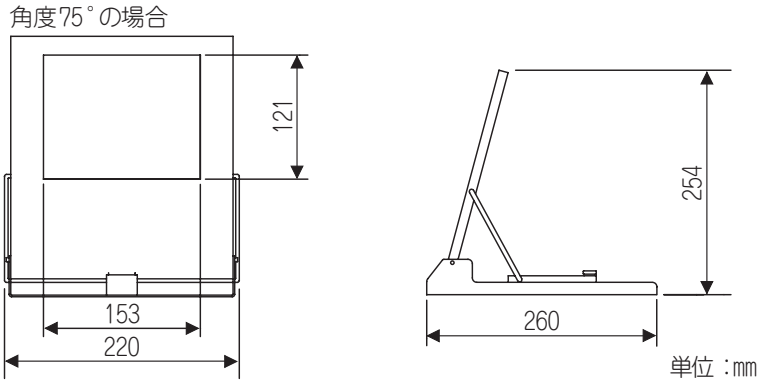


メモリボードの外形寸法図

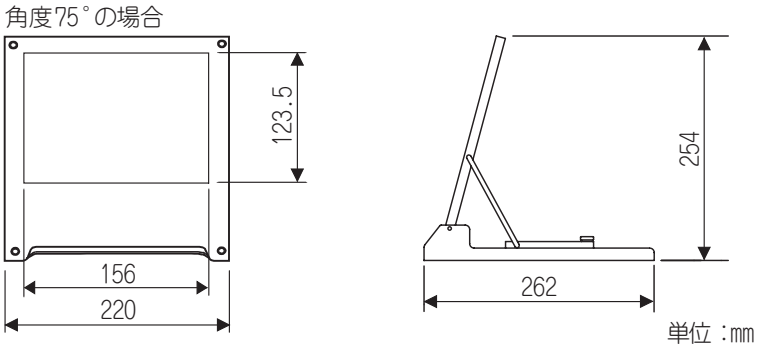


デバッグスタンドの外形寸法図

GT05-50STAND

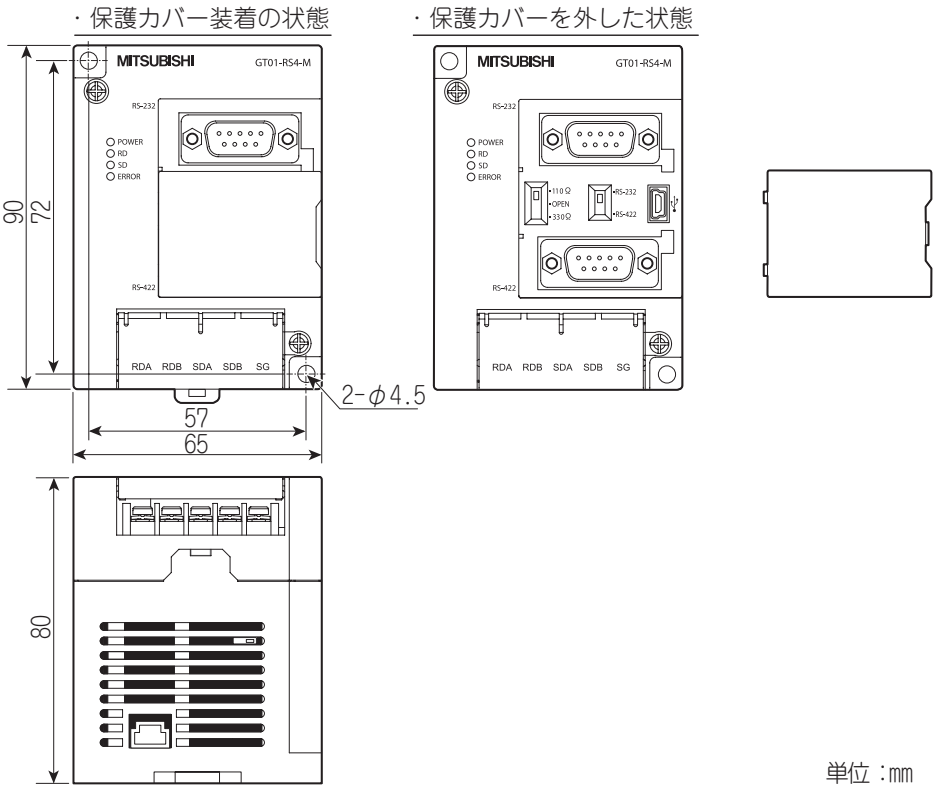


A9GT-50STAND



シリアルマルチドロップ接続ユニットの外形寸法図

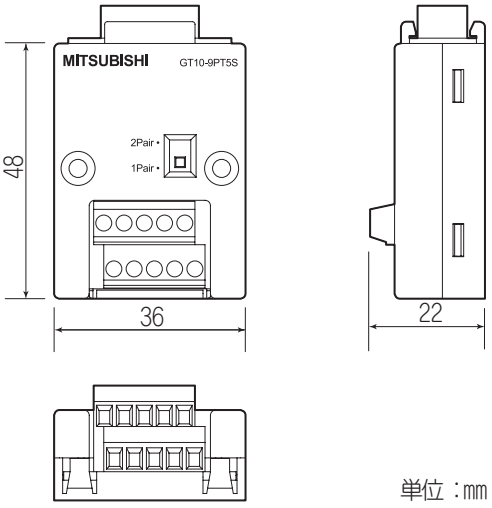
GT01-RS4-M



単位：mm

コネクタ変換アダプタの外形寸法図

GT10-9PT5S

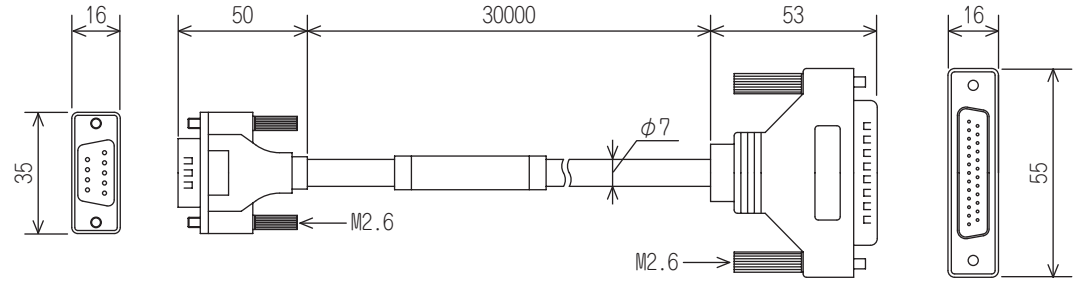


単位：mm

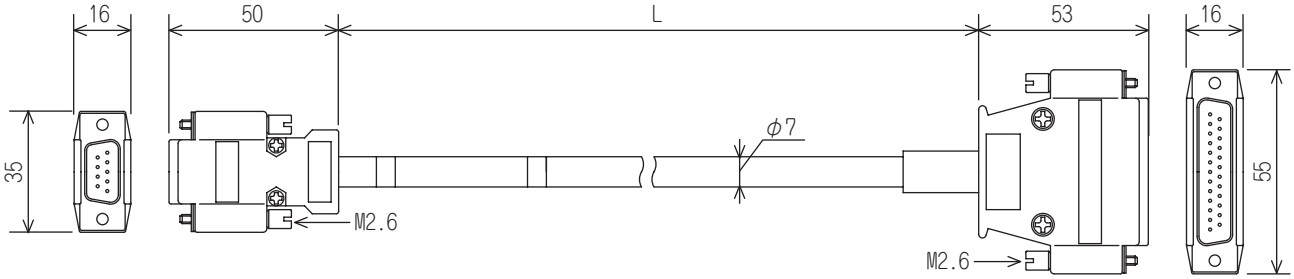
通信ケーブルの外形寸法図

単位 : mm

GT01-C30R4-25P

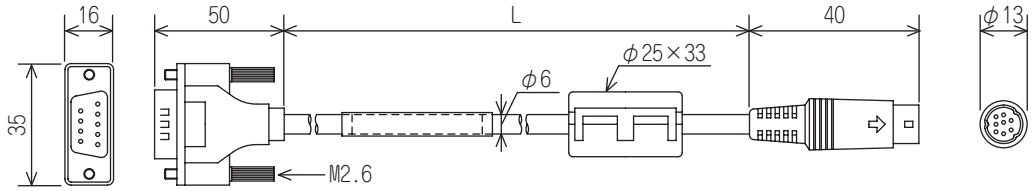


GT01-C □□□ R4-25P



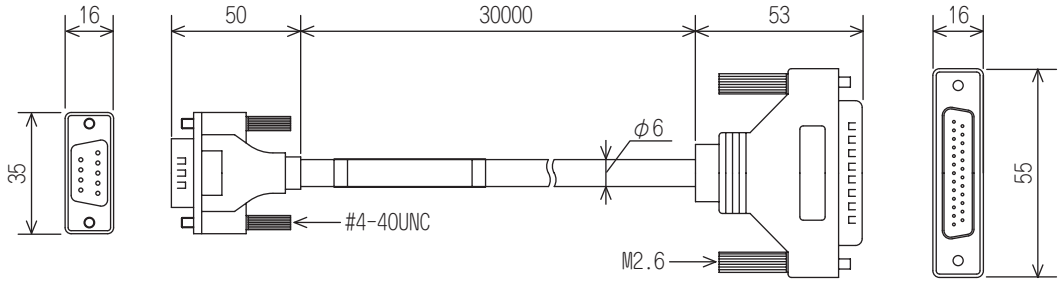
□□□の値	L の長さ (mm)
100	10000
200	20000
300	30000

GT01-C □□□ R4-8P

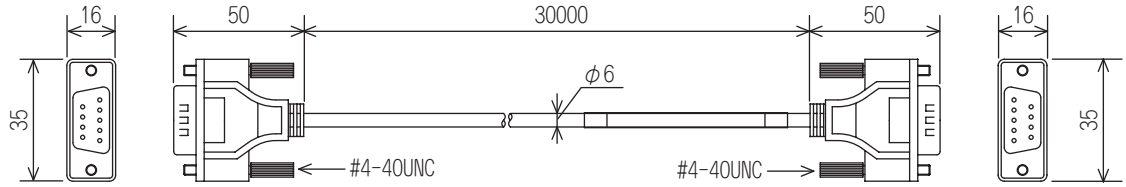


□□□の値	L の長さ (mm)
10	1000
30	3000
100	10000
200	20000
300	30000

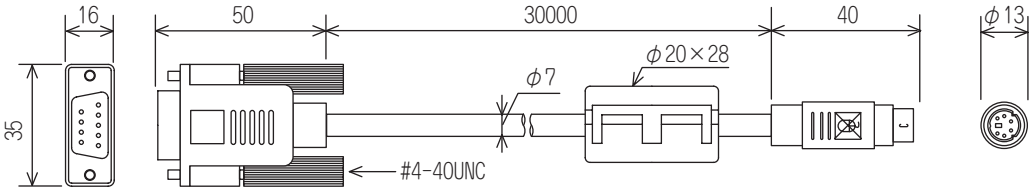
GT01-C30R2-25P



GT01-C30R2-9S



GT01-C30R2-6P

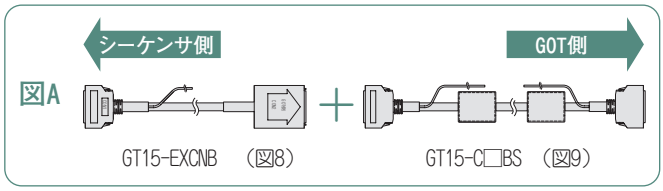


バス接続ケーブルコネクタの外形寸法図

ケーブル形名	ケーブル長（m）	外形寸法
GT15-QC □ B	0.6，1.2，3，5，10	図 1
GT15-QC □ BS	15，20，25，30，35	図 1
GT15-C □ NB	1.2，3，5	図 2
GT15-AC □ B	0.6，1.2，3，5	図 3
GT15-A370C □ B-S1	1.2，2.5	図 4
GT15-A370C □ B	1.2，2.5	図 5
GT15-A1SC □ B	0.7，1.2，3，5	図 6
GT15-A1SC □ NB	0.45，0.7，3，5	図 7
GT15-C □ EXSS-1	10.6，20.6，30.6	図 8+ 図 9
GT15-EXCNB	0.5	図 8
GT15-C □ BS	0.7，1.2，3，5，10，20，30	図 9
GT15-J2C10B	1	図 10

＊ 1： GT15-C □ EXSS ケーブルには，アース接地線（1m）が付いています。
GT15-C □ BS ケーブルには，アース接地線（ケーブル長 10m 以上の場合 1m，10m 未満の場合 0.5m）が付いています。
この接地線は，必ず制御盤などに接地してください。

＊ 2： GT15-C □ EXSS-1 は（GT15-EXCNB + GT15-C □ BS）で構成されるセット品です。（図 A 参照）



（単位 :mm）

図1

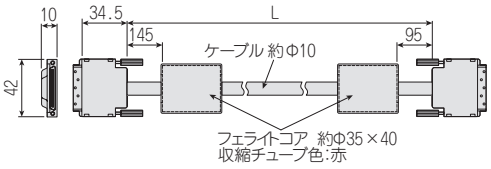


図2

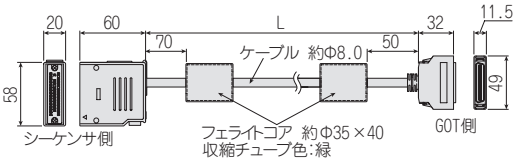


図3

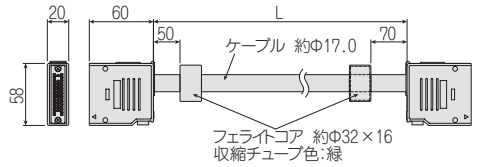


図4

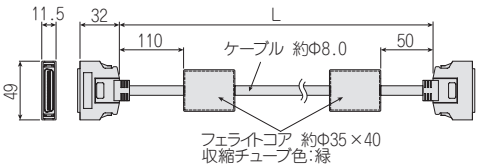


図5

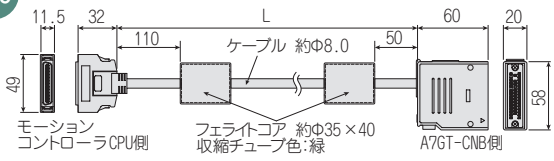


図6

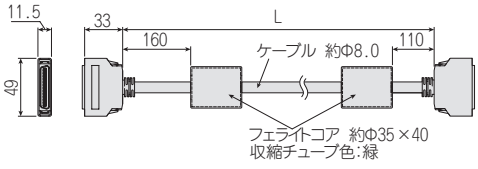


図7

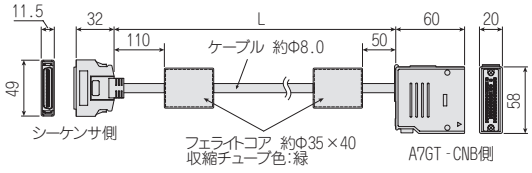


図8

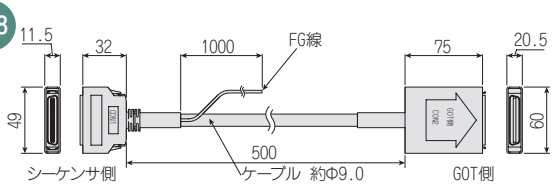


図9

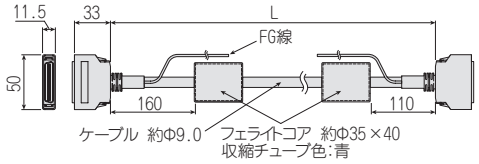
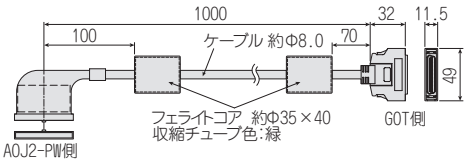

11.5
33
L
FG線
50
160
110
ケーブル 約Φ9.0
フェライトコア 約Φ35×40
収縮チューブ色:青

図10


1000
32
11.5
100
ケーブル 約Φ8.0
70
49
フェライトコア 約Φ35×40
収縮チューブ色:緑
GOT側
A0J2-PW側

付 .2 ユーティリティ機能の使用条件

GOT のタイプにより，使用できる機能が異なります。
また作画ソフトウェアで設定できる機能と設定できない機能があります。

○：使用 / 設定可能　×：使用 / 設定不可　－：不要

項目		機能概要	GT15	GT Soft GOT1000	GT11	作画設定
接続機器設定 *1		通信インタフェースへのチャンネル番号設定と通信ドライバの割付け	○	×	○	○
	接続機器詳細設定	通信パラメータの設定	○	×	○	○
		シーケンスプログラム保護用キーワード設定 (FX シリーズシーケンサ接続時)	○	×	○	×
		シーケンスプログラム保護用キーワード削除 (FX シリーズシーケンサ接続時)	○	×	○	×
		シーケンスプログラム保護状態解除 (FX シリーズシーケンサ接続時)	○	×	○	×
GOT セットアップ	表示の設定	タイトル表示時間の設定	○	○	○	○
		スクリーンセーブ時間の設定	○	×	○	○
		スクリーンセーブ時バックライト ON/OFF の設定	○	－	○	○
		メッセージ言語切換え (日本語／英語／中国語（簡体字）／中国語（繁体字）／韓国語／ドイツ語)	○	○	○*2	○
		バッテリ低下アラーム出力 ON/OFF の設定	○	－	○	○
		スクリーンセーブ人感センサ 有効／無効の設定 GT1595-X GT1585V-S GT1585-S	○	×	×	×
		人感センサ検出感度の設定 GT1595-X GT1585V-S GT1585-S	○	×	×	×
		人感センサ監視時間の表示 GT1595-X GT1585V-S GT1585-S	○	×	×	×
		人感センサ OFF ディレイの設定 GT1595-X GT1585V-S GT1585-S	○	×	×	×
		白黒反転表示 GT1550-Q GT1150-Q	○	×	○	×
	輝度・コントラスト調整	液晶の輝度設定	○	×	○	×
		液晶のコントラスト設定	×	×	○	×

（次のページへつづく）

○：使用 / 設定可能　×：使用 / 設定不可　－：不要

項目			機能概要	GT15	GT Soft GOT1000	GT11	作画設定
GOTセットアップ	操作の設定		ブザー音量の設定	○	○	○	○
		セキュリティ設定*3	セキュリティレベル変更 （オブジェクト単位のセキュリティパスワード入力）	○	○	○	×
		ユーティリティ呼出キー	ユーティリティ呼出キーの設定	○	○	○	○
		キー感度	キー感度の設定	○	－	○	×
		キー反応速度	キー反応速度の表示	○	－	○	×
		タッチパネル調整 GT1595 -X のみ	タッチ位置の読取り誤差の修正	○	－	×	×
	Q/QnA 回路モニタの設定		MELSEC-Q/QnA 回路モニタ機能用のデータ保持先設定	○	－	×	○
	トランスペアレントモードの設定		FA トランスペアレント機能使用時の，通信対象のチャンネル No. の設定	○	－	×	○
	ビデオ・RGB の設定						
		ビデオ接続機器設定	ビデオの入力信号，解像度の設定	○	－	×	○
		ビデオ表示設定	ビデオの各チャンネルの取込み領域サイズ，色調，コントラスト，輝度，色強度の設定	○	－	×	○
		RGB 表示設定	RGB のクロックフェーズ，水平画面位置，垂直画面位置の設定	○	－	×	○
時計の表示と設定*4			基準時計の選択	○	－	○	○
			時計の現在時刻を表示	○	－	○	×
			時計の現在時刻を設定	○	－	○	×
			バッテリ状態の表示	○	－	○	×

＊1：作画ソフトウェアにより，以下の項目を行う必要があります。
・通信ドライバのインストール
・チャンネル番号，通信ドライバの割付け

＊2：GT11 は、下記の表示や操作はできません。
・中国語（繁体字）で表示できません。
・日本語と中国語（簡体字）を GOT の画面上で選択することはできません。
（日本語と中国語（簡体字）のフォントを同時にインストールできません）

＊3：作画ソフトウェアにより，セキュリティレベル設定を行う必要があります。

＊4：必要に応じてバッテリを装着してください。

○：使用 / 設定可能　×：使用 / 設定不可　－：不要

項目			機能概要	GT15	GT Soft GOT1000	GT11	作画設定
プログラム／データ管理	OS 情報		OS のインストール	○	×	○	×
			OS のアップロード	○	×	○	×
			OS のプロパティ表示（種別，バージョン，日付）	○	×	○	×
			システムファイル（OS）のデータチェック	○	×	○	×
	プロジェクト情報		プロジェクトファイルのダウンロード	○	×	○	×
			プロジェクトファイルのアップロード	○	×	○	×
			プロジェクトファイルの削除	○	×	○	×
			プロジェクトファイルのコピー（A ドライブ→ A ドライブ）	○	×	○	×
			プロジェクトファイルのプロパティ表示（日付，バージョン，画面タイトル）	○	×	○	×
			プロジェクトファイルのデータチェック	○	×	○	×
	アラーム情報		アラームログファイルの削除	○	×	○	×
			アラームログファイルのコピー	○	×	○	×
			G1A → CSV 変換（アラームファイルの G1A から CSV へ変換）	○	×	×	×
			G1A → TXT 変換（アラームファイルの G1A から TEXT へ切換）	○	×	×	×
		ヒストリカルグラフ表示	アラームファイルのヒストリカルグラフ表示	○	×	×	×
		集計グラフ表示	アラームファイルの集計グラフ表示	○	×	×	×
	拡張レシピ情報		G1P → CSV 変換（拡張レシピファイルの G1A から CSV へ変換）	○	×	×	×
			G1P → TXT 変換（拡張レシピファイルの G1A から TXT へ変換）	○	×	×	×
			拡張レシピのファイルやフォルダを削除	○	×	×	×
			拡張レシピのファイルコピー	○	×	×	×
			拡張レシピのファイルやフォルダを移動	○	×	×	×
			拡張レシピのフォルダ名称を変更	○	×	×	×
			拡張レシピのフォルダやファイルを新規作成	○	×	×	×
		拡張レシピレコード一覧	レコード値の書込み	○	×	×	×
			レコード値の読出し	○	×	×	×
			レコード値の照合	○	×	×	×
			デバイス値の削除	○	×	×	×

（次のページへつづく）

○：使用 / 設定可能　×：使用 / 設定不可　－：不要

項目			機能概要	GT15	GT Soft GOT1000	GT11	作画設定
プログラム/データ管理	ロギング情報		G1L → CSV 変換（ロギングファイルの G1L から CSV へ変換）	○	×	×	×
			G1L → TXT 変換（ロギングファイルの G1L から TXT へ変換）	○	×	×	×
			ロギングファイルやフォルダを削除	○	×	×	×
			ロギングのファイルコピー	○	×	×	×
			ロギングのファイルを移動	○	×	×	×
			ロギングのファイル名称を変更	○	×	×	×
			ロギングのフォルダやファイルを新規作成	○	×	×	×
	操作ログ情報		G10 → CSV 変換（操作ログファイルの G10 から CSV へ変換）	○	○	×	○
			G10 → TXT 変換（操作ログファイルの G10 から TXT へ変換）	○	○	×	○
			操作ログファイルやフォルダを削除	○	○	×	×
			操作ログファイルのコピー	○	○	×	×
			操作ログファイルを移動	○	○	×	×
			操作ログファイルの名称を変更	○	○	×	×
			操作ログフォルダを新規作成	○	○	×	×
			操作ログの一覧表示，検索	○	○	×	×
	ハードコピー情報		ハードコピーファイルの削除	○	×	×	×
			ハードコピーファイルのコピー	○	×	×	×
	メモリカードフォーマット		メモリカードのフォーマット	○	×	○	×
	メモリ情報		GOT のメモリ空き容量の表示	○	×	○	×
	特殊データ情報		ファイルやフォルダの名称，データサイズ，作成日時を表示	○	×	×	×
			特殊データのファイルやフォルダを削除	○	×	×	×
			特殊データのファイルチェック	○	×	×	×
			A ドライブ（標準 CF カード）の特殊データを，C ドライブ（内蔵フラッシュメモリ）にダウンロード	○	×	×	×
	GOT データ一括取得		OS，特殊データ，プロジェクトデータをメモリカードへコピー	○	×	○	×
保全機能・自己診断	保全機能	システムモニタ	シーケンサのデバイスモニタ，テスト機能と特殊ユニットのバッファメモリモニタ，バッファメモリの現在値変更	○	×	○	×
		回路モニタ	回路モニタ表示，ハードコピーの実行	○	×	×	×
		A リスト編集	ACPU のシーケンスプログラムの変更とパラメータの変更	○	×	○	×
		FX リスト編集	FX シーケンサのシーケンスプログラムをリスト編集	○	×	○	×

（次のページへつづく）

○：使用 / 設定可能　×：使用 / 設定不可　－：不要

項目			機能概要	GT15	GT Soft GOT1000	GT11	作画設定
保全機能・自己診断	保全機能	インテリジェントユニットモニタ	インテリジェント機能ユニットのバッファメモリを専用画面でモニタ，データ変更の実行，入出力ユニットの信号状態をモニタ	○	×	×	×
		ネットワークモニタ	MELSECNET/H，MELSECNET/10，MELSECNET(II)，MELSECNET/B のネットワーク状態をモニタ	○	×	×	×
		Q モーションモニタ	モーションコントローラ CPU（Q シリーズ）のサーボモニタ，パラメータ設定	○	×	×	×
		サーボアンプモニタ	サーボアンプの各種のモニタ機能，パラメータ変更，テスト運転などを実行	○	×	×	×
		CNC モニタ	MELDAS 専用表示器と同等の位置表示モニタ，アラーム診断モニタ，工具補正パラメータ，プログラムモニタなどの実行	○	×	×	×
	自己診断	メモリチェック	A ドライブ (標準 CF カード) メモリチェック	○	×	○	×
			C ドライブ (内蔵フラッシュメモリ) メモリチェック	○	×	○	×
			D ドライブ (内臓 SRAM) メモリチェック	×	×	○	×
		描画チェック	液晶のビット欠け，色，描画，表示，重ね合わせ表示チェック	○	×	○	×
		フォントチェック	搭載フォントのチェック	○	×	○	×
		タッチパネルチェック	タッチパネル動作のチェック	○	×	○	×
		I/O チェック	接続相手先確認	○	×	○	×
			自己折り返しチェック* 5	○	×	○	×
		ネットワークユニット状態表示	MELSECNET/H 通信ユニット，CC-Link 通信ユニット (GT15-J61BT13) の LED 状態表示をモニタ	○	－	×	×
	システムアラーム表示		GOT エラー，CPU エラー，ネットワークエラーの表示	○	×	○* 6	×
			GOT エラーのリセット		×	○	
	GOT 起動時間		GOT を起動した日時，現在時刻，現在までの運転時間の表示	○	×	○	×
画面掃除	画面掃除		表示部を掃除するための画面を表示	○	×	○	×
メンテナンス時期通知	メンテナンス時期通知* 7		バックライトメンテナンス通知時間の設定	○	－	×	×
			表示部メンテナンス通知時間の設定	○	－	×	×
			タッチキーメンテナンス通知回数の設定	○	－	×	×
			内蔵フラッシュメモリメンテナンス通知回数の設定	○	－	×	×

（次のページへつづく）

○：使用 / 設定可能　×：使用 / 設定不可　－：不要

項目		機能概要	GT15	GT Soft GOT1000	GT11	作画設定
積算値リセット	積算値リセット*7	メンテナンス時期通知のために積算していたバックライトメンテナンス通知時間 , 表示部メンテナンス通知時間 , タッチキーメンテナンス通知回数 , 内蔵フラッシュメモリメンテナンス通知回数の値をリセットする機能	○	－	×	×

＊5：テスト用の RS-232 コネクタを装着する必要があります。（☞ 14.10 節　I/O チェック）

＊6：G11 は GOT エラー、CPU エラーのみ表示します。

＊7：オプション機能ボードおよびバッテリを装着する必要があります。

付 .3　輸送時の注意事項

リチウムを含有しているバッテリの輸送時には，輸送規制に従った取扱いが必要となります。

付 3.1　規制対象機種

GOT1000 シリーズで使用しているバッテリは，下表に示すように分類されます。

品名	形名	製品形態	輸送取扱い
GOT1000 シリーズ用バッテリ	GT11-50BAT	リチウムコイン電池単体	非危険物

付 3.2　輸送時の取扱い

出荷時は弊社にて輸送規制に従った梱包をしておりますが，お客様で再梱包または開梱した後に輸送する場合は，IATADangerous Goods Regulations (IATA 危険物規制書)，IMDG Code (国際海上危険物輸送規程)，および各国の輸送規制に従って輸送してください。
また，詳細はご利用になる運送業者に確認してください。

付 .4　バージョンアップ追加機能（GOT1000 シリーズ）

GT Designer2 の製品のバージョンアップに伴う追加機能については，下記を参照してください。

☞ GT Designer2 Version2 画面設計マニュアル

GT Works3 の製品のバージョンアップに伴う追加機能については，下記を参照してください。

三菱電機 FA 機器技術情報サービス MELFANSweb ホームページ

（MELFANSweb ホームページ：http://www.MitsubishiElectric.co.jp/melfansweb）

索引

［A］
A リスト編集 14-50
［B］
BootOS 9-1,13-2,16-2
［C］
CF カード（コンパクトフラッシュカード） 2-10,8-1,9-1,13-2,16-1
［F］
FX リスト編集 14-87
［G］
GOT 間接続ケーブル 2-4,2-11
GOT 間長距離接続ケーブル 2-4
GOT 起動時間機能 14-136
GOT 起動時間の表示 14-137
GOT 起動時間の表示操作 14-136
GOT セットアップ 11-1
［O］
OS ファイル一覧 16-2
OS ファイル情報の表示 13-6
OS ファイルのインストール 13-1,9-1,16-2
OS ファイルの格納先 13-1,16-2
［Q］
QCPU（Q モード）用バス接続ケーブル 2-4,2-11
QnA/ACPU/ モーションコントローラー（A シリーズ）用バス接続ケーブル 2-5
Q 増設ケーブル 2-4,2-11
Q 長距離接続ケーブル 2-4
［R］
RFID 2-1,2-12
RS-232 ケーブル 2-6
RS-422 ケーブル 2-6,2-7
［U］
USB 対環境カバー 8-11
［い］
一般仕様 3-1
［う］
運転までの概略手順 1-5
［え］
エラーコード・エラーメッセージ一覧 18-3
エラー表示と処置方法 18-3
エラーリスト 18-3
［お］
大型 CPU 増設ケーブル 2-5
オプション機器 2-4,8-1
オプション機能ボード 2-1,8-5
［か］
外形寸法図 付 -1
各部の名称 4-1
画面掃除 15-1,17-3
画面データの格納先 13-1
［き］
輝度／コントラストの調整 11-8
機能一覧 9-2
基本機能 OS 9-1,13-2,16-2
［こ］
構成機器 2-2
小型 CPU 増設ケーブル 2-5
小型 CPU 長距離接続ケーブル 2-5
コネクタ変換アダプタ 2-1,8-15
［し］
自己診断 14-117
システムアラーム 17-4,18-1
システムアラーム操作 14-135
システムアラームの表示操作 14-134
システムアラーム表示機能 14-134
システム構成 2-1
システムモニタ 14-3
仕様 3-1
　一般仕様 3-1
　性能仕様 3-2,3-4,3-5
　電源部仕様 3-6
シリアルマルチドロップ接続ユニット 2-1,8-16
白黒反転表示 11-7
［す］
スタンド 2-1,8-12
［せ］
性能仕様 3-2,3-4,3-5
セキュリティレベルの変更 11-10,11-13
接続機器設定画面 10-2
設置方法 6-1
セットアップ 11-1
全体構成 2-1
［そ］
操作の設定 11-10
［た］
耐油カバー 2-1,8-13
他社シーケンサ用接続ケーブル 2-6
［て］
定期点検 17-2
デバッグスタンドについて 2-1,8-12
電源部仕様 3-6

［と］
特長 1-4
時計の設定 12-1
時計の表示と設定画面 12-1
取付け 6-1
［に］
日常点検 17-2
［は］
バーコード 2-1,2-12
配線方法 7-1
パスワード 9-8
バックライト切れ検出 17-7
バッテリ 4-3,8-7,17-4
バッファ回路ケーブル 2-5
パネルカット寸法 6-3
［ひ］
必要な機器 2-1
表示の設定 11-1
［ふ］
ファイルの表示とコピー
　表示ファイル 13-5
ブザー音設定 11-10
プログラム / データ管理画面 13-1
［ほ］
保護シート 2-1,8-10,17-2
保全機能・自己診断画面 14-1
［め］
メッセージ表示 18-3
メモリカードアダプタ 2-1,8-4
［も］
モニタ画面の輝度／コントラスト調整 11-8
［ゆ］
ユーティリティ機能一覧 9-2
ユーティリティメニューの表示方法 9-6

保証について

ご使用に際しましては，以下の製品保証内容をご確認いただきますよう，よろしくお願いいたします。

1. 無償保証期間と無償保証範囲

無償保証期間中に、製品に当社側の責任による故障や瑕疵（以下併せて「故障」と呼びます）が発生した場合、当社はお買い上げいただきました販売店または当社サービス会社を通じて、無償で製品を修理させていただきます。ただし、国内および海外における出張修理が必要な場合は、技術者派遣に要する実費を申し受けます。また、故障ユニットの取替えに伴う現地再調整・試運転は当社責務外とさせていただきます。

【無償保証期間】

製品の無償保証期間は、お客様にてご購入後またはご指定場所に納入後３６ヶ月とさせていただきます。
ただし、当社製品出荷後の流通期間を最長６ヶ月として、製造から４２ヶ月を無償保証期間の上限とさせていただきます。
また、修理品の無償保証期間は、修理前の無償保証期間を超えて長くなることはありません。

【無償保証範囲】

（1） 一次故障診断は、原則として貴社にて実施をお願い致します。
ただし、貴社要請により当社，または当社サービス網がこの業務を有償にて代行することができます。
この場合、故障原因が当社側にある場合は無償と致します。

（2） 使用状態・使用方法，および使用環境などが、取扱説明書，ユーザーズマニュアル，製品本体注意ラベルなどに記載された条件・注意事項などにしたがった正常な状態で使用されている場合に限定させていただきます。

（3） 無償保証期間内であっても、以下の場合には有償修理とさせていただきます。
① お客様における不適切な保管や取扱い，不注意，過失などにより生じた故障およびお客様のハードウェアまたはソフトウェア設計内容に起因した故障。
② お客様にて当社の了解なく製品に改造などの手を加えたことに起因する故障。
③ 当社製品がお客様の機器に組み込まれて使用された場合、お客様の機器が受けている法的規制による安全装置または業界の通念上備えられているべきと判断される機能・構造などを備えていれば回避できたと認められる故障。
④ 取扱説明書などに指定された消耗部品が正常に保守・交換されていれば防げたと認められる故障。
⑤ 消耗部品（バッテリ，バックライト，ヒューズなど）の交換。
⑥ 火災，異常電圧などの不可抗力による外部要因および地震，雷，風水害などの天変地異による故障。
⑦ 当社出荷当時の科学技術の水準では予見できなかった事由による故障。
⑧ その他、当社の責任外の場合またはお客様が当社責任外と認めた故障。

2. 生産中止後の有償修理期間

（1） 当社が有償にて製品修理を受け付けることができる期間は、その製品の生産中止後７年間です。生産中止に関しましては、当社テクニカルニュースなどにて報じさせていただきます。

（2） 生産中止後の製品供給（補用品を含む）はできません。

3. 海外でのサービス

海外においては、当社の各地域ＦＡセンターで修理受付をさせていただきます。ただし、各ＦＡセンターでの修理条件などが異なる場合がありますのでご了承ください。

4. 機会損失，二次損失などへの保証責務の除外

無償保証期間の内外を問わず、当社の責に帰すことができない事由から生じた障害、当社製品の故障に起因するお客様での機会損失，逸失利益、当社の予見の有無を問わず特別の事情から生じた損害，二次損害，事故補償、当社製品以外への損傷，およびお客様による交換作業、現地機械設備の再調整，立上げ試運転その他の業務に対する補償については、当社責務外とさせていただきます。

5. 製品仕様の変更

カタログ，マニュアルもしくは技術資料などに記載の仕様は、お断りなしに変更させていただく場合がありますので、あらかじめご承知おきください。

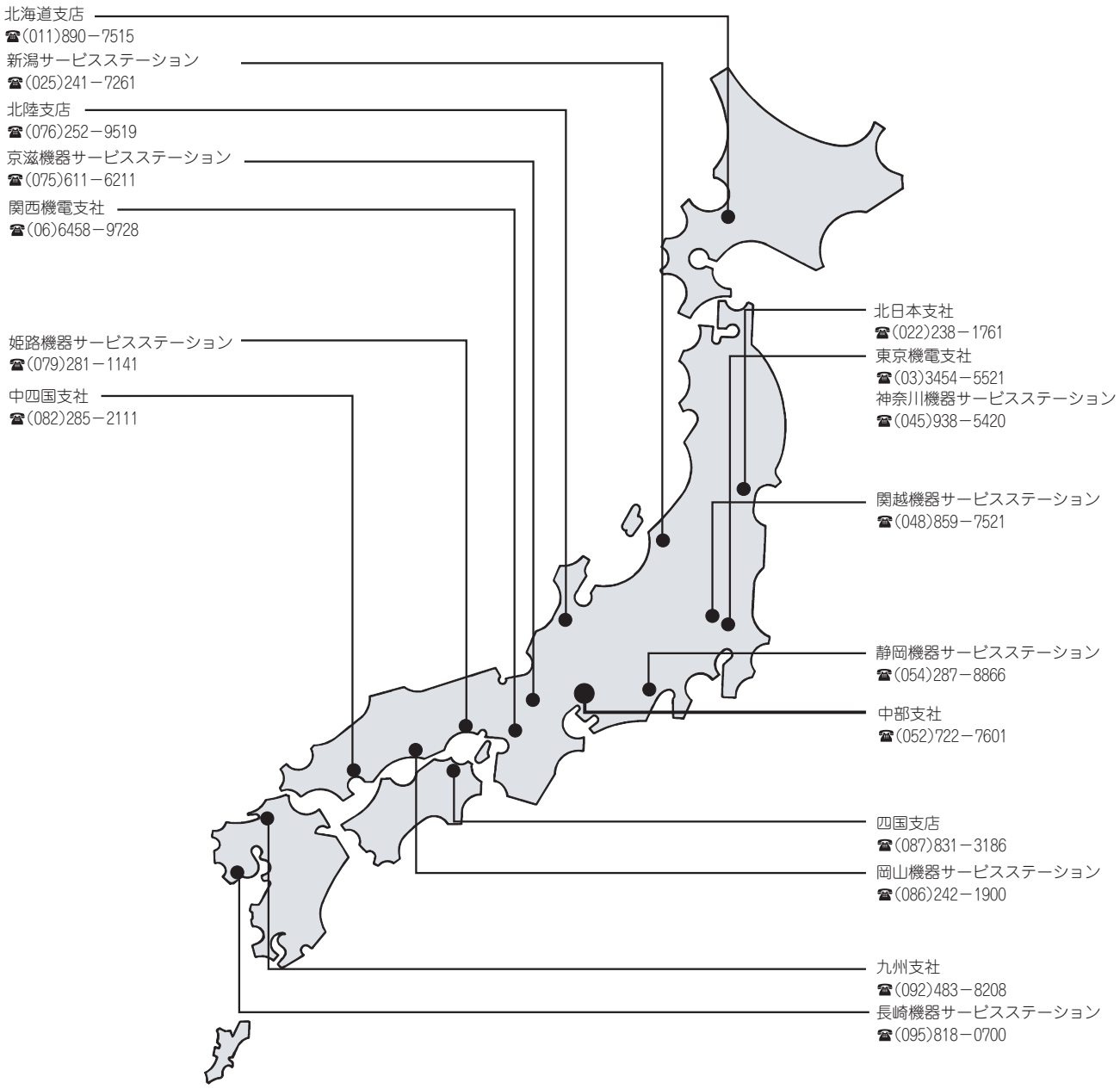
6. 製品の適用について

（1） 当社グラフィックオペレーションターミナルをご使用いただくにあたりましては、万一グラフィックオペレーションターミナルに故障・不具合などが発生した場合でも重大な事故にいたらない用途であること、および故障・不具合発生時にはバックアップやフェールセーフ機能が機器外部でシステム的に実施されていることをご使用の条件とさせていただきます。

（2） 当社グラフィックオペレーションターミナルは、一般工業などへの用途を対象とした汎用品として設計・製作されています。
したがいまして、各電力会社殿の原子力発電所およびその他発電所向けなどの公共への影響が大きい用途や、鉄道各社殿および官公庁殿向けの用途などで、特別品質保証体制をご要求になる用途には、グラフィックオペレーションターミナルの適用を除外させていただきます。
また、航空，医療，鉄道，燃焼・燃料装置，有人搬送装置，娯楽機械，安全機械など人命や財産に大きな影響が予測される用途へのご使用についても、当社グラフィックオペレーションターミナルの適用を除外させていただきます。
ただし、これらの用途であっても、使途を限定して特別な品質をご要求されないことをお客様にご了承いただく場合には、適用可否について検討致しますので当社窓口へご相談ください。

以　上

サービスネットワーク（三菱電機システムサービス(株)）



GOT は，三菱電機株式会社の登録商標です。
Microsoft，Windows，Windows NT，Windows Vista，Windows 7 は，米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
Adobe Reader は，Adobe Systems Incorporated の登録商標です。
Pentium，Celeron は，Intel Corporation の米国およびその他の各国における商標および登録商標です。
Ethernet は，米国 Xerox.co.ltd の登録商標です。
MODBUS は，Schneider Electric SA の登録商標です。
PC-9800，PC98-NX は，日本電気株式会社の登録商標です。
その他，本文中における会社名，商品名は，各社の商標または登録商標です。

GRAPHIC OPERATION TERMINAL

GOT1000

GT11本体 取扱説明書

三菱電機株式会社 〒100-8310 東京都千代田区丸の内2-7-3(東京ビル)

お問い合わせは下記へどうぞ

本社機器営業部……〒100-8310 東京都千代田区丸の内2-7-3(東京ビル)……(03)3218-6760
北海道支社……〒060-8693 札幌市中央区北二条西4-1(北海道ビル)……(011)212-3794
東北支社……〒980-0011 仙台市青葉区上杉1-17-7(仙台上杉ビル)……(022)216-4546
関越支社……〒330-6034 さいたま市中央区新都心11-2(明治安田生命さいたま新都心ビル ランド・アクシス・タワー)……(048)600-5835
新潟支店……〒950-8504 新潟市中央区東大通2-4-10(日本生命ビル)……(025)241-7227
神奈川支社……〒220-8118 横浜市西区みなとみらい2-2-1(横浜ランドマークタワー)……(045)224-2624
北陸支社……〒920-0031 金沢市広岡3-1-1(金沢パークビル)……(076)233-5502
中部支社……〒451-8522 名古屋市西区牛島町6番1号(名古屋ルーセントタワー)……(052)565-3314
豊田支店……〒471-0034 豊田市小坂本町1-5-10(矢作豊田ビル)……(0565)34-4112
関西支社……〒530-8206 大阪市北区堂島2-2-2(近鉄堂島ビル)……(06)6347-2771
中国支社……〒730-8657 広島市中区中町7-32(ニッセイ広島ビル)……(082)248-5348
四国支社……〒760-8654 高松市寿町1-1-8(日本生命高松駅前ビル)……(087)825-0055
九州支社……〒810-8686 福岡市中央区天神2-12-1(天神ビル)……(092)721-2247

三菱 FA 検索

www.MitsubishiElectric.co.jp/fa/

メンバー登録無料!

インターネットによる情報サービス「三菱電機FAサイト」

三菱電機FAサイトでは、製品や事例などの技術情報に加え、トレーニングスクール情報や各種お問い合わせ窓口をご提供しています。また、メンバー登録いただくとマニュアルやCADデータ等のダウンロード、eラーニングなどの各種サービスをご利用いただけます。

電話技術相談窓口 受付時間(※1) 月曜～金曜 9:00～19:00、 土曜・日曜・祝日 9:00～17:00

対象機種			電話番号
表示器		GOT1000/A900シリーズなど	052-712-2417
		MELSOFT GTシリーズ	
		GOT-F900/DUシリーズ	052-725-2271 (※2)
シーケンサ	MELSEC-Q/L/QnA/Aシーケンサー般(下記以外)		052-711-5111
	MELSEC-F FX/Fシーケンサ全般		052-725-2271 (※2)
	ネットワークユニット/シリアルコミュニケーションユニット		052-712-2578
	アナログユニット/温調ユニット/温度入力ユニット/高速カウンタユニット		052-712-2579
	MELSOFT シーケンサプログラミングツール	MELSOFT GXシリーズ	052-711-0037
		SW□IVD-GPPA/GPPQなど	
	MELSOFT 統合エンジニアリング環境	MELSOFT iQ Works (Navigator)	052-712-2370
	MELSOFT 通信支援ソフトウェアツール	MELSOFT MXシリーズ	
		SW□D5F-CSKP/OLEX/XMOPなど	
	MELSECパソコンボード	Q80BDシリーズなど	
	C言語コントローラ/MESインタフェースユニット/高速データロガーユニット		
	MELSEC計装/Q二重化	プロセスCPU	052-712-2830 (※2)
		二重化CPU	
		MELSOFT PXシリーズ	
	MELSEC Safety	安全シーケンサ(MELSEC-QSシリーズ)	052-712-3079 (※2)
		安全コントローラ(MELSEC-WSシリーズ)	
	電力計測ユニット/絶縁監視ユニット	QE8□シリーズ	052-719-4557 (※2/※3)
サーボ/位置決めユニット/モーションコントローラ		MELSERVOシリーズ	052-712-6607
		位置決めユニット/シンプルモーションユニット	
		モーションCPU(Q/Aシリーズ)	
		MELSOFT MTシリーズ/MRシリーズ	
インバータ		FREQROLシリーズ	052-722-2182
ロボット		MELFAシリーズ	052-721-0100

※1:春季・夏季・年末年始の休日を除く ※2:金曜は17:00まで ※3:土曜・日曜・祝日を除く

FAX技術相談窓口 受付時間(※4) 9:00～16:00 (受信は常時(※5))

対象機種	FAX番号
上記電話技術相談対象機種	052-719-6762
電力計測ユニット/絶縁監視ユニット(QE8□シリーズ)	084-926-8340

三菱電機FAサイトの「仕様・機能に関するお問い合わせ」もご利用ください。
※4:土曜・日曜・祝日、春季・夏季・年末年始の休日を除く ※5:春季・夏季・年末年始の休日を除く

形名	GT11-U-J
形名コード	09R814
JY997D15001X	

本マニュアルは、輸出する場合、経済産業省への役務取引許可申請は不要です。

2013年6月作成
標準価格 2,400円

この印刷物は2013年6月の発行です。なお, お断りなしに仕様を変更することがありますのでご了承ください。

この標準価格には消費税は含まれておりません。ご購入の際には消費税が付加されますのでご承知おき願います。